

# 外国語学部 英米学科 (2013年度入学生)

※網掛けの科目については、本年度開講しません

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	歴史と政治 PLS110F 小林 道彦	1学期	1	2	1
	1年				
	異文化理解の基礎 ANT110F 神原 ゆうこ	1学期	1	2	2
	1年				
	ことばの科学 LIN110F 漆原 朗子	1学期	1	2	3
	1年				
	国際学入門 IRL100F 伊野 憲治	1学期	1	2	4
	1年				
	生活世界の哲学 PHR110F 伊原木 大祐	1学期	1	2	5
	1年				
	日本の防衛 PLS111F 戸蒔 仁司	1学期	1	2	6
	1年				
	生命と環境 BIO100F 日高 京子 他	1学期	1	2	7
	1年				
	情報社会への招待 INF100F 中尾 泰士	2学期	1	2	8
	1年				
	環境問題概論 ENV100F 廣川 祐司	1学期	1	2	9
	1年				
	可能性としての歴史 HIS200F 小林 道彦	2学期	2	2	10
	2年				
現代社会と文化 ANT210F 神原 ゆうこ	2学期	2	2	11	
2年					
言語と認知 LIN210F 漆原 朗子 他	1学期	2	2	12	
2年					
共生社会論 SOW200F 伊野 憲治	2学期	2	2	13	
2年					
共同体と身体 PHR210F 伊原木 大祐	2学期	2	2	14	
2年					
戦争論 PLS210F 戸蒔 仁司	2学期	2	2	15	
2年					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	生命科学と社会 BIO200F 日高 京子 他	1学期	2	2	16
		2年			
	情報社会を読む INF200F 浅羽 修丈	2学期	2	2	17
		2年			
	地域資源管理論 ENV200F 廣川 祐司	2学期	2	2	18
		2年			
■教養演習科目	教養基礎演習I GES101F 石川 敬之	1学期	1	2	19
		1年			
	教養基礎演習I GES101F 日高 京子	1学期	1	2	20
		1年			
	教養基礎演習I GES101F 小林 道彦	1学期	1	2	21
		1年			
	教養基礎演習I GES101F 神原 ゆうこ	1学期	1	2	22
		1年			
	教養基礎演習I GES101F 徳永 政夫	1学期	1	2	23
		1年			
	教養基礎演習I GES101F 稲月 正	1学期	1	2	24
		1年			
	教養基礎演習I GES101F 廣川 祐司	1学期	1	2	25
		1年			
	教養基礎演習I ( 防衛セミナー ) GES101F 戸蔭 仁司	1学期	1	2	26
	1年				
教養基礎演習I GES101F 伊原木 大祐	1学期	1	2	27	
	1年				
教養基礎演習I GES101F 高西 敏正	1学期	1	2	28	
	1年				
教養基礎演習II GES102F 石川 敬之	2学期	1	2	29	
	1年				
教養基礎演習II GES102F 眞鍋 和博 他	2学期	1	2	30	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養基礎演習II GES102F 日高 京子	2学期	1	2	31
		1年			
	教養基礎演習II GES102F 小林 道彦	2学期	1	2	32
		1年			
	教養基礎演習II GES102F 神原 ゆうこ	2学期	1	2	33
		1年			
	教養基礎演習II GES102F 徳永 政夫	2学期	1	2	34
		1年			
	教養基礎演習II GES102F 稲月 正	2学期	1	2	35
		1年			
	教養基礎演習II GES102F 廣川 祐司	2学期	1	2	36
		1年			
	教養基礎演習II (防衛セミナー) GES102F 戸蒔 仁司	集中	1	2	37
		1年			
	教養基礎演習II GES102F 伊原木 大祐	2学期	1	2	38
		1年			
	教養基礎演習II GES102F 高西 敏正	2学期	1	2	39
		1年			
教養演習A I GES201F 徳永 政夫 他	1学期	2	2	40	
	2年				
教養演習A I GES201F 石川 敬之	1学期	2	2	41	
	2年				
教養演習A I GES201F 伊原木 大祐	1学期	2	2	42	
	2年				
教養演習A I GES201F 稲月 正	1学期	2	2	43	
	2年				
教養演習A I GES201F 神原 ゆうこ	1学期	2	2	44	
	2年				
教養演習A I GES201F 小林 道彦	1学期	2	2	45	
	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養演習 A I ( 防衛セミナー ) GES201F 戸蒔 仁司	1学期	2	2	46
		2年			
	教養演習 A I GES201F 日高 京子	1学期	2	2	47
		2年			
	教養演習 A II GES202F 石川 敬之	2学期	2	2	48
		2年			
	教養演習 A II GES202F 徳永 政夫 他	2学期	2	2	49
		2年			
	教養演習 A II GES202F 日高 京子	2学期	2	2	50
		2年			
	教養演習 A II GES202F 二宮 正人	2学期	2	2	51
		2年			
	教養演習 A II GES202F 小林 道彦	2学期	2	2	52
		2年			
	教養演習 A II GES202F 神原 ゆうこ	2学期	2	2	53
		2年			
教養演習 A II ( 防衛セミナー ) GES202F 戸蒔 仁司	集中	2	2	54	
	2年				
教養演習 A II GES202F 稲月 正	2学期	2	2	55	
	2年				
教養演習 A II GES202F 伊原木 大祐	2学期	2	2	56	
	2年				
教養演習 B I GES301F 石川 敬之	1学期	3	2	57	
	3年				
教養演習 B I GES301F 徳永 政夫 他	1学期	3	2	58	
	3年				
教養演習 B I GES301F 日高 京子	1学期	3	2	59	
	3年				
教養演習 B I GES301F 小林 道彦	1学期	3	2	60	
	3年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養演習 B I GES301F 神原 ゆうこ	1学期	3	2	61
		3年			
	教養演習 B I (防衛セミナー) GES301F 戸蒔 仁司	1学期	3	2	62
		3年			
	教養演習 B I GES301F 稲月 正	1学期	3	2	63
		3年			
	教養演習 B I GES301F 伊原木 大祐	1学期	3	2	64
		3年			
	教養演習 B II GES302F 徳永 政夫 他	2学期	3	2	65
		3年			
	教養演習 B II GES302F 石川 敬之	2学期	3	2	66
		3年			
	教養演習 B II GES302F 日高 京子	2学期	3	2	67
		3年			
	教養演習 B II GES302F 小林 道彦	2学期	3	2	68
	3年				
教養演習 B II GES302F 神原 ゆうこ	2学期	3	2	69	
	3年				
教養演習 B II (防衛セミナー) GES302F 戸蒔 仁司	集中	3	2	70	
	3年				
教養演習 B II GES302F 稲月 正	2学期	3	2	71	
	3年				
教養演習 B II GES302F 伊原木 大祐	2学期	3	2	72	
	3年				
教養演習 B II GES302F 二宮 正人	2学期	3	2	73	
	3年				
■テーマ科目	自然学のまなごし ENV002F 岩松 文代 他	1学期	1	2	74
		1年			
	動物のみかた ZOL001F 到津の森公園、文学部 竹川大介	2学期	1	2	75
		1年			

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	地球の生いたち GOL001F 長井 孝一	2学期	1	2	76
		1年			
	自然史へのいざない BIO001F 北九州市立自然史・歴史博物館、基盤教育センター 日高京子	2学期	1	2	77
		1年			
	くらしと化学 CHM001F 秋貞 英雄	1学期	1	2	78
		1年			
	現代人のこころ PSY003F 税田 慶昭 他	1学期	1	2	79
		1年			
	人間と生命 BIO002F 日高 京子	2学期	1	2	80
		1年			
	環境都市としての北九州 ENV001F 日高 京子 他	2学期	1	2	81
		1年			
	未来を創る環境技術 ENV003F 龍 有二 他	1学期	1	2	82
		1年			
	私たちと宗教 PHR006F 佐藤 真人	2学期	1	2	83
		1年			
	思想と現代 PHR004F 伊原木 大祐	1学期	1	2	84
		1年			
文化と表象 MCC001F 真鍋 昌賢	2学期	1	2	85	
	1年				
言語とコミュニケーション LIN001F 漆原 朗子 他	2学期	1	2	86	
	1年				
芸術と人間 PHR001F 花田 伸一	2学期	1	2	87	
	1年				
文学を読む LIT001F 休講	2学期	1	2		
	1年				
現代正義論 PHR003F 重松 博之	2学期	1	2	88	
	1年				
民主主義とは何か PLS002F 大澤 津 他	1学期	1	2	89	
	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	社会学的思考 SOC002F 稲月 正	1学期	1	2	90
	1年				
	政治のなかの文化 ANT001F 神原 ゆうこ	2学期	1	2	91
	1年				
	人権論 SOC004F 柳井 美枝	1学期	1	2	92
	1年				
	ジェンダー論 GEN001F 力武 由美	1学期	1	2	93
	1年				
	障がい学 SOW001F 伊野 憲治 他	2学期	1	2	94
	1年				
	共生の作法 LAW001F 今泉 恵子 他	1学期	1	2	95
	1年				
	法律の読み方 LAW002F 小野 憲昭	2学期	1	2	96
	1年				
	社会調査 SOC003F 稲月 正	2学期	1	2	97
	1年				
	市民活動論 RDE001F 西田 心平	2学期	1	2	98
	1年				
企業と社会 BUS001F 山岡 敏秀	1学期	1	2	99	
1年					
現代社会と倫理 PHR002F 伊原木 大祐	1学期	1	2	100	
1年					
現代社会と新聞ジャーナリズム SOC001F 西日本新聞社、基盤教育センター 稲月正	1学期	1	2	101	
1年					
都市と地域 RDE002F 南 博 他	1学期	1	2	102	
1年					
現代の国際情勢 IRL003F 山本 直 他	1学期	1	2	103	
1年					
開発と統治 IRL002F 三宅 博之 他	2学期	1	2	104	
1年					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	グローバル化する経済 ECN001F 田中 淳平 他	1学期	1	2	105
		1年			
	テロリズム論 PLS001F 戸蔭 仁司	2学期	1	2	106
		1年			
	国際紛争と国連 IRL005F 二宮 正人	1学期	1	2	107
		1年			
	国際社会と日本 IRL004F 中野 博文 他	2学期	1	2	108
		1年			
	韓国の社会と文化 ARE010F チャン ユンヒャン	2学期	1	2	109
		1年			
	エスニシティと多文化社会 IRL001F 北 美幸 他	1学期	1	2	110
		1年			
	歴史の読み方I HIS004F 八百 啓介	1学期	1	2	111
		1年			
	歴史の読み方II HIS005F 小林 道彦	1学期	1	2	112
		1年			
そのとき世界は HIS002F 小林 道彦 他	2学期	1	2	113	
	1年				
戦後の日本経済 ECN002F 土井 徹平	2学期	1	2	114	
	1年				
ものと人間の歴史 HIS003F 中野 博文 他	1学期	1	2	115	
	1年				
人物と時代の歴史 HIS001F 山崎 勇治 他	1学期	1	2	116	
	1年				
ヨーロッパ道徳思想史 PHR005F 伊原木 大祐	2学期	1	2	117	
	1年				
■教職関連科目	日本史 HIS110F 内山 一幸	2学期	1	2	118
		1年			
	東洋史 HIS120F 植松 慎悟	2学期	1	2	119
		1年			



科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教職関連科目	西洋史 HIS130F 晴谷 憲洋	1学期	1	2	120
	1年				
	人文地理学 GEO110F 外柙保 大介	2学期	1	2	121
	1年				
	土地地理学 GEO111F 野井 英明	1学期	1	2	122
	1年				
	地誌学 GEO112F 外柙保 大介	1学期	1	2	123
	1年				
	日本国憲法 LAW120F 植木 淳	2学期	1	2	124
	1年				
■ライフ・スキル科目	メンタル・ヘルスI PSY001F 中島 俊介	1学期	1	2	125
	1年				
	メンタル・ヘルスII PSY002F 坂本 毅啓	2学期	1	2	126
	1年				
	フィジカル・ヘルスI HSS001F 高西 敏正	1学期	1	2	127
	1年				
	フィジカル・ヘルスI HSS001F 徳永 政夫	1学期	1	2	128
	1年				
	フィジカル・ヘルスI HSS001F 加倉井 美智子	1学期	1	2	129
	1年				
	フィジカル・ヘルスII HSS002F 高西 敏正	2学期	1	2	130
	1年				
	フィジカル・ヘルスII HSS002F 徳永 政夫	2学期	1	2	131
	1年				
フィジカル・ヘルスII HSS002F 加倉井 美智子	2学期	1	2	132	
1年					
自己管理論 HSS003F 山本 浩二	2学期	1	2	133	
1年					
フィジカル・エクササイズI (ソフトボール) HSS081F 黒田 次郎	1学期	1	1	134	
1年					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ライフ・スキル科目	フィジカル・エクササイズI (サッカー) HSS081F 磯貝 浩久	1学期	1	1	135
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (テニス) HSS081F 黒田 次郎	1学期	1	1	136
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (バレーボール) HSS081F 美山 泰教	1学期	1	1	137
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (バドミントン) HSS081F 鯨 吉夫	1学期	1	1	138
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (バドミントン) HSS081F 山本 浩二	1学期	1	1	139
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (女性のスポーツ) HSS081F 加倉井 美智子	1学期	1	1	140
		1年			
	フィジカル・エクササイズII (バドミントン) HSS082F 磯貝 浩久	2学期	1	1	141
		1年			
	フィジカル・エクササイズII (バドミントン) HSS082F 黒田 次郎	2学期	1	1	142
		1年			
	フィジカル・エクササイズII (バスケットボール) HSS082F 黒田 次郎	2学期	1	1	143
		1年			
	フィジカル・エクササイズII (バレーボール) HSS082F 美山 泰教	2学期	1	1	144
	1年				
フィジカル・エクササイズII (バドミントン) HSS082F 美山 泰教	2学期	1	1	145	
	1年				
フィジカル・エクササイズII (サッカー) HSS082F 磯貝 浩久	2学期	1	1	146	
	1年				
フィジカル・エクササイズII (バドミントン) HSS082F 鯨 吉夫	2学期	1	1	147	
	1年				
フィジカル・エクササイズII (サッカー) HSS082F 鯨 吉夫	2学期	1	1	148	
	1年				
フィジカル・エクササイズII (バドミントン) HSS082F 徳永 政夫	2学期	1	1	149	
	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■キャリア科目	キャリア・デザイン CAR100F 眞鍋 和博	1学期	1	2	150
		1年			
	キャリア・デザイン CAR100F 永田 公彦	1学期	1	2	151
		1年			
	キャリア・デザイン CAR100F 見館 好隆	1学期	1	2	152
		1年			
	キャリア・デザイン CAR100F 石川 敬之	1学期	1	2	153
		1年			
	コミュニケーション実践 CAR111F 眞鍋 和博	2学期	1	2	154
		1年			
	グローバル・リーダーシップ論 CAR112F 永田 公彦	2学期	1	2	155
		1年			
	プロフェッショナルの仕事I CAR210F 見館 好隆	1学期	2	2	156
		2年			
	プロフェッショナルの仕事II CAR211F 見館 好隆	2学期	2	2	157
		2年			
	地域の達人 CAR212F 眞鍋 和博	2学期	2	2	158
		2年			
	サービスラーニング入門I CAR110F 石川 敬之	1学期	1	2	159
		1年			
サービスラーニング入門II CAR180F 石川 敬之	2学期	1	2	160	
	1年				
プロジェクト演習I CAR280F 見館 好隆	1学期	2	2	161	
	2年				
プロジェクト演習II CAR281F 見館 好隆	2学期	2	2	162	
	2年				
プロジェクト演習III CAR380F 見館 好隆	1学期	3	2	163	
	3年				
プロジェクト演習IV CAR381F 見館 好隆	2学期	3	2	164	
	3年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養特講	教養特講I ( 北九州市の観光振興 ) SPL001F 北九州市観光協会、基盤教育センター 真鍋和博	2学期	1	2	165
		1年			
	教養特講II ( ホスピタリティ論 ) SPL002F 西澤 健次 他	2学期	1	2	166
		1年			
	教養特講II ( セクシュアル・ライツ ) SPL002F 河嶋 静代	2学期	1	2	167
		1年			
教養特講III ( まなびと講座 A ) SPL003F 真鍋 和博	1学期	1	2	168	
	1年				
教養特講IV ( まなびと講座 B ) SPL004F 真鍋 和博	2学期	1	2	169	
	1年				
■情報教育科目	データ処理 INF101F 岩田 一男	1学期	1	2	170
		英 1 - 1 . 英 1 - 2			
	データ処理 INF101F 山田 寛	1学期	1	2	171
		英 1 - 3 . 英 1 - 4			
	データ処理 INF101F 中尾 泰士	1学期	1	2	172
		人 1 - 1 . 再履 ( 人 1 - 1 , 英 1 - 1 , 英 1 - 2 )			
	データ処理 INF101F 棚次 奎介	1学期	1	2	173
		人 1 - 2 . 再履 ( 人 1 - 2 , 英 1 - 3 , 英 1 - 4 )			
	データ処理 INF101F 浅羽 修丈	2学期	1	2	174
		1学期未修得者再履			
	情報表現 INF230F 中尾 泰士	2学期	2	2	175
		2年			
	情報表現 INF230F 棚次 奎介	2学期	2	2	176
	2年				
情報表現 INF230F 浅羽 修丈	1学期	2	2	177	
	2年				
情報メディア演習 INF330F 浅羽 修丈	2学期	3	2	178	
	3年				
■外国語教育科目 ■第一外国語	英語I ( 英 1 - A ) ENG101F 吉川 哲郎	1学期	1	1	179
		英 1 - A			

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第一外国語	英語I ( 英 1 - B ) ENG101F 北峯 裕士	1学期	1	1	180
	英 1 - B				
	英語I ( 英 1 - C ) ENG101F 松田 智	1学期	1	1	181
	英 1 - C				
	英語I ( 英 1 - D ) ENG101F 船方 浩子	1学期	1	1	182
	英 1 - D				
	英語II ( 英 1 - A ) ENG111F 松田 智	2学期	1	1	183
	英 1 - A				
	英語II ( 英 1 - B ) ENG111F 木原 謙一	2学期	1	1	184
	英 1 - B				
	英語II ( 英 1 - C ) ENG111F 吉川 哲郎	2学期	1	1	185
	英 1 - C				
	英語II ( 英 1 - D ) ENG111F 北峯 裕士	2学期	1	1	186
	英 1 - D				
	英語III ( 英 1 - A ) ENG102F ロバート・マーフィ	1学期	1	1	187
	英 1 - A				
	英語III ( 英 1 - B ) ENG102F マイケル・バーグ	1学期	1	1	188
	英 1 - B				
	英語III ( 英 1 - C ) ENG102F ダンカン・ウォトリイ	1学期	1	1	189
	英 1 - C				
英語III ( 英 1 - D ) ENG102F アレクサンダー・ボードナー	1学期	1	1	190	
英 1 - D					
英語IV ( 英 1 - A ) ENG112F ロバート・マーフィ	2学期	1	1	191	
英 1 - A					
英語IV ( 英 1 - B ) ENG112F デビット・ニール・マクレラン	2学期	1	1	192	
英 1 - B					
英語IV ( 英 1 - C ) ENG112F ダンカン・ウォトリイ	2学期	1	1	193	
英 1 - C					
英語IV ( 英 1 - D ) ENG112F アレクサンダー・ボードナー	2学期	1	1	194	
英 1 - D					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第一外国語	英語V ( 英 2 - A ) ENG201F 吉川 哲郎	1学期	2	1	195
		英 2 - A			
	英語V ( 英 2 - B ) ENG201F 北峯 裕士	1学期	2	1	196
		英 2 - B			
	英語V ( 英 2 - C ) ENG201F 渡邊 晶子	1学期	2	1	197
		英 2 - C			
	英語V ( 英 2 - D ) ENG201F 相原 信彦	1学期	2	1	198
		英 2 - D			
	英語VI ( 英 2 - A ) ENG211F 船方 浩子	2学期	2	1	199
		英 2 - A			
	英語VI ( 英 2 - B ) ENG211F 吉川 哲郎	2学期	2	1	200
		英 2 - B			
	英語VI ( 英 2 - C ) ENG211F 渡邊 晶子	2学期	2	1	201
		英 2 - C			
	英語VI ( 英 2 - D ) ENG211F 相原 信彦	2学期	2	1	202
		英 2 - D			
	英語VII ( 英 2 - A ) ENG202F デール・ スティール	1学期	2	1	203
		英 2 - A			
	英語VII ( 英 2 - B ) ENG202F アルバート・ オスカー・ モウ	1学期	2	1	204
		英 2 - B			
英語VII ( 英 2 - C ) ENG202F ポール・ ガラフ・ スティール	1学期	2	1	205	
	英 2 - C				
英語VII ( 英 2 - D ) ENG202F ダンカン・ ウォトリイ	1学期	2	1	206	
	英 2 - D				
英語VIII ( 英 2 - A ) ENG212F デビット・ ニール・ マクレラン	2学期	2	1	207	
	英 2 - A				
英語VIII ( 英 2 - B ) ENG212F アルバート・ オスカー・ モウ	2学期	2	1	208	
	英 2 - B				
英語VIII ( 英 2 - C ) ENG212F ポール・ ガラフ・ スティール	2学期	2	1	209	
	英 2 - C				

外国語学部 英米学科 ( 2013年度入学生 )

<昼>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第一外国語	英語VIII ( 英 2 - D ) ENG212F ダンカン・ウォトリイ	2学期	2	1	210
		英 2 - D			
	英語IX ( 英中国 3 年 ) ENG301F 永末 康介	1学期	3	1	211
		英中国 3 年			
	英語X ( 英中国 3 年 ) ENG311F 葛西 宏信	2学期	3	1	212
		英中国 3 年			
	英語XI ( 英中国 3 年 ) ENG302F ロバート・マーフィ	1学期	3	1	213
		英中国 3 年			
	英語XII ( 英中国 3 年 ) ENG312F ロバート・マーフィ	2学期	3	1	214
		英中国 3 年			
■第二外国語	中国語I CHN101F 板谷 秀子	1学期	1	1	215
		英 1 - 1・ 1 - 2			
	中国語I CHN101F 小椋 吾郎	1学期	1	1	216
		英 1 - 3・ 1 - 4			
	中国語II CHN111F 板谷 秀子	2学期	1	1	217
		英 1 - 1・ 1 - 2			
	中国語II CHN111F 小椋 吾郎	2学期	1	1	218
		英 1 - 3・ 1 - 4			
	中国語III CHN102F 陳 青鳳	1学期	1	1	219
		英 1 - 1・ 1 - 2			
	中国語III CHN102F 蘇 君業	1学期	1	1	220
		英 1 - 3・ 1 - 4			
	中国語IV CHN112F 陳 青鳳	2学期	1	1	221
		英 1 - 1・ 1 - 2			
中国語IV CHN112F 蘇 君業	2学期	1	1	222	
	英 1 - 3・ 1 - 4				
中国語V CHN201F 有働 彰子	1学期	2	1	223	
	英 2 年				
中国語VI CHN211F 有働 彰子	2学期	2	1	224	
	英 2 年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	中国語VII CHN202F 蘇 君業	1学期	2	1	225
		英 2 年			
	中国語VIII CHN212F 蘇 君業	2学期	2	1	226
		英 2 年			
	上級中国語I CHN301F 唐 雋	1学期	3	1	227
		英国済営比人 3 年			
	上級中国語II CHN311F 唐 雋	2学期	3	1	228
		英国済営比人 3 年			
	上級中国語III CHN302F 王 占華	1学期	3	1	229
		英国済営比人 3 年			
	上級中国語IV CHN312F 王 占華	2学期	3	1	230
		英国済営比人 3 年			
	朝鮮語I KRN101F 金 貞淑	1学期	1	1	231
		英 1 年			
	朝鮮語II KRN111F 金 貞淑	2学期	1	1	232
		英 1 年			
	朝鮮語III KRN102F 金 貞淑	1学期	1	1	233
		英 1 年			
	朝鮮語IV KRN112F 金 貞淑	2学期	1	1	234
		英 1 年			
朝鮮語V KRN201F チャン ユンヒャン	1学期	2	1	235	
	英 2 年				
朝鮮語VI KRN211F チャン ユンヒャン	2学期	2	1	236	
	英 2 年				
朝鮮語VII KRN202F 金 貞淑	1学期	2	1	237	
	英 2 年				
朝鮮語VIII KRN212F 金 貞淑	2学期	2	1	238	
	英 2 年				
上級朝鮮語I KRN301F 金 貞淑	1学期	3	1	239	
	英中国済営比人 3 年				



科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	上級朝鮮語II KRN311F 金 貞淑	2学期	3	1	240
		英中国済営比人 3年			
	上級朝鮮語III KRN302F チャン ユンヒャン	1学期	3	1	241
		英中国済営比人 3年			
	上級朝鮮語IV KRN312F チャン ユンヒャン	2学期	3	1	242
		英中国済営比人 3年			
	ロシア語I RUS101F 芳之内 雄二	1学期	1	1	243
		英 1年			
	ロシア語II RUS111F 芳之内 雄二	2学期	1	1	244
		英 1年			
	ロシア語III RUS102F ナタリア・シエストコーワ	1学期	1	1	245
		英 1年			
	ロシア語IV RUS112F ナタリア・シエストコーワ	2学期	1	1	246
		英 1年			
	ロシア語V RUS201F 芳之内 雄二	1学期	2	1	247
		英 2年			
	ロシア語VI RUS211F 芳之内 雄二	2学期	2	1	248
		英 2年			
	ロシア語VII RUS202F ナタリア・シエストコーワ	1学期	2	1	249
		英 2年			
ロシア語VIII RUS212F ナタリア・シエストコーワ	2学期	2	1	250	
	英 2年				
ドイツ語I GRM101F 山下 哲雄	1学期	1	1	251	
	英 1年				
ドイツ語II GRM111F 山下 哲雄	2学期	1	1	252	
	英 1年				
ドイツ語III GRM102F 山下 哲雄	1学期	1	1	253	
	英 1年				
ドイツ語IV GRM112F 山下 哲雄	2学期	1	1	254	
	英 1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	ドイツ語V GRM201F 山下 哲雄	1学期	2	1	255
		英 2 年			
	ドイツ語VI GRM211F 山下 哲雄	2学期	2	1	256
		英 2 年			
	ドイツ語VII GRM202F 山下 哲雄	1学期	2	1	257
		英 2 年			
	ドイツ語VIII GRM212F 山下 哲雄	2学期	2	1	258
		英 2 年			
	フランス語I FRN101F 山下 広一	1学期	1	1	259
		英 1 年			
	フランス語II FRN111F 山下 広一	2学期	1	1	260
		英 1 年			
	フランス語III FRN102F 坂田 由紀	1学期	1	1	261
		英 1 年			
	フランス語IV FRN112F 坂田 由紀	2学期	1	1	262
		英 1 年			
	フランス語V FRN201F 坂田 由紀	1学期	2	1	263
		英 2 年			
	フランス語VI FRN211F 坂田 由紀	2学期	2	1	264
		英 2 年			
フランス語VII FRN202F ドゥラボード・ブランシュ	1学期	2	1	265	
	英 2 年				
フランス語VIII FRN212F ドゥラボード・ブランシュ	2学期	2	1	266	
	英 2 年				
スペイン語I SPN101F 青木 文夫	1学期	1	1	267	
	英 1 年 ( 1組・2組 )				
スペイン語I SPN101F 岡住 正秀	1学期	1	1	268	
	英 1 年 ( 3組・4組 )				
スペイン語II SPN111F 青木 文夫	2学期	1	1	269	
	英 1 年 ( 1組・2組 )				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	スペイン語II SPN111F 岡住 正秀	2学期	1	1	270
		英 1 年 ( 3組・ 4組 )			
	スペイン語III SPN102F 辻 博子	1学期	1	1	271
		英 1 年 ( 1組・ 2組 )			
	スペイン語III SPN102F ホセ・マルティン・サンチェス	1学期	1	1	272
		英 1 年 ( 3組・ 4組 )			
	スペイン語IV SPN112F 辻 博子	2学期	1	1	273
		英 1 年 ( 1組・ 2組 )			
	スペイン語IV SPN112F ホセ・マルティン・サンチェス	2学期	1	1	274
	英 1 年 ( 3組・ 4組 )				
スペイン語V SPN201F 青木 文夫	1学期	2	1	275	
	英 2 年				
スペイン語VI SPN211F 青木 文夫	2学期	2	1	276	
	英 2 年				
スペイン語VII SPN202F 辻 博子	1学期	2	1	277	
	英 2 年				
スペイン語VIII SPN212F 辻 博子	2学期	2	1	278	
	英 2 年				
■留学生特別科目	日本語I JSL101F 清水 順子	1学期	1	1	279
		留学生 1 年			
	日本語II JSL102F 清水 順子	1学期	1	1	280
		留学生 1 年			
	日本語III JSL103F 徐 曉輝	1学期	1	1	281
		留学生 1 年			
日本語IV JSL111F 清水 順子	2学期	1	1	282	
	留学生 1 年				
日本語V JSL112F 則松 智子	2学期	1	1	283	
	留学生 1 年				
日本語VI JSL113F 徐 曉輝	2学期	1	1	284	
	留学生 1 年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■留学生特別科目	日本語VII	1学期	2	1	285
	JSL104F 小林 浩明	留学生 2 年			
	日本語VIII	2学期	2	1	286
	JSL114F 小林 浩明	留学生 2 年			
	日本事情 ( 人文 ) A	1学期	1	2	287
	JPS101F 則松 智子	留学生 1 年			
	日本事情 ( 人文 ) B	2学期	1	2	288
	JPS102F 清水 順子	留学生 1 年			
	日本事情 ( 社会 ) A	1学期	1	2	289
	JPS103F 山崎 勇治	留学生 1 年			
	日本事情 ( 社会 ) B	2学期	1	2	290
	JPS104F 山崎 勇治	留学生 1 年			
■専門教育科目 ■選択科目 ■法経科目群	国際法I	1学期	2	2	291
	LAW250M 二宮 正人	2 年			
	国際法II	2学期	2	2	292
	LAW251M 二宮 正人	2 年			
	国際貿易論I	1学期	3	2	293
	ECN345M 水戸 康夫	3 年			
	国際貿易論II	2学期	3	2	294
	ECN346M 水戸 康夫	3 年			
	国際金融論I	1学期	3	2	295
	ECN363M 休講	3 年			
	国際金融論II	2学期	3	2	296
	ECN364M 休講	3 年			
国際取引法	集中	3	2	295	
LAW350M 大隈 一武	3 年				
国際私法	集中	3	2	296	
LAW252M 中林 啓一	3 年				
アメリカ経済	2学期	3	2	297	
ECN351M 山崎 好裕	3 年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■選択科目 ■英米文学・文化科目群	イギリス文学概論 LIT231M 田吹 長彦	2学期	2	2	298
	2年				
	アメリカ文学概論 LIT230M 前田 譲治	2学期	2	2	299
	2年				
	イギリスの現代文学 LIT234M 田部井 世志子	1学期	2	2	300
	2年				
	アメリカの現代文学 LIT232M 新村 昭雄	2学期	2	2	301
	2年				
	イギリスの18-19世紀文学 LIT235M 虹林 慶	2学期	2	2	302
	2年				
	アメリカの18-19世紀文学 LIT233M 新村 昭雄	1学期	2	2	303
	2年				
	アメリカ文化史 ARE227M 寺田 由美	1学期	2	2	304
	2年				
アメリカの社会と文化 ARE222M ODU教員	集中	2	2	305	
2年					
アメリカの都市文化 ARE224M 寺田 由美 他	1学期	2	2	306	
2年					
アメリカの大衆文化 ARE221M 前田 譲治	2学期	2	2	307	
2年					
■中国ビジネス科目群	中国社会経済史I HIS220M 山本 進	1学期	2	2	308
	2年				
	中国社会経済史II HIS221M 山本 進	2学期	2	2	309
	2年				
	中国経済論I ECN253M 白石 麻保	1学期	2	2	310
	2年				
中国経済論II ECN254M 白石 麻保	2学期	2	2	311	
2年					
中国文化論 ARE110M 板谷 秀子	1学期	2	2	312	
2年					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■選択科目 ■中国ビジネス科目群	国際経済論I ECN240M 休講	1学期	2	2	
	2年				
	国際経済論II ECN241M 休講	2学期	2	2	
	2年				
	途上国開発論 PLC215M 三宅 博之	1学期	2	2	313
	2年				
	ビジネス中国語A CHN360M 秋山 淳	1学期	3	2	314
	3年				
	ビジネス中国語B CHN361M 秋山 淳	2学期	3	2	315
	3年				
■演習・研究科目 ■ビジネス・コミュニケーション科	異文化間コミュニケーション概論 MCC212M 山崎 和夫	2学期	1	2	316
	1年				
	ビジネス英語概論 ENG230M 松田 智	2学期	1	2	317
	1年				
	通訳基礎演習I ENG234M 吉村 理一	1学期	2	2	318
	2 - 1				
	通訳基礎演習I ENG234M 吉村 理一	1学期	2	2	319
	2 - 2				
	通訳基礎演習I ENG234M 吉村 理一	1学期	2	2	320
	2 - 3				
	通訳基礎演習I ENG234M 吉村 理一	1学期	2	2	321
	2 - 4				
	通訳基礎演習II ENG235M 吉村 理一	2学期	2	2	322
	2 - 1				
	通訳基礎演習II ENG235M 吉村 理一	2学期	2	2	323
2 - 2					
通訳基礎演習II ENG235M 吉村 理一	2学期	2	2	324	
2 - 3					
通訳基礎演習II ENG235M 吉村 理一	2学期	2	2	325	
2 - 4					

外国語学部 英米学科 ( 2013年度入学生 )

<昼>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■演習・研究科目 ■ビジネス・コミュニケーション科	ビジネス英語演習 ENG231M 松田 智	1学期	2	2	326
		2 - 1・2 - 2			
	ビジネス英語演習 ENG231M 松田 智	1学期	2	2	327
		2 - 3・2 - 4			
	ビジネス英語演習 ENG231M 休講	1学期	2	2	
		2年			
	ビジネス英語演習 ENG231M 休講	1学期	2	2	
		2年			
	英日翻訳演習 MCC219M 鮫島 千明	2学期	2	2	328
		2 - 1・2 - 2			
	英日翻訳演習 MCC219M 鮫島 千明	2学期	2	2	329
		2 - 3・2 - 4			
	英日翻訳演習 MCC219M 休講	2学期	2	2	
		2年			
	英日翻訳演習 MCC219M 休講	2学期	2	2	
		2年			
	異文化間コミュニケーション演習 MCC213M 山崎 和夫	1学期	2	2	330
		2 - 1・2 - 2			
異文化間コミュニケーション演習 MCC213M 十時 康	1学期	2	2	331	
	2 - 3・2 - 4				
異文化間コミュニケーション演習 MCC213M 休講	1学期	2	2		
	2年				
異文化間コミュニケーション演習 MCC213M 休講	1学期	2	2		
	2年				
異文化フィールドワーク MCC214M 木原 謙一	1学期	2	2	332	
	2年				
ビジネス英語研究 ENG232M 松田 智	2学期	2	2	333	
	2年				
■英語学・英語教育科目群 英文法I LIN230M 廣田 恵美	1学期	1	2	334	
	1 - 1・1 - 2				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■演習・研究科目 ■英語学・英語教育科目群	英文法I LIN230M 廣田 恵美	1学期	1	2	335
		1 - 3・ 1 - 4			
	英文法II LIN231M 廣田 恵美	2学期	1	2	336
		1 - 1・ 1 - 2			
	英文法II LIN231M 廣田 恵美	2学期	1	2	337
		1 - 3・ 1 - 4			
	英語学概論 LIN232M 北峯 裕士	1学期	2	2	338
		2年			
	英語学研究I ( 音声学・音韻論 ) LIN233M 山内 ひさ子	1学期	2	2	339
		2年			
英語学研究II ( 英語教育 ) LIN234M アーノルド・ウェイン	2学期	2	2	340	
	2年				
英語史 LIN330M 北峯 裕士	2学期	2	2	341	
	2年				
社会言語学研究 LIN310M 平野 圭子	2学期	2	2	342	
	2年				
■英米研究・メディア科目群	メディア英語演習 MCC215M アダム・ヘイルズ	1学期	2	2	343
		2 - 1・ 2 - 2			
	メディア英語演習 MCC215M 吉川 哲郎	1学期	2	2	344
		2 - 3・ 2 - 4			
	メディア英語演習 MCC215M 休講	1学期	2	2	
		2年			
	メディア英語演習 MCC215M 休講	1学期	2	2	
		2年			
	アメリカ劇文化研究 MCC216M 吉川 哲郎	2学期	2	2	345
		2年			
アメリカ劇文化研究 MCC216M 休講	2学期	2	2		
	2年				
アメリカ劇文化研究 MCC216M 休講	2学期	2	2		
	2年				



科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■演習・研究科目 ■英米研究・メディア科目群	アメリカ劇文化研究 MCC216M 休講	2学期	2	2	346
		2年			
	イギリス研究 MCC217M 木原 謙一	1学期	2	2	347
		2年			
	アメリカ研究 MCC218M ダニエル・ストラック	2学期	2	2	348
		2年			
	英米文化研究 MCC311M 伊藤 健一	2学期	3	2	349
		3年			
	イギリス劇文化研究 MCC310M アダム・ヘイルズ	1学期	3	2	350
		3年			
■ゼミ・卒業課題科目	異文化間コミュニケーションゼミA I SEM411M ロジャー・ウィリアムソン	2学期	3	2	351
		3年			
	異文化間コミュニケーションゼミA I SEM411M フィオナ・クリーサー	1学期	3	2	352
		3年			
	異文化間コミュニケーションゼミA II SEM412M ロジャー・ウィリアムソン	2学期	3	2	353
		3年			
	異文化間コミュニケーションゼミA II SEM412M フィオナ・クリーサー	2学期	3	2	354
		3年			
	通訳ゼミA I SEM411M 伊藤 健一	1学期	3	2	355
		3年			
	通訳ゼミA I SEM411M 休講	1学期	3	2	356
		3年			
	通訳ゼミA II SEM412M 伊藤 健一	2学期	3	2	357
		3年			
	通訳ゼミA II SEM412M 休講	2学期	3	2	358
		3年			
	翻訳ゼミA I SEM411M 鮫島 千明	1学期	3	2	359
	3年				
翻訳ゼミA I SEM411M ダニエル・ストラック	1学期	3	2	360	
	3年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■ゼミ・卒業課題科目	翻訳ゼミA I SEM411M 休講	1学期	3	2	358
		3年			
	翻訳ゼミA II SEM412M 鮫島 千明	2学期	3	2	359
		3年			
	翻訳ゼミA II SEM412M ダニエル・ストラック	2学期	3	2	360
		3年			
	翻訳ゼミA II SEM412M 休講	2学期	3	2	361
		3年			
	ビジネス英語ゼミA I SEM411M 松田 智	1学期	3	2	362
		3年			
	ビジネス英語ゼミA II SEM412M 松田 智	2学期	3	2	363
		3年			
	メディア英語ゼミA I SEM411M 吉川 哲郎	1学期	3	2	364
		3年			
	メディア英語ゼミA I SEM411M アダム・ヘイルズ	1学期	3	2	365
		3年			
	メディア英語ゼミA II SEM412M 吉川 哲郎	2学期	3	2	366
		3年			
	メディア英語ゼミA II SEM412M アダム・ヘイルズ	2学期	3	2	367
		3年			
アメリカ研究ゼミA I SEM411M アーノルド・ウェイン	1学期	3	2	368	
	3年				
アメリカ研究ゼミA II SEM412M アーノルド・ウェイン	2学期	3	2	369	
	3年				
イギリス研究ゼミA I SEM411M 木原 謙一	1学期	3	2	370	
	3年				
イギリス研究ゼミA II SEM412M 木原 謙一	2学期	3	2	370	
	3年				
英語学ゼミA I SEM411M 北峯 裕士	1学期	3	2	370	
	3年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■ゼミ・卒業課題科目	英語学ゼミAII SEM412M 北峯 裕士	2学期	3	2	371
		3年			
	英語教育ゼミAI SEM411M クレイグ・ランバート	1学期	3	2	372
		3年			
	英語教育ゼミAI SEM411M 雪丸 尚美	1学期	3	2	373
		3年			
	英語教育ゼミAII SEM412M クレイグ・ランバート	2学期	3	2	374
		3年			
	英語教育ゼミAII SEM412M 雪丸 尚美	2学期	3	2	375
		3年			
	社会言語学ゼミAI SEM411M 平野 圭子	1学期	3	2	376
		3年			
	社会言語学ゼミAII SEM412M 平野 圭子	2学期	3	2	377
		3年			
	異文化間コミュニケーションゼミBI SEM413M 未開講	1学期	4	2	
		4年			
	異文化間コミュニケーションゼミBI SEM413M 未開講	2学期	4	2	
		4年			
	異文化間コミュニケーションゼミBII SEM414M 未開講	2学期	4	2	
		4年			
異文化間コミュニケーションゼミBII SEM414M 未開講	2学期	4	2		
	4年				
通訳ゼミBI SEM413M 未開講	1学期	4	2		
	4年				
通訳ゼミBI SEM413M 未開講	1学期	4	2		
	4年				
通訳ゼミBII SEM414M 未開講	2学期	4	2		
	4年				
通訳ゼミBII SEM414M 未開講	2学期	4	2		
	4年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■ゼミ・卒業課題科目	翻訳ゼミB I SEM413M 未開講	1学期	4	2	4年
	翻訳ゼミB I SEM413M 未開講	1学期	4	2	4年
	翻訳ゼミB II SEM414M 未開講	2学期	4	2	4年
	翻訳ゼミB II SEM414M 未開講	2学期	4	2	4年
	ビジネス英語ゼミB I SEM413M 未開講	1学期	4	2	4年
	ビジネス英語ゼミB II SEM414M 未開講	2学期	4	2	4年
	メディア英語ゼミB I SEM413M 未開講	1学期	4	2	4年
	メディア英語ゼミB I SEM413M 未開講	1学期	4	2	4年
	メディア英語ゼミB II SEM414M 未開講	2学期	4	2	4年
	メディア英語ゼミB II SEM414M 未開講	2学期	4	2	4年
アメリカ研究ゼミB I SEM413M 未開講	1学期	4	2	4年	
アメリカ研究ゼミB II SEM414M 未開講	2学期	4	2	4年	
イギリス研究ゼミB I SEM413M 未開講	1学期	4	2	4年	
イギリス研究ゼミB II SEM414M 未開講	2学期	4	2	4年	
英語学ゼミB I SEM413M 未開講	1学期	4	2	4年	

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■ゼミ・卒業課題科目	英語学ゼミBII SEM414M 未開講	2学期	4	2	4年
	英語教育ゼミBI SEM413M 未開講	1学期	4	2	4年
	英語教育ゼミBI SEM413M 未開講	1学期	4	2	4年
	英語教育ゼミBII SEM414M 未開講	2学期	4	2	4年
	英語教育ゼミBII SEM414M 未開講	2学期	4	2	4年
社会言語学ゼミBI SEM413M 未開講	1学期	4	2	4年	
社会言語学ゼミBII SEM414M 未開講	2学期	4	2	4年	
■演習・スキル科目	基礎演習I ENG100M 鮫島 千明	1学期	1	2	378
		1 - 1			
	基礎演習I ENG100M 鮫島 千明	1学期	1	2	379
		1 - 2			
	基礎演習I ENG100M 鮫島 千明	1学期	1	2	380
		1 - 3			
	基礎演習I ENG100M 鮫島 千明	1学期	1	2	381
		1 - 4			
	基礎演習II ENG110M 松崎 徹	2学期	1	2	382
		1 - 3			
	基礎演習II ENG110M 松崎 徹	2学期	1	2	383
		1 - 2			
	基礎演習II ENG110M ダニエル・ストラック	2学期	1	2	384
		1 - 1			
基礎演習II ENG110M フィオナ・クリーサー	2学期	1	2	385	
	1 - 4				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■演習・スキル科目	英会話演習 A ENG251M フィオナ・クリーサー	1学期	1	2	386
		1 - 1			
	英会話演習 A ENG251M フィオナ・クリーサー	1学期	1	2	387
		1 - 2			
	英会話演習 A ENG251M シェーン・ドイル	1学期	1	2	388
		1 - 3			
	英会話演習 A ENG251M シェーン・ドイル	1学期	1	2	389
		1 - 4			
	英語リスニング演習 A ENG255M 平野 圭子	1学期	1	2	390
		1 - 1			
	英語リスニング演習 A ENG255M クレイグ・ランバート	1学期	1	2	391
		1 - 2			
	英語リスニング演習 A ENG255M クレイグ・ランバート	1学期	1	2	392
		1 - 3			
	英語リスニング演習 A ENG255M 木原 謙一	1学期	1	2	393
		1 - 4			
	英会話演習 B ENG252M アダム・ヘイルズ	2学期	2	2	394
		2 - 1			
	英会話演習 B ENG252M アダム・ヘイルズ	2学期	2	2	395
		2 - 2			
英会話演習 B ENG252M アダム・ヘイルズ	2学期	2	2	396	
	2 - 3				
英会話演習 B ENG252M アダム・ヘイルズ	2学期	2	2	397	
	2 - 4				
英語リスニング演習 B ENG256M アーノルド・ウェイン	1学期	2	2	398	
	2 - 1				
英語リスニング演習 B ENG256M アーノルド・ウェイン	1学期	2	2	399	
	2 - 2				
英語リスニング演習 B ENG256M 河本 恵美	1学期	2	2	400	
	2 - 3				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■演習・スキル科目	英語リスニング演習B ENG256M 河本 恵美	1学期	2	2	401
		2 - 4			
	Reading and Discussion I ENG253M 河本 恵美	1学期	2	2	402
		2 - 1			
	Reading and Discussion I ENG253M クレイグ・ランバート	1学期	2	2	403
		2 - 2			
	Reading and Discussion I ENG253M デニス・ジョーンズ	1学期	2	2	404
		2 - 3			
	Reading and Discussion I ENG253M デニス・ジョーンズ	1学期	2	2	405
		2 - 4			
	Reading and Discussion II ENG254M 細川 博文	2学期	2	2	406
		2 - 1			
	Reading and Discussion II ENG254M デニス・ジョーンズ	2学期	2	2	407
		2 - 2			
	Reading and Discussion II ENG254M デニス・ジョーンズ	2学期	2	2	408
		2 - 3			
	Reading and Discussion II ENG254M 河本 恵美	2学期	2	2	409
		2 - 4			
	日英翻訳演習 ENG233M ダニエル・ストラック	1学期	2	2	410
		2 - 1			
日英翻訳演習 ENG233M ダニエル・ストラック	1学期	2	2	411	
	2 - 2				
日英翻訳演習 ENG233M ダニエル・ストラック	1学期	2	2	412	
	2 - 3				
日英翻訳演習 ENG233M ダニエル・ストラック	1学期	2	2	413	
	2 - 4				
Presentation and Writing A ENG250M フィオナ・クリーサー	2学期	2	2	414	
	2 - 1				
Presentation and Writing A ENG250M フィオナ・クリーサー	2学期	2	2	415	
	2 - 2				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■演習・スキル科目	Presentation and Writing A ENG250M シェーン・ドイル	2学期	2	2	416
		2 - 3			
	Presentation and Writing A ENG250M シェーン・ドイル	2学期	2	2	417
		2 - 4			
	Presentation and Writing B ENG350M 木原 謙一	2学期	3	2	418
		3 - 1			
	Presentation and Writing B ENG350M 木原 謙一	2学期	3	2	419
		3 - 2			
	Presentation and Writing B ENG350M アーノルド・ウエイン	2学期	3	2	420
		3 - 3			
	Presentation and Writing B ENG350M アーノルド・ウエイン	2学期	3	2	421
		3 - 4			
	英語リーディング演習I ENG351M 木下 善貞	1学期	3	2	422
		3 - 1			
	英語リーディング演習I ENG351M 木下 善貞	1学期	3	2	423
		3 - 2			
	英語リーディング演習I ENG351M 田吹 長彦	1学期	3	2	424
		3 - 3			
	英語リーディング演習I ENG351M 田吹 長彦	1学期	3	2	425
		3 - 4			
英語リーディング演習II ENG352M 田吹 長彦	2学期	3	2	426	
	3 - 1				
英語リーディング演習II ENG352M 田吹 長彦	2学期	3	2	427	
	3 - 2				
英語リーディング演習II ENG352M 木下 善貞	2学期	3	2	428	
	3 - 3				
英語リーディング演習II ENG352M 木下 善貞	2学期	3	2	429	
	3 - 4				
ビジネスコミュニケーション演習 ENG330M アーノルド・ウエイン	1学期	3	2	430	
	3 - 1				



科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■専門教育科目 ■演習・スキル科目	ビジネスコミュニケーション演習 ENG330M アーノルド・ウェイン	1学期	3	2	431
		3 - 2			
	ビジネスコミュニケーション演習 ENG330M アーノルド・ウェイン	1学期	3	2	432
		3 - 3			
	ビジネスコミュニケーション演習 ENG330M アーノルド・ウェイン	1学期	3	2	433
		3 - 4			
	Advanced English I ENG353M 未開講	1学期	4	2	
		4 - 1			
	Advanced English II ENG354M 未開講	2学期	4	2	
		4 - 1			
■教職に関する科目 ■必修科目	教職論 EDU111M 黒田 耕司	1学期	1	2	434
		1年			
	教育原理 EDU110M 下地 貴樹	2学期	1	2	435
		1年			
	発達心理学 PSY222M 税田 慶昭	1学期	2	2	436
		2年			
	教育制度論 EDU227M 見玉 弥生	1学期	3	2	437
		3年			
	教育課程論 EDU360M 見玉 弥生	1学期	3	2	438
		3年			
	英語科教育法 A EDU250C 休講	1学期	3	2	
		3年			
	英語科教育法 A EDU250C 森 千鶴	1学期	3	2	439
		3年			
英語科教育法 B EDU251C 休講	2学期	3	2		
	3年				
英語科教育法 B EDU251C 森 千鶴	2学期	3	2	440	
	3年				
英語科教育法 C EDU252C 伊藤 健一	1学期	3	2	441	
	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■教職に関する科目 ■必修科目	英語科教育法D EDU253C 細川 博文	2学期	3	2	442
	3年				
	道徳教育指導論 EDU262M 黒田 耕司	2学期	2	2	443
	2年				
	特別活動論 EDU263M 楠 凡之	1学期	2	2	444
	2年				
	教育方法学 EDU260M 黒田 耕司	1学期	2	2	445
	2年				
	生徒・進路指導論 EDU261M 楠 凡之	2学期	2	2	446
	2年				
	教育相談 EDU264M 楠 凡之	1学期	2	2	447
	2年				
	教育実習 1 EDU380C 黒田 耕司 他	2学期	3	2	448
	3年				
教育実習 2 EDU480C 未開講	1学期	4	2	449	
4年					
教育実習 3 EDU481C 未開講	1学期	4	2	450	
4年					
教職実践演習 ( 中・高 ) EDU490C 未開講	2学期	4	2	451	
4年					
■選択科目	教育心理学 PSY220M 五十嵐 亮	2学期	2	2	449
	2年				
	障害児の心理と指導 PSY223M 税田 慶昭	2学期	2	2	450
	2年				
	教育社会学 EDU225M 作田 誠一郎	集中	2	2	451
	2年				
人権教育論 EDU228M 弓野 勝族	1学期	2	2	452	
2年					
生涯学習学 EDU220M 恒吉 紀寿	1学期	2	2	453	
2年					

外国語学部 英米学科 ( 2013年度入学生 )

<昼>

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
	担当者	クラス			
	備考				
■教職に関する科目 ■選択科目	教育工学	2学期	2	2	454
	EDU265M 大塚 一徳	2年			

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	歴史と政治 PLS110F 小林 道彦	2学期	1	2	455
	1年				
	異文化理解の基礎 ANT110F 神原 ゆうこ	1学期	1	2	456
	1年				
	ことばの科学 LIN110F 漆原 朗子	1学期	1	2	457
	1年				
	国際学入門 IRL100F 伊野 憲治	1学期	1	2	458
	1年				
	生活世界の哲学 PHR110F 伊原木 大祐	2学期	1	2	459
	1年				
日本の防衛 PLS111F 戸蒔 仁司	2学期	1	2	460	
1年					
生命と環境 BIO100F 日高 京子 他	1学期	1	2	461	
1年					
情報社会への招待 INF100F 中尾 泰士	2学期	1	2	462	
1年					
環境問題概論 ENV100F 廣川 祐司	2学期	1	2	463	
1年					
■教養演習科目	教養基礎演習I GES101F 二宮 正人	1学期	1	2	464
1年					
■テーマ科目	地球の生いたち GOL001F 長井 孝一	2学期	1	2	465
	1年				
	現代人のこころ PSY003F 休講	1学期	1	2	
	1年				
	人間と生命 BIO002F 休講	2学期	1	2	
	1年				
思想と現代 PHR004F 伊原木 大祐	1学期	1	2	466	
1年					
文学を読む LIT001F 休講	2学期	1	2		
1年					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	現代正義論 PHR003F 休講	2学期	1	2	467
		1年			
	民主主義とは何か PLS002F 大澤 津 他	1学期	1	2	467
		1年			
	社会学的思考 SOC002F 閉講	1学期	1	2	468
		1年			
	人権論 SOC004F 柳井 美枝	1学期	1	2	468
		1年			
	ジェンダー論 GEN001F 力武 由美	1学期	1	2	469
		1年			
	障がい学 SOW001F 伊野 憲治	2学期	1	2	470
		1年			
	社会調査 SOC003F 稲月 正	2学期	1	2	471
		1年			
	市民活動論 RDE001F 休講	2学期	1	2	472
		1年			
	企業と社会 BUS001F 山岡 敏秀	1学期	1	2	472
		1年			
	現代社会と倫理 PHR002F 休講	1学期	1	2	473
		1年			
現代の国際情勢 IRL003F 山本 直 他	1学期	1	2	473	
	1年				
開発と統治 IRL002F 三宅 博之 他	2学期	1	2	474	
	1年				
グローバル化する経済 ECN001F 休講	1学期	1	2	475	
	1年				
国際紛争と国連 IRL005F 二宮 正人	2学期	1	2	475	
	1年				
国際社会と日本 IRL004F 休講	2学期	1	2	475	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	歴史の読み方I HIS004F 小林 道彦	1学期	1	2	476
		1年			
	歴史の読み方II HIS005F 休講	2学期	1	2	
		1年			
	人物と時代の歴史 HIS001F 山崎 勇治 他	1学期	1	2	477
		1年			
	ヨーロッパ道德思想史 PHR005F 休講	2学期	1	2	
		1年			
■教職関連科目	日本史 HIS110F 閉講	2学期	1	2	
		1年			
	東洋史 HIS120F 閉講	2学期	1	2	
		1年			
	西洋史 HIS130F 閉講	1学期	1	2	
		1年			
	人文地理学 GEO110F 閉講	2学期	1	2	
		1年			
	土地地理学 GEO111F 閉講	1学期	1	2	
		1年			
地誌学 GEO112F 閉講	1学期	1	2		
	1年				
日本国憲法 LAW120F 閉講	1学期	1	2		
	1年				
■ライフ・スキル科目	メンタル・ヘルスI PSY001F 中島 俊介	1学期	1	2	478
		1年			
	メンタル・ヘルスII PSY002F 休講	2学期	1	2	
		1年			
	フィジカル・ヘルスI HSS001F 休講	1学期	1	2	
		1年			
	フィジカル・ヘルスII HSS002F 山本 浩二	2学期	1	2	479
		1年			

外国語学部 英米学科 (2013年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ライフ・スキル科目	フィジカル・エクササイズI (バドミントン) HSS081F 徳永 政夫	1学期	1	1	480
	1年				
	フィジカル・エクササイズII (バドミントン) HSS082F 休講	2学期	1	1	
	1年				
■情報教育科目	データ処理 INF101F 中尾 泰士	2学期	1	2	481
	1学期未修得者再履				
	情報表現 INF230F 浅羽 修丈	2学期	2	2	482
	2年				
■専門教育科目 ■選択科目 ■法経科目群	国際法I LAW250M 休講	1学期	2	2	
	2年				
	国際法II LAW251M 休講	2学期	2	2	
	2年				
	国際貿易論I ECN345M 休講	1学期	3	2	
	3年				
	国際貿易論II ECN346M 休講	2学期	3	2	
	3年				
	国際金融論I ECN363M 前田 淳	1学期	3	2	483
	3年				
	国際金融論II ECN364M 前田 淳	2学期	3	2	484
	3年				
	国際取引法 LAW350M 休講	集中	3	2	
	3年				
	国際私法 LAW252M 休講	集中	3	2	
	3年				
	アメリカ経済 ECN351M 休講	2学期	3	2	
	3年				
■中国ビジネス科目群	国際経済論I ECN240M 末永 勝昭	2学期	2	2	485
	2年				
	国際経済論II ECN241M 末永 勝昭	2学期	2	2	486
	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■選択科目 ■中国ビジネス科目群	途上国開発論	1学期	2	2	
	PLC215M 休講	2年			
■教職に関する科目 ■必修科目	教職論	1学期	1	2	487
	EDU111M 黒田 耕司	1年			
	教育原理	2学期	1	2	
	EDU110M 休講	1年			
	発達心理学	1学期	2	2	488
	PSY222M 税田 慶昭	2年			
	教育制度論	1学期	3	2	489
	EDU227M 見玉 弥生	3年			
	教育課程論	1学期	3	2	490
	EDU360M 見玉 弥生	3年			
	英語科教育法 A	1学期	3	2	491
	EDU250C 森 千鶴	3年			
	英語科教育法 B	2学期	3	2	492
	EDU251C 森 千鶴	3年			
	英語科教育法 C	1学期	3	2	
	EDU252C 休講	3年			
	英語科教育法 D	2学期	3	2	
	EDU253C 休講	3年			
	道徳教育指導論	2学期	2	2	493
	EDU262M 黒田 耕司	2年			
特別活動論	1学期	2	2	494	
EDU263M 楠 凡之	2年				
教育方法学	1学期	2	2	495	
EDU260M 黒田 耕司	2年				
生徒・進路指導論	2学期	2	2	496	
EDU261M 楠 凡之	2年				
教育相談	1学期	2	2	497	
EDU264M 楠 凡之	2年				



外国語学部 英米学科 ( 2013年度入学生 )

<夜>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■教職に関する科目 ■必修科目	教育実習 1 EDU380C 黒田 耕司	2学期	3	2	498
		3年			
	教育実習 2 EDU480C 未開講	1学期	4	2	
		4年			
	教育実習 3 EDU481C 未開講	1学期	4	2	
		4年			
	教職実践演習 ( 中・高 ) EDU490C 未開講	2学期	4	2	
		4年			
■選択科目	教育心理学 PSY220M 田島 司	2学期	2	2	499
		2年			
	障害児の心理と指導 PSY223M 休講	2学期	2	2	
		2年			
	教育社会学 EDU225M 休講	1学期	2	2	
		2年			
	人権教育論 EDU228M 弓野 勝族	1学期	2	2	500
		2年			
	生涯学習学 EDU220M 休講	1学期	2	2	
		2年			
教育工学 EDU265M 大塚 一徳	2学期	2	2	501	
	2年				

# 歴史と政治【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 授業形態 講義 クラス 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と歴史との関係性を政治学的視点から総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	歴史について政治学的視点から総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	歴史と政治に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			歴史と政治
			PLS110F

## 授業の概要 /Course Description

明治憲法体制の成立（1889年）から崩壊（1945年）までの日本政治の歩みを概説します。明治憲法の下でなぜ、政党政治が発展できたのか。それにもかかわらず、なぜ、昭和期に入ると軍部が台頭したのか。この二つの問題を中心に講義を進めていきます。日本のことを知らなくて、国際化社会に対処することはできません。この講義では、日本近現代史を学び直すことを通じて、21世紀にふさわしい歴史的感覚を涵養していきます。

## 教科書 /Textbooks

なし。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

○小林道彦『児玉源太郎』（ミネルヴァ書房）、○岡義武『山県有朋』（岩波新書）、○岡義武『近衛文麿』（岩波新書）、○高坂正堯『宰相吉田茂』など。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN
- 第2回 「文明国」をめざして - 憲法制定・自由民権運動【伊藤博文】【井上毅】【板垣退助】【大隈重信】
- 第3回 明治憲法体制の成立【伊藤博文】【山県有朋】【児玉源太郎】【統帥権】
- 第4回 日清戦争【伊藤博文】【陸奥宗光】
- 第5回 立憲政友会の成立【伊藤博文】【山県有朋】【星亨】
- 第6回 日露戦争【桂太郎】【小村寿太郎】
- 第7回 憲法改革の頓挫【伊藤博文】【児玉源太郎】【韓国併合】
- 第8回 大正政変【桂太郎】【尾崎行雄】【21カ条要求】
- 第9回 政党内閣への道【原敬】【山県有朋】【加藤高明】
- 第10回 二大政党の時代【浜口雄幸】【田中義一】【統帥権干犯問題】
- 第11回 軍部の台頭【満州事変】【皇道派】【統制派】
- 第12回 2・26事件【高橋是清】【永田鉄山】【「満州国」】
- 第13回 日中戦争【近衛文麿】【西園寺公望】【近衛新体制】
- 第14回 太平洋戦争 - 明治憲法体制の崩壊【昭和天皇】【日独伊三国軍事同盟】
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な講義への取り組み...10% 期末試験...90%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# 歴史と政治【昼】

## 履修上の注意 /Remarks

講義前に高校教科書程度のレベルの知識を得ておくこと。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。各自積極的に受講して下さい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 異文化理解の基礎【昼】

担当者名 中原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	文化に関する知識を学び、人間と「思想・文化」「国際社会」「地域社会」の関係性について総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化に関する既存概念を根本的に省察したうえで総合的分析を行い、自ら発見した課題の解決に有効な思索ができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	文化に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			異文化理解の基礎
			ANT110F

## 授業の概要 /Course Description

「文化」という言葉から伝統芸能や芸術活動を連想する受講者も多いかもしれない。本講義では文化を「人間の生活様式を規定してきたもの」としてより幅広く考え、現代社会における多様な文化のありかたを基礎から考えることを目指す。（おそらく大部分が）北九州周辺に在住の大学生という受講者にとってあたりまえである「常識」もまた、それまで生きてきた文化のなかではごくまれたものである。本講義では、その受講者にとっての「常識」を問いなおしつつ、世界や日本の家族・親族関係のありかた、世界観を軸に文化を理解することの基礎を学ぶ。毎回最後の10-15分は指定するトピック（次回のテーマに関するもの）についての記述を求め、次回の講義の冒頭で、提出された内容から読み取れる「現在、受講者が持っている文化に関する常識」を導入に講義を進める。  
本講義は、個々の文化の違いについて逐一学ぶものではない。身近なようでつかみどころのない文化をどうとらえるか、文化という既成概念を問い直すことで、自分が世界に対峙するための姿勢を身に着ける手掛かりを学んでほしい。

## 教科書 /Textbooks

特に指定しない。授業ではPower Pointを使用するが、それだけに頼らず、各自ノートをしっかり取ること。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 綾部恒雄・桑山敬己2006『よくわかる文化人類学』ミネルヴァ書房
- 奥野克己(編)2005『文化人類学のレッスン』学陽書房
- 田中雅一ほか(編)2005『ジェンダーで学ぶ文化人類学』世界思想社
- 波平恵美子2005『からだの文化人類学』大修館書店

※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

# 異文化理解の基礎【昼】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 導入：グローバルでローカルな世界を理解するてがかりとしての文化

第I部 文化の基礎としての家族

第2回 家族は普遍的な概念か？

第3回 生殖医療の時代に至るまでの家族・親族関係の変容

第4回 伝統的社会における親族関係

第5回 親族・家族関係から社会関係への拡張

第6回 ジェンダーと伝統文化

第7回 伝統文化について：構築主義と本質主義

第8回 文化相対主義の考え方

第9回 中間テスト

第II部 文化と世界観

第10回 儀礼にもとづく時間・空間認識

第11回 宗教紛争と日常の中の宗教

第12回 不幸への対処としての呪術

第13回 中間テストの解説

第14回 現代社会のなかの呪術

第15回 政教分離と世俗化

## 成績評価の方法 /Assessment Method

中間テストまたはレポート 40%、期末レポート 60% を基本に、各自の授業貢献を適宜加点する。

※中間テストを予定しているが、受講者の数によってはレポートにすることがあります。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

- ・ 講義に出席していても、テストやレポートで評価が悪ければ、結果として単位を落とすこともあります。講義に真剣に取り組んでください。
- ・ 評価方法などは第一回の講義で説明しますので、第一回目の講義は必ず出席してください。
- ・ 中間テストの無断欠席者や提出課題の未提出者、授業態度が目に見えて余る受講生は、評価割合の枠を超えて大幅に減点することがあります。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義「異文化理解の基礎」の応用編はテーマ科目「政治のなかの文化（新カリのみ）」とビジョンII「現代社会と文化（旧カリ：文化と政治）」です。基礎が分かるからこそ面白いと思える内容ですので、受講すると、文化についてより包括的な理解が深まります。

## キーワード /Keywords

文化、個人と集団、家族、ジェンダー、宗教、共同体、社会関係

# ことばの科学 【昼】

担当者名 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	言語の様々な側面についての基本的知識を身につけ、言語学の課題を理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力 その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	自身の言語活動を通して言語学に関する課題を発見し、言語学の手法を用いて分析する。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	生涯にわたって言語に関心を持ち、言語および言語学の課題についての意識を高める。	
	コミュニケーション力			
			ことばの科学	LIN110F

## 授業の概要 /Course Description

「ことば」は種としての「ヒト」を特徴づける重要な要素です。しかし、私たちはそれをいかにして身につけたのでしょうか。「ことば」はどのような構造と機能を持っているのでしょうか。「ことば」の構成要素を詳しく見ていくと、私たちが「ことば」のうちに無意識に体現しているすばらしい規則性が明らかになります。それは、狭い意味での「文法」ではなく、もっと広い意味での言語の知識です。この講義では、私の専門である生成文法の言語観に基づきながら、日本語、英語はじめその他の言語のデータや最近の脳科学での発見を交え、「ことば」について考えていきます。

## 教科書 /Textbooks

配布資料・その他授業中に指示

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 『はじめて学ぶ言語学：ことばの世界をさぐる17章』 大津由紀雄編著、ミネルヴァ書房、2009年。
- 『言語を生みだす本能(上)・(下)』 スティーヴン・ピンカー著、棕田 直子訳、NHKブックス、1995年。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 序(1)：ことばの不思議
- 第2回 序(2)：ことばの習得
- 第3回 ことばの単位(1)：音韻
- 第4回 連濁
- 第5回 鼻濁音
- 第6回 ことばの単位(2)：語
- 第7回 語の基本：なりたち・構造・意味
- 第8回 語の文法：複合語・短縮語・新語
- 第9回 ことばの単位(3)：文
- 第10回 動詞の自他
- 第11回 日本語と英語の受動態
- 第12回 数量詞
- 第13回 時制と相：方言比較
- 第14回 ことばと脳：言語野と他の領域
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の態度...10% 課題...30% 期末試験...60%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 国際学入門【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の国際社会で生起する様々な問題について、総合的に理解する能力を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の国際社会で生起する様々な問題について、地域研究的視点からの理解を習得する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	国際問題に関して、地域研究的視点から見直す能力を獲得する。
	コミュニケーション力		
			国際学入門 IRL100F

## 授業の概要 /Course Description

現代の国際社会を理解するに当たっては、大きく2本の柱が必要となる。すなわち、①グローバル化のすすむ国際社会へ対応する形での研究（国際関係論、国際機構論、国際地域機構論、国際経済論、国際社会論など）と②世界の多様化に対応するための研究（地域研究、比較文化論、比較政治論など）である。本講義では、後者「地域研究」の問題意識、手法を中心に、現代国際社会理解に当たって、その有用性を考えてみる。

## 教科書 /Textbooks

適宜指示する。

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準等の説明。
- 第2回：現代の国際社会、現代国際社会理解の方法。【国際問題の変容】【グローバル化】【多様化】
- 第3回：「地域研究」の問題意識、【地域研究のルーツ】
- 第4回：地域研究における総合的認識とは【総合的認識】
- 第5回：地域研究における全体像把握とは【全体像の把握】
- 第6回：全体像把握の方法【全体像把握の方法】
- 第7回：オリエンタリズム関連DVDの視聴【オリエンタリズム】
- 第8回：オリエンタリズム克服の方法【オリエンタリズムの克服方法】
- 第9回：「地域研究」における文化主義的アプローチ【文化主義的アプローチ】
- 第10回：「地域」概念、中間的まとめ。【地域概念】
- 第11回：「地域研究」の技法。【フィールドワーク】
- 第12回：「関わり」の問題【ジョージ・オーウェルとミャンマー】
- 第13回：地域研究の視点（人間関係）【人間関係】
- 第14回：まとめ
- 第15回：質問

## 成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

可能であるならば、本講義と共に、国際関係論、国際機構論、比較文化論などを履修することを勧める。



担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 生活世界の哲学【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	哲学の知識に基づいて人間と生活世界との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	生活世界に関する課題を哲学的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生活世界に関する問題を哲学的に解決するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			生活世界の哲学
			PHR110F

## 授業の概要 /Course Description

「生活世界」を講義全体のキーワードとして、初学者向けに社会哲学への手引きを行なう。この科目を真摯に受講すれば、20世紀のヨーロッパで展開された社会思想に関する基本的な知識が得られるだろう。具体的には、フッサール現象学からフランクフルト学派、ハンナ・アーレントにまで至る思想家たちの「近代」に対する基本的なスタンスを説明しつつ、生活世界の変容とその問題点を確認したあと、21世紀の今日でもなお哲学的思索の糧となりうる「古代」の分析に取り組む。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- E・フッサール『ヨーロッパ諸学の危機と超越論的現象学』（細谷恒夫・木田元訳）、中公文庫、1995年。
  - ホルクハイマー/アドルノ『啓蒙の弁証法—哲学的断想』（徳永恂訳）、岩波文庫、2007年。
  - ハンナ・アーレント『イェルサレムのアイヒマン』（大久保和郎訳）、みすず書房、1969年。
  - ハンナ・アーレント『人間の条件』（志水速雄訳）、ちくま学芸文庫、1994年。
- その他は授業中に指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 近代の勃興【ガリレイと科学革命】
- 3回 生活世界の概念【フッサールの科学批判】
- 4回 生活世界の変容(1)【高度産業社会】
- 5回 生活世界の変容(2)【テクネーの美】
- 6回 生活世界の変容(3)【複製技術と政治】
- 7回 確認テスト
- 8回 生活世界の変容(4)【全体主義と思考能力・前半】
- 9回 生活世界の変容(5)【全体主義と思考能力・後半】
- 10回 生活世界の二元性【アーレントの近代批判】
- 11回 公私の区別とその起源(1)【古代ギリシャ概説・前半】
- 12回 公私の区別とその起源(2)【古代ギリシャ概説・後半】
- 13回 公私の区別とその起源(3)【古代ギリシャの公と私】
- 14回 宗教の私事性と公的領域(1)【寛容の概念】
- 15回 宗教の私事性と公的領域(2)【衝突と共生】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

確認テスト...40% 学期末試験...60%  
(第7回に予定している確認テストを受験していない者は、自動的に期末試験の受験資格を失う。)

# 生活世界の哲学 【昼】

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

高校世界史の教科書を一通り読み直しておくことが望ましい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

2回にわたって実施する試験は、いずれも難度の高いものであることをあらかじめ認識しておくこと（例年2～3割の受講者が不合格となっている）。単位取得のためには相当な努力と学習意欲が求められる。板書した内容はもちろんのこと、担当者が口頭で述べた内容についても、こまめにノートを取る習慣を身につけてほしい。

## キーワード /Keywords

科学技術 生活世界 活動 ポリス

# 日本の防衛【昼】

担当者名 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	安全保障や防衛と国民との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	わが国の防衛上の諸問題について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	わが国の防衛上の課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			日本の防衛
			PLS111F

## 授業の概要 /Course Description

わが国の防衛に関する概説を通じて、その必要性や意義について理解し、防衛一般についての知識や理解に基づいて、広く安全保障一般に対する思考を促すことを目的とする。具体的には、安全保障とは何か、防衛とは何か、といった基礎概念の提示を行い、防衛の必要性や意義を論ずることになるが、これらを理解するためには、前提として、わが国が置かれた環境および目下の脅威を把握する作業（状況認識）が欠かせない。一方で、わが国は憲法9条のもと「平和主義」を標榜していることから、その防衛も様々な制約を受けることになる。従って、わが国の防衛を考えるには、そうした「制度」面での知識も欠かせない。以上を踏まえ、本講義では、日本の防衛について、現実的な視点と制度的な視点の双方を重視し、総論、各論を通じて、現状と課題の理解と思考を促したい。

なお、この授業の到達目標は、同分野における①総合的知識・理解の獲得、②課題発見・分析・解決力の獲得、③生涯学習力の獲得、に置かれている。

## 教科書 /Textbooks

なし。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

『防衛白書』、『防衛ハンドブック』、その他は適宜指示する。

# 日本の防衛【昼】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 安全保障と防衛(1)  
安全保障を学ぶことの重要性、安全保障の目標、安全保障のスペクトラム
- 第3回 安全保障と防衛(2)  
安全保障の定義、脅威の定義、安全保障の非軍事的側面と総合安全保障、国土安全保障
- 第4回 わが国周辺の軍事的脅威(1)  
有事の意識、三矢研究、有事の想定(国民保護「基本指針」)、わが国の地理的・地政学的特性、防空の基本(警戒・管制、領空と防空識別圏、領空侵犯対処とスクランブル、現況と今後)
- 第5回 わが国周辺の軍事的脅威(2)  
海上警備の基本(空と海の違い、哨戒について、九州南西海域不審船事案)、北朝鮮の脅威について①(兵力の特徴、特殊部隊、江陵事案、わが国の防衛に対する意味、島嶼防衛とゲリコマ対処)
- 第6回 わが国周辺の軍事的脅威(3)  
北朝鮮の脅威について②(1993年ノドン発射、北朝鮮の保有する弾道ミサイルとノドンの重要性、1998年テポドン発射、弾道ミサイルと人工衛星、2006年ミサイル発射、米国のMD構想と日本のBMD)、2009年テポドン2発射と日本の対応、2012年ミサイル発射と日本の対応)
- 第7回 わが国周辺の軍事的脅威(4)  
中国海空軍の脅威について(中国軍の不透明性、軍事態勢、海軍の動向と海上戦略、動的防衛力)ロシア軍の動向について(軍事再編の概況、極東の現況、ロシア海空軍の動向)
- 第8回 「平和主義」国の防衛(1)  
いわゆる「軍隊のない国」はわが国の参考になるか、憲法9条と平和主義①(戦争放棄で放棄される「戦争」とは、自衛権について、「防衛戦争」と「防衛行動」、わが国が「自衛」で認められる範囲について)
- 第9回 「平和主義」国の防衛(2)  
「戦力」と「防衛力」の違い、「必要最小限度の実力」と防衛力の限界、専守防衛とは何か、
- 第10回 「平和主義」国の防衛(3)  
「防衛」の目的、攻撃の未然防止と「抑止」、「さらなる攻撃の阻止」と専守防衛、わが国の「拒否力」のあり方と動的防衛力、敵基地攻撃の可能性と限界)
- 第11回 国際平和協力  
国際平和協力活動の枠組み、国際平和協法力について、主な取組み、課題(武器使用基準、駆けつけ警護、集団的自衛権について)
- 第12回 海洋国家日本とシーレーン  
シーレーンとは何か、シーレーン問題についての議論の推移、91年海自ペルシャ湾派遣の「目的」、海賊対処の重要性
- 第13回 防衛計画の大綱(1)  
基盤的防衛力構想と51大綱、16大綱までの概略
- 第14回 防衛計画の大綱(2)  
22大綱の特徴(基盤的防衛力構想からの離脱、動的防衛力とは何か、自衛隊の新体制と課題、わが国防衛はどこに向かってゆくのか)
- 第15回 予備

1回程度は、自衛官(高級幹部)をゲストで招き、講演してもらう予定。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

試験100%。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

特になし。  
安全保障や防衛問題に関心があれば、誰でも履修してみてください。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 生命と環境【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	多様な生命とそれを生み出した環境についての基礎知識を獲得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	生命およびそれを生み出した環境について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	身近な生命と環境に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			生命と環境
			BI0100F

## 授業の概要 /Course Description

約40億年前の地球に生命は誕生し、長い時間をかけて多様な生物種へと進化してきた。そもそも生命とはなにか。生物は何からできており、どのようなしくみで成り立ち、地球という環境においてその多様性はどのように生じてきたか。本講では、遺伝子や生物の多様性と進化、それに影響を与えてきた生命を取り巻く環境について広く学び、生命と環境に関する身近な課題を自ら発見・解決するための基礎的な力を身につける。また、生命や宇宙がこれまでどのように「科学」されてきたかを知ることによって、科学的なものの捉え方の大切さについて理解することを目標とする。

## 教科書 /Textbooks

なし。毎回資料を配布する。

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

- 文系のための生命科学入門 東京大学生命科学教科書編集委員会 2011年(羊土社)2940円
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1890円
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1890円
- 宇宙と生命の起源—ビッグバンから人類誕生まで 嶺重慎・小久保英一郎編著 2004年(岩波ジュニア新書)903円

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(日高・中尾)
- 2回 ミクロとマクロの世界(日高・中尾)【物質の単位】【自然科学】
- 3回 宇宙に生まれた物質(中尾)【元素】【原子】【超新星爆発】
- 4回 生命と分子のなりたち(日高)【DNA】【タンパク質】
- 5回 生命の誕生・細胞(日高)【細胞膜】【共生説】
- 6回 単細胞から多細胞生物へ(日高)【地球環境の変化と生物】
- 7回 生物の分類と系統(日高)【種】【進化】
- 8回 生殖と生命多様性(日高)【有性生殖】【減数分裂】
- 9回 遺伝子につけられた名前(日高)【突然変異】【遺伝学】
- 10回 放射能と放射線(日高)【放射性同位元素】
- 11回 科学と似非科学(日高・中尾)【血液型】【星座】
- 12回 太陽と地球の環境(中尾)【太陽活動】【地球温暖化問題】
- 13回 人類の起源(日高)【ミトコンドリア】【ゲノム】
- 14回 映画鑑賞(日高)
- 15回 質疑応答とまとめ(日高)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の課題・小テスト 40%  
期末テスト 60%

# 生命と環境 【昼】

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

高校で生物を履修していない者は参考書を入手し、授業に備えること。  
2学期開講「人間と生命」を合わせて受講すると理解がより深まるでしょう。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

基盤教育センターの専任教員・日高（生物担当）および中尾（物理担当）による自然科学の入門講座です。この分野が苦手な者や初めて学ぶ者も歓迎します。参考書やインターネットを活用し、わからない用語は自分で調べるなど、積極的に取り組んで下さい。暗記中心の受験勉強とは違った楽しみが生まれるかもしれません。

## キーワード /Keywords

# 情報社会への招待【昼】

担当者名  
/Instructor

中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
									○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と情報社会との関係性を総合的に理解し、21世紀の市民として必要な教養を身につけている。
技能	情報リテラシー	●	情報社会の特性を理解した上で、情報及び情報システム、インターネットを活用する技能を身につけている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報社会についての総合的な分析をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考案することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	情報社会の現在、及び、未来に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
		情報社会への招待	
		INF100F	

## 授業の概要 /Course Description

本授業のねらいは、現在の情報社会を生きるために必要な技術や知識を習得し、インターネットをはじめとする情報システムを利用する際の正しい判断力を身につけることです。具体的には以下のような項目について説明できるようになります：

- 情報社会を構成する基本技術
- 情報社会にひそむ危険性
- 情報を受け取る側、発信する側としての注意点

本授業を通して、情報社会を総合的に理解し、現在および将来における課題を受講者一人一人が認識すること、また、学んだ内容を基礎として、変化し続ける情報技術と正しくつき合って適応できる能力を身につけることを目指します。

## 教科書 /Textbooks

なし。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 『エンドユーザのための情報基礎』 (浅羽 修丈他著) FOM出版

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 情報社会の特質【システムトラブル、炎上、個人情報】
- 2回 情報を伝えるもの【光、音、匂い、味、触覚、電気】
- 3回 コンピュータはどうやって情報を取り扱うか【2進数、ビット・バイト】
- 4回 コンピュータを構成するもの 1【入力装置、出力装置、解像度】
- 5回 コンピュータを構成するもの 2【CPU、メモリ、記憶メディア】
- 6回 コンピュータ上で動くソフトウェア【OS、拡張子とアプリケーション、文字コード】
- 7回 電話網とインターネットの違い【回線交換、パケット交換、LAN、IPアドレス】
- 8回 ネットワーク上の名前と情報の信頼性【ドメイン名、DNS、サーバ/クライアント】
- 9回 携帯電話はなぜつながるのか【スマートフォン、位置情報、GPS、GIS、プライバシ】
- 10回 ネットワーク上の悪意【ウイルス、スパイウェア、不正アクセス、詐欺、なりすまし】
- 11回 自分を守るための知識【暗号通信、ファイアウォール、クッキー、セキュリティ更新】
- 12回 つながる社会と記録される行動【ソーシャルメディア、防犯カメラ、ライフログ】
- 13回 集合知の可能性とネットワークサービス【検索エンジン、Wikipedia、フリーミアム、クラウド】
- 14回 著作権をめぐる攻防【著作権、コンテンツのデジタル化、クリエイティブコモンズ】
- 15回 情報社会とビッグデータ【オープンデータ】



# 情報社会への招待【昼】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題 ... 75%  
日常の授業への取り組み ... 25%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

受講生の理解や授業進度に応じて、授業計画を変更する可能性があります。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

専門用語が数多く出てきますが覚える必要はありません。必要なときに必要なものを取り出せる能力が重要です。アンテナを張り巡らせ、「情報」に関するセンスをみがきましょう。分からないことがあれば、随時、質問してください。

## キーワード /Keywords

情報社会，ネットワーク，セキュリティ

# 環境問題概論 【昼】

担当者名  
 /Instructor

廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年  
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と「自然・環境」との関係性の総合的な理解、環境問題に関する正しい知識などを身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	環境問題の根本的な省察、総合的な考察をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各自が所属する社会が抱える環境問題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
		環境問題概論 ENV100F	

## 授業の概要 /Course Description

農林水産業の第一次産業の視点から、生物多様性、地域内物質循環、自然資源の管理等、「なぜ環境問題が生じるのか？」について、基礎的な知識を充足することを目的とする。望ましい人間と自然、または自然を介した人と人との関係性について、環境問題に対する総合的な理解を促すことが狙いである。本授業で基本的な環境に対する見方・考え方を身に付ける事によって、その後、環境問題に対し自立的に課題を発見し分析、解決することができる知識の充足を目指す。

## 教科書 /Textbooks

特になし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて適宜紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション -環境問題を見る視点について-
- 第2回 沿岸海域の環境保全者としての漁業者 -干潟の仕組み-
- 第3回 沿岸海域の環境保全者としての漁業者 -海はだれのものか-
- 第4回 伝統的な農村部の生活と自然環境
- 第5回 農業の環境保全的機能と大規模集約型農業について
- 第6回 農業の可能性と第6次産業化
- 第7回 山を守る人々 -守るために利用すること-
- 第8回 森林を焼き払う農業 -焼き畑農業は環境保全的か-
- 第9回 中間試験 (※中間試験の日程は前後する可能性があります)
- 第10回 日本人における自然観の変遷と考え方 -環境倫理-
- 第11回 生物多様性と日本の草原
- 第12回 国際的枠組み -SATOYAMAイニシアティブの取り組み-
- 第13回 食物連鎖と地域内物質循環
- 第14回 なぜ環境問題は生じるのか -レポート試験の実施- (※レポート試験は日程が前後する可能性があります)
- 第15回 総括と復習

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極的参加姿勢：20%  
 不定期に何回か実施する試験(レポート試験含む)：80%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# 環境問題概論 【昼】

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

環境問題の中でも本授業は都市環境問題や地球温暖化等の問題ではなく、自然環境に特化した授業となる。  
特に専門的な知識は必要ないが、中学生レベルの生物および、安易な生態学（食物連鎖等）的な基礎的な知識に対する言及や説明を行うことを想定し、履修していただきたい。

## キーワード /Keywords

# 可能性としての歴史【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 / 2年 / 単位 /Credits 2単位 / 学期 /Semester 2学期 / 授業形態 /Class Format 講義 / 到達目標 /Class クラス 2年 /

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	歴史的過去の可能性に満ちた構造を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	歴史的過去の可能性を発見し、歴史認識の多様性を理解することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	歴史的過去の可能性を自立的に発見・分析し、解決への学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			可能性としての歴史
			HIS200F

## 授業の概要 /Course Description

歴史の転換点において、ありえた別の政策的選択肢を選んでいたら、日本は、そして世界はどうなっていただろうか。この講義では、おもに日本外交史を講義する中で、いくつかの政策選択上のイフを導入して、第二次世界大戦史の諸相を提示していきます。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜、講義の中で指示します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 「15年戦争」史
- 3回 「中国革命」と日本の対応【山東出兵】【張作霖】
- 4回 満州事変【石原莞爾】【満蒙領有論】【関東軍】
- 5回 第一次上海事変と政党内閣の崩壊【朝鮮独立問題】【「満州国」】
- 6回 2・26事件と日中戦争への道【高橋是清】
- 7回 日中戦争【第二次上海事変】【ドイツ】【近衛文麿】
- 8回 ヒトラーと第二次世界大戦1【ナチス・ドイツ】【独ソ不可侵条約】
- 9回 ヒトラーと第二次世界大戦2【独ソ戦】【対米宣戦】【「最終的解決」】
- 10回 第二次世界大戦と三国同盟の成立【ノモンハン事件】【ユーラシア大陸ブロック構想】【日ソ中立条約】
- 11回 日米戦争は不可避だったのか【北進論】【南進論】
- 12回 太平洋戦争1【真珠湾攻撃】【ミッドウェイ海戦】【東条英機】
- 13回 太平洋戦争2【「戦後秩序構想」】【サイパン島陥落】
- 14回 敗戦【「本土決戦」】
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...10%、期末試験...90%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

※「ただ聴くだけ」という受講態度は駄目です。最低限、高校教科書レベル+αの予習を毎回やってきて下さい。そのための文献は適宜指示します。メモはこまめにとるように心がけて下さい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

# 可能性としての歴史【昼】

キーワード /Keywords

# 現代社会と文化【昼】

担当者名 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	文化と社会に関する知識を学び、人間と「思想・文化」「国際社会」「地域社会」の関係性について総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化と社会に関する既存概念を根本的に省察したうえで総合的分析を行い、自ら発見した課題の解決に有効な思索ができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	文化と社会に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			現代社会と文化
			ANT210F

## 授業の概要 /Course Description

グローバルな現代世界において、異なる文化同士の共生が必要とされている。しかし、どの文化とも共生が可能になる万能のマニュアルのようなものは存在しない。ケースに応じて対応する能力が必要であり、本講義では、現代社会が抱える文化に関する問題を取り上げながら、判断のための基礎知識を身に付けることを目的とする。

講義の前半は、「文化を知ること」そのものが持つ政治性について講義を行い、後半は私たちが異なる文化を持つ人々とも認識を共有していると考がちな身体に関する文化についての講義を行い、文化を理解することについて考察を深める。文化に関する外国の問題は解説をうのみにしてしまいがちであるが、前提が正しいか常に問い返すことができるような総合的な知識の獲得をめざす。

## 教科書 /Textbooks

以下の参考文献を各人の興味にあわせて読んでおくことが望ましい。授業ではPower Pointを使用するが、それだけに頼らず、各自ノートをしっかり取ること。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 池田光穂2010『看護人類学入門』文化書房博文社
- 浮ヶ谷幸代2010『身体と境界の人類学』春風社
- 太田好信編2012『政治的アイデンティティの人類学』
- 陳天璽 2005『無国籍』新潮社
- 本多俊和ほか2011『グローバル化の人類学』放送大学教育振興会

※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

# 現代社会と文化【昼】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 導入：授業の説明 / 本講義において文化とは何を意味するのか

第I部 現代社会において異文化を理解すること

第2回 文化を「知る」とはどういうことか？

第3回 ナショナリズムと文化

第4回 「未開の人々」へのエキゾチズム

第5回 植民地主義と文化

第6回 先住民・少数民族の文化の保護と多文化主義

第7回 多文化主義の可能性と限界

第8回 分類の不明瞭さ①：国籍・人種

第9回 分類の不明瞭さ②：移動する人々 / 第1部 まとめ

第10回 中間テスト

第II部 他者の内側

第11回 近代・ポスト近代という時代の認識

第12回 身体の近代化

第13回 中間テストの解説

第14回 普遍的な医療と普遍的でない身体

第15回 癒しの多様性

## 成績評価の方法 /Assessment Method

中間テスト30%、期末テスト70%

そのほか講義中に課したコメントカードなども平常点として評価に加える。受講人数によってはテストをレポートに変更することもある。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

- ・ 講義に出席していても、テストやレポートで評価が悪ければ、結果として単位を落とすこともあります。講義に真剣に取り組んでください。
- ・ 評価方法などは第一回の講義で説明しますので、第一回目の講義は必ず出席してください。
- ・ 中間テストの無断欠席者や提出課題の未提出者、授業態度が目に見える受講生は、評価割合の枠を超えて大幅に減点することがあります。
- ・ 高校レベルの世界史、地理、現代社会などに自信がない学生は、背景となる事象を知らないままにせず、調べておきましょう。高校の教科書は図書館にあります。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ ビジョン科目「異文化理解の基礎（旧カリ：人間と文化）」を受講済みの学生は、授業の理解度が高まります。
- ・ 履修上の注意では、厳しいことを書いていますが、記憶することは何もありません。講義で自分が学んだと思うことを用いて現代の文化に関する問題を自分なりに理解することが大切です。意欲的な学生の受講を歓迎します。

## キーワード /Keywords

文化、ナショナリズム、マイノリティ、グローバリゼーション、多文化主義、身体

# 言語と認知【昼】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター, 中溝 幸夫 / NAKAMIZO SACHIO / 非常勤講師  
杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター, 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター  
ダニエル・ストラック / Daniel C. Strack / 英米学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	言語と認知に関する学際的領域についての基本的知識を身につけ、課題を理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	自身の言語活動や文献講読を通して言語と認知に関する課題を発見し、言語学・心理学・生物学などの手法を用いて分析する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたって言語と認知に関心を持ち、それらを取り巻く課題についての意識を高める。
	コミュニケーション力		
			言語と認知
			LIN210F

## 授業の概要 /Course Description

言語の習得やコミュニケーションにおける処理はどのように行われるのか。特に、それらはヒトの他の認知能力（視覚、聴覚）や活動（記憶、認識）と同じなのか。また、語彙や構文はどのようにして私たちの頭の中に蓄えられ、用いられるのか。これらの問いについて、言語学(特に認知言語学)、認知科学、心理学の側面から学際的に考えていきます。

## 教科書 /Textbooks

配布資料

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業時に紹介

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実際の日程により順番が変わる可能性があります。第1回授業時配布の予定表を参照して下さい。

- 第1回 序 (漆原・全員)
- 第2回 眼はどのように動いているか、それをどう測定するか (中溝)
- 第3回 文を読むとき、眼はどのように動いているのか (中溝)
- 第4回 言語活動時、脳のどこが働いているか (中溝)
- 第5回 ことばはどのように身につけられるのか (言語習得) (漆原)
- 第6回 ことばはどのように失われるのか (失語症・失文法) (漆原)
- 第7回 脳と心のなりたち (脳のはたらきを支配する遺伝子) (日高)
- 第8回 ことばはなぜヒトに特有なのか (言語と遺伝子) (日高)
- 第9回 特別講義 (外部講師)
- 第10回 概念と言葉 (概念におけるプロトタイプ効果など) (ストラック)
- 第11回 隠喩とは何か (隠喩論) (ストラック)
- 第12回 詩とほのめかし (アイコン性、phonaesthemesなど) (ストラック)
- 第13回 文の形と意味をつなぐもの (文法形式と意味の類像性) (杉山)
- 第14回 左右の区別がなかったら (ことばと思考・言語相対論) (杉山)
- 第15回 まとめ: 担当者によるパネル・ディスカッション (全員)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 20% レポート 16% x 5 = 80%  
(すべての教員のレポートを提出しない限り評価不能(-)となります。)



# 言語と認知【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

\* 「ことばの科学」を受講していると理解が一層深まります。  
集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 共生社会論 【昼】

担当者名 伊野 憲治 / 基盤教育センター  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	共生社会の成立を阻む要因に関して、様々な視点から考える能力を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	社会の様々なレベルの共生社会の成立を阻む要因の中で、何が最も問題となるかを理解する能力を養う。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	共生社会の実現に向けての新たな視座を習得する。
	コミュニケーション力		
		共生社会論	SOW200F

## 授業の概要 /Course Description

「共存」「共生」という言葉をキーワードとし、地域社会から国際社会における、共生のあり方を考え、実現可能性について探って見る。特に、異質なものを異文化ととらえ、異文化の共存・共生のあり方を掘り下げながら、この問題に迫っていきたい。

## 教科書 /Textbooks

特になし。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

随時指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準
- 第2回：「共存」「共生」の意味、共生社会の阻害要因【共存】【共生】【オリエンタリズム】
- 第3回：異文化共存の方法【一元論的理解VS.多元論的理解】
- 第4回：異文化共存の阻害要因【オリエンタリズム関連DVD視聴】
- 第5回：異文化共存の阻害要因【オリエンタリズムとは】
- 第6回：オリエンタリズムの克服方法【文化相対主義】
- 第7回：障がい者との共生、「障害」の捉えかた【文化モデル】
- 第8回：自閉症とは【自閉症】
- 第9回：自閉症関連DVDの視聴（医療モデル的作品）【医療モデル】
- 第10回：医療モデル的作品の評価【医療モデル的作品の特徴】
- 第11回：自閉症関連DVDの視聴（文化モデル的作品）【文化モデル】
- 第12回：文化モデル的作品の評価【文化モデル的作品の特徴】
- 第13回：両作品の比較【3つのモデルとの関連で】
- 第14回：文化相対主義の可能性と限界【文化相対主義】【反文化相対主義】【反反文化相対主義】
- 第15回：まとめ、質問。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

本講義受講に当たっては、「国際学入門」[担当：伊野]や「障がい学」[担当：伊野・狭間]を既に受講していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 共同体と身体 【昼】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	共同体と身体との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	共同体と身体について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	共同体と身体に関する問題を解決するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			共同体と身体
			PHR210F

## 授業の概要 /Course Description

人間が自分（たち）の体について抱いている観念は、歴史や社会を通じて必ずしも一貫しているわけではない。身体に対するイメージは、その人間が生きている時代の共同体によって微妙に変化してゆく。この授業では、共同体と身体という二つの「体」がどのように関係してきたのかを社会哲学的な観点から考察する。継続的な受講により、共同体と身体との関係、さらには生活世界と自己との関係が総合的に理解できるようになるだろう。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

参考文献は授業時にそのつど指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 古代ギリシャの身体観 1【プラトン】
- 3回 古代ギリシャの身体観 2【ソポクレス】
- 4回 古代ギリシャの身体観 3【通時的概観】
- 5回 近代哲学における心身二元論の成立【デカルト】
- 6回 身体の変容と限界 1【夢と現実のあいだ】
- 7回 身体の変容と限界 2【身体表現の可能性】
- 8回 身体の変容と限界 3【排除される身体】
- 9回 身体・家族・社会 1【精神分析的アプローチ】
- 10回 身体・家族・社会 2【脳科学的アプローチ】
- 11回 身体・家族・社会 3【差別される身体】
- 12回 身体・家族・社会 4【シミュレーバー症例】
- 13回 身体のポリティクス 1【全体主義】
- 14回 身体のポリティクス 2【統制される身体】
- 15回 身体のポリティクス 3【処罰される身体】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

期末テスト...100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

授業で扱われる内容は、1年生向けビジョン科目「生活世界の哲学」の続編である。  
「生活世界の哲学」の単位を取得している場合は、本講義についていくことが比較的容易なはずである。

# 共同体と身体 【昼】

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

期末テストは授業範囲すべてに関わるものであり、比較的密度の濃い内容となる。そのため、当たり前のことだが、休めば休むほど成績上不利になる。単位取得のためには、かなりの努力と忍耐力が求められるだろう。卒業予定の4年生に対しても、同じく厳しい採点態度で臨むので、受講にあたってはこの点を十分に熟考しておくこと。

## キーワード /Keywords

心身二元論 身体像 精神病理 規律と監視

# 戦争論 【昼】

担当者名 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と戦争との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	戦争について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	戦争に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			戦争論
			PLS210F

## 授業の概要 /Course Description

戦争とは何かを体系的に考えてみることをねらいとします。1年次ビジョン科目「日本の防衛」を履修済みの人はもちろん、まだ履修したことのない人の受講も大歓迎です。一言で言えば、「戦争とは何か」がテーマです。

## 教科書 /Textbooks

なし。レジユメを配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

適宜指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 ホモサビエンスと戦争の起源(1)
- 第3回 ホモサビエンスと戦争の起源(2)
- 第4回 戦争概論～戦争の定義
- 第5回 戦争の経歴(1)絶対主義時代の戦争
- 第6回 戦争の経歴(2)革命戦争
- 第7回 戦争の経歴(3)近代戦争
- 第8回 両大戦の特徴(1)総力化
- 第9回 両大戦の特徴(2)イデオロギー化、(3)全面化
- 第10回 日本と原爆～原爆の開発過程、完成、投下
- 第11回 核兵器の構造
- 第12回 核兵器出現に伴う変化(1)
- 第13回 核兵器出現に伴う変化(2)
- 第14回 核兵器の役割(抑止概念、抑止条件、相互確証破壊)
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

なし。ただし、「日本の防衛」「国際紛争と国連」「テロリズム論」「防衛セミナー」などを受講しておく、さらに深く理解できる。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 生命科学と社会 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /2nd Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 1学期 /1st Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 2年 /2nd Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	生命科学の進歩およびその社会との関わりについて総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	社会の中の生命科学に関する課題について総合的に分析し、自らがとるべき行動を客観的に判断できる素養を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	社会の中の生命科学に関する課題を自ら発見し、学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			生命科学と社会
			BI0200F

## 授業の概要 /Course Description

遺伝情報であるDNAの構造が決定され、それから半世紀の間、生命科学は大きく進歩し、医療、食生活や健康など我々の社会に深く浸透している。生命科学とはどのようなもので、我々の生活をどのように変えてきたのだろうか。また、人間が遺伝子や生命を操作するとは具体的にはどのようなことであり、どこまで許されることなのだろうか。本講義では人間の社会や他の生物との関わりから生命科学を捉えることを目指し、そのための基礎知識を身につけることを目標とする。

## 教科書 /Textbooks

なし。毎回資料を配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 文系のための生命科学入門 東京大学生命科学教科書編集委員会 2940円 羊土社 (2011年)
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 生命科学の歴史1【DNA二重らせん】
- 3回 生命科学の歴史2【タンパク質】
- 4回 生命科学の歴史3【ヒトゲノム計画】
- 5回 遺伝子操作と遺伝子組換え作物【カルタヘナ法】
- 6回 DNA鑑定とその限界【PCR】【足利事件】
- 7回 食品と医薬品【生物資源】【医薬品】
- 8回 先端医療と生命科学【分子標的薬】
- 9回 人体と放射線(外部講師)【確率的影響】【がん】
- 10回 モデル生物と人間(外部講師)【動物愛護】
- 11回 運命と遺伝子【遺伝子診断】【出生前診断】
- 12回 生命科学と家族(神原)【遺伝的つながり】
- 13回 ニュースの話題より【ノーベル賞】
- 14回 映画鑑賞
- 15回 質疑応答・まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の課題(小テスト含む) 40%  
期末テスト 60%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review



## 履修上の注意 /Remarks

高校で生物を履修していない者は参考書を入手し、授業に備えること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

外部講師（放射線基礎医学等）および基盤教育センター・神原ゆうこ（文化人類学）とともに、さまざまな角度から生命と社会の問題を取り上げたいと思います。ニュースで扱われるような話題を自分で理解し、考える力を身につけましょう。基礎部分をより体系的に学びたい者は2学期開講「人間と生命」を合わせて受講すると理解が深まるでしょう。

## キーワード /Keywords

# 情報社会を読む【昼】

担当者名  
 /Instructor

浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年  
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と情報社会との関係性を総合的に理解し、21世紀の市民として必要な教養を身につけている。
技能	情報リテラシー	●	情報社会の特性を理解した上で、情報及び情報システム、インターネットを活用する技能を身につけている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報社会の現在、及び、未来についての総合的な分析をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	情報社会の現在、及び、未来に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			情報社会を読む
			INF200F

## 授業の概要 /Course Description

本授業のねらいは、最新のICTやそれを応用したサービスについての理解を深めることで、現在の情報社会について概観し、その先の未来で待ち受けている情報社会の課題や可能性について考える力を身に付けることである。具体的には、以下のような項目について理解する。

- 情報社会を構成している最新のICTに関する基礎知識
- 最新のICTを応用したサービスと人間との関係性
- 未来の情報社会で起こりうる課題とその解決策
- 未来の情報社会で期待できるサービスの可能性

本授業では、講義（教員が教壇に立って説明することが中心）と演習（学生が与えられた課題に沿って主体的に学習活動することが中心）とを組み合わせながら進めていく。ときには、グループディスカッションを行いながら課題に取り組んでもらう。

## 教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 身の回りにあるICTと情報社会 【ガイダンス】【ICT活用サービスの光と影】
- 2回 位置情報を利用したサービス 【ジオメディア】【GPS】
- 3回 演習1：位置情報を利用した未来のサービスを読む
- 4回 ソーシャルメディアがもたらすコミュニケーションの変化と集合知 【SNS】【ミニブログ】
- 5回 ソーシャルメディアを利用したビジネスモデル 【ソーシャルコマース】
- 6回 演習2：ソーシャルメディアを利用した未来のサービスを読む
- 7回 「雲」の向こう側にある情報 【クラウドコンピューティング】【データセンター】【共有】
- 8回 全てがインターネットに接続されると何が起きるか【IoT】
- 9回 カメラは何を認識できるか 【画像処理】【画像認識】
- 10回 個人を特定できるコンピュータとその危険性 【顔画像認証】
- 11回 演習3：クラウドコンピューティング・画像認識を利用した未来のサービスを読む
- 12回 コンピュータは持ち歩くから着る時代へ 【ウェアラブルコンピュータ】
- 13回 近未来の入力装置 【モーション操作】
- 14回 演習4：ウェアラブルコンピュータ・モーション操作を利用した未来のサービスを読む
- 15回 まとめ

# 情報社会を読む【昼】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する個人課題・・・ 50%、授業中に実施するグループワーク課題・・・ 40%、レポート・・・ 10%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

「情報社会への招待」を先に受講して、情報社会に関連する知識や技術のある程度把握していると受講しやすい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

分からないところがある場合は、積極的に質問してもらいたい。授業中に実施する演習において、グループワークを求めることもあるので、その時は積極的に議論に参加してもらいたい。また、この科目は、専門用語を覚えることに重点を置くのではなく、情報社会の未来はどうなるのかという発想やアイデアに重点を置くので、「未知のことについて考える力」を磨くことにチャレンジしてもらいたい。また、受講者数が多数の場合は、受講者数調整を行う場合もある。

## キーワード /Keywords

情報社会の未来、ICT活用サービス、ICTと人間

# 地域資源管理論 【昼】

担当者名 廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	「地域資源の管理」に関わる総合的な理解と、持続可能な社会づくりに関する正しい知識などを身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地域資源を管理しようとする際の根本的かつ総合的な考察をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力 コミュニケーション力	●	各自が所属する地域社会において、地域資源との望ましい関わり方を自ら発見し、持続可能な社会づくりのための学びを継続することができる。
		地域資源管理論	
		ENV200F	

## 授業の概要 /Course Description

本授業では、地域資源を住民が主体となって管理していくための手法について、詳細に解説する。  
本授業で扱う事例は大きく分けて、以下の3点である。  
①東京都国立市の国立マンション訴訟 - まちの景観を住民は守ることができるのか -  
②地域資源を有効に活用する手法 - フットパス事業に見る住民主体の地域資源管理 -  
③滋賀県長浜市における黒壁スクエア事業 - まちづくり会社 ( TMO ) の役割と権利の集約 -

上記の事例を、いくつかの紛争事例・裁判事例を検証することで、地域資源を管理する、活用するための具体的手法について、法社会学の知見を活かし、分析する。

法社会学における基礎的な専門知識の習得とともに、地域住民が共同で地域資源を管理していくために必要な具体的知識を習得することを目的としている。

## 教科書 /Textbooks

特になし。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

○鈴木龍也, 富野暉一郎編著 ( 2006 ) 『コモンズ論再考』 晃洋書房  
角谷 嘉則著 ( 2009 ) 『株式会社黒壁の起源とまちづくりの精神』 創成社

# 地域資源管理論 【昼】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨン
- 第2回 資源とは何か？
- 第3回 地域資源管理のための最も望ましい形とは？
  
- 第4回 ①東京都国立市の国立マンション訴訟 - まちの景観を住民は守ることができるのか -  
 :なぜこの問題が起きたのか？(問題背景)
- 第5回 ①東京都国立市の国立マンション訴訟 : 法的な解釈と住民たちの意識とのズレについて
- 第6回 ①東京都国立市の国立マンション訴訟 : 問題解決に向けた新たな法制度の提案
- 第7回 ①地域資源管理における都市エリアの特徴 - 流動性の観点から -
  
- 第8回 ②地域資源を生かした地域活性化策 - フットパスの取り組み -
- 第9回 ②フットパスとオルレの特徴 - 九州における歩く文化の創造と法的権利 -
- 第10回 ②フットパスの実践家を招いたフットパス講義
  
- 第11回 ③滋賀県長浜市における黒壁スクエア事業 - まちづくり会社(TMO)の役割と権利の集約 - : 問題の背景
- 第12回 ③滋賀県長浜市における黒壁スクエア事業 : 「まちづくり三法」と「まちづくり会社の役割」について
- 第13回 ③滋賀県長浜市における黒壁スクエア事業 : 伝統的文化である「長浜曳山祭り」の継承という役割
- 第14回 ③滋賀県長浜市における黒壁スクエア事業 : 新たな課題の出現とその解決策の提示
  
- 第15回 総括と復習

## 成績評価の方法 /Assessment Method

専門的知識の習得度(試験やレポートで確認): 80%  
 授業への積極的参加姿勢や貢献度: 20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業では、法社会学の基礎的な知見の習得を目指す。そのため、裁判の話(判例)や法律の話に言及する機会が多々ある。平易な説明や解説を試みるため、あらかじめ必要な知識はないが、基礎的な法的思考能力を鍛える必要があるため、その旨、履修する者は理解してほしい。

## キーワード /Keywords

# 教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 石川 敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 演習  
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習 I
			GES101F

## 授業の概要 /Course Description

地域社会活動を通じ、広義の地域づくりに参加することで、実践に際してのマナーやPDCAサイクルの基本を身につけることを目的とする。特に地域共生教育センターの運営スタッフとして、センターの運営や地域活動に直接参加することで、得た学びを各自が報告し、振り返り学習を通じて、上記の目的を達成する。

## 教科書 /Textbooks

適宜指示する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回～4回：事前学習  
第5回～第10回：センター運営活動、地域活動等の実践。  
第11回・12回：活動報告  
第13回・14回：振り返り学習  
第15回：まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

演習における議論への参加度50%  
活動への参加度50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

関連活動に関する文献学習。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 教養基礎演習I【昼】

担当者名 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習 I
			GES101F

## 授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。しかしながら、この分野における研究の進歩は急速であり、難しそうに見える多くの用語はカタカナ用語（主として英語）である。そこで、本演習では「語源で学ぶ生命科学」を主たるテーマとし、カタカナ用語の由来とその意味を学ぶことによって、生命科学の基礎知識を身につけるとともに、これをわかりやすく説明するプレゼン力を身につける。また簡単な実験を行うことによって、科学的なものの見方や考え方を身につける。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 文系のための生命科学入門 東京大学生命科学教科書編集委員会 2940円 羊土社 (2011年)
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の確認 ( 1 )
- 3回 基本的事項の確認 ( 2 )
- 4回 基本的事項の確認・テーマの決定
- 5回 グループによるプレゼンテーションの準備 ( 1 )
- 6回 グループによるプレゼンテーションの準備 ( 2 )
- 7回 グループによるプレゼンテーション
- 8回～9回 DNAに関する実験 ( 学期内のいずれかの土曜日午後実施 )
- 10回 個人によるプレゼンテーションの準備
- 11回 個人によるプレゼンテーション ( 1 )
- 12回 個人によるプレゼンテーション ( 2 )
- 13回 関連映画鑑賞
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 10% ( 配布するカードに記入した内容で評価する )、発表 60%、期末レポート 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# 教養基礎演習I【昼】

## 履修上の注意 /Remarks

高校である程度生物を学んでいることが望ましい。  
希望者が多い場合は受講者数の調整を行うので、第1回目には必ず出席すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

生物に関連したテーマを自分で選び、自分で調べ、発表する演習です。自分のレベルに合わせて楽しみましょう。  
さらに学びたい者は関連科目（「生命と環境」や「人間と生命」）も合わせて受講するとより理解が深まるでしょう。

## キーワード /Keywords



# 教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 演習  
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習 I
			GES101F

## 授業の概要 /Course Description

文献読解能力を訓練し、レジュメ（梗概）の作り方、報告の仕方などを実地に学んでいく。あわせて、日本近代史に対する理解を深め、国際化時代に相応しい教養を涵養する一助としたい。

毎回、全受講者から「レジュメ」（梗概）を提出してもらい、次週までに添削して返却します。「レジュメ」とは、わかりやすく言うと、この場合には本の内容の要約です。この演習の目的は、レジュメを作成することを通じて、専門的な文献を読む基礎になる読解力、内容を要約してまとめる力、プレゼンテーション能力などを涵養することにあります。受講者数にもよりますが、毎回1～5名程度の受講生に報告してもらいます。したがって、受講者が少ない場合には毎回報告してもらうことになります。意欲的な学生は大歓迎です。15回の演習で、一冊完読します。

## 教科書 /Textbooks

受講者と相談の上で決定します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜指示します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション。
- 2～14回 文献の輪読。
- 15回 まとめ。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...50% 報告・レジュメの内容...50%  
無断欠席はたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

演習が始まる前に大学図書館を見学しておいて下さい。  
毎週必ず、テキストの該当ページを読んで、レジュメを作ってもらいます。  
小林担当の「教養基礎演習II」とセットで履修することを希望します。  
この演習は2年生・3年生との合同演習です。  
受講希望者が合計11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 演習  
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習 I
			GES101F

## 授業の概要 /Course Description

大学での学び方入門：

本演習では、1年生を対象に大学での勉強の仕方の基礎を学びます。最終的な目標は、文献を読んで自分の考えをまとめるレポート（高校までの小論文でも調べ学習でも感想文でもなく）を書くことです。テキストは現代社会をあつかったテーマで、近年話題となった文庫を選ぶことが多いです。比較的読みやすいテキストを批判的に読解することを通して、レジュメの作りかた、論点のを見つけ方を学び、それをわかりやすく報告するコミュニケーション能力を養います。後半では、自分で関連する文献をさらに探し、2000字程度のレポートを書くプロセスを報告しながら、受講者とともにより完成度の高いレポートの作成を目指します。

## 教科書 /Textbooks

松田美佐2014『うわさとは何か』中公新書

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

- 佐藤望ほか(編)2006『アカデミック・スキルズ』慶應大学出版会
- 専修大学出版企画委員会(編)2009『知のツールボックス』専修大学出版会
- 白井利明・高橋一郎 2008『よくわかる卒論の書き方』ミネルヴァ書房

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入：大学の授業とは
- 第2回 大学における本の読みかた・探し方
- 第3回 レジュメの作りかた
- 第4回 テキスト輪読型の演習における報告と議論
- 第5回 テキスト輪読型の演習における報告と議論
- 第6回 テキスト輪読型の演習における報告と議論
- 第7回 テキスト輪読型の演習における報告と議論
- 第8回 テーマのを見つけ方
- 第9回 レポートの書きかた
- 第10回 レポート構想報告
- 第11回 レポート構想報告
- 第12回 レポート構想報告
- 第13回 レポート構想報告
- 第14回 文章を推敲する：レポートの相互添削
- 第15回 文章のブラッシュアップ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

レポート50%、授業貢献(報告内容、積極的な発言など)50%  
(第14回で学生相互にレポートを添削し、その後最終的に書き直したレポートを評価の対象とします。)  
報告者の無断欠席は厳しく減点します。

# 教養基礎演習I【昼】

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

- ・ 出席者の報告を重視するので、人数が多すぎる場合、受講制限をします。
- ・ 第1回の授業は必ず出席してください。
- ・ 教養基礎演習IIも継続して受講することが望ましいです。
- ・ 問題意識は、漠然と本を読み、授業を聞くだけで生まれるものではありません。4月の段階で特定の学問的興味関心を持つことは求めませんが、学期末までには課題に対する問題意識を見つけることを心がけてください。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 大学での本の読みかたやレポートの書きかたを基礎から学ぶので、どの学部の学生でも怖気づかずに履修してください。ですが、演習の準備に時間がかかることは嫌がらないでください。
- ・ レポートの書き方を基礎から学びたい2年生以上の受講も歓迎します。

## キーワード /Keywords

レポートの書き方、問題意識の発見

# 教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 演習  
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
		教養基礎演習 I	GES101F

## 授業の概要 /Course Description

学生としての心構えや厳しい社会へ踏み出す前段階としての「人間力」・「社会力」などのスキルの獲得が非常に重要なことと考える。そこで本演習では、共同生活を伴った野外活動体験や冒険教育の理論をもとに構築されたレクリエーション活動などによる人間関係トレーニングを行う。その中で、自己を見つめ直し、他人への配慮やコミュニケーション能力などの強化を目指す。尚、本演習では野外活動特に「キャンプ」実習に力を入れ、学内では経験できない「レクリエーション種目」なども多数実践していきます。

## 教科書 /Textbooks

必要な資料は配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 グループディスカッション(1)
- 2回 グループディスカッション(2)
- 3回 グループディスカッション(3)
- 4回 グループゲーム (1)
- 5回 グループゲーム (2)
- 6回 自分自身を理解する
- 7回 自分自身を人に理解させること
- 8回 野外活動とは？
- 9回 キャンプ実習についての講義(1)
- 10回 キャンプ実習についての講義(2)
- 11回 キャンプ実習についての講義(3)
- 12回 キャンプ実習の実施(1)
- 13回 キャンプ実習の実施(2)
- 14回 キャンプ実習の実施(3)
- 15回 キャンプ実習のふりかえり

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み(キャンプ実習の参加を義務付け) ... 80% レポート ... 20%  
キャンプ実習に参加できない学生については単位認定ができませんので注意してください。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# 教養基礎演習I【昼】

## 履修上の注意 /Remarks

キャンプ実習は別途実習費(約4000円)がかかりますので注意してください。  
キャンプ実習は、教養基礎演習I(担当:高西)と同時期に実施します。なお、天候等により実習を実施できない場合は、学内での講義に振り替えます。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 演習  
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習 I
			GES101F

## 授業の概要 /Course Description

この演習では、以下のことを身につけることを目指す。

- (1) 社会的なもの見方・考え方
- (2) 文献資料の調べ方
- (3) 質的調査の考え方とやり方
- (4) レポート・論文の書き方

報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、受講者の最大数は10人とする（それを越える場合、受講者数調整をかける）。

## 教科書 /Textbooks

『知的複眼思考法』、刈谷剛彦、講談社+α文庫、2002

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

『自分で調べる技術 - 市民のための調査入門』、宮内泰介、岩波アクティブ新書、2004  
『レポート・論文の書き方入門』河野哲也、慶応義塾大学出版会  
その他、講義の中で、その都度、紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業内容の紹介
- 第2回 創造的読書で思考力を鍛える - 『知的複眼思考法』(1)
- 第3回 考えるための作文技法 - 『知的複眼思考法』(2)
- 第4回 問いの立て方と展開の仕方 - 『知的複眼思考法』(3)
- 第5回 複眼思考を身につける - 『知的複眼思考法』(4)
- 第6回 自分の「問い」をたてる
- 第7回 情報を集める(1) - 図書館の利用
- 第8回 情報を集める(2) - Webサイトの利用
- 第9回 情報をまとめる(1) - ブレーンストーミング
- 第10回 情報をまとめる(2) - KJ法
- 第11回 自らの問いと方法を明確にする
- 第12回 質的調査の考え方
- 第13回 フィールドワーク
- 第14回 アクティブ・インタビュー
- 第15回 調査倫理について

# 教養基礎演習I【昼】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

参加度・貢献度... 40%      課題(レポート)... 60%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

報告者は、レジユメを準備すること。  
レジユメには、(1)文献概要、(2)内容要約、(3)論点整理、(4)議論等を含めること(レジユメの作成方法については授業中に説明する)。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords



# 教養基礎演習I【昼】

担当者名  
/Instructor

廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習 I
			GES101F

## 授業の概要 /Course Description

この演習では、大学における学習や研究の方法を身につけることを目的とする。環境問題をテーマとして取り上げ、受講者の①レジュメ作成能力、②プレゼンテーション能力、③学術的コミュニケーション能力（対話・議論）、④知的好奇心の向上を目指す。

## 教科書 /Textbooks

富山和子（2001）『環境問題とは何か』PHP新書

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

特になし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：授業内容についての紹介（イントロダクション）
- 第2回：学習法・レジュメの作成方法・プレゼンテーション方法について
- 第3回：環境問題についての考え方について
- 第4回：テキストの輪読①
- 第5回：テキストの輪読②
- 第6回：テキストの輪読③
- 第7回：テキストの輪読④
- 第8回：テキストの輪読⑤
- 第9回：テキストの輪読⑥
- 第10回：テキストの輪読⑦
- 第11回：テキストの輪読⑧
- 第12回：レポートを書く際の考え方とその方法
- 第13回：プレ・レポート報告会
- 第14回：プレ・レポート報告会
- 第15回：プレ・レポート報告会+まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への貢献度（積極的発言・報告姿勢等）：40%  
最終レポート：60%

（※最終レポートとは、第13回～第15回において各自の関心において作成したレポートに対し、参加者から寄せられた批判や修正点等をふまえて、改善をした上で学期末に提出するレポートである。）

# 教養基礎演習I【昼】

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

授業には予めテキスト、ならびに事前に配布されるレジユメを精読してのぞむこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業は、自分の考え方や意思を的確に相手に伝えることができるようになることを目指す。これは就職活動や社会に出ても必要な能力である。受講者の積極的な参加を望む。

## キーワード /Keywords

大学における学習方法、レジユメ・レポート作成、コミュニケーション能力の向上

# 教養基礎演習I ( 防衛セミナー ) 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習 I
			GES101F

## 授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ（少人数・対話型）として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。経験豊富な幹部自衛官（陸海空、尉官・佐官クラス）をほぼ毎回招聘し、それぞれの立場と経験に基づくレクチャーをしてもらい、レクチャーについての質疑応答を行う。

この科目では、防衛問題に関する総合的な知識を獲得し、この分野における課題発見・分析能力を養い、生涯にわたり継続して国防問題に向き合っていける能力の獲得を目指す。また、少人数の演習形式であるから、コミュニケーション能力の獲得も視野に入れる。

また、本授業を履修した者を対象に、授業終了後の夏季休業期間中に3回の学外研修（バス）予定しており、それについては、別科目扱いとなるため、別途教養基礎演習「II」のシラバスを参照してください。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

『防衛白書』、その他は適宜指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス ( 戸蒔 )
- 2回～14回 現段階でゲストは調整中であるが、陸海空の幹部自衛官で比較的若手を中心にする計画である。スケジュールは第1回のガイダンスで発表する。
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度... 50% レポート... 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

準備などは特に必要ない。上記の注意を必ず守ること。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

# 教養基礎演習I ( 防衛セミナー ) 【昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
教養演習科目

キーワード /Keywords

# 教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 演習  
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習 I
			GES101F

## 授業の概要 /Course Description

日本における高校教育までの段階では、欧米の学生であれば常識として知っている事柄（とくに人文的教養）に触れる機会が著しく少ないため、海外の文献を読む際に理解が不十分になるケースが見受けられる。その面をサポートし、これから大学生として学んでゆくにあたって最低限必要と思われる基礎的な能力を身につけることが、本演習の目的である。

例年、哲学・思想関連の本を一冊セレクトし、それを全員で読み進めている。今回は、あえて「日本」の人類学者である中根千枝の古典的名著『タテ社会の人間関係』を取り上げる。

## 教科書 /Textbooks

中根千枝『タテ社会の人間関係—単一社会の理論』、講談社現代新書、1967年、756円（2015年現在・税込）。

（※本演習ではこのテキストを使用するので、ガイダンス出席後に各自で用意すること。）

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(授業のルール、成績評価等の説明)
- 2回 読解と議論 1
- 3回 読解と議論 2
- 4回 読解と議論 3
- 5回 読解と議論 4
- 6回 読解と議論 5
- 7回 読解と議論 6
- 8回 読解と議論 7
- 9回 読解と議論 8
- 10回 読解と議論 9
- 11回 読解と議論 10
- 12回 読解と議論 11
- 13回 復習と補助学習 1
- 14回 復習と補助学習 2
- 15回 総括

## 成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況(予習・議論・発言の積極性)...50% レポート...50%

(2回以上無断欠席をした場合は、参加の意志がないものとみなし、自動的に不合格判定となる。また、たとえ全15回出席していたとしても、レポートを提出しなかった者に単位は認めない。)

# 教養基礎演習I【昼】

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

参加者全員ができるだけ多くの発言機会を得られるよう、授業初回（ガイダンス）時に【受講者数調整】を実施します。そのため、本演習への参加を希望する者は、必ず第1回目の授業に出席する必要があります。  
なお、本基礎演習に履修登録済みの場合（2年生以上）でも、初回の授業を欠席した場合にはその登録を抹消しますので、気を付けてください。卒業を予定している4年生も同じ扱いとします。  
人数調整に際しては、〈友人と一緒に参加するのではなく、たった一人で参加する意欲のある者〉をとくに尊重したいと思います。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では、発言と議論を通じたコミュニケーション意欲が求められると同時に、指定のテーマに沿ったレポートが最後に課せられます（形式・課題内容については7月初頭に提示する予定）。この授業は2年生以上の先輩も参加する合同演習です。継続的に出席できない方は、他の参加者に迷惑をかけることとなりますので、ご遠慮ください。

## キーワード /Keywords

# 教養基礎演習I【昼】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習 I
			GES101F

## 授業の概要 /Course Description

初めてあった人や普段話したことがない人の中にいたり、自分自身を人に理解してもらうためにはどうしたらいいのが困ったことなどはありませんか。そんな中、身体活動を通して、知らない人同士で自然に打ち解け、楽しみを感じたことはありませんでしたか。身体活動は、健康体力の増進のみならず、コミュニケーションづくりにも有効な方法なのです。本演習では、身体活動やグループワークを通して、どうしたら、コミュニケーション能力（人間関係力）を高めることができるかを焦点に考えていきたいと思います。  
また、学内と離れた場所での野外活動(キャンプ実習)を通して、他人と協調することや、新たな自己発見、自己開示能力についても養ってきたいと思います。

## 教科書 /Textbooks

適宜資料配付

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 自己紹介と他己紹介
- 3回 人間関係力とは
- 4回 人間関係力演習(1)簡単なゲームを通して
- 5回 人間関係力演習(2)簡単なゲームを通して
- 6回 人間関係力演習(3)身体活動を通して
- 7回 人間関係力演習(4)身体活動を通して
- 8回 野外活動とは？
- 9回 キャンプ実習についての講義(1)
- 10回 キャンプ実習についての講義(2)
- 11回 キャンプ実習についての講義(3)
- 12回 キャンプ実習(1)
- 13回 キャンプ実習(2)
- 14回 キャンプ実習(3)
- 15回 キャンプ実習のふりかえり

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み(キャンプ実習の参加を義務付け) ... 80% レポート ... 20%  
キャンプ実習に参加できない学生については単位認定ができませんので注意してください。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# 教養基礎演習I【昼】

## 履修上の注意 /Remarks

実習については、別途参加費がかかります(約4000円)。  
キャンプ実習は、教養基礎演習I(担当:徳永)と同時期に実施をします。なお、天候等により実習を実施できない場合は、学内での講義に振り替えます。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords



# 教養基礎演習II 【昼】

担当者名 石川 敬之 / 地域共生教育センター  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習 II
			GES102F

## 授業の概要 /Course Description

地域社会活動を通じ、広義の地域づくりに参加することで、活動に際してのマナーやPDCAサイクルの基本を身につけることを目的とする。特に地域共生教育センターの運営スタッフとして、センターの運営や地域活動に直接参加することで、得た学びを各自が報告し、振り返り学習を通じて、上記の目的を達成する。

## 教科書 /Textbooks

適宜指示する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回～4回：事前学習  
第5回～第10回：センター運営活動、地域活動等の実践。  
第11回・12回：活動報告  
第13回・14回：振り返り学習  
第15回：まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

演習における議論への参加度50%  
活動への参加度50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

関連活動に関する文献学習。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター, 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 演習  
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習II
			GES102F

## 授業の概要 /Course Description

本講義は、株式会社スターフライヤーの協力を得て開講します。将来、社会人として求められる能力、特に対人接点を必要とする仕事に必要なコミュニケーション能力やホスピタリティについて学びます。航空業界、百貨店・小売業界、ホテル業界、ブライダル業界等を目指す学生にとって役に立つ講義です。

この講義を開講する理由は大きく三つあります。一点目は、昨今の企業が求める人材要件として、コミュニケーション能力が重視されていることです。単に同質な人との接点ではなく、多様な方々と円滑なコミュニケーションが取れることが求められています。二点目は、コミュニケーションやホスピタリティに関するスキル獲得だけではなく、それらを発揮するための素養を育む必要性があるからです。三点目は、上にあげた業界に就職したいと考えている学生にとってのチャンスを拡大するためです。

このような理由から、常に最高の接客コミュニケーションが求められるキャビンアテンダント教育の要素を取り入れたいと考え、株式会社スターフライヤーに協力をいただきます。日々業務を行っている実務家の講義は、現場に即した実践的な学びを学生の皆さんに提供します。

## 教科書 /Textbooks

授業開始時に説明します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業開始時に説明します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 コミュニケーションとは？(1)【エアラインでの実例をもとに考察する】
- 3回 コミュニケーションとは？(2)【エアライン等、対人職において求められる人物像の考察】
- 4回 コミュニケーションとは？(3)【コミュニケーションスキル他】
- 5回 コミュニケーションとは？(4)
- 6回 マナーとホスピタリティ(1)【ホスピタリティの意味～今なぜホスピタリティなのか？】
- 7回 マナーとホスピタリティ(2)【ホスピタリティマインドとアクション】
- 8回 マナーとホスピタリティ(3)【ホスピタリティ溢れるポジティブマナーとは】
- 9回 マナーとホスピタリティ(4)
- 10回 コミュニケーション&マナー実践(5)【対人職に求められるコミュニケーションスキル実践】
- 11回 コミュニケーション&マナー実践(6)
- 12回 コミュニケーション&マナー実践(7)【サービス適正確認 実践(ロールプレー)】
- 13回 コミュニケーション&マナー実践(8)【苦情/クレームについて考える】
- 14回 コミュニケーション&マナー実践(9)【面接におけるマナー】
- 15回 まとめ

## 教養基礎演習II 【昼】

### 成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...50% レポート...50%

### 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

### 履修上の注意 /Remarks

指定回に着用しての受講となります。  
クラス定員を30名程度としますので、履修希望者多数の場合は抽選とします。

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

主として客室乗務員研修（ホスピタリティ/サービス実践等）を軸に対人職に求められるパーソナリティや接客スキルを学び磨いていく講義です。  
「生」、「現場」の情報をお届けしますので、客室乗務員やグランドスタッフ、ホテルコンシェルジュ等高い接客スキルが求められる職業を将来希望される学生にぜひ受講して頂きたいと思います。

### キーワード /Keywords

コミュニケーション、ホスピタリティ、エアライン、ブライダル、ホテル

# 教養基礎演習Ⅱ 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 演習  
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習Ⅱ
			GES102F

## 授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。しかしながら、この分野における進歩は急速であり、一般には知られていないが、意味が正確に理解されていない用語も多い。本演習では「ニュースの中の生命科学」を主たるテーマとし、新聞記事などから対象となるトピック・用語を探し出し、生物学的な背景や用語の意味を学ぶと同時に、それをわかりやすく説明するプレゼン力を身につける。また簡単な実験を行うことによって、科学的なものの見方や考え方を身につける。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 文系のための生命科学入門 東京大学生命科学教科書編集委員会 2940円 羊土社 (2011年)
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の確認 ( 1 )
- 3回 基本的事項の確認 ( 2 )
- 4回 基本的事項の確認・テーマの決定
- 5回 グループによるプレゼンテーションの準備 ( 1 )
- 6回 グループによるプレゼンテーションの準備 ( 2 )
- 7回 グループによるプレゼンテーション
- 8回～9回 DNAに関する実験 ( 学期内のいずれかの土曜日午後実施 )
- 10回 個人によるプレゼンテーションの準備
- 11回 個人によるプレゼンテーション ( 1 )
- 12回 個人によるプレゼンテーション ( 2 )
- 13回 関連映画鑑賞
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 10% (配布するカードに記入した内容で評価する)、発表 60%、期末レポート 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 教養基礎演習II 【昼】

### 履修上の注意 /Remarks

高校あるいは1学期までに生物を学んでいることが望ましい。  
希望者が多い場合は受講者数の調整を行うので、第1回目には必ず出席すること。

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

生物に関連したテーマを自分で選び、自分で調べ、発表する演習です。自分のレベルに合わせて楽しみましょう。  
さらに学びたい者は関連科目「人間と生命」も合わせて受講するとよいでしょう。

### キーワード /Keywords

# 教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習II
			GES102F

**授業の概要 /Course Description**  
日本政治外交史に関するゼミ・レポートを書いてもらう（400字×10枚以上）。受講者数にもよるが、毎回学生諸君に自分の研究テーマについて報告してもらい、それについての議論を深めていく。

**教科書 /Textbooks**  
コピーして配布します。

**参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )**  
山内志朗『ぎりぎり合格への論文マニュアル』（平凡社新書、2001年、700円）。

**授業計画・内容 /Class schedules and Contents**  
1回 演習運営方針に関する話し合い。  
2～14回 各自の研究報告。  
15回 まとめ。

**成績評価の方法 /Assessment Method**  
日常的な授業への取り組み...50% 課題...50%  
無断欠席はたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。  
なお、ゼミ・レポート未提出は「D」評価となります。

**事前・事後学習の内容 /Preparation and Review**

**履修上の注意 /Remarks**  
演習が始まる前に大学図書館を見学しておいて下さい。  
小林担当の「教養基礎演習I」とセットで履修することを希望します。  
この演習は2年生、3年生との合同演習です。  
受講希望者が合計11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

**担当者からのメッセージ /Message from the Instructor**

**キーワード /Keywords**

# 教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 市原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 演習  
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習II
			GES102F

## 授業の概要 /Course Description

考えを深める訓練：

教養基礎演習Iの続きとして、一つのテーマについて考えを深める訓練を行います。レポートが書けることと、内容の濃い（＝評価される）レポートが書けることは違います。本演習では、教養基礎演習Iの受講者の問題関心に近いテキストを輪読し、ディスカッションを通して、各自のテーマをさらに掘り下げることを通して課題発見能力を養います。その成果を活かし、学期末にはまとまった分量の程度度のレポートを書くことを目指します。この演習を通して、他の人の考えにコメントをつける、人からもらったコメントを活かす力を身につけることをめざし、問題の本質を探る能力、すなわち生涯にわたって役立つ基礎的な探求能力を身につけることを目的とします。

## 教科書 /Textbooks

教養基礎演習Iのレポート提出者の興味関心にあわせて第1回目の演習に候補の本をいくつか持っていき、出席者と相談して決めます。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

- 佐藤望ほか(編) 2006 『アカデミック・スキルズ』慶應大学出版会
- 専修大学出版企画委員会(編) 2009 『知のツールボックス』専修大学出版会
- 白井利明・高橋一郎 2008 『よくわかる卒論の書き方』ミネルヴァ書房

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 テーマを決めて文章を書くとはどういう事か？今学期のテキストについて
- 第2回 考えと深めるにはどうしたらいいか？：教養基礎演習Iのレポートの講評と反省
- 第3回 テーマを深めるための議論のしかた
- 第4回 テーマを深めるための議論のしかた
- 第5回 テキスト輪読と議論
- 第6回 テキスト輪読と議論
- 第7回 テキスト輪読と議論
- 第8回 テキスト輪読と議論
- 第9回 レポート構想報告
- 第10回 レポート構想報告
- 第11回 レポート構想報告
- 第12回 レポート構想報告
- 第13回 文章を推敲する：レポート相互添削
- 第14回 文章のブラッシュアップのために
- 第15回 報告会と演習のまとめ

## 教養基礎演習II 【昼】

### 成績評価の方法 /Assessment Method

レポート50%、授業貢献(報告内容、演習中の発言、その他の提出物など)50%  
※レポートについては教養基礎演習Iのレポートからの発展性を評価する。  
※報告者の無断欠席は厳しく減点します。

### 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

### 履修上の注意 /Remarks

- ・原則として教養基礎演習Iを受講した者を対象とします。ですが、レポートはとりあえず書けるけれど、いい(評価される)レポートとはどんなものか意欲的に考えてみたい方は教養基礎演習IIのみ受講しても構いません。自分がどのようにものに興味関心があるか考えをまとめて第1回目の授業に来てください。
- ・レポートは大変ですが、それは書く時間がかかるのではなく、それまでの準備に時間がかかります。本を探し、読む時間を計算に入れて準備しましょう。

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

1学期は基本的な書き方を学ぶのに対し、2学期はより完成度の高いレポートを書くために、自分の意見を説得力をもって話し、議論することも重視します。積極的な発言を心がけてください。

### キーワード /Keywords

議論、多角的視野、説得力のあるレポート



# 教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 演習  
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習II
			GES102F

## 授業の概要 /Course Description

学生としての心構えや厳しい社会へ踏み出す前段階としての「人間力」・「社会力」などのスキルの獲得が非常に重要なことと考える。そこで本演習では、共同生活を伴った野外活動体験や冒険教育の理論をもとに構築されたレクリエーション活動などによる人間関係トレーニングを行う。その中で、自己を見つめ直し、他人への配慮やコミュニケーション能力などの強化を目指す。本演習においては、演習Iを踏まえ、自然克服型である「スキー」を実施する。「スキー」等において学内では経験できないスポーツ活動を体験し、さらに集団スポーツで求められるチームワークやコミュニケーション能力の強化を目指します。

## 教科書 /Textbooks

必要な資料は配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 自分自身を理解すること(1)
- 3回 自分自身を理解すること(2)
- 4回 自分自身を人に理解させること(1)
- 5回 自分自身を人に理解させること(2)
- 6回 人を理解すること(1)
- 7回 人を理解すること(2)
- 8回 スキー実習についての講義(1)(場所の選定)
- 9回 スキー実習についての講義(2)(スキーの安全性)
- 10回 スキー実習についての講義(3)(スキー技術)
- 11回 スキー実習についての講義(4)(スキー実習について)
- 12回 スキー実習の実施(1)
- 13回 スキー実習の実施(2)
- 14回 スキー実習の実施(3)
- 15回 スキー実習の実施(4)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み(スキー実習への参加を義務付け) ... 80% レポート ... 20%  
スキー実習に参加ができない学生については単位認定ができませんので注意してください。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 教養基礎演習II 【昼】

### 履修上の注意 /Remarks

スキー実習は別途実習費が必要です。  
スキー実習は、教養基礎演習II(担当・高西)と同時期に実施します。なお、天候等により実習を実施できない場合は、学内での講義に振り替えます。

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

### キーワード /Keywords

# 教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 演習  
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習 II
			GES102F

## 授業の概要 /Course Description

社会的な視点と方法（特に質的調査）によって論文・レポートを書くことをめざす。  
具体的には、以下のことについて学習・習得する。

- (1) 「質的調査」（インタビュー）の技法を身につける
  - ・ 質的調査と量的調査の違いを理解する。
  - ・ インタビューをするためには、どのようなことが必要なかを学ぶ。
  - ・ 調査倫理について理解する。
- (2) インタビュー（聞き取り調査）を通して自分の関心のあるテーマ・問いについてレポートを作成する。
  - ・ 自分が関心を持つできごと（社会現象）を設定し、「問い」をたてる。
  - ・ どのような方法で、その「問い」に「答え」が導き出せるか、考える。
  - ・ 資料やインタビューを通してレポートを作成する。

インタビュー調査実習（市内）を行う可能性がある。  
演習形式で行うため、受講者の最大数は10人とする（それを越える場合、受講者数調整をかける）。

## 教科書 /Textbooks

○谷富夫・芦田徹郎編著, 2009, 『よくわかる質的社会調査 技法編』, ミネルヴァ書房

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

○谷富夫編, 2008, 『新版 ライフヒストリーを学ぶ人のために』, 世界思想社

# 教養基礎演習II 【昼】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 「問い」をたてる
- 第3回 論証戦略を立てる(方法を考える)
- 第4回 情報を集める - 北九大図書館
- 第5回 情報を集める - CiNii、国立国会図書館(NDL-OPAC)、政府統計の総合窓口(e-Stat)、電子政府の総合窓口(e-Gov)
- 第6回 質的社会調査の考え方
- 第7回 フィールドワーク
- 第8回 インタビュー
- 第9回 ライフヒストリー分析
- 第10回 調査の企画
- 第11回 データの作成から論文の執筆まで
- 第12回 質的調査の応用
- 第13回 質的調査と調査倫理
- 第14回 インタビュー調査
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

参加度・貢献度...30% 課題(レポート)...70%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

演習形式を基本とするので、報告者はレジユメを準備すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分でデータをつくり、分析する楽しさを感じてください。

## キーワード /Keywords

質的調査、インタビュー、調査倫理

# 教養基礎演習Ⅱ【昼】

担当者名  
/Instructor

廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習Ⅱ
			GES102F

## 授業の概要 /Course Description

なぜ「生物多様性」を保つことが必要なのか、環境分野における基礎知識を充足させるとともに、「さとやま」が良好な地域資源として活用していくための社会づくり（社会制度の分析）について勉強する。  
「さとやま」をキーワードとし、地域環境に関する課題をグループでディスカッションすることで、他者からの学びを行うとともに、地域社会が抱える根本的な課題を発見し、自立的に解決策を見つけ出すための考え方や思考方法を習得できるようにする。

## 教科書 /Textbooks

鷲谷いづみ（2011）『さとやま - 生物多様性と生態系模様 -』岩波書店（岩波ジュニア新書） ¥840 + 税

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：授業内容についての紹介（イントロダクション）
- 第2回：文系における環境問題と生物多様性の視点について
- 第3回：テキストの輪読①
- 第4回：テキストの輪読②
- 第5回：テキストの輪読③
- 第6回：テキストの輪読④
- 第7回：テキストの輪読⑤
- 第8回：テキストの輪読⑥
- 第9回：テキストの輪読⑦
- 第10回：テキストの輪読⑧
- 第11回：テキストの輪読⑨
- 第12回：レポートを書く際の考え方とその方法
- 第13回：プレ・レポート報告会
- 第14回：プレ・レポート報告会
- 第15回：プレ・レポート報告会 + まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への貢献度（積極的発言、レジュメ作成の出来） 20%  
専門的基礎知識の理解度 30%  
期末レポート 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 教養基礎演習II 【昼】

### 履修上の注意 /Remarks

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「生物多様性やさとやま」をキーワードとして、授業を進めていくが、生物学の知識は必要としない。  
さとやまを保全・活用していくための社会制度や社会の仕組みについて、議論を行うのが中心である。

### キーワード /Keywords

生物多様性、さとやま、農山漁村、過疎高齢化、持続可能な地域づくり

# 教養基礎演習II ( 防衛セミナー ) 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 集中  
授業形態 /Class Format 演習  
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習II
			GES102F

## 授業の概要 /Course Description

教養基礎演習Iの受講者を対象に、講義で学んだ防衛問題の知識を補完するため、バスで学外の自衛隊基地等へ赴き、施設見学、訓練見学、講話の聴講を行う。内容は、以下の通り。

- ①この科目を受講できるのは、防衛セミナーI(教養基礎演習I、あるいは、教養演習AI、教養演習BI)を受講した者に限られる。「I」を受講しないで、「II」だけ受講することはできない。詳細は、「I」で説明するので、希望者は必ず初回授業に出席すること。
- ②研修は、夏季休業期間中(8月中下旬~9月上旬)にかけて、3回実施する。3回の日程は、現在未定であり、別途指示する。陸上自衛隊駐屯地、航空自衛隊基地、海上自衛隊基地まで、大学からチャーターしたバスで移動し、そこで研修を行い、大学で解散する。よって、交通費等はかからない。ただし、昼食は、隊員食堂で体験喫食を行うことを予定しており、その分の費用は集金する(500円程度+αのみかかります)。
- ③バスの定員の関係から、受講者は50名を最大とする。希望者が50名を超える場合、抽選を行う。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

防衛白書

# 教養基礎演習II ( 防衛セミナー ) 【昼】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

詳細は、「I」の初回授業時のガイダンスで説明する。

計3回の学外研修時間の総計は、23時間以上とする(90分授業に換算し、15回分の時間)。詳細は、計画確定時に説明する。目安としては、以下のような行程となる。

例

学内事前研修(3時間)

第1回研修 海上自衛隊・佐世保基地見学(7時間30分)  
バス内での講義・ビデオ鑑賞(2時間30分)+現地での研修(5時間)

第2回研修 航空自衛隊・築城基地見学(5時間)  
現地での研修(5時間)

第3回研修 陸上自衛隊・健軍駐屯地見学(7時間30分)  
バス内での講義・ビデオ鑑賞(2時間30分)+現地での研修(5時間)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度50%+レポート50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

かならず、「I」の初回授業に出席すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords



# 教養基礎演習II 【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習II
			GES102F

## 授業の概要 /Course Description

日本における高校教育までの段階では、欧米の学生であれば常識として知っている事柄（とくに人文的教養）に触れる機会が著しく少ないため、海外の文献を読む際に理解が不十分になるケースが見受けられる。その面をサポートし、これから大学生として学んでゆくにあたって最低限必要と思われる基礎的な能力を身につけることが、本演習の目的である。

例年、哲学・思想関連の本を一冊セレクトし、それを全員で読み進めている。今回は、ユング派心理学者の故・河合隼雄による『家族関係を考える』を取り上げる。日本をよりよく理解するために、西洋の文化・宗教との対比が欠かせないことを教えてくれる貴重な論考である。

## 教科書 /Textbooks

河合隼雄『家族関係を考える』、講談社現代新書、1980年、778円（税込）。  
（※本演習ではこのテキストを使用するので、ガイダンス出席後に各自で購入しておくこと。）

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 ガイダンス ( 授業のルール、成績評価等の説明 )
- 2 回 読解と議論 1
- 3 回 読解と議論 2
- 4 回 読解と議論 3
- 5 回 読解と議論 4
- 6 回 読解と議論 5
- 7 回 読解と議論 6
- 8 回 読解と議論 7
- 9 回 読解と議論 8
- 10 回 読解と議論 9
- 11 回 読解と議論 10
- 12 回 読解と議論 11
- 13 回 復習と補助学習 1
- 14 回 復習と補助学習 2
- 15 回 総括

## 成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況 ( 予習・議論・発言の積極性 ) ...50% レポート...50%  
( 2 回以上無断欠席をした場合は、参加の意志がないものとみなし、自動的に不合格判定となる。また、たとえ全 15 回出席していたとしても、レポートを提出しなかった者に単位は認めない。 )

## 教養基礎演習II 【昼】

### 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

### 履修上の注意 /Remarks

参加を希望する場合は、初回時に指示と説明があるので、必ず出席してください。

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では、発言と議論を通じたコミュニケーション意欲が求められると同時に、指定のテーマに沿ったレポートが最後に課せられます(形式・課題内容については12月後半に提示する予定)。この授業は、2年生以上の先輩も参加する合同演習です。継続的に出席できない方は、他の参加者に迷惑をかけることとなりますので、ご遠慮ください。

### キーワード /Keywords

# 教養基礎演習II 【昼】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習 II
			GES102F

## 授業の概要 /Course Description

自分自身を人に理解してもらうためにはどうしたらいいでしょうか。初めてあった人や普段話したことがない人の良いところを見つけるためにはどうしたらよいかを見つけるスキルについて考えていきます。本演習では、身体活動を通して、自分自身を理解する能力、そして人に自分を理解させる能力を身につけることを主眼においています。

また、学内から離れた場所での野外活動（スキー実習）を通して、他人との協調や、新たな自己発見、自己開示能力についても養っていききたいと思います。

## 教科書 /Textbooks

適宜資料配付

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 自分自身を理解するためには ( 1 )
- 3回 自分自身を理解するためには ( 2 )
- 4回 自分自身を人に理解させるためには ( 1 )
- 5回 自分自身を人に理解させるためには ( 2 )
- 6回 身体活動を用いた自己表現 ( 1 )
- 7回 身体活動を用いた自己表現 ( 2 )
- 8回 スキー実習についての講義 ( 1 ) ( 場所の選定 )
- 1 3回 スキー実習についての講義 ( 2 ) ( スキーの安全面 )
- 1 4回 スキー実習についての講義 ( 3 ) ( スキー技術 )
- 1 1回 スキー実習についての講義 ( 4 ) ( スキー実習について )
- 1 2回 スキー実習 ( 1 )
- 1 3回 スキー実習 ( 2 )
- 1 4回 スキー実習 ( 3 )
- 1 5回 スキー実習 ( 4 )

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み（スキー実習の参加を義務付け）... 80% レポート... 20%  
スキー実習に参加できない学生については単位認定ができませんので注意してください。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 教養基礎演習II 【昼】

### 履修上の注意 /Remarks

スキー実習については、別途参加費がかかります。  
スキー実習は、教養基礎演習II(担当:徳永)と同時期に実施します。なお、天候等により実習を実施できない場合は、学内での講義に振り替えます。

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

### キーワード /Keywords

# 教養演習 A I 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター, 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A I
			GES201F

## 授業の概要 /Course Description

本演習では、身体活動を通して、初めてあった人や知らない人同士でどうしたら自然に打ち解け、お互いに楽しみを共有できるかについて主眼をおく。そこで、学内での実習や学外での実習（キャンプ実習や地域の中高齢者を対象とした運動プログラム）を通して、教示の仕方や振る舞い方などでどのように楽しみを共有できるかについて考えていきたい。  
また、キャンプ実習（教養基礎演習I）のリーダーとして、他人と協調することや、新たな自己発見、自己開示能力についても養っていききたい。

## 教科書 /Textbooks

適宜資料配布

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 リーダーとリーダーシップ
- 3回 安全性と有効性
- 4回 野外活動とは
- 5回 キャンプ実習の計画(1) リーダーとしての関わり
- 6回 キャンプ実習の計画(2) 安全性と有効性
- 7回 キャンプ実習の計画(3) プログラム作成
- 8回 キャンプ実習の計画(4) 野外炊飯
- 9回 キャンプ実習の計画(5) テント設営
- 10回 キャンプ実習の計画(6) グループゲーム
- 11回 キャンプ実習の計画(7) ネイチャーゲーム
- 12回 キャンプ実習の実施(1)
- 13回 キャンプ実習の実施(2)
- 14回 キャンプ実習の実施(3)
- 15回 キャンプ実習のまとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み(キャンプ実習の参加を義務付け) ... 80% レポート ... 20%  
キャンプ実習に参加できない学生については単位認定ができませんので注意してください。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# 教養演習 AI 【昼】

## 履修上の注意 /Remarks

キャンプ実習については、別途参加費がかかります。(約4000円)。  
キャンプ実習は、教養基礎演習I(担当:徳永、高西)と同時期に実施します。なお、天候等により実習を実施できない場合、学内での講義に振り替えます。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 教養演習 A I 【昼】

担当者名 /Instructor 石川 敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 演習  
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A I
			GES201F

## 授業の概要 /Course Description

地域社会活動を通じ、広義の地域づくりに参加することで、実践的な企画力・運営力を養うことを目的とする。  
特に地域共生教育センターの運営スタッフとして、センターの運営や地域活動に直接参加することで、得た学びを各自が報告し、振り返り学習を通じて、上記の目的を達成する。

## 教科書 /Textbooks

適宜指示する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回～4回：事前学習・企画  
第5回～第10回：センター運営活動、地域活動等の実践。  
第11回・12回：活動報告  
第13回・14回：振り返り学習  
第15回：まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

演習における議論への参加度50%  
活動への参加度50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

関連活動に関する文献学習。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 教養演習 A I 【昼】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A I
			GES201F

## 授業の概要 /Course Description

日本における高校教育までの段階では、欧米の学生であれば常識として知っている事柄に触れる機会が著しく少ないため、海外の文献を読む際に理解が不十分になるケースが見受けられる。その面をサポートし、すべての大学生にとって欠かすことのできない人文的な素養を身につけることが、本演習の目的である。

例年、哲学・思想関連の本を一冊セレクトし、それを全員で読み進めている。今回は、あえて「日本」の人類学者である中根千枝の古典的名著『タテ社会の人間関係』を取り上げる。

## 教科書 /Textbooks

中根千枝『タテ社会の人間関係—単一社会の理論』、講談社現代新書、1967年、756円（2015年現在・税込）。

（※本演習ではこのテキストを使用するので、ガイダンス出席後に各自で用意すること。）

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 ガイダンス ( 授業のルール、成績評価等の説明 )
- 2 回 読解と議論 1
- 3 回 読解と議論 2
- 4 回 読解と議論 3
- 5 回 読解と議論 4
- 6 回 読解と議論 5
- 7 回 読解と議論 6
- 8 回 読解と議論 7
- 9 回 読解と議論 8
- 1 0 回 読解と議論 9
- 1 1 回 読解と議論 1 0
- 1 2 回 読解と議論 1 1
- 1 3 回 復習と補助学習 1
- 1 4 回 復習と補助学習 2
- 1 5 回 総括

## 成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況 ( 予習・議論・発言の積極性 ) ...50% レポート...50%

( 2 回以上無断欠席をした場合は、参加の意志がないものとみなし、自動的に不合格判定となる。また、たとえ全 1 5 回出席していたとしても、レポートを提出しなかった者に単位は認めない。 )



# 教養演習 AI 【昼】

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

参加者全員ができるだけ多くの発言機会を得られるよう、授業初回（ガイダンス）時に【受講者数調整】を実施します。そのため、本演習への参加を希望する者は、必ず第1回目の授業に出席する必要があります。  
なお、本演習に履修登録済みの場合（2年生以上）でも、初回の授業を欠席した場合にはその登録を抹消しますので、気を付けてください。卒業を予定している4年生も同じ扱いとします。  
人数調整に際しては、〈友人と一緒に参加するのではなく、たった一人で参加する意欲のある者〉をとくに尊重したいと思います。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では、発言と議論を通じたコミュニケーション意欲が求められると同時に、指定のテーマに沿ったレポートが最後に課せられます（形式・課題内容については7月前半に提示する予定）。就職活動等の理由で継続的に出席できない方は、他の参加者に迷惑をかけることとなりますので、ご遠慮ください。

## キーワード /Keywords

# 教養演習 AI 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 演習  
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 AI
			GES201F

## 授業の概要 /Course Description

この演習では、1年を通して、各自が自分の関心に従って、社会学的な視点・方法によって論文（レポート）を書くことをめざす。それゆえ「教養演習AI」「教養演習AII」の通年受講（1・2学期受講）が望ましい。

AI（1学期）では、まず、以下のことを身につけることを目指す。

- (1) 自らの関心に沿った「問い」の立て方
- (2) 論証戦略（実証方法の道筋）の設定
- (3) 情報収集の方法
- (4) 文献レビューの方法（レジユメの作り方）
- (5) 論文（レポート）の書き方

その上で、自らが書く論文について関連する文献のリストを作成し、テキスト批評を行う。

報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、原則として受講者の最大数は10人とする（それを越える場合、受講者数調整をかけることがある）。

なお、調査実習を行う可能性もある。

## 教科書 /Textbooks

指定しない。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 『レポート・論文の書き方入門』、河野哲也、慶応義塾大学出版会
  - 『よくわかる質的社会調査 - 技法編』、谷富夫・芦田徹郎編著、ミネルヴァ書房
  - 『実証研究の手引き-調査と実験の進め方・まとめ方』、古谷野巨・長田久雄著、ワールドプランニング
- その他、適宜、紹介する。

# 教養演習 AI 【昼】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 「テーマ」について考える
- 第3回 「問い」を立てる
- 第4回 論証戦略を考える（方法を検討する）
- 第5回 情報を集める 1 - 北九大図書館
- 第6回 情報を収集する 2 - CiNii, 国立国会図書館 (NDL-OPAC)、日本社会学会文献データベース、政府統計の総合窓口 (e-Stat)、電子政府の総合窓口 (e-Gov)
- 第7回 論文検討会 1
- 第8回 文献レビュー (テキスト批評) 1
- 第9回 文献レビュー (テキスト批評) 2
- 第10回 文献レビュー (テキスト批評) 3
- 第11回 文献レビュー (テキスト批評) 4
- 第12回 文献レビュー (テキスト批評) 5
- 第13回 文献レビュー (テキスト批評) 6
- 第14回 文献レビュー (テキスト批評) 7
- 第15回 論文検討会 2

## 成績評価の方法 /Assessment Method

参加度・貢献度...40% 課題...60%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

文献レビューの際、報告者は、(1) 文献概要、(2) 内容要約、(3) 論点整理、(4) 議論等を記したレジюмеを準備すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

フィールドワークを通して論文を書く楽しさを感じてください。卒論執筆の準備作業にもなると思います。

## キーワード /Keywords

社会調査、フィールドワーク

# 教養演習 A I 【昼】

担当者名 /Instructor 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 / 2年  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 演習  
クラス /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A I
			GES201F

## 授業の概要 /Course Description

民族問題・多文化との共生について考える：

本演習では、民族問題や多文化の共生に興味がある学生を対象とします。受講者の関心に応じて民族問題や多文化の共生に関する最近の文献を選び、購読し、報告、議論を行うことで、自身の問題関心を深めることを目的とします。したがって、演習参加者には、輪読のテキストを批判的に読み、意見を述べるのが求められます。もちろん、専門用語については講義を適宜行うので、安心してください。ですが、知識を蓄えることが演習の目的ではありません。自分で知識を獲得する方法を学ぶのが演習です。

## 教科書 /Textbooks

受講者の関心に合わせて、民族問題や多文化の共生に関する問題についての文献を1冊程度読む。第1回目の演習では、受講者に興味関心や受講動機を尋ねたうえで、テキストを決定するので、心の準備をしておくこと。  
(候補：塩川伸明『民族とネイション』、塩原良和『共に生きる』など)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて演習中に指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入：本演習の目的説明、テキスト決定
- 第2回 映像からわかること、文章からわかること(講義)
- 第3回 映像からわかること、文章からわかること(議論)
- 第4回 テキスト輪読と議論
- 第5回 テキスト輪読と議論
- 第6回 テキスト輪読と議論
- 第7回 テキスト輪読と議論
- 第8回 テキスト輪読と議論
- 第9回 レポートの書き方、問題関心の深め方について(講義)
- 第10回 テキスト輪読と議論
- 第11回 テキスト輪読と議論
- 第12回 テキスト輪読と議論
- 第13回 テキスト輪読と議論
- 第14回 レポート構想報告
- 第15回 レポート構想報告

## 成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 授業中の報告を含む授業態度50%、期末レポート50%、
- ・ 報告の無断欠席は厳しく減点します。

# 教養演習 A1 【昼】

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

- ・ 輪読するテキストを準備する資金はそれなりに必要です。注意してください。
- ・ 履修を希望する場合、第1回の授業に必ず出席してください。やむを得ない事情があるならば、メールで連絡をください。
- ・ 単にテキストを読んで満足するだけでなく、各自でなんらかの研究関心を持ってください。学期末のレポートでは興味あるテーマについて論じることを求めます。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

担当者の講義で学生の関心が高い「民族」に関する問題をテーマに演習を行います。担当者の授業を履修済みの受講者が来てくれると嬉しいですが、受講していなくても、このようなテーマに興味があれば歓迎します。

## キーワード /Keywords

現代社会、文化、民族、共生

# 教養演習 A I 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 演習  
クラス /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A I
			GES201F

## 授業の概要 /Course Description

文献読解能力を訓練し、レジюме（梗概）の作り方、報告の仕方などを実地に学んでいく。あわせて、日本近代史に対する理解を深め、国際化時代に相応しい教養を涵養する一助としたい。

毎回、全受講者から「レジюме」（梗概）を提出してもらい、次週までに添削して返却します。「レジюме」とは、わかりやすく言うと、この場合には本の内容の要約です。この演習の目的は、レジюмеを作成することを通じて、専門的な文献を読む基礎になる読解力、内容を要約してまとめる力、プレゼンテーション能力などを涵養することにあります。受講者数にもよりますが、毎回1～5名程度の受講生に報告してもらいます。したがって、受講者が少ない場合には毎回報告してもらうことになります。意欲的な学生は大歓迎です。15回の演習で、一冊完読します。

## 教科書 /Textbooks

受講者と相談の上で指定します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜指示します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション。
- 2～14回 文献の輪読。
- 15回 まとめ。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...50% 報告・レジюмеの内容...50%  
無断欠席やレジюмеの未提出は、それぞれたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

毎週必ず、テキストの該当ページを読んで、レジюмеを作ってもらいます。

小林担当の「教養演習 A II」とセットで履修することを希望します。  
この演習は1年生、3年生との合同演習です。  
受講希望者が合計11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

# 教養演習 AI 【昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
教養演習科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 教養演習 AI ( 防衛セミナー ) 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 演習  
クラス /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 AI
			GES201F

## 授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ（少人数・対話型）として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。経験豊富な幹部自衛官（陸海空、尉官・佐官クラス）をほぼ毎回招聘し、それぞれの立場と経験に基づくレクチャーをしてもらい、レクチャーについての質疑応答を行う。

この科目では、防衛問題に関する総合的な知識を獲得し、この分野における課題発見・分析能力を養い、生涯にわたり継続して国防問題に向き合っていける能力の獲得を目指す。また、少人数の演習形式であるから、コミュニケーション能力の獲得も視野に入れる。

また、本授業を履修した者を対象に、授業終了後の夏季休業期間中に3回の学外研修（バス）予定しており、それについては、別科目扱いとなるため、別途、教養演習A「II」のシラバスを参照してください。

## 教科書 /Textbooks

なし。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

『防衛白書』、その他は適宜指示する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス（戸蒔）
- 2回～14回 現段階でゲストは調整中であるが、陸海空の幹部自衛官で比較的若手を中心にする計画である。スケジュールは第1回のガイダンスで発表する。
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度50%、レポート50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

準備などは特に必要ない。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。



# 教養演習 AI ( 防衛セミナー ) 【昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
教養演習科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 教養演習 A I 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /2nd Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 1学期 /1st Semester 授業形態 /Class Format 演習 /Seminar クラス /Class 2年 /2nd Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A I
			GES201F

## 授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。しかしながら、この分野における研究の進歩は急速であり、難しそうに見える多くの用語はカタカナ用語（主として英語）である。そこで、本演習では「語源で学ぶ生命科学」を主たるテーマとし、カタカナ用語の由来とその意味を学ぶことによって、生命科学の基礎知識を身につけるとともに、これをわかりやすく説明するプレゼン力を身につける。また簡単な実験を行うことによって、科学的なものの見方や考え方を身につける。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 文系のための生命科学入門 東京大学生命科学教科書編集委員会 2940円 羊土社 (2011年)
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の確認 ( 1 )
- 3回 基本的事項の確認 ( 2 )
- 4回 基本的事項の確認・テーマの決定
- 5回 グループによるプレゼンテーションの準備 ( 1 )
- 6回 グループによるプレゼンテーションの準備 ( 2 )
- 7回 グループによるプレゼンテーション
- 8回～9回 DNAに関する実験 ( 学期内のいずれかの土曜日午後実施 )
- 10回 個人によるプレゼンテーションの準備
- 11回 個人によるプレゼンテーション ( 1 )
- 12回 個人によるプレゼンテーション ( 2 )
- 13回 関連映画鑑賞
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 10% ( 配布するカードに記入した内容で評価する )、発表 60%、期末レポート 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# 教養演習 AI 【昼】

## 履修上の注意 /Remarks

高校あるいは1年次までに生物を学んでいることが望ましい。  
希望者が多い場合は受講者数の調整を行うので、第1回目には必ず出席すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

生物に関連したテーマを自分で選び、自分で調べ、発表する演習です。自分のレベルに合わせて楽しみましょう。  
さらに学びたい者は関連科目「生命科学と社会」や「人間と生命」も合わせて受講するとよいでしょう。

## キーワード /Keywords

# 教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 石川 敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 演習  
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A II
			GES202F

## 授業の概要 /Course Description

地域社会活動を通じ、広義の地域づくりに参加することで、実践的な企画力・運営力を養うことを目的とする。  
特に地域共生教育センターの運営スタッフとして、センターの運営や地域活動に直接参加することで、得た学びを各自が報告し、振り返り学習を通じて、上記の目的を達成する。

## 教科書 /Textbooks

適宜指示する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回～4回：事前学習・企画  
第5回～第10回：センター運営活動、地域活動等の実践。  
第11回・12回：活動報告  
第13回・14回：振り返り学習  
第15回：まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

演習における議論への参加度50%  
活動への参加度50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

関連活動に関する文献学習。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター, 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 / 2年 /Credits 2単位 /Semester 2学期 / 授業形態 /Class Format 演習 / クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A II
			GES202F

## 授業の概要 /Course Description

本演習では、学内や学外での実習（スキー実習や地域の健康増進プログラムなど）を通して、自分自身を理解する能力、そして人に自分を理解させる能力を身につけることに主眼をおく。さらに、身体活動を通して、初めてあった人や普段話したことがない人の良いところを見つけるためにはどうしたらよいかを見つける術について考えていく。  
また、スキー実習（教養基礎演習II）のリーダーとして、他人と協調することや、新たな自己発見、自己開示能力についても養っていきたい。

## 教科書 /Textbooks

適宜資料配布

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 コミュニケーションゲーム(1)
- 3回 コミュニケーションゲーム(2)
- 4回 地域における健康ニーズ
- 5回 健康と体力
- 6回 地域住民に必要な体力とは
- 7回 健康増進プログラムの計画(2)安全性と有効性
- 8回 健康増進プログラムの計画(3)プログラム作成
- 9回 スキー実習の計画(1)野外活動の意義
- 10回 スキー実習の計画(2)安全性と有効性
- 11回 スキー実習の計画(3)プログラム作成
- 12回 スキー実習の実施(1)
- 13回 スキー実習の実施(2)
- 14回 スキー実習の実施(3)
- 15回 スキー実習の実施(4)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み(スキー実習への参加を義務付け) ... 80% レポート ... 20%  
スキー実習に参加できない学生については単位認定ができませんので注意してください。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 教養演習 A II 【昼】

### 履修上の注意 /Remarks

スキー実習については、別途参加費がかかります。  
スキー実習は、教養基礎演習II（担当：徳永、高西）と同時期に実施します。なお、天候等により実習を実施できない場合、学内での講義に振り替えます。

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

### キーワード /Keywords

# 教養演習 A II 【昼】

担当者名 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A II
			GES202F

## 授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。しかしながら、この分野における進歩は急速であり、一般には知られていないが、意味が正確に理解されていない用語も多い。本演習では「ニュースの中の生命科学」を主たるテーマとし、新聞記事などから対象となるトピック・用語を探し出し、生物学的な背景や用語の意味を学ぶと同時に、それをわかりやすく説明するプレゼン力を身につける。また簡単な実験を行うことによって、科学的なものの見方や考え方を身につける。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 文系のための生命科学入門 東京大学生命科学教科書編集委員会 2940円 羊土社 (2011年)
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の確認 ( 1 )
- 3回 基本的事項の確認 ( 2 )
- 4回 基本的事項の確認・テーマの決定
- 5回 グループによるプレゼンテーションの準備 ( 1 )
- 6回 グループによるプレゼンテーションの準備 ( 2 )
- 7回 グループによるプレゼンテーション
- 8回～9回 DNAに関する実験 ( 学期内のいずれかの土曜日午後実施 )
- 10回 個人によるプレゼンテーションの準備
- 11回 個人によるプレゼンテーション ( 1 )
- 12回 個人によるプレゼンテーション ( 2 )
- 13回 関連映画鑑賞
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 10% ( 配布するカードに記入した内容で評価する )、発表 60%、期末レポート 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 教養演習 A II 【昼】

### 履修上の注意 /Remarks

高校あるいは1年次までに生物を学んでいることが望ましい。  
希望者が多い場合は受講者数の調整を行うので、第1回目には必ず出席すること。

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

生物に関連したテーマを自分で選び、自分で調べ、発表する演習です。自分のレベルに合わせて楽しみましょう。  
さらに学びたい者は関連科目「人間と生命」も合わせて受講するとよいでしょう。

### キーワード /Keywords



# 教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 /2 Years 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2 Semesters 授業形態 /Class Format 演習 /Seminar クラス /Class 2年 /2 Years

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A II
			GES202F

## 授業の概要 /Course Description

この授業は、中学校教諭一種免許状（社会）や高等学校教諭一種免許状（公民）の取得を目指し、4年次に教育実習に行きたいと考えている学生のために、開講します。  
教育実習において、実習生は、実習先の学校で少なくとも数度の授業を担当することになります。塾などで実践経験を積み、自信满满で教育実習に臨む実習生もいるでしょうが、おそらく実習生の多くは、模擬授業を経験する十分な機会にも恵まれないまま、不安な気持ちを抱えながら、教育実習に臨むことになっているのではないのでしょうか。このクラスは、そのような不安を少しでも軽減するために、学習指導要領に対する理解を深めるとともに、模擬授業の実践と相互観察を通じ、受講生のティーチングスキルの向上を図ることを目的としています。  
なおこのクラスでは、高等学校における「現代社会」の授業を題材にして、授業を展開していくこととします。

## 教科書 /Textbooks

高等学校学習指導要領 解説（公民編）  
[http://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/micro\\_detail/\\_icsFiles/afiedfile/2010/09/07/1282000\\_4\\_1.pdf](http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afiedfile/2010/09/07/1282000_4_1.pdf)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

参考書は、初回の授業時に、紹介します。  
また授業の理解に必要な資料等は、適宜、配布します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースガイダンス
- 第2回 高等学校学習指導要領 解説（公民編：現代社会）を読み解く① pp.6-19
- 第3回 高等学校学習指導要領 解説（公民編：現代社会）を読み解く② pp.20-22, 59-61, 62-63
- 第4回 学習指導案の作成①【単元】【目標】【指導計画】【指導上の立場】
- 第5回 学習指導案の作成②【本時案の位置づけ・目標】【導入・展開・まとめ】【学習内容・学習活動】
- 第6回 学習指導案の発表と相互検討
- 第7回 模擬授業における相互観察のポイント【授業構成】【説明】【発問・指示】【板書】【レジュメ】
- 第8回 模擬授業と相互観察①：範囲「人権、国家主権、領土に関する国際法の意義」
- 第9回 模擬授業と相互観察②：範囲「人種・民族問題」
- 第10回 模擬授業と相互観察③：範囲「核兵器と軍縮問題」
- 第11回 模擬授業と相互観察④：範囲「我が国の安全保障と防衛および国際貢献」
- 第12回 模擬授業と相互観察⑤：範囲「南北問題など国際社会における貧困や格差」
- 第13回 模擬授業と相互観察⑥：範囲「国際平和、国際協力や国際協調を推進する上での国際的な組織の役割」
- 第14回 模擬授業と相互観察⑦：範囲「男女が共同して社会に参画することの重要性」
- 第15回 まとめ

# 教養演習 A II 【昼】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加の程度をもとに総合的に評価します。具体的には、出席状況、課題・模擬授業などへの取り組み状況、授業態度、貢献度（積極的な発言など）によって総合的に評価することになります。

ゼミへの参加...100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

学習指導案の作成や模擬授業の準備等、正規の授業時間外にも時間を取ってもらうことになります。

受講申請にあたってはこの点に注意してください。

①社会科教育法AまたはC，もしくは公民科教育法Aを受講していること、②社会科教育法BまたはD，もしくは公民科教育法Bを受講中であること、を受講の条件とします。

なお最大でも10人程度を予定しています。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教員を目指す人、自分の夢に向かって、自分の力を磨いてください。

## キーワード /Keywords

【公民】【現代社会】【学習指導要領】【教材研究】【学習指導案】【模擬授業】【相互観察】

# 教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 / 2年 /Credits 2単位 /Semester 2学期 / 授業形態 /Class Format 演習 / クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A II
			GES202F

**授業の概要 /Course Description**  
ゼミ論文をかいてもらう（400字×20枚以上）。受講者数にもよるが、毎回学生諸君に自分の研究テーマについて報告してもらい、それについての議論を深めていく。

**教科書 /Textbooks**  
コピーして配布します。

**参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )**  
山内志朗『ぎりぎり合格への論文マニュアル』（平凡社新書、2001年）700円。

**授業計画・内容 /Class schedules and Contents**  
1回 演習運営方針に関する話し合い。  
2～14回 各自の研究報告（同時並行的に論文執筆）。  
15回 まとめ。

**成績評価の方法 /Assessment Method**  
日常的な授業への取り組み...50%課題...50%  
無断欠席はたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。なお、ゼミ論文未提出は「D」評価となります。

**事前・事後学習の内容 /Preparation and Review**

**履修上の注意 /Remarks**  
毎週こつこつと原稿を作っておいて下さい。  
小林担当の「教養演習 AI」とセットで履修することを希望します。  
AIを履修できない場合には、事前に相談して下さい。  
この演習は1年生、3年生との合同演習です。  
受講希望者が合計で11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

**担当者からのメッセージ /Message from the Instructor**

**キーワード /Keywords**

# 教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 市原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 演習  
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A II
			GES202F

## 授業の概要 /Course Description

宗教と文化について考える：

本演習では、現代世界の宗教と文化に興味がある学生を対象とします。受講者の関心に応じて現代世界の宗教と文化に関する最近の文献を選び、購読し、報告、議論を行うことで、自身の問題関心を深めることを目的とします。したがって、演習参加者には、輪読のテキストについて各自批判的によみ、意見を述べるのが求められます。もちろん、専門用語については講義を適宜行うので、安心してください。ですが、知識を蓄えることが演習の目的ではありません。自分で知識を獲得する方法を学ぶのが演習です。

## 教科書 /Textbooks

受講者の関心に合わせて、現代世界の宗教と文化に関する問題についての文献を1冊程度読む。第1回目の演習では、受講者に興味関心や受講動機を尋ねたうえで、テキストを決定するので、心の準備しておくこと。  
(候補：山中弘編『宗教とツーリズム』、吉田匡興ほか編『宗教の人類学』など)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて演習中に指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入：本演習の目的説明、テキスト決定
- 第2回 映像からわかること、文章からわかること（講義）
- 第3回 映像からわかること、文章からわかること（議論）
- 第4回 テキスト輪読と議論
- 第5回 テキスト輪読と議論
- 第6回 テキスト輪読と議論
- 第7回 テキスト輪読と議論
- 第8回 テキスト輪読と議論
- 第9回 レポートの書き方、問題関心の深め方について（講義）
- 第10回 テキスト輪読と議論
- 第11回 テキスト輪読と議論
- 第12回 テキスト輪読と議論
- 第13回 テキスト輪読と議論
- 第14回 レポート構想報告
- 第15回 レポート構想報告

## 成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 授業中の報告を含む授業態度50%、期末レポート50%、
- ・ 報告の無断欠席は厳しく減点します。

## 教養演習 A II 【昼】

### 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

### 履修上の注意 /Remarks

- ・ 輪読するテキストを準備する資金はそれなりに必要です。注意してください。
- ・ 履修を希望する場合、第1回の授業に必ず出席してください。やむを得ない事情があるならば、メールで連絡をください。
- ・ 単にテキストを読んで満足するだけでなく、各自でなんらかの研究関心を持ってください。学期末のレポートでは興味あるテーマについて論じることを求めます。

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ビジョン科目「異文化理解の基礎（人間と文化）」で、ここ数年学生の関心が高い宗教に関わる文化をテーマに演習を行います。担当者の授業を履修済みの受講者が来てくれると嬉しいですが、受講していなくても、このようなテーマに興味があれば歓迎します。

### キーワード /Keywords

現代社会、文化、宗教性

# 教養演習 A II ( 防衛セミナー ) 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次  
 単位 /Credits 2単位  
 学期 /Semester 集中  
 授業形態 /Class Format 演習  
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A II
			GES202F

## 授業の概要 /Course Description

教養演習AIIの受講者を対象に、講義で学んだ防衛問題の知識を補完するため、バスで学外の自衛隊基地等に赴き、施設見学、訓練見学、講話の聴講を行う。内容は、以下の通り。

- ①この科目を受講できるのは、防衛セミナーI( 教養基礎演習I、あるいは、教養演習AI、教養演習BI )を受講した者に限られる。「I」を受講しないで、「II」だけ受講することはできない。詳細は、「I」で説明するので、希望者は必ず初回授業に出席すること。
- ②研修は、夏季休業期間中( 8月中下旬~9月上旬 )にかけて、3回実施する。3回の日程は、現在未定であり、別途指示する。陸上自衛隊駐屯地、航空自衛隊基地、海上自衛隊基地まで、大学からチャーターしたバスで移動し、そこで研修を行い、大学で解散する。よって、交通費等はかからない。ただし、昼食は、隊員食堂で体験喫食を行うことを予定しており、その分の費用は集金する( 500円程度+αのみかかります )。
- ③バスの定員の関係から、受講者は50名を最大とする。希望者が50名を超える場合、抽選を行う。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

防衛白書

# 教養演習 AII ( 防衛セミナー ) 【昼】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

詳細は、「I」の初回授業時のガイダンスで説明する。

計3回の学外研修時間の総計は、23時間以上とする(90分授業に換算し、15回分の時間)。詳細は、計画確定時に説明する。目安としては、以下のような行程となる。

例

学内事前研修(3時間)

第1回研修 海上自衛隊・佐世保基地見学(7時間30分)  
バス内での講義・ビデオ鑑賞(2時間30分)+現地での研修(5時間)

第2回研修 航空自衛隊・築城基地見学(5時間)  
現地での研修(5時間)

第3回研修 陸上自衛隊・健軍駐屯地見学(7時間30分)  
バス内での講義・ビデオ鑑賞(2時間30分)+現地での研修(5時間)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度50%+レポート50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

かならず、「I」の初回授業に出席すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A II
			GES202F

## 授業の概要 /Course Description

この演習では、1年を通して、各自が自分の関心に従って、社会的な視点・方法によってレポート（論文）を書くことをめざす。したがって、「教養演習AI」「教養演習AII」の通年（1学期・2学期）受講が望ましい。

AII（2学期）では、まず、教養演習AIで各自がたてた「問い」について「論文執筆計画書」を書く。さらに、その「計画書」中の「文献リスト」をもとに、各回2名ずつ、関連文献について内容報告（テキスト批評）をしてもらい、議論を行う。なお、1～2ヶ月に1度くらいの割合で、論文について進捗状況の報告会を行う。

また、必要に応じて、量的方法（アンケート調査など）、質的方法（インタビューなど）についても説明する。

AIと同様、報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、受講者の最大数は10人とする（それを越える場合、受講者数調整をかける）。なお、調査実習を行う可能性もある。

## 教科書 /Textbooks

指定しない。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「論文執筆計画書」の報告
- 第2回 文献レビュー（テキスト批評）1
- 第3回 文献レビュー（テキスト批評）2
- 第4回 文献レビュー（テキスト批評）3
- 第5回 文献レビュー（テキスト批評）4
- 第6回 論文検討会3
- 第7回 調査法の検討1
- 第8回 調査法の検討2
- 第9回 文献レビュー（テキスト批評）5
- 第10回 文献レビュー（テキスト批評）6
- 第11回 論文検討会4
- 第12回 文献レビュー（テキスト批評）7
- 第13回 文献レビュー（テキスト批評）8
- 第14回 レポート報告会
- 第15回 まとめ



# 教養演習 A II 【昼】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

参加度・貢献度...30% 課題 ( 論文 ) ...70%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

文献レビューの際、報告者は、( 1 ) 文献概要、( 2 ) 内容要約、( 3 ) 論点整理、( 4 ) 議論を記したレジюмеを準備すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

フィールドワークを通して論文を書く楽しさを感じてください。卒論執筆の準備作業にもなると思います。

## キーワード /Keywords

社会調査、フィールドワーク

# 教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 /Semester 2学期 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A II
			GES202F

## 授業の概要 /Course Description

日本における高校教育までの段階では、欧米の学生であれば常識として知っている事柄に触れる機会が著しく少ないため、海外の文献を読む際に理解が不十分になるケースが見受けられる。その面をサポートし、すべての大学生にとって欠かすことのできない人文的な素養を身につけることが、本演習の目的である。

例年、哲学・思想関連の本を一冊セレクトし、それを全員で読み進めている。今回は、ユング派心理学者の故・河合隼雄による『家族関係を考える』を取り上げる。日本をよりよく理解するために、西洋の文化・宗教との対比が欠かせないことを教えてくれる貴重な論考である。

## 教科書 /Textbooks

河合隼雄『家族関係を考える』、講談社現代新書、1980年、778円（税込）。  
(※本演習ではこのテキストを使用するので、ガイダンス出席後に各自で購入しておくこと。)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 ガイダンス ( 授業のルール、成績評価等の説明 )
- 2 回 読解と議論 1
- 3 回 読解と議論 2
- 4 回 読解と議論 3
- 5 回 読解と議論 4
- 6 回 読解と議論 5
- 7 回 読解と議論 6
- 8 回 読解と議論 7
- 9 回 読解と議論 8
- 10 回 読解と議論 9
- 11 回 読解と議論 10
- 12 回 読解と議論 11
- 13 回 復習と補助学習 1
- 14 回 復習と補助学習 2
- 15 回 総括

## 成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況 ( 予習・議論・発言の積極性 ) ...50% レポート...50%  
( 2 回以上無断欠席をした場合は、参加の意志がないものとみなし、自動的に不合格判定となる。また、たとえ全 15 回出席していたとしても、レポートを提出しなかった者に単位は認めない。 )

## 教養演習 A II 【昼】

### 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

### 履修上の注意 /Remarks

参加を希望する場合は、初回時に指示と説明があるので、必ず出席してください。

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では、発言と議論を通じたコミュニケーション意欲が求められると同時に、指定のテーマに沿ったレポートが最後に課せられます（形式・課題内容については12月後半に提示する予定）。就職活動等の理由で継続的に出席できない方は、他の参加者に迷惑をかけることとなりますので、ご遠慮ください。

### キーワード /Keywords

# 教養演習 B I 【昼】

担当者名 /Instructor 石川 敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 B I
			GES301F

## 授業の概要 /Course Description

地域社会活動を通じ、広義の地域づくりに参加することで、実践力・総合力を養うことを目的とする。  
特に地域共生教育センターの運営スタッフとして、センターの運営や地域活動に直接参加することで、得た学びを各自が報告し、振り返り学習を通じて、上記の目的を達成する。

## 教科書 /Textbooks

適宜指示する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回～4回：事前学習・企画  
第5回～第10回：センター運営活動、地域活動等の実践。  
第11回・12回：活動報告  
第13回・14回：振り返り学習  
第15回：まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

演習における議論への参加度20%  
活動への参加度50%  
活動報告書30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

関連活動に関する文献学習。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 教養演習 B I 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター, 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 3年  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 演習  
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 B I
			GES301F

## 授業の概要 /Course Description

本演習では、身体活動を通して、初めてあった人や知らない人同士でどうしたら自然に打ち解け、お互いに楽しみを共有できるかについて主眼をおく。そこで、学内での実習や学外での実習（キャンプ実習や地域の中高齢者を対象とした運動プログラム）を通して、教示の仕方や振る舞い方などでどのように楽しみを共有できるかについて考えていきたい。また、社会人に必要なマナーや振る舞いについても考えていく。キャンプ実習（教養基礎演習I）のリーダーとして、他人と協調することや、新たな自己発見、自己開示能力についても養っていきたい。

## 教科書 /Textbooks

適宜資料配布

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 リーダーとリーダーシップ
- 3回 安全性と有効性
- 4回 野外活動とは
- 5回 キャンプ実習の計画(1) リーダーとしての関わり
- 6回 キャンプ実習の計画(2) 安全性と有効性
- 7回 キャンプ実習の計画(3) プログラム作成
- 8回 キャンプ実習の計画(4) 野外炊飯
- 9回 キャンプ実習の計画(5) テント設営
- 10回 キャンプ実習の計画(6) グループゲーム
- 11回 キャンプ実習の計画(7) ネイチャーゲーム
- 12回 キャンプ実習の実施(1)
- 13回 キャンプ実習の実施(2)
- 14回 キャンプ実習の実施(3)
- 15回 キャンプ実習のまとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み（キャンプ実習の参加を義務付け） ... 80% レポート ... 20%  
キャンプ実習に参加できない学生については単位認定ができませんので注意してください。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 教養演習BI【昼】

### 履修上の注意 /Remarks

キャンプ実習については、別途参加費がかかります。(約4000円)。  
キャンプ実習は、教養基礎演習I(担当:徳永、高西)と同時期に実施します。なお、天候等により実習を実施できない場合、学内での講義に振り替えます。

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

### キーワード /Keywords

# 教養演習 B I 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 /3rd Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 1学期 /1st Semester 授業形態 /Class Format 演習 /Seminar クラス /Class 3年 /3rd Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 B I
			GES301F

## 授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。しかしながら、この分野における研究の進歩は急速であり、難しそうに見える多くの用語はカタカナ用語（主として英語）である。そこで、本演習では「語源で学ぶ生命科学」を主たるテーマとし、カタカナ用語の由来とその意味を学ぶことによって、生命科学の基礎知識を身につけるとともに、これをわかりやすく説明するプレゼン力を身につける。また簡単な実験を行うことによって、科学的なものの見方や考え方を身につける。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 文系のための生命科学入門 東京大学生命科学教科書編集委員会 2940円 羊土社 (2011年)
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の確認 ( 1 )
- 3回 基本的事項の確認 ( 2 )
- 4回 基本的事項の確認・テーマの決定
- 5回 グループによるプレゼンテーションの準備 ( 1 )
- 6回 グループによるプレゼンテーションの準備 ( 2 )
- 7回 グループによるプレゼンテーション
- 8回～9回 DNAに関する実験 ( 学期内のいずれかの土曜日午後実施 )
- 10回 個人によるプレゼンテーションの準備
- 11回 個人によるプレゼンテーション ( 1 )
- 12回 個人によるプレゼンテーション ( 2 )
- 13回 関連映画鑑賞
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 10% ( 配布するカードに記入した内容で評価する )、発表 60%、期末レポート 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# 教養演習BI【昼】

## 履修上の注意 /Remarks

高校あるいは2年次までに生物を学んでいることが望ましい。  
希望者が多い場合は受講者数の調整を行うので、第1回目には必ず出席すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

生物に関連したテーマを自分で選び、自分で調べ、発表する演習です。自分のレベルに合わせて楽しみましょう。  
さらに学びたい者は関連科目「生命科学と社会」「人間と生命」も合わせて受講するとよいでしょう。

## キーワード /Keywords



# 教養演習 B I 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 3年  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 演習  
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 B I
			GES301F

## 授業の概要 /Course Description

文献読解能力を訓練し、レジюме（梗概）の作り方、報告の仕方などを実地に学んでいく。あわせて、日本近代史に対する理解を深め、国際化時代に相応しい教養を涵養する一助としたい。

毎回、全受講者から「レジюме」（梗概）を提出してもらい、次週までに添削して返却します。「レジюме」とは、わかりやすく言うと、この場合には本の内容の要約です。この演習の目的は、レジюмеを作成することを通じて、専門的な文献を読む基礎になる読解力、内容を要約してまとめる力、プレゼンテーション能力などを涵養することにあります。受講者数にもよりますが、毎回1～5名程度の受講生に報告してもらいます。したがって、受講者が少ない場合には毎回報告してもらうことになります。意欲的な学生は大歓迎です。15回の演習で、一冊完読します。

## 教科書 /Textbooks

受講者と相談の上で指定します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜指示します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目 オリエンテーション。
- 2～14回 文献の輪読。
- 15回 まとめ。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...50% 報告・レジюмеの内容...50%  
無断欠席やレジюмеの未提出は、それぞれたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

毎週必ず、テキストの該当ページを読んで、レジюмеを作ってもらいます。  
小林担当の「教養演習 AI・AII」「教養演習 BII」とセットで履修することを希望します。  
AI・AIIを履修できなかった場合、事前に相談して下さい。  
この演習は1年生、2年生との合同演習です。  
受講希望者が合計11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

# 教養演習BI【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 教養演習 B I 【昼】

担当者名 /Instructor 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 演習  
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 B I
			GES301F

## 授業の概要 /Course Description

民族問題・多文化との共生について考える：

本演習では、民族問題や多文化の共生に興味がある学生を対象とします。受講者の関心に応じて民族問題や多文化の共生に関する最近の文献を選び、購読し、報告、議論を行うことで、自身の問題関心を深めることを目的とします。したがって、演習参加者には、輪読のテキストを批判的に読み、意見を述べるのが求められます。もちろん、専門用語については講義を適宜行うので、安心してください。ですが、知識を蓄えることが演習の目的ではありません。自分で知識を獲得する方法を学ぶのが演習です。

## 教科書 /Textbooks

受講者の関心に合わせて、民族問題や多文化の共生に関する問題についての文献を1冊程度読む。第1回目の演習では、受講者に興味関心や受講動機を尋ねたうえで、テキストを決定するので、心の準備をしておくこと。

(候補：塩川伸明『民族とネイション』、塩原良和『共に生きる』など)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて演習中に指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入：本演習の目的説明、テキスト決定
- 第2回 映像からわかること、文章からわかること(講義)
- 第3回 映像からわかること、文章からわかること(議論)
- 第4回 テキスト輪読と議論
- 第5回 テキスト輪読と議論
- 第6回 テキスト輪読と議論
- 第7回 テキスト輪読と議論
- 第8回 テキスト輪読と議論
- 第9回 レポートの書き方、問題関心の深め方について(講義)
- 第10回 テキスト輪読と議論
- 第11回 テキスト輪読と議論
- 第12回 テキスト輪読と議論
- 第13回 テキスト輪読と議論
- 第14回 レポート構想報告
- 第15回 レポート構想報告

## 成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 授業中の報告を含む授業態度50%、期末レポート50%、
- ・ 報告の無断欠席は厳しく減点します。

# 教養演習BI【昼】

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

- ・ 輪読するテキストを準備する資金はそれなりに必要です。注意してください。
- ・ 履修を希望する場合、第1回の授業に必ず出席してください。やむを得ない事情があるならば、メールで連絡をください。
- ・ 単にテキストを読んで満足するだけでなく、各自でなんらかの研究関心を持ってください。学期末のレポートでは興味あるテーマについて論じることを求めます。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

担当者の講義で学生の関心が高い「民族」に関する問題をテーマに演習を行います。担当者の授業を履修済みの受講者が来てくれると嬉しいですが、受講していなくても、このようなテーマに興味があれば歓迎します。

## キーワード /Keywords

現代社会、文化、民族、共生

# 教養演習BI ( 防衛セミナー ) 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 3年  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 演習  
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習BI
			GES301F

## 授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ（少人数・対話型）として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。経験豊富な幹部自衛官（陸海空、尉官・佐官クラス）をほぼ毎回招聘し、それぞれの立場と経験に基づくレクチャーをしてもらい、レクチャーについての質疑応答を行う。

この科目では、防衛問題に関する総合的な知識を獲得し、この分野における課題発見・分析能力を養い、生涯にわたり継続して国防問題に向き合っていける能力の獲得を目指す。また、少人数の演習形式であるから、コミュニケーション能力の獲得も視野に入れる。

なお、本授業の履修者を対象に、3回の学外研修（夏季休業期間中にバスで陸海空自衛隊の見学を行う）を行う。これは、別科目の教養演習B「II」として実施するので、別途、そちらのシラバスを参照してください。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

『防衛白書』、その他は適宜指示する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス（戸蒔）
- 2回～14回 現段階でゲストは調整中であるが、陸海空の幹部自衛官で比較的若手を中心にする計画である。スケジュールは第1回のガイダンスで発表する。
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度50%、レポート50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

準備などは特に必要ない。また、将来、自衛隊の幹部候補生試験を受ける可能性のある者は、受講を強く勧める。

# 教養演習BI(防衛セミナー)【昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
教養演習科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 教養演習BI【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 演習  
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習BI
			GES301F

## 授業の概要 /Course Description

この演習では、1年を通して、各自が自分の関心に従って、社会学的な視点・方法によって論文（レポート）を書くことをめざす。それゆえ「教養演習BI」「教養演習BII」の通年受講（1・2学期受講）が望ましい。

BI（1学期）では、まず、以下のことを身につけることを目指す。

- (1) 自らの関心に沿った「問い」の立て方
- (2) 論証戦略（実証方法の道筋）の設定
- (3) 情報収集の方法
- (4) 論文（レポート）の書き方

その上で、自らが書く論文について関連する文献のリストを作成し、テキスト批評を行う。

報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、原則として受講者の最大数は10人とする（それを越える場合、受講者数調整をかけることがある）。

なお、調査実習を行う可能性もある。

## 教科書 /Textbooks

指定しない。

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

- 『レポート・論文の書き方入門』、河野哲也、慶応義塾大学出版会
  - 『よくわかる質的社会調査 - 技法編』、谷富夫・芦田徹郎編著、ミネルヴァ書房
  - 『実証研究の手引き-調査と実験の進め方・まとめ方』、古谷野亘・長田久雄著、ワールドプランニング
- その他、適宜、紹介する。

# 教養演習BI【昼】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 「テーマ」について考える
- 第3回 「問い」を立てる
- 第4回 論証戦略を考える(方法を検討する)
- 第5回 情報を集める1 - 北九大図書館
- 第6回 情報を収集する2 - CiNii, 国立国会図書館(NDL-OPAC)、日本社会学会文献データベース、政府統計の総合窓口(e-Stat)、電子政府の総合窓口(e-Gov)
- 第7回 論文検討会1
- 第8回 文献レビュー(テキスト批評)1
- 第9回 文献レビュー(テキスト批評)2
- 第10回 文献レビュー(テキスト批評)3
- 第11回 文献レビュー(テキスト批評)4
- 第12回 文献レビュー(テキスト批評)5
- 第13回 文献レビュー(テキスト批評)6
- 第14回 文献レビュー(テキスト批評)7
- 第15回 論文検討会2

## 成績評価の方法 /Assessment Method

参加度・貢献度...40% 課題...60%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

文献レビューの際、報告者は、(1)文献概要、(2)内容要約、(3)論点整理、(4)議論等を記したレジюмеを準備すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

フィールドワークを通して論文を書く楽しさを感じてください。卒論執筆の準備作業にもなると思います。

## キーワード /Keywords

社会調査、フィールドワーク



# 教養演習 B I 【昼】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 B I
			GES301F

## 授業の概要 /Course Description

日本における高校教育までの段階では、欧米の学生であれば常識として知っている事柄に触れる機会が著しく少ないため、海外の文献を読む際に理解が不十分になるケースが見受けられる。その面をサポートし、すべての大学生にとって欠かすことのできない人文的な素養を身につけることが、本演習の目的である。

例年、哲学・思想関連の本を一冊セレクトし、それを全員で読み進めている。今回は、あえて「日本」の人類学者である中根千枝の古典的名著『タテ社会の人間関係』を取り上げる。

## 教科書 /Textbooks

中根千枝『タテ社会の人間関係—単一社会の理論』、講談社現代新書、1967年、756円（2015年現在・税込）。

（※本演習ではこのテキストを使用するので、ガイダンス出席後に各自で用意すること。）

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 ガイダンス ( 授業のルール、成績評価等の説明 )
- 2 回 読解と議論 1
- 3 回 読解と議論 2
- 4 回 読解と議論 3
- 5 回 読解と議論 4
- 6 回 読解と議論 5
- 7 回 読解と議論 6
- 8 回 読解と議論 7
- 9 回 読解と議論 8
- 1 0 回 読解と議論 9
- 1 1 回 読解と議論 1 0
- 1 2 回 読解と議論 1 1
- 1 3 回 復習と補助学習 1
- 1 4 回 復習と補助学習 2
- 1 5 回 総括

## 成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況 ( 予習・議論・発言の積極性 ) ...50% レポート...50%

( 2 回以上無断欠席をした場合は、参加の意志がないもの見なし、自動的に不合格判定となる。また、たとえ全 1 5 回出席していたとしても、レポートを提出しなかった者に単位は認めない。 )

# 教養演習BI【昼】

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

参加者全員ができるだけ多くの発言機会を得られるよう、授業初回（ガイダンス）時に【受講者数調整】を実施します。そのため、本演習への参加を希望する者は、必ず第1回目の授業に出席する必要があります。  
なお、本演習に履修登録済みの場合（2年生以上）でも、初回の授業を欠席した場合にはその登録を抹消しますので、気を付けてください。卒業を予定している4年生も同じ扱いとします。  
人数調整に際しては、〈友人と一緒に参加するのではなく、たった一人で参加する意欲のある者〉をとくに尊重したいと思います。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では、発言と議論を通じたコミュニケーション意欲が求められると同時に、指定のテーマに沿ったレポートが最後に課せられます（形式・課題内容については7月前半に提示する予定）。就職活動等の理由で継続的に出席できない方は、他の参加者に迷惑をかけることとなりますので、ご遠慮ください。

## キーワード /Keywords

# 教養演習 B II 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター, 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 B II
			GES302F

## 授業の概要 /Course Description

本演習では、学内や学外での実習（スキー実習や地域の健康増進プログラムなど）を通して、自分自身を理解する能力、そして人に自分を理解させる能力はもちろんのこと社会人として必要なマナー（振る舞いなど）を身につけることに主眼をおく。さらに、初めてあった人や普段話したことがない人の良いところを見つけるためにはどうしたらよいかを見つけるスキルについて考えていく。  
また、スキー実習（教養基礎演習II）のリーダーとして、他人と協調することや、新たな自己発見、自己開示能力についても養っていきたい。

## 教科書 /Textbooks

適宜資料配布

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 コミュニケーションゲーム ( 1 )
- 3回 コミュニケーションゲーム ( 2 )
- 4回 地域における健康ニーズ
- 5回 健康と体力
- 6回 地域住民に必要な体力とは
- 7回 健康増進プログラムの計画 ( 2 ) 安全性と有効性
- 8回 健康増進プログラムの計画 ( 3 ) プログラム作成
- 9回 スキー実習の計画 ( 1 ) 野外活動の意義
- 10回 スキー実習の計画 ( 2 ) 安全性と有効性
- 11回 スキー実習の計画 ( 3 ) プログラム作成
- 12回 スキー実習の実施 ( 1 )
- 13回 スキー実習の実施 ( 2 )
- 14回 スキー実習の実施 ( 3 )
- 15回 スキー実習の実施 ( 4 )

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み（スキー実習への参加を義務） ... 80% レポート ... 20%  
スキー実習に参加できない学生については単位認定ができませんので注意してください。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 教養演習BⅡ【昼】

### 履修上の注意 /Remarks

スキー実習については、別途参加費がかかります。  
スキー実習は、教養基礎演習Ⅱ(担当:徳永、高西)と同時期に実施します。なお、天候等により実習を実施できない場合は、学内での講義に振り替えます。

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

### キーワード /Keywords

# 教養演習 B II 【昼】

担当者名 /Instructor 石川 敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 B II
			GES302F

## 授業の概要 /Course Description

地域社会活動を通じ、広義の地域づくりに参加することで、実践力・総合力を養うことを目的とする。  
特に地域共生教育センターの運営スタッフとして、センターの運営や地域活動に直接参加することで、得た学びを各自が報告し、振り返り学習を通じて、上記の目的を達成する。

## 教科書 /Textbooks

適宜指示する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回～4回：事前学習・企画  
第5回～第10回：センター運営活動、地域活動等の実践。  
第11回・12回：活動報告  
第13回・14回：振り返り学習  
第15回：まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

演習における議論への参加度20%  
活動への参加度50%  
活動報告書30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

関連活動に関する文献学習。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 教養演習 B II 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス 3年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 B II
			GES302F

## 授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。しかしながら、この分野における進歩は急速であり、一般には知られていないが、意味が正確に理解されていない用語も多い。本演習では「ニュースの中の生命科学」を主たるテーマとし、新聞記事などから対象となるトピック・用語を探し出し、生物学的な背景や用語の意味を学ぶと同時に、それをわかりやすく説明するプレゼン力を身につける。また簡単な実験を行うことによって、科学的なものの見方や考え方を身につける。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 文系のための生命科学入門 東京大学生命科学教科書編集委員会 2940円 羊土社 (2011年)
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の確認 ( 1 )
- 3回 基本的事項の確認 ( 2 )
- 4回 基本的事項の確認・テーマの決定
- 5回 グループによるプレゼンテーションの準備 ( 1 )
- 6回 グループによるプレゼンテーションの準備 ( 2 )
- 7回 グループによるプレゼンテーション
- 8回～9回 DNAに関する実験 ( 学期内のいずれかの土曜日午後実施 )
- 10回 個人によるプレゼンテーションの準備
- 11回 個人によるプレゼンテーション ( 1 )
- 12回 個人によるプレゼンテーション ( 2 )
- 13回 関連映画鑑賞
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 40% ( 配布するカードに記入した内容で評価する )、発表 40%、課題 20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 教養演習BⅡ【昼】

### 履修上の注意 /Remarks

高校あるいは2年次までに生物を学んでいることが望ましい。  
希望者が多い場合は受講者数の調整を行うので、第1回目には必ず出席すること。

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

生物に関連したテーマを自分で選び、自分で調べ、発表する演習です。自分のレベルに合わせて楽しみましょう。  
さらに学びたい者は関連科目「人間と生命」も合わせて受講するとよいでしょう。

### キーワード /Keywords

# 教養演習B II 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 3年  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 演習  
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習B II
			GES302F

## 授業の概要 /Course Description

ゼミ論文をかいてもらう（400字×30枚以上）。受講者数にもよるが、毎回学生諸君に自分の研究テーマについて報告してもらい、それについての議論を深めていく。

## 教科書 /Textbooks

コピーして配布します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

山内志朗『ぎりぎり合格への論文マニュアル』（平凡社新書、2001年）700円。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 演習運営方針に関する話し合い。  
第2回～14回 各自の研究報告（同時並行的に論文執筆）。  
第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...50% 課題...50%  
無断欠席はたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。なお、ゼミ論文未提出は「D」評価となります。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

毎週、こつこつと原稿を書いておいて下さい。  
小林担当の「教養演習AI・AII」「教養演習BI」とセットで履修することを希望します。  
以上の科目を履修できなかった場合には、事前に相談して下さい。  
この演習は1年生、2年生との合同演習です。受講希望者が合計11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords



# 教養演習 B II 【昼】

担当者名 /Instructor 市原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 演習  
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 B II
			GES302F

## 授業の概要 /Course Description

宗教と文化について考える：

本演習では、現代世界の宗教と文化に興味がある学生を対象とします。受講者の関心に応じて現代世界の宗教と文化に関する最近の文献を選び、購読し、報告、議論を行うことで、自身の問題関心を深めることを目的とします。したがって、演習参加者には、輪読のテキストについて各自批判的によみ、意見を述べるのが求められます。もちろん、専門用語については講義を適宜行うので、安心してください。ですが、知識を蓄えることが演習の目的ではありません。自分で知識を獲得する方法を学ぶのが演習です。

## 教科書 /Textbooks

受講者の関心に合わせて、現代世界の宗教と文化に関する問題についての文献を1冊程度読む。第1回目の演習では、受講者に興味関心や受講動機を尋ねたうえで、テキストを決定するので、心の準備をしておくこと。

(候補：山中弘編『宗教とツーリズム』、吉田匡興ほか編『宗教の人類学』など)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて演習中に指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入：本演習の目的説明、テキスト決定
- 第2回 映像からわかること、文章からわかること(講義)
- 第3回 映像からわかること、文章からわかること(議論)
- 第4回 テキスト輪読と議論
- 第5回 テキスト輪読と議論
- 第6回 テキスト輪読と議論
- 第7回 テキスト輪読と議論
- 第8回 テキスト輪読と議論
- 第9回 レポートの書き方、問題関心の深め方について(講義)
- 第10回 テキスト輪読と議論
- 第11回 テキスト輪読と議論
- 第12回 テキスト輪読と議論
- 第13回 テキスト輪読と議論
- 第14回 レポート構想報告
- 第15回 レポート構想報告

## 教養演習BⅡ【昼】

### 成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 授業中の報告を含む授業態度50%、期末レポート50%、
- ・ 報告の無断欠席は厳しく減点します。

### 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

### 履修上の注意 /Remarks

- ・ 輪読するテキストを準備する資金はそれなりに必要です。注意してください。
- ・ 履修を希望する場合、第1回の授業に必ず出席してください。やむを得ない事情があるならば、メールで連絡をください。
- ・ 単にテキストを読んで満足するだけでなく、各自でなんらかの研究関心を持ってください。学期末のレポートでは興味あるテーマについて論じることを求めます。

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ビジョン科目「異文化理解の基礎（人間と文化）」で、ここ数年学生の関心が高い宗教に関わる文化をテーマに演習を行います。担当者の授業を履修済みの受講者が来てくれると嬉しいですが、受講していなくても、このようなテーマに興味があれば歓迎します。

### キーワード /Keywords

現代社会、文化、宗教性

# 教養演習B II ( 防衛セミナー ) 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次  
 単位 /Credits 2単位  
 学期 /Semester 集中  
 授業形態 /Class Format 演習  
 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習B II
			GES302F

## 授業の概要 /Course Description

教養演習B Iの受講者を対象に、講義で学んだ防衛問題の知識を補完するため、バスで学外の自衛隊基地等に赴き、施設見学、訓練見学、講話の聴講を行う。内容は、以下の通り。

- ①この科目を受講できるのは、防衛セミナーI( 教養基礎演習I、あるいは、教養演習AI、教養演習BI )を受講した者に限られる。「I」を受講しないで、「II」だけ受講することはできない。詳細は、「I」で説明するので、希望者は必ず初回授業に出席すること。
- ②研修は、夏季休業期間中( 8月中下旬~9月上旬 )にかけて、3回実施する。3回の日程は、現在未定であり、別途指示する。陸上自衛隊駐屯地、航空自衛隊基地、海上自衛隊基地まで、大学からチャーターしたバスで移動し、そこで研修を行い、大学で解散する。よって、交通費等はかからない。ただし、昼食は、隊員食堂で体験喫食を行うことを予定しており、その分の費用は集金する( 500円程度+αのみかかります )。
- ③バスの定員の関係から、受講者は50名を最大とする。希望者が50名を超える場合、抽選を行う。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

防衛白書

# 教養演習BII (防衛セミナー) 【昼】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

詳細は、「I」の初回授業時のガイダンスで説明する。

計3回の学外研修時間の総計は、23時間以上とする(90分授業に換算し、15回分の時間)。詳細は、計画確定時に説明する。目安としては、以下のような行程となる。

例

学内事前研修(3時間)

第1回研修 海上自衛隊・佐世保基地見学(7時間30分)  
バス内での講義・ビデオ鑑賞(2時間30分)+現地での研修(5時間)

第2回研修 航空自衛隊・築城基地見学(5時間)  
現地での研修(5時間)

第3回研修 陸上自衛隊・健軍駐屯地見学(7時間30分)  
バス内での講義・ビデオ鑑賞(2時間30分)+現地での研修(5時間)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度50%+レポート50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

かならず、「I」の初回授業に出席すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 教養演習BII【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標		
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。	
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。	
			教養演習BII	GES302F

## 授業の概要 /Course Description

この演習では、1年を通して、各自が自分の関心に従って、社会的な視点・方法によってレポート（論文）を書くことをめざす。したがって、「教養演習BI」「教養演習BII」の通年（1学期・2学期）受講が望ましい。

BII（2学期）では、まず、教養演習BIで各自がたてた「問い」について「論文執筆計画書」を書く。さらに、その「計画書」中の「文献リスト」をもとに、各回2名ずつ、関連文献について内容報告（テキスト批評）をしてもらい、議論を行う。なお、1～2ヶ月に1度くらいの割合で、論文について進捗状況の報告会を行う。

また、必要に応じて、量的方法（アンケート調査など）、質的方法（インタビューなど）についても説明する。

BIと同様、報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、受講者の最大数は10人とする（それを越える場合、受講者数調整をかける）。なお、調査実習を行う可能性もある。

## 教科書 /Textbooks

指定しない。

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「論文執筆計画書」の報告
- 第2回 文献レビュー（テキスト批評）1
- 第3回 文献レビュー（テキスト批評）2
- 第4回 文献レビュー（テキスト批評）3
- 第5回 文献レビュー（テキスト批評）4
- 第6回 論文検討会3
- 第7回 調査法の検討1
- 第8回 調査法の検討2
- 第9回 文献レビュー（テキスト批評）5
- 第10回 文献レビュー（テキスト批評）6
- 第11回 論文検討会4
- 第12回 文献レビュー（テキスト批評）7
- 第13回 文献レビュー（テキスト批評）8
- 第14回 レポート報告会
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

参加度・貢献度...30% 課題（論文）...70%

## 教養演習BⅡ【昼】

### 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

### 履修上の注意 /Remarks

文献レビューの際、報告者は、( 1 ) 文献概要、( 2 ) 内容要約、( 3 ) 論点整理、( 4 ) 議論を記したレジユメを準備すること。

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

フィールドワークを通して論文を書く楽しさを感じてください。卒論執筆の準備作業にもなると思います。

### キーワード /Keywords

社会調査、フィールドワーク

# 教養演習 B II 【昼】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 演習  
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 B II
			GES302F

## 授業の概要 /Course Description

日本における高校教育までの段階では、欧米の学生であれば常識として知っている事柄に触れる機会が著しく少ないため、海外の文献を読む際に理解が不十分になるケースが見受けられる。その面をサポートし、すべての大学生にとって欠かすことのできない人文的な素養を身につけることが、本演習の目的である。

例年、哲学・思想関連の本を一冊セレクトし、それを全員で読み進めている。今回は、ユング派心理学者の故・河合隼雄による『家族関係を考える』を取り上げる。日本をよりよく理解するために、西洋の文化・宗教との対比が欠かせないことを教えてくれる貴重な論考である。

## 教科書 /Textbooks

河合隼雄『家族関係を考える』、講談社現代新書、1980年、778円（税込）。  
（※本演習ではこのテキストを使用するので、ガイダンス出席後に各自で購入しておくこと。）

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 ガイダンス ( 授業のルール、成績評価等の説明 )
- 2 回 読解と議論 1
- 3 回 読解と議論 2
- 4 回 読解と議論 3
- 5 回 読解と議論 4
- 6 回 読解と議論 5
- 7 回 読解と議論 6
- 8 回 読解と議論 7
- 9 回 読解と議論 8
- 1 0 回 読解と議論 9
- 1 1 回 読解と議論 1 0
- 1 2 回 読解と議論 1 1
- 1 3 回 復習と補助学習 1
- 1 4 回 復習と補助学習 2
- 1 5 回 総括

## 成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況 ( 予習・議論・発言の積極性 ) ...50% レポート...50%  
( 2 回以上無断欠席をした場合は、参加の意志がないもの見なし、自動的に不合格判定となる。また、たとえ全 1 5 回出席していたとしても、レポートを提出しなかった者に単位は認めない。 )

## 教養演習BⅡ【昼】

### 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

### 履修上の注意 /Remarks

参加を希望する場合は、初回時に指示と説明があるので、必ず出席してください。

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では、発言と議論を通じたコミュニケーション意欲が求められると同時に、指定のテーマに沿ったレポートが最後に課せられます(形式・課題内容については12月後半に提示する予定)。就職活動等の理由で継続的に出席できない方は、他の参加者に迷惑をかけることになりますので、ご遠慮ください。

### キーワード /Keywords



# 教養演習 B II 【昼】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 3年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 演習  
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 B II
			GES302F

## 授業の概要 /Course Description

この授業は、中学校教諭一種免許状（社会）や高等学校教諭一種免許状（公民）の取得を目指し、4年次に教育実習に行きたいと考えている学生のために、開講します。  
教育実習において、実習生は、実習先の学校で少なくとも数度の授業を担当することになります。塾などで実践経験を積み、自信满满で教育実習に臨む実習生もいるでしょうが、おそらく実習生の多くは、模擬授業を経験する十分な機会にも恵まれないまま、不安な気持ちを抱えながら、教育実習に臨むことになっているのではないのでしょうか。このクラスは、そのような不安を少しでも軽減するために、学習指導要領に対する理解を深めるとともに、模擬授業の実践と相互観察を通じ、受講生のティーチングスキルの向上を図ることを目的としています。  
なおこのクラスでは、高等学校における「現代社会」の授業を題材にして、授業を展開していくこととします。

## 教科書 /Textbooks

高等学校学習指導要領 解説（公民編）  
[http://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/micro\\_detail/\\_icsFiles/afiedfile/2010/09/07/1282000\\_4\\_1.pdf](http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afiedfile/2010/09/07/1282000_4_1.pdf)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

参考書は、初回の授業時に、紹介します。  
また授業の理解に必要な資料等は、適宜、配布します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースガイダンス
- 第2回 高等学校学習指導要領 解説（公民編：現代社会）を読み解く① pp.6-19
- 第3回 高等学校学習指導要領 解説（公民編：現代社会）を読み解く② pp.20-22, 59-61, 62-63
- 第4回 学習指導案の作成①【単元】【目標】【指導計画】【指導上の立場】
- 第5回 学習指導案の作成②【本時案の位置づけ・目標】【導入・展開・まとめ】【学習内容・学習活動】
- 第6回 学習指導案の発表と相互検討
- 第7回 模擬授業における相互観察のポイント【授業構成】【説明】【発問・指示】【板書】【レジュメ】
- 第8回 模擬授業と相互観察①：範囲「人権、国家主権、領土に関する国際法の意義」
- 第9回 模擬授業と相互観察②：範囲「人種・民族問題」
- 第10回 模擬授業と相互観察③：範囲「核兵器と軍縮問題」
- 第11回 模擬授業と相互観察④：範囲「我が国の安全保障と防衛および国際貢献」
- 第12回 模擬授業と相互観察⑤：範囲「南北問題など国際社会における貧困や格差」
- 第13回 模擬授業と相互観察⑥：範囲「国際平和、国際協力や国際協調を推進する上での国際的な組織の役割」
- 第14回 模擬授業と相互観察⑦：範囲「男女が共同して社会に参画することの重要性」
- 第15回 まとめ

## 教養演習 B II 【昼】

### 成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加の程度をもとに総合的に評価します。具体的には、出席状況、課題・模擬授業などへの取り組み状況、授業態度、貢献度（積極的な発言など）によって総合的に評価することになります。

ゼミへの参加...100%

### 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

### 履修上の注意 /Remarks

学習指導案の作成や模擬授業の準備等、正規の授業時間外にも時間を取ってもらうことになります。

受講申請にあたってはこの点に注意してください。

①教育実習 1 を受講中であること、②社会科教育法ないしは公民科教育法をセットで受講していること、を受講の条件とします。

なお最大でも10人程度を予定しています。

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教員を目指す人、自分の夢に向かって、自分の力を磨いてください。

### キーワード /Keywords

【公民】【現代社会】【学習指導要領】【教材研究】【学習指導案】【模擬授業】【相互観察】

# 自然学のまなざし【昼】

担当者名 /Instructor 岩松 文代 / IWAMATSU FUMIYO / 人間関係学科, 木下 靖子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	自然と人間の営みに関する基本的な視野を身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文系・理系の視点を超えた自然学の論点から環境を考える。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	自然に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			自然学のまなざし
			ENV002F

## 授業の概要 /Course Description

街に住んでいると、海や森を懐かしく思う。殺風景な自分の部屋にもどるたびに、緑を置きたくなったり、せめて小さな生き物がそこにいてくれたらなあ、なんて考える。

西洋の学問の伝統では、ながらく文化と自然を切り離して考えてきた。文系・理系と人間の頭を2つに分けてしまう発想は、未だに続くそのなごりだ。でもそれでは解らないことがある。だれだって「あたま(文化)」と「からだ(自然)」がそろって初めてひとりの人間になれるように、文化と自然は人間の内においても外においても、それぞれが融合し合い調和し合いながら世界を作り上げている。

野で遊ぶことが好きで、旅に心がワクワクする人ならば、だれでも「自然学のすすめ」の講義をつうじて、たくさんの智恵を学ぶことができるだろう。教室の中でじっとしていることだけが勉強ではない。海や森に出かけよう、そんな小さなきっかけをつくるための講義です。教室の中の講義だけではなく、講義中に紹介するさまざまな活動に参加してほしい。大学生活を変え、自分の生き方を考えるための入り口となればと願っています。

自然環境と人間の営みに対する総合的な理解をすることが達成目標となる

## 教科書 /Textbooks

とくになし。適宜、参考文献を紹介する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 『イルカとナマコと海人たち』NHKブックス
- 「自然学の展開」「自然学の提唱」今西錦司
- 「自然学の未来」黒田末寿

# 自然学のまなざし【昼】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 木下
- 第1講 自然学で学ぶこと
- 第2講 今西錦司という人がいた
- 第3講 バックミンスターフラーという人がいた
- 第4講 人類の進化と狩猟採集生活
- 第5講 自然学における日常実践
- 第6講 カボチャ島の自然学【食と資源】
- 第7講 人類学のフィールドから
- 第8講 自然学の視点の重要性
- 岩松
- 第9講 近世の旅と自然
- 第10講 山村暮らしと故郷
- 第11講 山と森の自然観
- 第12講 竹の産業史
- 第13講 竹の文化
- 第14講 木の文化
- 第15講 山と自然学

## 成績評価の方法 /Assessment Method

- (木下)
- 講義で紹介するさまざまな活動に参加する . . . 15%
- 講義で紹介するさまざまな本を読み考える . . . 15%
- 講義の内容を元に人間の生き方について小論を書く . . . 20%
- (岩松)
- レポート...25% 日常の授業への取り組み...25%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

学ぶことはまねること。さまざまな活動に参加するなかで、ソーシャルスキルは伸びていきます。

講義は教室の中だけでは終わりません。  
そんなつもりで受講して下さい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学のもっとも大学らしい自由な講義を心がけています。  
教えられるのではなく覚えるのでもなく、行動すること、考えること、楽しむことを一番に心がけて下さい。

## キーワード /Keywords

人類学  
環境学  
フィールドワーク

# 動物のみかた 【昼】

担当者名 到津の森公園、文学部 竹川大介  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人と動物の関わりに関する諸問題を理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代社会における自然のあり方を考える。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生命との関わりを多様な視点で考え、人間の営みを再考する。
	コミュニケーション力		
			動物のみかた
			ZOL001F

## 授業の概要 /Course Description

動物園とそのかわる事項等を検証し、環境や教育など様々な問題を考える。

動物園は教育機関としてのみならず、情感に影響を与える施設として様々な広がりを持っている。  
動物園の本来的な姿を追求し、どうすれば地域の施設として欠くべからざる施設となりうるのかを検証する。

動物にかんする知識を深め、自然環境に関する知見を広げることが到達目標となる

## 教科書 /Textbooks

テキストなし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

『戦う動物園』島泰三編 小菅正夫・岩野俊郎共著

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 動物園学概論1 (動物園の歴史)
- 2回 動物園学概論2 (人と公園の歴史)
- 3回 キーパーの仕事1 (動物の飼育と歴史)
- 4回 キーパーの仕事2 (動物園のみかた)
- 5回 キーパーの仕事3 (動物の接し方と飼育員のもう一つの小さな役割)
- 6回 キーパーの仕事4 (どうぶつと人間のくらし)
- 7回 キーパーの仕事5 (動物園とデザイン)
- 8回 キーパーの仕事6 (動物園の植栽)
- 9回・10回 校外実習(到津の森公園)
- 11回 獣医の仕事1 (どうぶつの病気)
- 12回 獣医の仕事2 (どうぶつたちとくらし)
- 13回 動物園学まとめ1 (動物園を振り返る)
- 14回 動物園学まとめ2 (新しい動物園とは)
- 15回 まとめ(外部講師講演)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

レポート... 80% 平常の学習状況... 20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# 動物のみかた 【昼】

## 履修上の注意 /Remarks

講義では実際の動物園施設の見学もあります。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 地球の生いたち【昼】

担当者名 /Instructor 長井 孝一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	地球史を学ぶことを通じて地球と人間とのあるべき関係性を総合的に理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地球と人間について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	地球と人間に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。	
	コミュニケーション力			
			地球の生いたち	GOL001F

## 授業の概要 /Course Description

我々の住む地球は太陽系の第3惑星として、今から約46億年前に誕生した。その46億年の地球史の中で、大地や海、大気が形成され、地球生命が誕生し、さらに、そのそれぞれが進化あるいは変遷を繰り返してきた。地球生命は約38億年前に誕生し、長大な時間をかけて進化を繰り返してきた。我々人類は今、地球の生物史上初めて地球に能動的にかかわる生物として、その長大な時間の延長線上にいる。高度文明社会が人類や地球の未来を危うくしかねない問題を次々と引き起こしている現在、我々はこれまでも増して地球のしくみと地球史について正しく理解する必要がある。

この授業では、地球のしくみと地球史に対する講義を通して、地球と人間とのあるべき関係を正しく理解するとともに、地球と人間との共生の道をさぐる。

## 教科書 /Textbooks

教科書は使用せず、プリントを適宜配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

川上伸一『生命と地球の共進化』（日本放送協会）、1071円  
丸山茂徳・磯崎行雄著『生命と地球の歴史』（岩波書店）、861円  
田近英一著「地球環境46億年の大変動史」（化学同人）、1680円  
その他の参考書については授業中に適宜紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目：地球の歴史の表し方【地質時代と絶対年代】
- 2回目：生きている地球1【プレートテクトニクス】
- 3回目：生きている地球2【ウエゲナーと大陸移動説】
- 4回目：地球惑星の起源と進化【水の惑星の誕生】
- 5回目：地球生命の起源と目に見えない生物の長い長い時代【先カンブリア時代】
- 6回目：先カンブリア時代末の大事変【全球凍結】
- 7回目：生物進化史上最大の事変1【カンブリア爆発】
- 8回目：生物進化史上最大の事変2【カンブリア爆発の意義】
- 9回目：顕生累代の生物の変遷史1【古生代】
- 10回目：繰り返す大量絶滅1【ペルム紀末の大量絶滅】
- 11回目：顕生累代の生物の変遷史2【中生代】
- 12回目：繰り返す大量絶滅2【白亜紀末の大量絶滅】
- 13回目：顕生累代の生物の変遷史3【新生代】
- 14回目：人間圏の成立と地球環境問題【人類と地球環境】
- 15回目：まとめと演習

# 地球の生いたち【昼】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験：90%，ミニレポート：10%  
欠席の多い学生は減点する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

毎回配布する資料プリントの説明文や図表類を帰宅後に読み直し、授業の内容を復習すること。また、シラバスによって次回の授業内容の確認を行ない、可能であればシラバスに載せている参考書等を用いて、授業に関係する部分を適宜予習・復習すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地球のしくみと地球史を学ぶ事を通して、地球と人間とのあるべき関係について考えましょう。

## キーワード /Keywords

地球のしくみ，地球史，生命と地球の共進化



# 自然史へのいざない【昼】

担当者名 /Instructor 北九州市立自然史・歴史博物館、基盤教育センター 日高京子

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	自然と生物の関わりについて総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	自然と生物について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	自然の中の生物に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			自然史へのいざない
			BI0001F

## 授業の概要 /Course Description

北九州市立自然史・歴史博物館（愛称：いのちのたび博物館）の学芸員が、北九州の自然と自然史博物館の魅力、そして各学芸員の調査や研究について紹介をする授業です。北九州市は多様な化石を産する化石の一大産地であり、多様な自然に囲まれた都市でもあります。このような恵まれた北九州の自然と、それを展示している博物館を、まずみなさんに知ってもらうことがこの授業の大きな目的です。各学芸員は、海外での発掘や、調査・研究も積極的に行っています。講義では、海外の話も含めた、各自然史分野の最先端の話も聞くことができます。よりグローバルな視点から自然史を学んでもらうことも、この授業の目的としています。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

各学芸員が担当する講義のテーマは下記の通りです（【 】内はキーワード、( )内は担当学芸員名）。

- 1回 ガイダンス
- 2回 自然史博物館見学（1）ー博物館を楽しもう
- 3回 二次的自然と哺乳類（馬場）【都市近郊に棲む哺乳類】【生物多様性の価値】
- 4回 アンモナイトの古生物学（御前）【化石】【進化】【古生態】
- 5回 鳥類の絶滅危惧と生物多様性の保全（武石）【絶滅危惧】【生物多様性】
- 6回 ヒスイが語る地下深部の世界（森）【岩石の模様・構造】【大地のダイナミクス】
- 7回 アラビアの砂漠に棲む生き物たち（山根）【アラビア半島】【人と自然と文化】
- 8回 化石記録が物語るいのちのたび「絶滅と繁栄」（太田）【化石】【生命史】【絶滅】
- 9回 骨から知る脊椎動物進化（大橋）【系統進化】【形態と機能】【恐竜】
- 10回 深海生物ーその形と適応的意義ー（下村）【深海】
- 11回 昆虫の多様性と進化（葦島）【分類】【学名】
- 12回 森の移り変わりを考える（真鍋）【里山】【二次的自然】【生態遷移】
- 13回 化石が語る魚類の進化（藪本）【魚類化石】
- 14回 自然史博物館見学（2）ー課題研究
- 15回 まとめ

※北九州市立自然史・歴史博物館のホームページ： <http://www.kmnh.jp/>

## 成績評価の方法 /Assessment Method

10回以上の出席をもって成績評価の対象とします。2回の博物館見学は必須となります。  
授業への参加（授業中の課題）10%、期末レポート60%、期末テスト30%

# 自然史へのいざない【昼】

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

1回目の博物館見学は10月4日(日)、2回目は12月～1月のいずれかの日曜日を予定しています(変更の場合は掲示します)。  
授業スケジュールについての説明がありますので、第1回目の授業には必ず出席するとともに、掲示物に注意してください。博物館までの交通費および入館料は自己負担となります。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# くらしと化学 【昼】

担当者名 /Instructor 秋貞 英雄 / Akisada Hideo / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	基礎的な化学知識と身近な問題との関わりを理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	基礎的な化学知識を用いて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	身近な化学に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
		くらしと化学	
		CHM001F	

## 授業の概要 /Course Description

化学物質と化学知識は生活に不可欠なものです。それらは生活を豊かにし、豊かな未来社会を展望するのに必要です。また、現代社会は、科学技術の社会生活分野への適用を科学・技術者の判断に任せられないほど、多様化複雑化しています。地球環境汚染など否定的現象や工セ科学を利用した詐欺的商法もあります。それゆえ、市民は其中で、身近な問題での科学・技術情報の開放を必要としています。同時に、得られた情報を正しく理解するための、科学・技術分野への一定の興味と基礎的な化学知識を必要とされます。

そのために、基礎的な化学知識を学習します。その知識を基に、化学と身近な問題の関わりを認識し、化学への興味、関心を深め、それによる生活や環境に対する分析・理解能力を高めることがこの授業のねらいです。

物質（原子・分子）の構造や物性に関する基礎知識、自然界の現象で重要な物性である物質三態（気・液・固）や物性と分子の構造の関係を学習します。物質の三態で説明できないコロイドという現象も説明します。さらに化学物質と身近な問題との関わりを、生活に必要な生体物質（糖、脂質、タンパク質、核酸など）とそれらを含む食品、薬とその作用、環境に影響する物質、放射能および地球温暖化に関連した事項に絞って解説をします。

## 教科書 /Textbooks

芝原 寛泰、後藤景子：「身の回りから見た化学の基礎」：化学同人：2010/6/3015：¥1800+税：ISBN978-4-7598-1292-3

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

「逆説・化学物質 - あなたの常識に挑戦する」 John Emsley著、渡辺正訳（丸善）2200円、ISBN 978-4-621-04227-4

「ゼロからはじめる化学」立屋敷 哲著(丸善) ¥2200+税 ISBN978-4-621-08016-0 演習用として

○「沈黙の春」R. Carson著、青木 梁一訳（新潮社）

○「奪われし未来」T. Colbon, D. Dumanoski, P. Myers著、長尾 力著（翔泳社）

# くらしと化学【昼】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1) 1章 化学ってなんだ? -化学の基本事項+補足
- 2) 14章 物質は自在に変わる -固・液・気の化学
- 3) 5章 もっとも身近でもっとも不思議な物質 -水の化学と(水の浄化・省く)
- 4) 2章 真水・お酢・石けん水の違って? -酸性・塩基性の化学, 石けんは4章
- 5) 8章 生活を彩る驚異の粒子 -コロイドの化学
- 6) 4章 環境にやさしい洗濯を -洗濯の化学
- 8) 12章 電気パワーが社会を明るくする -電池の化学
- 9) 6章 生活材料今昔物語 -プラスチックの化学
- 10) 7章 お料理は化学実験 -料理の化学 発酵 補足事項: 核酸、脂質
- 11) 9章 化学の力で命を守る -薬の化学
- 12) 15章 化学は未来をひらく -環境と調和する化学
- 13) 補足プリント、放射能・原子力
- 14) 補足プリント、放射能・原子力
- 15) まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業内容の基礎的な理解を確認するミニレポート20%、期末試験80%で総合的に評価する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

高校の理科、化学の教科書があると望ましい(手引き代わり)。教科書外の内容も講義する。それがテストの範囲になるので、プリントを受け取り、ノートはきちんととること。やむを得ない欠席時はノート模写をしておくといい。教科書は事前事後どちらでもよいが目を通して置く。ただ事前の方が、授業への興味が持ちやすい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

新聞、雑誌、放送機関、インターネット等の科学情報に関心を持ち、質問するような姿勢が好ましい。質問には即答できないときは後日に答えるようにします。

## キーワード /Keywords

# 現代人のこころ【昼】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科, 齋藤 朗宏 / Akihiro SAITO / 経営情報学科  
中島 俊介 / 北方キャンパス 非常勤講師, 森永 今日子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	心理学についての教養的基礎知識を身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	心理学的観点から課題の発見、解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	社会の諸問題を心理学的観点から解決するために学習を続けることができる。
	コミュニケーション力		
			現代人のこころ
			PSY003F

## 授業の概要 /Course Description

現代の心理学では、人間個人や集団の行動から無意識の世界に至るまで幅広い領域での実証的研究の成果が蓄えられている。この講義は、現代の心理学が明らかにしてきた、知覚、学習、記憶、発達、感情、社会行動などの心理過程を考察する。とくに、現代人の日常生活のさまざまな場面における「こころ」の働きや構造をトピック的にとりあげ、心理学的に考察し、現代人を取り巻く世界について、心理学的な理論と知見から理解する。

## 教科書 /Textbooks

テキストは使用しない。必要に応じてハンドアウトを配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

適宜紹介する。

# 現代人のこころ【昼】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション  
心理学に対する誤解
- 第2回 心理学の研究法  
心理学は科学である。【実験】【観察】【調査】
- 第3回 著名な心理学研究  
人は命じられれば人を殺すのか？【ミルグラム実験】【スタンフォード監獄実験】【スモールワールド実験】
- 第4回 他分野との繋がり  
心理学者はノーベル賞を取れるのか？【行動経済学】【人間工学】【プロファイリング】
- 第5回 やればできる？成長する考え方と成長できない考え方はどう違うのか？  
【動機づけ】【マインドセット】
- 第6回 その気にさせる心理学  
【動機づけ】【動因】【誘因】【フィードバック】
- 第7回 コミュニケーションとは？  
【認知】【スキーマ】【メンタルモデル】
- 第8回 わかりやすい文章作成，勝てるプレゼンテーション  
【影響力】【説得】【社会的認知】
- 第9回 人づき合いの技術  
【社会的スキル】【アサーション】【報告コミュニケーション】
- 第10回 三人寄れば文殊の知恵？船頭多くして船山に登る？  
【集団討議】【集団思考】【創造性】
- 第11回 組織を動かす心理学  
【リーダーシップ】【リスクマネジメント】【レジリエンス】
- 第12回 ストレスは人生のスパイス  
【ストレス理論】【ストレスマネジメント】【ソーシャルサポート】
- 第13回 人間の発達の心理学  
人間の心理的な発達について学ぶ。主な発達理論の紹介と概念の説明。特に生涯発達の視点から人生を俯瞰する。【生涯発達】【エリクソンの発達論】
- 第14回 感情はコントロールできるか？  
精神の働き、「知・情・意」のなかの「情」を取り上げる。日常問題となる感情のさまざまを上手にマネジメントできるかなどを考えたい。  
【感情の法則】【3大陰性感情】
- 第15回 幸せの人間関係を求めて  
私たちの悩みの多くは人間関係の悩みである。良好な人間関係を構築するためには何が大切か。どのようなスキルが望まれるかなどを学ぶ。  
【積極的傾聴法】【私メッセージ】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験・・・75% (範囲：第2～12回)  
課題(レポート)・・・25% (範囲：第13～15回)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

北方ひびきの連携科目になっています。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 人間と生命【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	生命科学の基礎知識を獲得し、身近な問題との関わりを総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	生命科学に関する基礎知識を用いて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力 社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	体や健康など、生命科学に関する身近な課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			人間と生命
			BI0002F

## 授業の概要 /Course Description

ヒトの体は約60兆個の細胞からなり、生命の設計図である遺伝子には2万数千もの種類がある。近年、「ヒトゲノム計画」が完了し、すべての遺伝情報が明らかとなった。個々の遺伝情報のわずかな違いが体質の違いや個性につながり、これを利用した個の医療が行われる時代も近い。それぞれの遺伝子はどのような働きをし、何をどこまで決めているのだろうか。遺伝子に傷がつくと細胞や個体にどのようなこと引き起こされるのだろうか。また、細胞が作る社会とはどのようなもので、個体はどのように成り立っているのだろうか。人体を構成する細胞と遺伝子の不思議を学ぶことによって、新しい時代を生き抜くための生命科学の基礎知識を身につけることを目標とする。

## 教科書 /Textbooks

なし。毎回資料を配布する。

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

- 文系のための生命科学入門 東京大学生命科学教科書編集委員会 2011年(羊土社)2940円
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1890円
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1890円
- 「こころ」は遺伝子でどこまで決まるのか 宮川剛著 2011年(NHK出版新書)819円

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 細胞とその構成成分【糖】【脂質】
- 3回 生命活動の主役・タンパク質【タンパク質】【アミノ酸】
- 4回 遺伝子とは何をするもの【核酸】【DNA】
- 5回 遺伝子が働くしくみ【RNA】【遺伝子の発現】
- 6回 遺伝子でどこまで決まるか【ゲノム】【体質】
- 7回 体はどのように作られるか【発生】【細胞の分化】
- 8回 細胞はどのように増えるか【細胞分裂】【細胞周期】
- 9回 細胞と個体の寿命【染色体】【テロメア】
- 10回 細胞のコミュニケーション【受容体】【シグナル】
- 11回 細胞社会の反逆者【がん遺伝子】
- 12回 万能細胞とは何か【ES細胞】【iPS細胞】
- 13回 体を守るしくみ【ウイルス】【抗体】
- 14回 映画鑑賞
- 15回 質疑応答・まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の課題 40%  
期末テスト 60%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

高校で生物を履修していなかった者は参考書を入手して備えること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

人体を構成する細胞やその働きを操る遺伝子について、ここ数十年程の間で驚く程いろいろなことがわかってきました。その緻密で精巧なしくみは知れば知るほど興味深いものですが、ヒトの体について良く知ること、生命科学の基礎を学ぶことは、これから皆さんが生きて行く上でも非常に大切です。苦手だからと怯まずに、一緒に頑張りましょう。

## キーワード /Keywords



# 環境都市としての北九州【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科  
三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科, 松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 /Class Format 授業形態 講義 /Class クラス 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	環境に関する幅広い基礎知識を獲得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	環境にはさまざまな立場からの意見・考え方があることを理解し、自らがとるべき環境行動を判断できる素養を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	卒業後も誰もが身近なところから環境行動に取り組むことができることを理解する。
	コミュニケーション力		
		環境都市としての北九州	
		ENW001F	

## 授業の概要 /Course Description

環境問題の全体像を把握し、持続可能な社会作りに向けた行動の重要性を理解する。そのために、学内の専門分野の異なる教員、学外からは行政・企業・NPO等の実務担当者を講師として迎え、オムニバス形式で様々な視点（自然・経済・市民）から環境問題とそれに対する取り組みについて学習する。北九州市はかつてばい煙に苦しむ街であったが、公害を克服した歴史を踏まえ、現在は環境モデル都市として世界をリードしている。北九州市の実施する「環境首都検定」の受検を通して、市のさまざまなプロジェクトや環境についての一般知識を広く学ぶほか、環境関連施設（環境ミュージアム、エコタウンなど）見学により、その体験を講義での学習につなげる。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

北九州市環境首都検定公式テキスト 2014年 900円+税  
<http://www.city.kitakyushu.lg.jp>

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(日高)
- 2回 持続可能な社会をめざして～ESD～(法学部・三宅)
- 3回 北九州の自然・生態系(外部講師)
- 4回 北九州における環境政策(外部講師)
- 5回 環境ビジネスとエコタウン事業(マネジメント研究科・松永)
- 6・7回 施設見学①～環境ミュージアム
- 8回 環境問題とソーシャルビジネス(外部講師)
- 9回 環境問題と市民の関わり(外部講師)
- 10回 北九州の環境経済(経済学部・牛房)
- 11回 環境首都検定に向けて・小テスト(日高)
- 12回 環境問題と企業の取り組み(外部講師)
- 13回 社会が求める環境人材とは(外部講師)
- 14回 学生による環境問題への取り組み
- 15回 施設見学②～各自で実施

## 成績評価の方法 /Assessment Method

10回以上の出席をもって成績評価の対象とする。環境首都検定受検および2回の施設見学参加は原則必須とする。  
環境首都検定の成績(30%)、小テスト(30%)、期末レポート(20%)、授業への参加・授業中の課題など(20%)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# 環境都市としての北九州【昼】

## 履修上の注意 /Remarks

- ・ 環境首都検定は12月13日(日)の予定。
- ・ 施設見学①は11月15日(日)に北九州市環境ミュージアムを見学する予定。
- ・ 施設見学②は各自で都合の良い日を選んで関連施設を見学すること。尚、9月30日(水)にエコタウンバスツアーを予定しているが、こちらへの参加を以て施設見学②に当てることができる。事前に申込が必要なので掲示物に注意すること。
- ・ スケジュールは変更の可能性もある。授業スケジュールについては第1回目ガイダンス時に配布する予定。
- ・ 環境ミュージアム、首都検定会場までの交通費は自己負担とする。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

持続可能な社会を作るため、環境について一緒に勉強しましょう。  
本講義は副専攻「環境ESD」のコア科目です。

## キーワード /Keywords

# 未来を創る環境技術 【昼】

担当者名 /Instructor 龍 有二 / Yuji RYU / 建築デザイン学科 (19~), 朝見 賢二 / Kenji ASAMI / エネルギー循環化学科 (19~)  
鈴木 拓 / Takuya SUZUKI / エネルギー循環化学科 (19~), 門上 希和夫 / Kiwao KADOKAMI / エネルギー循環化学科  
泉 政明 / Masaaki IZUMI / 機械システム工学科 (19~), 吉山 定見 / Sadami YOSHIYAMA / 機械システム工学科 (19~)  
松永 良一 / Ryoichi MATSUNAGA / 機械システム工学科, 佐藤 敬 / Takashi SATOH / 情報システム工学科 (19~)  
佐藤 雅之 / Masayuki SATO / 情報システム工学科 (19~), 福田 展淳 / Hiroatsu FUKUDA / 建築デザイン学科 (19~)  
城戸 将江 / Masae KIDO / 建築デザイン学科 (19~), 高 偉俊 / Weijun GAO / 建築デザイン学科 (19~)  
櫻井 和朗 / Kazuo SAKURAI / 環境技術研究所, 野上 敦嗣 / Atsushi NOGAMI / 環境生命工学科 (19~)  
森田 洋 / Hiroshi MORITA / 環境生命工学科 (19~)

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	環境問題や環境技術に関する正しい知識など、21世紀の市民として必要な基本的事項を理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	授業で学ぶ環境技術の現状や展望を踏まえながら、社会・地域・生活など身の回りに隠れている環境的課題を発見し、課題の重要性や本質を明確化する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	環境問題について自主的・継続的に学習するための、環境技術に対する深い関心と環境への鋭敏な感受性を持つ。
	コミュニケーション力		
			未来を創る環境技術
			ENV003F

## 授業の概要 /Course Description

環境問題は、人間が英知を結集して解決すべき課題である。環境問題の解決と持続可能な社会の構築を目指して、環境技術はどのような役割を果たし、どのように進展しているのか、今どのような環境技術が注目されているのか、実践例を交えて分かりやすく講義する（授業は原則として毎回担当が変わるオムニバス形式）。

具体的なトピックは、バイオマスなどの新エネルギーや環境調和型材料の開発、高効率で安全な水・廃棄物処理技術、エネルギー効率及び資源効率を高めるための環境設計・製品開発、豊かで安全・安心な環境を創り出していくための情報技術、低環境負荷を実現する都市・ビル・住宅のデザイン、バイオテクノロジーや生態系保全技術、持続可能型社会のための環境マネジメント手法などである。

## 教科書 /Textbooks

教科書は使用しない。適宜、資料を配布する。

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて授業中に紹介する。

# 未来を創る環境技術 【昼】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：社会における環境技術の役割
- 第2回：バイオ燃料の製造技術
- 第3回：放射性物質の危険度
- 第4回：未来の環境分析
- 第5回：地球環境・エネルギー資源枯渇問題に対する技術的な解決策について（その1・燃料電池）
- 第6回：地球環境・エネルギー資源枯渇問題に対する技術的な解決策について（その2・エンジン、次世代発電システム）
- 第7回：環境に配慮した高精度高効率な精密加工法・最適設計法について
- 第8回：無人航空機システム～空から豊かで安全・安心な環境を創る～
- 第9回：ユニバーサルデザイン～人間の多様性に配慮した生活環境の設計～
- 第10回目：環境に配慮する建築デザイン
- 第11回目：地震の多い日本で安全な建物をつくり長く使うための技術
- 第12回目：都市・建築における省エネルギー・自然エネルギー利用と環境技術
- 第13回目：生物のしくみや材料を有効利用・応用して新しい材料や素材などを生み出すバイオテクノロジー
- 第14回目：生態系に配慮した科学技術、生態系の機能を背景にしたエコテクノロジーや環境管理手法について
- 第15回目：環境に配慮した社会を実現するための環境マネジメントと具体的取り組み

## 成績評価の方法 /Assessment Method

- 積極的な授業参加 20%
- レポートおよび小テスト30%
- 期末課題50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

- 新聞・雑誌等の環境技術に関連した記事にも目を通すようにすること。
- 私語をしないこと。 ノートはこまめにとること。
- 都合により、授業のスケジュールを変更することがある。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- 文系学生にもわかりやすい授業内容です。

## キーワード /Keywords

- 環境共生、持続可能型社会、エネルギー循環、機械システム、情報メディア、建築デザイン、環境生命工学

# 私たちと宗教【昼】

担当者名 /Instructor 佐藤 真人 / Sato Masato / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	宗教全般および日本の宗教に関する基本的知識を身につけ、総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	宗教全般および日本の宗教について総合的に分析し、自立的に理解を深めることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	宗教全般および日本の宗教に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			私たちと宗教
			PHR006F

## 授業の概要 /Course Description

日本で生活するわれわれの大多数は、宗教を迷信ないしは縁遠いものと受けとめているのではないだろうか。しかしながら諸外国においては、宗教は抜き差しならない切実な問題であり、社会に大きな位置を占めて人々の倫理観や思考を深く規制している。振り返ってみれば、われわれ自身も実は決して無宗教というわけではない。この授業を通して人間社会における宗教の重要性を認識してもらいたい。授業ではとりわけ日本人にとって身近な宗教についての理解を深めてもらう。

## 教科書 /Textbooks

使用しない。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 脇本平也『宗教学入門』（講談社学術文庫）
- 橋爪大三郎『世界がわかる宗教社会学入門』（筑摩書房・ちくま文庫）

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 日本人の宗教観
- 3回 宗教の諸類型
- 4回 宗教の構成要素
- 5回 一神教について1（ユダヤ教）
- 6回 一神教について2（キリスト教とイスラム教）
- 7回 一神教について2（一神教の論理）
- 8回 仏教について1（インド仏教と日本仏教）
- 9回 仏教について2（中国の宗教と中国仏教）
- 10回 仏教について3（日本仏教の諸宗派）
- 11回 仏教について4（日本仏教の祖先崇拜・本覚思想）
- 12回 神道について1（日本の神と祭り）
- 13回 神道について2（神道の成立）
- 14回 神道について3（神仏習合）
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 50% 平常の学習状況... 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# 私たちと宗教【昼】

## 履修上の注意 /Remarks

事前に配布した資料については下読みしておくこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

宗教を信じることを勧める授業ではありません。宗教というものが人間や文化にとって重要な位置を占めるものであることを認識し、日本の宗教風土の特色を理解してもらう授業です。

## キーワード /Keywords

宗教、ユダヤ教、キリスト教、仏教、神道

# 思想と現代【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の人間と思想との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の思想について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代の思想に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			思想と現代
			PHR004F

## 授業の概要 /Course Description

今年度は、サブタイトルを「教養としてのユダヤ思想」と題し、主に19世紀末から20世紀にかけて登場したエポックメイキングなユダヤ文化と思想との関わりを紹介する。まずは「ユダヤ人」という存在に対する、フェアで中立的な考え方を身に付けてもらうべく、その来歴と特徴について詳しく解説した後、精神分析・音楽・文学・映画・倫理等のジャンルで革新的な業績を残した現代ユダヤ人について、若干の作品分析を通してユダヤ性の広がりや豊かさを確認する。以上の考察をヒントにしつつ、最終的には現代の人間と思想との関係について複眼的な思索を可能にすることが、本授業の狙いである。

## 教科書 /Textbooks

適宜プリントを配布する。

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

- 沼野充義編『ユダヤ学のすべて』、新書館、2009年。
  - 小此木啓吾『フロイト思想のキーワード』、講談社現代新書、2002年。
- その他の基本文献については授業中に指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 ユダヤ人の原点(1)【概説】
- 3回 ユダヤ人の原点(2)【トーラー信仰】
- 4回 ユダヤ人の歴史(1)【古代から中世へ】
- 5回 ユダヤ人の歴史(2)【中世から近代へ】
- 6回 ユダヤ人の歴史(3)【近代から現代へ】
- 7回 中間総括(確認テストの実施)
- 8回 精神分析の思想(1)【概説】
- 9回 精神分析の思想(2)【一神教の精神】
- 10回 音楽の思想【シェーンベルク】
- 11回 文学の思想【カフカ】
- 12回 倫理の思想【ヨナス】
- 13回 映画の思想【ハリウッドの亡命ユダヤ人・前半】
- 14回 映画の思想【ハリウッドの亡命ユダヤ人・後半】
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

確認テスト...40% 期末テスト...60%  
(※確認テストを受験していない者は、期末テスト受験の権利を失う)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

第7回に確認テスト（第3回～第6回が試験範囲）を実施するので、受講希望者は遅くとも第3週目から出席しておく必要がある。テスト予定日は授業内で早めに通知するつもりである。原則としてこのテストを受験していない者には単位を認めないので、あらかじめ注意しておくこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ろくに事前連絡もなく、授業最終日になってから「いろいろ忙しくて確認テスト受けられませんでした」などと言いに来る者もいるが、この手のチープな言い訳はまったく通用しない。その場合は当然不合格となる。同じ原則は卒業予定の4年生に対しても等しく適用される。本授業には一切の甘えを捨てた上で取り組んでほしい。

## キーワード /Keywords



# 文化と表象【昼】

担当者名 /Instructor 真鍋 昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	文化と表象の関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	表象について課題を発見し、分析・解決することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	表象についての課題に向かい合い、その課題を解決するための学びを継続する態度を身につけている。
	コミュニケーション力		
			文化と表象
			MCC001F

## 授業の概要 /Course Description

本講義では、表象概念の基礎を理解し、表象論の視点・テーマのひろがりを知ることを目的としている。受講者は、講義を受けるなかで各自の生活環境を「表象」という視点から見つめ直すことが求められる。  
まず前半の講義では表象論事始めとして、理論的背景の説明をおこなう。その後イメージとしての〈日本〉について歴史的視点から多様な素材を用いて言及するなかで、表象研究の導入をおこなう。  
次に比較分析の例として映画を原作と比べて、その差異について論じる。

## 教科書 /Textbooks

特になし。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 【表象論事始め】 理論的背景
- 3回 【表象の歴史的追尾】 イメージとしての〈日本〉①【風刺画】
- 4回 イメージとしての〈日本〉②【オリエンタリズム】
- 5回 イメージとしての〈日本〉③【演劇】
- 6回 イメージとしての〈日本〉④【映画】
- 7回 イメージとしての〈日本〉⑤【CM】
- 8回 イメージとしての〈日本〉⑥【オリンピック】
- 9回 イメージとしての〈日本〉⑦まとめ
- 10回 【特別講義】
- 11回 【表象分析事始め】 映画を事例として①【活字から映像へ】
- 12回 映画を事例として②【原作とテーマ設定】
- 13回 映画を事例として③【作り手の複数性】
- 14回 映画を事例として④まとめ
- 15回 全体総括

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常点（課題・コメントカードなど） ... 25% 期末レポート ... 75%  
平常点は課題、コメントカードなどによって評価される。小テストをおこなう場合あり。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

予習は特に必要ないが、毎回の授業を復習するなかで、各自の身近な生活環境から問題をつねに内省的に「発見」することが求められるので、緊張感をもった態度で受講してほしい。単位取得のためには、期末レポートにおいて十分な準備が要求されるので、受講においては積極的な姿勢が求められる。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 言語とコミュニケーション【昼】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター, 山崎 和夫 / KAZUO YAMASAKI / 北方キャンパス 非常勤講師  
 平野 圭子 / Keiko Hirano / 英米学科, 松尾 太加志 / Takashi Matsuo / 人間関係学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年  
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	言語とコミュニケーションに関する学際的領域についての基本的知識を身につけ、課題を理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	自身の言語活動を通して言語とコミュニケーションに関する課題を発見し、言語学・心理学・コミュニケーション論などの手法を用いて分析する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたって言語とコミュニケーションに関心を持ち、それらを取り巻く課題についての意識を高める。
	コミュニケーション力		
		言語とコミュニケーション	
		LIN001F	

## 授業の概要 /Course Description

種としての「ヒト」は、「ことば」を用いてコミュニケーションできるという点において他の動物と大きく異なります。しかし、「ことば」によるコミュニケーションがすべてなのでしょうか。そもそもコミュニケーションとは何で、どのようにして行われるのでしょうか。「現代の若者はコミュニケーション力がない」などよく言われますが、コミュニケーションがうまく成立したり、しなかったりするのにはなぜなのでしょう。この講義では、コミュニケーション論、心理学、言語学、さらには情報科学における研究成果をふまえ、私たちの日常と関連づけながらそのような問いについて考えます。

## 教科書 /Textbooks

配布資料・その他授業中に指示

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 『コミュニケーションの心理学』松尾 太加志著、ナカニシヤ出版、1999年。
- 『異文化コミュニケーション』古田 暁著、有斐閣、1999年。
- 『社会言語学への招待-社会・文化・コミュニケーション』田中 春美(他)著、ミネルヴァ書房、1996年。
- 『社会言語学入門-生きた言葉のおもしろさにせまる』東 照二著、研究社出版、1997年。
- 『ジェンダーの言語学』永原 浩行(他)編、明石書店、2004年。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

日程等により順番が変わる可能性があります。第1回授業時に予定表を配布します。

- 第1回 序：「ことば」とは(漆原)
- 第2回 コミュニケーションとことばの発達(松尾)
- 第3回 言語コミュニケーションと非言語コミュニケーション(松尾)
- 第4回 メディアを使ったコミュニケーション(松尾)
- 第5回 機械とのコミュニケーション(松尾)
- 第6回 外部講師による特別講義(予定)
- 第7回 語用論(山崎)
- 第8回 ことばと文化(山崎)
- 第9回 異文化間コミュニケーション(山崎)
- 第10回 会話の規則(平野)
- 第11回 日本語の方言(平野)
- 第12回 ことばのバリエーション(平野)
- 第13回 ことばとジェンダー(漆原)
- 第14回 グローバル化とコミュニケーション(漆原)
- 第15回 まとめ(担当者によるパネル・ディスカッション)(全員)

# 言語とコミュニケーション【昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
テーマ科目

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度...20%      レポート...20% × 4  
4名の担当教員のレポートをすべて出さない限り、評価不能(-)となります。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

\* 「ことばの科学」を受講していると理解が一層深まります。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 芸術と人間【昼】

担当者名 /Instructor 花田 伸一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と芸術との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	芸術について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	芸術に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			芸術と人間
			PHR001F

## 授業の概要 /Course Description

現代美術を中心に国内外の芸術活動の事例を紹介します。  
それらを鑑賞・趣味の対象としてではなく、批評・実践のツールとして解釈・応用できるよう、アート・リテラシーの向上を促します。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

今道友信『美について』（講談社現代新書）  
佐々木健一『美学への招待』（中公新書）  
暮沢剛巳編『現代美術を知るクリティカル・ワーズ』（フィルムアート社）

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 美をめぐる言葉の整理：美×美術×美術館×美学
- 2回 作品のコンテキスト
- 3回 芸術作品に見るジェンダー 1：国内の事例
- 4回 芸術作品に見るジェンダー 2：海外の事例
- 5回 カワイイ文化と社会
- 6回 メイクと社会
- 7回 サブカルチャーと社会
- 8回 芸術とリアリティ
- 9回 引き算の美・足し算の美
- 10回 芸術と生活
- 11回 芸術の力×権力×暴力
- 12回 芸術と教育
- 13回 芸術と宗教
- 14回 北九州アートシーン
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

試験... 100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

上記の講義内容は変更する場合があります。  
また講義室内での受講にとどまらず、できる限り近隣の展覧会・レクチャー・トーク・ワークショップ等に足を運び、「現場」での体験と省察とを心がけること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 現代正義論【昼】

担当者名 /Instructor 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と正義との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代社会における正義の問題について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力 社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代社会における正義に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			現代正義論
			PHR003F

## 授業の概要 /Course Description

本講義では、現代社会における「正義」をめぐる諸問題や論争について、その理論的基礎を倫理的・法的な観点から学ぶと同時に、その応用問題として現代社会への「正義」論の適用を試みる。  
まずは、初回に現代正義論の流れを概観する。その上で、次に現代社会における「正義」の問題の具体的な実践的応用問題として、応用倫理学上の諸問題をとりあげる。具体的には、安楽死・尊厳死や脳死・臓器移植といった具体的で身近な生命倫理にかかわる諸問題をとりあげ考察する。そのうえで、現代正義論の理論面について、ロールズ以後現在までの現代正義論の理論展開を、論争状況に即して検討する。それにより、現代社会における「正義」のあり方を、理論的かつ実践的に考察することを、本講義の目的とする。

## 教科書 /Textbooks

特に指定しない。講義の際に、適宜レジュメや資料を配布する

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- マイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』（早川書房、2010年）
- マイケル・サンデル『ハーバード白熱教室講義録+東大特別授業(上)(下)』（早川書房、2010年）
- 盛山和夫『リベラリズムとは何か』（勁草書房、2006年）
- 川本隆史『現代倫理学の冒険』（創文社、1995年）
- 川本隆史『ロールズ - 正義の原理』（講談社、1997年）
- 葛生栄二郎他『いのちの法と倫理』（法律文化社）

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 現代正義論とは ~ 問題の所在
- 第2回 現代正義論とは ~ 本講義の概観
- [ 第3回~第7回まで 「正義」の応用問題（生命倫理と法） ]
- 第3回 脳死・臓器移植① ~ 臓器移植法の制定と改正
- 第4回 脳死・臓器移植② ~ 法改正時の諸論点
- 第5回 脳死・臓器移植③ ~ 改正臓器移植法の施行と課題
- 第6回 安楽死・尊厳死① ~ 基本概念の整理と国内の状況
- 第7回 安楽死・尊厳死② ~ 諸外国の状況
- 第8回 現代正義論① ~ ロールズの正義論
- 第9回 現代正義論② ~ ロールズとノージック
- 第10回 現代正義論③ ~ ノージックのリバタリアニズム
- 第11回 現代正義論④ ~ サンデルの共同体主義
- 第12回 現代正義論⑤ ~ 共同体主義【論争】
- 第13回 現代正義論⑥ ~ アマルティア・センの正義論
- 第14回 現代正義論⑦ ~ センとロールズ・ノージック
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...80% 講義中に課す感想文...20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

各回の講義で配布したレジюмеや資料をきちんと読み込み、理解すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

NHK教育テレビで放送されたマイケル・サンデルの「ハーバード白熱教室」の番組を見ておけば、本講義の後半部の理解にとって、大変に役にたつと思います。

## キーワード /Keywords

ロールズ ノージック サンデル 正義 脳死 尊厳死



# 民主主義とは何か【昼】

担当者名 /Instructor 大澤 津 / 政策科学科, 濱本 真輔 / SHINSUKE HAMAMOTO / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と民主主義との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	民主主義について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	民主主義に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			民主主義とは何か
			PLS002F

## 授業の概要 /Course Description

20世紀は「民主主義の世紀」と呼ばれたように、私たちには民主主義が当たり前になっているかもしれませんが、しかし、民主主義に対する評価は分かれ、人々はより良い統治のあり方をめぐって、古来より様々な思索、実験を重ねてきました。このように、民主主義という概念はその歴史も長く、様々な概念から構成されます。そのため、本講義では民主主義を構成する思想、制度を理解するとともに、民主主義の型と作動様式を学びます。

## 教科書 /Textbooks

講義時に適宜、紹介します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

講義時に適宜、紹介します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 イントロダクション

第2回 古代ギリシアの民主制

第3回 近代デモクラシーの基礎① 【秩序か権利か：ホブズとロック】

第4回 近代デモクラシーの基礎② 【一般意志と同調圧力：ルソーとトクヴィル】

第5回 近代デモクラシーの基礎③ 【日本への輸入：福澤諭吉と中江兆民】

第6回 現代の民主主義理論 【討議デモクラシー】 【ラディカル・デモクラシー】

第7回 現代日本の民主主義理論① 【集合行為問題・境界線の政治学】

第8回 現代日本の民主主義理論② 【〈私〉時代のデモクラシー】

第9回 民主政治の形成と崩壊① 【自由民主主義体制】 【権威主義体制】 【全体主義体制】

第10回 民主政治の形成と崩壊② 【共存理論】 【対立理論】 【ポピュリストモデル】

第11回 民主政治の形成と崩壊③ 【調和理論】 【民主化支援】

第12回 民主主義と有権者① 【政治参加】 【エリート民主主義】 【参加民主主義】

第13回 民主主義と有権者② 【政治的有効性感覚】

第14回 民主主義と有権者③ 【シティズンシップ教育】

第15回 民主主義と議会【代表・立法・審議・行政監視機能】 【二院制】 【ねじれ国会】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

試験 ( 80% )、講義への参加態度 ( 20% )

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

なし

# 民主主義とは何か 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

なし

# 社会学的思考 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と社会との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間理解に必要とされる個人と社会との関係について総合的に分析し、現代社会が直面する課題を発見する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	自らが帰属する社会における課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する。
	コミュニケーション力		
社会学的思考			
SOC002F			

## 授業の概要 /Course Description

この授業のねらいは、社会学の基本的な考え方と概念を身につけ、人間と社会との関係性を総合的に理解することにある。

授業では、社会学の基本的な考え方について、E.デュルケム、M.ウェーバー、E.フロムなどの古典的著作を例にとりながら紹介していく。その中で、社会的行為、社会規範、社会制度、社会構造、社会的役割、社会集団等の基本概念についても説明する。

また、現代社会における論争的なトピックを社会的に考えていく。とりあげるトピックは、階層と社会移動、社会的排除、グローバル化、排外主義等を予定している。

## 教科書 /Textbooks

使用しない。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

講義の中で適宜紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 社会学的な考え方とは
- 第3回 社会的な問題の発見 - 「常識」を疑う
- 第4回 社会と個人をつなぐ1 - デュルケム1：集合意識と行為
- 第5回 社会と個人をつなぐ2 - デュルケム2：『自殺論』
- 第6回 社会と個人をつなぐ3 - ウェーバー1：理解社会学
- 第7回 社会と個人をつなぐ4 - ウェーバー2：『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』
- 第8回 社会と個人をつなぐ5 - フロム1：『自由からの逃走』
- 第9回 現代社会の解説1 - 階層と社会移動
- 第10回 現代社会の解説2 - 貧困と社会的排除
- 第11回 現代社会の解説3 - 子どもの貧困
- 第12回 現代社会の解説4 - グローバル化の進展
- 第13回 現代社会の解説5 - エスニシティ
- 第14回 現代社会の解説6 - ナショナリズムと排外主義
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の課題...15% 期末試験...85%  
(総合的に判断する)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# 社会学的思考 【昼】

## 履修上の注意 /Remarks

授業にあたって配布プリント等をよく読んでおくこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日常生活の中で生じているさまざまな出来事を、いろいろな立場や視点から考える習慣を身につけてもらえるとうれしいです。

## キーワード /Keywords

社会的行為、社会集団、社会構造、集合意識、理解社会学、社会階層、社会移動、社会的排除、貧困、グローバル化、エスニシティ、排外主義

# 政治のなかの文化【昼】

担当者名 /Instructor 市原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	文化と政治に関する知識を学び、人間と「思想・文化」の関係性について総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化と政治に関する既存概念を根本的に省察したうえで総合的分析を行い、自ら発見した課題の解決に有効な思索ができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	文化と政治に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			政治のなかの文化
			ANT001F

## 授業の概要 /Course Description

政治や経済に関する現象は世界の多くの地域で共通する事項が多いと考えられがちである。しかしながら、実際には多くの地域に多様な独自性が広がる。近代国家的な政治体制や経済体制が世界中に共有される以前から、さまざまな共同体において統治の方法があったし（これもまた文化のひとつである）、近代国家的な制度が共有されるようになって、その受け入れられ方は様々である。

本講義では、その土地に住む人々の政治や経済に関する固有の価値観や習慣について、過去と現在の状況を学ぶ。しかし、それは学問的な知識を蓄えることが目的なのではない。民主主義、資本主義、公共性、といった現在、世界共通に使用されているようにみえるこれらの概念の理解が地域依存的なものであることを知ることで、概念を問いかえすことが目的である。

## 教科書 /Textbooks

教科書は特に指定しないが、以下の参考文献を各人の興味にあわせて一冊以上読んでおくことが望ましい。授業ではPower Pointを使用するが、それだけに頼らず、各自ノートをしっかり取ること。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- アンダーソン、ベネディクト1997『想像の共同体』NTT出版
- 織田竜也ほか(編)2009『経済からの脱出』春風社
- 春日直樹(編)2008『人類学で世界をみる』ミネルヴァ書房
- ピエール・ブルデュー1993『資本主義のハビトゥス』藤原書店
- 本多俊和ほか編2011『グローバリゼーションの人類学』

※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入/グローバル化の時代と文化
- 第2回 理念の土着化は可能か？
- 第3回 伝統社会のなかの政治の始まり
- 第4回 互酬と社会
- 第5回 伝統的社会における支配と近代的な社会における支配
- 第6回 価値観と文化
- 第7回 資本主義への対抗
- 第8回 中間テスト
- 第9回 政治体制の変化が文化に与える影響①：社会主義と近代化
- 第10回 政治体制の変化文化に与える影響②：体制転換と民主主義
- 第11回 開発の現場における文化と公共性
- 第12回 中間テストの解説
- 第13回 地域通貨の可能性とコミュニティの現在
- 第14回 「求められる市民参加」の時代
- 第15回 公共性と文化

# 政治のなかの文化【昼】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

中間テスト30%、期末テスト70%  
※そのほか講義への貢献を平常点として評価に加える。受講人数によってはテストをレポートに変更することもある。このほか適宜授業への積極的参加を加点する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

- ・ 講義に出席していても、テストやレポートで評価が悪ければ、結果として単位を落とすこともあります。真剣に取り組んでください。
- ・ 評価方法などは第一回の講義で説明しますので、必ず出席してください。
- ・ 中間テストの無断欠席者や提出課題の未提出者、授業態度が目に見える受講生は、評価割合の枠を超えて大幅に減点することがあります。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ ビジョン科目I「異文化理解の基礎」やビジョン科目II「現代社会の文化」を受講済み・受講中の学生は、授業の理解度が高まります。

## キーワード /Keywords

政治、公共性、文化、互酬性、国家

# 人権論 【昼】

担当者名 /Instructor 柳井 美枝 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	社会と人権との関係・歴史や社会の中における人権の重要性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間理解に必要とされる人権の意義・重要性について総合的に分析し、直面する課題を発見するとともに解決を模索する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	社会の中での人権について、自ら課題を発見し、解決のための学びを継続する。
	コミュニケーション力		
			人権論
			SOC004F

## 授業の概要 /Course Description

「人権」といえば「特別なこと」というイメージを持つかもしれないが、実際には「気づかない」「知らない」ことにより、自分自身の「人権」が侵害されていたり、無意識に他者の「人権」を侵害しているということがある。

本講義では、「人権とは何か」という基本的な概念をふまえて、現存する「人権課題」の実情や社会的背景を考察していく。その上で、自分自身がどのように「人権」と向き合っていくのかを問う。

### 目標

1. 人権とは何かについての理論的概念が理解できる。
2. 人権獲得の歴史を体系的に理解できる。
3. 現代社会における様々な人権課題についての認識を深め、自分との関係を知る。
4. 自分自身にとっての人権課題を明確にする。

## 教科書 /Textbooks

『人権とは何か』（横田耕一著 / 福岡県人権研究所発行 ¥1000）

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要な参考書は授業時に紹介する。

# 人権論 【昼】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 「自分にとっての人権課題」：自分と人権との関わりを考える。
- 2 「人権とは何か」：人権とは何かについて解説する。
- 3 「人権獲得の歴史」：人権獲得の歴史を近代革命を中心に解説する。
- 4 「世界人権宣言と人権条約」：世界人権宣言採択の歴史的経緯や意義などを解説する。
- 5 「部落問題について」：現存する部落問題の事例から部落問題とは何かを解説する。
- 6 「部落問題について」：当事者の思いを聞き、部落差別とは何かを考える。
- 7 「在日外国人と人権課題」：在日外国人の現状と人権課題を解説する。
- 8 「在日コリアンについて」：在日コリアンの歴史、現状、課題などを解説する。
- 9 「ハンセン病について」：ハンセン病についての認識を深めることや元患者を取り巻く日本社会の歴史や現状を解説する。
- 10 「教育と人権～識字問題」：読み書きができないことがもたらす人権侵害などを解説する。
- 11 「教育と人権～夜間中学」：教育を受ける権利の保障とは何かを事例を交えて解説する。
- 12 「障害者と人権」：障害者の立場からみる人権課題を知る。
- 13 「平和と人権」：戦争・平和についての解説。
- 14 「アジアの人権状況」：アジアの人権問題を事例を交えて解説する。
- 15 「まとめ」：現代社会の人権課題に自分たちはどう向き合うのか、共に考える。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 50%  
期末テスト50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

日常生活の中にあるさまざまな人権課題に関心を持ち、授業のミニレポートまたは感想用紙に反映させることが望ましい。  
私語は厳禁  
出席回数が基準を満たさない場合は期末テストの受験資格を失う。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学ぶ権利を意識して授業に取り組んでほしい。

## キーワード /Keywords

「すべての人」  
「人間らしく生きる」



# ジェンダー論 【昼】

担当者名 /Instructor 力武 由美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	社会とジェンダーとの関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会の理解に必要とされるジェンダーの考え方について総合的に分析し、課題を発見するとともに、解決策を考える。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各自が所属する社会においてジェンダーにかかわる課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する。
	コミュニケーション力		
			ジェンダー論
			GEN001F

## 授業の概要 /Course Description

なぜ男言葉と女言葉があるのか、なぜ女性の大芸術家は現れないのか、「男は仕事、女は家庭」は自然な役割なのか、なぜ政治学や法学・科学の分野に女性教員や女子学生が少ないのか、なぜ戦時・平時にかかわらず女性に対して暴力が振るわれるのか—そのような日常的に「当たり前」となっていることをジェンダーの視点で問い直すことで、社会や文化に潜むジェンダー・ポリティクスを読み解く視点と理論を理解し、使えるようになることを目標にする。また、社会や文化に潜むジェンダーを可視化するツールとしての統計を分析する方法を学ぶ。

## 教科書 /Textbooks

牟田和恵編『ジェンダー・スタディーズ-女性学・男性学を学ぶ』（大阪大学出版会、2009）  
適宜、補足資料を配布

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

井上輝子・上野千鶴子・江原由美子・大沢真理・加納実紀代編『岩波女性学辞典』（岩波書店、2002）  
マギー・ハム『フェミニズム理論辞典』（明石書店、1997）  
R.W. Connell, Gender: Short Introduction. Polity, 2002.

# ジェンダー論 【昼】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 日本語とジェンダー-戦後から現代までの日本歌謡曲【女言葉】【男言葉】
- 2回 ジェンダー・リテラシーで読み解く文学-村上春樹作・小説『ノルウェイの森』【眼差し】
- 3回 現代アートとジェンダー-映画『ロダンが愛したカミーユ・クローデル』【制度】
- 4回 男もつらいよ-アーサー・ミラー作・戯曲『セールスマンの死』【男らしさ】【性別分業】
- 5回 ジェンダー家族を超えて-週刊誌『女性自身』にみる皇室家族の肖像【近代家族】
- 6回 セクシュアリティを考える-あだち充作・マンガアニメ『タッチ』【ホモソーシャル】
- 7回 学校教育の今昔-学園TVドラマの系譜【隠れたカリキュラム】
- 8回 社会保障とジェンダー-津村記久子作・小説『ポトスライムの舟』【貧困の女性化】
- 9回 ジェンダーの視点からみる農業-エレン・グラスゴー作・小説『不毛の大地』【農業経営】
- 10回 アジア現代女性史の試み-ミュージカル『ミス・サイゴン』【女性に対する暴力】
- 11回 女性差別撤廃条約と人権-絵本『世界中のひまわり姫へ』【民法】【均等法】【DV防止法】
- 12回 ジェンダーと平和学-女性戦士の系譜『リボンの騎士』『風の谷のナウシカ』【平和構築】
- 13回 グローバリゼーションと労働市場-国連『人間開発計画報告書』【移住労働】
- 14回 デートDV-TVドラマ「ラスト・フレンズ」【ドメスティック・バイオレンス(DV)】
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の積極的な発言...25%、プレゼン...25%、レポート...25%、期末試験...25%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

(1)法制度改正の動きを新聞等で把握しておく。(2)メディア表現を含め日常的な会話・風景をジェンダーの視点で問い直す作業を日頃から行い、授業中の発言、プレゼン、レポート、期末試験に反映させる。(3)プレゼンにはパワーポイント使用のためプレゼンおよびPPTスキルズを身につけておく。

## キーワード /Keywords

「ジェンダー」「セクシュアリティ」「ポリティクス」「ジェンダー統計」

# 障がい学【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 狭間 直樹 / 政策科学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	障がいについての様々な捉え方を理解し、多角的に考えていく能力を養う。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	障がいの捉え方に関する3つのモデルの関係性について理解する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	障がい観を見直す視座を習得する。
	コミュニケーション力		
			障がい学
			SOW001F

## 授業の概要 /Course Description

「障害」という否定的なイメージで捉えられることが少なくないが、本講義では、「文化」といった視点から「障害」という概念を捉えなおし、異文化が共存・共生していくための阻害要因や問題点を浮き彫りにしていくとともに、共存・共生社会を実現するための考え方を学ぶ。障害者問題をテーマとしたテレビドラマ等にも随時ふれながら、身近な問題として考えていく。また、ゲスト・スピーカーとして、当事者や家族、支援者にもお話をうかがう予定である。

## 教科書 /Textbooks

特になし。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

随時指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準。
- 第2回：「障がい学」とは【障害学】【障がい学】
- 第3回：障害の捉え方【障害の種類と区別】
- 第4回：障害の捉え方【医療モデル】【社会モデル】【文化モデル】
- 第5回：自閉症とは【自閉症】
- 第6回：文化モデル的作品DVDの視聴【文化モデル的作品】
- 第7回：文化モデル的作品の評価【3つのモデルとの関連で】
- 第8回：3つのモデルの関係性【3モデルの在り方】
- 第9回：日本の福祉制度現状【法的現状】
- 第10回：日本の福祉制度の現状【制度的現状】
- 第11回：日本の福祉制度の現状【雇用問題を事例として】
- 第12回：日本の福祉制度の課題【福祉制度の課題】
- 第13回：共生社会へ向けての課題【共生社会】
- 第14回：自己への問いとしての障がい学【自己への問い】
- 第15回：まとめ、質問。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

特になし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 共生の作法【昼】

担当者名 /Instructor  
 今泉 恵子 / 法律学科, 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科  
 石田 信平 / shinpei ishida / 法律学科, 高橋 衛 / 法律学科  
 植木 淳 / 法律学科, 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科  
 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科, 小池 順一 / junichi KOIKE / 法律学科  
 津田 小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科, 福重 さと子 / SATOKO FUKUSHIGE / 法律学科  
 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科, 中村 英樹 / 法律学科  
 福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科, 山口 亮介 / Ryosuke Yamaguchi / 法律学科  
 水野 陽一 / 法律学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年  
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	共生という観念と法との関係や共生における法の役割を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代社会における共生の問題について、法の観点を踏まえ、総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代社会における共生に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			共生の作法
			LAW001F

## 授業の概要 /Course Description

現代社会は、国家としても個人としても、極めて複雑な様々な関係から成り立っている。われわれは個人としてどのような関係の中で生活しているのか、どのような関係の中で生活すればよいのかを考える必要がある。われわれの生活が、およそ一人では成り立たない以上、人と人との関係、人と国家との関係、国家と国家との関係、世代と世代との関係、人と自然との関係など様々な関係の中で成り立っていることを考えなければならない。

他者との共存ないし共生は我々の生活には不可欠なものであり、そのためお互いの良好な関係を維持し、これを発展させるためには、お互いに守るべきルールやマナー（作法）を知ることが必要である。

今現在、そのような他者との関係がどのようになっているのかを考え、そして、これらの関係をどのように維持し、あるいは改善しなければならないかを考えることが、本講義の目的である。

## 教科書 /Textbooks

なし。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

講義の中で適宜指示する。

# 共生の作法【昼】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス(高橋)
- 第2回 法と道徳について(重松)
- 第3回 障害のある人の権利—日本国憲法から(植木)
- 第4回 生命の「自己決定」権?(中村)
- 第5回 行政活動と法治主義(福重)
- 第6回 犯罪とは何か(大杉)
- 第7回 刑事裁判とはなんだろう?(水野)
- 第8回 家族とは何か(小野)
- 第9回 契約とは何か(民法入門:契約の意義,種類,成立から終了まで)(福本)
- 第10回 商事(ビジネス)に関する法の特徴は何か(今泉)
- 第11回 民事訴訟とは何か(小池)
- 第12回 社会保障の必要性和社会保険について考えよう(津田)
- 第13回 雇用とは何か(雇用関係の成立,雇用関係の展開,雇用関係の終了)(石田)
- 第14回 国際社会と日本(二宮)
- 第15回 日本人の法・権利意識と歴史的基層(山口)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

- レポートによる(100%,④に注意)。
- ① 受講者は学籍番号に応じて指定されたテーマ群のなかから,テーマを1つ選び,レポートを1本作成して提出すること。
  - ② レポートの書式等は掲示により別途指示する。レポートは3000字以上とする。
  - ③ レポートには,所属学科・学年・学籍番号・氏名・テーマ・講義担当教員名等を明記した所定の表紙を必ず添付すること。
  - ④ 授業態度が著しく悪いと判断される受講者は,レポート提出があっても評価されないことがある。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

各回のテーマについて事前に情報を収集し、予習しておくとう理解が深まります。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

レポート課題は、学籍番号に応じて選択することができる範囲(テーマ群)が決まります。全ての授業に出席していないと書けないことになるので注意して下さい。各人が選択できる範囲(テーマ群)は、試験期間開始よりも前の適切な時期に掲示により指定します。

## キーワード /Keywords

【現代社会】 【共生】 【作法】 【ルール】

# 法律の読み方 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と法との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	法的課題について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	法と社会とのつながりを再確認し、その深い理解をもって社会において積極的に行動できる。
	生涯学習力	●	社会における法的課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			法律の読み方 LAW002F

## 授業の概要 /Course Description

六法全書や法律書を開いてみても難しい。裁判所の判例を読んでもどうしてそういう判断をするのかわからない。法律はどういう仕組みになっているのかわからない。そういう疑問に少しでも応え、法律の世界を理解するために必要なスキルを提供します。法律に興味や関心を抱き、社会生活を円滑に営むための指針、心構えをつくる手助けになればと思っています。

## 教科書 /Textbooks

毎回、レジュメ、資料を配布します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じてその都度紹介します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス-法律を読むために
- 2回 憲法の役割と基本原則を知る① 【最高法規】 【個人の尊厳】 【基本的人権】 【国民主権】
- 3回 憲法の役割と基本原則を知る② 【平和主義】 【権力分立】 【違憲法令審査制】 【個人と国家】
- 4回 民法の役割と基本原則を知る① 【私的自治】 【所有権の絶対】 【過失責任】 【家族法の特質】
- 5回 民法の役割と基本原則を知る② 【公共の福祉】 【信義誠実の原則】 【権利濫用】 【取引の安全】
- 6回 刑法の役割と基本原則を知る① 【罪刑法定主義】 【犯罪の要件】 【刑罰】
- 7回 刑法の役割と基本原則を知る② 【刑事手続】 【裁判員制度】 【刑事責任と民事責任】
- 8回 法の特性と構造、機能を知る① 【社会規範】 【法規範の特性】 【社会統制】 【活動促進】
- 9回 法の特性と構造、機能を知る② 【紛争解決】 【行為規範】 【裁判規範】 【法源】
- 10回 法の適用と解釈の仕方を知る 【裁判所】 【裁判の役割】 【法解釈の方法】 【文理解釈】 【類推解釈】
- 11回 判例の読み方を知る 【判例集】 【判例の調べ方】 【事実の概要】 【判旨】 【参照条文】
- 12回 判例を読む① 【判例部分の抽出】 【判例研究の意義】 【判例研究の仕方】
- 13回 判例を読む② 【判例評価の方法】 【判例と学説】 【特別受益】 【生命保険金】
- 14回 法律の視点から社会を読む 【相続】 【親子関係】 【婚姻】 【離婚】
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 20 % 定期試験... 80 %

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

六法を持参してください。法学部生以外の受講生には、石川明他編『法学六法'15』信山社(1,000円)をお勧めします。

# 法律の読み方 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords



# 社会調査【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と社会との関係性を総合的に理解するため、社会調査の知識を身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル	●	社会的事象に関する量的・質的調査の基本的な考え方を身につける。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	社会的な課題の発見、データに基づく解読、解決策の提示を可能とするための方法を考える。
関心・意欲・態度	自己管理能力 社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各自が所属する社会における課題を自ら発見し、解決策を提示するための調査方法を継続して考える。
	コミュニケーション力		
			社会調査
			SOC003F

## 授業の概要 /Course Description

社会調査（量的調査）の基本的な考え方と技法を習得する。  
社会調査の目的は、さまざまな社会現象の中から、社会にとって「意味がある」と思われる現象を見つけ出し、「どうなっているのか」「なぜそうなるのか」を、データに基づいて解釈することにある。この授業では、（１）意味のある「問い」をたてること、（２）その「問い」への「答え」を導くための手順（論証戦略）をたてること、（３）論証戦略に基づいて適切な調査票を作成すること、（４）データを統計的に処理すること、（５）データを解釈すること、について学ぶ。  
なお、パソコン教室を使う関係上、教室定員に応じて受講者数調整を行うことがある。

## 教科書 /Textbooks

使用しない。（適宜、資料・プリントを配布する。）

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 『社会調査法入門』、盛山和夫著、有斐閣、2004
- 『ガイドブック社会調査（第2版）』、森岡清志編著、日本評論社、2007
- その他、授業の中で紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 何のための社会調査か
- 第2回 量的調査と質的調査
- 第3回 調査と研究の進め方
- 第4回 社会調査を企画する
- 第5回 ワーディングと調査票の作成（１）
- 第6回 ワーディングと調査票の作成（２）
- 第7回 ワーディングと調査票の作成（３）
- 第8回 サンプリング
- 第9回 調査の実施
- 第10回 データファイルの作成（実習）1
- 第11回 データファイルの作成（実習）2
- 第12回 分布と統計量
- 第13回 クロス集計
- 第14回 相関係数
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 40% 期末レポート... 60%  
(総合的に判断する。)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

課題をきちんと提出すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業を通して「実証研究の考え方」を学んで欲しいと思います。

## キーワード /Keywords

量的調査、基本仮説、作業仮説、ワーディング、ランダムサンプリング、SPSS、度数分布、クロス表、相関係数

# 市民活動論 【昼】

担当者名 西田 心平 / 基盤教育センター  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	市民活動と地域社会との関係性について総合的に理解することができる。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	市民活動に関する総合的な考察をもとに、それが直面する課題を発見することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	地域課題の解決のために、市民活動についての学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
		市民活動論	RDE001F

## 授業の概要 /Course Description

市民活動とはどのようなものが、基本的な論点が理解できるようになることを目的とする。  
主要な事例をとりあげ、それを柱にしながら授業を進めて行く予定である。

## 教科書 /Textbooks

とくに指定しない。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

授業の中で適宜紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
  - 2回 検討の枠組みについて
  - 3回 枠組みを使った民衆行動の分析①
  - 4回 枠組みを使った民衆行動の分析②
  - 5回 市民活動の<萌芽>① - 政治と経済
  - 6回 市民活動の<萌芽>② - 市民
  - 7回 市民活動の<再生>① - 政治と経済
  - 8回 市民活動の<再生>② - 市民
  - 9回 市民活動の<広がり>① - 政治と経済
  - 10回 市民活動の<広がり>② - 市民
  - 11回 中間まとめ
  - 12回 北九州市における市民活動のうねり
  - 13回 今日の市民活動の<展開>① - 政治と経済
  - 14回 今日の市民活動の<展開>② - 市民
  - 15回 全体まとめ
- ※スケジュールの順序または内容には、若干の変動がありうる。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極参加... 30% 期末試験... 70%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

受講者には、市民活動について自分で調べてもらうような課題を課す場合がある。その際の積極的な参加が求められる。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 企業と社会【昼】

担当者名 /Instructor 山岡 敏秀 / toshihide yamaoka / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	企業と社会に関する諸問題を歴史、思想・文化との関連で理解するための基本的な知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	歴史、思想・文化等の総合的理解を通して、企業と社会に関する諸問題を発見し、主体的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各自の生活世界から企業と社会に関する諸問題に常に興味を持ち、直面する課題を発見し、解決する力を継続的に涵養することができる。
	コミュニケーション力		
			企業と社会
			BUS001F

## 授業の概要 /Course Description

我が国は、アジア太平洋戦争に敗北した。しかし、日米同盟という軍事的・政治的・経済的枠組みのもとで、奇跡的とも言うべき復活・再生（高度成長から安定成長）を果たした。そして、その後の不況下の物価上昇というスタグフレーションをひとまず克服した日本経済は、欧米からジャパンアズナンバーワンとも賞賛された。こうした日本の企業社会であるが、その「ピーク＝破壊」たる1990年代前半のバブル崩壊を契機として、一転して失われた15年さらには20年とも評価されるにいたっている。

終身雇用（lifetime commitmentの日本語訳、広義には職場共同体という意識）・年功制や労使協調型経営のシステムは、今や、液状化して剥き出しの資本制経済の荒波（マーケット中心主義）にさらされている。日く、ワーキングプア（働いていても生活がいよいよ苦しい）・ネットカフェ難民（帰るべく家がない）・格差から貧困（経済的格差・貧困から意欲の格差が目目される）・99%対1%、そしてついにはブラック企業の台頭、等々である。

にもかかわらず、経済政策をリードしている新自由主義路線。すなわち「市場＝マーケット」万能路線である。そこでは、市場から脱落・排除（彼女／彼らはこれを退出という）された者は、もはや回帰不可能な存在として処理されているかのようである（例えば、退場をしたサッカー選手には、帰るべく家があるが、市場から退場を命じられた労働者に帰るべく家は必ずしも存在しない。さらには、待ち構えている企業そのものがブラック企業でもある）。

だからこそ、これまでの日本経済においては、ケインズ型経済政策を基底にして、社会そのものがこうした人々を支えるセーフティネットをもってたと判断される（社会統合機能）。しかし、赤字財政と経済危機という観点から、いよいよ新自由主義なる路線が浸透しているかのようである（社会統合機能の麻痺と当該社会の正統性の危機）。

そうすると行き着くところ、社会（資本制経済あるいは資本家の生産社会）というものは、必ずしも人々の生命の再生産を所与としないかのようには振る舞うことが可能なのだろうか？

こうした問題を、日本の企業社会という文脈にひきつけて展開してみようというのが講義のねらいである。

## 教科書 /Textbooks

テキストは、竹内章郎『新自由主義の嘘』岩波書店、2007年。  
また、レジユムも配布する。

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

- 1、市場を扱った文献については、カール・ポランニー『市場社会と人間の自由』大月書店、2012年(○)
- 2、格差と貧困に関わるテーマを扱った文献については、①雑誌『世界』(○)・岩波新書等の最新の文献、②『私たちは“99%”だ』(岩波書店、2012年)(○)、③國島・重本・山崎編『「社会と企業」の経営学～新自由主義的経営から社会共生的経営へ～』ミネルヴァ書房（2009年）(○)、森岡孝二編『貧困社会ニッポンの断層』桜井書店、2012。ブラック企業関連の最新の文献。
- 3、社会統合と社会の正統性に関する議論については、ハバースとルーマンの議論を紹介した文献を参照。①山之内靖『システム社会の現代的位相』岩波書店、2011、②尾関周二『言語的コミュニケーションと労働の弁証法』大月書店、2002、その他、この論争を紹介している最近の資料を紹介していく。

# 企業と社会【昼】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 商品に表された労働の二重性(現代社会の二重性)～「誠の恋は、何故、みのらない」?
- 2回 資本主義という俗語と市民社会という講学用語 【資本主義】【市民社会】【ブルジョア社会】
- 3回 市場とは～[私達]の振る舞いである「C(商品) - M(貨幣) - C(商品)」
- 4回 市場とは～[資本家]の振る舞いたる「M(貨幣) - C(商品) - M(貨幣)」
- 5回 商品流通の次元と平等～何故、格差・貧困・「99%対1%」なのか 【格差】・【貧困】
- 6回 市民社会の歴史的創出～本源的蓄積過程 【本源的蓄積過程】【賃労働関係】
- 7回 労働者および資本家の歴史的誕生・英国のケース 【本源的蓄積過程】【ゼントルマン資本主義】
- 8回 商品流通と生産過程・利潤の源泉 【剰余価値】【利潤】【公表利益】(【公開】【開示】)
- 9回 長時間労働・過労死そして格差・貧困の発生そしてブラック企業 【絶対的剰余価値】【相対的剰余価値】【労働組合】
- 10回 ブラック企業の台頭～日本という社会そのものの脆弱性 【衰退する既存の労働組合】【台頭する新たな労働組合】
- 11回 資本主義と危機=福祉国家(混合経済)の登場 【恐慌と危機】【福祉国家】
- 12回 福祉国家の危機=赤字財政というシステム統合危機・市場回帰の新自由主義の台頭 【赤字財政】【新自由主義】
- 13回 新自由主義の台頭とセーフティネット装置の浸食・システム統合危機から社会統合危機へ 【危機】【社会統合】
- 14回 システム統合と社会統合・マーケットとその外側(生活世界) 【システム統合】【社会統合】【生活世界】
- 15回 まとめ～このかけがえのない個体としての私

## 成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...100%、およびボーナスとして、レポート...10%と小テスト...10%。この配分を100点満点に換算して評価する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

- ①、テキストを用意すること。②、レジュメだけにしがみつかない。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

最近では、ブラック企業という言葉が頻りに聞きます(ホワイト企業という言葉もあります。それはともかく、白と黒という二重性にまず注目しましょう)。ブラック企業の台頭は就活にとって無視できません。私たちは、次々とした魔物(私達の社会的産物)にからめとられてしまうのでしょうか。だから、私達にとって社会とは、単なる観察対象ではなく、観察主体である自らも同時に、観察対象そのものであることを常に意識してもらいたい。それというのも、私達の社会的産物そのものが、私達自身に刃向かってくるのだから。

## キーワード /Keywords

【商品流通】【資本家】【労働者】【市民社会】【資本制経済】【市民法】【本源的蓄積過程】【剰余価値】【賃労働関係】【ブラック企業】  
 【福祉国家】【ケインズ政策】【新自由主義】【システム統合】【社会統合】【生活世界】

# 現代社会と倫理【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代社会と倫理との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の倫理について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代の倫理に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			現代社会と倫理
			PHR002F

## 授業の概要 /Course Description

現代社会の中で生じている倫理的問題のいくつかを考察しながら、実践倫理学の基礎を学ぶ。「われわれ現代人は生と死の問題、差別と平等の問題にどう立ち向かうべきなのか」という問いかけを中心に、個々の社会問題に対する批判的思考の育成を目指す。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- ピーター・シンガー『実践の倫理 新版』（山内友三郎・塚崎智監訳）、昭利堂、1999年。
- 加藤尚武・飯田亘之編『バイオエシックスの基礎』、東海大学出版会、1988年。
- 江口聡編・監訳『妊娠中絶の生命倫理』、勁草書房、2011年。
- 安彦一恵『「道徳的である」とはどういうことか—要説・倫理学原論』、世界思想社、2013年。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 20世紀の倫理学【規範倫理学とメタ倫理学】
- 3回 現代における人命の価値（1）【生命の神聖説】
- 4回 現代における人命の価値（2）【積極的行為と消極的行為】
- 5回 現代における人命の価値（3）【最大幸福原理】
- 6回 現代における人命の価値（4）【不完全義務】
- 7回 現代における人命の価値（5）【自己意識】
- 8回 現代における人命の価値（6）【FLO】
- 9回 現代における差別の問題（1）【種差別の問題】
- 10回 現代における差別の問題（2）【種差別の諸相】
- 11回 現代における差別の問題（3）【工業化と経済格差】
- 12回 現代における公平性の意義（1）【人口問題】
- 13回 現代における公平性の意義（2）【食糧問題】
- 14回 現代における公平性の意義（3）【公平主義】
- 15回 現代における公平性の意義（4）【援助義務論】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験... 100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

授業予定の詳細と参考文献の紹介は、第1回もしくは第2回の授業時に行なう。  
参考文献に挙げた『バイオエシックスの基礎』および『妊娠中絶の生命倫理』に収められた論文を一部授業の素材にするので、簡単にでも目を通しておくことが望ましい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

生命 義務論 功利主義 貧困 公平性



# 現代社会と新聞ジャーナリズム【昼】

担当者名 西日本新聞社、基盤教育センター 稲月正  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	新聞を通して人間、社会、マスメディアの関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	新聞を通して人間理解に必要とされる個人と社会との関係について総合的に分析し、現代社会が直面する課題を発見する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	新聞をはじめとするマスメディアを通して現代社会における課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する。
	コミュニケーション力		
		現代社会と新聞ジャーナリズム	
		SOC001F	

## 授業の概要 /Course Description

この講義は西日本新聞社による寄付講座である。毎回、新聞ジャーナリズムの第一線で活動している記者やデスクなどの講義を聞き、現代社会と人間の関係について総合的な理解を深めることを目的とする。受講者各自には、新聞を通して、現代社会が直面する課題を発見し、解決のために自ら学ぶ姿勢を持つことが求められる。

## 教科書 /Textbooks

教科書は指定しないが、新聞が必要となる課題を出す予定なので、必要に応じて各自で新聞を購入すること。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業の中で、適宜、紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション / 新聞ジャーナリズムの現状 (編集企画委員長)
- 第2回 追跡・振り込め詐欺 / 深刻化する高齢者への犯罪 (社会部記者)
- 第3回 九州経済をどう見るか / 経済記者の視点 (経済部長)
- 第4回 人口減少社会を追う / 超高齢者社会の先にあるもの (社会部記者)
- 第5回 デジタル時代の新聞 / 電子メディアへの挑戦 (q B i x 編集長)
- 第6回 ニュースの価値付け / 見出しはこう決まる (編集センターデスク)
- 第7回 アジアと九州を考える / 国際報道の現場から (前中国総局長)
- 第8回 地域文化を見つめて / 文化部記者の仕事とは (文化部デスク)
- 第9回 新聞をデザインする / ビジュアルな紙面とは (デザイン部デスク)
- 第10回 スポーツ報道の世界 / 運動記者が伝えるもの (運動部デスク)
- 第11回 分かりやすさの追求 / こども向け紙面 (もの知りタイムズ編集長)
- 第12回 報道写真の力 / カメラマンの心得とは (写真部記者)
- 第13回 働く現場とは / 企画「働く 生きる」を取材して (生活特報部記者)
- 第14回 戦後70年を迎えて / 国の安全保障を考える (社会部記者)
- 第15回 北九州の現場から / 半世紀を経た都市づくり (北九州本社記者)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

レポート (3回)・・・100%  
ただし、出席回数が一定回数以下の受講生はレポートの出来にかかわらず、成績を不可 (D) とする。詳細は第1回目の講義で説明する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

日々の新聞をよく読み、世の中の動きに敏感になること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業を通じて社会とあなたがどうつながっているか、考えるきっかけにしてください。また、ネットなど多メディア時代における新聞の役割、価値について、少しでも理解を深めてくれれば幸いです。

## キーワード /Keywords

メディアリテラシー（メディアを読み解く力）

# 都市と地域【昼】

担当者名 /Instructor 南 博 / MINAMI Hiroshi / 地域戦略研究所, 奥山 恭英 / Yasuhide Okuyama / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	都市と地域について総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	都市と地域について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	都市と地域に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			都市と地域
			RDE002F

## 授業の概要 /Course Description

日本や海外における都市や地域についての紹介や、それらを捉えるための概念や枠組み、現状の課題や将来の展望などについて講義します。より幅広く俯瞰的な視点を持つことにより、都市や地域を違った形で捉え、そこから社会に対する新しい視点が生まれることを期待します。

## 教科書 /Textbooks

特になし。適宜文献や資料を紹介する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

【地域】 適宜文献や資料を紹介する。  
【都市】 特になし。参考となる文献等については授業中に適宜紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 共通 : 授業及び講師紹介
- 2回 地域 1 : 地域の概念 : 世界と日本の事例
- 3回 地域 2 : 地域をどのように学問するか : 地域学と地域科学
- 4回 地域 3 : 地域間という考え方
- 5回 地域 4 : グループ討論 : 地域とはなにか? 何が地域を規定するか?
- 6回 地域 5 : 地域事例紹介 1 (国内事例予定)
- 7回 地域 6 : 地域事例紹介 2 (海外事例予定)
- 8回 地域 7 : 課題レポート発表・討論
- 9回 都市 1 : 都市の概念
- 10回 都市 2 : 都市へ人や産業が集まる理由
- 11回 都市 3 : 都市問題、都市の衰退
- 12回 都市 4 : 今後の日本の都市のあり方を考える際に必要な視点
- 13回 都市 5 : 都市間の連携による政策推進
- 14回 都市 6 : 北九州の都市政策を考える (1) 【にぎわいづくり】
- 15回 都市 7 : 北九州の都市政策を考える (2) 【総合的な政策推進】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

【地域】 全体の50% : クイズ... 15% 授業内貢献... 10% レポート... 25%  
【都市】 全体の50% : レポート... 35% 日常の授業への取り組み... 15%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# 都市と地域【昼】

## 履修上の注意 /Remarks

【地域】前半の「地域」のどこかで数回、クイズ(小テスト)を行う(当日発表)。レポートは各自印刷の上、地域7の授業に持参し授業終了後の提出とする。授業内ディスカッションを活発に行うので、発言の無い学生は授業内貢献の評価が芳しくなくなる。

【都市】特になし。レポート提出方法等については授業中に説明する。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

【地域】「地域」という概念は多様であり、それらを理解することにより空間としての地域に対する自らの視点を形成することを期待する。

【都市】日常生活を送る中で、「この都市の良い/悪いところ」と感じたことを記憶に留め、「なぜ現状のようになっているのか」「今後どのように改善すべきか」等を考えることの習慣化を期待する。

## キーワード /Keywords

地域科学、地域学、都市政策、にぎわい

# 現代の国際情勢【昼】

担当者名 /Instructor 山本 直 / Tadashi YAMAMOTO / 国際関係学科, 下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科  
大平 剛 / 国際関係学科, 久木 尚志 / 国際関係学科  
白石 麻保 / 中国学科, 堀地 明 / 中国学科  
尹 明憲 / YOON, Myoung Hun / 国際関係学科, 吉川 哲郎 / KIKKAWA TETSUROU / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 授業形態 講義 クラス 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の国際情勢について理解を深める。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の国際社会における問題を認識した上で、分析を行い、解決方法を考察する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代の国際情勢に対して、継続的な関心を持ち、学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			現代の国際情勢
			IRL003F

## 授業の概要 /Course Description

現代の国際情勢を、政治、経済、社会、文化などから多面的に読み解く。近年、国際関係および地域研究の分野で注目されている出来事や言説を紹介しながら講義を進める。

## 教科書 /Textbooks

使用しない。必要に応じてレジュメと資料を配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

この授業は、複数の教員および招聘講師が、各自の専門と関心から国際関係や地域の情勢を論じるオムニバス授業である。授業テーマと担当者については初回授業で紹介するので、必ず出席すること。

- 第1回 山本 オリエンテーション
- 第2回 大平 変容するアジア情勢と日本の国際協力(1) 中国の海洋進出、南シナ海・東シナ海、シーレーン、アジア・リバランス戦略
- 第3回 大平 変容するアジア情勢と日本の国際協力(2) 開発協力大綱、防衛装備移転三原則
- 第4回 吉川 アメリカのミュージカル演劇(1) 概論
- 第5回 吉川 アメリカのミュージカル演劇(2) ミュージカル
- 第6回 吉川 アメリカのミュージカル演劇(3) 演劇
- 第7回 三浦 国境を越える放送文化
- 第8回 下野 中国と民主化
- 第9回 白石 中国の持続的発展の可能性：経済成長・SNA・投資
- 第10回 久木 2010年代のイギリス(1) 2010年総選挙
- 第11回 久木 2010年代のイギリス(2) 2015年総選挙
- 第12回 堀地 北京探索 - 悠久の歴史と再開発の現在 -
- 第13回 尹 東アジアの経済事情(1) 東アジアとは何か、日本との経済関係
- 第14回 尹 東アジアの経済事情(2) 東アジアの地域統合、九州との経済交流
- 第15回 山本 ヨーロッパの多国間主義と国際情勢

都合により、講義の順番を変えることがある。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(8回) 100%

# 現代の国際情勢【昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
テーマ科目

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 開発と統治【昼】

担当者名 /Instructor 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科, 伊野 憲治 / 基盤教育センター  
申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	海外及び国内地域社会のガバナンス（協治）について総合的理解が可能となる。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国内外のガバナンス（協治）の在り方を通しての課題を発見でき、その課題を解決するための方策が学習できる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	大学卒業後、地域社会で生活するにあたって積極的に社会作りに関わり、生涯学習としてその実践活動に携わることが可能となる。
	コミュニケーション力		
			開発と統治
			IRL002F

## 授業の概要 /Course Description

グローバル化が刻々と進行している中、現在、持続可能な社会の構築が求められています。なかにはその目標に向かって進んでいる国や地域がある一方で、紛争や対立を繰り返している国や地域もあります。本講義では各国や地域を熟知・精通した教員が、各自が考える「ガバナンス（協治）」の意味を世界各国(ミャンマー、韓国、米国と日本が対象国)や日本の地域社会の具体的な実例を用いて説明します。そして、最後に受講生にとって「ガバナンス」とは何なのかについてグループワークを通じて回答してもらいます。

以上の概要を通して、開発とは何か、そこにおけるガバナンス概念の知識を吸収すると同時に理解し、地域においては自らもガバナンスの一翼を担えるような能力を付けてもらいたいと考えています。

## 教科書 /Textbooks

その都度配布

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

『○○を知るための○章』シリーズ( 明石書店 )、特にミャンマー、韓国を参照のこと。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 「開発と統治」をはじめると同時に		担当：三宅
第2回 民主化問題を考える視座(1)	【民主化問題】	担当：伊野
第3回 民主化問題を考える視座(2)		担当：伊野
第4回 理論と現実～ミャンマーの民主化をめぐる	【ミャンマー】	担当：伊野
第5回 理論と現実～開発の陰でのガバナンスの変化		担当：伊野
第6回 韓国セウォル号沈没事件に見る韓国のガバナンス		担当：ソンミンホ・三宅
第7回 セウォル号 問題の解決はどのようになされたのか？ 危機管理とガバナンス	担当：ソンミンホ・三宅	
第8回 韓国版水俣病の発現の実態		担当：ソンミンホ・三宅
第9回 健康被害を出さないための取組みはどこまで実施されているか？		担当：ソンミンホ・三宅
第10回 韓国の民主化とガバナンスの形成過程	【韓国】	担当：申
第11回 アメリカにおけるガバナンスと環境	【米国】	担当：申
第12回 エネルギー問題にみるガバナンス形成	【エネルギー問題】	担当：申
第13回 食品ロス削減運動に見るガバナンス	【食品ロス削減運動】	担当：三宅
第14回 日本の子ども会を取り巻く環境	【子ども会】	担当：三宅
第15回 まとめ～ガバナンスに関してのグループワーク	【グループワーク】	担当：三宅

## 成績評価の方法 /Assessment Method

参加態度...30% 小課題の提出...20 % 試験...50 %

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 開発と統治【昼】

### 履修上の注意 /Remarks

日ごろから世界の動きに注目し、新聞やインターネットなどで情報をキャッチしておくこと。また、時々、小課題を出すので、必要に応じて提出すること。試験の結果が良くても、出席をあまりしなかった受講生はD判定になる可能性が大きいと思ってください。

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

世界と私たちが住む地域は恒常的に結びついています。その結びつきを最終的には理解できるようにします。

### キーワード /Keywords

ガバナンス ミャンマー 韓国 米国 地域社会 子ども会 グループワーク



# グローバル化する経済【昼】

担当者名 /Instructor 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科, 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科  
畔津 憲司 / KENJI AZETSU / 経済学科, 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科  
永田 公彦 / グローバル人材育成推進室, 鳥取部 真己 / マネジメント研究科 専門職学位課程  
高橋 秀直 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	国際経済の諸問題を社会・文化と関わらせつつ理解するための基本的な知識を持っている。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力 その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国際経済の諸問題を発見し、解決策を自立的に提示することができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	国際経済の諸問題に常に関心と興味を持ち、知識を自立的に探求する姿勢が身につけている。	
	コミュニケーション力			
グローバル化する経済				
ECN001F				

## 授業の概要 /Course Description

今日の国際経済を説明するキーワードの一つが、グローバル化である。この講義では、グローバル化した経済の枠組み、グローバル化によって世界と各国が受けた影響、グローバル化の問題点などを包括的に説明する。日常の新聞・ニュースに登場するグローバル化に関する報道が理解できること、平易な新書を理解できること、さらに、国際人としての基礎的教養を身につけることを目標とする。複数担当者によるオムニバス形式で授業を行う。

## 教科書 /Textbooks

使用しない。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション-グローバル化とは何か
- 2回 自由貿易 【比較優位】 【貿易保護】
- 3回 地域貿易協定 【FTA】 【TPP】
- 4回 企業の海外進出と立地 【直接投資】
- 5回 企業の海外進出と立地 【人件費】 【為替レート】
- 6回 企業の国際展開(1) 【グローバル企業の類型】 【グローバル統合】 【ローカル適応】
- 7回 企業の国際展開(2) 【イノベーション】 【ブランド】
- 8回 グローバル化と人材① 【トヨタ生産方式】 【熟練】
- 9回 グローバル化と人材② 【マザー工場】 【人材育成】
- 10回 グローバル化と途上国の成長・発展 【開発経済】 【労働移動】
- 11回 グローバル化と先進国の経済 【格差】 【ジニ係数】
- 12回 人と情報のボーダレス化 【多国籍組織】 【ダイバーシティ】 【世界同時情報共有】 【ネットワークキング】
- 13回 グローバル文化と異文化マネジメント 【グローバルノマド】 【グローバル人事】
- 14回 バブルと国際金融危機 【バブル】 【不良債権】
- 15回 バブルと国際金融危機 【リーマンショック】 【証券化】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験: 100%。

# グローバル化する経済【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

経済関連のニュースや報道を視聴する習慣をつけましょう。授業ではプリントを多用します。学習支援フォルダにアップするので、予習・復習してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# テロリズム論 【昼】

担当者名 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間とテロリズムとの関係性を総合的に理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力	●	テロリズムについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	テロリズムに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。	
	コミュニケーション力			
			テロリズム論	PLS001F

## 授業の概要 /Course Description

911以降の国際社会を考える上で、もはやテロリズム問題を避けて通ることはできない状況ですが、テロは当然、911以前から歴然と脅威の対象であり続けました。特にわが国は、日本赤軍やオウム真理教など、これまでのテロの「進化」に「貢献」してきたテロの先進国でもあるので、もっとテロリズム全般の知識があってもよいのかなと考えます。この授業は、テロリズムの体系的な理解を得ることを目的とします。

なお、この科目では、テロリズムに関する総合的な知識の獲得、理解、この分野に関する課題発見・分析能力の獲得により、および生涯にわたりこの問題と向き合っていく基盤を提供します。

## 教科書 /Textbooks

特に指定しない。レジュメを配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜指示する。

# テロリズム論 【昼】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 テロリズムとは何か(1)  
定義が困難な理由について  
①「自由の戦士」という問題（祖国解放のための暴力使用はテロか？）  
②テロの犯罪性の問題（佐賀散弾銃乱射事件や秋葉原連続殺傷事件はテロか？）  
③テロの政治性の問題（テロリストが身代金目的で行った誘拐事件はテロか？）
- 3回 テロリズムとは何か(2)  
テロリズムの定義  
①911の特殊性と国土安全保障の考え方  
②アメリカ国内でのテロの定義の統一化  
③テロリズムの定義
- 4回 テロリズムとは何か(3)  
テロリズムの特徴 ①テロの目的 ②テロの標的 ③テロの主体  
テロと犯罪のグレーゾーンについて
- 5回 テロの歴史(1)  
テロの起源、19世紀のテロとアナキズム
- 6回 テロの歴史(2)  
ナショナリズムとテロ（国粋主義、民族解放）
- 7回 現代テロ(1)  
国際テロの登場（1968年エルアル機ハイジャック、スカイマーシャル）  
反米テロの登場（TWA機ハイジャック）  
補論（ハイジャックとは何か）
- 8回 現代テロ(2)  
無差別・自爆テロの登場（日本赤軍、ロッド空港事件）  
劇場型テロの登場（ミュンヘンオリンピック事件とGSG9、ダッカ事件とSAT）
- 9回 反近代・脱近代のテロ  
オクラホマシティー連邦ビル爆破テロ、ユナボマー、環境テロなど
- 10回 無差別大量殺戮テロ(1)  
「大量」殺戮テロの始まり  
化学テロと生物テロ  
化学兵器の特徴
- 11回 無差別大量殺戮テロ(2)  
地下鉄サリン事件の概要  
サリンについて
- 12回 無差別大量殺戮テロ(3)  
地下鉄サリン事件の動機
- 13回 911米国同時多発テロ(1)  
911の特異性  
911の概要と計画性
- 14回 911米国同時多発テロ(2)  
ビンラディンのプロファイル  
アルカイダとテロ、米国の対応
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

なし

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 国際紛争と国連【昼】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	国際紛争に対する国連の役割を考察することにより、人間と国際社会の関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国際紛争と国連に関する諸問題について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	国際紛争と国連に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			国際紛争と国連
			IRL005F

## 授業の概要 /Course Description

国際紛争に対し国連がどのような対応を取ってきているのかについて、法的・制度的枠組みや実際の活動の紹介・分析を通じ、学習することで、国連による国際紛争の処理メカニズムの現状と課題についての認識を深めてもらうことを目指します。

まずは国際紛争とは何か、時間経過軸による紛争の分類（Phase化）の議論を紹介し、紛争の各段階における国連の対応の必要性を認識してもらいます。次に、その分析軸を基に、総論として、国連における国際の平和と安全のための活動の基本的枠組みと、そこでの加盟国が果たすべき役割を認識してもらった上で、各論として、①平和的解決の手法を駆使し平和を創出する段階、②停戦合意後の暫定的な平和を維持する段階、③政治的意思の欠如から平和を強制せざるを得ない段階、④紛争後の平和を持続・定着させる段階についてそれぞれ取り上げ、事例の紹介も交えながら、国連による国際紛争の処理メカニズムの現状と課題について、学んでもらいます。

## 教科書 /Textbooks

テキストは設定しません。  
講義の理解に必要な参考資料を、適宜、配布します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

参考書 財団法人日本国際連合協会『わかりやすい国連の活動と世界（改訂版）』（三修社・2007）  
その他の参考文献は、適宜、指示します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースガイダンス
- 第2回 国連情報へのアクセス方法 【ODS】【UNBISnet】【UN Journal】
- 第3回 国連を知る 【国連の生立ち】【国連の目的】【国連の組織構造】
- 第4回 紛争を知る 【難民】【発生国】【受入国】
- 第5回 国際紛争を見る分析軸 【DisputeとConflict】【国際紛争の定義】【紛争のPhase】
- 第6回 国連による平和の創出①：紛争処理のメカニズム 【国連憲章第6章】【総会】【安全保障理事会】
- 第7回 国連による平和の創出②：平和創造 【事務総長による周旋】【The Team】
- 第8回 国連による平和の創出③：司法的解決 【国際司法裁判所（ICJ）】【法の支配】
- 第9回 国連による平和の維持①：国連平和維持活動（PKO）の創設と展開 【6章半の活動】【PKO原則】
- 第10回 国連による平和の維持②：国連平和維持活動（PKO）の深化 【多機能化】【キャップストーン報告】
- 第11回 国連による平和の強制①：決定プロセス 【平和に対する脅威等の認定】【強制措置】
- 第12回 国連による平和の強制②：実施上の課題 【経済制裁】【多国籍軍】【地域的機関】
- 第13回 国連による持続的平和の定着 【平和構築】【平和構築委員会】
- 第14回 国連による国際の平和と安全のための活動と加盟国 【財政的貢献】【人的貢献】
- 第15回 まとめ

# 国際紛争と国連【昼】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

課題等への対応および学期末試験で評価します。  
課題等への対応...30% 学期末試験...70%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

毎回、予習を前提とした講義を展開します。  
指示された課題に誠実に取り組んでから、授業に臨むようにしてください。  
詳細は、学習支援フォルダーで確認してください。  
成績評価において、授業を通じ提出を求められる課題への対応の比率が高く設定されています。  
そのため単位取得のためには、提出を求められた課題に対し、誠実に取り組むことが必要となりますので、受講の決定の際には、この点に注意してください。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

3つの願いがあります。  
国際問題に関心を持ってほしい。国連の現状と限界を学習し、現在の国際社会の姿を正しく理解してほしい。そして国際問題は、自分たちの問題であることを認識してほしい。

## キーワード /Keywords

【国際紛争】 【国連】 【平和創出】 【平和維持】 【平和強制】 【平和構築】

# 国際社会と日本【昼】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科, 金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科  
阿部 容子 / ABE YOKO / 国際関係学科, 李 東俊 / LEE DONGJUN / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の国際社会の動向と日本の関係について総合的な理解力を有している。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国際社会に対する批判的省察をもとに、日本が直面する問題の分析を行い、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力 社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	国際社会と日本のあり方に関して課題を自ら発見し、解決していくために学び続けることができる。
	コミュニケーション力		
			国際社会と日本 IRL004F

## 授業の概要 /Course Description

近現代の世界史のなかに東アジア三国(日本、清国・中国、朝鮮・韓国)の発展を位置づけ、国際関係史と地域研究への理解を深める。歴史は「過去と現在との対話」と言われるが、実は「過去と将来との対話」でもある。したがって、過去と現在の「東アジアの中の日本」を考えることや、将来の「東アジア地域秩序の構築・構築」に有意義な観点を見出すことを目指す。

## 教科書 /Textbooks

ガイダンスの時にあらためて紹介する。  
第8回～第15回については、五百旗頭真編『第3版補訂版 戦後日本外交史』(有斐閣 2014)を使用する。

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

ガイダンスの時、あるいは授業中に紹介する。  
前半部分の朝鮮半島にかんする記述では、長田彰文『世界史の中の近代日韓関係』(慶応義塾大学出版会 2013)が役立つ。その他、前半で使う参考書として、図書館所蔵のものをあらかじめ示すと、  
日中韓3国共通歴史教材委員会編『未来をひらく歴史 東アジア3国の近現代史』(高文研、2005)  
日中韓3国共通歴史教材委員会編『新しい東アジア近現代史』上・下(日本評論社、2012)がある。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 中国、日本、朝鮮の開国と当時の国際情勢 【東アジア国際秩序】【自由貿易】【朝鮮問題】
- 3回 日清・日露戦争 【日英同盟】【日露交渉】
- 4回 日本の韓国侵略と列国 【保護国化】【韓国併合】
- 5回 日本の朝鮮統治、大陸経営と国際関係 【三・一運動】【五・四運動】
- 6回 国際情勢の緊迫 【満州事変】【日中戦争】
- 7回 第二次世界大戦開戦から日本の敗戦へ【太平洋戦争】【朝鮮問題】
- 8回 冷戦のはじまり 【日本占領】【日本国憲法制定】【封じ込め戦略】
- 9回 帝国支配の解体 【脱植民地化】【日米安全保障条約】
- 10回 革命の時代 【中国革命】【中ソ同盟】【朝鮮戦争】
- 11回 ヴェトナム戦争と戦後秩序の変容 【高度経済成長】【ヴェトナム戦争】【ニクソン政権】
- 12回 デタントから新冷戦へ 【デタント戦略】【米中接近】【石油危機】
- 13回 冷戦の終結 【軍縮】【湾岸戦争】
- 14回 21世紀の世界 【テロとの戦い】
- 15回 授業の総括

## 成績評価の方法 /Assessment Method

レポート 50% テスト 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

複数の先生の担当授業です。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

予習と復習を行い、関連文献を自主的によむこと。

## キーワード /Keywords

近現代 国際関係史 東アジア



# 韓国の社会と文化【昼】

担当者名  
/Instructor

チャン ユンヒャン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
									○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	韓国の社会と文化を理解するのに必要な知識を修得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	隣国理解に必要とされる総合的な考察をもとに日韓における諸問題を主体的に思考し、判断することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力 社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	韓国に対する興味関心を持続させ、隣国理解のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			韓国の社会と文化
			ARE010F

## 授業の概要 /Course Description

適宜映像などを用いながら韓国全般、とりわけ現代韓国の社会と文化に関する基本的な知識を習得し、韓国について理解を深める。これをベースに異文化理解とは何かについても考え、それをグローバルなコミュニティに活かしてみる。また、つねに日韓比較的な視点を念頭に入れながら自国文化について見つめなおす時間としたい。

## 教科書 /Textbooks

適宜プリント配布

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業にて提示

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス
- 2 韓国について概観
- 3 韓国の文学
- 4 韓国の歴史と政治
- 5 ハングルの誕生とその仕組み、韓国人の名字と名前
- 6 現代韓国社会の特徴 (外部講師)
- 7 韓国の公演文化と「韓流」について考える
- 8 遊び文化の過去と現在
- 9 韓国の食文化
- 10 知韓派日本人の見た韓国 (外部講師)
- 11 韓国の韓服
- 12 韓国の大学生とアルバイト
- 13 冠婚葬祭
- 14 異文化体験視点から日韓比較プレゼンテーション
- 15 まとめ

\* 上記スケジュールはあくまでも目安であり、受講生の個性やニーズ、進行状況などにより変更となる場合もある。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度 ( ミニペーパーやプレゼンテーション ) 40%  
中間レポート 20%、期末試験 40%

# 韓国の社会と文化【昼】

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

- 毎回のテーマについて「調べ」て「考え」ること。
- ・ 初回の授業には必ず出席する。
  - ・ 欠席した回に配布されたプリントや資料については各自で解決する。
  - ・ 調べ事や発表等を積極的に行う。
  - ・ ウィキペディアの丸写しに近いレポート、無断引用（コピペ等）が発覚したレポートは0点とする。
  - ・ グループで異文化理解のプレゼンテーションを行う。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# エスニシティと多文化社会【昼】

担当者名  
/Instructor

北 美幸 / KITA Miyuki / 国際関係学科, 篠崎 香織 / 国際関係学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	エスニシティと多文化主義・多文化社会に関する総合的な理解力を有している。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	エスニシティと多文化主義・多文化社会に関する考察をもとに、世界が直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	多様化する社会における課題を発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
		エスニシティと多文化社会	
		IRL001F	

## 授業の概要 /Course Description

冷戦終了後、世界各地で民族紛争が激化している。また、移民をめぐる動きやエスニシティ、人種に関する議論も活発化している。これらは新しい政治現象であると思われるが、決してそうではない。この授業では、エスニシティ問題に関する史的・総合的な理解を目指すとともに、多文化主義に基づく社会の再編成がどのような経緯で進み、いかなる課題を負っているかを幅広い事例を取り上げて考察する。

## 教科書 /Textbooks

使用しない。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて授業中に指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イン트로ダクション
- 2回 東南アジアの多文化社会とエスニシティ
- 3回 「本物・本質」探し：「マレー人」概念をめぐる包摂・排除
- 4回 「独立か否か」：インドネシア・アチエの事例
- 5回 文明の「本場」と「周縁」：東南アジアの華人
- 6回 「想像の共同体」の読み方
- 7回 共存のための区切り
- 8回 前半のまとめ
- 9回 アメリカ合衆国におけるエスニシティと社会
- 10回 同化・統合の諸概念：るつぽとサラダ・ポウル
- 11回 黒人史と公民権運動
- 12回 マイノリティをめぐる政策：アフーマティブ・アクション
- 13回 自らを知る：日系アメリカ人
- 14回 今日のエスニシティ状況：ヒスパニックと不法移民
- 15回 後半のまとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

試験(中間50%、期末50%)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

授業で指示されたことを、授業の事前事後に学習し、準備すること。

# エスニシティと多文化社会 【昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
テーマ科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 歴史の読み方I【昼】

担当者名 /Instructor 八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	史料や文献を講読することを通じて、歴史の見方の多様性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	史料や文献を講読することを通じて、歴史の中に問題を発見・分析する能力を涵養することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	史料や文献を講読することを通じて、幅広い歴史の見方を涵養するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			歴史の読み方 I
			HIS004F

## 授業の概要 /Course Description

ここでは私たちの身のまわりの歴史に関する知識や常識や見過ごしがち些細な事柄に注目して歴史を見直すことを目的としています。

以上の理由から、この授業の内容は高校教科書より高い「歴史学入門」レベルとなっていますのでご了承ください。

1. この授業は高校までの授業のような知識の習得を目的としたものではなく、考えることやものの見方を学ぶことを目的としています。したがって教科書のような通史を学ぶものではありません。
2. この授業は一つの歴史的事実のさまざまな側面やさまざまな解釈から歴史の多様性の面白さを学ぶことを目的としているため、教科書のように事実は一つに限られてはいません。
3. この授業では「日本」という国民国家が成立する以前の前近代の日本列島と東アジアの社会を学ぶため、今日の国家的枠組みとはことなる視点を必要とします。

注意：

この授業で使用する『ラスト・サムライ』『もののけ姫』の映像には一部残虐な暴力シーンが含まれているので、あらかじめご了承ください。

## 教科書 /Textbooks

レジュメを配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 『想像の共同体』（NTT出版）
- 小熊英二『単一民族神話の起源』（新曜社）
- 新渡戸稲造『武士道』（岩波文庫）
- ルース・ベネディクト『菊と刀』（社会思想社）
- 野口実『武家の棟梁の条件』（中公新書）
- 佐伯真一『戦場の精神史』（NHKブックス）
- 勝田政治『廃藩置県～「明治国家」が生まれた日～』（講談社）
- イ・ヨンスク『国語という思想～近代日本の言語認識』（岩波書店）
- 網野善彦『日本社会の歴史（上）～（下）』（岩波新書）
- 門脇禎二『吉備の古代史』（NHKブックス）
- 鳥越信『桃太郎の運命』（ミネルヴァ書房）

# 歴史の読み方I【昼】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス①授業の進め方
- 2回 明治維新と国民国家
- 3回 『ラスト・サムライ』の誤解
- 4回 新渡戸稲造の『武士道』
- 5回 武士道の成立・・・『葉隠』と山鹿素行
- 6回 『平家物語』を読む①二つの平家物語
- 7回 『平家物語』を読む②言葉戦としての「川中島」
- 8回 県名を読む①国郡制と幕藩制
- 9回 県名を読む②県名と県庁所在地
- 10回 県名を読む③戊辰戦争を「見直す」
- 11回 「国語」とは何か
- 12回 網野善彦と日本史の多様性
- 13回 『もののけ姫』を読む-網野史学と【縄文文化】
- 14回 「桃太郎」と吉備王国
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業レポート・・・50%、筆記試験・・・50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

シラバス・レジユメ・参考文献をよく読んでおくこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 歴史の読み方II 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	史料や文献を講読することを通じて、歴史の見方の多様性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	史料や文献を講読することを通じて、歴史の中に問題を発見・分析する能力を涵養することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	史料や文献を講読することを通じて、幅広い歴史の見方を涵養するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
		歴史の読み方II	HIS005 F

## 授業の概要 /Course Description

司馬遼太郎『坂の上の雲』で、「戦術的天才」として描き出された児玉源太郎（日露戦争時の満州軍総参謀長、台湾総督）の実像に実証的に迫り、その「立憲主義的軍人」としての生涯をたどることを通じて、歴史小説と政治外交史研究との関係について思いをめぐらすきっかけを作りたい。要するに、「歴史認識とはいったい何か」という問題を考察していく。

## 教科書 /Textbooks

小林道彦『児玉源太郎 - そこから旅順港は見えるか』（ミネルヴァ書房、3000円税別）。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

○小林道彦『桂太郎 - 予が生命は政治である』（ミネルヴァ書房）。その他、講義中に適宜指示します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インタロダクション
- 第2回 政治的テロルの洗礼 - 徳山殉難七士事件 - 佐賀の乱 -
- 第3回 危機管理者 - 神風連の乱・西南戦争 -
- 第4回 雌伏の日々 - 佐倉にて -
- 第5回 洋行と近代陸軍の建設
- 第6回 陸軍次官 - 英米系知識人との出会い -
- 第7回 台湾経営 - 後藤新平を使いこなす -
- 第8回 政治への関わり - 第一次桂内閣
- 第9回 陸軍改革の模索 - 大山巖・山県有朋との対立 -
- 第10回 日露戦争 - 統帥権問題の噴出 -
- 第11回 旅順攻防戦 - 統帥権問題と明治国家の危機 -
- 第12回 児玉は「天才的戦術家」だったか - 危機における人間像 -
- 第13回 立憲主義的軍人
- 第14回 歴史小説と政治史研究の間
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な講義への取り組み...20% 期末試験...80%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 歴史の読み方II 【昼】

### 履修上の注意 /Remarks

講義前に高校教科書レベルの知識を得ておくこと（必須）。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

### キーワード /Keywords

児玉源太郎 陸軍 統帥権 帷幄上奏 日露戦争 西南戦争 伊藤博文 山県有朋



# そのとき世界は【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター, 伊野 憲治 / 基盤教育センター  
下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科, 岩本 真理子 / 比較文化学科  
寺田 由美 / Yumi Terada / 比較文化学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	世界史を同時代史として、グローバルに理解することができる。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界史を同時代史として、グローバルに認識できる能力を涵養することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	世界史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			そのとき世界は HIS002 F

## 授業の概要 /Course Description

世界史を日本史・東洋史・西洋史に分けてとらえるのではなく、同時代に世界ではいったい何が起こっていたのか、そしてそれはどのように相互に関連していたのか、という観点から世界の動きをよりいきいきととらえて、新しい「世界史」を学生諸君に提示したいと思います。今年度は「1980年代の世界」というテーマを設定して、その時の世界の有様を日本、東南アジア、ドイツ、中国、アメリカ（順序不同）、といった地域での動きを中心にオムニバス方式で講義していきます。

## 教科書 /Textbooks

適宜指示いたします。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜指示いたします。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 インTRODクシヨン(小林)  
第2・3・4回 日本(小林)【バブル経済】、【昭和の終焉】  
第5・6・7回 東南アジア(伊野)【ビルマの民主化運動】  
第8・9回 ドイツ(岩本)【ベルリンの壁崩壊】【ドイツ統一】  
第10・11回 アメリカ(寺田)【レーガン政権】  
第12・13回 中国(下野)【天安門事件】  
第14・15回 ポーランド(スピルマン)【「連帯」運動】【ソ連崩壊】  
以上、順序不同。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...20%小テスト...40%レポート...40%  
上の数値は一応の目安です。実際には、1、各教員担当講義の2コマ目の最後に、出席者に「小テスト」を課します。一回でも未受験があったら、単位は認定されません。2、レポート提出...6人の教員の中から任意の講義を2つ選び、それについてのレポートを提出してもらいます(課題は別途指示。1,200字×2本)。コピーは不正行為と見なします。3、適宜出欠を取ります。4、以上の総合評価で成績評価とします。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

※講義の順番や担当者(地域)は変更になることもあります。「ただ聴くだけ」という受講態度は駄目です。講義前に高校教科書レベルの知識を得ておくこと。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

# そのとき世界は【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 戦後の日本経済【昼】

担当者名 土井 徹平 / 経済学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	戦後の日本経済の発展過程と特徴を理解することができる。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	日本経済が抱える問題を発見し、分析する能力を身に付ける。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	日本経済が抱える問題を認識し、解決のための学習を継続する意欲を持つことができる。
	コミュニケーション力		
			戦後の日本経済
			ECN002 F

## 授業の概要 /Course Description

皆さんは、“Japan as No 1”と言われた時代、つまり、世界の国々が見習うべき世界No 1の経済大国と、日本が海外から称賛された時代があったことをご存知でしょうか。「バブル」以降に生まれた皆さんにとって、これは実感を抱けない言葉かもしれません。しかし私たちは、この時代の「遺産」を引き継ぎ、この時代に形作られた社会的・経済的基盤のうえで現在を生きています。そしてそのことが、現代に生きる私たちの価値観や行動様式を規定しているのです。したがって、“Japan as No 1”と言われた時代（あるいはそれ以降の変化）を知ることは、私たち自身や私たちが生きる現代を理解することでもあります。このことをふまえ本講義では、主に1950年代から60年代に見られた「高度経済成長」と、その結果としての日本社会・文化の変化についてお話しします。

## 教科書 /Textbooks

なし。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業内で適宜紹介します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 歴史を学ぶ意義
- 第2回 I 現代社会の理想と現実
  - 1. とある研究者の履歴を事例として
- 第3回 2. 家族モデルを巡る理想と現実
- 第4回 3. 戦後家族モデルのルーツ
- 第5回 II 「高度経済成長」への道程 - 主に人口論的観点から -
  - 1. 日本の敗戦と人口問題
- 第6回 2. 「高度経済成長」の目的 - 「所得倍増計画」とその背景 -
- 第7回 3. 「高度経済成長」の要因 - 「人口ボーナス」 -
- 第8回 4. 「裏日本」の誕生 - 「高度経済成長」と人口流動 -
- 第9回 III 「エコノミックアニマル」の誕生
  - 1. 上昇志向の時代
- 第10回 2. 「勤勉」の背景 - 何が日本人を「勤勉」にしたのか -
- 第11回 3. 「豊かさ」の象徴 - 「大衆消費社会」と家族 -
- 第12回 IV 現代社会と「豊かさ」
  - 1. 「バブル崩壊」
- 第13回 2. 新たな時代の人口問題
- 第14回 3. 「失われた20年」における「豊かさ」
- 第15回 総括

# 戦後の日本経済【昼】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 80% 日常での授業への取り組み... 20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

特になし。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「歴史」と言えば「暗記科目」という印象を抱いている方も多いと思います。しかし大学で学ぶ「歴史」は「歴史学」であり、「歴史学」は、歴史をもとに過去そして現代について“考える”社会科学です。これまで「歴史」が苦手であった方、「歴史」に関する知識に自信がないという方であっても、「歴史」をもとに考える意思のある方であれば主体的にご参加ください。

## キーワード /Keywords

日本経済史 戦後史 高度経済成長 団塊の世代 人口問題

# もの与人間の歴史【昼】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科, 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	もの与人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	もの与人間との関係性について総合的に分析し、そこに内在する課題があれば、それについて自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	もの与人間との関係に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			もの与人間の歴史
			HIS003 F

## 授業の概要 /Course Description

特定の「モノ」を取り上げ、「モノ」の製造 / 生産、流通、そして使用など、モノ与人間の関わり方の現場に焦点を絞り、その「モノ」と関わることで、私たちの生活そして社会のあり方などがどのように変容してきたか、「モノ」をめぐる歴史を検討する。今年度は自動車と原子力発電所をとりあげる。

## 教科書 /Textbooks

使用しない

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

参考文献リストは、ガイダンス時に配布する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 自動車がつくった社会【モータリゼーション】
- 第3回 カと近代【蒸気機関】、【内燃機関】、【原子力】
- 第4回 自動車の時代の終わり？【ICT】、【高付加価値生産】
- 第5回 自動車をめぐる国民文化【大衆社会】、【トクヴィル】、【ウェーバー】
- 第6回 自動車発明の前提1【職人文化】
- 第7回 自動車発明の前提2【互換性の思想】
- 第8回 自動車と20世紀文明【大衆社会、大量生産】
- 第9回 フォーダイズムとは何か【ヘンリー・フォード】
- 第10回 自動車と道路【道路】
- 第11回 デザイン、広告、クレジット【情報化社会】【大量消費システム】
- 第12回 自動車の社会的費用【宇沢弘文】、【社会的費用】
- 第13回 原発事故を考える【原子力産業】、【地域振興】
- 第14回 原子力発電所と社会【NPT】、【反原発運動】
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 50% レポート50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

特になし。  
近代化をめぐる政治、経済、文化の議論を展開しますので、政治学や経済学、社会学、カルチュラル・スタディとあわせて勉強すると、よく授業内容が分かります。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自動車と原子力発電所から開けていく様々な事柄を紹介しますので、多方面のことに興味を持って勉強して下さい。

## キーワード /Keywords

大量生産システム、民主主義、比較文明論

# 人物と時代の歴史【昼】

担当者名 /Instructor 山崎 勇治 / 国際教育交流センター, 新村 昭雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	歴史上著名な人物を通じて、歴史の流れを理解するために必要な知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	歴史上重要な人物を特定し、その人物が果たした歴史的役割を見出す能力を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	身の回りの歴史と著名人物に関する諸問題を発見する姿勢を持つ。
	コミュニケーション力		
			人物と時代の歴史
			HIS001 F

## 授業の概要 /Course Description

歴史の面白さを、特定の代表的な人物を中心として講義して、学生に知らせることを目的とする。  
 なぜならば、歴史の背後にある人物や文化などを理解することが複雑な今日政治、経済、文化、外交、戦争などの諸現象を理解できるからである。  
 二人の教員が、イギリス・日本の代表的な人物について、人物と時代について語る。  
 まず、新村は、「剣と禅」に生きた山岡鉄舟と幕末・明治維新について語る。今、武士道 (Bushido) が見直されている。核兵器と原子力を抑止するのは結局のところ人間の心しかない。禅と武道を極めた鉄舟もその心を無刀流においた。江戸時代、上杉鷹山はその儒教的経営で壊滅的な上杉家の財政を見事に立て直した。その技を見てみよう。次に、徳川幕府が始まってまだその礎が固まっていないとき、3代将軍家光の弟・保科正之は江戸幕府の礎を築いた。長い平安の時代が終わり、貴族に代わって武士が台頭したとき、貴族のための仏教に代わって、庶民のために仏教が生まれた。それを代表するのが浄土真宗の親鸞であった。日本古来の縄文信仰 (アイヌや南方諸島に残る) や弥生信仰に代わって、聖徳太子 (既戸皇子) は仏教を大和 (やまと) の国の根本におかれた。飛鳥・奈良時代、なぜ、インド・中国から渡来した仏教が日本で繁栄したのか。これらを明らかにする。  
 次に山崎は、スコットランドを紹介したのち、日本の近代化に貢献したスコットランド人のトーマス・グラバーと雇われ外国人の果たした役割について述べる。次にスコットランドが生んだ偉大な経済学者であるアダム・スミスの『国富論』について述べる。市場原理と自由競争を唱えたアダム・スミスの考えはグローバル化時代の今日でも十分有効であると考えられるからである。  
 第2に私が二年間在籍したことのあるケンブリッジ大学を案内する。その後「ケインズ革命」で有名なメイヤー・ケインズその人物と理論を紹介する。世界恐慌に苦しんだイギリス経済を救済するために考え出したケインズ政策について解説し、安倍首相までもがアベノミクスで活用している実態を明らかにする。  
 第3にロンドンの大英博物館を紹介した後、『資本論』(1869年)を大英博物館で書き上げカール・マルクスを紹介する。グローバル化の結果世界中で格差問題が起こっているが、140年前にすでに資本主義の発達と窮乏化に取り組んだマルクスの眼には狂いがなかったと言える。今日の資本主義のアキレス腱をマルクス理論で解明する。

## 教科書 /Textbooks

資料を配付します。(新村)

口述講義 (山崎)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

新渡戸稲造『武士道』(BUSHIDO)

○藤沢周平『漆の実のみのる国』(文春文庫)

○中村彰彦『保科正之』(中公新書)

山崎勇治『石炭で栄え滅んだ大英帝国一産業革命からサッチャー改革まで』(ミネルヴァ書房、2008年)

# 人物と時代の歴史【昼】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

日本、イギリスの歴史の中からテーマを厳選し、講義をする。

( 新村 )

- 第1回 「ラスト・サムライ」山岡鉄舟と【幕末・明治維新】
- 第2回 【江戸時代】、ギリシャと同様に壊滅的だった藩の財政を立て直した上杉鷹山と 儒教的経営
- 第3回 【3・11東日本大震災】同様の危機を乗り切ったり【江戸幕府】の礎を築いた三代将軍家光の弟・保科正之
- 第4回 乱世の世に現れた宗教家・親鸞と【平安・鎌倉時代】( 1 )
- 第5回 乱世の世に現れた宗教家・親鸞と【平安・鎌倉時代】( 2 )
- 第6回 聖徳太子と【飛鳥・奈良時代】( 1 )
- 第7回 聖徳太子と【飛鳥・奈良時代】( 2 )

( 山崎 )

- 第8回 イギリスとはどんな国か
- 第9回 薩長の討幕運動を後ろから支援したトーマス・グラバー
- 第10回 明治維新後のトーマスグラバーと岩崎弥太郎
- 第11回 なぜスコットランド民謡が「蛍の光」になったのか一雇われ外国人たちを中心に
- 第12回 経済学の父、アダム・スミス『と国富論』とはどんな本か
- 第13回 ケンブリッジ大学とメーヤードケインズの『一般理論』
- 第14回 大英博物館とカール・マルクスの『資本論』
- 第15回 総まとめレポート提出の要件、提出締切日などの説明

## 成績評価の方法 /Assessment Method

レポート( 70% )と平常の学習状況( 30% )

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

\* 受講する際に、各回で取り上げる人物やテーマについて図書館等で調べておくこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords



# ヨーロッパ道徳思想史【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	ヨーロッパ道徳思想史の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	ヨーロッパ道徳思想史について課題を発見し、総合的に分析することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	ヨーロッパ道徳思想史に関する問題を解決するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			ヨーロッパ道徳思想史
			PHR005 F

## 授業の概要 /Course Description

西欧における道徳思想の変遷を哲学・宗教・演劇・映画・音楽などを手がかりに読み解いてゆく。本授業は2年ごとに内容を入れ替えており、古代を中心とするか、近代を中心とするかで議論のポイントが異なってくる。今年度は昨年度と異なり、古代世界における道徳思想の展開に焦点を置く。15回の講義を通して、一定の世界史的教養を獲得するとともに、道徳的価値観の多様なありかたを理解することが可能となるだろう。

## 教科書 /Textbooks

適宜プリントを配布する

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業時にそのつど指示する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 古代ギリシャの道徳(1)【悲劇の誕生】
- 3回 古代ギリシャの道徳(2)【悲劇の生成】
- 4回 古代ギリシャの道徳(3)【道徳哲学の誕生】
- 5回 古代ギリシャの道徳(4)【道徳哲学の発展】
- 6回 古代ギリシャの道徳(5)【道徳哲学の完成】
- 7回 古代ローマの道徳
- 8回 古代ユダヤ教の道徳(1)【宗教民族史】
- 9回 古代ユダヤ教の道徳(2)【信仰の革新】
- 10回 ローマの中のユダヤ(1)【権力と隷属】
- 11回 ローマの中のユダヤ(2)【新時代の萌芽】
- 12回 古代キリスト教の道徳(1)【イエスからパウロへ】
- 13回 古代キリスト教の道徳(2)【新しい契約】
- 14回 古代キリスト教の道徳(3)【教義の生成】
- 15回 批判的総括

## 成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験... 100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

授業中に聞いたことのない日本語や英語に出会った場合は、かならず国語辞典もしくは英和辞典を引く癖をつけてほしい。最低でもこれらの辞典は自宅に常備しておくこと。

本講義の一部で扱うユダヤ思想の社会的背景と現代的展開については、同担当者によるテーマ科目「思想と現代」を受講すればより理解が深まるだろう。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

履修にあたっては真摯な受講を求めたい。とりわけ学習意欲に欠けていると見受けられる学生（授業中に下を向いてスマートフォンをいじっている、最後部の席に座って漫画を読んでいる、隣同士で始終しゃべっている、等々）には即刻退席を命じる。

## キーワード /Keywords

# 日本史【昼】

担当者名 /Instructor 内山 一幸 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	日本史の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力	●	日本史について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	日本史の総合的な理解を通して得られた倫理観を自覚しつつ行動できる。
	生涯学習力	●	日本史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
		日本史	HIS110F

## 授業の概要 /Course Description

境界・領域・国家といった観点から、日本の歴史上の諸問題について考えていく。例えば現代において「国境」というものは容易に越えがたいものであるが、中世の日本では「境界」は容易に越えうるものであった。それはなぜか、そのことが意味するものは何か、といったことを考えてみることで、古代から現代に至る各時代の「日本」や「日本人」について理解を深めてもらいたい。

## 教科書 /Textbooks

使用しない。毎回資料を配付する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 網野善彦『「日本」とは何か』（講談社、2000年 / 講談社学術文庫、2008年）
- 大石直正ほか編『周縁から見た中世日本』（講談社、2001年 / 講談社学術文庫、2009年）
- 小熊英二『「日本人」の境界』（新曜社、1998年）

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 日本史を学ぶこととは
- 第2回 「鎖国」と「開国」
- 第3回 蝦夷地とアイヌ
- 第4回 近代化とアイヌ社会
- 第5回 琉球の形成と環シナ海世界
- 第6回 琉球と近世・近代のアジア
- 第7回 対馬からみた日朝関係
- 第8回 近世における日朝関係と対馬
- 第9回 台湾をめぐる同化と異化
- 第10回 韓国併合と「日本人」
- 第11回 満洲国と「民族協和」
- 第12回 南洋群島と委任統治
- 第13回 「大日本帝国」の解体と樺太
- 第14回 「外国」になった沖縄
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験(持ち込み不可の論述問題)... 90%  
ミニツツペーパー... 10%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

出席確認を行う。出席回数が2 / 3未滿の受講生については試験を受ける資格を付与しない。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 東洋史【昼】

担当者名 /Instructor 植松 慎悟 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	東洋史の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	東洋史について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	東洋史の総合的な理解を通して得られた倫理観を自覚しつつ行動できる。
	生涯学習力	●	東洋史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			東洋史
			HIS120F

## 授業の概要 /Course Description

近くて遠い国、中国。わが国の歴史とも密接な関係をもつ中国は、近年では経済成長も著しい。しかしながら、中国について学ぶとき、多くの日本人に欠けている視点がある。歴史的な考察・分析といえる。  
そこで、中国における古代文明の誕生から隋唐時代までの歴史について、とくに政治史上の展開、支配システムの変遷、東アジア（日本をふくむ）・北アジア・東南アジアなどとの国際関係を中心に講義する。本講義では、専門的な基礎知識を習得したうえで、東洋史に対する理解・関心を深めることを目標とする。

## 教科書 /Textbooks

特に使用しない。資料が必要な場合は、プリントを配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：講義のガイダンス
  - 第2回：中国の歴史と日本－日中交流史－
  - 第3回：秦の始皇帝と皇帝制度－古代文明の誕生から中国統一まで－
  - 第4回：前漢前期－楚漢戦争と郡国制－
  - 第5回：前漢中期－漢帝国と匈奴－
  - 第6回：前漢後期－儒教と「古典的国制」－
  - 第7回：後漢前期－統一帝国の再建と漢委奴国王印－
  - 第8回：後漢中期－「後漢の平和」－
  - 第9回：後漢後期－漢帝国の滅亡－
  - 第10回：三国時代－『三国志』の実像と邪馬台国の卑弥呼－
  - 第11回：西晋時代－三国統一から新たな動乱へ－
  - 第12回：東晋南朝時代－江南における貴族制－
  - 第13回：五胡北朝時代－華北における諸民族－
  - 第14回：隋唐時代－隋唐世界帝国とその影響－
  - 第15回：唐宋変革－安史の乱と唐の滅亡－
- 定期試験

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・ 70% 日常の授業への取り組み・・・ 30%  
双方向の講義が目的であるため、毎回、出席感想カードを配布・回収する。

# 東洋史【昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
教職関連科目

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 西洋史【昼】

担当者名 /Instructor 轟谷 憲洋 / Norihiro Kurotani / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	西洋史の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	西洋史について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	西洋史の総合的な理解を通して得られた倫理観を自覚しつつ行動できる。
	生涯学習力	●	西洋史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			西洋史
			HIS130F

## 授業の概要 /Course Description

地球規模で進行する「世界の一体化」。地中海や大西洋、インド洋、東・南シナ海といった海域世界の発展と相互の接続を見ることによって、ヨーロッパとアフリカ・「新世界」・アジアの出遭いの諸相と諸文明の交流・衝突、そして近代世界の形成を理解します。

## 教科書 /Textbooks

プリントを配布します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

講義中に指示します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】内はキーワード)

- 1回 「13世紀世界システム」とヨーロッパ【バックス・モンゴリカ】
- 2回 ヨーロッパ進出以前のアジア海域世界【港市国家】
- 3回 イベリア諸国の形成【レコンキスタ】
- 4回 「中世の危機」とポルトガルの海外進出【エンリケ航海王子】
- 5回 新世界到達と「世界分割」【トルデシリャス条約】
- 6回 ポルトガル海洋帝国の形成①【香辛料】
- 7回 ポルトガル海洋帝国の形成②【点と線の支配】
- 8回 スペインによる植民地帝国の形成①【ポトシ】
- 9回 スペインによる植民地帝国の形成②【モナルキア・イスパニカ】
- 10回 「17世紀の危機」と国際秩序の再編①【東インド会社】
- 11回 「17世紀の危機」と国際秩序の再編②【砂糖革命】
- 12回 環大西洋世界の展開①【第二次英仏百年戦争】
- 13回 環大西洋世界の展開②【環大西洋革命】
- 14回 ヨーロッパ勢力とアジアの海【近代世界システム】
- 15回 まとめ【「コロンブスの交換」】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

講義内に課す小レポート(5回)・・・25%、期末試験・・・75%  
(小レポートの提出が一度もない場合、期末試験を受けることが出来ません)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

既習の歴史に関する知識を再確認しておいてください(とくに世界史)。  
毎回講義プリントを配布し、それに基づいて講義します。講義後も配布プリントとノートを見直し、整理・復習を心がけてください。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

13世紀世界システム、中世の危機、「海洋帝国」、植民地化、環大西洋世界



# 人文地理学【昼】

担当者名 /Instructor 外戸保 大介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人文地理の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力	●	人文地理について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	人文地理の総合的な理解を通して得られた倫理観を自覚しつつ行動できる。
	生涯学習力	●	人文地理に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			人文地理学
			GE0110F

## 授業の概要 /Course Description

本講義では、人文地理学の基礎的な理論や概念を概説する。人文地理学は、地域、環境、空間に関する多様な対象を扱う学問領域である。具体的な事例を通じて、人文地理学のキーコンセプトに対する理解を深めてもらいたい。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インタロダクション
- 第2回 経済発展と人口移動(1) 【近世・近代日本の都市発展】
- 第3回 経済発展と人口移動(2) 【現代日本の都市発展】
- 第4回 農業立地と農村の変化(1) 【農業立地論】
- 第5回 農業立地と農村の変化(2) 【日本農村の構造的変化】
- 第6回 都市構造と都市システム(1) 【中心地理論】
- 第7回 都市構造と都市システム(2) 【都市の内部構造】
- 第8回 都市構造と都市システム(3) 【都市と郊外】
- 第9回 都市構造と都市システム(4) 【都市システム】
- 第10回 商業立地と流通システム(1) 【チェーンストアの配送】
- 第11回 商業立地と流通システム(2) 【大型店と商店街】
- 第12回 製造業の立地と集積(1) 【工業立地論】
- 第13回 製造業の立地と集積(2) 【空間分業】
- 第14回 製造業の立地と集積(3) 【産業集積の理論】
- 第15回 製造業の立地と集積(4) 【産業集積の実態】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 ( 80% )、日常の授業の取り組み ( 20% )

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 土地地理学【昼】

担当者名 野井 英明 / Hideaki Noi / 人間関係学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と自然との関係性を地理学を通して理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地理学の概念の考察をもとに、直面する課題を発見し解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	倫理観を自覚し、社会において積極的に行動できる。
	生涯学習力	●	課題を自ら発見でき、解決のための地理学的手法の学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			土地地理学
			GE0111F

## 授業の概要 /Course Description

地理学は、地球表面で起こる自然・人文の様々な現象を「地域的観点」から究明する科学です。そのため、地理学を学習・研究するためには、地図が必ず必要になってきます。この科目では、地理学の言語ともいわれる地図を通じて、基礎的な地理学的知見を高めることを目的とします。あわせて、地図や空中写真を利用して地表の環境を読み取る実習も行って、地理学の研究手法も学びます。

この授業の学位授与方針に基づく主な到達目標は以下の通りです。

人間と自然の関係性を地理学を通して理解する。

地理学の概念の考察をもとに、直面する課題を発見し解決策を考えることができる。

倫理観を自覚し、社会において積極的に行動できる。

課題を自ら発見でき、解決のための地理学的手法の学びを継続することができる。

## 教科書 /Textbooks

教科書はありません。適宜、プリントを配布します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

○「日本列島地図の旅 付・地図の読み方入門」大沼一雄著 東洋選書)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地理学では何を学ぶか
- 2回 地図の役割と地図の能力
- 3回 地図の歴史
- 4回 地図には、どのような種類があるか
- 5回 地図は、どのように作られるか
- 6回 地図記号と景観
- 7回 山の地形を地形図から描く1 (講義・実習)
- 8回 山の地形を地形図から描く2 (実習)
- 9回 地図を利用して地表を計測する
- 10回 地形図を利用して景観を読みとる1 (実習) 【海岸砂丘の環境と土地利用を読む】
- 11回 地形図を利用して景観を読みとる2 (実習) 【歴史景観を読む】
- 12回 リモートセンシングと空中写真の利用
- 13回 空中写真を利用して高さを測定する (講義・実習)
- 14回 衛星データを利用して地表の環境を調べる
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

レポート...30% 試験...70%

# 土地地理学 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

参考書や配布する資料などを読んでおくにより理解が深まります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 地誌学 【昼】

担当者名 /Instructor 外戸保 大介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	地誌の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地誌について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	地誌の総合的な理解を通して得られた倫理観を自覚しつつ行動できる。
	生涯学習力	●	地誌に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			地誌学
			GE0112F

## 授業の概要 /Course Description

グローバル化と情報化が進行しつつある現代世界において、世界や日本の諸地域を正確に認識することがますます重要となっている。本年度は、様々な空間スケールにおける、先進国地域の地誌をテーマとする。欧米諸国や日本の諸地域は、近現代においてどのような変化・発展を遂げ、今日に至っているのか、それらの比較を通じて、動態的な地誌について理解を深めてもらいたい。必要に応じて、講義内容に関係する時事事項を扱う。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 欧米地誌(1) ヨーロッパ総論：自然環境、産業、EU統合と分離の動き
- 第3回 欧米地誌(2) フランス地誌
- 第4回 欧米地誌(3) イギリス地誌
- 第5回 欧米地誌(4) ドイツ地誌
- 第6回 欧米地誌(5) イタリア地誌
- 第7回 欧米地誌(6) ベネルクス地誌
- 第8回 欧米地誌(7) アメリカ合衆国地誌
- 第9回 日本地誌(1) 日本の自然・人文環境
- 第10回 日本地誌(2) 近世城下町の変容
- 第11回 日本地誌(3) 塩田地域の変容
- 第12回 日本地誌(4) 軍事都市の変容
- 第13回 日本地誌(5) 炭鉱地域の変容
- 第14回 日本地誌(6) 工業都市の変容
- 第15回 日本地誌(7) 港湾都市の変容

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 ( 80% )、日常の授業の取り組み ( 20% )

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 日本国憲法 【昼】

担当者名 植木 淳 / 法律学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	日本国憲法の意義を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	憲法的事象について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	主権者たる市民として必要とされる責任を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	●	憲法に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			日本国憲法
			LAW120F

## 授業の概要 /Course Description

我々の国家・社会の基本法である「憲法」の意義・概要について学ぶことによって、一人の人間として、あるいは主権者たる市民として、思索・行動する上での何らかのてがかりにしていきたい。

## 教科書 /Textbooks

大隈義和、大江正昭編『憲法学へのいざない(第3版)』(青林書院・2015年)

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

- 浦部法穂『憲法学教室(全訂第2版)』(日本評論社・2006年)
- 長谷部恭男他編『憲法判例百選I・II(第6版)』(有斐閣・2013年)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 憲法の意義
- 第2回 憲法の展開
- 第3回 人権論①(人権総論)
- 第4回 人権論②(人権享有主体)
- 第5回 人権論③(幸福追求権)
- 第6回 人権論④(平等原則)
- 第7回 人権論⑤(信教の自由)
- 第8回 人権論⑥(表現の自由)
- 第9回 統治機構①(国民主権・権力分立)
- 第10回 統治機構②(日本の政治制度)
- 第11回 統治機構③(日本の選挙制度)
- 第12回 統治機構④(日本の裁判制度)
- 第13回 平和主義①(憲法9条の意義)
- 第14回 平和主義②(戦後日本の安全保障)
- 第15回 平和主義③(憲法9条と裁判所)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# 日本国憲法 【昼】

## 履修上の注意 /Remarks

特に必要なし。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords



# メンタル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	メンタルヘルスについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分自身で心身の健康の保持増進を行うことができる。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	メンタルヘルスに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			メンタル・ヘルス I
			PSY001F

**授業の概要 /Course Description**

メンタルヘルス（心の健康）の学習とは、病気や不応事例の発生予防だけでなく、もっと幅広く、多くの「健康な生活人」の健康増進にも役立つような要件を学ぶことである。ストレス社会と言われる現代にあつては、メンタルのタフさがなければ生活人としての活動は難しい。身近なことでは学生生活そのものがさまざまなストレス源への対処を余儀なくされる。過剰なストレスは友人間や家族内の人間関係の悪化や学習意欲の低下、生活上の事故やミス、無気力や抑うつ症状などを生じさせる。本講義では一般的な心理学を基盤に「メンタルヘルス（心の健康）」を生涯発達（エリクソン理論）の視点からとらえながら、日々の生活を充実させるための、人生でのその時期、その時期でのストレスマネジメントの力を身につけることを大きな目的とする。

またこの授業での本大学の学位授与方針に関わる到達目標は、以下のとおりである。1．自分自身で心身の健康の保持増進を行うことができるようになる。（自己管理）2．現実の諸問題を一面的な価値観にとらわれることなく多面的に考え解決策を考えることができる（思考判断）3．卒業後も現実社会で理想を失うことなく主体的に学ぶ姿勢を持ちつづける事ができる（生涯学習）。以上の到達を目標とする。

**教科書 /Textbooks**

教科書はない。適宜資料を配布する。

**参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )**

「こころの旅」神谷美恵子著 みすず書房  
「こころと人間」中島俊介著,ナカニシヤ出版

# メンタル・ヘルスI【昼】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 以下のスケジュールで行う（【 】はキーワード）
- 1回 オリエンテーション，受講上の注意，講師自己紹介など。
  - 2回 心の健康を学ぶ目的。「心」とは「健康」とは。【心の健康】【生涯発達心理学】
  - 3回 乳幼児の心の健康を知る。【エリクソンの自我発達理論】
  - 4回 児童期の心の健康を知る 【勤勉性と劣等感】
  - 5回 思春期の心のありよう【第二反抗期】
  - 6回 ライフスタイルの心理学【ライフスタイル】
  - 7回 青年前期の心理【葛藤と感情】
  - 8回 青年後期の同一性（アイデンティティ）の確立【こころの病】
  - 9回 適応と社会参加の心理学【組織的メンタルヘルス】【こころの健康管理】
  - 10回 こころと健康1【うつ病・神経症など】
  - 11回 こころと健康2【自己受容・自己開示・あるがまま】
  - 12回 成人期の心理【生きがい】【職場の人間関係】
  - 13回 発達の障がいについての理解 【自閉症】【アスペルガー - 】
  - 14回 健康な心と身体が行く末について。【老いと死の受容】
  - 15回 まとめと今後の課題について【環境と心の健康】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 受講態度と勉学への熱意...50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

当該個所に対する自分の課題や疑問を整理しておくこと。自分なりの意見をまとめておいて授業に臨むこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# メンタル・ヘルスII【昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標		
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力 その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	メンタルヘルスについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分自身で心身及び社会的健康の保持増進を行うことができる。	
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	メンタルヘルスに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。	
	コミュニケーション力			
			メンタル・ヘルスII	PSY002F

## 授業の概要 /Course Description

メンタルヘルス（心の健康）について、精神病理や心理学、そして社会福祉学の観点から考えていく科目です。まずは自己分析を通して、自らの可能性を感じ、自己肯定感を高めるための方法について考えていただきます。さらに、実際の事例などを紹介しながら、生きづらさを感じ、メンタルヘルスが壊れるとはどういう事なのかを考えていきます。そして、何よりも「助けて」と言えることの大切さや、「お互い様」の中での支え合いで社会が作られているということを少しでも理解していただきたいです。

## 教科書 /Textbooks

なし。  
適宜、紹介をします。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

大平 健 (1995) 『やさしさの精神病理』岩波書店  
春日 武彦 (2004) 『援助者必携 はじめての精神科』医学書院  
他、適宜紹介をします。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、受講上の注意など。
- 2回 心理テキストに挑戦【自己分析】
- 3回 あるもの探し【ポジティブシンキング、ストレングス・パースペクティブ】
- 4回 精神病理の紹介①【精神疾患、うつ、統合失調症】
- 5回 精神病理の紹介②【人格障害】
- 6回 自己覚知①【自己のイメージ、他者のイメージ】
- 7回 自己覚知②【ライフヒストリー】
- 8回 自己覚知③【ジェノグラム、エコマップ】
- 9回 リフレッシュ【感動、感謝】
- 10回 事例検討①【非行】
- 11回 事例検討②【虐待】
- 12回 事例検討③【ホームレス】
- 13回 事例検討④【孤立、社会的排除】
- 14回 事例検討⑤【障害】
- 15回 助けてと言える力【受援力、援助力】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業時の課題の提出状況.....50%  
定期試験.....50%

# メンタル・ヘルスII【昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
ライフ・スキル科目

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

メンタルヘルスIを未受講でも、履修することは可能です。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

中島俊介先生の後を受けて、2015(平成27)年度より担当することになりました。私の専門は社会福祉学ですが、できるだけ受講生にとって、癒しの場であったり、笑いの場であったり、あるいはこれから生きていく上で、少しでも楽になるヒントをお伝えすることができれば幸いです。

## キーワード /Keywords

精神保健、心理学、社会福祉学、

# フィジカル・ヘルスI【昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルスI	HSS001F

## 授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。

## 教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 健康と体力(体力とトレーニング)
- 3回 体力測定(筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など) <実習>
- 4回 準備運動と整理運動
- 5回 ストレッチング実習 <実習>
- 6回 自分にとって必要な体力とは?
- 7回 運動処方
- 8回 運動強度測定(心拍数測定) <実習>
- 9回 自分にとって最適な運動強度とは?
- 10回 自分に適した運動の種類や方法とは?
- 11回 正しいウォーキングとは? <実習>
- 12回 道具を使用したトレーニング(バランスボールなど) <実習>
- 13回 スポーツビジョントレーニング(バレーボールを利用して) <実習>
- 14回 運動・スポーツの動機付け
- 15回 北九州市立大学散策マップ作成(100kcal運動) <実習>

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

授業内容（講義・実習）によって教室・体育館（多目的ホール）と場所が異なるので、間違いがないようにすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）  
実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

スポーツを科学する、健康と体力、コミュニケーション

# フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 講義・演習  
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルスI	HSS001F

## 授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。そこで、

この授業では、スポーツで身体のケアを目指す事に重点をおき、まずは楽しく身体を動かすことで心身の健康保持増進を図り、ウォーミングアップの大切さやストレッチングの理論と実践といったものから、ルールを守るとはどういうことなのか、ゲーム中の真摯な態度とは何かなど考えてみたい。

## 教科書 /Textbooks

授業時に資料配布

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 健康体力の理解
- 3回 身体のケアについて メンタル面
- 4回 身体のケアについて フィジカル面
- 5回 ウォーミングアップとクーリングダウン
- 6回 用具を使って身体を整える
- 7回 セルフマッサージで身体を整える
- 8回 テーピングによる簡単な予防
- 9回 トレーニングによって身体を整える
- 10回 ウェイトトレーニングの注意点
- 11回 体脂肪を減らすトレーニング
- 12回 柔軟性を高める運動 一人で行うもの
- 13回 柔軟性を高める運動 二人で行うもの
- 14回 腰痛と運動
- 15回 運動・スポーツの動機付け

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# フィジカル・ヘルスI【昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
ライフ・スキル科目

## 履修上の注意 /Remarks

気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。  
授業内容（講義・実習）によって教室・体育館・多目的ホールと場所が異なるので、間違いがないようすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）  
実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords



# フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルスI	HSS001F

## 授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。

この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

## 教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配布

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて紹介

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回 オリエンテーション
- 2回 仲間作り、ゲーム【コミュニケーション】
- 3回 (実習)ソフト・トリムバレーボール【笑顔】
- 4回 (講義)ストレッチの理論
- 5回 (実習)ストレッチの実際、ゲーム
- 6回 (講義)ふとる・やせる、適度な運動とは【体脂肪】、【ニコニコベース】
- 7回 (実習)軽運動、エアロビクス・ダンス【笑顔】
- 8回 (講義)フェアプレイ、スポーツマンシップとは
- 9回 (実習)球技を楽しもう①(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 10回 (実習)球技を楽しもう②(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 11回 (講義)これからの運動①【心臓の予備力】、【体力の変化】
- 12回 (講義)これからの運動②【体力の維持・向上】、【継続性】
- 13回 (講義)レッツ・スポーツ【計画・企画】
- 14回 (実習)レッツ・スポーツ【主体性】
- 15回 まとめ、レポート提出

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

授業内容（講義・実習）によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので、次回の予告を聞いて間違いがないようにする。体育館入口の黒板にも記載するので、確認すること。  
実習の場合は、運動ができる服装と体育館シューズを準備して下さい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

授業全体のキーワードは、  
【笑顔】と【コミュニケーション】である。

# フィジカル・ヘルスII 【昼】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルスII	HSS002F

**授業の概要 /Course Description**  
 健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。  
 この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。

**教科書 /Textbooks**  
 授業時プリント配布

**参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )**  
 なし

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 オリエンテーション
  - 2回 健康と体力(体力とトレーニング)
  - 3回 体力測定(筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など) <実習>
  - 4回 準備運動と整理運動
  - 5回 ストレッチング実習<実習>
  - 6回 自分にとって必要な体力とは?
  - 7回 運動処方
  - 8回 運動強度測定(心拍数測定) <実習>
  - 9回 自分にとって最適な運動強度とは?
  - 10回 自分に適した運動の種類や方法とは?
  - 11回 正しいウォーキングとは? <実習>
  - 12回 道具を使用したトレーニング(バランスボールなど) <実習>
  - 13回 スポーツビジョントレーニング(バレーボールを利用して) <実習>
  - 14回 運動・スポーツの動機付け
  - 15回 北九州市立大学散策マップ作成(100kcal運動) <実習>

**成績評価の方法 /Assessment Method**  
 平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

**事前・事後学習の内容 /Preparation and Review**

## 履修上の注意 /Remarks

授業内容（講義・実習）によって教室・体育館（多目的ホール）と場所が異なるので、間違いがないようにすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）

実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

スポーツを科学する、健康と体力

# フィジカル・ヘルスII 【昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 講義・演習  
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルスII	HSS002F

## 授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、スポーツで身体のケアを目指す事に重点をおき、まずは楽しく身体を動かすことで心身の健康保持増進を図り、ウォーミングアップの大切さやストレッチングの理論と実践といったものから、ルールを守るとはどういうことなのか、ゲーム中の真摯な態度とは何かなど考えてみたい。

## 教科書 /Textbooks

授業時に資料配布

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 健康体力の理解
- 3回 身体のケアについて メンタル面
- 4回 身体のケアについて フィジカル面
- 5回 ウォーミングアップとクーリングダウン
- 6回 用具を使って身体を整える
- 7回 セルフマッサージで身体を整える
- 8回 テーピングによる簡単な予防
- 9回 トレーニングによって身体を整える
- 10回 ウェイトトレーニングの注意点
- 11回 体脂肪を減らすトレーニング
- 12回 柔軟性を高める運動 一人で行うもの
- 13回 柔軟性を高める運動 二人で行うもの
- 14回 腰痛と運動
- 15回 運動・スポーツの動機付け

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。  
授業内容（講義・実習）によって教室・体育館・多目的ホールと場所が異なるので、間違いがないようすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）  
実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# フィジカル・ヘルスII 【昼】

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルスII	HSS002F

## 授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。

この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

## 教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配布

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて紹介

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回 オリエンテーション
- 2回 仲間作り、ゲーム【コミュニケーション】
- 3回 (実習)ソフト・トリムバレーボール【笑顔】
- 4回 (講義)ストレッチの理論
- 5回 (実習)ストレッチの実際、ゲーム
- 6回 (講義)ふとる・やせる、適度な運動とは【体脂肪】、【ニコニコベース】
- 7回 (実習)軽運動、エアロビクス・ダンス【笑顔】
- 8回 (講義)フェアプレイ、スポーツマンシップとは
- 9回 (実習)球技を楽しもう①(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 10回 (実習)球技を楽しもう②(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 11回 (講義)これからの運動①【心臓の予備力】、【体力の変化】
- 12回 (講義)これからの運動②【体力の維持・向上】、【継続性】
- 13回 (講義)レッツ・スポーツ【計画・企画】
- 14回 (実習)レッツ・スポーツ【主体性】
- 15回 まとめ、レポート提出

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

授業内容（講義・実習）によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので、次回の予告を聞いて間違いがないようにする。体育館入口の黒板にも記載するので、確認すること。  
実習の場合は、運動できる服装と体育館シューズを準備して下さい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

授業全体のキーワードは、  
【笑顔】と【コミュニケーション】である。



# 自己管理論 【昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分自身で心身の健康保持増進を行う。
	社会的責任・倫理観	●	人間の総合的理解を通して得られた責任感、倫理観を自覚し、その深い理解をもって社会で積極的に行動する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
		自己管理論	HSS003F

## 授業の概要 /Course Description

青年期である大学生は自我意識が高まる時期であり、初めて一人暮らしをする学生にとっても、自己決定に基づく健康的で自立した生活することは容易なことではない。これからは、様々な角度から自己管理についての正しい知識と、自分を守り人にも役立つ健康の意識を高め、実践力を身につけることが大切である。今回の自己管理論は、各分野におけるプロフェッショナルの実体験や知識を学び、社会人になっても大いに役立ち、心身ともに健康で前向きに生きられる自分づくりをめざす。

## 教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを配布

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて紹介

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- オリエンテーション
- 防犯の心得【警察官】：安心・安全とはなにか・被害にあわないための具体的な自己防衛法について学ぶ
- 若者に最も大切な栄養の話【管理栄養士】：健康的に生活するために必要な栄養について学ぶ
- 体の健康【運動生理学】：多様な疾病・リスクを中心に生涯にわたる健康を見直す
- ストレスと健康【心理学】：ストレスに負けない身体・精神について学ぶ
- コミュニケーション【社会学】：人間関係を円滑にするためのコミュニケーションについて学ぶ
- 薬と健康【薬剤師】：医療薬の効果や、サプリメントなどの健康のための薬について学ぶ
- 歯と口と健康を保つセルフケア【歯科技師】：歯および口腔のセルフケアについて学ぶ
- 依存と健康【精神科専門職】：心身ともに破滅に陥りやすい依存症の医学的知識を学ぶ
- 心の健康【臨床心理士】：心と身体の関係から起こる疾病の予防、対処法について学ぶ
- 喫煙・飲酒・薬物【関係専門職】：煙草やお酒、薬物の正しい知識を学ぶ
- 健康な体と性感染症【助産師】：自分で予防できる感染症の知識や命の尊さを学ぶ
- 人権・ハラスメント関係【関係専門職】：人権侵害、ハラスメント防止などの知識と予防対策について学ぶ
- 自己管理論まとめ：ポイントの復習などで総合的に理解を深める
- 小試験（選択，記述）

## 成績評価の方法 /Assessment Method

毎回のミニレポート・・・70% 小試験・・・30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

- ①1回目のオリエンテーションで「自己管理論」のプログラムを配布する。
- ②外部講師による講義のため、授業開始後20分には入室を禁止する。私語厳禁。
- ③毎回のミニレポートは出席確認としても取り扱う。
- ④最終回では、小試験をするため必ず出席すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

外部講師の都合により、授業計画の順番が変更することがあります。また、「履修上の注意」にも記載していますが、外部講師による講義が主となるため、通常の大学講義とは異なる点が多くあります。その点に関しては、第一回のオリエンテーションでプリントを配布し、説明しますので、第一回目から必ず出席してください。

## キーワード /Keywords

# フィジカル・エクササイズI ( ソフトボール ) 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズ I	HSS081F

## 授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、ソフトボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 キャッチボール (スローイング、キャッチング)
- 3回 ピッチング (ウインドミル)
- 4回 バッティング (トスバッティング)
- 5回 ゴロの捕球・フライの捕球
- 6回 守備練習
- 7回 フリーバッティング
- 8回 ベースランニング
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ゲーム (1) 内野の連係プレイ
- 12回 ゲーム (2) 内外野の連係プレイ
- 13回 ゲーム (3) 走者の進め方
- 14回 ゲーム (4) まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

# フィジカル・エクササイズI ( ソフトボール ) 【昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
ライフ・スキル科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# フィジカル・エクササイズI ( サッカー ) 【昼】

担当者名 /Instructor 磯貝 浩久 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズI	HSS081F

## 授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、サッカーの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サッカーの基本技術(リフティング)の習得と試しのゲーム(1)
- 3回 サッカーの基本技術(パス)の習得と試しのゲーム(2)
- 4回 サッカーの基本技術(シュート)の習得と試しのゲーム(3)
- 5回 サッカーの戦術(ディフェンス)の説明
- 6回 サッカーの戦術(ディフェンス)の習得と応用ゲーム
- 7回 サッカーの戦術(オフense)の説明
- 8回 サッカーの戦術(オフense)の習得と応用ゲーム
- 9回 サッカーの戦術の応用説明
- 10回 サッカーの戦術の応用ゲーム
- 11回 審判法の習得と試しのゲーム
- 12回 リーグ戦方式の試合(1)パスを意識して
- 13回 リーグ戦方式の試合(2)戦術を意識して
- 14回 リーグ戦方式の試合(3)まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

# フィジカル・エクササイズI ( サッカー ) 【昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
ライフ・スキル科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# フィジカル・エクササイズI ( テニス ) 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズI	HSS081F

## 授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、テニスの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 ストロークの基礎練習 ( 球出しによるフォアハンド練習 )
- 3回 ストロークの基礎練習 ( ラリーの中でのフォアハンド練習 )
- 4回 ストロークの基礎練習 ( 球出しによるバックハンド練習 )
- 5回 ストロークの基礎練習 ( ラリーの中でのバックハンド練習 )
- 6回 サービスの基礎練習
- 7回 ボレーの基礎練習
- 8回 スマッシュの基礎練習
- 9回 ルールの説明
- 10回 戦術の説明・実践
- 11回 シングルスゲーム ( 1 ) ゲーム法の解説
- 12回 シングルスゲーム ( 2 ) ゲームの実践
- 13回 ダブルスゲーム ( 1 ) ゲーム法の解説
- 14回 ダブルスゲーム ( 2 ) ゲームの実践
- 15回 スキル獲得の確認

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

# フィジカル・エクササイズI ( テニス ) 【昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
ライフ・スキル科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords



# フィジカル・エクササイズI ( バレーボール ) 【昼】

担当者名 /Instructor 美山 泰教 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズ I	HSS081F

## 授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バレーボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <オーバーサーブ>
- 4回 バス練習(1) <アンダーバス>
- 5回 バス練習(2) <オーバーバス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド>
- 8回 アタック練習(2) <センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1) <サーブに留意して>
- 12回 ゲーム(2) <サーブカットに意識して>
- 13回 ゲーム(3) <アタックに留意して>
- 14回 ゲーム(4) <フォーメーションに留意して>
- 15回 スキル獲得の確認

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

# フィジカル・エクササイズI ( バレーボール ) 【昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
ライフ・スキル科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# フィジカル・エクササイズI ( バドミントン ) 【昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor 鯨 吉夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズI	HSS081F

## 授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション ( 授業の展開方法や履修に関する諸注意 )
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 導入実技
- 4回 基本的な打ち方とフライト ( ヘアピン・クリアー )
- 5回 基本的な打ち方とフライト ( ドロップ )
- 6回 サービスの練習
- 7回 応用組み合わせ練習 ( ヘアピンリターン )
- 8回 応用組み合わせ練習 ( ドロップリターン )
- 9回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 10回 戦術の説明
- 11回 ダブルスのゲーム法の解説
- 12回 ダブルスの陣形の解説
- 13回 ダブルスゲームの実践
- 14回 ダブルスゲームのまとめ
- 15回 スキル獲得の確認

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# フィジカル・エクササイズI ( バドミントン ) 【昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
ライフ・スキル科目

## 履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# フィジカル・エクササイズI ( バドミントン ) 【昼】

担当者名 /Instructor 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次  
 単位 /Credits 1単位  
 学期 /Semester 1学期  
 授業形態 /Class Format 実技  
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズ I	HSS081F

## 授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション ( 授業の展開方法や履修に関する諸注意 )
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 導入実技
- 4回 基本的な打ち方とフライト ( ヘアピン・クリアー )
- 5回 基本的な打ち方とフライト ( ドロップ )
- 6回 サービスの練習
- 7回 応用組み合わせ練習 ( ヘアピンリターン )
- 8回 応用組み合わせ練習 ( ドロップリターン )
- 9回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 10回 戦術の説明
- 11回 ダブルスのゲーム法の解説
- 12回 ダブルスの陣形の解説
- 13回 ダブルスゲームの実践
- 14回 ダブルスゲームのまとめ
- 15回 スキル獲得の確認

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# フィジカル・エクササイズI ( バドミントン ) 【昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
ライフ・スキル科目

## 履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# フィジカル・エクササイズI ( 女性のスポーツ ) 【昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズ I	HSS081F

## 授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこでこの授業では、体力・技術にあまり自信のない女性を対象に、身体活動の理論を踏まえ、レクリエーションスポーツ種目を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そしてその到達度をふまえて、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

## 教科書 /Textbooks

テキストは使用しない

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

スポーツルール百科

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション ( 受講上の注意 )
- 2回 バレーボール ( 1 ) サーブ、パスの基礎練習
- 3回 バレーボール ( 2 ) ルール説明とゲーム
- 4回 バドミントン ( 1 ) 基本的な打ち方とフライト練習
- 5回 バドミントン ( 2 ) ダブルスのルール説明とゲーム
- 6回 卓球 ( 1 ) フォアハンド、バックハンドの基礎練習
- 7回 卓球 ( 2 ) ダブルスのルール説明とゲーム
- 8回 ソフトバレーボール ( 1 ) サーブ、パス、アタックの基本練習
- 9回 ソフトバレーボール ( 2 ) ルール説明とゲーム
- 10回 ショートテニス ( 1 ) フォアハンド、バックハンドの基礎練習
- 11回 ショートテニス ( 2 ) ルール作りとゲーム
- 12回 選択種目 ( 1 ) 【バレーボール】 【卓球】
- 13回 選択種目 ( 2 ) 【バドミントン】 【ショートテニス】
- 14回 選択種目 ( 3 ) 【ソフトバレーボール】 【バドミントン】
- 15回 スキル獲得の確認 ( 選択種目 )

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% スキル獲得テスト ... 30%

# フィジカル・エクササイズI ( 女性のスポーツ ) 【昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
ライフ・スキル科目

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords



# フィジカル・エクササイズII ( バドミントン ) 【昼】

担当者名 /Instructor 磯貝 浩久 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

## 授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 フライト練習(1) <ヘアピン>
- 4回 フライト練習(2) <ハイクリアー>
- 5回 フライト練習(3) <ドライブ、スマッシュ>
- 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
- 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
- 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
- 13回 ダブルスゲーム(2) <ゲームの実践>
- 14回 ダブルスゲーム(3) <まとめ>
- 15回 スキル獲得の確認

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

# フィジカル・エクササイズII ( バドミントン ) 【昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
ライフ・スキル科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# フィジカル・エクササイズII ( バドミントン ) 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

## 授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 フライト練習(1) <ヘアピン>
- 4回 フライト練習(2) <ハイクリアー>
- 5回 フライト練習(3) <ドライブ、スマッシュ>
- 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
- 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
- 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
- 13回 ダブルスゲーム(2) <ゲームの実践>
- 14回 ダブルスゲーム(3) <まとめ>
- 15回 スキル獲得の確認

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

# フィジカル・エクササイズII ( バドミントン ) 【昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
ライフ・スキル科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# フィジカル・エクササイズII ( バスケットボール ) 【昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

## 授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バスケットボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

## 教科書 /Textbooks

使用しない

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 集団行動 (走る (ラン)・跳ぶ (ジャンプ)・投げる (スロー))
- 3回 ボールに慣れる (ドリブル・パス・シュート)
- 4回 シュートの基礎練習 (レイアップシュート・ジャンプシュート)
- 5回 応用練習 (2対1)
- 6回 応用練習 (3対2)
- 7回 ルール・戦術の説明
- 8回 簡易ゲームを通してのオフense・ディフェンスの戦術習得
- 9回 スキルアップ (ドリブルシュート・リバウンド)
- 10回 スキルアップ (速攻、スクリーンプレイ)
- 11回 ゲーム (1) ゾーンディフェンス (2 - 3)
- 12回 ゲーム (2) ゾーンディフェンス (2 - 1 - 2)
- 13回 ゲーム (3) マンツーマンディフェンス
- 14回 ゲーム (4) まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

# フィジカル・エクササイズII ( バスケットボール ) 【昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
ライフ・スキル科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# フィジカル・エクササイズII ( バレーボール ) 【昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor 美山 泰教 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

## 授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バレーボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <オーバーサーブ>
- 4回 バス練習(1) <アンダーバス>
- 5回 バス練習(2) <オーバーバス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド>
- 8回 アタック練習(2) <センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1) <サーブに留意して>
- 12回 ゲーム(2) <サーブカットに意識して>
- 13回 ゲーム(3) <アタックに留意して>
- 14回 ゲーム(4) <フォーメーションに留意して>
- 15回 スキル獲得の確認

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

# フィジカル・エクササイズII ( バレーボール ) 【昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
ライフ・スキル科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords



# フィジカル・エクササイズII ( バドミントン ) 【昼】

担当者名 /Instructor 美山 泰教 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

## 授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 フライト練習(1) <ヘアピン>
- 4回 フライト練習(2) <ハイクリアー>
- 5回 フライト練習(3) <ドライブ、スマッシュ>
- 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
- 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
- 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
- 13回 ダブルスゲーム(2) <ゲームの実践>
- 14回 ダブルスゲーム(3) <まとめ>
- 15回 スキル獲得の確認

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

# フィジカル・エクササイズII ( バドミントン ) 【昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
ライフ・スキル科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# フィジカル・エクササイズII ( サッカー ) 【昼】

担当者名 /Instructor 磯貝 浩久 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

## 授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、サッカーの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サッカーの基本技術(リフティング)の習得と試しのゲーム(1)
- 3回 サッカーの基本技術(パス)の習得と試しのゲーム(2)
- 4回 サッカーの基本技術(シュート)の習得と試しのゲーム(3)
- 5回 サッカーの戦術(ディフェンス)の説明
- 6回 サッカーの戦術(ディフェンス)の習得と応用ゲーム
- 7回 サッカーの戦術(オフense)の説明
- 8回 サッカーの戦術(オフense)の習得と応用ゲーム
- 9回 サッカーの戦術の応用説明
- 10回 サッカーの戦術の応用ゲーム
- 11回 審判法の習得と試しのゲーム
- 12回 リーグ戦方式の試合(1)パスを意識して
- 13回 リーグ戦方式の試合(2)戦術を意識して
- 14回 リーグ戦方式の試合(3)まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

# フィジカル・エクササイズII ( サッカー ) 【昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
ライフ・スキル科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# フィジカル・エクササイズII ( バドミントン ) 【昼】

担当者名 /Instructor 鯨 吉夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

## 授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション ( 授業の展開方法や履修に関する諸注意 )
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 導入実技
- 4回 基本的な打ち方とフライト ( ヘアピン・クリアー )
- 5回 基本的な打ち方とフライト ( ドロップ )
- 6回 サービスの練習
- 7回 応用組み合わせ練習 ( ヘアピンリターン )
- 8回 応用組み合わせ練習 ( ドロップリターン )
- 9回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 10回 戦術の説明
- 11回 ダブルスのゲーム法の解説
- 12回 ダブルスの陣形の解説
- 13回 ダブルスゲームの実践
- 14回 ダブルスゲームのまとめ
- 15回 スキル獲得の確認

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

# フィジカル・エクササイズII ( バドミントン ) 【昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
ライフ・スキル科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# フィジカル・エクササイズII ( サッカー ) 【昼】

担当者名 鯨 吉夫 / 北方キャンパス 非常勤講師  
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 実技 クラス 1年  
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

## 授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。  
 この授業では、身体活動の理論を踏まえ、サッカーの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション ( 授業の展開方法や履修に関する諸注意 )
- 2回 サッカーの基本技術 ( リフティング ) の習得と試しのゲーム ( 1 )
- 3回 サッカーの基本技術 ( パス ) の習得と試しのゲーム ( 2 )
- 4回 サッカーの基本技術 ( シュート ) の習得と試しのゲーム ( 3 )
- 5回 サッカーの戦術 ( ディフェンス ) の説明
- 6回 サッカーの戦術 ( ディフェンス ) の習得と応用ゲーム
- 7回 サッカーの戦術 ( オフェンス ) の説明
- 8回 サッカーの戦術 ( オフェンス ) の習得と応用ゲーム
- 9回 サッカーの戦術の応用習得
- 10回 サッカーの戦術の応用ゲーム
- 11回 審判法の習得と試しのゲーム
- 12回 リーグ戦方式の試合 ( 1 ) パスを意識して
- 13回 リーグ戦方式の試合 ( 2 ) 戦術を意識して
- 14回 リーグ戦方式の試合 ( 3 ) まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

# フィジカル・エクササイズII ( サッカー ) 【昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
ライフ・スキル科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords



# フィジカル・エクササイズII ( バドミントン ) 【昼】

担当者名 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター  
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 実技 クラス 1年  
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

**授業の概要 /Course Description**

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。  
 この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

**教科書 /Textbooks**

なし

**参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )**

なし

**授業計画・内容 /Class schedules and Contents**

- 1回 オリエンテーション
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 フライト練習(1) <ヘアピン>
- 4回 フライト練習(2) <ハイクリアー>
- 5回 フライト練習(3) <ドライブ、スマッシュ>
- 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
- 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
- 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
- 13回 ダブルスゲーム(3) <ゲームの実践>
- 14回 ダブルスゲーム(4) <まとめ>
- 15回 スキル獲得の確認

**成績評価の方法 /Assessment Method**

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

**事前・事後学習の内容 /Preparation and Review**

# フィジカル・エクササイズII ( バドミントン ) 【昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
ライフ・スキル科目

## 履修上の注意 /Remarks

気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。運動のできる服装とシューズを準備すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# キャリア・デザイン 【昼】

担当者名 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分のキャリアを考え、その為にどのような学生生活を送るのかをデザインする。
	社会的責任・倫理観	●	社会人として求められる能力や素養、マナーを理解できる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとることができる。
		キャリア・デザイン	CAR100F

## 授業の概要 /Course Description

大学生の就職活動だけでなく、企業などで働いている社会人にとっても現在の労働環境は厳しいものがあります。皆さんは本学卒業後には何らかの職業に就くことになると思います。この授業は、自らのキャリアを主体的に考え、自ら切り拓いていってもらうために必要な知識・態度・スキルを身につけます。特に以下の5点をねらいとしています。

- ①様々な職業や企業の見方などの労働環境について知る
- ②将来の進路に向けた学生生活の過ごし方のヒントに気づく
- ③コミュニケーションをとることに慣れる
- ④社会人としての基本的な態度を身につける
- ⑤自分について知る

授業では、グループワーク、個人作業、ゲーム、講義などを組み合わせて進めていきます。進路に対する不安や迷いを解消できるように、皆さんと一緒に将来のことを考えていく時間になりたいと考えています。

## 教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。また、適宜資料を配布します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス【授業の目的、授業のルール】
- 2回 進路の現状【就職・公務員・教員等の進路準備スケジュール】
- 3回 学生生活とキャリア【社会人基礎力・学力、企業が求める能力、大学時代の過ごし方】
- 4回 自分を知る(1)【自分の歴史を振り返る、自分の強みを知る】
- 5回 インターンシップ【インターンシップ経験者の話、インターンシップの効用】
- 6回 仕事をするということ【仕事を考える視点、仕事のやりがい】
- 7回 企業・業界について【企業の組織について、業界の見方】
- 8回 働いている人の話を聞く【実際の仕事、仕事のやりがいについて】
- 9回 就職試験を体験する【SPI、一般常識】
- 10回 様々な働き方【働き方の多様化、キャリアに対する考え方】
- 11回 キャリアとお金【働き方別の賃金、生活費シミュレーション】
- 12回 自分を知る(2)【自分の価値観を考える、多様性を認識する】
- 13回 就職活動の実体験【内定した4年生の話、就職活動のポイント】
- 14回 学生生活を考える【将来の目標、どんな学生生活を過ごすのか】
- 15回 まとめ【授業全体を振り返る、総括】

# キャリア・デザイン【昼】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...60% 授業内のレポート...20% まとめのレポート...20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

特に準備することはありませんが、自分のキャリアは自分で考えるしかありません。積極的・主体的に授業に参加し、将来に対して真剣に向き合う姿勢が求められます。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業に参加するには、社会人としての態度が求められます。以下の10カ条を守ってください。

①遅刻厳禁②携帯メール厳禁、携帯はマナーモードでバッグの中③脱帽④飲食禁止⑤作業時間は守る⑥授業を聞くところ、話し合うところのメリハリをつける⑦グループワークでは積極的に発言する⑧周りのメンバーの意見にしっかり耳を傾ける⑨分からないことは聞く⑩授業に「出る」ではなく、「参加する」意識を持つ

## キーワード /Keywords

キャリア、進路、公務員、教員、資格、コンピテンシー、自己分析、インターンシップ、職種、企業、業界、社会人、SPI、派遣社員、契約社員、正社員、フリーター、給料、就職活動

# キャリア・デザイン 【昼】

担当者名 永田 公彦 / グローバル人材育成推進室  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分のキャリアを考え、その為にどのような学生生活を送るのかをデザインする。
	社会的責任・倫理観	●	社会人として求められる能力や素養、マナーを理解できる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとることができる。
		キャリア・デザイン	CAR100F

## 授業の概要 /Course Description

大学生の就職活動だけでなく、企業などで働いている社会人にとっても現在の労働環境は厳しいものがあります。皆さんは本学卒業後には何らかの職業に就くことになると思います。この授業は、自らのキャリアを主体的に考え、自ら切り拓いていってもらうために必要な知識・態度・スキルを身につけます。特に以下の5点をねらいとしています。

- ①様々な職業や企業の見方などの労働環境について知る
- ②将来の進路に向けた学生生活の過ごし方のヒントに気づく
- ③コミュニケーションをとることに慣れる
- ④社会人としての基本的な態度を身につける
- ⑤自分について知る

授業では、グループワーク、個人作業、ゲーム、講義などを組み合わせて進めていきます。進路に対する不安や迷いを解消できるように、皆さんと一緒に将来のことを考えていく時間になりたいと考えています。

## 教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。また、適宜資料を配布します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス【授業の目的、授業のルール】
- 2回 進路の現状【就職・公務員・教員等の進路準備スケジュール】
- 3回 学生生活とキャリア【社会人基礎力・学力、企業が求める能力、大学時代の過ごし方】
- 4回 自分を知る(1)【自分の歴史を振り返る、自分の強みを知る】
- 5回 インターンシップ【インターンシップ経験者の話、インターンシップの効用】
- 6回 仕事をするということ【仕事を考える視点、仕事のやりがい】
- 7回 企業・業界について【企業の組織について、業界の見方】
- 8回 働いている人の話を聞く【実際の仕事、仕事のやりがいについて】
- 9回 就職試験を体験する【SPI、一般常識】
- 10回 様々な働き方【働き方の多様化、キャリアに対する考え方】
- 11回 キャリアとお金【働き方別の賃金、生活費シミュレーション】
- 12回 自分を知る(2)【自分の価値観を考える、多様性を認識する】
- 13回 就職活動の実体験【内定した4年生の話、就職活動のポイント】
- 14回 学生生活を考える【将来の目標、どんな学生生活を過ごすのか】
- 15回 まとめ【授業全体を振り返る、総括】

# キャリア・デザイン【昼】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...60% 授業内のレポート...20% まとめのレポート...20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

特に準備することはありませんが、自分のキャリアは自分で考えるしかありません。積極的・主体的に授業に参加し、将来に対して真剣に向き合う姿勢が求められます。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業に参加するには、社会人としての態度が求められます。以下の10カ条を守ってください。

①遅刻厳禁②携帯メール厳禁、携帯はマナーモードでバッグの中③脱帽④飲食禁止⑤作業時間は守る⑥授業を聞くところ、話し合うところのメリハリをつける⑦グループワークでは積極的に発言する⑧周りのメンバーの意見にしっかりと耳を傾ける⑨分からないことは聞く⑩授業に「出る」ではなく、「参加する」意識を持つ

## キーワード /Keywords

キャリア、進路、公務員、教員、資格、コンピテンシー、自己分析、インターンシップ、職種、企業、業界、社会人、SPI、派遣社員、契約社員、正社員、フリーター、給料、就職活動

# キャリア・デザイン【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分のキャリアを考え、その為にどのような学生生活を送るのかをデザインする。
	社会的責任・倫理観	●	社会人として求められる能力や素養、マナーを理解できる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとることができる。
		キャリア・デザイン	CAR100F

## 授業の概要 /Course Description

### ●授業の概要（ねらい・テーマなど）

本授業の目的は、みなさんが持つことが想定される、将来の進路に対する不安や迷いを解消し、有意義な大学生活を営むために何をすればいいのかを学ぶことです。近年、少子高齢化やグローバル化、IT化、環境やエネルギー、そして地方創生など、今までのビジネスモデルからの脱却およびイノベーションが求められる中、社会が求める人材も大きく変わりつつあります。労働政策研究・研修機構の調査（2013年）によると、若年者を採用する時に重視する資質として、「働くことへの熱意」（73.6%）、「積極性、チャレンジ精神、行動力」（62.0%）、「チームワーク」（52.5%）、「コミュニケーション能力」（51.7%）の順で高くなっており、特に「働くことへの熱意」「積極性、チャレンジ精神、行動力」「コミュニケーション能力」の割合が大きく増加しています。よってこれらの資質を就職活動を行うまでに高めておく必要があります。

もちろん、大学生の本分は学習であり、今から就職活動の準備をする必要はありません。しかし、これらの力は、一朝一夕で身につくものではありません。ではどうすればいいのか？ それは大学生活全体、つまり、学習および課外活動、そして日常生活において、社会が求める資質を獲得することを意識して過ごすことが大切になるのです。その方法（キャリアをデザインする方法）を本授業で学びます。

自らのキャリアをデザインするために必要な4つの行動とは、以下の4つです。

1. いつでも、どこでも、どんな人でも打ち解ける
2. 長いスパンで考えて、今しかできないことをする
3. 外へ出て視野を広げる
4. 失敗を恐れず挑戦して、振り返る

以上を理解するために、本授業は全てグループワークを通して実践をします。よって講義はほとんどありません。また、たくさんの先輩や社会人のゲストが登場します。目標となるかもしれない先輩や社会人（ロールモデル）との対話を通して、理解を深めてほしいからです。

まとめると、授業で実際に行動してみること、そしてロールモデルとの対話を通して、自らのキャリアをデザインするために必要な4つの行動を理解し、他の授業や課外活動、そして日常生活において実践して頂くことが目標です。最終授業では、以上の4つの行動を実践し、将来の見通しを具体的にし、叶えるために、どんな学生生活を過ごせばいいのかをプランしていただきます。

## 教科書 /Textbooks

テキストはありません。適宜資料を学習支援フォルダにアップしますので、印刷して持参してください。

# キャリア・デザイン【昼】

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください。  
以下書籍はその参考例です。  
キャロル S.ドゥエック 『「やればできる!」の研究-能力を開花させるマインドセットの力』草思社  
○金井寿宏 『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP研究所  
大久保幸夫 『キャリアデザイン入門 1 基礎力編』日本経済新聞社  
○渡辺三枝子 『新版キャリアの心理学』ナカニシヤ出版  
○モーガン・マッコール 『ハイフライヤー 次世代リーダーの育成法』プレジデント社  
○エドガー・H.シャイン 『キャリア・アンカー 自分のほんとうの価値を発見しよう』白桃書房  
○平木典子 『改訂版 アサーション・トレーニング-さわやかな自己表現のために』金子書房  
○中原淳・長岡健 『ダイアログ 対話する組織』ダイヤモンド社  
○香取一昭・大川恒 『ワールド・カフェをやろう!』日本経済新聞出版社  
○金井寿宏 『リーダーシップ入門』日本経済新聞社  
J.D.克蘭ボルト、A.S.レヴィン 『その幸運は偶然ではないんです!』ダイヤモンド社  
○見館好隆 『「いっしょに働きたくなる人」の育て方-マクドナルド、スターバックス、コールドストーンの人材研究』プレジデント社

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※獲得目標の4つの行動：【1】いつでも、どこでも、どんな人でも打ち解ける、【2】長いスパンで考えて、今しかできないことをする、【3】外へ出て視野を広げる、【4】失敗を恐れず挑戦して、振り返る

- 1回 全体ガイダンス
- 2回 アイデンティティ(大学生だからできること)【1】【2】【3】【4】
- 3回 地域活動に挑戦する(先輩登壇)【2】【3】【4】
- 4回 アクティブ・リスニング(傾聴)【1】
- 5回 働くということ(社会人登壇)【2】【3】【4】
- 6回 アイデンティティ(自分の長所を活かす)【1】
- 7回 ロールモデルインタビュー(社会人を取材する)【1】【2】【3】【4】
- 8回 アサーション・トレーニング(爽やかな自己表現)【1】
- 9回 将来の見通しを立てる(企業団体研究)【2】
- 10回 ダイアログ(対話)とワールドカフェ【1】
- 11回 リーダーシップ【1】
- 12回 ロールモデルインタビュー(先輩を取材する)【1】【2】【3】【4】
- 13回 就職活動を知る(先輩登壇)【2】【3】【4】
- 14回 計画された偶発性とセレンディピティ【1】【2】【3】【4】
- 15回 まとめ&発表(将来の目標のためにどんな学生生活を過ごすのか)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業でのグループワークの相互評価および、小テストもしくは実践レポート、グループ発表の相互評価：75%  
課題レポート(2回)：15%  
最終レポート(相互評価)：10%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

【基本事項】  
※月曜日と火曜日の授業の内容は同じです。  
※真鍋先生の「キャリアデザイン」(木曜・金曜)もほとんど同じ内容です。  
※本授業は必修ではありませんが、将来のために大学生活をどう営むかを考える、1年生向けの授業です。よって、私もしくは真鍋先生の「キャリアデザイン」のいずれかを履修することをお勧めします。  
※曜日や時限を間違えて履修しても出席にはなりませんので注意してください。

【履修者調整について】  
※1年生が優先的に受講できます。ただし、教室のキャパシティに余裕がある場合には、2、3、4年生も受講可能です。また、優先的に受講できる1年生であっても受講希望者が多数であれば、受講者数調整の対象になります。  
※真鍋先生の「キャリアデザイン」(木曜・金曜)と合わせて全8コマあります。グループワークの運営上、可能な限り各コマ均等な数に調整するため、第1回の授業で希望するコマを確認します。よって、第1回の授業に欠席した学生は履修できません。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

グループワークのメンバーは毎回シャッフルされます(グループを固定する回もあり)。毎週、初対面の学生と話せて学内の知り合いが増えます。また、地域活動やインターンシップなど、自らのキャリア形成に役立つインフォメーションもあります。積極的にご参加ください。

## キーワード /Keywords

キャリア、キャリア発達、大学生活、アイデンティティ、コミュニケーション、社会人マナー、倫理観



# キャリア・デザイン 【昼】

担当者名 石川 敬之 / 地域共生教育センター  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分のキャリアを考え、その為にどのような学生生活を送るのかをデザインする。
	社会的責任・倫理観	●	社会人として求められる能力や素養、マナーを理解できる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとることができる。
		キャリア・デザイン	CAR100F

## 授業の概要 /Course Description

大学生の就職活動だけでなく、企業などで働いている社会人にとっても現在の労働環境は厳しいものがあります。皆さんは本学卒業後には何らかの職業に就くことになると思います。この授業は、自らのキャリアを主体的に考え、自ら切り拓いていってもらうために必要な知識・態度・スキルを身につけます。特に以下の5点をねらいとしています。

- ①様々な職業や企業の見方などの労働環境について知る
- ②将来の進路に向けた学生生活の過ごし方のヒントに気づく
- ③コミュニケーションをとることに慣れる
- ④社会人としての基本的な態度を身につける
- ⑤自分について知る

授業では、グループワーク、個人作業、ゲーム、講義などを組み合わせて進めていきます。進路に対する不安や迷いを解消できるように、皆さんと一緒に将来のことを考えていく時間になりたいと考えています。

## 教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。また、適宜資料を配布します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス【授業の目的、授業のルール】
- 2回 進路の現状【就職・公務員・教員等の進路準備スケジュール】
- 3回 学生生活とキャリア【社会人基礎力・学力、企業が求める能力、大学時代の過ごし方】
- 4回 自分を知る(1)【自分の歴史を振り返る、自分の強みを知る】
- 5回 インターンシップ【インターンシップ経験者の話、インターンシップの効用】
- 6回 仕事をするということ【仕事を考える視点、仕事のやりがい】
- 7回 企業・業界について【企業の組織について、業界の見方】
- 8回 働いている人の話を聞く【実際の仕事、仕事のやりがいについて】
- 9回 就職試験を体験する【SPI、一般常識】
- 10回 様々な働き方【働き方の多様化、キャリアに対する考え方】
- 11回 キャリアとお金【働き方別の賃金、生活費シミュレーション】
- 12回 自分を知る(2)【自分の価値観を考える、多様性を認識する】
- 13回 就職活動の実体験【内定した4年生の話、就職活動のポイント】
- 14回 学生生活を考える【将来の目標、どんな学生生活を過ごすのか】
- 15回 まとめ【授業全体を振り返る、総括】

# キャリア・デザイン【昼】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...60% 授業内のレポート...20% まとめのレポート...20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

特に準備することはありませんが、自分のキャリアは自分で考えるしかありません。積極的・主体的に授業に参加し、将来に対して真剣に向き合う姿勢が求められます。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業に参加するには、社会人としての態度が求められます。以下の10カ条を守ってください。

①遅刻厳禁②携帯メール厳禁、携帯はマナーモードでバッグの中③脱帽④飲食禁止⑤作業時間は守る⑥授業を聞くところ、話し合うところのメリハリをつける⑦グループワークでは積極的に発言する⑧周りのメンバーの意見にしっかりと耳を傾ける⑨分からないことは聞く⑩授業に「出る」ではなく、「参加する」意識を持つ

## キーワード /Keywords

キャリア、進路、公務員、教員、資格、コンピテンシー、自己分析、インターンシップ、職種、企業、業界、社会人、SPI、派遣社員、契約社員、正社員、フリーター、給料、就職活動

# コミュニケーション実践【昼】

担当者名 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分の将来を切り拓いていくためのコミュニケーション能力を身につける。
	社会的責任・倫理観	●	社会人として求められる能力や素養、マナーを理解できる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとることができる。
		コミュニケーション実践	CAR111F

## 授業の概要 /Course Description

日本経団連の調査では、大卒新卒者に求める能力として『コミュニケーション力』が常にトップとなっています。ダイバーシティと言われるように、多様な価値観を持った人と円滑なコミュニケーションができることが、仕事を進めていく上でのポイントになります。しかし、コミュニケーションが得意であると感じている人は少ないのではないのでしょうか。この授業では、コミュニケーションに対する考え方から基本的技術、ディスカッション技法など、コミュニケーションにおける実践的な知識、技術をテーマとします。

コミュニケーションが苦手な人にとってはコミュニケーションへの抵抗感を軽減しコミュニケーションに慣れていただきます。それだけではなく、就職活動や将来社会で実践できるコミュニケーションについて体験します。

講師は企業研修等の実務を行っている方が担当します。講師の話聞くだけでなく現実場面を想定し、実践しながらコミュニケーションのトレーニングをします。したがって1クラスの人数を限定した講義となります。多数コマ開講していますので、都合のいい時間のコマに受講してください。

## 教科書 /Textbooks

レジュメを準備して進めていきます。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

特に指定しませんが、授業中に参考になる文献等を適宜紹介します。

# コミュニケーション実践【昼】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス 【授業の目的、授業のルール、カリキュラム説明、評価方法、持参物など】
- 2回 コミュニケーション上手になるために  
【名札作成、自己紹介、コミュニケーションとは、自分の価値観・固定観念の気づき、ミスコミュニケーションの原因など】
- 3回 聴くことの重要性  
【「きく」の種類と重要性、聴く技術を磨く、あいづち、興味、関心を与える態度、安心を与える距離と位置と姿勢など】
- 4回 話す・伝えるテクニック  
【効果的な表現力、伝えるときの態度、声を出す、目線・アイコンタクト、発声法、ジェスチャー、身振り・手振りなど】
- 5回 マナーおもてなしの心  
【挨拶、言葉、笑顔、態度、身だしなみ、ホスピタリティマインドなど】
- 6回 美しい敬語をマスターする  
【正しい日本語で話す、二セ丁寧語、若者言葉とはなど】
- 7回 障害をお持ちの方へのコミュニケーション  
【高齢者、視覚状態体験、肢体不自由な方、杖をお持ちの方への歩行など】
- 8回 プレゼンテーションを磨く  
【プレゼンテーションとは、効果的な伝え方、姿勢、目線、声、表現方法、構成方法 (PREP法) など】
- 9回 質問応対力 (面接)  
【面接力強化の為に必要な力、評価の高い応え方、授業で実践した表現復習など】
- 10回 グループディスカッション①  
【ワンワード、ウィッシュポエム、ワールドカフェなど】
- 11回 グループディスカッション②  
【グループディスカッションとは、ディスカッションの流れ、評価基準など】
- 12回 ディベート  
【ディベートとは、目的、流れなど】
- 13回 授業の振り返り  
【授業の振り返り、コミュニケーションとは、みなさんへのメッセージなど】
- 14回 発表  
【1人プレゼンテーション】
- 15回 まとめ  
【授業のまとめ、総括】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...50%、授業の成果物...50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

特に準備することはありません。  
講義の性格上、1クラス50名程度での開講となります。例年多数の履修希望者があり抽選となっています。まずは、履修登録をしていただきますが、その後の履修者調整の方法は掲示等でお知らせしますので、注意しておいてください。  
また、抽選に当たったにも関わらず、授業を履修しない学生が見られます。そうすると、本当に受講したくても受講できない学生に迷惑がかかります。受講したいという意思を強く持っている学生に履修登録をしていただきたいと思います。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

コミュニケーション、マナー、傾聴、プレゼンテーション

# グローバル・リーダーシップ論【昼】

担当者名 /Instructor 永田 公彦 / グローバル人材育成推進室

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	グローバル社会の潮流を予測および的確に捉え、多様な文化・価値観をもつ人々と共に、仕事や人生のプロジェクトを成し遂げる力を養う。
	社会的責任・倫理観	●	グローバル（地球）およびローカル（地域）の視点から、文化・価値観の多様性を尊重し、社会と人間性の発展に貢献できる力をつける。
	生涯学習力	●	世界的な人的ネットワークを構築し、常に大局観をもって世界と地域でおこる出来事に関心を抱き、自らこれに積極的に関わっていく姿勢を養う。
	コミュニケーション力		
		グローバル・リーダーシップ論	CAR112F

## 授業の概要 /Course Description

世界そして日本に押し寄せるグローバル化の波が、皆さんの将来の就職先となる企業や各種団体、さらに皆さん個人の人生にどのような影響を与えるかを考察し、学生時代に何をしておくべきかのヒントを与えます。  
また将来、皆さんが、多様な文化価値観をもつ人々が集まるグローバル社会の中で、リーダーシップを発揮し、活躍するための基本的な視点、心構え、能力、知識を習得します。

< 授業の進め方 >

「講師の話を一方的に聞いて、メモして覚える」のではなく「講師や仲間の話しを傾聴し、主体的かつ積極的に質問と発言をしながら考える」ことに重点を置きます。そのために、次の5つを取り混ぜたインタラクティブな（対話型）授業になります。

- ① 国際舞台で活躍する社会人の講演（国際事業・経営の体験談と皆さんへのメアドバイス等）
- ② 海外インターン（研修）をおこなった先輩の体験談や受入企業担当者の評価
- ③ ケーススタディ、ロールプレイ、ゲーム等
- ④ グループワーク（8名程度のグループで、調査、討議、レポート作成・提出、プレゼンテーション）
- ⑤ 個人ワーク（レポート作成・提出、プレゼンテーション）

## 教科書 /Textbooks

なし（適宜プリントを配布します）

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 『国際ビジネス入門1』（江夏健一・太田正孝・藤井健 編）中央経済社 ￥3,045
- 『採用基準』（伊賀泰代著）ダイヤモンド社 ￥1,575
- 『日本人こそ見直したい、世界が恋する日本の美德』（永田公彦著）ディスカバー出版 ￥1,050

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 全体ガイダンス

第2～14回 グローバル展開に積極的な企業・団体の第一線で働く社会人の講演と補足講義で構成

（内訳） 社会人の講演（6回～リーダーシップ、国際ビジネス・経営に関する体験談と皆さんへのアドバイス）、講義（3回～グローバル事業経営の全体像、異文化マネジメントの基本概念、グローバルリーダーシップとの交流（1回～海外インターン体験）、グループワーク（3回～グローバル企業研究）の考察）、先輩

第15回 個人ワークと総括

# グローバル・リーダーシップ論【昼】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

- ① 授業中の参加態度・・・70% ( クラス出席時に記入・提出する習得レポート及び積極的な質問と発言 )
- ② アサインメント・・・30% ( グループワーク、個人ワーク )

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

授業のルール ( 10箇条 ) ~ 「積極的に、聴いて、質問して、発言する」

①~⑤は国際社会では当たり前です。⑥~⑩は社会人として最低限のマナーです。

- ① アクティブリスニング ( 相手の意見にしっかり耳を傾け反応する )
- ② 積極的に質問する ( 質問は恥ではなく糧だ ~ 質問5個ルール )
- ③ 積極的に発言する ( 講義中やグループワーク時に、反論も含め自分の考えを発信する )
- ④ 授業に「出る」のではなく「参加する」
- ⑤ 答えは「人から知らされて覚える」のではなく「自分で考えてつくる」
- ⑥ 私語厳禁
- ⑦ 携帯電話メール厳禁 ( マナーモードでバッグの中 )
- ⑧ 脱帽 ( 事情がある場合は事前にご相談下さい )
- ⑨ 飲食は禁止 ( 事情がある場合は事前にご相談下さい )
- ⑩ 作業時間は守る

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業の主役は皆さん、つまり皆さんががつくる皆さんのための授業です。講師は、そのための基本的な枠組みやヒントを与えサポートする脇役です。

## キーワード /Keywords

リーダーシップ、グローバルビジネス、グローバル経営、ダイバーシティ、異文化マネジメント、主体的行動

# プロフェッショナルの仕事I【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次 /2 Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 1学期 /1 Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 2年 /2 Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	ロールモデルを参考に、自己を省察し、現在何をすべきかに気づき、自らを成長させるために、主体的・積極的に活動する力を身につける。
	社会的責任・倫理観	●	社会で働く上で必要となるマナーはもちろん、企業団体や自己の利益追求のみならず、自らの仕事で社会に何らかの形で貢献すべきことを学ぶ。
	生涯学習力	●	ロールモデルを参考に、将来自らが生き生きと働くことができる仕事や業界への見通しをつかみ、大学生活をデザインする力を身につける。
	コミュニケーション力		
		プロフェッショナルの仕事 I CAR210F	

## 授業の概要 /Course Description

<目的> 現場の第一線で活躍している社会人に教壇に立って頂き、仕事のやりがいや辛さ、そして自らが成長した学生時代の物語を語って頂きます。その話を聴くことで、①ビジネスの仕組み ②仕事の現実 ③将来の進路の手掛かりやヒント ④大学時代に何をすべきかを学びます。プレゼンテーションの流れは以下です。

1. 企業団体の概要（現在および今後の方向性について）
2. 仕事の概要（大卒の1年目、3年目、そして5年目の社員・職員が就く仕事内容と、仕事のやりがい）
3. 大学時代にすべきこと・してほしいこと
4. 学生へのメッセージ（学生が自分の将来を考えていく上でのアドバイス）

<進め方> 講演者の企業団体および仕事を予習して、講演を傾聴します。そこで得た新しい知識や払拭できた先入観、将来へのヒントを元に、「将来のために今すべきこと」をレポートにまとめます。

<目標> 様々な企業や団体の第一線で働いている社会人の話を聴くことで、自らの将来の姿を描くことです。そして、大学時代においてどんな大学生活を過ごせば良いかを理解します。

## 教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。原則、当日企業団体のパンフレットを配布します（用意できない時もあります）。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

事前に提示する課題をもとに、各自登壇企業団体のホームページをみて予習してください。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 全体ガイダンス  
第2～15回 各企業・団体の第一線で働く社会人の講演

※以下は過去の実績です。

<2014年度> 株式会社クロスカンパニー / 北九州市 / 株式会社ジェイアイエヌ / 株式会社東急ハンズ / ハウステンボス株式会社 / 株式会社朝日新聞社 / 株式会社日本アクセス / 東京海上日動火災保険株式会社 / 株式会社JTB九州 / アイ・ケイ・ケイ株式会社 / 伊藤忠エネクス株式会社 / 株式会社山口フィナンシャルグループ（山口銀行・北九州銀行・もみじ銀行） / 株式会社再春館製薬所 / 全日本空輸株式会社

<2013年度> 株式会社クロスカンパニー / 北九州市 / フリーアナウンサー長崎真友子氏 / TOTO株式会社 / 株式会社再春館製薬所 / ショーワグループ株式会社 / アイ・ケイ・ケイ株式会社 / 株式会社スターフライヤー / コストコ ホールセール ジャパン株式会社 / 株式会社ベネッセコーポレーション / 株式会社ジェイアイエヌ / 山崎製パン株式会社 / RKB毎日放送株式会社 / ハウステンボス株式会社

# プロフェッショナルの仕事I【昼】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業で課される予習とレポート...90%      最終レポート...10%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

※履修者が多かった場合、履修者の調整を行います。その際、第1回の授業を欠席した学生の履修申請を取り消しますので、必ず第1回は出席するようにしてください。

※1年次に「キャリア・デザイン」を受講していることが望ましい。

※授業の特性上、出席しなければ点数は付きません。よって課外活動で欠席が多くなる学生は履修を避けてください。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本学の学生は、首都圏の大学生よりも立地的に、企業・団体に働いている社会人と出会う機会が少なくなっています。そんな中、自分の将来への視野を広げたい、将来のために自分を成長させるヒントを得たいと考えている学生のために設計しました。講演者の皆様は大学生活ではなかなか出会うことができない方ばかりです。また、本学の学生を是非採用したいと考える企業団体です。講演者の皆様が本学の学生のために語ってくれた言葉を聞き逃さず、何かを学ぼうという意思を持ってご参加ください。

## キーワード /Keywords

働くこと、成長、キャリア、キャリア発達、大学生活、アイデンティティ



# プロフェッショナルの仕事II 【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	答えのない課題に対し、多様な人々と共同しながら、主体的・積極的に取り組み、アウトプットを示す力を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	アクティブラーニングを通して、自己を省察し、現在何をすべきかに気付き、自らをコントロールする力を身につける。
	社会的責任・倫理観	●	アクティブラーニングを通して、社会で働く上で必要となるマナーや素養、能力を身につける。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
		プロフェッショナルの仕事II	CAR211F

## 授業の概要 /Course Description

<目的> 社会で働くために必要とされる課題解決能力を身につけるために、地元企業団体の現場の課題を題材に、グループで課題解決案を策定・発表し、その企業団体から評価をもらうことが目的です。

<進め方> 以下のスキームで地元企業団体（3団体を予定）の課題に挑戦し、各チームで競います。

1. 地元企業団体の社会人にご登壇頂き、現場で対峙しているリアルな課題を提示していただきます。
2. 提示された課題についての解決プランを作成します。
3. 地元企業団体の社会人に対し、解決プランを中間発表します。  
ここで社会人の方から直接、修正・改善のフィードバックを頂きます。
4. フィードバックを手掛かりに、提示された課題についての解決プランの最終案を作成します。
5. 地元企業団体の社会人に対し、解決プランの最終案を提示します。  
社会人の方が直接評価を行い、その結果がそのまま成績に反映されます。

<目標> 現場で働く社会人から自らがプランした案に対してフィードバックを頂き、修正し、最終評価を頂くことで、企業団体にて実際に働くために必要とされる課題解決能力を身につけます。そして、その経験を糧に、大学時代においてどんな大学生活を過ごせば良いかを理解します。

## 教科書 /Textbooks

テキストはありませんが、企業団体の資料はその都度配布します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

事前に提示する課題をもとに、各自登壇企業団体のホームページおよび店舗訪問などして予習してください。

# プロフェッショナルの仕事II 【昼】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 全体ガイダンス
- 第2～4回 各企業団体による課題提示
- 第5回 課題解決の方法についての講義
- 第6～10回 中間発表
- 第11～15回 最終発表

※2014年度の企業団体と課題：

- 株式会社名門大洋フェリー：LCCの出現に伴い、新幹線の安価販売など、モード間競争が激化する旅客輸送マーケットにおいて、北九州市や福岡市民のフェリー乗船客を増やすにはどうすればいいのか？
- 株式会社朝日新聞 西部本社：北九州市立大学の入学予定者に送付する、同社購読を促進する小冊子の企画制作。
- 株式会社井筒屋：井筒屋が「人生の大切なイベントの時に行く場所・ファッションアドバイザー」である価値を、特に若年層に認知させるにはどうすればいいのか？
- 株式会社タカギ：同社製品「キモチイISHOWER」を賃貸住宅利用者に対して、「付け替えブーム」を起こすにはどうすればいいのか？
- 北九州市役所 産業経済局 食の魅力創造・発信室：本市の食による産業振興・まちづくりをさらに進展させるため、「本市の食の魅力は何か」「本市の食の認知度が低い要因は何か」「それを市内外に発信するためにどのような取り組みを行うべきか」などを、調査・研究し、今後、市が取り組みを進める上での提案・アイデア出しをしていただきたい。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

- 毎回の授業への取り組み（相互評価）・・・75%
- プレゼンテーションに対する評価（企業団体からの評価）・・・20%
- 最終レポート・・・5%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

- ※履修者が多かった場合、履修者の調整を行います。その際、第1回の授業を欠席した学生の履修申請を取り消しますので、必ず第1回は出席してください。何らかの事情で出席できない場合は、事前に教員（mitate@kitakyu-u.ac.jp）までメールで連絡をしてください。
- ※2年次前期に「プロフェッショナルの仕事1」を受講していることが望ましい。
- ※授業および、授業時間以外でのグループワークの参加が必須となります。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

就職活動のスケジュールが変わり、以前のように3年生の秋から一斉スタートではなくなりました。そのために、夏季や春季の長期休暇などを活用したインターンシップが、将来の見通しを見出すために重要なファクターとなります。しかし、インターンシップは必ずしも希望する学生全てが参加できません（受け入れ企業団体が少ないため）。ゆえに、「授業の中」に企業団体の課題に取り組む機会を作り込み、現場の仕事を体感することで、多くの学生が働くことをイメージすることを狙って設計した授業です。企業団体の方から、直接フィードバックをもらえる機会はなかなかありません。本授業での経験を手掛かりに、将来の見通しのヒントを得ることを願っています。

## キーワード /Keywords

キャリア、成長、プレゼンテーション、フィールドリサーチ、職業統合的学習、課題解決型学習、プロジェクト型学習、サービス・ラーニング、経験学習

# 地域の達人【昼】

担当者名 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	社会人からキャリアを構築するための思考様式、行動様式について学ぶ。
	社会的責任・倫理観	●	社会人として求められる能力や素養、マナーを理解できる。
	生涯学習力	●	生涯にわたって学び続けることの必要性を理解し実践し続けることができる。
	コミュニケーション力		
		地域の達人	CAR212F

## 授業の概要 /Course Description

この授業のコンセプトは、「もうひとつの名刺を持つ」

- ・ 会社組織やNPO法人などで、仕事として社会貢献・地域貢献活動を行っている方
- ・ 仕事以外で社会貢献・地域貢献活動を行っている方
- ・ 雇われないで個人として仕事をしている方
- ・ 会社やお店を営んでいる方

このような社会人をお招きし、以下の点についてお話していただきます。

- ①どんな活動をしているのか
- ②活動のねらい、社会的意義、成果
- ③活動するときに乗り越えた壁
- ④人、組織をどう動かすのか
- ⑤将来ビジョン

企業に雇われて働くというキャリアが唯一のキャリアではありません。  
この授業ではサラリーマン以外の道を歩まれている方から、  
自分でやること、社会や地域のためにやるべきこと、リーダーシップなどを学びます。

## 教科書 /Textbooks

特に指定しません。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

特に指定しません。

# 地域の達人【昼】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス  
第2回～13回 地域の達人によるお話  
第14回 達人を振り返る  
第15回 まとめ

### 【2014年度登壇者】

デザイナー兼地域イベントプロデューサー、地域のヒーローキャラクター、FMラジオナビゲーター、古民家再生などのまちづくりデザイナー、公務員でありながら若者向けファンドを立ち上げた人、ソーシャル系大学学長、教育改革を目指すNPO法人に大卒新卒で入社した人、演劇団体主宰、サラリーマンでありながらミュージシャン、障がい者自立支援NPO法人代表、スポーツ誌ライター・ジャーナリスト、カフェオーナー、といった方に登壇いただきました。どの「達人」も仕事がどうかにかかわらず、「社会に役立つこと」を考え、強い想いの下に実践をされている方ばかりでした、  
2015年度も昨年度と同様に「熱い達人」たちをゲストにお招きする予定です。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...60% レポート...40%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

外部から講師をお招きします。遅刻や授業途中の入退室はしないでください。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

NPO、NGO、地域貢献、社会貢献、ソーシャルビジネス、コミュニティビジネス、会社経営、起業、キャリア、まちづくり、個人事業主

# サービスラーニング入門I【昼】

担当者名 石川 敬之 / 地域共生教育センター  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標		
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地域の課題に関心を持ち、気づき、考えられるようになる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	地域で活動する上で求められる自己管理能力を身につける。	
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	生涯にわたって学び続けることの重要性を理解する。	
	コミュニケーション力			
			サービスラーニング入門I	CAR110F

## 授業の概要 /Course Description

本講義は、地域共生教育センター担当科目として開講します。  
地域貢献活動へ参加する入門科目として、主に以下の点をねらいとします。

- ・ サービスラーニングに向けた基本的知識の学習
- ・ サービスラーニングに向けた実践的方法論の習得
- ・ 地域活動に参加している学生との交流を通じた、受講生の地域活動に対する参加意欲の向上
- ・ 地域活動への参加通じた学びの実践

## 教科書 /Textbooks

レジメを配布します。  
講義時に適宜紹介します。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

講義時に適宜紹介します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回目 ガイダンス 講義の目的、受講に当たっての留意事項の説明、レポート課題の説明
- 第2回目 サービスラーニング概論①
- 第3回目 サービスラーニング概論②
- 第4回目 地域活動概論① 地域活動の紹介
- 第5回目 地域活動概論② コミュニティワークの紹介と応用
- 第6回目 地域活動参加学生とのワークショップ①(予定)
- 第7回目 地域活動参加学生とのワークショップ②(予定)
- 第8回目 ボランティア活動の紹介
- 第9回目 ボランティア参加に向けて①
- 第10回目 ボランティア参加に向けて②
- 第11回目 事前報告①
- 第12回目 事前報告②
- 第13回目 事前研修①
- 第14回目 事前研修②
- 第15回目 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

事前レポート(30点) + 講義中の課題(70点) = 合計100点評価

# サービスラーニング入門I【昼】

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

本科目は、サービスラーニングへの実際の参加を前提をしています。  
従って、自ら参加したいボランティア活動を探し、実際に参加してもらうことになります。  
当然、単位もボランティアに参加する学生に対して与えられますので、この点、十分にご留意ください。  
詳細は第一回のガイダンスの際に説明しますので、必ず出席してください。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目は、全学組織である地域共生教育センターが提供する科目です。この科目をきっかけとして地域活動へ参加していただきたいと思います。  
また、この講義は、基本的に第2学期開講の「サービスラーニング入門II」と連動していますので、続けて履修されることを望みます。

## キーワード /Keywords

地域活動、ボランティア、経験を通じた学び

# サービスラーニング入門II【昼】

担当者名 石川 敬之 / 地域共生教育センター  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地域の課題に気づき、考え、解決に向けて行動が起こせるようになる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたって学び続けることの重要性を理解する。
	コミュニケーション力	●	他者とともに円滑な活動ができるために必要な、基礎的な力を身につける。
			サービスラーニング入門II
			CAR180F

## 授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターが担当する科目です。この講義の目的は、受講生が実際に地域活動に参加し、その実践をふりかえることでより深い学びを得るところにあります。授業では、各学生が自らの参加しているボランティア活動の内容とそこでの学びを報告し、学生同士の議論を通じて、相互の学習を進めていきます。この講義を通じて多くの学びと気づきを得ることを期待します。

## 教科書 /Textbooks

レジメを配布します。  
講義時に適宜紹介します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

講義時に適宜紹介します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス
- 2 活動記録の方法
- 3 報告・ふりかえり・ディスカッション①【グループワーク①】
- 4 報告・ふりかえり・ディスカッション②【グループワーク②】
- 5 報告・ふりかえり・ディスカッション③【グループワーク③】
- 6 報告・ふりかえり・ディスカッション④【プロセスレコード作成】
- 7 報告・ふりかえり・ディスカッション⑤【プロセスレコードの発表】
- 8 報告・ふりかえり・ディスカッション⑥【活動の困りごと、課題の共有化】
- 9 報告・ふりかえり・ディスカッション⑦【課題の解決方法を考える】
- 10 報告・ふりかえり・ディスカッション⑧【体験のカタルシス】
- 11 報告・ふりかえり・ディスカッション⑨【活動報告作成】
- 12 報告・ふりかえり・ディスカッション⑩【活動報告のピアレビュー】
- 13 受講生によるシンポジウム①
- 14 受講生によるシンポジウム②
- 15 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加貢献 ( 50点 ) + 活動報告書 ( 50点 ) = 100点

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

本科目は、実際にボランティア活動に参加している、もしくは参加することを前提としています。  
授業では、実際のボランティア活動に関する自らの経験を報告してもらうことになりますので、受講に当たっては、ボランティアに参加することを念頭に置いてください。

# サービスラーニング入門II【昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
キャリア科目

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この科目は「サービスラーニング入門I」と連動していますので、先に受講することをお勧めします。

## キーワード /Keywords

地域活動、ボランティア、経験を通じた学び、ピアディスカッション



# プロジェクト演習I【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	答えのない課題に対し、多様な人々と共同しながら、主体的・積極的に取り組み、アウトプットを示す力を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	プロジェクト活動を通して、自己を省察し、現在何をすべきかに気づき、自らをコントロールする力を身につける。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	初対面の人でもすぐに打ち解ける力を身につけるために、多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとるスキルを獲得する。
		プロジェクト演習 I	CAR280F

## 授業の概要 /Course Description

<目的> 教室内にとどまらず学内外の様々なプロジェクトにチームで取り組むことで、PDCAサイクルを体験し、チームワークや自己管理能力、創造力、実践力など、将来社会で働く上で必要となる力を体得します。オープンキャンパスのように期間限定のタイプもあれば、キャリアーナのように通年行うタイプもあります。

<演習の進め方> 最初に自己分析を行い、成長させたいかと、その成長プランを作ります。そしてプロジェクトに参加し、最後に最終レポートを提出します。

<期待される効果> 将来のために、学生時代に何か「やり遂げた事実」すなわち達成感を得たい人にとって、かけがえのない経験を得ることができます。また、その経験は自らの将来をイメージするヒントになり、また将来への活動（就職活動など）にもプラスになるでしょう。

※2015年1月現在の、プロジェクト演習Iの対象プロジェクト：オープンキャンパスプロジェクト、キャリアーナ

## 教科書 /Textbooks

特にありません。

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

特にありません。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 目標設定と実施計画策定
- 第2～14回 プロジェクトに取り組めます。
- 第15回 リフレクション・最終レポート作成

## 成績評価の方法 /Assessment Method

参加時間、参加への姿勢、最終レポートでの総合判断となります。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

- ※履修対象者は原則2年次です。
- ※掲示板にて公示されるプロジェクトのみが対象となります。掲示板を確認してから履修登録してください。

# プロジェクト演習I【昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
キャリア科目

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プロジェクトは必ず最後までやり遂げてください。よって期間中は他の課外活動との両立は難しく、また途中でリタイアするとメンバーに迷惑をかけてしまいますので、中途半端な気持ちで参加しないでください。なお、応募者が多いプロジェクトは参加の審査があります。

## キーワード /Keywords

課題解決型学習、プロジェクト型学習、サービス・ラーニング、経験学習、地域活動

# プロジェクト演習II【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標		
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	答えのない課題に対し、多様な人々と共同しながら、主体的・積極的に取り組み、アウトプットを示す力を身につける。	
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	プロジェクト活動を通して、自己を省察し、現在何をすべきかに気づき、自らをコントロールする力を身につける。	
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	初対面の人でもすぐに打ち解ける力を身につけるために、多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとるスキルを獲得する。	
			プロジェクト演習II	CAR281F

## 授業の概要 /Course Description

<目的> 教室内にとどまらず学内外の様々なプロジェクトにチームで取り組むことで、PDCAサイクルを体験し、チームワークや自己管理能力、創造力、実践力など、将来社会で働く上で必要となる力を体得します。オープンキャンパスのように期間限定のタイプもあれば、キャリアーナのように通年行うタイプもあります。

<演習の進め方> 最初に自己分析を行い、成長させたいかと、その成長プランを作ります。そしてプロジェクトに参加し、最後に最終レポートを提出します。

<期待される効果> 将来のために、学生時代に何か「やり遂げた事実」すなわち達成感を得たい人にとって、かけがえのない経験を得ることができます。また、その経験は自らの将来をイメージするヒントになり、また将来への活動（就職活動など）にもプラスになるでしょう。

※2015年1月現在の、プロジェクト演習IIの対象プロジェクト：JOBプロジェクト、キャリアーナ

## 教科書 /Textbooks

特にありません。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

特にありません。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 目標設定と実施計画策定
- 第2～14回 プロジェクトに取り組めます。
- 第15回 リフレクション・最終レポート作成

## 成績評価の方法 /Assessment Method

参加時間、参加への姿勢、最終レポートでの総合判断となります。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

- ※履修対象者は原則2年次です。
- ※掲示板にて公示されるプロジェクトのみが対象となります。掲示板を確認して、2学期の履修登録の修正登録期間に履修登録してください。

# プロジェクト演習II【昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
キャリア科目

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プロジェクトは必ず最後までやり遂げてください。よって期間中は他の課外活動との両立は難しく、また途中でリタイアするとメンバーに迷惑をかけてしまいますので、中途半端な気持ちで参加しないでください。なお、応募者が多いプロジェクトは参加の審査があります。

## キーワード /Keywords

課題解決型学習、プロジェクト型学習、サービス・ラーニング、経験学習、地域活動

# プロジェクト演習Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	答えのない課題に対し、多様な人々と共同しながら、主体的・積極的に取り組み、アウトプットを示す力を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	プロジェクト活動を通して、自己を省察し、現在何をすべきかに気づき、自らをコントロールする力を身につける。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	社会人との交流をヒントに、将来自らが生き生きと働くことができる仕事や業界への見通しをつかみ、大学生活をデザインする力を身につける。
	コミュニケーション力		
		プロジェクト演習Ⅲ CAR380F	

## 授業の概要 /Course Description

<目的> 教室内にとどまらず学内外の様々なプロジェクトにチームで取り組むことで、PDCAサイクルを体験し、チームワークや自己管理能力、創造力、実践力など、将来社会で働く上で必要となる力を体得します。オープンキャンパスのように期間限定のタイプもあれば、キャリアーナのように通年行うタイプもあります。

<演習の進め方> 最初に自己分析を行い、成長させたいかと、その成長プランを作ります。そしてプロジェクトに参加し、最後に最終レポートを提出します。

<期待される効果> 将来のために、学生時代に何か「やり遂げた事実」すなわち達成感を得たい人にとって、かけがえのない経験を得ることができます。また、その経験は自らの将来をイメージするヒントになり、また将来への活動（就職活動など）にもプラスになるでしょう。

※2015年1月現在の、プロジェクト演習Ⅰの対象プロジェクト：オープンキャンパスプロジェクト、キャリアーナ

## 教科書 /Textbooks

特にありません。

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

特にありません。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 目標設定と実施計画策定
- 第2～14回 プロジェクトに取り組めます。
- 第15回 リフレクション・最終レポート作成

## 成績評価の方法 /Assessment Method

参加時間、参加への姿勢、最終レポートでの総合判断となります。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

- ※履修対象者は原則3年次です。
- ※掲示板にて公示されるプロジェクトのみが対象となります。掲示板を確認してから履修登録してください。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プロジェクトは必ず最後までやり遂げてください。よって期間中は他の課外活動との両立は難しく、また途中でリタイアするとメンバーに迷惑をかけてしまいますので、中途半端な気持ちで参加しないでください。なお、応募者が多いプロジェクトは参加の審査があります。

# プロジェクト演習III 【昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
キャリア科目

## キーワード /Keywords

課題解決型学習、プロジェクト型学習、サービス・ラーニング、経験学習、地域活動

# プロジェクト演習Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	答えのない課題に対し、多様な人々と共同しながら、主体的・積極的に取り組み、アウトプットを示す力を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	プロジェクト活動を通して、自己を省察し、現在何をすべきかに気づき、自らをコントロールする力を身につける。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	社会人との交流をヒントに、将来自らが生き生きと働くことができる仕事や業界への見通しをつかみ、大学生活をデザインする力を身につける。
	コミュニケーション力		
		プロジェクト演習Ⅳ	
		CAR381F	

## 授業の概要 /Course Description

<目的> 教室内にとどまらず学内外の様々なプロジェクトにチームで取り組むことで、PDCAサイクルを体験し、チームワークや自己管理能力、創造力、実践力など、将来社会で働く上で必要となる力を体得します。オープンキャンパスのように期間限定のタイプもあれば、キャリアーナのように通年行うタイプもあります。

<演習の進め方> 最初に自己分析を行い、成長させたいかと、その成長プランを作ります。そしてプロジェクトに参加し、最後に最終レポートを提出します。

<期待される効果> 将来のために、学生時代に何か「やり遂げた事実」すなわち達成感を得たい人にとって、かけがえのない経験を得ることができます。また、その経験は自らの将来をイメージするヒントになり、また将来への活動（就職活動など）にもプラスになるでしょう。

※2015年1月現在の、プロジェクト演習IIの対象プロジェクト：JOBプロジェクト、キャリアーナ

## 教科書 /Textbooks

特にありません。

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

特にありません。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 目標設定と実施計画策定
- 第2～14回 プロジェクトに取り組みます。
- 第15回 リフレクション・最終レポート作成

## 成績評価の方法 /Assessment Method

参加時間、参加への姿勢、最終レポートでの総合判断となります。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

- ※履修対象者は原則3年次です。
- ※掲示板にて公示されるプロジェクトのみが対象となります。掲示板を確認して、2学期の履修登録の修正登録期間に履修登録してください。

# プロジェクト演習Ⅳ【昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
キャリア科目

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プロジェクトは必ず最後までやり遂げてください。よって期間中は他の課外活動との両立は難しく、また途中でリタイアするとメンバーに迷惑をかけてしまいますので、中途半端な気持ちで参加しないでください。なお、応募者が多いプロジェクトは参加の審査があります。

## キーワード /Keywords

課題解決型学習、プロジェクト型学習、サービス・ラーニング、経験学習、地域活動



# 教養特講I (北九州市の観光振興) 【昼】

担当者名 /Instructor 北九州市観光協会、基盤教育センター 眞銅和博

履修年次 /Year 1年次  
 単位 /Credits 2単位  
 学期 /Semester 2学期  
 授業形態 /Class Format 講義  
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	設定されたテーマと人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			教養特講 I
			SPL001 F

## 授業の概要 /Course Description

地域経済の活性化策としてどの地域も力を入れている観光振興。  
 本授業では、民間事業者や行政の様々な取組みや観光産業の現状、その他今後の方向性等を学習することによって、地域社会への貢献および観光振興に資する人材の育成を目指すことを目的とする。

## 教科書 /Textbooks

特になし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

北九州市観光情報ファイル『彩遊季』

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：ガイダンス（オリエンテーション）【北九州市立大学】
- 第2回：北九州市の観光産業【北九州市観光協会】
- 第3回：旅行会社からみた観光の現状【JTB九州】
- 第4回：観光客と地元を繋ぐ【法政大学】
- 第5回：門司・小倉の観光地と歴史について【北九州市自然史・歴史博物館】
- 第6回：八幡・若松・戸畑の観光地と歴史について【北九州市立大学】
- 第7回：北九州市の観光動態と施策【北九州市観光・コンベンション課】
- 第8回：産業観光と夜型観光【北九州市観光・コンベンション課】
- 第9回：近代化遺産について【北九州市門司麦酒煉瓦館】
- 第10回：北九州市の主要観光地の視察【観光案内ボランティア】
- 第11回：北九州市の主要観光地の視察【観光案内ボランティア】
- 第12回：北九州市の文学について【北九州市立文学館】
- 第13回：北九州市フィルムコミッションの取組みについて【広報室報道課】
- 第14回：北九州市観光案内ボランティア制度、活動について【観光案内ボランティア、北九州市観光協会】
- 第15回：まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 授業の貢献度：40%
- ・ 理解度確認テスト：30%
- ・ レポート：30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# 教養特講I ( 北九州市の観光振興 ) 【昼】

## 履修上の注意 /Remarks

横断的学習を行うに当たり、グループディスカッションや屋外活動および作業などが課されることもあります。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この講義は北九州市観光協会提供の講義です。近代化遺産や産業観光などの観光振興の推進に力を入れている北九州市の現状について学んでいただきます。将来旅行や観光関係の仕事に就きたいと考えている人や、観光による地域活性化などに興味がある人には最適です。

## キーワード /Keywords

観光振興、人材育成、地域活動、横断的学習

# 教養特講II (ホスピタリティ論) 【昼】

担当者名 /Instructor 西澤 健次 / kenji NISHIZAWA / 経営情報学科, 西澤 律子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	設定されたテーマと人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			教養特講II
			SPL002 F

## 授業の概要 /Course Description

### 【授業の概要】

ホスピタリティという言葉は、昨今、日常用語として定着してきたが、実際にはサービスやおもてなしなどの言葉と同義に使われており、正しい理解を得ていないように思われる。現時点においては、ホスピタリティという言葉が先行して、その意味内容と思想の重要性が説明されていない。人と人との関係をさらに良いものへと変えていこうという考え方ないし思想は、営利団体や非営利団体を問わず、重要度を増しており、理論的側面においても実践面においても、十分に認識される必要がある。地方自治体と住民との関係、企業と顧客の関係といった＜関係性＞を深く考察し、良好な関係作りを模索することは、今後の社会の在り方において重要な示唆を与えてくれる。

### 【授業のねらい】

1. ホスピタリティという言葉が、いかに、サービスや、おもてなしなどの言葉と異なるか、歴史や言葉の起源を辿ることにより固有の意味内容を明らかにする。
2. 現時点において、ホスピタリティについてどのような議論や学説があるか、問題点を整理する。
3. 今後の社会生活において「ホスピタリティ」をどのように活かしていくべきか考察する。

### 【到達目標】

1. ホスピタリティに関する総合的知識を深める。
2. ホスピタリティの視点を持って広く社会生活や企業活動の問題を発見し、より深く分析し解決していく能力を身に付ける。
3. ホスピタリティの理論を学ぶことにより、以後の社会生活の中で実践していく。

## 教科書 /Textbooks

教科書はなし。  
講義の際、レジュメを配布するので、各自保管すること。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

- 「ホスピタリティ・マネジメント原論」 服部勝人著 (丸善株式会社)  
「ホスピタリティ原論」 山本哲士著 (文化科学高等研究院出版局)  
「真実の瞬間」 ヤン・カールソン著 (ダイヤモンド社)

# 教養特講II (ホスピタリティ論) 【昼】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 概要 【ホスピタリティの領域】【授業の進め方】【学習目標】【評価方法】
- 2回 ホスピタリティの歴史と文化 【ホスピタリティとは何か】【西洋のホスピタリティ文化】
- 3回 ホスピタリティとおもてなし 【東洋のホスピタリティ文化】【茶道】【仁】【おもてなし】
- 4回 ホスピタリティとサービスの語源と概念比較【ホスピタリティ】 【サービス】
- 5回 ホスピタリティ産業の現状(その1) 【近年の航空事業の動向】【接客現場】【国際線業務】
- 6回 ホスピタリティと心理1 【EQ】
- 7回 ホスピタリティと心理2 【交流分析】
- 8回 ホスピタリティとコミュニケーション1 【ラポール】【言語非言語】【空間管理】【スマイル】
- 9回 ホスピタリティとコミュニケーション2 【聴き方の基本】【効果的な話し方】【敬意表現】
- 10回 中間のまとめ
- 11回 ホスピタリティとビジネス1 【プロ意識】【身だしなみ】【人間関係】【電話やメール】
- 12回 ホスピタリティとビジネス2 【顧客心理】【クレーム対応】【CS】
- 13回 ホスピタリティ産業の現状(その2) 【宿泊産業におけるホスピタリティ】
- 14回 ホスピタリティと企業1【職場環境】【内部顧客】【メンタルヘルス】【企業の社会的責任】
- 15回 ホスピタリティと企業2【企業の社会貢献】【ホスピタリティの意義と可能性】 【暗黙知と形式知】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の取り組み 【①授業中に行う練習問題の取り組み ②中間のまとめ問題の提出】 50%

期末試験の成績 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

第1回目には、ｼﾞﾊﾞｽを持参のこと。

ホスピタリティを理解し、実践していくことを目的にしています。遅刻・途中退室・私語は慎んで下さい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ホスピタリティの講座は、宿泊産業、旅行業などのホスピタリティ産業に関心がある学生はもちろんのこと、それ以外の業種を考えている学生にとっても、直接的に関わる内容が豊富に含まれています。ホスピタリティの発揮が求められる場合は、学生生活、就職活動、企業での活躍の場、社会生活等無限に広がっていることを知って下さい。講義全体を通して、ホスピタリティの感覚を自然に自分の中に取り込み実践できるように導きます。

## キーワード /Keywords

ホスピタリティ サービス おもてなし EQ 交流分析 暗黙知 コミュニケーション能力

# 教養特講II ( セクシュアル・ ライツ ) 【昼】

担当者名 /Instructor 河嶋 静代 / KAWASHIMA SHIZUYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	設定されたテーマと人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
教養特講II			
SPL002 F			

## 授業の概要 /Course Description

性と人権は深く結び付いている。セクシュアル・ライツはあらゆる人間が生まれながらにして有する自由、尊厳、平等にもとづく普遍的権利である。21世紀に切り拓かれる人権の領域である。  
 本授業では性に関する多様なテーマについて取り上げながら、広く性と人権について考察していく。セクシュアル・ライツについて学ぶことで、自分や人を大切にできる意識や感性を醸成し、性的自己決定能力を向上させていくことがねらいである。  
 具体的には、セクシュアル・ハラスメントやデートDVの予防など、相互尊重のコミュニケーションやソーシャルスキルの習得できるように、ロールプレイなど一部体験学習を織り交ぜながら授業を進めていく。  
 本学教員と外部講師とによるオムニバス形式での授業を行う。

## 教科書 /Textbooks

特になし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業中に配布するプリントに記載

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、セクシュアル・ライツとは 【ジェンダー】 【セクシュアリティ】
- 2回 ジェンダーチェック 【ジェンダー・バイアス】
- 3回 性の多様性とセクシュアル・マイノリティ 【性自認】 【性的指向】 【性の二元化】
- 4回 トランスジェンダー 【性同一性障害】 【性別違和】
- 5回 性的自立とリアリティ・ヘルス / ライツ 【性的自己決定】 【母体保護法】 【人工中絶と優生思想】
- 6回 障害者と性 【ADL・QOL】 【性のケアと看護】
- 7回 セクシュアル・ハラスメント 【パワー・ハラスメント】 【アカデミック・ハラスメント】 【ホスピタル・ハラスメント】 【実習ハラスメント】
- 8回 デートDVの予防 【自尊感情】 【アサーション・トレーニング】
- 9回 性暴力とトラウマ 【PTSD】 【少年の性被害】 【強姦神話】
- 10回 トラウマの影響（「漂流少女」の事例を通して） 【二次被害】 【性依存】 【危機介入】
- 11回 性暴力裁判に見る二重基準（売春婦と主婦のケースから） 【フェミニスト・カウンセリング】
- 12回 メディアと性表現、性の商品化 【風俗営業法】 【児童買春・児童ポルノ禁止法】
- 13回 日本における公娼制度と売春の歴史 【からゆきさん】 【売春防止法】 【婦人保護施設】
- 14回 世界の売買春をめぐる動向 【セックスワーク】 【売春の合法化】 【性的自己決定】
- 15回 これまでの振り返り

## 教養特講II ( セクシュアル・ ライツ ) 【昼】

### 成績評価の方法 /Assessment Method

平常点40%、課題60%

### 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

### 履修上の注意 /Remarks

特になし

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

### キーワード /Keywords

# 教養特講Ⅲ ( まなびと講座 A ) 【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次  
 単位 /Credits 2単位  
 学期 /Semester 1学期  
 授業形態 /Class Format 講義  
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	設定されたテーマと人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力 社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			教養特講Ⅲ
			SPL003 F

## 授業の概要 /Course Description

本授業では、ESD（持続可能な発展のための教育）に必要な、様々な分野の領域を横断的に学習することによって、持続可能な社会を構築するための能力を育成することを目的とします。  
 また、地域活動に必要な素養を身につけることも一つの狙いです。  
 この講義は、大学間連携共同教育推進事業の一環で開設した「北九州まなびとESDステーション」で開講され、北九州市内の各大学の様々な分野の教員も担当します。また、各大学からの受講生と一緒に学びます。

## 教科書 /Textbooks

特になし

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

特になし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1日 5月17日(日)  
 ～多様な価値観を感じる～【自分】
- 第2日 5月31日(日)  
 ～地球は小さく偉い～【グローバル】
- 第3日 6月7日(日)  
 ～みんなが住みやすい社会～【ローカル】
- 第4日 6月21日(日)  
 ～「食べる」から自分を考える～【自分】
- 第5日 7月5日(日)  
 ～微力だけど無力ではない私たちが考える「素敵な未来に向けての第一歩」～【アクション】
- ※各日程ともに10:30～16:00(休憩含む)で開講されます

## 成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 授業への貢献度：60%
- ・ 授業における成果物：40%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 教養特講Ⅲ ( まなびと講座 A ) 【昼】

### 履修上の注意 /Remarks

- ・ 本授業は、「まなびとESDステーション ( 小倉北区の魚町商店街内 ) 」等にて開講されます。
- ・ 基本的に土曜日や日曜日の10:30～16:00(休憩含む)で開講されます。
- ・ 横断的学習を行うに当たり、グループディスカッションや屋外活動および作業などが課されることもあります。

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

持続可能な社会を構築するためには、特定の分野のみの知識の習得だけでは限界があります。環境・福祉・生活学・国際理解等、様々な学問分野を横断的に学習する必要があります。本授業はESDに必要な素養を身につけるための基礎講座と位置づけられます。

### キーワード /Keywords

ESD、大学間連携事業、地域活動、横断的学習



# 教養特講Ⅳ ( まなびと講座B ) 【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次  
 単位 /Credits 2単位  
 学期 /Semester 2学期  
 授業形態 /Class Format 講義  
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	設定されたテーマと人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
		教養特講Ⅳ	
		SPL004F	

## 授業の概要 /Course Description

本授業では、ESD（持続可能な発展のための教育）に必要な、様々な分野の領域を横断的に学習することによって、持続可能な社会を構築するための能力を育成することを目的とする。  
 また、地域活動に必要な素養を身につけることも一つの狙いである。  
 この講義は、大学間連携共同教育推進事業の一環で開設した「北九州まなびとESDステーション」で開講され、北九州市内の各大学の様々な分野の教員も担当する。

## 教科書 /Textbooks

特になし

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

特になし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1日目（第1回～第3回）
  - ・ ESDとは何か？（オリエンテーション）、学びに対する目標設定等
- 2日目（第4回～第6回）
  - ・ ESDとテーマ①
- 3日目（第7回～第9回）
  - ・ ESDとテーマ②
- 4日目（第10回～第12回）
  - ・ ESDとテーマ③
- 5日目（第13回～第15回）
  - ・ 学びの成果共有ワークショップ

※講義の詳細が決定次第お知らせします。

### 【2014年度実績】

- 1日目（第1回～第3回）
  - ・ ESDとは何か？（オリエンテーション）、学びに対する目標設定等 - 九州工業大学提供
- 2日目（第4回～第6回）
  - ・ 国際理解 - 北九州市立大学提供
- 3日目（第7回～第9回）
  - ・ 誰もが住みやすい社会のデザイン - 西日本工業大学提供
- 4日目（第10回～第12回）
  - ・ 生物多様性から生命を学ぶ - 九州共立大学提供
- 5日目（第13回～第15回）
  - ・ 微力だけど無力ではない。私たちが考える素敵な未来 - 北九州市立大学提供

# 教養特講Ⅳ ( まなびと講座 B ) 【昼】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 授業への貢献度：60%
- ・ 授業における成果物：40%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

- ・ 本授業は、「まなびとESDステーション(小倉北区の魚町商店街内)」等にて開講されます。
- ・ 基本的に土曜日や日曜日の10:30～16:00(休憩含む)で開講されます。
- ・ 横断的学習を行うに当たり、グループディスカッションや屋外活動および作業などが課されることもあります。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

持続可能な社会を構築するためには、特定の分野のみの知識の習得だけでは限界があります。環境・福祉・生活・次世代教育(子供)・生活学・国際理解等、様々な学問分野を横断的に学習する必要があります。本授業はESDに必要な素養を身につけるための基礎講座と位置づけられます。詳細は別途告知します。

## キーワード /Keywords

ESD、大学間連携事業、地域活動、横断的学習

# データ処理【昼】

担当者名 /Instructor 岩田 一男 / KAZUO IWATA / 情報総合センター

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英 1 - 1 . 英 1 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	コンピュータやインターネットを活用するための基礎的な技能を身につけている。
	数量的スキル	●	コンピュータを使った基礎的なデータの処理技法を身につけている。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	情報社会を生きる責任感と倫理観を自覚する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
		データ処理	INF101F

## 授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要である。この授業では、コンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習する。具体的には、以下のような知識や技術を習得する：

- タイピングの基礎
- 表計算ソフトを使った表作成、グラフ作成の基礎
- 様々なデータを目的に沿って処理・分析するための数量的スキルの基礎
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎

## 教科書 /Textbooks

「情報利活用 表計算 Excel 2013/2010対応」 日経BP社

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境について【ID】【パスワード】【ポータルサイト】
- 2回 正確な文字入力と電子メールの送受信方法【タイピング】【電子メール】
- 3回 ネットワークの光と影1【情報倫理】【セキュリティ】
- 4回 ネットワークの光と影2【著作権】【個人情報保護】
- 5回 表作成の基本操作【セル】【書式】【罫線】【数式】【合計】
- 6回 見やすい表の作成【列幅】【結合】【ページレイアウト】【印刷】
- 7回 関数を活用した集計表【セルの参照】【平均】
- 8回 グラフ作成の基礎【グラフ】
- 9回 グラフ作成の応用【目的に合ったグラフ】【複合グラフ】
- 10回 表・グラフ作成演習
- 11回 データ処理の基礎【散布図】【相関】
- 12回 データ処理演習1【データ処理の計画】
- 13回 データ処理演習2【データ処理の実践】
- 14回 データ処理演習3【データ処理手法の見直し】
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50%、  
積極的な授業参加（タイピング、電子メール送受信、情報倫理の理解等を含む） ... 50%

# データ処理 【昼】

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

コンピュータの基本的な操作（キーボードでの文字入力、マウス操作など）ができるようになっておく受講しやすい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実際にコンピュータを操作しながら学習するため、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切である。予習と復習を欠かさず行って欲しい。また、授業の進度や情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」を変更することがある。その際には、授業中に説明する。

## キーワード /Keywords

表計算ソフト、タイピング、電子メール、情報倫理

# データ処理【昼】

担当者名 /Instructor 山田 寛 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 英 1 - 3 . 英 1 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	コンピュータやインターネットを活用するための基礎的な技能を身につけている。
	数量的スキル	●	コンピュータを使った基礎的なデータの処理技法を身につけている。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	情報社会を生きる責任感と倫理観を自覚する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
		データ処理	INF101F

## 授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要である。この授業では、コンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習する。具体的には、以下のような知識や技術を習得する：

- タイピングの基礎
- 表計算ソフトを使った表作成、グラフ作成の基礎
- 様々なデータを目的に沿って処理・分析するための数量的スキルの基礎
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎

## 教科書 /Textbooks

「情報利活用 表計算 Excel 2013/2010対応」 日経BP社

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境について【ID】【パスワード】【ポータルサイト】
- 2回 正確な文字入力と電子メールの送受信方法【タイピング】【電子メール】
- 3回 ネットワークの光と影1【情報倫理】【セキュリティ】
- 4回 ネットワークの光と影2【著作権】【個人情報保護】
- 5回 表作成の基本操作【セル】【書式】【罫線】【数式】【合計】
- 6回 見やすい表の作成【列幅】【結合】【ページレイアウト】【印刷】
- 7回 関数を活用した集計表【セルの参照】【平均】
- 8回 グラフ作成の基礎【グラフ】
- 9回 グラフ作成の応用【目的に合ったグラフ】【複合グラフ】
- 10回 表・グラフ作成演習
- 11回 データ処理の基礎【散布図】【相関】
- 12回 データ処理演習1【データ処理の計画】
- 13回 データ処理演習2【データ処理の実践】
- 14回 データ処理演習3【データ処理手法の見直し】
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50%、  
積極的な授業参加（タイピング、電子メール送受信、情報倫理の理解等を含む） ... 50%

# データ処理 【昼】

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

コンピュータの基本的な操作（キーボードでの文字入力、マウス操作など）ができるようになっておく受講しやすい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実際にコンピュータを操作しながら学習するため、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切である。予習と復習を欠かさず行って欲しい。また、授業の進度や情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」を変更することがある。その際には、授業中に説明する。

## キーワード /Keywords

表計算ソフト、タイピング、電子メール、情報倫理

# データ処理【昼】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次  
 単位 /Credits 2単位  
 学期 /Semester 1学期  
 授業形態 /Class Format 講義  
 クラス /Class 人1 - 1 . 再履 (人1 - 1 , 英1 - 1 , 英1 - 2 )

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	コンピュータやインターネットを活用するための基礎的な技能を身につけている。
	数量的スキル	●	コンピュータを使った基礎的なデータの処理技法を身につけている。
	英語力		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	情報社会を生きる責任感と倫理観を自覚する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
		データ処理	INF101F

## 授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要である。この授業では、コンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習する。具体的には、以下のような知識や技術を習得する：

- タイピングの基礎
- 表計算ソフトを使った表作成、グラフ作成の基礎
- 様々なデータを目的に沿って処理・分析するための数量的スキルの基礎
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎

## 教科書 /Textbooks

「情報利活用 表計算 Excel 2013/2010対応」日経BP社

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境について【ID】【パスワード】【ポータルサイト】
- 2回 正確な文字入力と電子メールの送受信方法【タイピング】【電子メール】
- 3回 ネットワークの光と影1【情報倫理】【セキュリティ】
- 4回 ネットワークの光と影2【著作権】【個人情報保護】
- 5回 表作成の基本操作【セル】【書式】【罫線】【数式】【合計】
- 6回 見やすい表の作成【列幅】【結合】【ページレイアウト】【印刷】
- 7回 関数を活用した集計表【セルの参照】【平均】
- 8回 グラフ作成の基礎【グラフ】
- 9回 グラフ作成の応用【目的に合ったグラフ】【複合グラフ】
- 10回 表・グラフ作成演習
- 11回 データ処理の基礎【散布図】【相関】
- 12回 データ処理演習1【データ処理の計画】
- 13回 データ処理演習2【データ処理の実践】
- 14回 データ処理演習3【データ処理手法の見直し】
- 15回 まとめ

# データ処理【昼】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50%、  
積極的な授業参加 ( タイピング、電子メール送受信、情報倫理の理解等を含む ) ... 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

コンピュータの基本的な操作 ( キーボードでの文字入力、マウス操作など ) ができるようになっておく受講しやすい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実際にコンピュータを操作しながら学習するため、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切である。予習と復習を欠かさず行って欲しい。また、授業の進度や情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」を変更することがある。その際には、授業中に説明する。

## キーワード /Keywords

表計算ソフト、タイピング、電子メール、情報倫理



# データ処理【昼】

担当者名 /Instructor 棚次 奎介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 人1 - 2 , 再履 ( 人1 - 2 , 英1 - 3 , 英1 - 4 )

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	コンピュータやインターネットを活用するための基礎的な技能を身につけている。
	数量的スキル	●	コンピュータを使った基礎的なデータの処理技法を身につけている。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観	●	情報社会を生きる責任感と倫理観を自覚する。
	生涯学習力 コミュニケーション力		
		データ処理	INF101F

## 授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要である。この授業では、コンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習する。具体的には、以下のような知識や技術を習得する：

- タイピングの基礎
- 表計算ソフトを使った表作成、グラフ作成の基礎
- 様々なデータを目的に沿って処理・分析するための数量的スキルの基礎
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎

## 教科書 /Textbooks

「情報利活用 表計算 Excel 2013/2010対応」日経BP社

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境について【ID】【パスワード】【ポータルサイト】
- 2回 正確な文字入力と電子メールの送受信方法【タイピング】【電子メール】
- 3回 ネットワークの光と影1【情報倫理】【セキュリティ】
- 4回 ネットワークの光と影2【著作権】【個人情報保護】
- 5回 表作成の基本操作【セル】【書式】【罫線】【数式】【合計】
- 6回 見やすい表の作成【列幅】【結合】【ページレイアウト】【印刷】
- 7回 関数を活用した集計表【セルの参照】【平均】
- 8回 グラフ作成の基礎【グラフ】
- 9回 グラフ作成の応用【目的に合ったグラフ】【複合グラフ】
- 10回 表・グラフ作成演習
- 11回 データ処理の基礎【散布図】【相関】
- 12回 データ処理演習1【データ処理の計画】
- 13回 データ処理演習2【データ処理の実践】
- 14回 データ処理演習3【データ処理手法の見直し】
- 15回 まとめ

# データ処理【昼】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50%、  
積極的な授業参加 ( タイピング、電子メール送受信、情報倫理の理解等を含む ) ... 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

コンピュータの基本的な操作 ( キーボードでの文字入力、マウス操作など ) ができるようになっておく受講しやすい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実際にコンピュータを操作しながら学習するため、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切である。予習と復習を欠かさず行って欲しい。また、授業の進度や情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」を変更することがある。その際には、授業中に説明する。

## キーワード /Keywords

表計算ソフト、タイピング、電子メール、情報倫理

# データ処理【昼】

担当者名  
/Instructor

浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1学期未修得者再履  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class 履

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	コンピュータやインターネットを活用するための基礎的な技能を身につけている。
	数量的スキル	●	コンピュータを使った基礎的なデータの処理技法を身につけている。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	情報社会を生きる責任感と倫理観を自覚する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
		データ処理	INF101F

## 授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要である。この授業では、コンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習する。具体的には、以下のような知識や技術を習得する：

- タイピングの基礎
- 表計算ソフトを使った表作成、グラフ作成の基礎
- 様々なデータを目的に沿って処理・分析するための数量的スキルの基礎
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎

## 教科書 /Textbooks

「情報利活用 表計算 Excel 2013/2010対応」 日経BP社

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境について【ID】【パスワード】【ポータルサイト】
- 2回 正確な文字入力と電子メールの送受信方法【タイピング】【電子メール】
- 3回 ネットワークの光と影1【情報倫理】【セキュリティ】
- 4回 ネットワークの光と影2【著作権】【個人情報保護】
- 5回 表作成の基本操作【セル】【書式】【罫線】【数式】【合計】
- 6回 見やすい表の作成【列幅】【結合】【ページレイアウト】【印刷】
- 7回 関数を活用した集計表【セルの参照】【平均】
- 8回 グラフ作成の基礎【グラフ】
- 9回 グラフ作成の応用【目的に合ったグラフ】【複合グラフ】
- 10回 表・グラフ作成演習
- 11回 データ処理の基礎【散布図】【相関】
- 12回 データ処理演習1【データ処理の計画】
- 13回 データ処理演習2【データ処理の実践】
- 14回 データ処理演習3【データ処理手法の見直し】
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50%、  
積極的な授業参加（タイピング、電子メール送受信、情報倫理の理解等を含む） ... 50%

# データ処理 【昼】

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

コンピュータの基本的な操作（キーボードでの文字入力、マウス操作など）ができるようになっておく受講しやすい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実際にコンピュータを操作しながら学習するため、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切である。予習と復習を欠かさず行って欲しい。また、授業の進度や情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」を変更することがある。その際には、授業中に説明する。

## キーワード /Keywords

表計算ソフト、タイピング、電子メール、情報倫理

# 情報表現【昼】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	情報の収集、加工、発信の各段階において、情報システムを適切に活用する技能を身につけている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	収集した情報についての総合的な考察をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協調しながら協同学習を進め、相互理解を深めることの重要性を理解する。
		情報表現	INF230F

## 授業の概要 /Course Description

この授業では、情報収集、情報加工、情報発信の一連の過程を通じて、「見せる情報」と「聞かせる情報」それぞれに必要な能力を磨く。具体的には、以下のような項目を身につける：

- インターネットを利用したデータ収集、情報の信頼性の基礎
- 表計算ソフトやプレゼンテーションソフトを利用したデータの可視化手法
- データの分析を通じた課題発見と論理的な思考のアウトプット手法
- グループ活動を通じた他者とのコミュニケーション能力

前半は個人的な能力の養成、後半はグループ活動を通じたコミュニケーション能力の養成を目指す。

## 教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コンピュータを用いた情報表現【ガイダンス】
- 2回 データの収集【検索エンジン】【情報の信頼性】
- 3回 データの加工【表計算の復習】【グラフ】【チャート】
- 4回 データの表現【レイアウト】【デザイン】
- 5回 論理的な思考法の基礎 1【課題発見】
- 6回 論理的な思考法の基礎 2【原因分析】【解決手段検討】
- 7回 プレゼンテーション作成演習
- 8回 個人発表
- 9回 個人発表とふりかえり
- 10回 グループによる発表テーマ設定
- 11回 グループによるスライド作成演習
- 12回 発表配布資料作成演習
- 13回 グループによる発表
- 14回 グループによる発表と相互評価
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題... 90%、積極的な授業参加... 10%

## 情報表現【昼】

### 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

### 履修上の注意 /Remarks

「データ処理」を受講してコンピュータの操作にある程度慣れておくと受講しやすくなる。また、授業中に作成したデータの保存用にUSBメモリを持参してもらいたい。  
情報処理教室のコンピュータ台数に制限があるため、受講者数調整を行うことがある。

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

よく分からないことがある場合は、随時、質問して欲しい。また、この授業ではグループによる協同学習を導入している。グループのメンバーで互いに協力して学習課題を進めるよう心がけて欲しい。

### キーワード /Keywords

プレゼンテーション、ロジカルシンキング、マルチメディア、スライドデザイン

# 情報表現【昼】

担当者名 /Instructor 棚次 奎介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	情報の収集、加工、発信の各段階において、情報システムを適切に活用する技能を身に付けている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	収集した情報についての総合的な考察をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協調しながら協同学習を進め、相互理解を深めることの重要性を理解する。
		情報表現	INF230F

## 授業の概要 /Course Description

この授業では、情報収集、情報加工、情報発信の一連の過程を通じて、「見せる情報」と「聞かせる情報」それぞれに必要な能力を磨く。具体的には、以下のような項目を身につける：

- インターネットを利用したデータ収集、情報の信頼性の基礎
- 表計算ソフトやプレゼンテーションソフトを利用したデータの可視化手法
- データの分析を通じた課題発見と論理的な思考のアウトプット手法
- グループ活動を通じた他者とのコミュニケーション能力

前半は個人的な能力の養成、後半はグループ活動を通じたコミュニケーション能力の養成を目指す。

## 教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コンピュータを用いた情報表現【ガイダンス】
- 2回 データの収集【検索エンジン】【情報の信頼性】
- 3回 データの加工【表計算の復習】【グラフ】【チャート】
- 4回 データの表現【レイアウト】【デザイン】
- 5回 論理的な思考法の基礎 1【課題発見】
- 6回 論理的な思考法の基礎 2【原因分析】【解決手段検討】
- 7回 プレゼンテーション作成演習
- 8回 個人発表
- 9回 個人発表とふりかえり
- 10回 グループによる発表テーマ設定
- 11回 グループによるスライド作成演習
- 12回 発表配布資料作成演習
- 13回 グループによる発表
- 14回 グループによる発表と相互評価
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題... 90%、積極的な授業参加... 10%

## 情報表現【昼】

### 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

### 履修上の注意 /Remarks

「データ処理」を受講してコンピュータの操作にある程度慣れておくと受講しやすくなる。また、授業中に作成したデータの保存用にUSBメモリを持参してもらいたい。  
情報処理教室のコンピュータ台数に制限があるため、受講者数調整を行うことがある。

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

よく分からないことがある場合は、随時、質問して欲しい。また、この授業ではグループによる協同学習を導入している。グループのメンバーで互いに協力して学習課題を進めるよう心がけて欲しい。

### キーワード /Keywords

プレゼンテーション、ロジカルシンキング、マルチメディア、スライドデザイン



# 情報表現【昼】

担当者名 /Instructor 浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	情報の収集、加工、発信の各段階において、情報システムを適切に活用する技能を身に付けている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	収集した情報についての総合的な考察をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協調しながら協同学習を進め、相互理解を深めることの重要性を理解する。
			情報表現
			INF230F

## 授業の概要 /Course Description

この授業では、情報収集、情報加工、情報発信の一連の過程を通じて、「見せる情報」と「聞かせる情報」それぞれに必要な能力を磨く。具体的には、以下のような項目を身につける：

- インターネットを利用したデータ収集、情報の信頼性の基礎
- 表計算ソフトやプレゼンテーションソフトを利用したデータの可視化手法
- データの分析を通じた課題発見と論理的な思考のアウトプット手法
- グループ活動を通じた他者とのコミュニケーション能力

前半は個人的な能力の養成、後半はグループ活動を通じたコミュニケーション能力の養成を目指す。

## 教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コンピュータを用いた情報表現【ガイダンス】
- 2回 データの収集【検索エンジン】【情報の信頼性】
- 3回 データの加工【表計算の復習】【グラフ】【チャート】
- 4回 データの表現【レイアウト】【デザイン】
- 5回 論理的な思考法の基礎 1【課題発見】
- 6回 論理的な思考法の基礎 2【原因分析】【解決手段検討】
- 7回 プレゼンテーション作成演習
- 8回 個人発表
- 9回 個人発表とふりかえり
- 10回 グループによる発表テーマ設定
- 11回 グループによるスライド作成演習
- 12回 発表配布資料作成演習
- 13回 グループによる発表
- 14回 グループによる発表と相互評価
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題... 90%、積極的な授業参加... 10%

## 情報表現【昼】

### 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

### 履修上の注意 /Remarks

「データ処理」を受講してコンピュータの操作にある程度慣れておくと受講しやすくなる。また、授業中に作成したデータの保存用にUSBメモリを持参してもらいたい。  
情報処理教室のコンピュータ台数に制限があるため、受講者数調整を行うことがある。

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

よく分からないことがある場合は、随時、質問して欲しい。また、この授業ではグループによる協同学習を導入している。グループのメンバーで互いに協力して学習課題を進めるよう心がけて欲しい。

### キーワード /Keywords

プレゼンテーション、ロジカルシンキング、マルチメディア、スライドデザイン

# 情報メディア演習【昼】

担当者名 /Instructor 浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 3年  
 単位 /Credits 2単位  
 学期 /Semester 2学期  
 授業形態 /Class Format 演習  
 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と情報社会との関係性を総合的に理解し、21世紀の市民として必要な教養を身につけている。
技能	情報リテラシー	●	書籍やインターネット、新聞・雑誌、テレビ・ラジオといったメディアの特性を理解し、そこから得た情報を活用する技能を身につけている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	直面する課題を発見し、分析・解決・表現を自立的に行った結果に対して、省察を行うことができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	情報社会における課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			情報メディア演習
			INF330F

## 授業の概要 /Course Description

本授業のねらいは、情報を伝達する媒介・媒質としての情報メディアの特性を概観し、情報メディアが人間に与える影響について考える力を身に付けることである。現代の情報社会では、様々な情報メディアが存在する。それらの情報メディアを通じて、情報が正確に伝わり、有効に活用される場合はよいが、逆に、誤って伝わったり、有害になったりする場合もある。様々な情報メディアの特性を十分に理解した上で、それらを受け入れ、不要・過剰な情報を制限し、有効活用し、効果的な情報を新しくつくるのが大切である。そのことを踏まえて、本授業では、以下のような項目について学ぶ。

- 様々な情報メディアの特性に関する知識
- 情報メディアが人間の心理や認知、学習に与える影響（情報受信）
- 効果的な情報発信の方法（情報発信）
- 情報メディアの有効活用の方法（情報活用）
- 様々な情報メディアの課題点と解決策

本授業では、チューター方式を用いる。すなわち、受講学生が与えられたテーマについて事前に調べ、その内容を授業の中の一部で発表・問題提起する方式である。発表・問題提起された内容を中心に、教員と受講学生とが議論を深めていく。また、場合によっては、グループを組んでひとつのテーマに取り組んでもらう。

## 教科書 /Textbooks

坂元昂 監修、高橋秀明、山本博樹 編著：メディア心理学入門、学文社、2002年、2,592円。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし。

# 情報メディア演習【昼】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目：情報メディアとは何か 【ガイドンス】【情報メディア】
- 2回目：情報メディアと人間の心理 【情報発信】【情報受信】
- 3回目：情報メディアとしての絵本・紙芝居 【知的発達】【情緒的発達】
- 4回目：情報メディアとしてのマンガ 【文字と絵】【記号】【コマ割り】
- 5回目：議論1：絵本・紙芝居・マンガが人間の心理に与える影響
- 6回目：映像の理解と心理 【映像技法】
- 7回目：分かりやすい映像のデザイン 【つくるリテラシー】【映像表現】【撮影・編集技術】
- 8回目：インターネットと映像 【動画投稿サイト】
- 8回目：議論2：映像が人間の心理に与える影響
- 9回目：電話・テレビ電話とコミュニケーション 【情報伝達】【認知過程】
- 10回目：インターネットとコミュニケーション 【ミニブログ】【SNS】
- 11回目：議論3：情報メディアの違いがコミュニケーションに与える影響
- 12回目：情報メディアと感性 【感性工学】
- 13回目：使いやすいデザインと面白いデザイン 【エモーショナル・デザイン】
- 14回目：問題提起4：デザインが人間の心理に与える影響
- 15回目：まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

レポート・・・50%、日常の授業に対する積極的な取り組み・・・40%、授業中に実施するグループワーク課題・・・10%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

「情報表現」を先に受講して、情報収集、情報加工、情報発信に関する知識や技術について学んでいると受講しやすい。  
「情報社会への招待」や「情報社会を読む」を先に受講して、情報社会に関連する知識や技術、情報社会の未来に関する内容をある程度把握していると受講しやすい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

チューター方式で授業を行うので、与えられたテーマについては授業時間外を含めて、積極的に学習してもらいたい。分からないところがある場合は、積極的に質問してもらいたい。  
また、受講者数が多数の場合は、受講者数調整を行う場合もある。

## キーワード /Keywords

情報メディアと人間、コミュニケーション、認知、感性

# 英語I ( 英 1 - A ) 【昼】

担当者名 /Instructor 吉川 哲郎 / KIKKAWA TETSUROU / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英 1 - A /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語 I	ENG101F

## 授業の概要 /Course Description

TOEIC受験を自明のこととして、英語のリスニング力とリーディング力を強化することがこの授業のねらいです。映画を教材として、ナチュラルな英語のリスニング力を伸ばし、迅速に内容把握ができるように努めます。

## 教科書 /Textbooks

プリントを使用します。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

特になし。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入
- 2回 ユニット1
- 3回 ユニット2
- 4回 ユニット3
- 5回 ユニット4
- 6回 ユニット5
- 7回 ユニット6
- 8回 ユニット7
- 9回 ユニット8
- 10回 ユニット9
- 11回 ユニット10
- 12回 ユニット11
- 13回 ユニット12
- 14回 ユニット13
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

発表内容・・・ 20% 期末試験・・・ 80%

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

必ず予習をしてください。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

欠席の扱いは、大学の規定通りとします。

リスニング力とリーディング力をつけるように頑張ってください。

## キーワード /Keywords

【リスニング力】 【リーディング力】

# 英語I ( 英 1 - B ) 【昼】

担当者名 /Instructor 北峯 裕士 / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語 I	ENG101F

## 授業の概要 /Course Description

英文を読む。

## 教科書 /Textbooks

プリント配布。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

辞書携帯のこと。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目 ガイダンス
- 1回目～14回目 範囲を割り当てて英文の輪読及び要約発表。
- 15回目 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

試験50パーセント、発表50パーセント。  
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

予習。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 英語I ( 英 1 - C ) 【昼】

担当者名 /Instructor 松田 智 / Matsuda, Satoshi / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英 1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語 I	ENG101F

## 授業の概要 /Course Description

The objective of the course are:(1) to help you develop an understanding of basic English that is used in the office , and (2) to help you develop your business writing and listening in English.

## 教科書 /Textbooks

Business Talk Edward J. Schaefer Seibido

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

英文通信のすべて 奥平 光 研究社

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

week 1 Job Hunting (1) -(2)  
week 2 Job Hunting (3)-(4)  
week 3 Job offer  
week 4 The first day at work  
week 5 Preparing to work  
week 6 Telephoning (1)-(2)  
week 7 Telephoning (3)  
week 8 Visiting a client  
week 9 Receiving a visitor (1)-(2)  
week 10 Receiving a visitor (3)-(4)  
week 11 Receiving a visitor (5)  
week 12 Working for an International Exhibition  
week 13 Preparing for the first overseas trip  
week 14 The First Oversea Business trip (1)-(2)  
week 15 The First Oversea Business trip (3)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

(1)Class participation 20%  
(2)Writing 40%  
(3)Class quizzes 40%  
(1) refers to three characteristics of a student's behavior in the class:  
-PREPARE: how well a student does assigned reading, listening;  
-ATTENTIVE: how well a student pays attention to in-class discussions and responds to instructor's questions;  
-ATTENDANCE: if you miss a class, 2 points will be deducted from your total score in class participation component.

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review



# 英語I ( 英 1 - C ) 【昼】

基盤教育科目  
外国語教育科目  
第一外国語

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 英語I ( 英 1 - D ) 【昼】

担当者名 /Instructor 船方 浩子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英 1 - D /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー 数量的スキル		
	英語力 ●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力 ●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
		英語 I	ENG101F

## 授業の概要 /Course Description

TOEIC対策用テキストを用いての問題演習及び問題解説。  
TOEICのスコアアップとともに実践的な英語力、コミュニケーション能力の向上を目標とする。

## 教科書 /Textbooks

“Overall Skills for the TOEIC Test” 『TOEICテスト総合スキル演習』  
(石井隆之共著) 成美堂 ¥2,200 + 税  
単語プリントは配布。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス、単語演習
- 2回 Unit 1 Restaurant、動詞①：現在形と過去形・進行形
- 3回 Unit 2 Hotel、動詞②：未来時制・完了時制
- 4回 Unit 3 Shopping、動詞③：受動態
- 5回 Unit 4 Financing、動詞④：使役
- 6回 Unit 5 Hospital、助動詞①：can, may, must
- 7回 Unit 6 Airport、助動詞②：仮定法
- 8回 Unit 7 Transportation、準動詞①：不定詞と動名詞
- 9回 Unit 8 Sightseeing、準動詞②：現在分詞と過去分詞
- 10回 Unit 9 Office Issues、形容詞と副詞
- 11回 Unit 10 Business、冠詞と名詞
- 12回 Unit 11 Sports Events、前置詞
- 13回 Unit 12 Computers、接続詞
- 14回 Unit 13 Personnel、関係詞
- 15回 Unit 14 Hiring and Training、話法と時制の一致

## 成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験：70%、日常の授業への取り組み（小テスト、宿題含む）：30%  
ただし最終評価にはTOEICのスコアが反映されますので、初回の授業で文書を配布して説明します。

# 英語I ( 英 1-D ) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

次回授業のUnitは宿題として必ずやってくる。また、配布したプリントを覚えてくること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 英語II ( 英 1 - A ) 【昼】

担当者名 /Instructor 松田 智 / Matsuda, Satoshi / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英 1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語II	ENG111F

## 授業の概要 /Course Description

The objective of the course are:(1) to help you develop an understanding of basic English that is used in the office , and (2) to help you develop your business writing and listening in English.

## 教科書 /Textbooks

Business Talk Edward J. Schaefer Seibido

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

英文通信のすべて 奥平 光 研究社

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

week 1 Job Hunting (1) -(2)  
week 2 Job Hunting (3)-(4)  
week 3 Job offer  
week 4 The first day at work  
week 5 Preparing to work  
week 6 Telephoning (1)-(2)  
week 7 Telephoning (3)  
week 8 Visiting a client  
week 9 Receiving a visitor (1)-(2)  
week 10 Receiving a visitor (3)-(4)  
week 11 Receiving a visitor (5)  
week 12 Working for an International Exhibition  
week 13 Job application  
week 14 Writing resume  
week 15 job Interview

## 成績評価の方法 /Assessment Method

(1)Class participation 20%  
(2)Writing 40%  
(3)Class quizzes 40%  
(1) refers to three characteristics of a student's behavior in the class:  
-PREPARE: how well a student does assigned reading, listening;  
-ATTENTIVE: how well a student pays attention to in-class discussions and responds to instructor's questions;  
-ATTENDANCE: if you miss a class, 2 points will be deducted from your total score in class participation component.

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# 英語II ( 英 1 - A ) 【昼】

基盤教育科目  
外国語教育科目  
第一外国語

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 英語II ( 英 1 - B ) 【昼】

担当者名 /Instructor 木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語II	ENG111F

## 授業の概要 /Course Description

TOEIC受験に必要なリスニング・リーディング能力を高めることに焦点を当て、英語力アップを目指します。ニュース映像を扱ったDVD教材を用いて語彙・表現、リスニング、リーディング等の練習をし、総合的なコミュニケーション能力を高めることを目標とします。

## 教科書 /Textbooks

Nobuhiro Kumai & Stephen Timson著 (2015). 『CBS NewsBreak 2』成美堂.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

### 授業スケジュール

- 1 回 Introduction
- 2 回 Unit 1 UNIQLO Aims High
- 3 回 Unit 2 Study Finds How TV Affects Children's Behavior
- 4 回 Unit 3 Texting & Driving... It Can Wait
- 5 回 Unit 4 Students Unwind in Therapy Dog Lounge Ahead of Finals
- 6 回 Unit 5 Bringing Clean Water to the World through Charity: Water
- 7 回 Unit 6 A Wave of Asian Immigrants
- 8 回 Unit 7 Facebook Envy
- 9 回 Unit 8 Smart Networking Tips
- 1 0 回 Unit 9 Bringing Manufacturing Back to the U.S. via the Robot
- 1 1 回 Unit 10 Manners 101
- 1 2 回 Unit 11 Baby Boomers Moving Back to Cities
- 1 3 回 Unit 12 Law Students Struggle to Find Work
- 1 4 回 Unit 13 Carbon Dioxide Making Oceans More Acidic
- 1 5 回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

試験...80%、平常の学習状況...20%  
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は初回の授業で文書を配布して説明します。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# 英語II ( 英 1-B ) 【昼】

## 履修上の注意 /Remarks

毎回指定された箇所を予習・復習してきて下さい。必ず辞書を持参して下さい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 英語II ( 英 1 - C ) 【昼】

担当者名 /Instructor 吉川 哲郎 / KIKKAWA TETSUROU / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英 1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語 II	ENG111F

## 授業の概要 /Course Description

OEIC受験を自明のこととして、英語のリスニング力とリーディング力を強化することがこの授業のねらいです。映画を教材として、ナチュラルな英語のリスニング力を伸ばし、迅速に内容把握ができるように努めます。

## 教科書 /Textbooks

プリントを使用します

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

特になし。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入
- 2回 ユニット 1
- 3回 ユニット 2
- 4回 ユニット 3
- 5回 ユニット 4
- 6回 ユニット 5
- 7回 ユニット 6
- 8回 ユニット 7
- 9回 ユニット 8
- 10回 ユニット 9
- 11回 ユニット 10
- 12回 ユニット 11
- 13回 ユニット 12
- 14回 ユニット 13
- 15回 まとめ



## 成績評価の方法 /Assessment Method

発表内容・・・20% 期末試験・・・80%

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

必ず予習をしてください。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

欠席の扱いは、大学の規定通りとします。

リスニングカとリーディングカをつけるように頑張ってください。

## キーワード /Keywords

【リスニングカ】 【リーディングカ】

# 英語II ( 英 1 - D ) 【昼】

担当者名 /Instructor 北峯 裕士 / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英 1 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語 II	ENG111F

## 授業の概要 /Course Description

英文を読む。

## 教科書 /Textbooks

プリント配布。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

辞書を持参のこと。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回目 ガイダンス
- 2 回目 英文の輪読
- 3 回目 英文の輪読
- 4 回目 英文の輪読
- 5 回目 英文の輪読
- 6 回目 英文の輪読
- 7 回目 英文の輪読
- 8 回2回目～7回目までの語彙および構文についてのまとめ
- 9 回目 英文の輪読
- 1 0 回目 英文の輪読
- 1 1 回目 英文の輪読
- 1 2 回目 英文の輪読
- 1 3 回目 英文の輪読
- 1 4 回目 英文の輪読
- 1 5 回目9回目～14回目までの語彙および構文のまとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。  
試験50パーセント、発表50パーセント

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 英語Ⅲ ( 英 1 - A ) 【昼】

担当者名 /Instructor 口バート・マーフィ / Robert S. Murphy / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 1単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 英 1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅲ	ENG102F

## 授業の概要 /Course Description

英語を用いて思考を深め、相手の英語を聞き指摘する力、表現したい事柄をテーマに沿って英語で流暢に表現できるようになること、外国語コミュニケーション能力の向上をねらいとする。

## 教科書 /Textbooks

New Optimal Levels! Fun Flavor Book 1  
Optimal Levels! Project Book

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 Introduction / Writing
- 第 2 回 Travel-Introductions
- 第 3 回 Travel-Building Skills
- 第 4 回 Travel-Essay composition
- 第 5 回 Presentation
- 第 6 回 Shopping-Introduction
- 第 7 回 Shopping-Building Skills
- 第 8 回 Shopping-Essay composition
- 第 9 回 Presentation
- 第 10 回 Movies-Introduction
- 第 11 回 Movies-Building Skills
- 第 12 回 Movies-Essay Composition
- 第 13 回 Presentation
- 第 14 回 Composition
- 第 15 回 Discussion

## 成績評価の方法 /Assessment Method

プレゼンテーション 各25% (計3回) 試験(essay) 25%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

テキストブックはModule 3 までしか使用しませんが、Module 4~6は休講期間等を利用して各自完成させておいてください。Project Bookは宿題用として大いに活用しましょう。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分の語りたいことを英語で語れるようになる、楽しいクラスです。アイデアをたくさん出して、自由に表現できるようになりましょう。文法の用法や単語、表現の方法など講義中の質問は大歓迎です。

## キーワード /Keywords

# 英語Ⅲ ( 英 1 - B ) 【昼】

担当者名 /Instructor マイケル・バーグ / michael berg / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 1単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 英 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅲ	ENG102F

## 授業の概要 /Course Description

This task-based course aims to improve students' ability to use English for daily communication. Speaking English individually and in small groups is required in each class.

## 教科書 /Textbooks

First Class Service 2: :Student Text with Audio CD, ISBN 9789814319947

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

None

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1: Orientation
- Week 2: Answering the phone
- Week 3: Where are you from?
- W4: Saying sorry
- W5: Suggesting alternatives
- W6: Choosing options
- W7: Directions
- W8: Recommendations
- W9: Ordering in restaurants
- W10: Transportation
- W11: Reading manuals
- W12: Repeating information
- W13: Apologizing
- W14: Explaining rules
- W15: Thanking customers/final review

## 成績評価の方法 /Assessment Method

- Attendance - 20%
- Homework - 20%
- Presentation - 2 X 15%
- Final exam - 20%
- Participation - 10%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 英語III ( 英 1-B ) 【昼】

### 履修上の注意 /Remarks

None

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Good luck with your studies. If you have any questions, please do not hesitate to ask me.

### キーワード /Keywords

Tourism

# 英語Ⅲ ( 英 1 - C ) 【昼】

担当者名 /Instructor                      ダンカン・ウォトリイ / 基盤教育センター

履修年次 /Year                      1年次  
 単位 /Credits                      1単位  
 学期 /Semester                      1学期  
 授業形態 /Class Format                      講義  
 クラス /Class                      英 1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		英語Ⅲ	ENG102F

## 授業の概要 /Course Description

The course aims to develop skills in communicating in a foreign language using English. As the students already have a detailed knowledge of many useful grammatical and lexical features of English, the course aims to create situations where students can put that knowledge to use in creative ways using their own lives, opinions, research ideas as well as the contexts provided through the text and other core materials. Activities include keeping a weekly English journal, conversational pair-work, discussion and debate, small written responses as well as those activities provided in the course text-book, which also uses a mixed approach. Monthly Reviews will also be used as well as two elective activities where students can choose tasks that suit their learning styles and needs.

## 教科書 /Textbooks

To be announced

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Dictionary

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Introduction
- Week 2 Unit 1 (Part A)
- Week 3 Unit 1 (Part B)
- Week 4 Unit 2 (Part A)
- Week 5 Unit 2 (Part B)
- Week 6 Unit 3 (Part A)
- Week 7 Unit 3 (Part B)
- Week 8 Review, Mid-Semester Test and introduction to Discussions
- Week 9 Discussion Planning and Unit 4
- Week 10 Unit 4 (Parts A and B)
- Week 11 Unit 5 (Part A)
- Week 12 Unit 5 (Part B)
- Week 13 Unit 6 (Part A)
- Week 14 Unit 6 (Part B)
- Week 15 Diary Interviews Week

## 成績評価の方法 /Assessment Method

- Diary 20%
- Diary Interview 20%
- Mid Semester Review 20%
- Final Examination 20%
- Special Projects 20%



## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

Write Diary and prepare to discuss contents  
Assigned tasks from course textbook  
Special Projects

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 英語Ⅲ ( 英 1 - D ) 【昼】

担当者名 /Instructor アレクサンダー・ ボードナー / Alexander Bodnar / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英 1 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅲ	ENG102F

## 授業の概要 /Course Description

In this course students have a chance to express themselves in daily situations. Each week a different situation will be posed to the students. In small groups, students will role play the situations. Although the basic language patterns may not be new, students will find new ways of expressing thoughts in everyday life. Creativity is encouraged.

## 教科書 /Textbooks

Performance: Conversation Scenes From Daily Life. By David Harrington and Charles LeBeau. Language Solutions Inc. 2013.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

None.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1. Introduction to the course. Icebreakers.
- Week 2. The Rules Scene
- Week 3. The Directions Scene
- Week 4. The Location Scene
- Week 5. The Polite Request Scene
- Week 6. The Restaurant Scene
- Week 7. The Illness Scene
- Week 8. The "How To" Scene
- Week 9. The Complaint Scene
- Week 10. The Time Scene
- Week 11. The Shopping Scene
- Week 12. The Putting Things Away Scene
- Week 13. The Getting Things Done Scene
- Week 14. The Accident Scene
- Week 15. The Oscars. Course review.

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Participation 70%. Exam 30%.  
 Students absent more than four times will not receive a credit.

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Feel free to make mistakes. The more mistakes you make, the more you learn and improve.

## キーワード /Keywords

# 英語Ⅳ ( 英 1 - A ) 【昼】

担当者名 /Instructor 口バート・マーフィ / Robert S. Murphy / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次  
 単位 /Credits 1単位  
 学期 /Semester 2学期  
 授業形態 /Class Format 講義  
 クラス /Class 英 1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅳ	ENG112F

## 授業の概要 /Course Description

英語を用いて思考を深め、相手の英語を聞き指摘する力、表現したい事柄をテーマに沿って英語で流暢に表現できるようになること、外国語コミュニケーション能力の向上をねらいとする。後期は加えて5段落エッセイを構成よくまとめる能力を養う。

## 教科書 /Textbooks

New Optimal Levels! Fun Flavor Book 2  
 Optimal Levels! Project Book 2

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 Introduction / Writing
- 第 2 回 Sports-Introductions
- 第 3 回 Sports-Building Skills
- 第 4 回 Sports-Essay composition
- 第 5 回 Presentation
- 第 6 回 Music-Introduction
- 第 7 回 Music-Building Skills
- 第 8 回 Music-Essay composition
- 第 9 回 Presentation
- 第10回 Fashion-Introduction
- 第11回 Fashion-Building Skills
- 第12回 Fashion-Essay Composition
- 第13回 Presentation
- 第14回 Composition
- 第15回 Discussion

## 成績評価の方法 /Assessment Method

プレゼンテーション 各25% (計3回) 試験(essay) 25%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

テキストブックはModule 3 までしか使用しませんが、Module 4~6は休講期間等を利用して各自完成させておいてください。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分の語りたいことを英語で語れるようになる、楽しいクラスです。アイデアをたくさん出して、自由に表現できるようになりましょう。文法の用法や単語、表現の方法など講義中の質問は大歓迎です。

## キーワード /Keywords

# 英語Ⅳ ( 英 1 - B ) 【昼】

担当者名 /Instructor デビット・ニール・マクレラン / David Neil McClelland / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅳ	ENG112F

## 授業の概要 /Course Description

This course is designed to help you strengthen your speaking, and self-presentation skills through active participation in communicative activities. Working in pairs and small groups, you will be given the chance to develop your English ability to both research and discuss current world-events and lifestyle-related topics. Development of academic presentation and writing skills will also be stressed throughout the course.

## 教科書 /Textbooks

English in Common (Book 4): Longman

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Please bring an electronic dictionary (or smartphone).

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回: Course orientation
- 第 2 回: Timed speaking and Q&A - Self introduction
- 第 3 回: Unit 1 and discussion in English (Relationships)
- 第 4 回: Unit 2 and discussion in English (In the Media)
- 第 5 回: Unit 3 and discussion in English (Home sweet home)
- 第 6 回: Class presentations (Original Topics)
- 第 7 回: Unit 4 and discussion in English (Wealth)
- 第 8 回: Unit 5 and discussion in English (Spare time)
- 第 9 回: Unit 6 and discussion in English (Travel tales)
- 第 10 回: Unit 7 and discussion in English (Lifelong learning)
- 第 11 回: Class presentations (Original Topics)
- 第 12 回: Unit 8 and discussion in English (Making changes)
- 第 13 回: Unit 9 and discussion in English (On the job)
- 第 14 回: Unit 10 and discussion in English (Memories of you)
- 第 15 回: Class presentations (Original Topics)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Assessment will be through class projects and homework assignments.

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

This course is non-elective and attendance is important.

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Please tell me what you think by speaking in English.

キーワード /Keywords

Communicate, have fun, make friends.

# 英語Ⅳ ( 英 1 - C ) 【昼】

担当者名 /Instructor                      ダンカン・ウォトリイ / 基盤教育センター

履修年次 /Year      1年次                      単位 /Credits      1単位                      学期 /Semester      2学期                      授業形態 /Class Format      講義                      クラス /Class      英 1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅳ	ENG112F

## 授業の概要 /Course Description

The course aims to develop skills in communicating in a foreign language using English. As the students already have a detailed knowledge of many useful grammatical and lexical features of English, the course aims to create situations where students can put that knowledge to use in creative ways using their own lives, opinions, research ideas as well as the contexts provided through the text and other core materials. Activities include keeping a weekly English journal, conversational pair-work, discussion and debate, small written responses as well as those activities provided in the course text-book, which also uses a mixed approach. Monthly Reviews will also be used as well as two elective activities where students can choose tasks that suit their learning styles and needs.

## 教科書 /Textbooks

To be announced

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Dictionary

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1 Introduction  
Week 2 Unit 7 (Part A)  
Week 3 Unit 7 (Part B)  
Week 4 Unit 8 (Part A)  
Week 5 Unit 8 (Part B)  
Week 6 Unit 9 (Part A)  
Week 7 Unit 9 (Part B)  
Week 8 Review, Mid-Semester Test and introduction to Special Tasks  
Week 9 Review of mid-semester test and Unit 10  
Week 10 Unit 10  
Week 11 Unit 11 (Part A)  
Week 12 Unit 11 (Part B)  
Week 13 Unit 12 (Part A)  
Week 14 Unit 12 (Part B) and Review  
Week 15 Diary Interviews Week



## 成績評価の方法 /Assessment Method

Diary 20%  
Diary Interview 20%  
Mid Semester Review 20%  
Final Examination 20%  
Special Projects 20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

Write Diary and prepare to discuss contents  
Assigned tasks from course textbook  
Special Projects

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 英語Ⅳ ( 英 1 - D ) 【昼】

担当者名 /Instructor アレクサンダー・ボードナー / Alexander Bodnar / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英 1 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅳ	ENG112F

## 授業の概要 /Course Description

This course aims to give students practice discussing contemporary issues in English. Students will learn strategies for initiating and actively participating in a conversation using topics in the news as well as timeless topics. There will be plenty of pair and group work.

## 教科書 /Textbooks

There is no textbook for this course. Handouts will be provided by the teacher based on current events.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

goldfish365.com

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1. Introduction to the course.
- Week 2. Topic 1. Pair conversation.
- Week 3. Asking open and closed questions.
- Week 4. Topic 2. Group discussion.
- Week 5. Communication Strategy. Repeating.
- Week 6. Topic 3. Pair conversation.
- Week 7. Giving long answers.
- Week 8. Topic 4. Group discussion.
- Week 9. Confirmation. Understanding the speaker.
- Week 10. Topic 5. Pair conversation.
- Week 11. Agreeing and disagreeing.
- Week 12. Topic 6. Discussion.
- Week 13. Interrupting. Getting a word in.
- Week 14. Topic 7. Pair conversation.
- Week 15. Review

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Class participation: pair conversation and group discussion. 70%. Exam 30%.  
Students who are absent four or more times will not receive a credit.

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 英語IV ( 英 1-D ) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Feel free to make mistakes. The more mistakes you make, the more you learn and improve.

キーワード /Keywords

# 英語V ( 英 2 - A ) 【昼】

担当者名 /Instructor 吉川 哲郎 / KIKKAWA TETSUROU / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英 2 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語V	ENG201F

## 授業の概要 /Course Description

OEIC受験を自明のこととして、英語のリスニング力とリーディング力を強化することがこの授業のねらいです。映画を教材として、ナチュラルな英語のリスニング力を伸ばし、迅速に内容把握ができるように努めます。

## 教科書 /Textbooks

プリントを使用します。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

特になし。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入
- 2回 ユニット1
- 3回 ユニット2
- 4回 ユニット3
- 5回 ユニット4
- 6回 ユニット5
- 7回 ユニット6
- 8回 ユニット7
- 9回 ユニット8
- 10回 ユニット9
- 11回 ユニット10
- 12回 ユニット11
- 13回 ユニット12
- 14回 ユニット13
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

発表内容・・・20% 期末試験・・・80%  
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

必ず予習をしてください。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

欠席の扱いは、大学の規定通りとします。  
リスニングカとリーディングカをつけるように頑張ってください。

## キーワード /Keywords

【リスニングカ】 【リーディングカ】

# 英語V ( 英 2 - B ) 【昼】

担当者名 /Instructor 北峯 裕士 / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英 2 - B /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語V	ENG201F

## 授業の概要 /Course Description

英文を読む。

## 教科書 /Textbooks

プリント配布。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

辞書を持参のこと。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

英語の決まりごとに関する英文を読んでいきます。

- 1 回目 ガイダンス
- 2 回目 英文の輪読 ( adjectives )
- 3 回目 英文の輪読 ( adjective with to-infinitive )
- 4 回目 英文の輪読 ( adverbials ① )
- 5 回目 英文の輪読 ( adverbials ② )
- 6 回目 英文の輪読 ( apposition )
- 7 回目 英文の輪読 ( articles )
- 8 回目 英文の輪読 ( auxiliaries )
- 9 回目 英文の輪読 ( clause types ① )
- 10 回目 英文の輪読 ( clause types ② )
- 11 回目 英文の輪読 ( clause types ③ )
- 12 回目 英文の輪読 ( 導入の it )
- 13 回目 英文の輪読 ( 導入の there ① )
- 14 回目 英文の輪読 ( 導入の there ② )
- 15 回目 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。  
試験50パーセント、発表50パーセント

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

# 英語V ( 英 2 - B ) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 英語V ( 英 2 - C ) 【昼】

担当者名 /Instructor 渡邊 晶子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 / 2 Year 単位 /Credits 1単位 / 1 Credit 学期 /Semester 1学期 / 1 Semester 授業形態 /Class Format 講義 / 講義 Class クラス /Class 英 2 - C / 英 2 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		英語V	ENG201F

## 授業の概要 /Course Description

英語の読解力を養成することが目的です。日常会話で用いられる程度の英語を読んだり聞いたりした際に、その内容を瞬時に把握できるよう、“Time”や英字新聞からの抜粋記事を読むことで、語彙を増やしていきます。読解力の度合いを測るためにTOEIC(R)でスコア750点を目指します。授業では、TOEIC(R)の出題パターンに慣れるだけでなく、効率的な取り組み方と出題傾向を学びます。

## 教科書 /Textbooks

『TOEIC(R)テスト新公式問題集VOL.6』（国際ビジネスコミュニケーション協会、2014年）  
ISBN978-4-906033-46-1（2800円）

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業中に適宜紹介します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 講義概要・ガイダンス
- 2 回 Part 1対策
- 3 回 Part 2対策
- 4 回 Part 3対策
- 5 回 Part 4対策
- 6 回 発音テスト①【単語】
- 7 回 Part 5対策
- 8 回 Part 6対策
- 9 回 Part 7 (single passage) 対策
- 10 回 Part 7 (double passage) 対策
- 11 回 発音テスト②【会話文】
- 12 回 英字新聞の読み方【headline】
- 13 回 英字新聞の読み方【body】
- 14 回 発音テスト③【スピーチ】
- 15 回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

発音テスト20%、小テスト30%と期末試験50%に、出席状況・学習態度を加味して総合的に評価します。  
( 正当な理由無く4回欠席した場合は、期末試験を受験することはできません。 )  
最終評価にはTOEIC(R)スコアが反映されます。反映方法は初回の授業で文書を配布して説明します。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review



# 英語V ( 英 2 - C ) 【昼】

基盤教育科目  
外国語教育科目  
第一外国語

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

TOEIC(R) listening reading

# 英語V ( 英 2 - D ) 【昼】

担当者名 /Instructor 相原 信彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英 2 - D /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語V	ENG201F

## 授業の概要 /Course Description

以下の5つのテーマについて学習しながら、英語力の更なる向上を目指す。

- ( 1 ) 日本に学ぶ世界
- ( 2 ) 環境
- ( 3 ) 経済
- ( 4 ) オリンピック
- ( 5 ) 教育

## 教科書 /Textbooks

Reading the New York Times 2

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

特になし ( 適宜指示する )

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目 授業内容説明
- 2回目 Matsui, Star in Two Continents, Is Retiring
- 3回目 Mainichi Daily News などネット配信されている英字新聞の講読
- 4回目 Japan's Pollution Diet
- 5回目 Mainichi Daily News などネット配信されている英字新聞の講読
- 6回目 Without Babies, Can Japan Survive?
- 7回目 Mainichi Daily News などネット配信されている英字新聞の講読
- 8回目 Safe Food for Japan
- 9回目 Mainichi Daily News などネット配信されている英字新聞の講読
- 10回目 Timing a Rise in Sea Level
- 11回目 Mainichi Daily News などネット配信されている英字新聞の講読
- 12回目 What to Make of a Warming Plateau
- 13回目 Mainichi Daily News などネット配信されている英字新聞の講読
- 14回目 The Decline of E-Empire
- 15回目 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 30%  
定期試験 70%  
最終評価にはTOEICスコアが反映される。反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# 英語V ( 英 2 - D ) 【昼】

## 履修上の注意 /Remarks

徹底的な予習 ( 特に偶数回の授業 )

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 英語VI ( 英 2 - A ) 【昼】

担当者名 /Instructor 船方 浩子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英 2 - A /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語VI	ENG211F

## 授業の概要 /Course Description

TOEIC対策用テキストを用いての問題演習及び問題解説。  
TOEICのスコアアップとともに実践的な英語力、コミュニケーション能力の向上を目標とする。

## 教科書 /Textbooks

“Overall Skills for the TOEIC Test” 『TOEICテスト総合スキル演習』  
(石井隆之共著) 成美堂 ¥2,200 + 税  
単語プリントは配布。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス、単語演習
- 2回 Unit 1 Restaurant、動詞①：現在形と過去形・進行形
- 3回 Unit 2 Hotel、動詞②：未来時制・完了時制
- 4回 Unit 3 Shopping、動詞③：受動態
- 5回 Unit 4 Financing、動詞④：使役
- 6回 Unit 5 Hospital、助動詞①：can, may, must
- 7回 Unit 6 Airport、助動詞②：仮定法
- 8回 Unit 7 Transportation、準動詞①：不定詞と動名詞
- 9回 Unit 8 Sightseeing、準動詞②：現在分詞と過去分詞
- 10回 Unit 9 Office Issues、形容詞と副詞
- 11回 Unit 10 Business、冠詞と名詞
- 12回 Unit 11 Sports Events、前置詞
- 13回 Unit 12 Computers、接続詞
- 14回 Unit 13 Personnel、関係詞
- 15回 Unit 14 Hiring and Training、話法と時制の一致

## 英語VI ( 英 2 - A ) 【昼】

### 成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験：70%、日常の授業への取り組み（小テスト、宿題含む）：30%  
ただし最終評価にはTOEICのスコアが反映されますので、初回の授業で文書を配布して説明します。

### 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

### 履修上の注意 /Remarks

次回授業のUnitは宿題として必ずやってくる。また、配布したプリントを覚えてくること。

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

### キーワード /Keywords

# 英語VI ( 英 2 - B ) 【昼】

担当者名 /Instructor 吉川 哲郎 / KIKKAWA TETSUROU / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英 2 - B /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語VI	ENG211F

## 授業の概要 /Course Description

OEIC受験を自明のこととして、英語のリスニングカとリーディング力を強化することがこの授業のねらいです。映画を教材として、ナチュラルな英語のリスニング力を伸ばし、迅速に内容把握ができるように努めます。

## 教科書 /Textbooks

プリントを使用します。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

特になし。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入
- 2回 ユニット 1
- 3回 ユニット 2
- 4回 ユニット 3
- 5回 ユニット 4
- 6回 ユニット 5
- 7回 ユニット 6
- 8回 ユニット 7
- 9回 ユニット 8
- 10回 ユニット 9
- 11回 ユニット 10
- 12回 ユニット 11
- 13回 ユニット 12
- 14回 ユニット 13
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

発表内容・・・ 20% 期末試験・・・ 80%

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

## 英語VI ( 英 2 - B ) 【昼】

### 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

### 履修上の注意 /Remarks

必ず予習をしてください。

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

欠席の扱いは、大学の規定通りとします。  
リスニングカとリーディングカをつけるように頑張ってください。

### キーワード /Keywords

【リスニングカ】 【リーディングカ】

# 英語VI ( 英 2 - C ) 【昼】

担当者名 /Instructor 渡邊 晶子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英 2 - C /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語VI	ENG211F

## 授業の概要 /Course Description

英語の読解力を養成することが目的です。日常会話で用いられる程度の英語を読んだり聞いたりした際に、その内容を瞬時に把握できるよう、“Time” や英字新聞からの抜粋記事を読むことで、語彙を増やしていきます。読解力の度合いを測るためにTOEIC(R)でスコア800点を目指していきます。授業では、TOEIC(R)の出題パターンに慣れるだけでなく、効率的な取り組み方と出題傾向を学びます。

## 教科書 /Textbooks

『TOEIC (R)テスト新公式問題集VOL. 6』（国際ビジネスコミュニケーション協会、2014年）  
ISBN978-4-906033-46-1 （2800円）

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

授業で適宜紹介していきます。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 講義概要・ガイダンス
- 2 回 さまざまな英語の文章
- 3 回 Part 1対策
- 4 回 Part 2対策
- 5 回 発音テスト①【Part 1タイプ】
- 6 回 Part 3対策
- 7 回 Part 4対策
- 8 回 Part 3 & Part 4対策
- 9 回 発音テスト②【Part 3タイプ】
- 1 0 回 Part 5対策【文法編】
- 1 1 回 Part 5対策【語彙編】
- 1 2 回 Part 6対策
- 1 3 回 Part 7 (single passage) 対策
- 1 4 回 Part 7 (double Passage) 対策
- 1 5 回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

発音テスト20%、小テスト30%、期末試験 50% に、出席状況・学習態度を加味して総合的に評価します。  
( 正当な理由無く4回欠席した場合は、期末試験を受験することはできません。 )  
最終評価にはTOEIC(R)スコアが反映されます。反映方法は初回の授業で文書を配布して説明します。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review



# 英語VI ( 英 2 - C ) 【昼】

基盤教育科目  
外国語教育科目  
第一外国語

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

TOEIC(R) listening reading

# 英語VI ( 英 2 - D ) 【昼】

担当者名 /Instructor 相原 信彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 / 2学期 /Semester 単位 /Credits 1単位 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英 2 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語VI	ENG211F

## 授業の概要 /Course Description

以下の5つのテーマについて学習しながら、英語力の更なる向上を目指す。

- ( 1 ) 日本に学ぶ世界
- ( 2 ) 環境
- ( 3 ) 経済
- ( 4 ) オリンピック
- ( 5 ) 教育

## 教科書 /Textbooks

Reading The New York Times 2

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

特になし ( 適宜指示する )

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目 Abu Dhabi Company Searches for Greener Method of Desalination
- 2回目 Mainichi Daily Newsなどの英字新聞の講読
- 3回目 British Employers See Value in Europe-Wide Labor Pool
- 4回目 Mainichi Daily Newsなどの英字新聞の講読
- 5回目 Hopes for Renewal in Japan, but Also a Host of Challenges
- 6回目 Mainichi Daily Newsなどの英字新聞の講読
- 7回目 Madrid and Istanbul Respond Differently to Rejection by Olympics
- 8回目 Mainichi Daily Newsなどの英字新聞の講読
- 9回目 Need a Job? Invent It
- 10回目 Mainichi Daily Newsなどの英字新聞の講読
- 11回目 Arts Education in Singapore Moves to Center Stage
- 12回目 Mainichi Daily Newsなどの英字新聞の講読
- 13回目 Myanmar's Educators Reach Out to the World
- 14回目 Mainichi Daily Newsなどの英字新聞の講読
- 15回目 まとめ ( 1年間の総復習 )

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 30%

定期試験 70%

最終評価にはTOEICスコアが反映される。反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# 英語VI ( 英 2 - D ) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 英語VII ( 英 2 - A ) 【昼】

担当者名 /Instructor                      デール・ スティール / 北方キャンパス   非常勤講師

履修年次 /Year      2年次      単位 /Credits      1単位      学期 /Semester      1学期      授業形態 /Class Format      講義      クラス /Class      英 2 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語VI	ENG202F

## 授業の概要 /Course Description

This course will offer students the opportunity to improve basic writing and public speaking skills. Emphasis will be placed on composition writing skills. Emphasis will also be placed on competent written answers to questions focusing on the use of complete sentences. Additionally, students will be given the opportunity to develop basic public speaking skills.

## 教科書 /Textbooks

Reading Pass 1  
 Andrew E. Bennett  
 NAN'UN-DO

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Additional class materials will be provided by the instructor.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Course introduction
- 2回 Basic writing techniques
- 3回 Internet Communities. Discuss reading passage and do questions
- 4回 Complete writing assignment
- 5回 E-books. Discuss reading passage and do questions
- 6回 Complete speaking assignment
- 7回 Space Tourism. Discuss reading passage and do questions
- 8回 Complete writing assignment
- 9回 Shanghai. Discuss reading passage and do questions
- 10回 Complete speaking assignment
- 11回 Identity Theft. Discuss reading passage and do questions
- 12回 Complete writing assignment
- 13回 Trans Fat. Discuss reading passage and do questions
- 14回 Complete speaking assignment
- 15回 Artificial Intelligence. Discuss reading passage

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Assessment will be based primarily an the written and speaking assignments. A final test will also figure into the assessment.

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

Because of the intense and consecutive nature of the class students will be expected to be present.  
Excessive absences will not be tolerated.

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

This can be a pleasurable class. Students should not fear the emphasis placed on writing and public speaking.

## キーワード /Keywords

composition, public speaking, competent answers, complete sentences

# 英語VII ( 英 2 - B ) 【昼】

担当者名 /Instructor アルバート・オスカー・モウ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英 2 - B /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー 数量的スキル		
	英語力 ●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	自己管理力		
関心・意欲・態度	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力 ●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
		英語VI	ENG202F

## 授業の概要 /Course Description

Points of this class are speaking, reading and writing English. The class is taught in English and is designed to meet the needs of English majors in regards to public speaking.

## 教科書 /Textbooks

Instructor will furnish class materials. The student will need a memory stick.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Japanese/English dictionary

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Course and Introductions - Picture Story Speech
- 第2回 Delivering Your Message - Looking Them in the Eye
- 第3回 Delivering Your Message - Effective Use of Notes
- 第4回 Putting Your Speech Together
- 第5回 Outlining and Writing - A Personal Experience
- 第6回 Delivery-Group 1 - A Personal Experience Speech
- 第7回 Delivery-Group 2 - A Personal Experience Speech
- 第8回 Outlining and Writing - A Meaningful Object
- 第9回 Delivery-Group 1 - A Meaningful Object Speech
- 第10回 Delivery-Group 2 - A Meaningful Object Speech
- 第11回 Speaking to Inform - Outlining and Writing - An Informative Speech
- 第12回 Delivery-Group 1 - An Informative Speech 1
- 第13回 Delivery-Group 2 - An Informative Speech 1
- 第14回 Delivery-Group 1 - An Informative Speech 2
- 第15回 Delivery-Group 2 - An Informative Speech 2

## 成績評価の方法 /Assessment Method

40% Class Work and 60% Final Exam

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

The students will write, practice, and memorize each of their speeches.

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 英語VII ( 英 2 - C ) 【昼】

担当者名 /Instructor ポール・ ガラフ・ スティール / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英 2 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語VI	ENG202F

## 授業の概要 /Course Description

This course uses high interest themes to integrate speaking, grammar, vocabulary, pronunciation, listening, reading and writing. There is a strong focus on both accuracy and fluency. the underlying philosophy of the course remains that language is best learned when it is used for meaningful communication.

## 教科書 /Textbooks

Interchange 3 4th edition Richards, Hull and Proctor Cambridge University Press

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

-

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Describing personalities, expressing likes and dislikes
- 2回 Writing a description of a best friend
- 3回 Talking about unusual jobs
- 4回 Writing about career advantages and disadvantages
- 5回 Making unusual requests, making indirect requests
- 6回 Writing an informal e-mail request
- 7回 Narrating a story, describing events in the past
- 8回 Writing a newspaper article
- 9回 Talking about moving abroad, expressing emotions
- 10回 Writing a tourist pamphlet
- 11回 Describing problems, making complaints
- 12回 Writing a letter of complaint
- 13回 Identifying problems and making complaints
- 14回 talking about general topics
- 15回 Review

## 成績評価の方法 /Assessment Method

50% exam, 30% participation and 20% peer journal

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor



キーワード /Keywords

# 英語VII ( 英 2 - D ) 【昼】

担当者名 /Instructor: ダンカン・ウォトリイ / 基盤教育センター

履修年次 /Year: 2年次  
単位 /Credits: 1単位  
学期 /Semester: 1学期  
授業形態 /Class Format: 講義  
クラス /Class: 英 2 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語VI	ENG202F

## 授業の概要 /Course Description

The course will aim to mix the use of a text book with student generated materials such as an English journal, debate or discussion scripts, special tasks which students can choose based on their needs and interests as well as authentic language sourced from the web. Students will be expected to work independently, in pairs and in groups.

## 教科書 /Textbooks

World Link 2 with Student CD-ROM

AUTHORS: Susan Stempleski; Nancy Douglas; James R. Morgan  
ISBN-13: 9781424068197  
160 Pages Paperback  
2nd Edition

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Access to the web out of class and a dictionary in class is required

# 英語VII ( 英 2 - D ) 【昼】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1	Introduction
Week 2	Unit 1, All About Me Lesson A, The people in my life
Week 3	Unit 1, All About Me Lesson B, School Days
Week 4	Unit 2: Let's Eat! Lesson A, Foods we like
Week 5	Unit 2: Let's Eat Lesson B, Eating well
Week 6	Unit 3: Unsolved Mysteries Lesson A, What a coincidence
Week 7	Unit 3: Unsolved Mysteries Lesson B, Mysteries of the world
Week 8	Review of Units 1 to 3
Week 9	Unit 4: Today's Trends Lesson A, Family Trends
Week 10	Unit 4: Today's Trends Lesson B, Fashion Trends
Week 11	Unit 5: Out and About Lesson A, Running Errands
Week 12	Unit 5 Out and About Lesson B, This is my Neighborhood
Week 13	Unit 6 Student Life Lesson A, Starting Out
Week 14	Unit 6: Student Life Lesson B, After Graduation
Week 15	Review of Units 4 to 6.

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Diary 20%  
Folio 20% (includes discussion reports)  
Special Activities 30% (students will choose 2 elective tasks that will be negotiated with the teacher)  
Reviews 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

Attendance on special days designated for participation in debate, discussion or presentation is compulsory. Students will need an official medical certificate if they want special consideration for missing these days.

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

I hope you enjoy our class. I am looking forward to meeting you.

## キーワード /Keywords

# 英語VIII ( 英 2 - A ) 【昼】

担当者名 /Instructor デビット・ニール・マクレラン / David Neil McClelland / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /2nd Year 単位 /Credits 1単位 /1 Credit 学期 /Semester 2学期 /2nd Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 英 2 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅷ	ENG212F

## 授業の概要 /Course Description

This course is designed to help you strengthen your speaking, and self-presentation skills through active participation in communicative activities. Working in pairs and small groups, you will be given the chance to develop your English ability to both research and discuss current world-events and lifestyle-related topics. Development of academic presentation and writing skills will also be stressed throughout the course.

## 教科書 /Textbooks

English in Common (Book 4): Longman

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Please bring an electronic dictionary (or smartphone).

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回: Course orientation
- 第 2 回: Timed speaking and Q&A - Self introduction
- 第 3 回: Unit 1 and discussion in English (Relationships)
- 第 4 回: Unit 2 and discussion in English (In the Media)
- 第 5 回: Unit 3 and discussion in English (Home sweet home)
- 第 6 回: Class presentations (Original Topics)
- 第 7 回: Unit 4 and discussion in English (Wealth)
- 第 8 回: Unit 5 and discussion in English (Spare time)
- 第 9 回: Unit 6 and discussion in English (Travel tales)
- 第 1 0 回: Unit 7 and discussion in English (Lifelong learning)
- 第 1 1 回: Class presentations (Original Topics)
- 第 1 2 回: Unit 8 and discussion in English (Making changes)
- 第 1 3 回: Unit 9 and discussion in English (On the job)
- 第 1 4 回: Unit 10 and discussion in English (Memories of you)
- 第 1 5 回: Class presentations (Original Topics)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Assessment will be through class projects and homework assignments.

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

This course is non-elective and attendance is important.

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Please tell me what you think by speaking in English.

キーワード /Keywords

Communicate, have fun, make friends.

# 英語VIII ( 英 2 - B ) 【昼】

担当者名 /Instructor アルバート・オスカー・モウ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英 2 - B /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー 数量的スキル		
	英語力 ●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	自己管理力		
関心・意欲・態度	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力 コミュニケーション力 ●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
		英語Ⅷ	ENG212F

## 授業の概要 /Course Description

Points of this class are speaking, reading and writing English. The class is taught in English and is designed to meet the needs of English majors in regards to public speaking.

## 教科書 /Textbooks

Instructor will furnish class materials. The student will need a memory stick.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Japanese/English dictionary

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Course Introduction
- 第2回 Preparing for the Persuasive Speech
- 第3回 Determining Your Specific Purpose - Analyzing Your Audience
- 第4回 Gathering Information - Preparing Visual Aids
- 第5回 Organizing Your Speech
- 第6回 Outlining and Writing Your Persuasive Speech
- 第7回 Persuasive Speeches by Group 1 (The Japanese Government Should...)
- 第8回 Persuasive Speeches by Group 2 (The Japanese Government Should...)
- 第9回 Persuasive Speeches by Group 1 (Capital Punishment)
- 第10回 Persuasive Speeches by Group 2 (Legalization of Marijuana)
- 第11回 Persuasive Speeches by Group 1 (The Earth)
- 第12回 Persuasive Speeches by Group 2 (Japan-US Security Treaty)
- 第13回 Persuasive Speeches by Group 1 (Human Rights)
- 第14回 Persuasive Speeches by Group 2 (Racial Equality)
- 第15回 Review for the Final Exam

## 成績評価の方法 /Assessment Method

40% Class Work and 60% Final Exam

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

The students will write, practice and memorize their speeches.

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 英語VIII ( 英 2 - C ) 【昼】

担当者名 /Instructor ポール・ ガラフ・ スティール / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英 2 - C /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅷ	ENG212F

## 授業の概要 /Course Description

This course uses high interest themes to integrate speaking, grammar, vocabulary, pronunciation, listening, reading and writing. There is a strong focus on both accuracy and fluency. The underlying philosophy of the course remains that language is best learned when it is used for meaningful communication.

## 教科書 /Textbooks

Interchange 3 4th edition Richards, Hull and Proctor Cambridge University Press

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

-

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Talking about things you need to be done
- 2回 Writing a letter of advise
- 3回 Talking about the future
- 4回 Writing a biography
- 5回 Describing rites of passage
- 6回 Writing a letter of apology
- 7回 Describing qualities of success
- 8回 Writing a TV commercial
- 9回 Making conclusions, offering and explanations
- 10回 Writing about predicaments
- 11回 Describing how something is done
- 12回 Writing about a process
- 13回 Giving and opinion for and against
- 14回 Talking about general topics
- 15回 Review

## 成績評価の方法 /Assessment Method

50% exam, 30% participation and 20% peer journal

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks



担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 英語VIII ( 英 2 - D ) 【昼】

担当者名 /Instructor                      ダンカン・ウォトリイ / 基盤教育センター

履修年次 /Year                      2年次                      単位 /Credits                      1単位                      学期 /Semester                      2学期                      授業形態 /Class Format                      講義                      クラス /Class                      英 2 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
			英語Ⅷ                      ENG212F

## 授業の概要 /Course Description

This class is a continuation of 英語VII (2-D). We will use the same text book and follow the same course and procedures starting with Unit 7 (which is the middle point). Therefore, all students will continue to keep an English journal and be expected to participate in individual, pair and group work including discussions, presentations and the submission of a folio of work. This folio contains various reports and special tasks they may need to do.

## 教科書 /Textbooks

World Link 2 with Student CD-ROM

AUTHORS: Susan Stempleski; Nancy Douglas; James R. Morgan  
ISBN-13: 9781424068197  
160 Pages Paperback  
2nd Edition

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Access to a dictionary in class and the web outside class is necessary

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1	Introduction
Week 2	Unit 7 Let's Celebrate Lesson A: Different kinds of parties
Week 3	Unit 7 Let's Celebrate Lesson B: International festivals
Week 4	Unit 8 Storytelling Lesson A: What's the story?
Week 5	Unit 8 Storytelling Lesson B: Happily ever after
Week 6	Unit 9 The World of Work Lesson A: Work history
Week 7	Unit 9 The World of Work Lesson B: Dream jobs
Week 8	Review of Units 7 - 9
Week 9	Unit 10 Telecommunications Lesson A: Telephoning
Week 10	Unit 10 Telecommunications Lesson B: Cell-phone society
Week 11	Unit 11 Technology Today Lesson A: Then and now
Week 12	Unit 11 Technology Today Lesson B: Making life better
Week 13	Unit 12 Let's Go Somewhere Lesson A: Before you go
Week 14	Unit 12 Let's Go Somewhere Lesson B: Adventures in traveling
Week 15	Review of Units 10 - 12

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Folio 20%  
Journal 20%  
Discussion and Presentation 30%  
Reviews 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

Make sure you attend the days designated for compulsory attendance. (discussion, debate, folio day etc.) If you want special consideration for these days you must provide an official medical certificate

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Looking forward to continuing with you this semester. For new students, welcome to our class!

## キーワード /Keywords

# 英語Ⅸ ( 英中国 3 年 ) 【昼】

担当者名 /Instructor 永末 康介 / Kosuke NAGASUE / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 3年次  
単位 /Credits 1単位 1単位  
学期 /Semester 1学期 1学期  
授業形態 /Class Format 講義 講義  
クラス /Class 英中国 3年 英中国 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅸ	ENG301F

## 授業の概要 /Course Description

時事的な英文記事や学術的な英文テキストなどを用いて、英語力に磨きをかけることを目的とする。あわせて、関連する文化的事象についての理解を深めていくことも目的とする。

## 教科書 /Textbooks

配布プリント

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

特になし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Pre-test
- 3回 時事英語①
- 4回 アカデミックリーディング①
- 5回 グループ討論①
- 6回 グループ討論②
- 7回 時事英語②
- 8回 アカデミックリーディング②
- 9回 グループ討論③
- 10回 グループ討論④
- 11回 時事英語③
- 12回 アカデミックリーディング③
- 13回 グループ討論⑤
- 14回 グループ討論⑥
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験あるいは期末課題...30%、平常の学習状況 (小テストを含む)...70%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

初回授業に必ず出席すること。

# 英語IX ( 英中国 3 年 ) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 英語X ( 英中国 3 年 ) 【昼】

担当者名 /Instructor 葛西 宏信 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英中国 3年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語X	ENG311F

## 授業の概要 /Course Description

言語に関するエッセイを読みながら、英語の読解力の向上だけでなく、言語そのものに対する理解を深めることを目標とする。毎回、一人ないし、二人の担当者が教科書の内容をレポートしながら授業を進めていく。他の受講者は、十分に予習をし、積極的にディスカッションに参加することが、求められる。また、授業で扱ったテーマに関して、受講生にプレゼンテーションをしてもらう予定である。

## 教科書 /Textbooks

生協の教科書リストに掲載する。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Chapter 1
- 3回 Chapter 2
- 4回 Chapter 3
- 5回 Chapter 4
- 6回 Chapter 4
- 7回 Chapter 5
- 8回 Chapter 5
- 9回 Chapter 6
- 10回 Chapter 6
- 11回 Chapter 7
- 12回 Chapter 7
- 13回 Chapter 8
- 14回 Chapter 8
- 15回 プレゼンテーション

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...30% レポート...50% プレゼンテーション...20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

# 英語X ( 英中国 3 年 ) 【昼】

基盤教育科目  
外国語教育科目  
第一外国語

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 英語XI ( 英中国 3 年 ) 【昼】

担当者名 /Instructor 口バート・マーフィ / Robert S. Murphy / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 /3rd Year 単位 /Credits 1単位 /1 Credit 学期 /Semester 1学期 /1st Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 英中国 3 年 /English-Chinese 3rd Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語 X I	ENG302F

## 授業の概要 /Course Description

英語を用いて思考を深め、相手の英語を聞き指摘する力、表現したい事柄をテーマに沿って英語で流暢に表現できるようになること、外国語コミュニケーション能力の向上をねらいとする。

## 教科書 /Textbooks

New Optimal Levels! Philosophy Flavor Book 1  
 Optimal Levels! Project Book

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 Introduction / Writing
- 第 2 回 Love-Introductions
- 第 3 回 Love-Building Skills
- 第 4 回 Love-Essay composition
- 第 5 回 Presentation
- 第 6 回 Justice-Introduction
- 第 7 回 Justice-Building Skills
- 第 8 回 Justice-Essay composition
- 第 9 回 Presentation
- 第 10 回 Humanity-Introduction
- 第 11 回 Humanity-Building Skills
- 第 12 回 Humanity-Essay Composition
- 第 13 回 Presentation
- 第 14 回 Composition
- 第 15 回 Discussion

## 成績評価の方法 /Assessment Method

プレゼンテーション 各25% (計3回) 試験(essay) 25%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review



## 履修上の注意 /Remarks

テキストブックはModule 3 までしか使用しませんが、Module 4~6は休講期間等を利用して各自完成させておいてください。Project Bookは宿題用として大いに活用しましょう。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分の語りたいことを英語で語れるようになる、楽しいクラスです。アイデアをたくさん出して、自由に表現できるようになりましょう。文法の用法や単語、表現の方法など講義中の質問は大歓迎です。

## キーワード /Keywords

# 英語XII ( 英中国 3 年 ) 【昼】

担当者名 /Instructor 口バート・マーフィ / Robert S. Murphy / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次  
単位 /Credits 1単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 英中国 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅱ	ENG312F

## 授業の概要 /Course Description

英語を用いて思考を深め、相手の英語を聞き指摘する力、表現したい事柄をテーマに沿って英語で流暢に表現できるようになること、外国語コミュニケーション能力の向上をねらいとする。後期は加えて5段落エッセイを構成よくまとめる能力を養う。

## 教科書 /Textbooks

New Optimal Levels! Philosophy Flavor Book 2  
Optimal Levels! Project Book 2

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Introduction / Writing
- 第2回 Happiness-Introductions
- 第3回 Happiness-Building Skills
- 第4回 Happiness-Essay composition
- 第5回 Presentation
- 第6回 Religion-Introduction
- 第7回 Religion-Building Skills
- 第8回 Religion-Essay composition
- 第9回 Presentation
- 第10回 War-Introduction
- 第11回 War-Building Skills
- 第12回 War-Essay Composition
- 第13回 Presentation
- 第14回 Composition
- 第15回 Discussion

## 成績評価の方法 /Assessment Method

プレゼンテーション 各25% (計3回) 試験(essay) 25%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

テキストブックはModule 3 までしか使用しませんが、Module 4~6は休講期間等を利用して各自完成させておいてください。Project Bookは宿題用として大いに活用しましょう。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分の語りたいことを英語で語れるようになる、楽しいクラスです。アイデアをたくさん出して、自由に表現できるようになりましょう。文法の用法や単語、表現の方法など講義中の質問は大歓迎です。

## キーワード /Keywords

# 中国語Ⅰ【昼】

担当者名 板谷 秀子 / 北方キャンパス 非常勤講師  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 英1-1・1-2  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅰ	CHN101 F

## 授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。

- (1)発音から学び始め、語彙力を増やしながら、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
- (2)课文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。
- (3)この教科書の内容を全て学ぶことにより、中国に対して理解することができます。

## 教科書 /Textbooks

『精彩漢語 基礎』（日本語版）中国・高等教育出版社

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

「中日・日中」電子辞書

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【軽声】
- 2回 第二課 発音【子音】
- 3回 第二課 発音【複合母音】【鼻母音】
- 4回 第三課 総合知識
- 5回 第三課 総合練習
- 6回 第四課 私達はみんな友達です 【人称代名詞】【指示代名詞】【是の文】など
- 7回 第四課 これは一枚の地図です(本文) 練習
- 8回 第五課 私は最近忙しい 【形容詞の文】【動詞の文】など
- 9回 第五課 あなたはいつ北京へ行きますか(本文) 練習
- 10回 第六課 私達は買い物に行きます【二重目的語を取る述語動詞】【連動文】【有・没有】など
- 11回 第六課 私は松本葉子です(本文) 練習
- 12回 第七課 私達の学校は九州にあります 【在】【方位詞】【了】など
- 13回 第七課 大学の生活(本文) 練習
- 14回 第八課 あなたは長城に行ったことがありますか【動詞+过】【是……的】など
- 15回 第八課 全聚徳へ北京ダックを食べに行く(本文) 練習

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・ 60% 小テスト・ 20% 日常の授業への取り組み・ 20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。  
毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

# 中国語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 小椋 吾郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英 1 - 3・ 1 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅰ	CHN101 F

## 授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。  
 (1)発音から学び始め、語彙力を増やしながら、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。  
 (2)课文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。  
 (3)この教科書の内容を全て学ぶことにより、中国に対して理解することができます。

## 教科書 /Textbooks

『精彩漢語 基礎』（日本語版）中国・高等教育出版社

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

「中日・日中」電子辞書

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【軽声】
- 2回 第二課 発音【子音】
- 3回 第二課 発音【複合母音】【鼻母音】
- 4回 第三課 総合知識
- 5回 第三課 総合練習
- 6回 第四課 私達はみんな友達です 【人称代名詞】【指示代名詞】【是の文】など
- 7回 第四課 これは一枚の地図です(本文) 練習
- 8回 第五課 私は最近忙しい 【形容詞の文】【動詞の文】など
- 9回 第五課 あなたはいつ北京へ行きますか(本文) 練習
- 10回 第六課 私達は買い物に行きます【二重目的語を取る述語動詞】【連動文】【有・没有】など
- 11回 第六課 私は松本葉子です(本文) 練習
- 12回 第七課 私達の学校は九州にあります 【在】【方位詞】【了】など
- 13回 第七課 大学の生活(本文) 練習
- 14回 第八課 あなたは長城に行ったことがありますか【動詞+过】【是……的】など
- 15回 第八課 全聚徳へ北京ダックを食べに行く(本文) 練習

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・ 60% 小テスト・ 20% 日常の授業への取り組み・ 20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。  
 毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

# 中国語II 【昼】

担当者名 板谷 秀子 / 北方キャンパス 非常勤講師  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 英 1 - 1・ 1 - 2  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語 II	CHN111 F

## 授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。

- (1)発音から学び始め、語彙力を増やしながら、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
- (2)课文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。
- (3)この教科書の内容を全て学ぶことにより、中国に対して理解することができます。

## 教科書 /Textbooks

『精彩漢語 基礎』（日本語版）中国・高等教育出版社

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

「中日・日中」電子辞書

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 彼は今あなたを待っていますよ【動作の現在進行形】【助動詞：会、能、可以】など
- 2回 第九課 田中さんが病気になりました(本文) 練習
- 3回 第十課 私は日本にハガキを送りたい【結果補語】【様態補語】【仮定の表現】など
- 4回 第十課 雪中に炭を送る(本文) 練習
- 5回 第十一課 彼らが言っていることが、聞けば聞くほどわからない【可能補語】【方向補語】など
- 6回 第十一課 電話を掛ける(本文) 練習
- 7回 第十二課 私と外灘にコーヒーを飲みに行ってください【要】【“把”構文】など
- 8回 第十二課 ウィンドウショッピング(本文) 練習
- 9回 第十三課 陳紅さんは私に上海に転校して留学してほしい【使役動詞】【動詞 / 形容詞の重ね形】
- 10回 第十三課 “福”字を貼る(本文) 練習 【存現文】【因为……所以】など
- 11回 第十四課 私の自転車は王さんが乗って行ってしまいました【受身動詞】【“被”の文】
- 12回 第十四課 円明園(本文) 練習 【不但……而且】など
- 13回 第十五課 あなた達の話している中国語はまるで中国人のようです【比較文】【跟……一样】
- 14回 第十五課 日本概況(本文) 練習 【虽然……但是】など
- 15回 総合練習

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・ 60% 小テスト・ 20% 日常の授業への取り組み・ 20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。  
毎回出席すること。



担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

# 中国語II 【昼】

担当者名 /Instructor 小椋 吾郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英 1 - 3・ 1 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語 II	CHN111 F

## 授業の概要 /Course Description

- 中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。
- (1)発音から学び始め、語彙力を増やしながら、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
  - (2)课文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。
  - (3)この教科書の内容を全て学ぶことにより、中国に対して理解することができます。

## 教科書 /Textbooks

『精彩漢語 基礎』（日本語版）中国・高等教育出版社

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

「中日・日中」電子辞書

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 彼は今あなたを待っていますよ【動作の現在進行形】【助動詞：会、能、可以】など
- 2回 第九課 田中さんが病気になりました(本文) 練習
- 3回 第十課 私は日本にハガキを送りたい【結果補語】【様態補語】【仮定の表現】など
- 4回 第十課 雪中に炭を送る(本文) 練習
- 5回 第十一課 彼らが言っていることが、聞けば聞くほどわからない【可能補語】【方向補語】など
- 6回 第十一課 電話を掛ける(本文) 練習
- 7回 第十二課 私と外灘にコーヒーを飲みに行ってください【要】【“把”構文】など
- 8回 第十二課 ウィンドウショッピング(本文) 練習
- 9回 第十三課 陳紅さんは私に上海に転校して留学してほしい【使役動詞】【動詞 / 形容詞の重ね形】
- 10回 第十三課 “福”字を貼る(本文) 練習 【存現文】【因为……所以】など
- 11回 第十四課 私の自転車は王さんが乗って行ってしまいました【受身動詞】【“被”の文】
- 12回 第十四課 円明園(本文) 練習 【不但……而且】など
- 13回 第十五課 あなた達の話している中国語はまるで中国人のようです【比較文】【跟……一样】
- 14回 第十五課 日本概況(本文) 練習 【虽然……但是】など
- 15回 総合練習

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・ 60% 小テスト・ 20% 日常の授業への取り組み・ 20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。  
毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

# 中国語Ⅲ【昼】

担当者名 陳 青鳳 / 北方キャンパス 非常勤講師  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 英 1 - 1・ 1 - 2  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅲ	CHN102F

## 授業の概要 /Course Description

- 中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れることを目指します。
- (1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
  - (2)日常会話に必要な語彙力を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。
  - (3)会話文の学習を通して場面に応じる中国会話力を高めます。
  - (4)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ、知識を得ることができます。

## 教科書 /Textbooks

『精彩漢語 遊走中国』（日本語版）中国・高等教育出版社

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

「中日・日中」電子辞書

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【轻声】、練習問題
- 2回 第二課 発音【子音】、練習問題
- 3回 第三課 発音【複合母音】【鼻母音】、練習問題
- 4回 総合知識
- 5回 総合練習
- 6回 第四課 紹介
- 7回 第四課 自己紹介 練習問題
- 8回 第五課 入国・北京紹介
- 9回 第五課 飛行機搭乗・入国手続き、練習問題
- 10回 第六課 レストランにて・天津紹介
- 11回 第六課 レストランにて、練習問題
- 12回 第七課 道を尋ねる・上海紹介
- 13回 第七課 交通、練習問題
- 14回 第八課 観光する・蘇州と杭州紹介
- 15回 第八課 観光、練習問題

## 成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・・40% 暗誦・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

毎回出席すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

# 中国語Ⅲ【昼】

担当者名 蘇 君業 / 国際教育交流センター  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 英1-3・1-4  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅲ	CHN102F

## 授業の概要 /Course Description

- 中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れることを目指します。
- (1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
  - (2)日常会話に必要な語彙力を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。
  - (3)会話文の学習を通して場面に応じる中国会話力を高めます。
  - (4)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ、知識を得ることができます。

## 教科書 /Textbooks

『精彩漢語 遊走中国』（日本語版）中国・高等教育出版社

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

「中日・日中」電子辞書

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【轻声】、練習問題
- 2回 第二課 発音【子音】、練習問題
- 3回 第三課 発音【複合母音】【鼻母音】、練習問題
- 4回 総合知識
- 5回 総合練習
- 6回 第四課 紹介
- 7回 第四課 自己紹介 練習問題
- 8回 第五課 入国・北京紹介
- 9回 第五課 飛行機搭乗・入国手続き、練習問題
- 10回 第六課 レストランにて・天津紹介
- 11回 第六課 レストランにて、練習問題
- 12回 第七課 道を尋ねる・上海紹介
- 13回 第七課 交通、練習問題
- 14回 第八課 観光する・蘇州と杭州紹介
- 15回 第八課 観光、練習問題

## 成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・・40% 暗誦・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

毎回出席すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

# 中国語Ⅳ【昼】

担当者名 陳 青鳳 / 北方キャンパス 非常勤講師  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 英1-1・1-2  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅳ	CHN112F

## 授業の概要 /Course Description

- 中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れることを目指します。
- (1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
  - (2)日常会話に必要な語彙を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。
  - (3)会話文の学習を通して場面に応じる中国会話力を高めます。
  - (4)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ、知識を得ることができます。

## 教科書 /Textbooks

『精彩漢語 遊走中国』（日本語版）中国・高等教育出版社

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

中日・日中」電子辞書

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 買い物をする・義烏と横店紹介
- 2回 第九課 買い物、練習問題
- 3回 第十課 お金を両替・西安と洛陽紹介
- 4回 第十課 銀行にて、練習問題
- 5回 第十一課 ホテルに泊まる・成都紹介
- 6回 第十一課 ホテルにて、練習問題
- 7回 第十二課 電話を掛ける・昆明紹介
- 8回 第十二課 電話、練習問題
- 9回 第十三課 興味について語る・広州紹介
- 10回 第十三課 興味、練習問題
- 11回 第十四課 見方について語る・大連紹介
- 12回 第十四課 語り合い、練習問題
- 13回 第十五課 搭乗手続き・日本の紹介
- 14回 第十五課 空港での搭乗手続き・免税店にて
- 15回 総合練習

## 成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・ 40% 暗誦・・ 30% 日常の授業への取り組み・・ 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review



## 履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

# 中国語Ⅳ【昼】

担当者名 蘇 君業 / 国際教育交流センター  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 英1-3・1-4  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅳ	CHN112F

## 授業の概要 /Course Description

- 中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れることを目指します。
- (1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
  - (2)日常会話に必要な語彙を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。
  - (3)会話文の学習を通して場面に応じる中国会話力を高めます。
  - (4)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ、知識を得ることができます。

## 教科書 /Textbooks

『精彩漢語 遊走中国』（日本語版）中国・高等教育出版社

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

中日・日中」電子辞書

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 買い物をする・義烏と横店紹介
- 2回 第九課 買い物、練習問題
- 3回 第十課 お金を両替・西安と洛陽紹介
- 4回 第十課 銀行にて、練習問題
- 5回 第十一課 ホテルに泊まる・成都紹介
- 6回 第十一課 ホテルにて、練習問題
- 7回 第十二課 電話を掛ける・昆明紹介
- 8回 第十二課 電話、練習問題
- 9回 第十三課 興味について語る・広州紹介
- 10回 第十三課 興味、練習問題
- 11回 第十四課 見方について語る・大連紹介
- 12回 第十四課 語り合い、練習問題
- 13回 第十五課 搭乗手続き・日本の紹介
- 14回 第十五課 空港での搭乗手続き・免税店にて
- 15回 総合練習

## 成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・ 40% 暗誦・・ 30% 日常の授業への取り組み・・ 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

# 中国語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅴ	CHN201 F

## 授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。

皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

(1)本文読解を通じ、主に「読解・翻訳」面の強化に重点を置いた授業を行います。

(2)中級レベルの文法を学び、少し長めの文章を作る・自分の言いたいことを言えるレベルを目指します。

(3)本文読解を通じ日本への理解を深めると共に、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

## 教科書 /Textbooks

『遊学中国語 東遊記』中国・華語教学出版社

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

中日・日中電子辞書

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 ポイント説明 日本紹介(本文)
- 2回 第二課 ポイント説明
- 3回 第二課 東京(本文)
- 4回 第三課 ポイント説明
- 5回 第三課 横浜(本文)
- 6回 第四課 ポイント説明
- 7回 第四課 富士山と東照宮(本文)
- 8回 第五課 ポイント説明
- 9回 第五課 静岡と名古屋(本文)
- 10回 第六課 ポイント説明
- 11回 第六課 京都(本文)
- 12回 第七課 ポイント説明
- 13回 第七課 奈良(本文)
- 14回 第八課 ポイント説明
- 15回 第八課 大阪(本文)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 60% 日常の授業への取り組み、小テスト等... 40%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。  
授業前に本文を読み、内容を把握しておくことが望ましい。

毎回出席すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

# 中国語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 1単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語VI	CHN211F

## 授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。

皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

- (1)本文読解を通じ、主に「読解・翻訳」面の強化に重点を置いた授業を行います。
- (2)中級レベルの文法を学び、少し長めの文章を作る・自分の言いたいことを言えるレベルを目指します。
- (3)本文読解を通じ日本への理解を深めると共に、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

## 教科書 /Textbooks

『遊学中国語 東遊記』中国・華語教学出版社

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

中日・日中電子辞書

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 ポイント説明
- 2回 第九課 宮島と下関(本文)
- 3回 第十課 ポイント説明
- 4回 第十課 九州(本文)
- 5回 第十一課 ポイント説明
- 6回 第十一課 福岡(本文)
- 7回 第十二課 ポイント説明
- 8回 第十二課 佐賀(本文)
- 9回 第十三課 ポイント説明
- 10回 第十三課 長崎(本文)
- 11回 第十四課 ポイント説明
- 12回 第十四課 四国(本文)
- 13回 第十五課 ポイント説明
- 14回 第十五課 仙台と北海道(本文)
- 15回 総合練習

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 60% 日常の授業への取り組み、小テスト等... 40%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。  
授業前に本文を読み、内容を把握しておくことが望ましい。

毎回出席すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

# 中国語Ⅶ【昼】

担当者名 蘇 君業 / 国際教育交流センター  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 英2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅶ	CHN202 F

## 授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

中国語中級者を対象に、実用的な中級レベルのコミュニケーションが取れることを目指します。

(1) 会話文の練習などを通して、正しい発音・自然な言い回しをしっかりと定着させます。

(2) 本文を通じ日本への理解を深めると共に、日本のことを中国語で紹介できる能力を身につけます。また、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

## 教科書 /Textbooks

『遊学中国語 東遊記』中国・華語教学出版社

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

中日・日中電子辞書



## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 日本紹介(会話) 練習
- 2回 第二課 東京(会話)
- 3回 第二課 練習
- 4回 第三課 横浜(会話)
- 5回 第三課 練習
- 6回 第四課 富士山と東照宮(会話)
- 7回 第四課 練習
- 8回 第五課 静岡と名古屋(会話)
- 9回 第五課 練習
- 10回 第六課 京都(会話)
- 11回 第六課 練習
- 12回 第七課 奈良と神戸(会話)
- 13回 第七課 練習
- 14回 第八課 大阪(会話)
- 15回 第八課 練習

## 成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・・40% 暗誦・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

毎回出席すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

# 中国語VIII 【昼】

担当者名 蘇 君業 / 国際教育交流センター  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 英2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅷ	CHN212 F

## 授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

中国語中級者を対象に、実用的な中級レベルのコミュニケーションが取れることを目指します。

(1) 会話文の練習などを通して、正しい発音・自然な言い回しをしっかりと定着させます。

(2) 本文を通じ日本への理解を深めると共に、日本のことを中国語で紹介できる能力を身につけます。また、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

## 教科書 /Textbooks

『遊学中国語 東遊記』中国・華語教学出版社

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

中日・日中電子辞書

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 宮島と下関（会話）
- 2回 第九課 練習
- 3回 第十課 九州（会話）
- 4回 第十課 練習
- 5回 第十一課 福岡（会話）
- 6回 第十一課 練習
- 7回 第十二課 佐賀（会話）
- 8回 第十二課 練習
- 9回 第十三課 長崎（会話）
- 10回 第十三課 練習
- 11回 第十四課 四国（会話）
- 12回 第十四課 練習
- 13回 第十五課 仙台と北海道（会話）
- 14回 第十五課 練習
- 15回 総合練習

## 成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・・40% 暗誦・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

毎回出席すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

# 上級中国語I 【昼】

担当者名 /Instructor 唐 雋 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英国済営比人3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎および応用を含むレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		上級中国語 I	CHN301 F

## 授業の概要 /Course Description

上級中国語Iは、中国語初・中級をひととおり終えた学習者のために、さらに一歩上の段階で学ぶ講義である。  
本講義は初・中級に続き、単語練習、聴解練習、短文作文、応用練習などすることによって、中国語の聴解と会話、作文力を身につけることを目標とする。  
主にビジネスに関する文章の学習を行い、聴く、話す、文章の作成能力に重点を置く。  
世界共通中国政府公認のビジネス中国語試験（BCI初級テスト）の内容も同時に指導する。  
参考資料などを通して中国の文化や風習などを紹介する。

## 教科書 /Textbooks

「実感から学ぶ中国語 - 中国で公務」日本語版、高等教育出版社（北京）、2010年3月  
「体験漢語 - 公務編」

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて参考資料を配布する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1学期
- 第1回 第1課 単語練習、聴解練習
  - 第2回 第1課 会話、作文練習
  - 第3回 第1課 場面の体験
  - 第4回 第2課 単語練習、聴解練習
  - 第5回 第2課 会話、作文練習
  - 第6回 第2課 場面の体験
  - 第7回 第3課 単語練習、聴解練習
  - 第8回 第3課 会話、作文練習
  - 第9回 第3課 場面の体験
  - 第10回 第4課 単語練習、聴解練習
  - 第11回 第4課 会話、作文練習
  - 第12回 第4課 場面の体験
  - 第13回 第5課 単語練習、聴解練習
  - 第14回 第5課 会話、作文練習
  - 第15回 第5課 場面の体験

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み30% 発表20% 定期試験50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

予習および復習する必要がある。  
できるだけ欠席しないこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

一緒に楽しく中国語を学びましょう。

就職に有利になる中国政府公認世界共通ビジネス中国語試験（BCT初級テスト）に挑戦してほしい。

## キーワード /Keywords

日常生活用語　ビジネス用語、　会話力、　ビジネス文章

# 上級中国語II 【昼】

担当者名 /Instructor 唐 雋 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英国済営比人3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎および応用を含むレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		上級中国語II	CHN311F

## 授業の概要 /Course Description

上級中国語IIは、中国語初・中級をひととおり終えた学習者のために、さらに一歩上の段階で学ぶ講義である。  
本講義は初・中級に続き、単語練習、聴解練習、短文作文、応用練習などを行うことによって、中国語の聴解と会話、作文力を身につけることを目標とする。  
主にビジネスに関する文章の学習を行い、聴く、話す、文章の作成能力に重点を置く。  
参考資料などを通して中国の文化や風習などを紹介する。  
中国政府公認世界共通ビジネス中国語試験（BCT初級テスト）の内容も同時に指導する。

## 教科書 /Textbooks

「実感から学ぶ中国語 - 中国で公務」日本語版、高等教育出版社（北京）、2010年3月  
「体験漢語 - 公務編」

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて参考資料を配布する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第2学期

- 第1回 第6課 単語、聴解練習
- 第2回 第6課 会話、作文練習
- 第3回 第6課 場面の体験
- 第4回 第7課 単語、聴解練習
- 第5回 第7課 会話、作文練習
- 第6回 第7課 場面の体験
- 第7回 第8課 単語、聴解練習
- 第8回 第8課 会話、作文練習
- 第9回 第8課 場面の体験
- 第10回 第9課 単語、聴解練習
- 第11回 第9課 会話、作文練習
- 第12回 第9課 場面の体験
- 第13回 第10課 単語、聴解練習
- 第14回 第10課 会話、作文練習
- 第15回 第10課 場面の体験

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み30% 発表20% 定期試験50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

予習する必要がある。  
できるだけ欠席しないこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

一緒に楽しく中国語を学びましょう。

就職に有利になる中国政府公認世界共通ビジネス中国語試験（BCT初級テスト）に挑戦してほしい。

## キーワード /Keywords

日常生活用語　ビジネス用語、　会話力、　ビジネス文章

# 上級中国語Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター

履修年次 /Year 3年次 /3rd Year 単位 /Credits 1単位 /1 Credit 学期 /Semester 1学期 /1st Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 英国済営比人 3年 /British Business and Economics 3rd Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎および応用を含むレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			上級中国語Ⅲ	CHN302 F

## 授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎を習得した学生を対象に、やや複雑な文章や長文の読解、作文を教授学習する。なお、「聴く」、「話す」、「読む」、「書く」四つの能力を総合的にバランスよく基本的な表現方式を実習し、一場面ずつ簡単なビジネス中国語を身に付け、将来の就職に役に立つように気を配る。それと同時に、日本で同じ場面で中国（台湾・香港などを含む）の観光客を接客する際における活用方法も勉強する。また、中国語検定試験・中国語HSK試験などの能力試験を受けるため、語学資格検定の試験問題も練習する。

## 教科書 /Textbooks

『就職に役立つ中国語』[改定版]王占華・劉慶 駿河台出版社、補充プリント

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

○『中国語学概論』(改訂版)王占華 他 駿河台出版社

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義の目標と進め方について これまで習った内容の復習
- 2回 面接、【動詞と時量】
- 3回 電話を掛ける【呼び方】
- 4回 復習、中間小テスト
- 5回 ホームページのアドレスと電子メール【開始+動詞】
- 6回 約束【全面否定・肯定】
- 7回 復習、中間小テスト
- 8回 空港への出迎え【願望】
- 9回 食事に招待する【比況表現】
- 10回 復習、中間小テスト
- 11回 町を見物する【軽量表現】
- 12回 空港見送り【仮定表現】
- 13回 復習、中間小テスト
- 14回 ホテルの予約【起点・終点】
- 15回 総合復習

## 成績評価の方法 /Assessment Method

普段の小練習...50% 期末試験...50%。(就職活動・教育実習による欠席分について相談可。)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review



## 履修上の注意 /Remarks

教科書が実用的な内容で、それほど難しくないが、この授業を通じ、社会人として基礎的な中国語の運用能力を身に付けてもらいたい。従って、積極的な予習と「聴く」「話す」を中心とする反復練習を望む。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「外国語は用いる時になってはじめてその重要さを感じるものだ。」実力としての中国語運用能力を身につけておこう。  
「外国語は単なる知識ではなく、能力である。」車の免許をとるために、いくら理論的な条文を暗記しても、路上練習をしなければ運転できない。「一回の実践は百回の丸暗記に勝る」。

## キーワード /Keywords

中国語の実用会話 中国語基礎コミュニケーション能力 中国語資格試験 中国事情 中国文化

# 上級中国語Ⅳ 【昼】

基盤教育科目  
外国語教育科目  
第二外国語

担当者名 /Instructor 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎および応用を含むレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			上級中国語Ⅳ	CHN312F

## 授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎を習得した学生を対象に、やや複雑な文章や長文の読解、作文を教授学習する。なお、「聴く」、「話す」、「読む」、「書く」四つの能力を総合的にバランスよく基本的な表現方式を実習し、一場面ずつ簡単なビジネス中国語を身に付け、将来の就職に役に立つように気を配る。それと同時に、日本で同じ場面で中国（台湾・香港などを含む）の観光客を接客する際における活用方法も勉強する。また、中国語検定試験・中国語HSK試験などの能力試験を受けるため、語学資格検定の試験問題も練習する。

## 教科書 /Textbooks

『就職に役立つ中国語』 [改定版] 王占華・劉慶 駿河台出版社

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

○『中国語学概論』(改訂版) 王占華 他 駿河台出版社

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義の目標と進め方について、1学期習った内容の復習
- 2回 税関で【結果補語1】
- 3回 タクシーに乗る【距離表現】
- 4回 復習、中間小テスト
- 5回 チェックイン【受身主語文】
- 6回 道をたずねる【連鎖表現】
- 7回 復習、中間小テスト
- 8回 両替【等分表現】
- 9回 レストランで食事する【結果補語2】
- 10回 復習、中間小テスト
- 11回 サンプルを送る【比較表現】
- 12回 列車の乗車券を買う【強調表現】
- 13回 復習、中間小テスト
- 14回 おみやげを買う【疑問詞の非疑問用法】
- 15回 総合復習

## 成績評価の方法 /Assessment Method

普段の小練習...50% 期末試験...50%。(就職活動・教育実習による欠席分について相談可。)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

教科書が実用的な内容で、それほど難しくないが、この授業を通じ、社会人として基礎的な中国語の運用能力を身に付けてもらいたい。従って、積極的な予習と「聴く」「話す」を中心にする反復練習を望む。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「外国語は用いる時になってはじめてその重要さを感じるものだ。」実力としての中国語運用能力を身につけておこう。  
「外国語は単なる知識ではなく、能力である。」車の免許をとるために、いくら理論的な条文を暗記しても、路上練習をしなければ運転できない。「一回の実践は百回の丸暗記に勝る」。

## キーワード /Keywords

中国語の実用会話 中国語基礎コミュニケーション能力 中国語資格試験 中国事情 中国文化

# 朝鮮語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅰ	KRN101 F

## 授業の概要 /Course Description

基本となる文字と発音の訓練に力を注ぎ、正確な読み書きができることを第一の目標とする。同時に簡単なあいさつ表現や初歩的な会話表現なども学びたいと思う。

## 教科書 /Textbooks

巖基珠 他 『韓国語の初歩 改訂版』、白水社(2010年3月)、2,200円

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

辞典 『朝鮮語辞典』 小学館

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション 【韓国語入門の予備知識】
- 2回 基本母音字とその発音 【基本母音】
- 3回 基本子音字(平音)とその発音 【基本子音】
- 4回 基本子音字(平音)とその発音 【基本子音】
- 5回 子音(激音)字とその発音 【派生子音1】
- 6回 子音(濃音)字とその発音 【派生子音2】
- 7回 合成母音字とその発音 【派生母音】
- 8回 終声子音字とその発音 【バッチム】
- 9回 終声子音字とその発音 【バッチム】
- 10回 連音化、激音化、濃音化 【音の変化】
- 11回 連音化、激音化、濃音化 【音の変化】
- 12回 辞書を引いてみよう 【辞典の引き方】
- 13回 自己紹介 【指定詞の丁寧形】
- 14回 自己紹介 【指定詞の丁寧形】
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の学習への取り組みと試験による評価。  
授業中に遅刻や私語、無断欠席などで注意された場合は減点の対象になる。  
定期試験50% / 平常点50% (小テスト・課題・態度)。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

予習・復習をすること。  
特に予習の課題が多いので必ずノートを作ること。  
欠席が多い場合は平常点が少なくなるので、そのことを自覚してしっかり取り組むこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく書きましょう。

## キーワード /Keywords

# 朝鮮語Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 1単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 英 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅱ	KRN111 F

## 授業の概要 /Course Description

朝鮮語の初級文法・基本語彙などを習得し、簡単な文章が書けるようになること、また同程度の読解力ができることを目指す。

## 教科書 /Textbooks

巖基珠 他 『韓国語の初歩 改訂版』、白水社（2010年3月）、2,200円

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

辞典『朝鮮語辞典』小学館

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前期の復習
- 2回 会社員ではありません【体言否定】
- 3回 どこで習っていますか【用言の基本形・丁寧形】【指示代名詞】
- 4回 どこで習っていますか【用言の基本形・丁寧形】【指示代名詞】
- 5回 暑くありません【用言の否定形】
- 6回 誕生日はいつですか【打ち解けた丁寧形】【漢数詞】
- 7回 誕生日はいつですか【固有数詞】【時間の言い方】
- 8回 どこで住んでいますか【動詞の連用形】
- 9回 どこで住んでいますか【動詞の連用形】
- 10回 先生、いらっしゃいますか【敬語】
- 11回 何をしましたか【過去形】
- 12回 何をしましたか【過去形】
- 13回 何を召し上がりますか【意志・推量形】
- 14回 何を召し上がりますか【意志・推量形】
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の学習への取り組みと試験による評価。  
授業中に遅刻や私語、無断欠席などで注意された場合は減点の対象になる。  
定期試験50% / 平常点50% (小テスト・課題・態度)。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

予習・復習をすること。  
特に予習の課題が多いので必ずノートを作ること。  
欠席が多い場合は平常点が少なくなるので、そのことを自覚してしっかり取り組むこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく書きましょう！

## キーワード /Keywords

# 朝鮮語Ⅲ【昼】

担当者名 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 英 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅲ	KRN102F

## 授業の概要 /Course Description

基本となる文字と発音の訓練に力を注ぎ、正確な読み書きができることを第一の目標とする。同時に簡単なあいさつ表現や初歩的な会話表現なども学びたいと思う。

## 教科書 /Textbooks

金順玉 他 『最新チャレンジ！韓国語』、白水社（2014年3月）、2,300円

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

辞典『朝鮮語辞典』小学館

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【韓国語入門の予備知識】
- 2回 基本母音字とその発音【基本母音】
- 3回 基本子音字（平音）とその発音【基本子音】
- 4回 基本子音字（平音）とその発音【基本子音】
- 5回 子音（激音）字とその発音【派生子音1】
- 6回 子音（濃音）字とその発音【派生子音2】
- 7回 合成母音字とその発音【派生母音】
- 8回 終声子音字とその発音【バッチム】
- 9回 終声子音字とその発音【バッチム】
- 10回 連音化、激音化、濃音化【音の変化】
- 11回 連音化、激音化、濃音化【音の変化】
- 12回 辞典を引いてみよう【辞典の引き方】
- 13回 自己紹介【指定詞の丁寧形】【～です/ですか】
- 14回 自己紹介【指定詞の丁寧形】【～といます】
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の学習への取り組みと試験による評価。  
授業中に遅刻や私語、無断欠席などで注意された場合は減点の対象になる。  
定期試験50% / 平常点50%(小テスト・課題・態度)。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

予習・復習をすること。  
特に予習の課題が多いので必ずノートを作ること。  
授業中、発表や発言が多く求められるので、授業に積極的に参加すること。  
欠席が多い場合は平常点が少なくなるので、そのことを自覚してしっかり取り組むこと。



## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく話しましょう！

## キーワード /Keywords

# 朝鮮語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅳ	KRN112F

## 授業の概要 /Course Description

初級文法に基づいた会話表現を中心に、聞き取り・発話の練習を反復し、またペアなどを組んで応答練習を多く行う。習った表現を活用して、自分自身の身の回りのことなど、基礎レベルでの会話をなめらかに表現できるようになることを目指す。

## 教科書 /Textbooks

金順玉 他 『最新チャレンジ！韓国語』、白水社（2014年3月）、2,300円

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

辞典『朝鮮語辞典』小学館

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前期の復習
- 2回 時間ありますか【存在の有無】【助詞】
- 3回 時間ありますか【存在の有無】【助詞】
- 4回 それは何ですか【指示代名詞】【疑問代名詞】
- 5回 それは何ですか【指示代名詞】【疑問代名詞】
- 6回 何時ですか【固有数詞】【時間】【助数詞】
- 7回 初デートの約束【漢数詞】【年月日】【電話番号】
- 8回 初デートの約束【漢数詞】【年月日】【電話番号】
- 9回 何が好きですか【うちとけた丁寧形】【用言の否定形】【願望形】
- 10回 何が好きですか【うちとけた丁寧形】【用言の否定形】【願望形】
- 11回 週末には何をしましたか【過去形】【接続語1】
- 12回 週末には何をしましたか【過去形】【接続語1】
- 13回 スープが冷たくておいしいです【接続語2】【逆接】
- 14回 スープが冷たくておいしいです【接続語2】【逆接】
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の学習への取り組みと試験による評価。  
授業中に遅刻や私語、無断欠席などで注意された場合は減点の対象になる。  
定期試験50% / 平常点50% (小テスト・課題・態度)。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

予習・復習をすること。  
特に予習の課題が多いので必ずノートを作ること。  
授業中、発表や発言が多く求められるので、授業に積極的に参加すること。  
欠席が多い場合は平常点が少なくなるので、そのことを自覚してしっかり取り組むこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく話しましょう！

## キーワード /Keywords

# 朝鮮語Ⅴ【昼】

担当者名  
/Instructor

チャン ユンヒャン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次  
/Year

単位 1単位  
/Credits

学期 1学期  
/Semester

授業形態 講義  
/Class Format

クラス 英2年  
/Class

対象入学年度  
/Year of School Entrance

2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
									○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			朝鮮語Ⅴ	KRN201 F

### 授業の概要 /Course Description

基礎文法に基づいて応用力を伸ばすことに努める。より多くの語彙を習得するために、慣用表現とことわざ意および漢字語を習得するように指導する。それを用いて実際コミュニケーションをする基礎になる文法を学び、作文練習も行う。長文や文学作品が理解できる基礎をしっかりと学習するのを目指したい。

### 教科書 /Textbooks

楽しくできる韓国語初級II、李志暎外 1、アスク出版社

### 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』油谷幸利ほか(小学館)  
ISBN4-09-506141-3

### 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 第1課 動詞の現在連体形
- 3回 第1課 動詞の現在連体形
- 4回 第2課 動詞の過去連体形
- 5回 第2課 動詞の過去連体形
- 6回 第3課 動詞の未来連体形
- 7回 第3課 動詞の未来連体形
- 8回 第4課 形容詞の現在連体形
- 9回 第5課 接続語尾 -는데
- 10回 第5課 接続語尾 -는데
- 11回 第6課 ㄷ不規則活用
- 12回 第7課 ㄹ不規則活用
- 13回 第8課 ㄴ不規則活用
- 14回 第8課 ㄴ不規則活用
- 15回 まとめ

### 成績評価の方法 /Assessment Method

発表・課題・小テスト 50% 定期試験 50%

### 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

### 履修上の注意 /Remarks

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定なので、前回の授業の内容を復習し、次回の予習をしておく必要がある。朝鮮語Ⅶと並行して進行するので、同時に受講すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく学び、韓国語が上手に話せる日を目指して頑張りましょう。

## キーワード /Keywords

# 朝鮮語VI 【昼】

担当者名  
/Instructor

チャン ユンヒャン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 英2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
									○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語VI	KRN211F

## 授業の概要 /Course Description

基礎文法に基づいて応用力を伸ばすことに努める。より多くの語彙を習得するために、慣用表現とことわざおよび漢字語を習得できるように指導する。それを用いて実際コミュニケーションをする基礎になる文法を学び、作文練習を行う。長文や文学作品が理解できる基礎をしっかりと学習するのを目指したい。

## 教科書 /Textbooks

「楽しくできる韓国語初級II」、李志暎外1、アスク出版社

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』油谷幸利 ほか (小学館)  
ISBN4-09-506141-3

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前期の復習
- 2回 第9課 ㄹ不規則活用
- 3回 第9課 ㄹ不規則活用
- 4回 第10課 ㅎ不規則活用
- 5回 第10課 ㅎ不規則活用
- 6回 第11課 話者の意思・約束
- 7回 第11課 話者の意思・約束
- 8回 第12課 状態の継続
- 9回 第12課 禁止命令
- 10回 第13課 推量表現
- 11回 第13課 推量表現
- 12回 第14課 前後の話法
- 13回 第16課 時間の経過
- 14回 第16課 意向伝達
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

発表・課題・小テスト 50% 定期試験 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定なので、前回の授業の内容を復習し、次回の予習をしておく必要がある。朝鮮語VIIと並行して進行するので、同時に受講すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく学び、韓国語が上手に話せる日を目指して頑張りましょう。

## キーワード /Keywords

# 朝鮮語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅶ	KRN202 F

## 授業の概要 /Course Description

毎回、先週の出来事などを報告してもらい、自然な日常会話に慣れるよう心懸ける。日常生活の様々な場面で使える実用的な会話を中心に暗記や発話の練習を反復し、またペアなどを組んで応答練習を多く行う。この際は、受講者自らの表現による会話なども演じさせ、実際に自分の言葉で表現できるよう訓練していく。学習事項にこだわらず、その時期の韓国の若者の流行語なども紹介し、朝鮮語の表現をより豊かにしたい。

## 教科書 /Textbooks

金順玉 他 『ちょこっとチャレンジ! 韓国語』、白水社 (2011年3月)、2,400円

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

辞典『朝鮮語辞典』小学館

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 お名前なんとおっしゃいますか?【インタビューする】
- 3回 お名前なんとおっしゃいますか?【インタビューする】
- 4回 朝子といいますが、日本から来ました。【自己紹介をする】
- 5回 朝子といいますが、日本から来ました。【自己紹介をする】
- 6回 朝子といいますが、日本から来ました。【自己紹介をする】
- 7回 魚は焼かないでください。【決まりを言う】
- 8回 魚は焼かないでください。【決まりを言う】
- 9回 ファンの集いに行くことにしました。【約束をする】
- 10回 ファンの集いに行くことにしました。【約束をする】
- 11回 ファンの集いに行くことにしました。【約束をする】
- 12回 道を渡って左にずっと行ってください。【道案内をする】
- 13回 道を渡って左にずっと行ってください。【道案内をする】
- 14回 道を渡って左にずっと行ってください。【道案内をする】
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の学習への取り組みと試験による評価。  
授業中に遅刻や私語、無断欠席などで注意された場合は減点の対象になる。  
定期試験50% / 平常点50% (発表・課題・小テスト・態度)。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review



## 履修上の注意 /Remarks

毎回、先週のできことを報告してもらおう。  
予習・復習をすること。  
特に予習の課題が多いので必ずノートを作ること。  
授業中、発表や発言が多く求められるので、授業に積極的に参加すること。  
欠席が多い場合は平常点が少なくなるので、そのことを自覚してしっかり取り組むこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく話しましょう！

## キーワード /Keywords

# 朝鮮語Ⅷ 【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅷ	KRN212 F

## 授業の概要 /Course Description

毎回、先週の出来事を報告してもらい、自然な会話に慣れるよう心懸ける。日常生活の様々な場面で使える実用的な会話を中心に暗記や発話の練習を反復し、またペアなどを組んで応答練習を多く行う。この際は、受講者自らの表現による会話なども演じさせ、実際に自分の言葉で表現できるよう訓練していく。学習事項にこだわらず、その時期の韓国の若者の流行語なども紹介し、朝鮮語の表現をより豊かにしたい。

## 教科書 /Textbooks

金順玉 他 『ちょこっとチャレンジ! 韓国語』、白水社 (2011年3月)、2,400円

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

辞典『朝鮮語辞典』小学館

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 自由会話【夏休みの出来事】
- 2回 ファンの集いへ行ってみたんですけど。【感想を言う】
- 3回 ファンの集いへ行ってみたんですけど。【感想を言う】
- 4回 少し安くしてください。【買い物をする】
- 5回 少し安くしてください。【買い物をする】
- 6回 少し安くしてください。【買い物をする】
- 7回 私の気持ちですから受け取ってください。【プレゼントをする】
- 8回 私の気持ちですから受け取ってください。【プレゼントをする】
- 9回 咳がひどくて眠れませんでした。【体の具合を言う】
- 10回 咳がひどくて眠れませんでした。【体の具合を言う】
- 11回 咳がひどくて眠れませんでした。【体の具合を言う】
- 12回 字幕を見ながら勉強します。【勉強の仕方を話す】
- 13回 字幕を見ながら勉強します。【勉強の仕方を話す】
- 14回 字幕を見ながら勉強します。【勉強の仕方を話す】
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の学習への取り組みと試験による評価。  
授業中に遅刻や私語、無断欠席などで注意された場合は減点の対象になる。  
定期試験50% / 平常点50% (発表・課題・小テスト・態度)。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 朝鮮語VIII 【昼】

### 履修上の注意 /Remarks

毎回、先週のできことを報告してもらおう。

予習・復習をすること。

特に予習の課題が多いので、必ずノートを作ること。

授業中、発表や発言が多く求められるので、授業に積極的に参加すること。

欠席が多い場合は平常点が少なくなるので、そのことを自覚してしっかり取り組むこと。

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく話しましょう！

### キーワード /Keywords

# 上級朝鮮語I 【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎および応用を含むレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			上級朝鮮語 I	KRN301 F

## 授業の概要 /Course Description

日常の身近なできごとをテーマにした様々な文章を読むことを通して、読解力を身につけることを目標とする。同時にテーマに沿った応用作文の練習を多く行い、文章力の養成を目指す。学習事項にこだわらず、慣用句や韓国独自の表現なども紹介し、韓国語による文章力をより高めていきたい。授業中の言葉は原則として朝鮮語を使う。

## 教科書 /Textbooks

曹喜澈 『ウリマル』、白帝社（2006年2月）、2,600円

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

辞典『朝鮮語辞典』（小学館）など。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 自己紹介【講読】
- 3回 自己紹介【作文】
- 4回 私の家【講読】
- 6回 私の家【作文】
- 7回 私の学校【講読】
- 8回 私の学校【作文】
- 9回 病院と薬局【講読】
- 10回 病院と薬局【作文】
- 11回 手紙【講読】
- 12回 手紙【作文】
- 13回 趣味【講読】
- 14回 趣味【作文】
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の学習への取り組みと試験による評価。  
授業中に遅刻や私語、無断欠席などで注意された場合は減点の対象になる。  
定期試験50% / 平常点50%（作文・小テスト・課題・態度）。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

毎回、訳を作成してもらうので必ず辞書を持参すること。  
予習の課題が多いのでノートを作ること。  
テキストに出る文型や語句を覚えること。  
授業中、発表や発言が多く求められるので、授業に積極的に参加すること。  
欠席が多い場合は平常点が少なくなるので、そのことを自覚してしっかり取り組むこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく文章を作りましょう！

## キーワード /Keywords

# 上級朝鮮語II 【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次  
単位 /Credits 1単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 英中国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎および応用を含むレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		上級朝鮮語II	
		KRN311 F	

## 授業の概要 /Course Description

日常の身近なできごとをテーマにした様々な文章を読むことを通して、読解力を身につけることを目標とする。同時にテーマに沿った応用作文の練習を多く行い、文章力の養成を目指す。学習事項にこだわらず、慣用句や韓国独自の表現なども紹介し、韓国語による文章力をより高めていきたい。授業中の言葉は原則として朝鮮語を使う。

## 教科書 /Textbooks

曹喜澈 『ウリマル』、白帝社 (2006年2月)、2,600円

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

辞典『朝鮮語辞典』(小学館)など。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 映画【講読】
- 3回 映画【作文】
- 4回 地下鉄【講読】
- 5回 地下鉄【作文】
- 6回 感想文【講読】
- 8回 感想文【作文】
- 9回 日記【講読】
- 10回 日記【作文】
- 11回 試験【講読】
- 12回 試験【作文】
- 13回 韓国と日本【講読】
- 14回 韓国と日本【作文】
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の学習への取り組みと試験による評価。  
授業中に遅刻、私語、無断欠席などで注意さらた場合は減点の対象になる。  
定期試験50% / 平常点50% (作文・小テスト・課題・態度)。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

毎回、訳を作成してもらうので必ず辞書を持参すること。  
予習の課題が多いのでノートを作ること。  
テキストに出る文型や語句を覚えること。  
授業中、発表や発言が多く求められるので、授業に積極的に参加すること。  
欠席が多い場合は平常点が少なくなるので、そのことを自覚してしっかり取り組むこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく文章を作りましょう！

## キーワード /Keywords

# 上級朝鮮語Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor チャン ユンヒャン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次  
単位 /Credits 1単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 英中国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎および応用を含むレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		上級朝鮮語Ⅲ	KRN302 F

## 授業の概要 /Course Description

日常生活だけでなく、韓国全般に及ぶ社会と文化の理解を談話に取り入れ、対話を誘導できることを目指して練習する。そうすることで、自分が表現したいことを流暢に表現できること、応用文型まで幅広く会話形式、発表形式でコミュニケーション能力を高める。さらに、グループ研究発表の時間を設け、異文化理解を深める契機となることを目指す。  
専門的な用語と社会全般の説明が理解出来る多彩な文型と諺を無理なく駆使できるようになることを目標とする。

## 教科書 /Textbooks

プリント配布

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利 ほか ( 小学館 )  
ISBN4-09-506141-3

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 授業概要、オリエンテーション (韓国語で自己紹介を含む)
2. 必要な文法事項確認及び練習：良い人間関係を維持する方法
3. 会話練習：良い人間関係について
4. 聞き取り：良い人間関係
5. 討論する：良い人間関係について
6. 必要な文法事項確認及び練習：公演情報を伝達する
7. 聞き取り：公演情報の
8. 会話練習：公演情報を伝達する
9. 必要な文法事項確認及び練習：余暇活動のおすすめ
10. 聞き取り：余暇活動の長所
11. 会話練習：余暇活動を勧める
12. 必要な文法事項確認及び練習：友達にアドバイスする
13. 聞き取り：感情表現
14. 会話練習：友達にアドバイスする
15. まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

発表・課題・小テスト・プレゼンテーション 50% 定期試験 50%

毎回の小テストと暗記、筆記の課題と授業の参加態度も総合的に評価する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review



## 履修上の注意 /Remarks

単元ごとにスキットの暗記と応用会話を演じ、同じテーマを持って自分の意見を発表出来るように、事前に予習をする必要がある。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

韓国語でコミュニケーションする楽しさを体験しましょう。

## キーワード /Keywords

# 上級朝鮮語Ⅳ 【昼】

基盤教育科目  
外国語教育科目  
第二外国語

担当者名  
/Instructor

チャン ユンヒャン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次  
/Year

単位 1単位  
/Credits

学期 2学期  
/Semester

授業形態 講義  
/Class Format

クラス 英中国済営比人  
/Class 3年

対象入学年度  
/Year of School Entrance

2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
									○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎および応用を含むレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		上級朝鮮語Ⅳ	KRN312F

## 授業の概要 /Course Description

日常生活だけではなく、韓国全般に及ぶ社会と文化の理解を談話に取り入れ、対話を誘導できることを目指して練習する。そうすることで、自分が表現したいことを流暢に表現できること、応用文型まで幅広く会話形式、発表形式でコミュニケーション能力を高める。さらに、グループ研究発表の時間を設け、異文化理解を深める契機となることを目指す。

## 教科書 /Textbooks

プリント配布

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利 ほか (小学館)  
ISBN4-09-506141-3

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 授業のオリエンテーション
2. 必要な文法事項確認及び練習：紛失物を探す
3. 聞き取り：地下鉄の紛失物センター
4. 会話練習：紛失した場所を推測する
5. 必要な文法事項確認及び練習：友達を説得する
6. 聞き取り：成功した人物の談話プログラム
7. 会話練習：友達を説得する
8. 討論する：異文化コミュニケーション
9. 必要な文法事項確認及び練習：異性問題の相談
10. 聞き取り：夫との出会い
11. 会話練習：異性問題についてアドバイスする
12. 必要な文法事項確認及び練習：失敗に関する言い訳
13. 聞き取り：言い訳
14. 会話練習：失敗に関する言い訳
15. まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

発表・課題・小テスト・会話テスト 50% 定期試験 50%

毎回の小テストと暗記、筆記の課題と授業の参加態度も総合的に評価する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

韓国語のコミュニケーションを楽しみましょう。

キーワード /Keywords

# ロシア語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 /北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ロシア語Ⅰ	RUS101 F

## 授業の概要 /Course Description

読み書き、標準的発音の習得に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

## 教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社  
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ロシア語概論、アルファベット
- 2回 文字と発音：母音、子音(1)、アクセント、疑問詞のある疑問文と答え方(1)
- 3回 子音(2)、疑問詞のある疑問文と答え方(2)、硬子音と軟子音、名詞の性
- 4回 所有代名詞、疑問詞のある疑問文と答え方(3)、有声子音と無声子音、子音の発音規則
- 5回 硬音記号と軟音記号、疑問詞のない疑問文と答え方、イントネーション
- 6回 50音のロシア文字表記法
- 7回 一課前半 テキストの読み、内容解説、挨拶表現、ロシア人の名、自己紹介の練習
- 8回 一課後半 テキストの読み、内容解説、人称代名詞、国名・国民名、名詞複数形
- 9回 二課前半 テキストの読み、内容解説、動詞の現在変化、接続詞、副詞、練習問題
- 10回 二課後半 テキストの読み、内容解説、名詞格変化(対格)、和文露訳
- 11回 三課前半 テキストの読み、内容解説、所有表現、名詞格変化(前置格)、練習問題
- 12回 三課後半 テキストの読み、内容解説、形容詞、複数専用名詞、前置詞用法、和文露訳
- 13回 四課前半 テキストの読み、内容解説、動詞過去、個数詞、時間表現、練習
- 14回 四課後半 テキストの読み、内容解説、動詞の体、名詞格変化(生格)、和文露訳
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト ... 20% 授業への参加度 ... 20%  
(欠席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

2-3回毎に1回の割合で単語力・文法事項の理解力を問う小テストを行う。また、本課に入れば、2回に1回の割合で、和文露訳の問題を課する。習ったことの復習に時間をかけて授業準備をすること。

# ロシア語I【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# ロシア語Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 /北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ロシア語Ⅱ	RUS111 F

## 授業の概要 /Course Description

読み書き、標準的発音の習得に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

## 教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社  
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 一学期に習ったことの復習(1)
- 2回 一学期に習ったことの復習(2)
- 3回 五課前半 テキストの読み、内容解説、動詞未来、前置詞句(1)、曜日
- 4回 五課後半 テキストの読み、内容解説、完了動詞未来、不定人称文、命令形、和文露訳
- 5回 六課前半 テキストの読み、内容解説、運動の動詞、行先表現、交通手段表現
- 6回 六課後半 テキストの読み、内容解説、出発と到着表現、場所に関する疑問詞、和文露訳
- 7回 七課前半 テキストの読み、内容解説、形容詞と副詞について、数量表現
- 8回 七課後半 テキストの読み、内容解説、述語副詞、四季、方位、月、和文露訳
- 9回 八課前半 テキストの読み、内容解説、無人称述語、動詞の格支配(1)(2)
- 10回 八課後半 テキストの読み、内容解説、義務・可能性表現、動詞の格支配(3)、和文露訳
- 11回 九課前半 テキストの読み、内容解説、年齢表現、年月日表現、比較級
- 12回 九課後半 テキストの読み、内容解説、値段表現、授与動詞、仮定法、和文露訳
- 13回 十課前半 テキストの読み、内容解説、関係代名詞、形容詞最上級、形容詞格変化
- 14回 十課後半 テキストの読み、内容解説、単文と複文、直接話法と間接話法、ことわざ
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト ... 20% 授業への参加度 ... 20%  
(欠席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

単語力・文法事項の理解力を問う小テストを行う。また、本課に入れば、2回に1回の割合で、和文露訳の問題を課する。復習に力を入れて授業準備すること。

# ロシア語II 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# ロシア語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor: ナタリア・シェスタコワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year: 1年次 / 単位 /Credits: 1単位 / 学期 /Semester: 1学期 / 授業形態 /Class Format: 講義 / クラス /Class: 英1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ロシア語Ⅲ	RUS102 F

## 授業の概要 /Course Description

「聞き取り・発音」、「会話」に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行う。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行い、異文化理解を深める。

## 教科書 /Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社 ¥1,400  
ビデオ教材も活用する予定

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚編 白水社

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ロシア語とはどんな言葉か？【母音と母音文字】、【こんにちは】
- 2回 ロシア語のアルファベット【交際】
- 3回 短文のイントネーション 【これは誰ですか】、【これは何ですか】
- 4回 簡単な問いと答え 【あなたは学生ですか】、【お元気ですか】
- 5回 第1課① 【挨拶】、【紹介】
- 6回 第1課② 【ロシア人の名前】、【これは誰のものですか】
- 7回 第1課③ 会話
- 8回 第2課① 【教室でロシア語】
- 9回 第2課② 【動詞現在変化】、【私は本を読んでいます】
- 10回 第2課③ 【趣味】、【私はロシア語を話します】
- 11回 第3課① 【家族の紹介】
- 12回 第3課② 【名詞の前置格】、【あなたの家族はどこにお住まいですか】
- 13回 第3課③ 【形容詞】、【これは新しい車です】
- 14回 復習
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 10% 宿題... 10% 期末試験... 80%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

なし

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor



キーワード /Keywords

# ロシア語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor: ナタリア・シェスタコワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year: 1年次  
単位 /Credits: 1単位  
学期 /Semester: 2学期  
授業形態 /Class Format: 講義  
クラス /Class: 英1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ロシア語Ⅳ	RUS112F

## 授業の概要 /Course Description

「聞き取り・発音」、「会話」に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行う。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行い、異文化理解を深める。

## 教科書 /Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社 ￥1,400  
ビデオ教材も活用する予定

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚編 白水社

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第4課① 【一日の生活】、【過去の表現】
- 2回 第4課② 【時間表現】
- 3回 第4課③ 【動詞の体】、【昨日あなたは何をしましたか】
- 4回 第4課④ 【不完了体と完了体】、【あなたは宿題をしまいましたか】
- 5回 第5課① 【休日】、【動詞の未来】
- 6回 第5課② 【曜日名】、【明日あなたは何をしますか】
- 7回 第5課③ 【名詞の造格】、【命令形】
- 8回 第5課④ 【どうぞ、午後に私に電話してください】
- 9回 第6課① 【交通】、【運動の動詞】
- 10回 第6課② 【交通手段と行先】、【あなたはどこへ行くのですか】
- 11回 第6課③ 【電話】、【出発と到着の表現】
- 12回 第6課④ 【あなたはどこから来ましたか】
- 13回 会話 【どこへ】、【どこに】、【どこから】
- 14回 復習
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 10% 宿題... 10% 期末試験... 80%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

なし

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# ロシア語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ロシア語Ⅴ	RUS201 F

## 授業の概要 /Course Description

一年次に習ったロシア語の語彙、基礎文法、読み書き、聞き取り・発音を練習しつつ、応用力の向上を目指す。「読解・解釈」と「文法・語法」に重点を置く。  
到達目標は、辞書を使って中級の読み物が理解できるようになる。

## 教科書 /Textbooks

プリント配布（「百万人のロシア語」）

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

博友社「ロシア語辞典」、研究社「露和辞典」、岩波書店「ロシア語辞典」など数万語以上の見出し語を持つロシア語辞書が必要

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 < СКОРО ПЕРВОЕ СЕНТЯБРЯ > 名詞の性、不規則変化動詞、形容詞前置格
- 2 回 < МАМА И ФУТБОЛ > 多義動詞の用法、関係副詞構文、形容詞短語尾、全否定構文
- 3 回 < МАТЬ > 関係副詞構文、関係代名詞構文、不規則変化動詞、名詞単数・複数の使分け
- 4 回 < САЛЮТ > 複文の種類と構造、不規則変化動詞、第二生格
- 5 回 < ГИПНОЗ > 不定人称文、「・・する」の後結合、完了動詞・不完了動詞
- 6 回 < ВАЖНЫЙ РАЗГОВОР > 願望を意味する動詞と複文、運動の動詞の派生語
- 7 回 < ТРУДНЫЙ ЭКЗАМЕН > 動詞の格支配、複文、否定生格
- 8 回 < ДОМ ОТДЫХА > 時の表現、動詞の体
- 9 回 < БАБУШКА И ВОВКА > 動詞の格支配、不規則変化動詞
- 10 回 < ВТОРАЯ МОЛОДОСТЬ > 複文、動詞の体
- 11 回 < О ЧЁМ ДУМАЕТ МАРАБУ > 年月日表現、年齢表現、形容詞格変化復習
- 12 回 < КАК Я ВСТРЕЧАЛ НОВЫЙ ГОД > 不定法構文、無人称文
- 13 回 < ЛЮБИМЫЙ ПРАЗДНИК > 個数詞 + 形容詞 + 名詞の語結合、所有形容詞
- 14 回 < ЭТО СЛУЧИЛОСЬ В ВОЗДУХЕ > 「互いに」の表現、運動の動詞、不定代名詞
- 15 回 まとめと復習：構文

## 成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 50% 授業への参加度 ... 50 %  
(欠席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

出席者には毎回、テキストの読み・和訳の発表を課するので、予習が必要。

# ロシア語V 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# ロシア語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 1単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ロシア語VI	RUS211 F

## 授業の概要 /Course Description

会話テキスト「ロシアでの一ヶ月」の読み、訳、練習問題をこなすことで、ロシア語運用力の向上を目指す。  
到達目標は、ノーマルなスピードのやさしい会話が理解できるようになること。

## 教科書 /Textbooks

プリント配布（「ロシアでの一ヶ月」）

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

博友社「ロシア語辞典」、研究社「露和辞典」、岩波書店「ロシア語辞典」など数万語以上の見出し語を持つロシア語辞書が必要

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	ГОСТИНИЦА	その1	読み、訳、練習問題
2回	ГОСТИНИЦА	その2	読み、訳、練習問題
3回	СТОЛОВАЯ	その1	読み、訳、練習問題
4回	СТОЛОВАЯ	その2	読み、訳、練習問題
5回	ГАСТРОНОМ		読み、訳、練習問題
6回	УНИВЕРМАГ		読み、訳、練習問題
7回	ТРАНСПОРТ		読み、訳、練習問題
8回	ПОЧТА		読み、訳、練習問題
9回	ТЕЛЕФОН		読み、訳、練習問題
10回	ВОКЗАЛ		読み、訳、練習問題
11回	ПОЛИКЛИНИКА		読み、訳、練習問題
12回	ПАРИКМАХЕРСКАЯ		読み、訳、練習問題
13回	ТЕКСТЫ ДЛЯ ЧТЕНИЯ	その1	読み、訳、練習問題
14回	ТЕКСТЫ ДЛЯ ЧТЕНИЯ	その2	読み、訳、練習問題
15回	ТЕКСТЫ ДЛЯ ЧТЕНИЯ	その3	読み、訳、練習問題

## 成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験50%、授業での発表50%  
(全授業回数の三分の一以上の欠席者は期末試験の受験資格はありません)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

出席者には毎回、テキストの読み・和訳の発表を課するので、予習が必要。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# ロシア語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor ナタリア・シェスタコワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 / 2 Year 単位 /Credits 1単位 / 1 Credit 学期 /Semester 1学期 / 1 Semester 授業形態 /Class Format 講義 / 講義 Class クラス /Class 英2年 / 2 Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ロシア語Ⅶ	RUS202 F

## 授業の概要 /Course Description

これまでに習ったロシア語の語彙、読み書き、聞き取り・発音を練磨しつつ、応用力の向上をめざす。「聞き取り・会話」と「作文」に重点を置く。

## 教科書 /Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社 ￥1,400  
ビデオ教材も活用する予定

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚編 白水社

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第5課① 【休日】、【動詞の未来】
- 2回 第5課② 【曜日名】、【明日あなたは何をしますか】
- 3回 第5課③ 【名詞の造格】、【命令形】
- 4回 第5課④ 【どうぞ、午後に私に電話してください】
- 5回 第6課① 【交通】、【運動の動詞】
- 6回 第6課② 【交通手段と行先】、【あなたはどこへ行くのですか】
- 7回 第6課③ 【電話】、【出発と到着の表現】
- 8回 第6課④ 【あなたはどこから来ましたか】
- 9回 会話 【どこへ】、【どこに】、【どこから】
- 10回 第7課① 【天候】、【КАКАЯ СЕГОДНЯ ПОГОДА ?】
- 11回 第7課② 【気温】、【雨が降る】
- 12回 第7課③ 【四季】、【КАКОЕ ВРЕМЯ ГОДА ВЫ ЛЮБИТЕ ?】
- 13回 ビデオ学習① 【В ГОСТИНИЦЕ】
- 14回 ビデオ学習② 会話練習
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 10% 宿題... 30% 期末試験... 60%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

なし

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor



キーワード /Keywords

# ロシア語Ⅷ 【昼】

担当者名 /Instructor ナタリア・シェスタコワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 / 2 Year 単位 /Credits 1単位 / 1 Credit 学期 /Semester 2学期 / 2 Semester 授業形態 /Class Format 講義 / 講義 Class クラス /Class 英 2年 / 2 Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ロシア語Ⅷ	RUS212 F

## 授業の概要 /Course Description

一年次に習ったロシア語の語彙、基礎文法、読み書き、聞き取り・発音を練習しつつ、応用力の向上を目指す。「読解・解釈」と「文法・語法」に重点を置く。

## 教科書 /Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社 ¥ 1,400  
ビデオ教材も活用する予定

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚編 白水社

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第8課① 【病気と健康】、【ЧТО У ВАС БОЛИТ ?】
- 2回 第8課② 【必要性】、【可能】、【不可能】、【許可】、【禁止】
- 3回 第8課③ 【ЧТО ВЫ ДОЛЖНЫ СДЕЛАТЬ ЧЕРЕЗ НЕДЕЛЮ ?】
- 4回 ビデオ学習③ 【ЗИМНЯЯ СЮИТА】
- 5回 ビデオ学習④ 会話練習【У ВРАЧА】
- 6回 ビデオ学習⑤ 作文【Я И СПОРТ】
- 7回 第9課① 【年齢】、【年月日の表現】、【КОГДА ВЫ РОДИЛИСЬ ?】
- 8回 第9課② 【買い物】、【値段】 1回 ビデオ学習① 【В ГОСТЯХ】
- 9回 ビデオ学習② 会話練習【В ГОСТЯХ】
- 10回 ビデオ学習③ 作文【КАК ПРИГЛАШАЮТ В ГОСТИ В ЯПОНИИ】
- 11回 第10課①【モスクワの町】
- 12回 第10課②【関係代名詞 КОТОРЫЙ】、  
【КАКАЯ ГОРА САМАЯ ВЫСОКАЯ?】
- 13回 第10課③【モスクワの町】、【単文と複文】
- 14回 第10課④【ことわざ】、【МОЙ РОДНОЙ ГОРОД】
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 10% 宿題 ... 30% 期末試験 ... 60%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# ドイツ語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語Ⅰ	GRM101 F

## 授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツ語を身近に感じる事。

## 教科書 /Textbooks

CD付き『独検5級・4級・3級対応 ドイツ語文法』三修社、著者：在間進、亀ヶ谷 昌秀

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ドイツの若者をビデオで見る【アルファベット・発音・つづり・母音の長短】(5級対応)
- 2回 自己紹介。【動詞の現在人称変化】
- 3回 ハンスは今、テニスをしています。【分の作り方。平叙文、疑問文】
- 4回 その母親はワインを飲みます。【名詞の性と冠詞】
- 5回 その犬のその名前はタロウです。【名詞と冠詞の格】
- 6回 フランクはアナのために10本のバラを買います。【複数形の作り方】(4級対応)
- 7回 その子供達はサッカーをするのが好きです。【複数形の使い方】
- 8回 ケンはこのスポーツカーを買います。【定冠詞類】
- 9回 私の犬はタロウという名前です。【不定冠詞類】
- 10回 その息子はその犬と遊ぶのが好きです。【前置詞の格支配】
- 11回 私達は今日、ケンとその学食に行きます。【3・4格支配の前置詞】
- 12回 彼は彼女に一通の手紙を書きます。【人称代名詞】
- 13回 私は私の歯をみがきます。【再帰代名詞】
- 14回 私は明日、ドイツ語を学ぼうつもりです。【助動詞】
- 15回 彼は週末に何をするのでしょうか。【未来形】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音：ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

# ドイツ語I【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# ドイツ語Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語Ⅱ	GRM111F

## 授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツ語を身近に感じることに。

## 教科書 /Textbooks

CD付き『独検5級・4級・3級対応 ドイツ語文法』三修社、著者：在間進、亀ヶ谷昌秀

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ビデオで「グリム兄弟の生涯」を見る。ハンスはパーティーを開きました。【過去形】(3級対応)
- 2回 私達は寿司を食べに行きます。【動詞の特殊な使い方】
- 3回 君達は何をしましたか。【完了形】
- 4回 私達は食べてしまっていました。【過去完了形】
- 5回 アナはいつも先生にほめられます。【受動文】
- 6回 私は昨日、先生にほめられました。【受動の過去形と完了形】
- 7回 ハンスはオーストリアあるいはスペインへ行きます。【並列接続詞】
- 8回 彼は仕事に行く前に、いつも新聞を読みます。【従属接続詞と副文の作り方】
- 9回 フランクはカナを愛しています、しかしお金を持っていない、と言いました。【接続法第1式】
- 10回 もし僕がとても金持ちならば、僕はカナと世界旅行をするでしょうに。【接続法第2式】
- 11回 私は私の学友達よりもずっと勤勉でした。【比較変化】
- 12回 その車は私が期待したと同じように速く走ります。【同等の比較】
- 13回 あそこで歌っているその少年は、私の孫です。【関係文】
- 14回 それを主張する人は、嘘をついています。【不定関係代名詞】
- 15回 彼等は冷たい飲み物を飲みます。【形容詞の格変化】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音:ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

# ドイツ語II 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# ドイツ語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 1単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 英 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語Ⅲ	GRM102 F

## 授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じる事。

## 教科書 /Textbooks

『スツェーネン 1 場面で学ぶドイツ語』三修社

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 名前、出身、住所、挨拶。【規則動詞の現在人称変化、1・2人称、】
- 2回 名前、出身、住所を尋ねる【前置詞、副詞、疑問文、疑問詞】
- 3回 紹介、数字、電話番号【3人称、数詞】
- 4回 各国の国名、車のナンバープレート【名詞の性、定冠詞、所有冠詞】
- 5回 履修科目、言語、曜日【動詞の位置と語順】
- 6回 ドイツと日本の外国人数【冠詞の使い方】
- 7回 趣味、好きなこと、嫌いなこと【否定文の作り方】
- 8回 ドイツ人と日本人の余暇活動【不規則動詞の現在人称変化】
- 9回 好物、外国料理【接続詞】
- 10回 ドイツの食事【頻度を表す副詞】
- 11回 家族、職業、年齢、性格【不定冠詞、否定冠詞、人称代名詞、1(主)格】
- 12回 ドイツと日本の子供の数【名詞の複数形、形容詞、否定文の作り方】
- 13回 1回から6回までのキーワードの復習
- 14回 7回から12回までのキーワードの復習
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音:ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。



# ドイツ語Ⅲ【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# ドイツ語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 /Credits 1単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語Ⅳ	GRM112F

## 授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じること。

## 教科書 /Textbooks

『スツェーネン 1 場面で学ぶドイツ語』三修社

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 持ち物、持ち物を尋ねる【指示代名詞】
- 2回 傘はドイツ語でなんと言うか【4(直接目的)格】
- 3回 住居、場所の表現【前置詞、人称代名詞の3格、】
- 4回 家賃はいくらですか、部屋の広さは
- 5回 時刻の表現、テレビを何時間みるか【非人称動詞の主語es】
- 6回 日付、曜日、誕生日、今週の予定
- 7回 大学の建物、道案内、【副詞】
- 8回 交通手段、ドイツの大学【Sieに対する命令形、疑問詞womit】
- 9回 休暇の計画、手紙の書き方【話法の助動詞】
- 10回 ドイツで人気のある休暇先【疑問詞】
- 11回 過去の表現、天気、日記【完了形、過去人称変化】
- 12回 クイズ：ドイツの首都は。再統一はいつ。
- 13回 1回から6回までのキーワードの復習
- 14回 7回から12回までのキーワードの復習
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音：ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

# ドイツ語Ⅳ【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# ドイツ語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語Ⅴ	GRM201 F

## 授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。  
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

## 教科書 /Textbooks

『スツェーネン2 場面で学ぶドイツ語』三修社、佐藤修子 他 ( Szenen 2 )

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ザビーネとパウルはハンブルクへ行きます。【時刻表】
- 2回 駅の券売窓口で。【列車の乗り換え】
- 3回 私達は注文したいのですが。【レストランで】
- 4回 部屋は空いていますか？【ホテルで】
- 5回 郵便局へはどう行けばいいですか？【道を教える】
- 6回 円をユーロに両替したいのですが。【銀行で】
- 7回 フライブルクはミュンヘンより暖かいです。【天気】
- 8回 ドイツの休暇の過ごし方。【長期休暇】
- 9回 どこが悪いのですか？【病気】
- 10回 頭痛に効く薬が欲しいのですが。【薬局で】
- 11回 君は彼女に何をプレゼントしますか？【贈り物】
- 12回 ドイツ人はお祝いをするのがとても好きです。【誕生日祝い】
- 13回 ドイツ語でクロスワード遊び。
- 14回 一日の活動を日記に書く。
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト ( 50% ) 学期末試験 ( 50% )

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

テキストのCDを何度も聞きながら一緒に発音し、ドイツのニュースに興味を持ち、ドイツの映像をインターネットで見ましょう。

# ドイツ語V 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# ドイツ語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語VI	GRM211F

## 授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。  
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

## 教科書 /Textbooks

『スツェーネン2 場面で学ぶドイツ語』三修社、佐藤修子 他 ( Szenen 2 )

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 パーティーに何を着ますか？【服装】
- 2回 このグレーのスラックスはいいかですか？【お店で】
- 3回 家庭のゴミはどのように分類しますか？【環境問題】
- 4回 ドイツの学校の環境プロジェクト。【無駄を省く】
- 5回 ここで犬を放してはいけません。【禁止】
- 6回 何歳になったら何ができますか？【選挙権】
- 7回 ドイツの学校制度。【教育】
- 8回 パン屋になるためには大学へ行く必要はありません。【資格】
- 9回 あなたは何に興味がありますか？【職業】
- 10回 イースターはなぜ特別なお祭りなのですか？【祝日】
- 11回 イースターのウサギが語ります【祭り】
- 12回 君はクリスマスを楽しみにしていますか？【年末】
- 13回 君達はクリスマスには何をしますか。【年末】
- 14回 クリスマスクッキーの作り方。
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト ( 50% ) 学期末試験 ( 50% )

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

テキストのCDを何度も聞きながら一緒に発音し、ドイツのニュースに興味を持ち、ドイツの映像をインターネットで見ましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# ドイツ語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 1学期 /Class Format 授業形態 講義 /Class クラス 英2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語Ⅶ	GRM202 F

## 授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。  
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

## 教科書 /Textbooks

プリントおよび資料

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 自己紹介、人の紹介、お礼をいうとき、お礼をいわれたとき
- 2回 人に会ったとき、人と別れるとき、知人に会ったとき、人と別れるとき
- 3回 軽く詫びて話しかけると、謝るとき、ちょっと席をはずすとき
- 4回 ドイツのビデオ、1回から3回までの復習
- 5回 人と別れるとき、相手の成功を祈るとき、お礼を言うとき
- 6回 相手の言うことが聞き取れないとき
- 7回 理解できないとき、単語が分からないとき、ドイツ語で何と言うか聞くと
- 8回 綴りを聞くと、英語の分る人を探すと、いい直しをするとき
- 9回 ドイツのビデオ、5回から8回までの復習
- 10回 場所を聞くと、道順・方向を聞くと、距離を聞くと
- 11回 時刻を聞くと、時間を聞くと、曜日を聞くと、日付を聞くと
- 12回 値段を聞くと、数量を聞くと、方法を聞くと、理由を聞くと
- 13回 目的を聞くと、住所を聞くと、出身地を聞くと、生年月日を聞くと
- 14回 ドイツのビデオ、10回から13回までの復習
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

私のドイツ生活・ドイツ語通訳体験などのエピソードを通して、ドイツ・ドイツ語を身近に感じて、インターネットでドイツの情報を得ましょう。



## ドイツ語Ⅶ【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# ドイツ語Ⅷ 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語Ⅷ	GRM212F

## 授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。  
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

## 教科書 /Textbooks

プリントおよび資料

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 事情を聞くとき、あることを頼むとき、人に何かを頼むとき
- 2回 両替を頼むとき、助力を求めるとき、助言を求めるとき
- 3回 服を買うとき、席・切符の予約をするとき、人に助言をするとき
- 4回 ドイツのビデオ、1回から3回までの復習
- 5回 相手の助言に応じるとき、相手の助言に応じられないとき、人を誘うとき
- 6回 自分の考え・意見を言うとき、相手の意見を聞くととき、相手の感想を聞くととき
- 7回 相手の発言・意見に同意するとき、関心事について言うとき、希望を言うとき
- 8回 予定・計画を言うとき、相手の都合が合わないとき、相手が気の毒な状態のとき
- 9回 ドイツのビデオ、5回から8回までの復習
- 10回 病状を言うとき、身体の具合を聞くととき、体調を言うとき
- 11回 会う日を相談するとき、会う場所を相談するとき、相手の都合を聞くととき
- 12回 自分の都合を説明するとき、場所と時間を確認するとき、招待に感謝するとき
- 13回 贈り物・お土産を渡すとき、飲み物を聞くととき、料理を勧めるとき
- 14回 ドイツビデオ、10回から13回までの復習
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

私のドイツ生活・ドイツ語通訳体験などのエピソードを通して、ドイツ・ドイツ語を身近に感じて、インターネットでドイツの情報を得ましよう。

# ドイツ語VIII 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# フランス語I【昼】

担当者名 /Instructor 山下 広一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 1単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 英1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語 I	FRN101 F

## 授業の概要 /Course Description

初級文法の習得をととしてフランス語の日常会話と文章読解・表現の基礎を学びます。1学期は「実用フランス語検定5級」相当のフランス語力をつけることを目指します。

## 教科書 /Textbooks

『新・東京一パリ, 初飛行』（藤田裕二、藤田知子、Sylvie GILLET著 駿河台出版社 ¥2200+税）

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

教科書は全21課、配列に従って進み、1学期は第11課まで終了。

以下のスケジュールで基本表現を学んでいきます。

- 1回 アルファベを発音する、発音と綴り字
- 2回 挨拶をする
- 3回 名前、国籍、職業を言う
- 4回 主語人称代名詞、動詞 *etre* の直説法現在
- 5回 年齢を言う、家族を語る
- 6回 名詞の性と数、不定冠詞、動詞 *avoir* の直説法現在、否定文
- 7回 好きなものを言う、定冠詞、第一群規則動詞、疑問文
- 8回 持ち物を言う、指示形容詞、所有形容詞、人称代名詞の強勢形
- 9回 友達について話す、形容詞
- 10回 尋ねる、疑問代名詞、疑問副詞
- 11回 近い未来、近い過去のことを語る、前置詞と定冠詞の縮約、中性代名詞 *y*
- 12回 時間、天候を言う、疑問形容詞、非人称構文
- 13回 数量を表わす、部分冠詞、数量の表現、中性代名詞 *en*
- 14回 紹介する、補語人称代名詞
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...20% 期末試験...80%

ただし、大学の単位認定制度とは別に、本学期中にフランス語の検定試験5級以上を獲得した学生には、申し出により成績評価Cを保証する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# フランス語I【昼】

## 履修上の注意 /Remarks

仏和辞典を各自用意すること。

遅くとも2回目の講義までには教科書を用意しておくこと(事情により入手が遅れる場合は、講義開始前に申し出ること)

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

連続して欠席すると、講義内容についていくのが困難となります。  
正当な理由がある場合をのぞき、遅刻・途中退室は欠席扱いとします。

## キーワード /Keywords

はじめて学ぶフランス語

# フランス語Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 広一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 1単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 英 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語Ⅱ	FRN111F

## 授業の概要 /Course Description

1学期に引き続き、フランス語の日常会話と文章読解・表現の基礎を学びます。2学期は「実用フランス語検定4級」相当のフランス語力をつけることを目指します。

## 教科書 /Textbooks

『新・東京一パリ, 初飛行』（藤田裕二、藤田知子、Sylvie GILLET著 駿河台出版社 ¥2200+税）

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

教科書は全21課、配列に従って2学期は第12課から第21課まで。

以下のスケジュールで基本表現を学んでいきます。

- 1回 一日を語る
- 2回 代名動詞
- 3回 頼む、命令する
- 4回 命令法、命令、義務を表わす表現
- 5回 未来のことを語る、直説法単純未来
- 6回 過去のことを語るI、直説法複合過去
- 7回 過去のことを語るII、直説法半過去と大過去
- 8回 人や物について語る、関係代名詞、指示代名詞
- 9回 比較する、比較級と最上級
- 10回 受け身の形を使う、現在分詞、ジェロンディフ
- 11回 仮定する、条件法現在
- 12回 条件法過去
- 13回 感情を表現する
- 14回 接続法現在と過去
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...20%

期末試験...80%

ただし、大学の単位認定制度とは別に、本学期中にフランス語の検定試験4級以上を獲得した学生には、申し出により成績評価Cを保証する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

仏和辞典を各自用意すること。  
教科書は1回目の講義から用意しておくこと。  
1学期に最低1科目はフランス語の講義を履修しておくこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

正当な理由がある場合をのぞき、遅刻・途中退室は欠席扱いとします。

## キーワード /Keywords

フランス語を生きた言葉として実感

# フランス語Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor 坂田 由紀 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語Ⅲ	FRN102 F

## 授業の概要 /Course Description

初歩的な文法を学習して、日常の学生生活における自己伝達能力、特に読み、書く力を身に着けることを目標とします。

## 教科書 /Textbooks

「moi,je... モワ、ジュ・・・文法編」 ジャンリュック・アズラほか著 アルマ出版社

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて授業中に紹介する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目 0課 フランス語の文字と発音
- 2回目 1課 主語人称代名詞、男性形と女性形、動詞 <etre >
- 3回目 1課 否定形
- 4回目 2課 第一群規則動詞の活用
- 5回目 2課 疑問文と疑問副詞
- 6回目 3課 疑問代名詞
- 7回目 3課 疑問形容詞
- 8回目 4課 不定冠詞と部分冠詞
- 9回目 5課 定冠詞
- 10回目 6課 所有形容詞と品質形容詞
- 11回目 7課 直接目的語代名詞
- 12回目 7課 間接目的語代名詞
- 13回目 8課 強勢形代名詞と前置詞
- 14回目 9課 中性代名詞yとen
- 15回目 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み(小テスト、宿題)40%と定期試験60%の総合評価。ただし、大学の単位認定制度とは別に、本学期中にフランス語検定試験5級以上を獲得した学生には、申し出により成績評価Cを保証します。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor



キーワード /Keywords

# フランス語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor 坂田 由紀 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語Ⅳ	FRN112F

## 授業の概要 /Course Description

1学期に引き続き、初歩的な文法を学習して、フランス語による日常的な伝達能力（特に読み、書く力）を身に付けることを目標とします。

## 教科書 /Textbooks

「moi, je... モワ、ジュ・・・文法編」 ジャンリュック・アズラほか著（アルマ出版社）

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて授業中に紹介する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目 1学期の復習
- 2回目 10課 複合過去 動詞 <avoir> をつかうもの
- 3回目 10課 複合過去 動詞 <etre> をつかうもの
- 4回目 11課 半過去
- 5回目 11課 複合過去と半過去の使い分け
- 6回目 12課 近接未来形
- 7回目 12課 単純未来形
- 8回目 13課 代名動詞
- 9回目 14課 関係代名詞
- 10回目 15課 比較級
- 11回目 15課 最上級
- 12回目 16課 条件法
- 13回目 冠詞の復習
- 14回目 時制の復習
- 15回目 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み（小テスト、宿題）40%と定期試験60%の総合評価。ただし、大学の単位認定制度とは別に、本学期中にフランス語検定試験4級以上を獲得した学生には、申し出により成績評価Cを保証します。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# フランス語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 坂田 由紀 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語Ⅴ	FRN201 F

## 授業の概要 /Course Description

1年次に学習した文法を復習しながら、さらに伝達能力をアップさせるための文法を学習します。

## 教科書 /Textbooks

「フランス語ブルー2、トリコロール 文法編」 高橋信良ほか著（朝日出版社）

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて授業中に紹介する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目 1課 関係代名詞と中性代名詞
- 2回目 2課 補語人称代名詞の語順
- 3回目 3課 非人称構文
- 4回目 4課 現在分詞
- 5回目 4課 ジェロンディフ
- 6回目 5課 知覚動詞
- 7回目 5課 使役動詞
- 8回目 6課 直説法大過去
- 9回目 7課 直説法単純未来と前未来
- 10回目 8課 接続詞
- 11回目 9課 条件法
- 12回目 10課 間接話法
- 13回目 11課 接続法現在
- 14回目 12課 接続法の用法
- 15回目 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み40%と定期試験60%の総合評価。ただし、大学の単位認定制度とは別に、本学期中にフランス語検定試験3級以上を獲得した学生には、申し出により成績評価Cを保証します。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# フランス語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 坂田 由紀 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語VI	FRN211F

## 授業の概要 /Course Description

1学期に学習した文法をもとに、簡単な和文仏訳の練習をして、フランス語による伝達能力の向上を図ります。授業では、日本語とフランス語での表現方法の違いにも注目します。

## 教科書 /Textbooks

「フランス語 プラン2 - トリコロール 作文編」星野守之 ほか著 (朝日出版社)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて授業中に紹介する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目 1課 関係代名詞
- 2回目 2課 前置詞+関係代名詞
- 3回目 3課 現在分詞
- 4回目 3課 ジェロンディフ
- 5回目 4課 知覚構文
- 6回目 5課 使役文
- 7回目 6課 無生物主語
- 8回目 7課 強調構文
- 9回目 8課 非人称構文
- 10回目 9課 二つの文をつなぐ接続詞
- 11回目 9課 理由や結果などを表す接続詞
- 12回目 10課 時、条件、仮定を表す接続詞
- 13回目 10課 目的、譲歩を表す接続詞
- 14回目 11課 間接話法
- 15回目 12課 直説法が接続法か？

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み40%と定期試験60%の総合評価。ただし、大学の単位認定制度とは別に、本学期中にフランス語検定試験3級以上を獲得した学生には、申し出により成績評価Cを保証します。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# フランス語Ⅶ 【昼】

担当者名 /Instructor: ドウラボード・ブランシュ / Blanche Delaborde / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year: 2年次  
単位 /Credits: 1単位  
学期 /Semester: 1学期  
授業形態 /Class Format: 講義  
クラス /Class: 英2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語Ⅶ	FRN202 F

## 授業の概要 /Course Description

Ce cours a pour objectif de développer les capacités de l'étudiant à parler en français dans des situations courantes. L'accent sera mis sur l'acquisition d'un vocabulaire varié et le développement d'une expression fluide. Nous aborderons non seulement les compétences linguistiques à développer, mais également les caractéristiques de la communication en France et de la société française. Nous utiliserons principalement comme support le manuel "En Scène II". Il sera demandé chaque semaine d'apprendre par cœur une petite liste de vocabulaire de base. Deux séances seront consacrées aux présentations faites en français par les étudiants à partir des phrases apprises durant le cours. この授業の目標は、日常的なシーンでのフランス語会話力を培うことです。語彙を豊かにし、流暢に使えるようにすることに重点を置きます。フランス語の習得だけではなく、フランスでのコミュニケーションやフランス社会の特徴についても解説していきます。指定の教科書を主に使い授業を進めます。毎週、語彙の小テストを行います。最後の2回の授業では、学習した表現を使って簡単な発表をしてもらう予定です。授業はフランス語と日本語で行います。

## 教科書 /Textbooks

『EN SCENE II』 (高橋百代、Brigitte Moser Hori) 三修社 2900¥

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 - Présentation des étudiants 自己紹介
- 2 - Révisions des bases (1) 基本の復習 1
- 3 - Se repérer dans l'espace (1) 位置関係 1
- 4 - Se repérer dans l'espace (2) 位置関係 2
- 5 - Au restaurant (1) レストランにて 1
- 6 - Au restaurant (2) レストランにて 2
- 7 - Les transports et les voyages 交通機関と旅行 1
- 8 - Les transports et les voyages 交通機関と旅行 2
- 9 - Le corps et la santé (1) 身体と健康 1
- 10 - Le corps et la santé (2) 身体と健康 2
- 11 - Les vacances (1) バカンス 1
- 12 - Les vacances (2) バカンス 2
- 13 - Exposés 発表
- 14 - Exposés 発表
- 15 - Récapitulatif まとめ



## 成績評価の方法 /Assessment Method

30% contrôles de vocabulaire 語彙の小テスト(8回)

30% exposé 発表

40% examen final 定期試験

ただし、大学の単位認定制度とは別に、本学期中にフランス語検定試験3級以上を獲得した学生には、申し出により成績評価Cを保証する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# フランス語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor ドウラボード・ブランシュ / Blanche Delaborde / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 / 2 Year 単位 /Credits 1単位 / 1 Credit 学期 /Semester 2学期 / 2 Semester 授業形態 /Class Format 講義 / 講義 Class クラス /Class 英2年 / 2 Year English

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語Ⅷ	FRN212 F

## 授業の概要 /Course Description

Ce cours a pour objectif de développer les capacités de l'étudiant à parler en français dans des situations courantes. L'accent sera mis sur l'acquisition d'un vocabulaire varié et le développement d'une expression fluide. Nous aborderons non seulement les compétences linguistiques à développer, mais également les caractéristiques de la communication en France et de la société française. Nous utiliserons principalement comme support le manuel "En Scène II". Il sera demandé chaque semaine d'apprendre par cœur une petite liste de vocabulaire de base. Deux séances seront consacrées aux présentations faites en français par les étudiants à partir des phrases apprises durant le cours.

この授業の目標は、日常的なシーンでのフランス語会話力を培うことです。語彙を豊かにし、流暢に使えるようにすることに重点を置きます。フランス語の習得だけではなく、フランスでのコミュニケーションやフランス社会の特徴についても解説していきます。指定の教科書を主に使い授業を進めます。毎週、語彙の小テストを行います。最後の2回の授業では、学習した表現を使って簡単な発表をしてもらう予定です。授業はフランス語と日本語で行います。

## 教科書 /Textbooks

『EN SCENE II』 (高橋百代、Brigitte Moser Hori) 三修社 2900¥

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 - A la Poste (1) 郵便局にて 1
- 2 - A la Poste (2) 郵便局にて 2
- 3 - L'environnement (1) 生活と環境 1
- 4 - L'environnement (2) 生活と環境 2
- 5 - La vie quotidienne : la famille (1) 日常生活：家族 1
- 6 - La vie quotidienne : la famille (2) 日常生活：家族 2
- 7 - La vie quotidienne : le week-end (1) 日常生活：週末の過ごし方 1
- 8 - La vie quotidienne : le week-end (2) 日常生活：週末の過ごし方 2
- 9 - Rêves de futur (1) 将来の夢 1
- 10 - Rêves de futur (2) 将来の夢 2
- 11 - Les sentiments (1) 様々な感情 1
- 12 - Les sentiments (2) 様々な感情 2
- 13 - Exposés 発表
- 14 - Exposés 発表
- 15 - Récapitulatif まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

30% contrôles de vocabulaire 語彙の小テスト(8回)

30% exposé 発表

40% examen final 定期試験

ただし、大学の単位認定制度とは別に、本学期中にフランス語検定試験3級以上を獲得した学生には、申し出により成績評価Cを保証する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# スペイン語I【昼】

担当者名 /Instructor 青木 文夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英1年(1組・2組)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力	●	スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			スペイン語 I	SPN101 F

## 授業の概要 /Course Description

スペイン語を公用語とする国は、ヨーロッパに1つ、アフリカに1つ、中南米に19(含む1自治領)あり、その話者の数は、アメリカ合衆国にいる hispanicの人たちも含めると4億をはるかに超え、英語、中国語、ヒンズー語に続くと言われていています。ラテン語(ローマ帝国の言語)を起源とし、イタリア語、ポルトガル語、フランス語、ルーマニア語とともにロマンス語と呼ばれる仲間にも属します。コロンブスのアメリカ大陸発見(1492年)以降、スペイン語は中南米の植民地の言語になったので、現在のように多くの中南米の国で使われています。その特徴は、これだけ広い地域で用いられているのに、コミュニケーションの妨げになるほどの差がないことです。その広大な文化圏のドアを開けるための第1歩として、スペイン語の基礎を学びましょう。未知の世界が広がっていくはずですよ。  
具体的には、スペイン語の初級から中級程度の文法を学びながら基本的な表現をマスターします。

## 教科書 /Textbooks

『スペイン語で表現しよう』(第2版)  
青木文夫・辻博子・マリア エルナンデス(共著)、弘学社

# スペイン語I【昼】

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

西和辞典：  
スペイン語中辞典(小学館)  
新スペイン語(研究社)  
現代スペイン語辞典(白水社)  
プログレッシブスペイン語辞典(小学館)  
パスポート初級スペイン語辞典(白水社)  
他多数有。  
白水社の別の西和辞典(高橋編)は、見出し語は多いが使いにくいので薦めません。  
和西辞典：  
和西辞典(宮城、コントレラス監修：白水社)  
クラウン和西辞典(三省堂)  
その他  
図説スペインの歴史(川成洋、中西省三編：河出書房新社)  
スペインの歴史(立石、関、中川、中塚著：昭和堂)  
スペイン(増田監修：新潮社)  
スペインの社会(寿里、原編：早稲田大学出版)  
スペインの政治(川成、奥島編：早稲田大学出版)  
スペインの経済(戸門、原編：早稲田大学出版)  
スペイン語とつきあう本(寿里著：東洋書店)  
スペイン語基礎文法(口ボ、大森、広康共訳：ピアソンエデュケーション)  
電子辞書も奨めます。これについては、シラバス作成の段階で4月からの新製品のカタログが届いていないため、最初の講義で詳しく説明するので、辞書の購入はそれまで待っててください。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 導入：スペイン語とはこんな言語
- 2 発音の仕組み
- 3 発音の仕組み
- 4 発音の練習と簡単なテスト
- 5 性数の一致：冠詞と名詞
- 6 性数の一致：冠詞と名詞
- 7 規則動詞の現在形とその用法
- 8 規則動詞の現在形とその用法
- 9 規則動詞の現在形練習問題
- 10 規則動詞の現在形の活用
- 11 serとestarの活用と用法
- 12 serとestarの練習問題
- 13 serとestarの練習問題
- 14 serとestarの練習問題
- 15 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験に授業中の評価(小テスト、口頭での答え、作文など)も考慮します。欠席が多い場合その部分が不利になります。具体的には出席は必要条件なので1/3以上休んだ場合は下で述べる平常点を一切加味せず定期試験の点数だけで評価します。その1/3の条件を満たしている範囲での欠席は構いません。なお、クラブ活動など一切欠席届は認めません。  
定期試験が60点以上ならば無条件で単位を認定しますが、60点を下回る場合にも平常点を加味して評価します。もちろん60点を超えている場合も平常点を加算して、成績を決めます。平常点は普通の教室でのやりとり(読む、書くなど)や小テストの点数を半期に亘って数値化します。その年度によって若干の差異はありますが、最大で20点くらいになるようにします。したがって、欠席が多い場合(例えば小テストを受けていないとか、授業中答えていないなど)で平常点が少なくなりますので、そのつもりで取り組んでください。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

語学は基本的には演習科目なので出席は必要条件だけど、十分条件ではないので、そのことを自覚してしっかりと取り組んで欲しい。

最初の数回は基礎になる重要な事項が多いので、休まずに理解して下さい。

北九大ポータルからプリントなどの補助教材を送りますので、各自ダウンロードして、プリントアウトして下さい。詳しくは授業開始時に説明します。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

留学、学習その他なんでも相談OKです！  
メール：faoki@fukuoka-u.ac.jp

## キーワード /Keywords

## キーワード /Keywords

スペイン語でその広大な世界とつながろう！

# スペイン語I【昼】

担当者名 /Instructor 岡住 正秀 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英1年(3組・4組)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力	●	スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			スペイン語 I	SPN101 F

## 授業の概要 /Course Description

スペイン語を公用語とする国は、ヨーロッパに1つ、アフリカに1つ、中南米に19(含む1自治領)あり、その話者の数は、アメリカ合衆国にいる hispanicの人たちも含めると4億をはるかに超え、英語、中国語、ヒンズー語に続くと言われていています。ラテン語(ローマ帝国の言語)を起源とし、イタリア語、ポルトガル語、フランス語、ルーマニア語とともにロマンス語と呼ばれる仲間属します。コロンブスのアメリカ大陸発見(1492年)以降、スペイン語は中南米の植民地の言語になったので、現在のように多くの中南米の国で使われています。その特徴は、これだけ広い地域で用いられているのに、コミュニケーションの妨げになるほどの差がないことです。その広大な文化圏のドアを開けるための第1歩として、スペイン語の基礎を学びましょう。未知の世界が広がっていくはずですよ。  
具体的には、スペイン語の初級から中級程度の文法を学びながら基本的な表現をマスターします。

## 教科書 /Textbooks

『スペイン語で表現しよう』(第2版)  
青木文夫・辻博子・マリア エルナンデス(共著)、弘学社

# スペイン語I【昼】

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

西和辞典：  
スペイン語中辞典(小学館)  
新スペイン語(研究社)  
現代スペイン語辞典(白水社)  
プログレッシブスペイン語辞典(小学館)  
パスポート初級スペイン語辞典(白水社)  
他多数有。  
白水社の別の西和辞典(高橋編)は、見出し語は多いが使いにくいので薦めません。  
和西辞典：  
和西辞典(宮城、コントレラス監修：白水社)  
クラウン和西辞典(三省堂)  
その他  
図説スペインの歴史(川成洋、中西省三編：河出書房新社)  
スペインの歴史(立石、関、中川、中塚著：昭和堂)  
スペイン(増田監修：新潮社)  
スペインの社会(寿里、原編：早稲田大学出版)  
スペインの政治(川成、奥島編：早稲田大学出版)  
スペインの経済(戸門、原編：早稲田大学出版)  
スペイン語とつきあう本(寿里著：東洋書店)  
スペイン語基礎文法(口ボ、大森、広康共訳：ピアソンエデュケーション)  
電子辞書も奨めます。これについては、シラバス作成の段階で4月からの新製品のカタログが届いていないため、最初の講義で詳しく説明するので、辞書の購入はそれまで待っててください。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 導入：スペイン語とはこんな言語
- 2 発音の仕組み
- 3 発音の仕組み
- 4 発音の練習と簡単なテスト
- 5 性数の一致：冠詞と名詞
- 6 性数の一致：冠詞と名詞
- 7 規則動詞の現在形とその用法
- 8 規則動詞の現在形とその用法
- 9 規則動詞の現在形練習問題
- 10 規則動詞の現在形の活用
- 11 serとestarの活用と用法
- 12 serとestarの練習問題
- 13 serとestarの練習問題
- 14 serとestarの練習問題
- 15 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験に授業中の評価(小テスト、口頭での答え、作文など)も考慮します。欠席が多い場合その部分が不利になります。具体的には出席は必要条件なので1/3以上休んだ場合は下で述べる平常点を一切加味せず定期試験の点数だけで評価します。その1/3の条件を満たしている範囲での欠席は構いません。なお、クラブ活動など一切欠席届は認めません。  
定期試験が60点以上ならば無条件で単位を認定しますが、60点を下回る場合にも平常点を加味して評価します。もちろん60点を超えている場合も平常点を加算して、成績を決めます。平常点は普通の教室でのやりとり(読む、書くなど)や小テストの点数を半期に亘って数値化します。その年度によって若干の差異はありますが、最大で20点くらいになるようにします。したがって、欠席が多い場合(例えば小テストを受けていないとか、授業中答えていないなど)で平常点が少なくなりますので、そのつもりで取り組んでください。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

語学は基本的には演習科目なので出席は必要条件だけど、十分条件ではないので、そのことを自覚してしっかりと取り組んで欲しい。

最初の数回は基礎になる重要な事項が多いので、休まずに理解して下さい。

北九大ポータルからプリントなどの補助教材を送りますので、各自ダウンロードして、プリントアウトして下さい。詳しくは授業開始時に説明します。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

留学、学習その他なんでも相談OKです！  
メール：faoki@fukuoka-u.ac.jp

## キーワード /Keywords



# スペイン語I【昼】

## キーワード /Keywords

スペイン語でその広大な世界とつながろう！

# スペイン語Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 青木 文夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英1年(1組・2組)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語Ⅱ	SPN111F

## 授業の概要 /Course Description

初級から中級程度のスペイン語の文法と表現を学びながら、スペインや中南米のスペイン語圏の文化理解の導入とします。視聴覚教材も楽しいものを提示し、スペイン語に馴染めるようにします。具体的にはスペイン語Ⅰのテキストの続きをある程度複雑な文や、スペイン語に独特な文を作れるようなレベルまで進みます。英語にない文のパターンも、最初は複雑だと思かもしれませんが、慣れてくると簡潔な表現で多くの情報が伝わる面白さが理解できるでしょう。

## 教科書 /Textbooks

『スペイン語で表現しよう』青木・辻・エルナンデス共著 弘学社  
スペイン語Ⅰの前期テキストの続きをします。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

図説スペインの歴史(川成洋、中西省三編:河出書房新社)  
スペインの歴史(立石、関、中川、中塚著:昭和堂)  
スペイン(増田監修:新潮社)  
スペインの社会(寿里、原編:早稲田大学出版)  
スペインの政治(川成、奥島編:早稲田大学出版)  
スペインの経済(戸門、原編:早稲田大学出版)  
スペイン語基礎文法(ロボ、大森、広康共訳:ピアソンエデュケーション)  
辞書についてはスペイン語Ⅰで述べたのを参考にしてください。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 不規則動詞現在形の活用の仕組みと用法を中心に。
- 2回 不規則動詞現在形の活用の仕組みと用法を中心に。
- 3回 不規則動詞現在形の活用の仕組みと用法を中心に。
- 4回 与格と対格の代名詞と再帰代名詞を用いた表現。
- 5回 与格と対格の代名詞と再帰代名詞を用いた表現。
- 6回 与格と対格の代名詞と再帰代名詞を用いた表現。
- 7回 与格と対格の代名詞と再帰代名詞を用いた表現。
- 8回 日付の表現
- 9回 時刻
- 10回 天気表現
- 11回 不定語について
- 12回 スペイン語圏の国々について:視聴覚教材を用いて
- 13回 スペイン語圏の国々について:視聴覚教材を用いて
- 14回 まとめ
- 15回 スペイン語のさらなる習得に向けて

# スペイン語II【昼】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

語学は基本的には演習科目なので出席は必要条件だけど、十分条件ではないので、そのことを自覚してしっかりと取り組んで欲しい。定期試験に授業中の評価（小テスト、口頭での答え、作文など）も考慮します。欠席が多い場合その部分が不利になります。具体的には出席は必要条件なので1/3以上休んだ場合は平常点を考慮せずに評価します。その条件を満たしていれば数回の欠席は構いません。なお、クラブなどの欠席届は認めません。定期試験に今述べた平常点を最大20点まで加算します。もちろん60点を超過している場合でも、平常点を加味して成績を算定します。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

前期に比べて少し複雑な内容になると思いますが、ロマンス語（スペイン語、イタリア語、ポルトガル語、フランス語など）に共通する文法の基礎にもなるので、しっかりと取り組んで、将来の学習につなげましょう。

北九大ポータルからプリントなどの補助教材を送りますので、各自ダウンロードして、プリントアウトして下さい。詳しくは授業開始時に説明します。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

留学・学習の相談、何でもOKです。メール：faoki@fukuoka-u.ac.jp

## キーワード /Keywords

スペイン語でその広大な世界とつながろう！

# スペイン語Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 岡住 正秀 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英1年(3組・4組)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語Ⅱ	SPN111F

## 授業の概要 /Course Description

初級から中級程度のスペイン語の文法と表現を学びながら、スペインや中南米のスペイン語圏の文化理解の導入とします。視聴覚教材も楽しいものを提示し、スペイン語に馴染めるようにします。具体的にはスペイン語Ⅰのテキストの続きをある程度複雑な文や、スペイン語に独特な文を作れるようなレベルまで進みます。英語にない文のパターンも、最初は複雑だと思かもしれませんが、慣れてくると簡潔な表現で多くの情報が伝わる面白さが理解できるでしょう。

## 教科書 /Textbooks

『スペイン語で表現しよう』青木・辻・エルナンデス共著 弘学社  
スペイン語Ⅰの前期テキストの続きをします。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

図説スペインの歴史(川成洋、中西省三編:河出書房新社)  
スペインの歴史(立石、関、中川、中塚著:昭和堂)  
スペイン(増田監修:新潮社)  
スペインの社会(寿里、原編:早稲田大学出版)  
スペインの政治(川成、奥島編:早稲田大学出版)  
スペインの経済(戸門、原編:早稲田大学出版)  
スペイン語基礎文法(口ボ、大森、広康共訳:ピアソンエデュケーション)  
辞書についてはスペイン語Ⅰで述べたのを参考にしてください。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 不規則動詞現在形の活用の仕組みと用法を中心に。
- 2回 不規則動詞現在形の活用の仕組みと用法を中心に。
- 3回 不規則動詞現在形の活用の仕組みと用法を中心に。
- 4回 与格と対格の代名詞と再帰代名詞を用いた表現。
- 5回 与格と対格の代名詞と再帰代名詞を用いた表現。
- 6回 与格と対格の代名詞と再帰代名詞を用いた表現。
- 7回 与格と対格の代名詞と再帰代名詞を用いた表現。
- 8回 日付の表現
- 9回 時刻
- 10回 天気表現
- 11回 不定語について
- 12回 スペイン語圏の国々について:視聴覚教材を用いて
- 13回 スペイン語圏の国々について:視聴覚教材を用いて
- 14回 まとめ
- 15回 スペイン語のさらなる習得に向けて

# スペイン語II【昼】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

語学は基本的には演習科目なので出席は必要条件だけど、十分条件ではないので、そのことを自覚してしっかりと取り組んで欲しい。定期試験に授業中の評価（小テスト、口頭での答え、作文など）も考慮します。欠席が多い場合その部分が不利になります。具体的には出席は必要条件なので1/3以上休んだ場合は平常点を考慮せずに評価します。その条件を満たしていれば数回の欠席は構いません。なお、クラブなどの欠席届は認めません。定期試験に今述べた平常点を最大20点まで加算します。もちろん60点を超過している場合でも、平常点を加味して成績を算定します。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

前期に比べて少し複雑な内容になると思いますが、ロマンス語（スペイン語、イタリア語、ポルトガル語、フランス語など）に共通する文法の基礎にもなるので、しっかりと取り組んで、将来の学習につなげましょう。

北九大ポータルからプリントなどの補助教材を送りますので、各自ダウンロードして、プリントアウトして下さい。詳しくは授業開始時に説明します。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

留学・学習の相談、何でもOKです。メール：faoki@fukuoka-u.ac.jp

## キーワード /Keywords

スペイン語でその広大な世界とつながろう！

# スペイン語Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英 1年 ( 1組・ 2組 )

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語Ⅲ	SPN102 F

## 授業の概要 /Course Description

スペイン語の発音・読み方から始め、テキストの簡単な会話表現を覚えていきます。スペイン語の発音は日本語話者に易しいので、テキストの単語を発音しながらスペイン語の音に慣れましょう。  
文法事項を押さえながら学ぶ会話表現なので、理解しやすくスペイン語の基礎固めになります。

## 教科書 /Textbooks

粕谷てる子『オラ！<改訂版>』第三書房、2014

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし。  
西和辞書については開講時に指示しますが、薦めるものとしては『クラウン西和辞典』三省堂2005、  
『現代スペイン語辞典』白水社1999、電子辞書などです。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 スペイン語とスペイン語圏について、アルファベットの読み方
- 2 回 挨拶、スペイン語の発音、「じゃあね！」
- 3 回 アクセントについて、ser動詞、「私はマリです」
- 4 回 国籍・職業・出身地、「彼女は学生です」
- 5 回 形容詞、指示詞、「この本は面白い」
- 6 回 - ar動詞、- er動詞、- ir動詞、「スペイン語を話せる？」
- 7 回 数字1-15、「どこに住んでいるの？」
- 8 回 tener、数字16 - 100、「私は18歳です」
- 9 回 所有詞、hacer、poner、decir、「家族」
- 10 回 estar動詞、「どこにあるの？」
- 11 回 hay、「この辺にバルはありますか？」
- 12 回 querer、「スペインを旅行したい」
- 13 回 poder、「今日はサッカーができません」
- 14 回 目的格人称代名詞、「私に写真を見せてくれる？」
- 15 回 不規則動詞・目的格人称代名詞のまとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 80%、 日常の授業への取り組み 20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# スペイン語Ⅲ【昼】

## 履修上の注意 /Remarks

なし。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

スペイン語 スペイン語圏、中南米、ラテンアメリカ

# スペイン語Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor ホセ・マルティン・サンチェス / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英 1年 ( 3組・ 4組 )

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語Ⅲ	SPN102 F

## 授業の概要 /Course Description

スペイン語の発音・読み方からはじめ、テキストの簡単な会話表現を覚えていきます。  
スペイン語の発音は日本語話者に易しいので、テキストの単語を発音しながらスペイン語の音に慣れます。

## 教科書 /Textbooks

粕谷てる子『オラ！ <改訂版>』第三書房、2014

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし  
西和辞書は『クラウン西和辞典』三省堂2005、『現代スペイン語辞典』白水社1999、電子辞書などがおすすめです。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペイン語とスペイン語圏について、アルファベットの読み方
- 2回 挨拶、スペイン語の発音、「じゃあね！」
- 3回 アクセントについて、ser動詞、「私はマリです」
- 4回 国籍・職業・出身地、「彼女は学生です」
- 5回 形容詞、指示詞、「この本は面白い」
- 6回 - ar動詞、- er動詞、- ir動詞、「スペイン語を話せる？」
- 7回 数字1-15、「どこに住んでいるの？」
- 8回 tener、数字16 - 100、「私は18歳です」
- 9回 所有詞、hacer、poner、decir、「家族」
- 10回 estar動詞、「どこにあるの？」
- 11回 hay、「この辺にバルはありますか？」
- 12回 querer、「スペインを旅行したい」
- 13回 poder、「今日はサッカーができません」
- 14回 目的格人称代名詞、「私に写真を見せてくれる？」
- 15回 不規則動詞、目的格人称代名詞のまとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 70%、 日常の授業への取り組み 30%  
積極的な授業参加を評価します。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

予習と復習を必ずしてください。



# スペイン語Ⅲ【昼】

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

中国語の次にネイティブスピーカーの数が多いのはスペイン語です。  
一緒に楽しくスペイン語を勉強しましょう。必ず役に立ちます。  
アニモ(※スペイン語で「がんばって」という意味)

## キーワード /Keywords

スペイン語、スペイン語圏、スペイン、中南米、ラテンアメリカ

# スペイン語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英 1年 ( 1組・ 2組 )

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語Ⅳ	SPN112F

## 授業の概要 /Course Description

スペイン語Ⅲの続きから、更に表現を学んでいきます。Ⅲと同様、文法項目を押さえながら学ぶ会話表現です。理解したうえで聞き取り、会話表現を発展させていきます。

## 教科書 /Textbooks

Ⅲと同じテキストを使用。  
粕谷てる子『オラ！＜改訂版＞』第三書房、2014

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

西和辞書についてはⅢの開講時に指示したものと同じです。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Ⅲの復習
- 2回 ir/venirの表現「明日東京へ行きます。」
- 3回 「スペイン語を勉強するつもりです。」
- 4回 天候表現「今日はいい天気ですね。」
- 5回 時間表現「何時ですか？」
- 6回 gustar構文「私はバルサが好きです。」
- 7回 gustar型動詞「頭がいたいのか？」
- 8回 再帰動詞「私はマリといいます。」
- 9回 「もう行っちゃうの」
- 10回 比較級「フアのほうが背が高い。」
- 11回 「フアはクラスで一番絵が上手だ。」
- 12回 現在完了「楽しかった！」
- 13回 現在分詞「今掃除中です。」
- 14回 スペイン語でDVDを見る
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 80%、 日常の授業への取り組み 20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

動詞の活用、既出単語などは授業前に覚えてきてください。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

スペイン語、スペイン語圏、スペイン、中南米、ラテンアメリカ

# スペイン語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor ホセ・マルティン・サンチェス / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英 1年 ( 3組・ 4組 )

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語Ⅳ	SPN112F

## 授業の概要 /Course Description

スペイン語Ⅲの続きから、更に表現を学んでいきます。Ⅲと同様、文法項目を押さえながら学ぶ会話表現です。理解したうえで聞き取り、会話表現を発展させていきます。

## 教科書 /Textbooks

Ⅲと同じテキストを使用。  
粕谷てる子『オラ！＜改訂版＞』第三書房、2014

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

西和辞書についてはⅢの開講時に指示したものと同じです。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	Ⅲの復習
2回	ir/venirの表現「明日東京へ行きます。」
3回	「スペイン語を勉強するつもりです。」
4回	天候表現「今日はいい天気ですね。」
5回	時間表現「何時ですか？」
6回	gustar構文「私はバルサが好きです。」
7回	gustar型動詞「頭がいたいのか？」
8回	再帰動詞「私はマリといいます。」
9回	「もう行っちゃうの」
10回	比較級「フアのほうが背が高い。」
11回	「フアはクラスで一番絵が上手だ。」
12回	現在完了「楽しかった！」
13回	現在分詞「今掃除中です。」
14回	総まとめ1
15回	総まとめ2

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 70%、 日常の授業への取り組み 30%  
積極的な授業参加を評価します。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

動詞の活用、既出単語などは授業前に覚えてきてください。  
予習と復習を必ずしてください。

# スペイン語Ⅳ【昼】

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業中、覚えたスペイン語をどんどん使いましょう。スペイン語でのコミュニケーションを楽しみましょう。

## キーワード /Keywords

スペイン語、スペイン語圏、スペイン、中南米、ラテンアメリカ

# スペイン語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 青木 文夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語Ⅴ	SPN201 F

## 授業の概要 /Course Description

中級程度以上のスペイン語の文法と表現を学びながら、スペインや中南米のスペイン語圏の文化理解の導入とします。視聴覚教材も楽しいものを提示し、スペイン語に馴染めるようにします 授業を通じて随時スペイン語圏の文化に接することができるような教材も紹介します。

## 教科書 /Textbooks

『スペイン語で表現しよう』  
青木文夫・辻博子・マリアエルナンデス（共著）、弘学社（第2版）  
昨年スペイン語IとIIで使用したテキストの続きをします。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

西和辞典：  
スペイン語中辞典（小学館）  
新スペイン語（研究社）  
現代スペイン語辞典（白水社）  
プログレッシブスペイン語辞典（小学館）  
パスポート初級スペイン語辞典（白水社）  
他多数有。  
白水社の別の西和辞典（高橋編）は、見出し語は多いが使いにくいので薦めません。  
和西辞典：  
和西辞典（宮城、コントレラス監修：白水社）  
クラウン和西辞典（三省堂）  
その他  
図説スペインの歴史（川成洋、中西省三編：河出書房新社）  
スペインの歴史（立石、関、中川、中塚著：昭和堂）  
スペイン（増田監修：新潮社）  
スペインの社会（寿里、原編：早稲田大学出版）  
スペインの政治（川成、奥島編：早稲田大学出版）  
スペインの経済（戸門、原編：早稲田大学出版）  
スペイン語とつきあう本（寿里著：東洋書店）  
スペイン語基礎文法（ロボ、大森、広康共訳：ピアソンエデュケーション）

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 1年の復習(代名詞を中心に)
- 2 1年の復習(代名詞を中心に)
- 3 不定過去、不完了過去、現在完了の活用と用法(規則形と不規則形をいっしょに)
- 4 不定過去、不完了過去、現在完了の活用と用法(規則形と不規則形をいっしょに)
- 5 不定過去、不完了過去、現在完了の活用と用法(規則形と不規則形をいっしょに)
- 6 不定過去、不完了過去、現在完了の活用と用法(規則形と不規則形をいっしょに)
- 7 進行形と複文・重文
- 8 進行形と複文・重文
- 9 未来・条件未来・過去完了と再帰動詞
- 10 未来・条件未来・過去完了と再帰動詞
- 11 未来・条件未来・過去完了と再帰動詞
- 12 未来・条件未来・過去完了と再帰動詞
- 13 視聴覚教材を使って
- 14 視聴覚教材を使って
- 15 まとめ

授業全体を通じて、スペイン語の表現を覚えるための会話教材(テキストの会話部分)を視聴覚教材として随時学びます。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験に授業中の評価(小テスト、口頭での答え、作文など)も考慮します。欠席が多い場合その部分が不利になります。具体的には出席は必要条件なので1/3以上休んだ場合は平常点を考慮せずに評価します。その条件を満たしていれば数回の欠席は構いません。なお、クラブなどの欠席届は認めません。平常点は普通の教室でのやりとり(読む、書くなど)や小テストの点数を年間に亘って数値化します。最大で20点くらいになるようにします。したがって、欠席が多い場合(例えば小テストを受けていないなど)で平常点が少なくなりますので、そのつもりで取り組んでください。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

北九大ポータルからプリントなどの補助教材を送りますので、各自ダウンロードして、プリントアウトして下さい。詳しくは授業開始時に説明します。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

留学・学習の相談、何でもOKです。メール : faoki@fukuoka-u.ac.jp

## キーワード /Keywords

スペイン語でその広大な世界とつながろう!

# スペイン語VI 【昼】

担当者名 青木 文夫 / 北方キャンパス 非常勤講師  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 英2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語VI	SPN211F

## 授業の概要 /Course Description

スペイン語の中級から上級の文法理解し使えるようにすることを目標にします。詳しくは授業計画を参照。前期のスペイン語Vに引き続き、スペインや中南米のスペイン語圏の文化理解の導入とします。視聴覚教材も楽しいものを提示し、スペイン語に馴染めるようにします

## 教科書 /Textbooks

『スペイン語で表現しよう』  
青木文夫・辻博子・マリアエルナンデス（共著）、弘学社（第2版）  
前期スペイン語Vのテキストの続きをします。最後まで終えて、スペイン語文法の全体を完成させたいと思います。最後にスペイン語版「となりのトトロ」を見ながら、表現の聞き取りの練習を楽しみながらやりましょう。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

スペイン語中辞典（小学館）  
新スペイン語（研究社）  
現代スペイン語辞典（白水社）  
プログレッシブスペイン語辞典（小学館）  
パスポート初級スペイン語辞典（白水社）  
他多数有。  
白水社の別の西和辞典（高橋編）は、見出し語は多いが使いにくいので薦めません。  
和西辞典：  
和西辞典（宮城、コントレラス監修：白水社）  
クラウン和西辞典（三省堂）  
その他  
図説スペインの歴史（川成洋、中西省三編：河出書房新社）  
スペインの歴史（立石、関、中川、中塚著：昭和堂）  
スペイン（増田監修：新潮社）  
スペインの社会（寿里、原編：早稲田大学出版）  
スペインの政治（川成、奥島編：早稲田大学出版）  
スペインの経済（戸門、原編：早稲田大学出版）  
スペイン語とつきあう本（寿里著：東洋書店）  
スペイン語基礎文法（ロボ、大森、広康共訳：ピアソンエデュケーション）



# スペイン語VI 【昼】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 接続法現在の活用と命令形
- 2 接続法現在の活用と命令形
- 3 命令形の練習
- 4 命令形の練習
- 5 比較表現、感嘆表現
- 6 受け身文、無人称文
- 7 接続法の活用全般について
- 8 接続法の活用全般について
- 9 接続法の用法
- 10 接続法の用法
- 11 スペイン語版トトロを理解する
- 12 スペイン語版トトロを理解する
- 13 スペイン語版トトロを理解する
- 14 スペイン語版トトロを理解する
- 15 まとめ

授業全体を通じて、スペイン語の表現を覚えるための会話教材（テキストの会話部分）を随時学びます。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験に授業中の評価（小テスト、口頭での答え、作文など）も考慮します。欠席が多い場合その部分が不利になります。具体的には出席は必要条件なので1/3以上休んだ場合は平常点を考慮せずに評価します。その条件を満たしていれば数回の欠席は構いません。なお、クラブなどの欠席届は認めません。平常点は普通の教室でのやりとり（読む、書くなど）や小テストの点数を年間に亘って数値化します。最大で20点くらいになるようにします。したがって、欠席が多い場合（例えば小テストを受けていないなど）で平常点が少なくなりますので、そのつもりで取り組んでください。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

北九大ポータルからプリントなどの補助教材を送りますので、各自ダウンロードして、プリントアウトして下さい。詳しくは授業開始時に説明します。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

留学・学習の相談、何でもOKです。メール：faoki@fukuoka-u.ac.jp

## キーワード /Keywords

スペイン語でその広大な世界とつながろう！

# スペイン語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語Ⅶ	SPN202 F

## 授業の概要 /Course Description

前年度のスペイン語Ⅲ・Ⅳ（会話表現）を更に発展させていきます。DVDなどを使い、スクリプトを使用している様々な場面に応じた会話表現を学んでいきます。映像や音声などでネイティブの話すスペイン語理解を行ったうえで、実際の場面に応じた会話をグループで行い、発表します。

## 教科書 /Textbooks

一部、前年度と同じテキストを使用します。（粕谷てる子『オラ！<改訂版>』第三書房、2014）  
他、プリント配布

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

なし。  
辞書については開講時に指示します。西和辞書で薦めるものは『クラウン西和辞典』三省堂2005、  
『現代スペイン語辞典』白水社1999、電子辞書などです。  
和西辞書の利用も必要ですが、詳細は開講時に指示します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペイン語のビデオを理解する、授業内容について（前年度の教科書持参）
- 2回 スペイン語Ⅲ・Ⅳの復習、自己紹介
- 3回 人についての表現
- 4回 一日の出来事
- 5回 日常の紹介（1）
- 6回 日常の紹介（2）
- 7回 買い物（1）
- 8回 買い物（2）
- 9回 自由な時間の過ごし方
- 10回 歌詞を理解する
- 11回 旅行
- 12回 休暇の過ごし方 どこへ？
- 13回 スペイン語圏について
- 14回 町の紹介
- 15回 まとめ、前期に使用した表現

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%、日常の授業への取り組み 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# スペイン語Ⅶ【昼】

## 履修上の注意 /Remarks

辞書必携です。  
スペイン語初級(Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ)の単位をとっていることは必須ではありませんが、よく理解している必要があります。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

スペイン語 スペイン語圏 中南米 ラテンアメリカ

# スペイン語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語Ⅷ	SPN212F

## 授業の概要 /Course Description

前期のスペイン語Ⅶをさらに発展させていきます。DVDなどを使い、スクリプトを使用しているいろいろな場面に応じた会話表現を学んでいきます。映像や音声などでネイティブの話すスペイン語理解を行ったうえで、実際の場面に応じた会話をグループで行い、発表します。

## 教科書 /Textbooks

プリント配布（必要に応じて前年度使用したテキストを一部使用。前年度テキスト：粕谷てる子『オラ！＜改訂版＞』）

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし。  
西和辞書で薦めるものは電子辞書、『クラウン西和辞典』三省堂、2005、『現代スペイン語辞典』白水社、1999などです。詳細は開講時に指示します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前期表現の復習、休暇中のこと
- 2回 さあ食べよう！
- 3回 今日のメニューEl menu del dia
- 4回 何を食べる？
- 5回 何を作る？
- 6回 仕事の紹介
- 7回 この企業は？
- 8回 Misterio en Almagro
- 9回 都会と田舎
- 10回 過去の出来事、点過去と線過去
- 11回 小さかった時・・・
- 12回 その他の時制、法
- 13回 スペイン語のDVDを理解する(1)
- 14回 スペイン語のDVDを理解する(2)
- 15回 まとめ、スペイン語の表現、動詞の時制のまとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験50%、日常の授業への取り組み50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

辞書必携です。  
スペイン語I・II・III・IV・V・VIIの単位履修は必須ではありませんが、よく理解している必要があります。

# スペイン語VIII 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語、スペイン語圏、中南米、ラテンアメリカ

# 日本語I【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語Iでは、特に「大学生生活へのオリエンテーション」と「読み」に焦点を当てる。「大学生生活へのオリエンテーション」では、日本の大学教育の特徴を理解しながら、大学生として必要な「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」を実際に体験しながら学ぶ。並行して「読み」では、輪読形式で一冊の本を読み進め、日本語の本を最後まで読み通したという自信を持ってもらう。さらに、学期最後の一月は、チュートリアルを導入し、個別のニーズに応じた授業を提供する。

## 教科書 /Textbooks

『スタディスキルズ：トレーニング - 大学で学ぶための25のスキル』(吉原恵子他、実教出版)

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

- 『大学で学ぶためのアカデミック・ジャパニーズ』(佐々木瑞枝他、The Japan Times)
- 『自律を目指すことばの学習：さくら先生のチュートリアル』(桜美林大学日本語プログラム「グループさくら」、凡人社)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	オリエンテーション	
2回	大学生生活(1)【自己紹介から始めよう】	
3回	大学生生活(2)【高校と大学の違い/大学について学ぶ】	読み(1)輪読
4回	大学生生活(3)【キャンパスツアー】	読み(2)輪読
5回	大学生生活(4)【大学教員・職員との付き合い方】	読み(3)輪読
6回	大学生生活(5)【図書館ツアー】	読み(4)輪読
7回	大学生生活(6)【大学生生活のデザイン】	読み(5)輪読
8回	大学生生活(7)【講義の上手な受け方】	読み(6)輪読
9回	大学生生活(8)【演習に参加するコツ】	読み(7)輪読
10回	大学生生活(9)【大学の定期試験】	読み(8)輪読
11回	チュートリアル(1)【学習計画】	
12回	チュートリアル(2)【振り返り】	
13回	チュートリアル(3)【修正】	
14回	チュートリアル(4)【評価】	
15回	総括	

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ... 30 %  
ポートフォリオ評価 ... 70%(学習者評価 30% ピア評価 20% 実習生評価 20%)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定である。  
日本語Iと日本語IIと日本語IIIは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

生活日本語 大学生生活日本語 大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ) 精読 チュートリアル

# 日本語II 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語IIでは、大学生に求められる日本語文章表現能力の育成を目指す。具体的には、TAE(THINKING AT THE EDGE)を用い日常的な身体感覚を日本語で展開できるようになることを目標とする。留学生にとって、第二言語である日本語で自己表現を行い大学生活を過ごすためには、まず、自己の身体感覚を第二言語で言語化する経験が重要となる。

## 教科書 /Textbooks

『TAEによる文章表現ワークブック』(得丸さと子、図書文化)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業オリエンテーション  
TAE「ウォーミングアップ編」【フェルトセンス】【リラクスのワーク】
- 2回 「ウォーミングアップ編」【色模様のワーク】
- 3回 「ウォーミングアップ編」【オノマトペのワーク】
- 4回 「ウォーミングアップ編」【比喩のワーク】
- 5回 「ウォーミングアップ編」【花束のワーク】
- 6回 「初級編」【コツのワーク】【共同詩のワーク】
- 7回 「初級編」【励ます言葉のワーク】
- 8回 「初級編」【マイセンテンス】
- 9回 「中級編」【パターンを見つける】
- 10回 「中級編」【パターンを交差させる】
- 11回 「中級編」【自己PR文を作ろう】
- 12回 「中級編」【資料を使って論じよう】
- 13回 「中級編」【経験から論じよう】
- 14回 「中級編」【感想文を書こう】
- 15回 評価【学びを振り返る】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み・・・30% 発表・課題・・・30% 自己評価...20% ピア評価...20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定です。  
日頃から、身体や気持ちの感覚に注意を払っててください。  
日本語I及び日本語II、日本語IIIは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

TAE 身体を感じ 日本語の私 母語の私

# 日本語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 徐 暁輝 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語Ⅲでは、実際に日本語を使う場面で、文字によるコミュニケーション(書く)の能力を伸ばす。「対人性」と「場面性」を理解することで、適切な文章構成・日本語表現ができるようになる。そして、「自己推敲能力」を伸ばすために、自分の書いたものを自己評価し、より良いものに修正する。

## 教科書 /Textbooks

『中級からの日本語プロフィシエンシーライティング』(由井紀久子他、凡人社)

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

『日本語Eメールの書き方』(築晶子他、The Japan Times)  
『外国人のためのケータイメール@にっぽん』(笠井淳子他、アスク)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業オリエンテーション【文のスタイル】【配慮】【負担】【良好な関係】【今後のこと】
- 2回 アポイントをとる【PCメール】
- 3回 問い合わせる【PCメール】
- 4回 授業についてのコメントを書く【コメント用紙】
- 5回 伝言する【メモ】
- 6回 誘う・誘われる【携帯メール】
- 7回 依頼する・依頼される【携帯メール】
- 8回 謝る【PCメール】
- 9回 お礼を言う【PCメール】
- 10回 報告する【PCメール】
- 11回 なくさめる・一緒に喜ぶ【携帯メール】
- 12回 経験についての感想を書く【原稿用紙】
- 13回 募集する【チラシ】【掲示】
- 14回 自己PRを書く【原稿用紙】
- 15回 評価【学びを振り返る】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み(発表や課題を含む)・・・30% 試験・・・30% 自己評価...20% ピア評価...20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定である。日本語Ⅰと日本語Ⅱは、日本語Ⅲと授業内容の関連が深いので同時受講が望ましい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

プロフィシエンシー 書く 対人性 場面性



# 日本語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語Ⅳでは、特に「プレゼンテーション」に焦点を当てる。自己表現の手段としてのプレゼンテーション能力について「説明」と「説得」の二つの側面を考えながら育成する。さらに、日本語Ⅰ同様、学期最後の一カ月はチュートリアルを導入し、個別のニーズに応じた授業を提供する。

## 教科書 /Textbooks

『プラクティカル・プレゼンテーション(改訂版)』(上村和美他、くろしお出版)

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

- 『アカデミックプレゼンテーション入門』(三浦香苗他、ひつじ書房)
- 『自律を目指すことばの学習：さくら先生のチュートリアル』(桜美林大学日本語プログラム「グループさくら」、凡人社)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 セルフチェックしよう【発表・評価】
- 3回 国際空港の中を説明しよう【サンドイッチ構成】
- 4回 レシートのコンテンツを発表しよう【マトリクス思考】
- 5回 国際会議場の使用プランを立てよう【問題点と解決策】
- 6回 レジューメを作ろう【要点】
- 7回 パワーポイントを作成しよう【デジタル・プレゼンテーション】
- 8回 発表しよう・コメント/質問しよう【質疑応答】
- 9回 発表についてセルフチェックしよう【自己評価】
- 10回 同窓会の幹事をしよう【企画・進行】
- 11回 チュートリアル(1)【学習計画】
- 12回 チュートリアル(2)【振り返り】
- 13回 チュートリアル(3)【修正】
- 14回 チュートリアル(4)【評価】
- 15回 総括【一年間を振り返る】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ...30%  
ポートフォリオ評価 ...70%(自己評価 30% ピア評価 20% 実習生評価 20%)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が授業の一部を担当する予定である。  
日本語Ⅳと日本語Ⅴ、日本語Ⅵは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

デジタル・プレゼンテーション Contents(内容) Techniques(技術) Tools(道具)

# 日本語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 則松 智子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語Ⅴでは、特に「スタディスキル」と「日本語発想力・表現力」に焦点を当てる。「スタディスキル」では、日本の大学教育の特徴を理解しながら、大学生として必要な「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」を実際に体験しながら学ぶ。「日本語発想力・表現力」では、タスクを用いた自己発信型トレーニングにより、論理的思考力を伸ばす。

## 教科書 /Textbooks

『大学・大学院留学生のためのやさしい論理的思考トレーニング』(西隈俊哉、アルク)  
『スタディスキルズ・トレーニング - 大学で学ぶための25のスキル』(吉原恵子他、実教出版)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

○佐々木瑞枝他『大学で学ぶためのアカデミック・ジャパニーズ』The Japan Times

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 スタディスキル(1)テーマを決める
- 3回 スタディスキル(2)インターネットで情報を探す
- 4回 スタディスキル(3)資料を読む(批判的な読み方)
- 5回 スタディスキル(4)図解で考える
- 6回 スタディスキル(5)表・グラフを描いてみる
- 7回 スタディスキル(6)レポートの特徴
- 8回 スタディスキル(7)レジュメを作成する
- 9回 スタディスキル(8)パソコンを使ったプレゼン・ポスターを使ったプレゼン
- 10回 論理的思考力(1)リストアップする・マッピングする
- 11回 論理的思考力(2)イラストから読み取ったことを表現する
- 12回 論理的思考力(3)定義をする
- 13回 論理的思考力(4)順序を考えて書いてみる
- 14回 論理的思考力(5)論理的に考えて書いてみる
- 15回 総括

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ...30%  
ポートフォリオ評価 ...70%(自己評価 30% ピア評価 20% 実習生評価 20%)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が授業の一部を担当する予定である。  
日本語Ⅳと日本語Ⅴと日本語Ⅵは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

論理的思考 大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ) ピア・リーディング スタディスキル

# 日本語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 徐 暁輝 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語VIでは、学生が学び手として互いに協力し合い、課題達成に向けて取り組めるようになることを目指す。具体的には、「自己目標の明確化」を目指すために活動(1)「自己PR」を行う。そして、「能動的読解」のために活動(2)「ブック・トーク」を行い、「外部から得た情報や知識を適切に配列し、引用表現を用いて自分の意見と区別しながら書く」ことを目指すために活動(3)「ブック・レポート」を行う。

## 教科書 /Textbooks

『ピアで学ぶ大学生・留学生の日本語コミュニケーション：プレゼンテーションとライティング』(大島弥生他、ひつじ書房)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

○『スタディスキルズ・トレーニング：大学で学ぶための25のスキル』(吉原恵子他、実教出版)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 自己PR(1)【自分を伝える】
- 3回 自己PR(2)【情報を整理する】
- 4回 自己PR(3)【スピーチの準備をする】
- 5回 自己PR(4)【スピーチをする】
- 6回 自己PR(5)【志望動機書 / 学習計画書を読みあう】
- 7回 ブック・トーク(1)【情報を探す】
- 8回 ブック・トーク(2)【情報を読んで伝える】
- 9回 ブック・トーク(3)【アウトラインを書く】
- 10回 ブック・トーク(4)【ポスター発表を準備する】
- 11回 ブック・トーク(5)【発表する】
- 12回 ブック・レポート(1)【書く】
- 13回 ブック・レポート(2)【内容を検討する】
- 14回 ブック・レポート(3)【表現や形式を点検する】
- 15回 総括【全体を振り返る】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ...30%  
ポートフォリオ評価 ...70%(自己評価 30% ピア評価 20% 実習生評価 20%)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が授業の一部を担当する予定である。  
日本語IVと日本語Vと日本語VIは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ) ピア・ラーニング 相互リソース化 批判的思考の獲得 社会的関係の構築

# 日本語VII【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語VIIでは、日本語で読むことを中心とする。特に、大学で必要なクリティカル・リーディング(批判的な読み)ができるようになることを目標とする。書かれたテキストに対して正確に読み取った上で、さらに複眼的な視点から検討するための思考技術を養成する。授業ではピア(仲間)活動を多く取り入れ、自分の考えを論理的に伝え、相手の意見を聴くことで、協働的に学習することの有効性を感じてもらう。

## 教科書 /Textbooks

『読む力(中上級)』(奥田純子他、くろしお出版)

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

○『ひとりで読むことからピア・リーディングへ：日本語学習者の読解過程と対話的協働学習』(館岡洋子、東海大学出版会)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【クリティカル・リーディング/複眼思考レッスン】
- 2回 私のニュースの読み方【主張や論点、問題提起、意図】
- 3回 価値の一律性【主張や論点、問題提起、意図】
- 4回 言葉の起源をもとめて【研究動機と仮説の概要】
- 5回 経済学とは何か【分野の概要】
- 6回 思いやり【比較、対照、構造化、アナロジー】
- 7回 住まい方の思想【比較、対照、構造化、アナロジー】
- 8回 決まった道はない。ただ行き先があるのみだ【比較、対照、構造化、アナロジー】
- 9回 メディアがもたらす環境変容に関する意識調査【研究論文の概要】
- 10回 改訂 介護概論【目次から読む】
- 11回 ことばの構造、文化の構造【入門書】
- 12回 観光で行きたい国はどこ【調査結果】
- 13回 化粧する脳【現状、展望、原因、問題点】
- 14回 クリティカル・リーディングを磨こう
- 15回 総括

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み...40% 課題...40% ピア評価...20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

日頃から時事問題に関心を持ち、それに対して自分の意見を考えておくと、授業での学びがより効果的になる。日本語VII及びVIIIは、授業内容の関連性が深いので連続して履修することが望ましい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

クリティカル・リーディング ピア・ラーニング 複眼的思考

# 日本語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 留学生 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語VIIIでは、日本語で書くことを中心とする。特に、論拠を基に意見を述べる「論証型レポート」を作成することを目標とする。レポートを作成しながら課題に取り組むことで、日本語表現の学習だけでなく、構想からレポートの完成に至る一連の過程を学ぶ。授業ではピア(仲間)活動を多く取り入れ、自分の考えを論理的に伝え、相手の意見を聴くことで、協働的に学習することの有効性を感じてもらう。

## 教科書 /Textbooks

『ピアで学ぶ大学生の日本語表現』(大島弥生他、ひつじ書房)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

○『レポートの組み立て方』(木下是雄、筑摩書房)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の目的及び必要性を知る【知る/課題の条件を確認する】
- 2回 レポートとは何かを考える【論証型レポート/根拠の大切さを知る】
- 3回 レポートのテーマを考える【構想マップ/練る】
- 4回 情報をカード化する【情報の信頼性/調べる】
- 5回 目標を仮に規定する【情報の整理/絞る】
- 6回 アウトラインを作る【序論・本論・結論】
- 7回 パラグラフライティング【中心文/説明文・指示文】
- 8回 パラグラフライティング【引用/引用文献リスト】
- 9回 文章を点検する【校正/表現の点検】
- 10回 文章を点検する【形式の点検/ピア・レスポンス】
- 11回 レポートの完成【体裁】
- 12回 発表を準備する【発表の意義・レジユメの作成】
- 13回 発表する【話し手/聴き手/司会】
- 14回 発表を踏まえてレポートを修正する【最終稿提出】
- 15回 学習プロセスを振り返る【自己評価・ピア評価】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み...40% 課題...40% ピア評価...20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

日頃から時事問題に関心を持ち、それに対して自分の意見を考えてみてください。  
日本語VII及びVIIIは、授業内容の関連性が深いので連続して履修することが望ましい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

論証型レポート ピア・ラーニング 論理的思考

# 日本事情 ( 人文 ) A 【昼】

担当者名 /Instructor 則松 智子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

言語の学習と密接な関係にある文化について考える。文化とは何か、文化を学ぶとはいったいどのようなものであるのかを考えるにあたって、3つの論文を題材とする。これらの題材をクラス内で議論しながら、最終的には一人ひとりが自分にとっての文化をレポートとしてまとめていく。

## 教科書 /Textbooks

プリントを配布する

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

川上弘美 『あるようなないような』 中公文庫  
河合隼雄 「『母性』と『父性』の間をゆれる」 『国語総合』 大修館書店  
細川英雄 『日本語教育と日本事情 - 異文化を超える - 』 明石書店

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 「境目」を読む
- 3回 「境目」について話し合う
- 4回 「『母性』と『父性』の間をゆれる」を読む
- 5回 「『母性』と『父性』の間をゆれる」について話し合う
- 6回 「ことばと文化を結ぶために」を読む
- 7回 「ことばと文化を結ぶために」について話し合う
- 8回 文化観を比較する
- 9回 レポートの作成(1)私にとって文化とは何か
- 10回 ピア・リーディング(1)クラスメートのレポートを読んでコメントする
- 11回 授業外学生とのレポート交換活動
- 12回 ピア・リーディング(2)授業外学生からのコメントを読む
- 13回 レポートの作成(2)修正する
- 14回 完成したレポートをクラス内でピア・リーディングする
- 15回 総括

## 成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 50% 自己評価 ... 30% ピア評価 ... 20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

受講者が多数の場合、2年次以上の学生を優先します。  
授業外学生との作文交換活動を行う予定です。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

文化 比較 交換

# 日本事情 (人文) B 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

日本事情(人文)Bでは、現代日本人に通ずる伝統文化「茶道」「歌舞伎」を通して、「日本社会・日本文化・日本人とは何か」を考える。そして、文化を理解する視点を持つことで、グローバル化した現代社会の中で、時代に流されない生き方を模索する。

具体的には、日本の伝統芸能である「茶道」や「歌舞伎」を主たる題材として、体験学習を行う。その過程で立ち昇る日本文化について、クラス内で議論を重ねて行く。それらの過程で一人ひとりが、改めてそれぞれの文化を見つめ直し、気づきを得ることをもう一つのねらいとする。

授業では、日本語の古語があまり得意ではない受講者のために、できるだけ視覚的聴覚的に工夫を凝らすことで理解を促進する。

## 教科書 /Textbooks

毎回プリントを配布する

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

- 『茶の湯六ヶ国語会話』(淡交社編集局、淡交社)
- 『「お茶」の学びと人間教育』(梶田勲一、淡交社)
- 『表千家茶道十二月』(千宗左、日本放送出版協会)
- 『歌舞伎入門事典』(和角仁・樋口和宏、雄山閣出版)
- 『歌舞伎登場人物事典』(古井戸秀夫、白水社)
- 『歌舞伎のびっくり満喫図鑑』(君野倫子、小学館)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【伝統文化】【現代生活】
- 2回 茶道(1)茶道の世界をのぞく【茶室】【茶道具】【わびさびの世界】
- 3回 茶道(2)茶道から歴史を学ぶ【千利休】
- 4回 茶道(3)現代に続く伝統【工芸】【作法】
- 5回 茶道(4)体験する【薄茶をいただく】
- 6回 歌舞伎(1)歌舞伎の世界をのぞく【人間国宝】【女形】【大道具】
- 7回 歌舞伎(2)歌舞伎から歴史を学ぶ【江戸の町と町民文化】
- 8回 歌舞伎(3)演じる【竹本・義太夫】【現代に残る名台詞】
- 9回 歌舞伎(4)歌舞伎を観る【仮名手本忠臣蔵大序・三段目・四段目】
- 10回 歌舞伎(5)現代のサムライ【切腹】【武士道】
- 11回 歌舞伎(6)忠臣蔵と現代社会【世界観】【義】
- 12回 歌舞伎(7)魅力【大衆性】【芸術性】
- 13回 伝統文化と現代社会(1)日本へ与えた影響【文化の伝承】【サブカルチャー】
- 14回 伝統文化と現代社会(2)外国へ与えた影響【文化の融合】【新しい文化】
- 15回 総括

## 成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポート ... 60% 自己評価 ... 20% ピア評価 ... 20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

学期終了後ではあるが、2月に博多座へ歌舞伎鑑賞に行く予定である(希望者のみ)。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日頃から伝統的な文化(日本文化や自国文化を問わず)に興味を持っていると授業を楽しみやすいと思う。伝統文化と和服(考え方・着こなし)は切り離せない。簡略ではあるが、着付けも授業で練習する。

## キーワード /Keywords

茶道 歌舞伎 日本文化 自文化 異文化 伝統文化 現代生活 サブカルチャー 文化の伝承

# 日本事情 ( 社会 ) A 【昼】

担当者名 山崎 勇治 / 国際教育交流センター  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 留学生 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

第二次世界大戦後、日本経済はどのようにして発展してきたか、発展の過程でどんな問題が生じたかを知り、今後の日本経済のあり方について考えることがこの講義の目標である。日本が経済大国になった高度経済成長の時代、石油ショックとそれを克服した時代、その後のバブル経済とその崩壊、そして“失われた10年”からのアベノミクスにいたるまでの問題をとりあげ考えていく。

## 教科書 /Textbooks

教科書は使用しない。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

半藤利一『昭和史』平凡社、2004年、『昭和史 戦後篇』平凡社2006年  
○井村喜代子『現代日本経済論』(有斐閣)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 戦後の荒廃から復興へ
  - ① 第2次世界大戦後の日本経済 - 戦災と経済の混乱
- 第2回 ② 経済復興へ - 戦後の諸改革
  - 省エネ・省力、ファクトリー・オートメーション、貿易・経済摩擦
- 第3回 ③ 占領下の経済から復興へ
- 第4回 高度経済成長
  - ① 高度経済成長へ
- 第5回 ② 重化学工業の発展、国土開発政策の展開
- 第6回 ③ 経済発展と公害、四大公害訴訟
  - ④ 円高と対外直接投資の増大・日本企業の対外進出
- 第7回 石油ショックと低成長
  - ① 石油ショックとその影響
- 第8回 ② “重厚長大”から“軽薄短小”へ
- 第9回 ③ 貿易・経済摩擦
- 第10回 ④ 円高と対外直接投資の増大・日本企業の対外進出
- 第11回 バブル崩壊、不況
  - ① バブル経済、バブル崩壊と不況、不良債権問題
- 第12回 ② 長引く不況 - 失業の増加、非正規労働者(パートタイマー、派遣労働者、フリーター等)の増加
- 第13回 ③ アジア諸国、中国経済の発展と日本経済
- 第14回 現在の日本経済の諸問題
  - ① 少子高齢化社会保障
- 第15回 長期不況とアベノミクス-日本経済は立ち直れるのかー

## 成績評価の方法 /Assessment Method

毎回講義終了時に提出する簡単なレポート30%、期末試験70%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review



# 日本事情 ( 社会 ) A 【昼】

## 履修上の注意 /Remarks

授業以外の学習方法: 受講生へのメッセージ

- ・ 新聞の経済、政治、社会面を毎日読むようにしてほしい。重要な内容の記事は、切り抜いてレポート、報告等に利用する。講義であげる参考文献を読むようにしてほしい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 日本事情 ( 社会 ) B 【昼】

担当者名 山崎 勇治 / 国際教育交流センター  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 留学生 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

イギリスと日本の交流 150 年間を見る。そのことによって日本がいかにイギリス、特にスコットランドから影響を受けて近代化を押し進めたのかを明らかにする。とかく現代の日本人はアメリカに眼を向ける傾向がある。パックス・ブリタニカにおける日本の近代化の実態を明らかにし、日英関係の重要性を再認識したい。

## 教科書 /Textbooks

教科書は使用しない。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

その都度指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 イギリスとはどんな国か
- 第 2 回 長英戦争と薩英戦争-大根をモーリ、ミカンのことを「サツマ」と呼ぶのはなぜか
- 第 5 回 尊王攘夷と長英戦争およびグラバーと倒幕の志士
- 第 6 回 長州 5 傑がイギリス留学から学んだもの
- 第 7 回 回：長英戦争と高杉晋作
- 第 8 回 回：岩倉使節団が見たイギリス産業革命
- 第 9 回 回：大久保利光の殖産興業と雇われ外国人
- 第 10 回 日清戦争と下関条約
- 第 11 回 回：巨額の賠償金をめぐる各国の争い
- 第 12 回 回：官営八幡製鉄所と賠償金
- 第 13 回 回：日露戦争とは何か-朝鮮半島を脅かすロシア対策-
- 第 14 回 回：日露戦争と外債募集
- 第 15 回 回：バルチック艦隊の大遠征とカーディフ炭

## 成績評価の方法 /Assessment Method

毎回講義終了時に提出する簡単なレポート 30%、期末試験 70%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

- 授業以外の学習方法：受講生へのメッセージ
- ・新聞の経済、政治、社会面を毎日読むようにしてほしい。重要な内容の記事は、切り抜いてレポート、報告等に利用する。
- ・講義であげる参考文献を読むようにしてほしい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 国際法I【昼】

担当者名 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。	
技能	専門分野のスキル			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。	
	プレゼンテーション力			
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）			
	生涯学習力	●	現代社会が抱える国際法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。	
	コミュニケーション力			

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際法I

LAW250M

## 授業の概要 /Course Description

国際社会を規律する主要な法体系としての国際法について、その基本的枠組みの修得を目指します。  
国際法を一つのシステムとして捉え、国際法とは何か【法源論】【法の性質】、それはどのように形成され【法の定立】、実際に運用されていくのか【法の実施・履行】、【法の適用・解釈】、違反した場合どうなるのか【国際責任】、紛争はどのように処理されるのか【紛争解決】などの問題を取り扱っていきます。

## 教科書 /Textbooks

杉原高嶺編『コンサイス条約集』（三省堂、2009年） 1500円＋税  
講義の理解に必要な参考資料を、適宜配布、します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

参考書 横田洋三編『国際法入門（第2版）』（有斐閣・2005）○  
参考文献は、初回講義時に指示します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

### 第1回 コースガイダンス

### 第I部「国際社会における法律作り，国内社会における国際法」

- 第2回 条約の締結
- 第3回 条約への留保
- 第4回 条約の国内的効力と国内適用
- 第5回 まとめ

### 第II部「特別法と一般法」

- 第6回 条約と第三国
- 第7回 慣習国際法の成立
- 第8回 慣習国際法の法典化
- 第9回 条約の無効
- 第10回 まとめ

### 第III部「国際社会における秩序の維持」

- 第11回 国際責任
- 第12回 紛争の平和的解決義務と武力行使の禁止
- 第13回 自衛権
- 第14回 国際司法裁判所(ICJ)
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

課題①②および学期末試験で評価します。

課題①...16.7% 課題②...16.7% 学期末試験...66.6%

なおボーダーラインにあるときは、アサインメントの実施状況等も加味し、総合的に判断します。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

予習、復習を前提とした講義を展開します。  
詳細は、学習支援フォルダーで確認してください。  
「国際法II」と併せて受講すると学習効果があがります。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

4つの願いがあります。  
国際問題に関心を持ってほしい。国際問題を法的に検討する視角を身につけてほしい。国際法の現状と限界を学習し、現在の国際社会の姿を正しく理解してほしい。そして国際法は、自分たちの問題であることを認識してほしい。

## キーワード /Keywords

【国際法の定立】、【国際法の実施・履行】、【国際法の適用・解釈】、【国際責任】、【紛争解決】

# 国際法Ⅱ【昼】

担当者名 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える国際法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際法Ⅱ

LAW251M

## 授業の概要 /Course Description

国際社会を規律する主要な法体系としての国際法について、その基本的枠組みの修得を目指します。  
国際社会の基本構成単位としての国家が有する「主権」に注目し、国際法上、国家とは何か【国家の要件】【承認】、国家にはどのような権利が認められ、義務が課されるのか【国家の基本的権利・義務】、それはどのように行使され、どこまで認められるのか【領域】【個人】【管轄権の競合と調整】【国際法によるコントロール】などを取り扱います。

## 教科書 /Textbooks

杉原高嶺編『コンサイス条約集』（三省堂、2009年） 1500円＋税  
講義の理解に必要な参考資料を、適宜配布、します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

参考書 横田洋三編『国際法入門（第2版）』（有斐閣・2005）○  
参考文献は、初回講義時に指示します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

### 第1回 コースガイダンス

#### 第I部「国際法上の国家」

- 第2回 国家と承認制度：国家承認・政府承認
- 第3回 国家の基本的権利
- 第4回 国家の基本的義務
- 第5回 まとめ

#### 第II部「国際法主体としての個人」

- 第6回 人権の国際的保障：枠組み・基準設定
- 第7回 人権の国際的保障：監視・技術支援
- 第8回 国際犯罪
- 第9回 国際刑事裁判所(ICC)
- 第10回 まとめ

#### 第III部「陸・海・空と国際法」

- 第11回 陸と国際法：領土取得の権原・領域主権
- 第12回 海と国際法：海上交通
- 第13回 海と国際法：海洋資源
- 第14回 空と国際法
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

課題①②および学期末試験で評価します。

課題①...16.7% 課題②...16.7% 学期末試験...66.6%

なおボーダーラインにあるときは、アサインメントの実施状況なども加味し、総合的に判断します。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

予習、復習を前提とした講義を展開します。

詳細は学習支援フォルダーで確認してください。

「国際法I」と併せて受講すると学習効果があがります。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

5つの願いがあります。国際問題に関心を持ってほしい。国際問題を法的に検討する視角を身につけてほしい。国家システム(state system)の現状と課題を把握してほしい。国際社会における主権国家の機能・役割を正しく理解してほしい。そして国益、共通利益、国際社会の公益について、積極的に考えてほしい。

## キーワード /Keywords

【国家の要件】 【承認】 【国家の基本的権利・義務】 【領域】 【個人】 【管轄権の競合と調整】 【国際法によるコントロール】

# 国際貿易論I【昼】

担当者名 /Instructor 水戸 康夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 貿易に関する経済分析に必要な基礎的な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 貿易に関する諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができている。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 身の回りの貿易に関する諸問題を発見できる。
	生涯学習力	● 身の回りの貿易に関する諸問題を発見する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力	

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際貿易論 I

ECN345M

## 授業の概要 /Course Description

現在の日本では、国際貿易と関係なく暮らすことはできない。朝食として、コメ、パン、お味噌汁、牛乳、卵、ベーコン、豆腐等を食べている人は多いと思う。コメを生産するには、トラクター等を使うが、輸入する原油が必要である。パンの原料の多くは輸入する小麦である。味噌や豆腐の原料の多くは、輸入大豆である。牛乳や卵やベーコンのためには、牛や豚や鶏の飼育が必要であり、そのためには輸入するトウモロコシからなる配合飼料が必要である。つまり、朝食を食べるときにも、貿易は関係している。

このような状況にありながら、保護貿易的な考えを持つ政治家や官僚などが存在する。なぜ、保護貿易が間違いであるのか、また、なぜ誤った考え方である保護貿易的な考えを持つ人がなくなるのかを示し、自由貿易を推進すべき理由を示す。その際、小学校レベルの算数は使うが、それ以上のレベルのものは使わないように努力する。

この講義の目的は、国際経済関連のニュースに興味を持つようになり、ニュースを自分なりに判断できるようになることである。

テーマ：自由貿易と保護貿易

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

水戸康夫『海外進出リスク分析』創成社、2,000円  
その他の国際貿易に関わる一般的な参考書は、最初の講義時に示す。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 貿易理論を学ぶべき理由【保護貿易のメリット・デメリット】
- 第3回 保護貿易主義者の主張【自由貿易理論における仮定への批判】
- 第4回 自由貿易の歴史【英仏戦争、第2次世界大戦】
- 第5回 重商主義の問題点【ヒュームの理論】
- 第6回 絶対優位【A.スミス、2国2財1生産要素モデル】
- 第7回 比較優位【D.リカード、2国2財1生産要素モデル】
- 第8回 比較優位成立の確認【数値例を通じて】
- 第9回 貿易利益1【計算を通じて】
- 第10回 貿易利益2【図を用いて】
- 第11回 ヘクシャー=オリーン理論【2国2財2生産要素モデル】
- 第12回 リプチンスキー理論【2国2財2生産要素モデル】
- 第13回 要素価格均等化定理【2国2財2生産要素モデル】
- 第14回 ストルパー=サムエルソン定理【2国2財2生産要素モデル】
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

レポート20% 学期末試験80%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

国際経済論を受講すると、より深く講義を理解できるかもしれない。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

出席は重視している。

## キーワード /Keywords

自由貿易 保護貿易 TPP 比較優位



# 国際貿易論II 【昼】

担当者名 /Instructor 水戸 康夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 貿易に関する経済分析に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 貿易に関する経済の諸問題を理解し、その解決策を検討できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 身の回りの貿易に関する経済の諸問題に対して、その解決策を検討できる。
	生涯学習力	● 身の回りの貿易に関する諸問題に対して、その解決策を検討する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力	

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際貿易論II

ECN346M

## 授業の概要 /Course Description

各国政府は自由貿易をめざすべきであるが、自由貿易が実現しているとはいえない状況にある。自由貿易が実現していない理由については、国際貿易論Iにおいて講義している。自由貿易が実現しないとすれば、自由貿易未実現による国際経済の不効率を改善するものとして、直接投資が求められることになる。では、自由貿易を補充・代替するものである直接投資とはどのような特徴を持つのであろうか。講義に参加された人に対して、海外進出先に関してどのような選択をするのか尋ねた後、みなさんの先輩方に対して行なった実験結果を紹介し、海外進出先選択において偏りが見られることを紹介していきたい。その際、行動経済学を利用するので、行動経済学の紹介を行なう。

ゲーム理論も紹介するので、算数レベルのものに対してアレルギーのある人は避けた方が良くもしいが、算数に対して苦手レベルであれば、ついていけないような講義を目指す。

この講義の目的は、国際経済関連および海外に進出する日本企業にかかわるニュースに関心を持ち、ニュースに対して自分なりの判断ができるようになることである。

テーマ：経済的に合理的な選択と非合理的な選択

## 教科書 /Textbooks

水戸康夫『海外進出リスク分析』創成社、2009年、2,000円。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨソ
- 2回 行動経済学を紹介【行動経済学】
- 3回 ゲーム理論紹介【ゲーム理論】
- 4回 ゲーム理論の解き方【ゲーム理論】
- 5回 直接投資理論の紹介【直接投資理論】
- 6回 チキンゲーム【ゲーム理論】【中央値】
- 7回 3状況提示【意思決定原理】
- 8回 認識と選択【認識と選択の乖離】
- 9回 ストライキリスクと地震リスク【コンジョイント分析】【極小確率事象】
- 10回 ライバル参入リスク【コンジョイント分析】
- 11回 「対日感情」と「親近感」【コンジョイント分析】
- 12回 模倣リスク【コンジョイント分析】
- 13回 低確率リスク【SARS】
- 14回 反日感情(中国での反日デモ)
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

レポート20% 期末試験80%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

直接投資の説明に、行動経済学を利用するので、行動経済学の本に注目しているほうが望ましい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教科書はあらかじめ読んでいることを前提に講義を行なう。

## キーワード /Keywords

コンジョイント分析 ゲーム理論 経済的に合理的な選択 反日感情 直接投資理論

# 国際取引法【昼】

担当者名 大隈 一武 / 北方キャンパス 非常勤講師  
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 集中 授業形態 講義 クラス 3年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際取引法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える国際取引法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際取引法

LAW350M

## 授業の概要 /Course Description

国際取引法は、単独法として存在するものではない。企業実務において展開されてきた実務先行で、学問としてはまだ確立していない分野である。企業実務における経験から、それを国際契約法、海外投資・企業経営関係法、通商法の3つに分類して授業を行う。

## 教科書 /Textbooks

なし。プリント配布

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

大隈一武『国際契約法入門』（中央経済社・1996）  
外務省経済局監修『世界貿易機関を設立するマラケシュ協定WTO』（日本国際問題研究所・1997）

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 国際契約：英米法契約理論-例えば、【約因】【コモンロー】【衡平法】理論・判例検討
- 2回 契約条件と国際貿易条件【インコタームズ】、契約約款などを検討
- 3回 国際取引と制限：OECD賄賂禁止条約、輸出管理ワッセナー取り決め、歴史的展開
- 4回 国際契約書の起草：海外工事請負契約UNCITRALガイド参照、契約書のドラフティング
- 5回 国際取引諸条約（国際海上物品運送・国際物品売買条約【CISG】など）や荷為替信用状規則【L/C】など
- 6回 海外進出：投資・企業経営-単独進出と企業買収・合併など実務的な展開と内容を検討
- 7回 企業経営：株式会社・パートナーシップの異同を理解し、海外合併事業の方法論、実務
- 8回 投資協定、投資保証、多国間投資保証機関【MIGA】
- 9回 OECD多国籍企業ガイドライン
- 10回 通商法：自由貿易地域と関税同盟の異同、実態、国際的動向、わが国の対応などを検討
- 11回 ブロック経済と世界貿易機関【WTO】：上記10との関連で、WTOの調整・問題点を検討
- 12回 GATTからWTOへ：WTO、TPPなど国際機関・協定
- 13回 WTOの組織、諸協定
- 14回 紛争解決のメカニズム
- 15回 OECD、IBRD、IMFなどの国際機関の機能と役割：WTO以外の重要な国際機関の機能と役割を理解し、わが国の対応のあり方についても検討

## 成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 100%  
なお、出席が授業回数の3分の2に満たない場合は期末試験の受験資格を認めない。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

特になし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 国際私法【昼】

担当者名 /Instructor 小林 啓一 / NAKABAYASHI KEIICHI / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 3年  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 集中  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際私法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える国際私法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際私法

LAW252M

## 授業の概要 /Course Description

日本人同士の日本での結婚・売買等には日本の法律（民法など）が適用される。それでは、日本人が外国人と結婚・売買等をおこなう場合に適用されるのはいずれの国の法律であろうか。

国際私法はこのような問題を解決するための法律である。この授業では、国際私法とはどのような法律か、いかなる問題が国際私法によって解決できるかという点について、できるだけ具体例を用いながら考えてみたい。

## 教科書 /Textbooks

使用しません。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

松岡博編『国際関係私法入門（第3版）』（有斐閣、2011年）○

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 国際民事訴訟法(1)【財産関係事件の国際裁判管轄】
- 2回 国際民事訴訟法(2)【身分関係事件の国際裁判管轄】
- 3回 国際私法序論【国際私法の意義と必要性、法的性質】
- 4回 国際私法総論(1)準拠法の決定【法性決定、連結点の意味】
- 5回 国際私法総論(2)準拠法の特定【反致、公序】
- 6回 国際家族法(1)属人法と、婚姻の準拠法【国際結婚と法】
- 7回 国際家族法(2)離婚、親子関係の準拠法【国際離婚と法】
- 8回 国際家族法(3)その他の問題【氏、相続など】
- 9回 国際財産法(1)契約の準拠法(1)【当事者自治の原則】
- 10回 国際財産法(2)契約の準拠法(2)【特徴的給付、消費者契約、労働契約】
- 11回 国際財産法(3)不法行為の準拠法【一般不法行為、生産物責任、名誉毀損】
- 12回 国際財産法(4)自然人、法人【渉外的法律関係の主体と準拠法】
- 13回 国際財産法(5)その他の問題【知的財産、物権、債権譲渡】
- 14回 国際民事訴訟法(3)【外国判決の承認執行】
- 15回 まとめ

※順番を入れ替えることがあります。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に指示する課題... 30% 期末試験... 70%

※出席点はありません。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

事前準備は特に不要。復習すべき要点を授業中に指摘する。  
受講に際しては六法が必要です。  
法律学科以外の学生は、「法の適用に関する通則法」をコピーでもよいから準備すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

他の受講生の受講機会を阻害するような私語には（もしあれば）厳しく対処します。

## キーワード /Keywords

国際結婚、国際財産法、国際民事紛争の解決、子の奪取に関するハーグ条約

# アメリカ経済【昼】

担当者名 /Instructor 山崎 好裕 / Yoshihiro Yamazaki / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 米国経済の動向を理解するために必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 米国経済の動向に関連する経済の諸問題を理解し、その解決策を検討できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 身の回りの米国経済の動向に関連する経済の諸問題を発見し、その解決策を検討できる。
	生涯学習力	● 身の回りの米国経済の動向に関連する経済の諸問題を発見し、その解決策を検討する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力	

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

アメリカ経済

ECN351M

## 授業の概要 /Course Description

金融危機以降雇用面で問題を抱えてきたアメリカですが、緩やかに回復の傾向が見られます。また、アメリカの中央銀行であるフェッドでは、イエレン議長へとその金融面での舵取りが引き継がれました。長く続いた金融緩和を縮小することが決まっているなか、今年のアメリカ経済は日本経済とともに目の離せないものになるでしょう。

他方、アメリカは貧富の格差や財政赤字などの構造的な問題も抱えています。こうした問題にオバマ大統領がどのように対処していけるかも重要な論点です。

この講義ではアメリカ経済の全体と、産業、金融、経済成長など各側面を、データを使って確認した上で、日本経済と比較しながら分かりやすく説明します。

経済学の前提となる知識も分かりやすく説明してきますので、いずれの学科の人たちでも無理なく受講できます。

## 教科書 /Textbooks

山崎好裕『目からウロコの経済学入門』ミネルヴァ書房、2004年11月。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

小野亮・安井明彦『やっぱりアメリカ経済を学びなさい - 世界経済はアメリカを中心に動く』東洋経済新報社、2013年6月。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 アメリカの産業と所得
- 2 アメリカの所得分配と社会保障
- 3 アメリカ家計の消費と貯蓄
- 4 アメリカの社会階層と失業
- 5 アメリカ企業と収益
- 6 アメリカ企業と投資
- 7 アメリカ政府と税制
- 8 アメリカの政府支出と財政
- 9 アメリカの通貨制度
- 10 アメリカの金融システム
- 11 アメリカ経済と金利
- 12 アメリカの国際収支
- 13 アメリカ経済と為替レート
- 14 アメリカ経済と物価
- 15 アメリカの経済成長と景気

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...80% レポート...20%

定期試験では、アメリカ経済の制度的特徴についての穴埋め問題が6問、全体的特色についての○×問題が8問、テキストのコラムにある計算問題が2問出題されます。レポートはアメリカ経済についてのプリントを読んでまとめ、自分の感想・見解と一緒に2000字程度で作成します。レポートの提出期限・提出方法、試験範囲は随時授業で連絡します。

# アメリカ経済【昼】

専門教育科目  
選択科目  
法経科目群

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

受講すれば、みんなの頭にアメリカ経済のはっきりしたイメージが浮かび、なおかつ、経済というものを身近に感じられます。経済学を学んだことがある人もない人も、安心して受講してください。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

私は福岡大学教授（経済学部・大学院経済学研究科）なので、普段は北方キャンパスにいません。質問や相談はメール（yamazaki@cis.fukuoka-u.ac.jp）に送ってください。

## キーワード /Keywords

World Largest Economy 消費大国 サービス経済化 QE3 オバマケア 経常収支赤字 所得格差 投資銀行 ファンド 住宅投資 基軸通貨



# イギリス文学概論 【昼】

担当者名 田吹 長彦 / 北方キャンパス 非常勤講師  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	イギリス文学を理解するための基礎的な知識を習得している。
技能	専門分野のスキル	●	イギリス文学の研究方法を身につけている。
	英語力		
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	イギリス文学に対する関心を高める。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

イギリス文学概論

LIT231M

## 授業の概要 /Course Description

イギリスの土壌には、マザーグース、フォークソング、バラッド、叙情詩、叙事詩などの「うた」や「詩」に関する文化が深く根づいている。これらは英語圏の人々の精神構造の根底に存在し、日常会話、時事英語、テレビ、映画などの中で使用されることがある。「イギリス、うたと詩の旅」という雰囲気学び、さらに高度な学習へのアプローチを支援する。

## 教科書 /Textbooks

Cecil Day Lewis, Poetry for You(南雲堂)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 岡沢 武『英詩の心』篠崎書林。
- 石井 正之助『英詩珠玉選』大修館書店。
- 斎藤 勇『英詩概論。増訂新版』研究社出版。
- 安斎 七之介『詩とその鑑賞』篠崎書林。
- 尾島 庄太郎『英詩の味わい方』研究社出版。
- 石井白村『英詩韻律法概説』篠崎書林。
- 新井 明『英詩鑑賞入門』研究社出版。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

上記のテキストの中から、次の内容に従って解説する。

### 第1回-第7回

#### ◆Poems that tell a Story

- 1 Gossip into poetry
- 2 As if It had happened to us
- 3 'A Plume in his helmet, a sword at his knee'
- 4 'Of moving accidents by flood and field'
- 5 Poetry about people

### 第8回-第15回

#### ◆Moods, Visions, and Seasons

- 1 A seamless garment
- 2 Pure and simple
- 3 The poet in contemplation
- 4 Poems about death
- 5 'Ye Presences of Nature
- 6 The sense of beauty

## 成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験の成績・・・80%

出席状況、および受講状況(授業日数の2/3以上の出席は必須条件)・・・20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

講義ノートを必ず作成すること。テキストは英文なので、事前に講義の予習を済ませておくことと理解に役立つ。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

イギリス文学における“poetry”の分野は世界の英語圏において最も影響を与えてきたものである。イギリス社会に潜在する、ものの考え方や見方の根幹をなすものでもある。これらの素養に培われた人の心や資質は政治・経済・科学などあらゆる社会活動において大きく作用する。伝統的にイギリス文学の根幹をなしてきた“poetry”とは何かを探ることは、英語を学ばれわれ日本人にも広い視野や深い洞察力・見識をもたらすことが多い。

## キーワード /Keywords

イギリスの思想・社会・伝統。人間の心と資質。言語で味わうproprietyあるいはdecorum。

# アメリカ文学概論【昼】

担当者名 /Instructor 前田 譲治 / Johji Maeda / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	アメリカ文学を概括的に理解する上で必要な基礎的な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	アメリカ文学の基本的な研究方法を身に付ける。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力		
	実践力（チャレンジ力）		
関心・意欲・態度	生涯学習力	●	アメリカ文学に対する関心を高める。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

アメリカ文学概論

LIT230M

## 授業の概要 /Course Description

アメリカ文学全体を時代を越えて貫いている複数の特徴を確認することにより、アメリカ文学の全体像を理解してもらう。さらには、アメリカ文学の特徴が、ハリウッド映画によっても共有されている事実も実際に映像を見ることによって明らかにする。次いで、そのような文学と映画との共通性が何ゆえに生じたのかを、アメリカの社会、歴史、文化の特質に目を向けることにより理解してもらう。文学と映画という、一見すると全く異質に見える存在が、実は、共に特定の社会の下に誕生した以上、同根の存在とならざるを得ない事実を理解してもらえたら幸いである。また、アメリカ文学を文化的背景と絡めて分析する視点も身につけてもらえたらと考えている。

## 教科書 /Textbooks

使用しない。必要に応じてアメリカ文学作品からの抜粋（日本語の翻訳）をプリントの形で配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 『アメリカ文学思潮史』 福田陸太郎 中教出版
- 『アメリカ文学史 1、2、3』 亀井俊介 南雲堂
- 『アメリカ文学必須用語辞典』 スティーブン・マタソン 松柏社
- 『アメリカ文学案内』 寺門泰彦/渡辺信二 朝日出版社

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の進め方、参考文献の説明
- 2回 アメリカ文学に関する基礎知識
- 3回 アメリカ文学にみるアメリカ人の自意識のあり方の分析
- 4回 ハリウッド映画にみるアメリカ人の自意識のあり方の分析と、映画と文学の共通性が生じた文化的背景
- 5回 アメリカ文学における社会意識の特質の分析
- 6回 ハリウッド映画における社会意識の特質の分析と、映画と文学の共通性が生じた文化的背景
- 7回 アメリカ文学における移動描写の分析
- 8回 ハリウッド映画における移動描写の分析と、映画と文学の共通性が生じた文化的背景
- 9回 アメリカ文学における恋愛・結婚描写の特質の分析
- 10回 ハリウッド映画における恋愛・結婚描写の特質の分析と、映画と文学の共通性が生じた文化的背景
- 11回 アメリカ文学における超常現象描写の分析
- 12回 ハリウッド映画における超常現象描写の分析と、映画と文学の共通性が生じた文化的背景
- 13回 アメリカ文学における自然描写の分析
- 14回 ハリウッド映画における自然描写の分析と、映画と文学の共通性が生じた文化的背景
- 15回 補足説明、総括

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験100% 配布プリント持ち込み可（ただし、書き込みがなされたプリントのコピーは持ち込みは不可）、自筆ノート持ち込可（ただし、コピーノートは持ち込みは不可）

# アメリカ文学概論【昼】

専門教育科目  
選択科目  
英米文学・文化科目群

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

講義で取り上げる作家と作品名は事前に知らせますので、既出の参考書等を講義前に参照し、作者と作品に関する基礎的な情報を確認しておく  
と、講義がより理解しやすくなります。同様に、講義で取り上げる映画も事前に周知しておきますので、興味がある場合は、各自で事前に鑑賞  
しておいて下さい。講義で取り上げる映画の大半は、図書館AVルームにソフトが収納されています。講義中には、時間の関係で、映画は重要な  
箇所のみを断片的に見る形を取ります。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# イギリスの現代文学 【昼】

専門教育科目  
選択科目  
英米文学・文化科目群

担当者名 /Instructor 田部井 世志子 / Yoshiko TABEL / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 /2 Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 1学期 /1 Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 2年 /2 Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	イギリスの現代文学について理解している。
技能	専門分野のスキル	●	イギリスの現代文学の研究方法を身につけている。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	イギリスの現代文学に関する課題を自ら設定し、適切な研究方法を活用しながら、複眼的視野に立って考察し、解決できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力 コミュニケーション力	●	イギリスの現代文学に対する関心を高める。

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

イギリスの現代文学

LIT234M

## 授業の概要 /Course Description

「幸福」について共に考えよう！！

文学作品の面白さの一つは、主人公を中心とする人物たちの様々な生き様を読むことで、読者がいつのまにかその世界にすっかり引き込まれ、自分自身がまるでactor、actressになったかのように別の人生を生きることができるところにあります。人間はともすると、居心地のよい自分だけの小さな世界の中で安穩と生きることができ、井の中の蛙になりがちです。そのような中、独りよがりな独善から解放され、より広く深い人間観を持つためには、文学作品を読むことはうってつけの方法と言えるでしょう。更に、より広い世界観を得るためには、自国の文学だけに満足することなく、様々な国々の文学作品に接することも必要です。

現代文学の始まりがいつなのかについては、研究者の間でも諸説入り混じっていますが、イギリス文学史においては20世紀初頭に大きな変化が見られるため、本講義では便宜上、20世紀以降の作品を主に扱うことにします。

イギリスの20世紀以降は、伝統を重んじる保守派の中から、様々な領域において刷新を望む新しい力が台頭してきた、とても興味深い時代です。そのような変化が如実に反映されている文学作品の中でも、この授業では、主に短篇小説を読むことで、様々な人間についての問題について一緒に考えていきましょう。そうすることで、より広い視野をもつことができればと思います。（本年度の主なテーマは「幸福」です。）

### ★到達目標

- ①イギリスの現代文学のいくつかの作品を理解すること。
- ②イギリスの現代文学の研究方法を身につけること。（一つのテーマで比較検討すること。）
- ③イギリスの現代文学に関する課題を自ら設定し、適切な研究方法を活用しながら、複眼的視野に立って考察し、解決できること。
- ④イギリスの現代文学に対する関心を更に高めること。

## 教科書 /Textbooks

プリントを配布します。（原則として翻訳を用いますが、英語で書かれた原作も準備します。）

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜指示します。

# イギリスの現代文学 【昼】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入 ( テーマ、授業の勧め方、評価方法などについての説明 )
- 2回 “The Happy Man” by W. S. Maugham、内容確認
- 3回 “The Happy Man” by W. S. Maugham、議論【地位やお金と幸福】
- 4回 “The Happy Prince” by O. Wilde、内容確認
- 5回 “The Happy Prince” by O. Wilde、議論【自己犠牲と幸福】
- 6回 “A Little Cloud” by James Joyce、内容確認
- 7回 “A Little Cloud” by James Joyce、議論【自由や束縛と幸福】
- 8回 “Miss Brill” by K. Mansfield、内容確認
- 9回 “Miss Brill” by K. Mansfield、議論【孤独の不幸】
- 10回 August Is a Wicked Month by E. O'Brien、内容確認
- 11回 August Is a Wicked Month by E. O'Brien、議論【男女の愛の不毛性】
- 12回 Lady Chatterley's Lover by D.H. Lawrence、内容確認
- 13回 Lady Chatterley's Lover by D.H. Lawrence、議論【自然との関係にみる救い】
- 14回 幸福についての議論
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

試験 or レポート...90%      平常点 ( 課題など ) ...10%      ( 出席重視 )

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

短編については、配布する物語をあらかじめ授業の前に読んでおいてください。

原作 ( 英語のオリジナル ) のプリントも配布するので、英語を頑張りたい人は積極的にそれを活用して自分で訳す作業をすることをお勧めします。その作業をやった人については、評価に +α の配点をします。

## キーワード /Keywords

【地位やお金と幸福】、【自己犠牲と幸福】、【自由や束縛と幸福】、【孤独の不幸】、【男女の愛の不毛性】、【自然との関係にみる救い】

# アメリカの現代文学 【昼】

担当者名 新村 昭雄 / 北方キャンパス 非常勤講師  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	アメリカの現代文学の特質を理解する上で必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	アメリカの現代文学の基本的な研究方法を身に付ける。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	アメリカの現代文学に関する課題を見出し、解決できる。
	プレゼンテーション力 実践力（チャレンジ力）		
関心・意欲・態度	生涯学習力	●	アメリカの現代文学に対する関心を高める。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

アメリカの現代文学

LIT232M

## 授業の概要 /Course Description

まず、現代の第一次世界大戦後の荒廃を【ロスト・ジェネレーション】の世代としてニヒリズムの虚無と闘ったE・Hemingway、そして【ユダヤ系文学】、【黒人文学】、第二次世界大戦後の【ポストモダニズムの文学】を読んで現代アメリカ文学への理解を深めていきたい。

### 【ロスト・ジェネレーション文学】

Ernest Hemingway: The Sun Also Rises 『日はまた昇る』（集英社文庫）  
F・S・Fitzgerald: The Great Gatsby 『グレート・ギャツビー』（中央公論新社）

### 【ユダヤ系文学】

J.D. Salinger: The Catcher in the Rye 『ライ麦畑でつかまえて』（白水Uブックス）、

### 【黒人文学】

Richard Wright: Native Son 『アメリカの息子』（ハヤカワNVブックス）

### 【ポストモダニズム文学】

Robert Newton Peck: A Day No Pigs Would Die 『豚の死なない日』（白水社Uブックス）  
Dennis Johnson: Jesus' Son 『ジーザス・サン』

## 教科書 /Textbooks

Ernest Hemingway: The Sun Also Rises 『日はまた昇る』（集英社文庫）  
F・S・Fitzgerald: The Great Gatsby 『グレート・ギャツビー』（中央公論新社）  
J.D. Salinger: The Catcher in the Rye 『ライ麦畑でつかまえて』（白水Uブックス）  
Richard Wright: Native Son、【ユダヤ系文学】、【黒人文学】、【ポストモダニズム】（絶版なので資料配付）  
Robert Newton Peck: A Day No Pigs Would Die 『豚の死なない日』（資料配付）  
Dennis Johnson: Jesus' Son 『ジーザス・サン』（資料配付）

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

参考文献等は図書館の指定図書コーナーに開架し、さらにまた、その都度指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Ernest Hemingway: The Sun Also Rises 【国籍離脱者Exile】 【Hard-boiled】
- 2回 Ernest Hemingway: The Sun Also Rises 【ロスト・ジェネレーション】
- 3回 パリ、スペイン・パンプローナ「牛追い祭」と闘牛のシーン（映画・ビデオ）で鑑賞。
- 4回 F・S Fitzgerald : The Great Gatsby 【The Jazz Age】
- 5回 F・S Fitzgerald : The Great Gatsby 【Gatsby's Dream】
- 6回 F・S Fitzgerald : The Great Gatsby 【American Dream】日本の【成金】との比較
- 7回 映画「華麗なるギャッツビー」の鑑賞。
- 8回 J.D. Salinger: The Catcher in the Rye 【ユダヤ系作家】 【Soft-boiled】映画Scent of A Woman東部の名門寄宿高校
- 9回 J.D. Salinger: The Catcher in the Rye 【禅仏教】 【Angry Young Men】映画Scent of A Woman東部の名門寄宿高校
- 10回 Richard Wright: Native Son 【黒人作家】 【エリソン】 【ポールドウィンら黒人作家】
- 11回 Richard Wright: Native Son 【Black Power】 【旧約聖書・ヨブ記】
- 12回 ポストモダニズムの文学（1）Ken Kesey: One Flew Over the Cuckoo's Nest 【サイケデリック・カルチャー】
- 13回 ポストモダニズムの文学（2）Joseph Heller : Catch-22 【ギラン・バレー症候群】 【Catch-22的状況とは】
- 14回 ポストモダニズムの文学（3）Robert Newton Peck : A Day No Pigs Would Die 『豚の死なない日』（白水社Uブックス）
- 15回 ポストモダニズムの文学（4）【ブラックユーモア】 【シュールリアリズム】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況（20%）、レポート（50%）と学期末試験（30%）

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

授業で準備することは、テキストを読むこと、さらに、授業中指示した参考書等を読むこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords



# イギリスの18-19世紀文学【昼】

担当者名 虹林 慶 / 北方キャンパス 非常勤講師  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● イギリスの18-19世紀文学について理解している。
技能	専門分野のスキル	● イギリスの18-19世紀文学の研究方法を身につけている。
	英語力 その他言語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● イギリスの18-19世紀文学に関する課題を自ら設定し、適切な研究方法を活用しながら、複眼的視野に立って考察し、解決できる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● イギリスの18-19世紀文学に対する関心を高める。
	コミュニケーション力	

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

イギリスの18-19世紀文学

LIT235M

## 授業の概要 /Course Description

18、19世紀のイギリス文学に関する文学史としての基礎的知識を提供し、時代あるいは作家毎に、代表的な作品の抜粋に触れる。テキスト理解を含めた内容を提供することで、イギリス文学史形成のダイナミズムを理解するだけでなく、重要な作家、文人たちについての興味を拡充していくきっかけを提供することが目標である。

## 教科書 /Textbooks

授業中に配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業中に指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 01) イントロダクション ( 王政復古期の説明 )
- 02) 18世紀の小説 ( スウィフト、デフォーを中心に )
- 03) 18世紀の小説 ( リチャードソン、フィールディングを中心に )
- 04) 18世紀の小説 ( スモレット、スターンを中心に )
- 05) 18世紀の散文 ( ジョンソン博士など )
- 06) 18世紀の詩と劇 ( ポープ、ジョンソンなど )
- 07) 18世紀の詩 ( ファーガソン、コリンズ、グレイなど )
- 08) 19世紀の詩 ( ワーズワース、コールリッジ、ブレイク )
- 09) 19世紀の詩 ( バイロン、シェリー、キーツ )
- 10) 19世紀の詩 ( テニソン、ブラウニング )
- 11) 19世紀の詩 ( モリス、スウィンバーン、ロセッティなど )
- 12) 19世紀の小説 ( ブロンテ姉妹、オースティンなど )
- 13) 19世紀の小説 ( サッカレー、ディケンズなど )
- 14) 19世紀の小説 ( エリオット、ハーディーなど )
- 15) 19世紀の散文 ( ラスキン、モリス、ペイター )

## 成績評価の方法 /Assessment Method

提出物 ( 小テスト、レポートを含む ) 40% 定期試験60%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

出席を3分の2以上していない者は期末試験の受験資格が無い。また、授業の雰囲気低下させる行為 ( 私語、携帯端末の使用、授業内容と関係ない行為、居眠り等 ) をする者は、適宜出席の取り消し、室外退去、減点を行うので留意されたい。

# イギリスの18-19世紀文学 【昼】

専門教育科目  
選択科目  
英米文学・文化科目群

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# アメリカの18-19世紀文学 【昼】

担当者名 /Instructor 新村 昭雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /2 Years 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 1学期 /1 Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 2年 /2 Years

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	アメリカの18-19世紀文学の特質を理解する上で必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	アメリカの18-19世紀文学の基本的な研究方法を身に付ける。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	アメリカの18-19世紀文学に関する課題を見出し、解決できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	アメリカの18-19世紀文学に対する関心を高める。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

アメリカの18-19世紀文学

LIT233M

## 授業の概要 /Course Description

アメリカ文学の古典である、アメリカ植民地時代の【ピューリタニズム】と【アメリカの独立】の時代を見事に描いたNathaniel Hawthorneの文学、【アメリカ民主主義】の讃歌と西洋文明の挽歌を歌ったHerman Melville、民主主義の国アメリカの新しい、【独立心】の強い女を描いたHenry JamesのDaisy MillerやThe Portraite of a Ladyを読んでアメリカ文学の古典への理解を深めていきたい。

## 教科書 /Textbooks

Nathaniel Hawthorne: Short Stories 『ホーソン短編集』（岩波文庫）  
Nathaniel Hawthorne: The Scarlet Letter 『緋文字』（岩波文庫）  
Herman Melville: Moby Dick or the white whale 『白鯨』（新潮文庫）  
Henry James: Daisy Miller 『デージー・ミラー』（新潮文庫）  
Henry James: The Portraite of a Lady 『ある婦人の肖像』（岩波文庫）

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- Nathaniel Hawthorne: Short Stories 『ホーソン短編集』（岩波文庫）
  - Nathaniel Hawthorne: The Scarlet Letter 『緋文字』（岩波文庫）
  - Herman Melville: Moby Dick or the white whale 『白鯨』（新潮文庫）
  - Henry James: Daisy Miller 『デージー・ミラー』（新潮文庫）
  - The Portraite of a Lady 『ある婦人の肖像』（岩波文庫）
- 参考文献等は図書館の指定図書コーナーに開架し、さらにまた、その都度指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Nathaniel Hawthorne: Short Stories 【大英帝国植民地】 【マサチューセッツ・ボストン】 映像
- 2回 Nathaniel Hawthorne: Short Stories 【ピューリタニズム】 映像
- 3回 Nathaniel Hawthorne: Short Stories 【自由主義思想】 【Salem魔女裁判】 映像
- 4回 Nathaniel Hawthorne: The Scarlet Letter 【ピューリタニズム】 【啓蒙主義思想】 の文学・映像
- 5回 Nathaniel Hawthorne: The Scarlet Letter 【超絶主義】 の文学・映像
- 6回 NHKグレートブックス・シリーズ「緋文字」のビデオを観て「緋文字」の現代的意味を探る。
- 7回 Herman Melville: Moby Dick or the white whale 【アメリカ民主主義】 【バーバリズム】 Powerpointによる解説
- 8回 Herman Melville: Moby Dick or the white whale 【ゾロアスター教】 【拝火教】 Powerpointによる解説
- 9回 Herman Melville: Moby Dick or the white whale 【白鯨とは何なのか】 【ヨブ記】 【異端】 映像
- 10回 Henry James: Daisy Miller 【19世紀の女性】 【Independent】 【自由とは】 映像
- 11回 Henry James: Daisy Miller 【慣習】 【因習】 【しきたり】 【Freedom】 【自由恋愛】 映像
- 12回 Henry James: The Portraite of a Lady 【民主主義アメリカの新しい女性】 【自立した女性】 映像
- 13回 Henry James: The Portraite of a Lady 【旧世界の因習】 【選択】 【人生の苦しみ】 映像
- 14回 Henry James: The Portraite of a Lady 【結婚・離婚と自己責任】 映像
- 15回 まとめ・Jamesの映像『金色の嘘』『鳩の翼』

# アメリカの18-19世紀文学 【昼】

専門教育科目  
選択科目  
英米文学・文化科目群

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 ( 30% )、レポート ( 40% ) と学期末試験 ( 30% )

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

準備としてテキストを読むこと、授業次に指示した参考書等を読むこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

【大英帝国植民地】【マサチューセッツ・ボストン】Nathaniel Hawthorne【ピューリタニズム】【自由主義思想】【Salem魔女裁判】【ピューリタニズム】【啓蒙主義思想】【超絶主義】『緋文字』の現代的意味【アメリカ民主主義】【バーバリズム】【ゾロアスター教】【拝火教】【白鯨とは何ものが】【ヨブ記】【異端】【19世紀の女性】【Independent】【自由とは】【慣習】【因習】【しきたり】【Freedom】【自由恋愛】【民主主義アメリカの新しい女性】【自立した女性】【旧世界の因習】【選択】【人生の苦しみ】【結婚・離婚と自己責任】

# アメリカ文化史【昼】

専門教育科目  
選択科目  
英米文学・文化科目群

担当者名 /Instructor 寺田 由美 / Yumi Terada / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 / 2年 / 単位 /Credits 2単位 / 学期 /Semester 1学期 / 授業形態 /Class Format 講義 / クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	アメリカ文化理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	アメリカ文化の理解に関わる資料を活用した調査研究能力を修得する。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	アメリカ文化に見られる諸問題について、発見・分析できる。
	プレゼンテーション力 実践力（チャレンジ力）		
関心・意欲・態度	生涯学習力	●	アメリカ文化史に対する関心を深めることができる。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

アメリカ文化史

ARE227M

## 授業の概要 /Course Description

21世紀を迎えたアメリカ社会が相変わらず抱える課題のひとつが、人種や民族の問題である。これは、アメリカ合衆国の原則ともいえる民主主義を揺るがしかねない深刻な問題をはらんでいる一方で、アメリカのダイナミズムの源にもなりうる。本講義では主に、アフリカ系アメリカ人、ヒスパニック、日系人を取り上げ、その歴史的背景を踏まえ、今日のアメリカ社会における人種や民族をめぐる問題を考える。

## 教科書 /Textbooks

特に指定しない。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

開講時及び授業中に紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 アフリカ系アメリカ人の歴史：南北戦争以前の状況
- 第3回 アフリカ系アメリカ人の歴史：南北戦争後の南部社会
- 第4回 アフリカ系アメリカ人の歴史：「分離すれども平等」の原則の確立と黒人の抵抗運動
- 第5回 アフリカ系アメリカ人の歴史：「分離すれども平等」の原則の否定
- 第6回 アフリカ系アメリカ人の歴史：公民権運動の進展
- 第7回 アフリカ系アメリカ人の歴史：アフリカ系アメリカ人を取り巻く今日の状況
- 第8回 日系アメリカ人の歴史：前世紀転換期における移住の開始
- 第9回 日系アメリカ人の歴史：20世紀初頭の日本人移民制限の動き
- 第10回 日系アメリカ人の歴史：太平洋戦争の勃発と強制立ち退き
- 第11回 日系アメリカ人の歴史：第二次世界大戦における日系人部隊
- 第12回 日系アメリカ人の歴史：戦後の補償問題
- 第13回 ヒスパニック系アメリカ人の歴史：ブラセロ計画
- 第14回 ヒスパニック系アメリカ人の歴史：1965年移民法
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、学期末試験(100%)で評価する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

授業中に紹介する参考文献等を積極的に読むこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# アメリカの社会と文化【昼】

専門教育科目  
選択科目  
英米文学・文化科目群

担当者名 /Instructor ODU 教員 / 国際教育交流センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 集中 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	アメリカの社会と文化についての諸問題について、専門的知識を身に付けている。
技能	専門分野のスキル	●	アメリカの社会と文化の諸問題を正しく理解し、情報の収集や分析ができる。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力		
	実践力（チャレンジ力） 社会的責任・倫理観		
関心・意欲・態度	生涯学習力	●	卒業後も、生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

(英米) アメリカの社会と文化	ARE222M
(国関) 地域研究特講	ARE200M

## 授業の概要 /Course Description

後日揭示。

## 教科書 /Textbooks

後日揭示。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

後日揭示。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

後日揭示。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

後日揭示。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# アメリカの都市文化 【昼】

担当者名 寺田 由美 / Yumi Terada / 比較文化学科, 福田 展淳 / Hiroatsu FUKUDA / 建築デザイン学科 (19~)  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	アメリカ都市文化理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	アメリカ都市文化の理解に関わる資料を活用した調査研究能力を修得する。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	アメリカ都市文化に関する諸問題について、発見・解決できる。
	プレゼンテーション力 実践力（チャレンジ力）		
関心・意欲・態度	生涯学習力	●	アメリカ都市文化に対する関心を深めることができる。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

アメリカの都市文化

ARE224M

## 授業の概要 /Course Description

本講義の目的は、20世紀前半を中心としたアメリカの近代建築と、それらが建ち並ぶ都市の歴史を学び、現代合衆国都市の文化や人びとのくらしの源流を探ることにある。本講義では、福田は、合衆国の1900年以降に建設されたモダニズム建築を取り上げ、映像や写真を中心に、デザインの裏側にあるアメリカの文化、建築家の思考、建築デザインが生み出される社会的な背景などを解説する。寺田は、19世紀末から20世紀前半の合衆国社会の変容と都市における居住空間の形成、およびそれに伴い発生する問題について解説する。

## 教科書 /Textbooks

特に指定しない。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

Twentieth-Century American Architecture: The Buildings and Their Makers (W. W. Norton & Company, 2000) ; 竹田有『アメリカ労働民衆の世界』(ミネルヴァ書房、2010年) ; リチャード・プランツ『ニューヨーク 都市居住の社会史』(鹿島出版会、2005年)。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. はじめに(寺田)
2. シカゴの近代建築 1 : スカイスクレーパーの誕生 (福田)
3. シカゴの近代建築 2 : 世界の都市に影響を与えたシカゴの超高層建築(福田)
4. ニューヨークの近代建築 1 : ネオゴシックからアールデコ超高層へ(福田)
5. ニューヨークの近代建築 2 : モダニズムからポストモダニズム超高層へ(福田)
6. アメリカの巨匠建築家 : フランク・ロイド・ライト(福田)
7. 歩き回れる都市の変容 1 : 20世紀初頭アメリカにおける産業化・都市化(寺田)
8. 歩き回れる都市の変容 2 : 20世紀初頭アメリカにおける移民の流入 (寺田)
9. メトロポリスの形成 1 : エスニシティと階級(寺田)
10. メトロポリスの形成 2 : 人種と階級(寺田)
11. 都市における対立と隔離の発生 1 : 1919年シカゴ人種暴動(寺田)
12. 郊外における中産階級の再生産 : オークパーク(寺田)
13. 都市における対立と隔離の発生 2 : 1992年ロサンゼルス暴動 (寺田)
14. 都市の変容 : デトロイトとフリント (寺田)
15. 学生レポート講評とまとめ(福田 / 寺田)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、レポート(福田)60%、試験(寺田)40%で評価する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

授業中に紹介する参考文献等を積極的に読むこと。



# アメリカの都市文化 【昼】

専門教育科目  
選択科目  
英米文学・文化科目群

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# アメリカの大衆文化 【昼】

担当者名 /Instructor 前田 譲治 / Johji Maeda / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	アメリカの大衆文化の特質を理解する上で必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	アメリカの大衆文化の基本的な研究方法を身に付ける。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	アメリカの大衆文化に関する課題を見出し、解決できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力 コミュニケーション力	●	アメリカの大衆文化の特質に対する関心を高める。

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

アメリカの大衆文化

ARE221M

## 授業の概要 /Course Description

誰もがなじみの深いハリウッド映画を大衆文化の題材として取りあげ、映画の中にアメリカ人の精神性や、美意識、価値観がいかなる形で投映されているかを考察する。そのような分析を行うことを通して、映画とアメリカ文化との関連性に対する理解を深めてもらう。講義では、アメリカ文化の特性を、映画を通して可能な限り具体的に把握できるよう工夫したい。このプロセスを通して、アメリカ人の価値観や美意識の特殊性への理解も深めてもらいたい。最終的には、ハリウッド映画を文化的な文脈の中で分析的に鑑賞する視点を、授業を通して体得してもらうことができたら幸いである。

## 教科書 /Textbooks

テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 『映画で学ぶアメリカ文化』、スクリーンプレイ出版（映画とアメリカ文化の関連性を様々な視点から）
- 『映画で楽しむアメリカ文学』、金星堂、（アメリカ文学と映画の比較の視点から）
- 『映画で楽しむアメリカの歴史』、金星堂（映画とアメリカ史の関連性を様々な視点から）
- 『サーカスが来た!』、亀井俊介先生、岩波書店、（指定図書コーナー）（サーカス、オペラハウス、ターザン、ハリウッド）
- 『アメリカンヒーローの系譜』、亀井俊介先生、研究社、クリーム色、（ランボー、ロッキー）
- 『アメリカの大衆文化』、明石書店、清水知久（映画、音楽、スポーツ、広告）
- 『アメリカの大衆文化』、研究社、亀井俊介、（テレビ、漫画、音楽、映画など）
- 『アメリカが見えてくる』、サイマル出版会、越智道雄（アメリカ社会の諸現象と映画の関連性）

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の進め方、参考文献の説明
- 2回 『ビッグ』をビデオで鑑賞
- 3回 『ビッグ』の子供描写の特徴
- 4回 『A.I.』、『ターミネーター2』、『バック・トゥ・ザ・フューチャー』の子供の描き方の概観
- 5回 アメリカ映画の子供の描き方の特徴とアメリカ史との関係
- 6回 『フェイス/オブ』、『ターミネーター2、3』、『マスク』、『ミッション・インポッシブル』の中の変身描写の特徴
- 7回 アメリカ映画に登場する変装描写の全体的特徴
- 8回 アメリカ映画の変身・変装へのこだわりと、アメリカ文化との関係
- 9回 『プラダを着た悪魔』に読み取れる金銭感覚の特徴
- 10回 『フォレスト・ガンプ』、『チャーリーとチョコレート工場』に読み取れる金銭感覚
- 11回 映画に読み取れる金銭感覚と、アメリカ文化との関係
- 12回 『スタンド・バイ・ミー』、『スター・ウォーズ：シスの復讐』、『ダーティハリー2』の銃の描写の特徴
- 13回 映画の銃の描き方と、アメリカ史との関係
- 14回 アメリカ映画に見る平等の概念
- 15回 補足説明、総括

# アメリカの大衆文化 【昼】

専門教育科目  
選択科目  
英米文学・文化科目群

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験100% 配布プリント持ち込み可 (ただし、書き込みがなされたプリントのコピーは持ち込みは不可)、自筆ノート持込可 (ただし、コピーノートは持ち込みは不可)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

講義で取り上げる映画は前もってタイトルを伝えますので、出来るだけ事前に見ておいてください。  
講義で取り上げる映画の大半は、図書館のAVルームにソフトがあります。  
講義時には、一作品を除いては、編集された断片のみを見ることになります。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 中国社会経済史I 【昼】

担当者名 山本 進 / Yamamoto Susumu / 中国学科  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 中国の社会経済史に関する専門的知識を習得する。
技能	専門分野のスキル 中国語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 中国の社会経済史に関する諸問題について分析・解決できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	● 中国の社会経済史に対する関心を深めることができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国社会経済史 I

HIS220M

## 授業の概要 /Course Description

明代に成立した伝奇小説である『三国志通俗演義』を通して、中国の社会と文化、経済と政治を包括的に学ぶ。三国志に描かれている人物の行動様式から、中国人がいかなる社会を構成し、いかなる経済を営んでいたかを、事例研究的に学ぶ。特に日本社会との相違点について論じる。

## 教科書 /Textbooks

特に使用しない。ビデオとプリントを中心教材とする。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

山本進『清代社会経済史』創成社、2002年。  
山本進『清代の市場構造と経済政策』名古屋大学出版会、2002年。  
山本進『清代財政史研究』汲古書院、2002年。  
山本進『明清時代の商人と国家』研文出版、2002年。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス(三国志と三国演義との違い)
- 第2回 桃園の誓い(農村部における定期市)
- 第3回 桃園の誓い(伝統中国の地方政治)
- 第4回 三顧の礼(経済の要としての古代荊州)
- 第5回 三顧の礼(古代中国の書物)
- 第6回 三顧の礼(伝統中国の葬礼)
- 第7回 三顧の礼(三顧の礼が意味するもの)
- 第8回 三顧の礼(関羽に代表される中国人の面子)
- 第9回 赤壁の戦い(曹操の華北と孫権の江南との経済的相違)
- 第10回 赤壁の戦い(受禅台を通して見た貴族制への移行)
- 第11回 五丈原(中原と五胡との歴史的関係)
- 第12回 五丈原(蜀の棧道を通して見た交通と経済)
- 第13回 五丈原(兵法家孔明の評価)
- 第14回 晋の三国統一の社会経済的意味
- 第15回 まとめの回(小説を通して見た伝統中国の諸様相)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

- 第1回小テスト40%
- 第2回小テスト30%
- 第3回小テスト30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

ビデオは中国語で放送するが、日本語字幕が付く。「東洋史」を履修していることが好ましい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 中国社会経済史II 【昼】

担当者名 /Instructor 山本 進 / Yamamoto Susumu / 中国学科

履修年次 /Year 2年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 中国の社会経済史に関する専門的知識を習得する。
技能	専門分野のスキル 中国語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 中国の社会経済史に関する諸問題について分析・解決できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	● 中国の社会経済史に対する関心を深めることができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国社会経済史II

HIS221M

## 授業の概要 /Course Description

韓国ドラマ『イ・サン』を通して中国・朝鮮のような官僚専制社会と日本のような共同体社会との相違点について論じる。また、朝鮮と中国・日本との関係に触れられた部分などを素材として、近世東アジア社会の外交関係と貿易関係について論ずる。

## 教科書 /Textbooks

特に使用しない。DVDと配布プリントを使用する。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

山本進『清代社会経済史』創成社、2002年。  
山本進『清代の市場構造と経済政策』名古屋大学出版会、2002年。  
山本進『清代財政史研究』汲古書院、2002年。  
山本進『明清時代の商人と国家』研文出版、2002年。  
山本進『環渤海交易圏の形成と変容』東方書店、2009年。  
山本進『大清帝国と朝鮮経済』九州大学出版会、2014年。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス(儒教社会としての中国と朝鮮)
- 第2回 中国や朝鮮の宮殿構造
- 第3回 中国や朝鮮の都市景観
- 第4回 清国使節団
- 第5回 中朝貿易
- 第6回 朝鮮における道遣い制の普及と銅銭不足
- 第7回 朝鮮の対中輸出品としての紅蔘開発
- 第8回 乱塵(商業独占権と特権商人の保護)
- 第9回 辛亥通共(乱塵の禁止)
- 第10回 中国・朝鮮・日本における火器の歴史
- 第11回 燕行使
- 第12回 中朝陸上交通路と沿辺都市の役割
- 第13回 承政院日記の洗草の意味するもの
- 第14回 朝鮮の対清外交
- 第15回 まとめの回(銀経済を維持した中国と銭経済に移行した朝鮮)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

- 第1回小テスト40%
- 第2回小テスト30%
- 第3回小テスト30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

「日本史」や「東洋史」を履修していることが好ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 中国経済論I【昼】

担当者名 白石 麻保 / 中国学科  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 中国経済に関する専門的知識を習得する。
技能	専門分野のスキル 中国語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 中国経済に関する諸問題について分析・解決できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	● 中国経済に対する関心を深めることができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国経済論 I

ECN253M

## 授業の概要 /Course Description

中国経済のしくみやそこでの人々の行動を理解することを本講義の目的とします。中国経済論Iでは、中国で行われてきた経済改革の流れとそれに伴う中国経済・社会の変容をトピック別に解説し、中国経済が現在に至った経緯について理解を深めます。これによって現在中国経済が抱える諸問題についてその問題が生じた経緯を理解しそれらの解決・解消の可能性を探ります。

## 教科書 /Textbooks

指定しない。資料は担当者より提示する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- ①丸川知雄『チャイニーズドリーム-大衆資本主義が世界を変える』ちくま新書 2013年
  - ②加藤弘之・上原一慶編著『中国経済論』ミネルヴァ書房 2011年
  - ③丸川知雄『市場発生のダイナミクス 移行期の中国経済』アジア経済研究所 1999年
  - ④中兼和津次編著『』歴史的視野からみた現代中国経済』ミネルヴァ書房 2010年
- 他の参考文献は授業中に提示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 ガイダンス
  - 2回 経済発展の概観(1)【経済発展】【開発】
  - 3回 経済発展の概観(2)【経済発展】【市場経済化】
  - 4回 中国経済を見る視点と枠組(1)【企業制度 利潤最大化 政府】
  - 5回 中国経済を見る視点と枠組(2)【SNA】
  - 6回 農業・農村(1)【インセンティブ】【請負制】
  - 7回 農業・農村(2)【インセンティブ】【農村工業化】
  - 8回 農業・農村(3)【土地請負制】【三農問題】
  - 9回 農業・農村(4)【経済発展】【生産性】
  - 10回 製造業・企業(1)【国有企業】【規制緩和】
  - 11回 製造業・企業(2)【予算制約】【所有権改革】
  - 12回 製造業・企業(3)【上場企業】【民営企業】
  - 13回 製造業・企業(4)【企業制度】【企業データ】
  - 14回 経済発展の課題
  - 15回 まとめ

\* 但し、講義の進捗状況等によって、内容には変更の可能性がある。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

70% : 定期試験 15% : レポート 15% : 講義への取り組み



事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

経済問題に関するニュースを日ごろからチェックしてみてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 中国経済論II 【昼】

専門教育科目  
選択科目  
中国ビジネス科目群

担当者名 /Instructor 白石 麻保 / 中国学科

履修年次 /Year 2年次 /2 Years 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2 Semesters 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 2年 /2 Years

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 中国経済に関する専門的知識を習得する。
技能	専門分野のスキル 中国語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 中国経済に関する諸問題について分析・解決できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	● 中国経済に対する関心を深めることができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国経済論II

ECN254M

## 授業の概要 /Course Description

中国経済のしくみやそこでの人々の行動を理解することを本講義の目的とします。中国経済論IIでは、改革開放後に行われた経済諸政策の内容とその効果に着目しながら、経済改革に伴う各経済制度の変容と経済の構造的変化について理解を深めていきます。

## 教科書 /Textbooks

指定しない。資料は担当者より提示する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- ①丸川知雄『チャイニーズドリーム-大衆資本主義が世界を変える』ちくま新書 2013年
  - ②加藤弘之・上原一慶編著『中国経済論』ミネルヴァ書房 2011年
  - ③丸川知雄『市場発生のダイナミクス 移行期の中国経済』アジア経済研究所 1999年
  - ④中兼和津次編著『』歴史的視野からみた現代中国経済』ミネルヴァ書房 2010年
- 他の参考文献は授業中に提示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回 ガイダンス
- 2回 中国の経済発展の特徴(1)【改革開放】【市場経済化】
- 3回 中国の経済発展の特徴(2)【財政政策】【金融政策】
- 4回 金融政策と金融システム(1)【間接金融】【直接金融】【中央銀行】
- 5回 金融政策と金融システム(2)【引き締め政策】【緩和政策】
- 6回 金融政策と金融システム(3)【金融政策の方法と中国での効果】
- 7回 通貨・為替制度の変遷(1)【変動相場制】【為替レート】
- 8回 通貨・為替制度の変遷(2)【輸出】【輸入】【人民元】
- 9回 通貨・為替制度の変遷(3)【国際資本移動】【金融政策】
- 10回 労働市場の動向(1)【労働力移動】【戸籍制度】
- 11回 労働市場の動向(2)【レイオフ】【契約法】
- 12回 労働市場の動向(3)【余剰労働力】【労働力不足】【新契約法】
- 13回 持続的成長への課題(1)
- 14回 持続的成長への課題(2)
- 15回 まとめ

\* 但し、講義の進捗状況等によって、内容には変更の可能性がある。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

70% : 定期試験 15% : レポート 15% : 講義への取り組み

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

経済問題に関するニュースを日ごろからチェックしてみてください。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 中国文化論【昼】

担当者名 板谷 秀子 / 北方キャンパス 非常勤講師  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 中国文化に関する専門的知識を習得する。
技能	専門分野のスキル 中国語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 中国文化に関する諸問題について分析・解決できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	● 中国文化に対する関心を深めることができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国文化論

ARE110M

## 授業の概要 /Course Description

中国文化を古代文明から現代に至るプロセスの中で、キーワードを拾い、それを解明することで独自性と普遍性を見つけてみる。

## 教科書 /Textbooks

プリント教材を配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

○『図説 中国文化百華』全18巻 農文協

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 古代文明遺跡が伝えるもの 「三星堆」に見る揚子江文明
- 第2回 中国シャーマニズムに現れる仮面劇
- 第3回 「十二支」という暦の考え方
- 第4回 古代楽器が伝えたもの
- 第5回 孔子の存在 儒教の意義
- 第6回 中国に於ける仏教文化の変遷
- 第7回 書道の意義
- 第8回 絵画の伝統
- 第9回 国技としての気功、太極拳
- 第10回 漢語のパワー
- 第11回 科学文明の受容 ①写真、映画
- 第12回 科学文明の受容 ②家電、携帯電話
- 第13回 科学文明の受容 ③IT産業
- 第14回 東洋医学の現況
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み・・・20% レポート評価・・・80%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

毎回の講義内容をまとめて要点を整理しておく。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 途上国開発論 【昼】

担当者名 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 途上国が直面している諸課題と解決に関して体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 途上国において何が政策課題を見極め、政策論的な分析と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 途上国が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、日本人の市民生活と日本政府の政策とどのようにつながっているかを再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

途上国開発論

PLC215M

## 授業の概要 /Course Description

グローバル化の波によって、めまぐるしく変化している現在の世界において、今世紀は開発途上国がその中心舞台に躍り出ることが予想されています。そのテーマといえば、貧困問題、環境問題、人口問題、民族紛争、人権問題など枚挙にいとまがないほどです。本講義では、途上国の開発と環境に焦点を絞り（事例としてはバングラデシュ）、数々のテーマと切り口で臨みます。日本の若者が海外に出ていくことを躊躇していると言われていますが（隣国の韓国とは大違い）、同じ地球に生きる人間として途上国の問題にも真正面からぶつかり、世間で言われる途上国の違った側面を捉えることに挑戦してください。最後に、本授業は、日本の過去・現在・将来において重要な関係を持つ途上国の諸問題の知識の吸収や理解に重点を置き、卒業以前に途上国そのものを自らの眼で見極めるといった実践力、卒業後も、途上国に関心を持ち学習するといった能力を培うことを主な目標としています。

## 教科書 /Textbooks

特に教科書は指定せずに各回に配布する資料

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- ジェニファー・エリオット著、古賀正則訳『持続可能な開発』古今書院、2003年
- \* 三宅博之『開発途上国の都市環境～バングラデシュ・ダカ 持続可能な社会の希求』明石書店、2008年
- \* 菊地京子編『開発学を学ぶ人のために』世界思想社、2001年、1900円
- \* Robert B.Potter et al., Geographies of Development 3rd ed. Pearson Education, Harlow, 2008

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 「途上国開発論（途上国の開発政策）」のねらい、担当教員の途上国での体験からの受講生への問題提起	
第2回 開発概念の検討～歴史的推移と「持続可能な開発（SD）」の定義	【持続可能な開発（SD）】
第3回 成長概念と貧困概念～貧困線をめぐって	【貧困概念】
第4回 アマルティア・センと社会・人間開発	【アマルティア・セン】
第5回 人口問題～中国の1人っ子政策と先進国の少子化対策	【一人っ子政策】
第6回 都市産業問題～インフォーマルセクターの存在	【インフォーマルセクター】
第7回 居住問題～スラム・スクオッタ居住区	【スクオッタ居住区】
第8回 資源分配をめぐって（エネルギー技術のあり方）	【資源配分】
第9回 環境問題～森林破壊、海洋汚染など	【森林破壊】
第10回 環境問題～都市問題、特に廃棄物管理問題を中心に	【廃棄物管理問題】
第11回 保健・医療問題～感染症、下痢を中心に	【感染症】
第12回 途上国での農漁村での農業・漁業の在り方	【農業・漁業】
第13回 途上国の諸問題の解決への取り組みと結果～国連とODA	【ODA】
第14回 台頭するNGO～インド・バングラデシュの事例より	【NGO】
第15回 まとめ	

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業の内容にかかわる日常的姿勢...20% 小課題の提出 ... 20% 試験 ... 60 %

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

時々小課題の提出を求めます。努めて途上国に関する様々なテレビ番組を視聴してください。  
英語の文章も少しは読むので、日頃から英語の勉強も怠りなりのないようしておくこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

途上国の現実を知り、興味深い事象を探し、もっと足を踏み入れてほしい。

## キーワード /Keywords

開発途上国、アマルティ・セン、環境問題、持続可能な開発 (SD)

# ビジネス中国語 A 【昼】

担当者名 /Instructor 秋山 淳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	
	英語力	
	その他言語力	● ビジネス中国語に関して、基礎レベルのコミュニケーション能力を身につけている。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ビジネス中国語A

CHN360M

## 授業の概要 /Course Description

本授業では

- ① 基礎的なコミュニケーション能力の充実。
- ② 中検3級レベルの力を身に着ける。
- ③ 中国文化理解。

の三つを目標とします。中国語を1-2年程度学んで、基礎的な知識は身につけていると思いますが、中検3級レベルの中国語を理解し、また発信できるようにするためには、教科書の本文を暗唱するまで徹底的に音読し、授業以外に一定程度の中国語学習の時間を確保する必要があります。

近年、日中関係は厳しいですが、中国語は台湾、シンガポールをはじめ、東南アジアや欧米の華人社会でも用いられています。ですから、英語にプラスして、中国語の基礎的なコミュニケーション能力を充実させられれば、国際的に活躍できる力を付けることができます。

その他に、コミュニケーション能力には外国語で「何を」話すかが大事なので、中国文化にも触れる予定です。

## 教科書 /Textbooks

中国語中級テキスト  
北京駐在日記【中国語ビジネス会話】  
林要三 王冬蘭 大西智之 著  
東方書店  
¥2600 + 税

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

電子辞書  
中日辞典

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第一回	第1課	第二回	第2課
第三回	第3課	第四回	第4課
第五回	第5課	第六回	第6課
第七回	第7課	第八回	第8課
第九回	第9課	第十回	第10課
第十一回	第11課	第十二回	第12課
第十三回	第13課(1)文法、単語	第十四回	第13課(2)会話、ドリル
第十五回	一学期の復習		

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期テスト…80% 平常点(小テスト、授業への積極的な参加など)…20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# ビジネス中国語 A 【昼】

専門教育科目  
選択科目  
中国ビジネス科目群

## 履修上の注意 /Remarks

原則として1年次の第二外国語としての中国語の科目を履修していることが望ましい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

積極的に授業に参加でき、教科書をしっかり音読してほしい

## キーワード /Keywords



# ビジネス中国語B 【昼】

担当者名 /Instructor 秋山 淳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	
	英語力	
	その他言語力	● ビジネス中国語に関して、基礎レベルのコミュニケーション能力を身につけている。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ビジネス中国語B	CHN361M
----------	---------

## 授業の概要 /Course Description

本授業ではAに引き続き、  
 ① 基礎的なコミュニケーション能力の充実。  
 ② 中検3級レベルの力を身に着ける。  
 ③ 中国文化理解。  
 の三つを目標とします。中国語を1-2年程度学んで、基礎的な知識は身につけていると思いますが、中検3級レベルの中国語を理解し、また発信できるようにするためには、教科書の本文を暗唱するまで徹底的に音読し、授業以外に一定程度の中国語学習の時間を確保する必要があります。  
 近年、日中関係は厳しいですが、中国語は台湾、シンガポールをはじめ、東南アジアや欧米の華人社会でも用いられています。ですから、英語にプラスして、中国語の基礎的なコミュニケーション能力を充実させられれば、国際的に活躍できる力を付けることができます。  
 その他に、コミュニケーション能力には外国語で「何を」話すかが大事なので、中国文化にも触れる予定です。また、中国語学習以外の科目もしっかり学んでほしい。

## 教科書 /Textbooks

中国語中級テキスト  
 北京駐在日記【中国語ビジネス会話】  
 林要三 王冬蘭 大西智之 著  
 東方書店  
 ￥2600 + 税

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

電子辞書  
 中日辞典

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第一回	第14課(1)文法、単語	第二回	第14課(2)会話、ドリル
第三回	第15課(1)文法、単語	第四回	第15課(2)会話、ドリル
第五回	第16課(1)文法、単語	第六回	第16課(2)会話、ドリル
第七回	第17課(1)文法、単語	第八回	第17課(2)会話、ドリル
第九回	第18課(1)文法、単語	第十回	第18課(2)会話、ドリル
第十一回	第19課(1)文法、単語	第十二回	第19課(2)会話、ドリル
第十三回	第20課(1)文法、単語	第十四回	第20課(2)会話、ドリル
第十五回	二学期の復習		

※進度は若干前後する場合があります。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期テスト…80% 平常点(小テスト、授業への参加度)…20点

# ビジネス中国語 B 【昼】

専門教育科目  
選択科目  
中国ビジネス科目群

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

原則として1年次の中国語の科目を履修していることが望ましい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業への積極的な参加と教科書を徹底的に音読して下さい。

## キーワード /Keywords

中国語

# 異文化間コミュニケーション概論【昼】

専門教育科目  
演習・研究科目  
ビジネス・コミュニケーション科  
目群

担当者名 /Instructor 山崎 和夫 / KAZUO YAMASAKI / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語を駆使して、異文化に関わっていく態度を身につけている。
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

異文化間コミュニケーション概論 MCC212M

## 授業の概要 /Course Description

日本と主にアメリカを例に取り、異文化接触に伴うコミュニケーション（非言語も含む）の衝突、摩擦の事例を考察し、そのメカニズムを言語的、社会的、文化的要因に分解しながら解明していく。その中で異文化コミュニケーションの関する実践的方法論などにも触れる。

## 教科書 /Textbooks

授業最初のコースワークの説明の時に知らせる。また必要な資料は授業において適宜配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

チャールズ・プリブル『科学としての異文化コミュニケーション』ナカニシヤ出版  
ヘレン・スペンサー＝オアティー編著『異文化理解の語用論』  
古田暁（監修）『異文化コミュニケーション』有斐閣選書

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースワークの説明
- 第2回 文化とは何か、コミュニケーションとは何か
- 第3回 異文化コミュニケーションの諸相
- 第4回 ことばと文化とコミュニケーション（言語相対性論仮説を含む）
- 第5回 日本語と英語の構造に起因するコミュニケーション・ギャップ
- 第6回 事例観察 各事例とその基となる日米文化の差異（直感的な観察）
- 第7回 ハイコンテキスト、ローコンテキストに基づく分析
- 第8回 日本人の謝罪文化
- 第9回 事例研究 『欧米人が沈黙するとき』聞き取り調査に基づく分析  
『日米コミュニケーション/ギャップ』統計的処理の実例
- 第10回 事例研究 実践方法（バーランド）の手順（「私的自己、公的自己」「防御の方策」）
- 第11回 非言語コミュニケーション（Proxemics, Kinesics）
- 第12回 広告、翻訳に見る異文化コミュニケーション
- 第13回 研究領域、日韓行動の差異
- 第14回 異文化適応、カルチュラル・アシミレーター
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業での活動40% 期末試験60%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

コミュニケーション論であり、スキルの問題を扱う訳ではない。中心課題は、日本語話者と英語話者との文化的要因に基づくコミュニケーション・ギャップを扱うが、それに付随する様々な現象を幅広く扱っていく。  
授業では、取り上げた様々な事例に対して各自の意見を求める、また英語の文献も多用するのでその準備も必要である。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# ビジネス英語概論 【昼】

担当者名 /Instructor 松田 智 / Matsuda, Satoshi / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	社会の諸問題についての専門的知識を身につけている。
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	物事をグローバルに考え、諸問題を探求することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	卒業後も、生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ビジネス英語概論

ENG230M

## 授業の概要 /Course Description

The objective of the course are:(1) to help you develop an understanding of basic economic concepts that underline the business management, and (2) to help you develop your economic vocabularies in English.

## 教科書 /Textbooks

「入門経済学」マンキュー 東洋経済  
アメリカの高校生が読んでいる「経済の教科書」アспект(文庫版)

英文のハンドアウト

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

マンキュー経済学ミクロ篇  
マンキュー経済学マクロ篇  
ブランチャールマクロ経済学上

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Session 1: class orientation  
Session 2: 経済数学の基礎  
Session 3: ミクロ・マクロ基礎1, 経済学の十代原理  
Session 4: ミクロ・マクロ基礎2, 経済学者らしく考える  
Session 5: ミクロ・マクロ基礎3, 相互依存と貿易からの利益  
Session 6: ミクロ・マクロ基礎4, 市場における需要と供給の作用  
Session 7: ミクロ・マクロ基礎5, 国民所得の測定  
Session 8: ミクロ・マクロ基礎6, 生計費の測定  
Session 9: ミクロ・マクロ基礎7, 貯蓄、投資と金融システム  
Session10: ビジネス・経済の基礎1, 貨幣システム  
Session 11: ビジネス・経済の基礎2, 開放マクロ経済学：基本的概念  
Session 12: ビジネス・経済の基礎3, 外国為替理論  
Session 13: reading materials1, Asia Pacific market, China market  
Session 14: reading materials2, Japanese economy, Abenomics  
Session 15: reading materials3, The Rise of Big Data

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験の成績及びクイズの成績を80%、授業への参加状況を20%で総合的に評価する。

# ビジネス英語概論 【昼】

専門教育科目  
演習・研究科目  
ビジネス・コミュニケーション科  
目群

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

高校の基礎的数学の復習とエクセルを習熟しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 通訳基礎演習Ⅰ【昼】

専門教育科目  
演習・研究科目  
ビジネス・コミュニケーション科  
目群

担当者名 /Instructor 吉村 理一 / Riichi YOSHIMURA / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 授業形態 講義・実習 クラス 2 - 1 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	知識に基づき情報を正確に把握し、通訳として正しく訳出することができる。
	英語力	●	高度な英語運用能力により正確にコミュニケーションを行うことができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	グローバルな視野から社会の諸問題を学際的、複眼的に思考できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたり英語や異文化への関心と学習意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	広い視野から自分の見解を積極的に提案し、共同活動を推進することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

通訳基礎演習Ⅰ

ENG234M

## 授業の概要 /Course Description

Needless to say, a high level of command in both the English and Japanese languages is expected to become a successful interpreter. However, acquiring a high proficiency in language skills alone is not enough for the interpretation profession. One must also gain knowledge and experiences in a wide spectrum of areas such as world cultures, national events, sports, religions, politics, economics, etc.

通訳基礎演習Ⅰ focuses on Japanese national affairs in the attempt to prompt deeper understanding of current issues in Japan and to expand students' general knowledge which may serve as references when practicing in relevant areas. Other supplementary resources such as materials from TED and major TV broadcasts will be exploited. This aims not only to enhance techniques important for interpretation but also to explore subjects in other areas to help students build a diverse knowledge base.

## 教科書 /Textbooks

越智美江. 『TOEIC 150点アップを目指す通訳訓練法』 (大阪: 大阪教育図書, 2010)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

○ 植田 一三 & 上田 敏子. 『英語で説明する日本の文化』 (東京: 語研, 2009)

Others will be announced in class.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 The course introduction & discussion on desired traits of interpreters in the Global Age and what the globalization brings about to Japan.
- 第2回 Unit 1 (Strategic) Self-introduction
- 第3回 Unit 2 Family and Kinship
- 第4回 Unit 3 College Life
- 第5回 Unit 4 Study Abroad
- 第6回 Unit 5 Fashion
- 第7回 Unit 6 Medical Issues
- 第8回 Unit 7 Japanese Graphic Novel and Animation Work
- 第9回 Unit 8 Volunteer Efforts
- 第10回 Unit 9 Japanese Longevity Society
- 第11回 Unit 10 International Interaction
- 第12回 Unit 11 Japanese Traditional Events
- 第13回 Unit 12 Environment Preservation
- 第14回 Unit 13 International Contributions
- 第15回 Review

## 成績評価の方法 /Assessment Method

By evaluating weekly regular assignments (30%), specially appointed assignments (20%), and the final examination (50%).

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

Successful completion of each assignment specified by the instructor and active participation in class are required to pass this course. All students in this class are asked to register their accounts on "Language Cloud". More detailed information will be given during the first lesson.

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

This course is conducted in both Japanese and English. Students are encouraged to be enthusiastic in class activities and to express their opinions with due manner.

## キーワード /Keywords

Image-building, Retention, Quick-response, Reproduction, Repeating and Shadowing, Paraphrasing, Sight-translation, Simultaneous and Consecutive Interpretation, Current Japanese Affairs



# 通訳基礎演習Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 吉村 理一 / Riichi YOSHIMURA / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 授業形態 講義・実習 クラス 2 - 2 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	知識に基づき情報を正確に把握し、通訳として正しく訳出することができる。
	英語力	●	高度な英語運用能力により正確にコミュニケーションを行うことができる。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力	●	グローバルな視野から社会の諸問題を学際的、複眼的に思考できる。
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力		
	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたり英語や異文化への関心と学習意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	広い視野から自分の見解を積極的に提案し、共同活動を推進することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

通訳基礎演習Ⅰ

ENG234M

## 授業の概要 /Course Description

Needless to say, a high level of command in both the English and Japanese languages is expected to become a successful interpreter. However, acquiring a high proficiency in language skills alone is not enough for the interpretation profession. One must also gain knowledge and experiences in a wide spectrum of areas such as world cultures, national events, sports, religions, politics, economics, etc.

通訳基礎演習Ⅰ focuses on Japanese national affairs in the attempt to prompt deeper understanding of current issues in Japan and to expand students' general knowledge which may serve as references when practicing in relevant areas. Other supplementary resources such as materials from TED and major TV broadcasts will be exploited. This aims not only to enhance techniques important for interpretation but also to explore subjects in other areas to help students build a diverse knowledge base.

## 教科書 /Textbooks

越智美江. 『TOEIC 150点アップを目指す通訳訓練法』 (大阪: 大阪教育図書, 2010)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

○ 植田 一三 & 上田 敏子. 『英語で説明する日本の文化』 (東京: 語研, 2009)

Others will be announced in class.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 The course introduction & discussion on desired traits of interpreters in the Global Age and what the globalization brings about to Japan.
- 第2回 Unit 1 (Strategic) Self-introduction
- 第3回 Unit 2 Family and Kinship
- 第4回 Unit 3 College Life
- 第5回 Unit 4 Study Abroad
- 第6回 Unit 5 Fashion
- 第7回 Unit 6 Medical Issues
- 第8回 Unit 7 Japanese Graphic Novel and Animation Work
- 第9回 Unit 8 Volunteer Efforts
- 第10回 Unit 9 Japanese Longevity Society
- 第11回 Unit 10 International Interaction
- 第12回 Unit 11 Japanese Traditional Events
- 第13回 Unit 12 Environment Preservation
- 第14回 Unit 13 International Contributions
- 第15回 Review

## 成績評価の方法 /Assessment Method

By evaluating weekly regular assignments (30%), specially appointed assignments (20%), and the final examination (50%).

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

Successful completion of each assignment specified by the instructor and active participation in class are required to pass this course. All students in this class are asked to register their accounts on "Language Cloud". More detailed information will be given during the first lesson.

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

This course is conducted in both Japanese and English. Students are encouraged to be enthusiastic in class activities and to express their opinions with due manner.

## キーワード /Keywords

Image-building, Retention, Quick-response, Reproduction, Repeating and Shadowing, Paraphrasing, Sight-translation, Simultaneous and Consecutive Interpretation, Current Japanese Affairs

# 通訳基礎演習Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 吉村 理一 / Riichi YOSHIMURA / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 授業形態 講義・実習 クラス 2 - 3 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	知識に基づき情報を正確に把握し、通訳として正しく訳出することができる。
	英語力	●	高度な英語運用能力により正確にコミュニケーションを行うことができる。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力	●	グローバルな視野から社会の諸問題を学際的、複眼的に思考できる。
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力		
	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたり英語や異文化への関心と学習意欲を持続することができる。
	コミュニケーション力	●	広い視野から自分の見解を積極的に提案し、共同活動を推進することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

通訳基礎演習Ⅰ

ENG234M

## 授業の概要 /Course Description

Needless to say, a high level of command in both the English and Japanese languages is expected to become a successful interpreter. However, acquiring a high proficiency in language skills alone is not enough for the interpretation profession. One must also gain knowledge and experiences in a wide spectrum of areas such as world cultures, national events, sports, religions, politics, economics, etc.

通訳基礎演習Ⅰ focuses on Japanese national affairs in the attempt to prompt deeper understanding of current issues in Japan and to expand students' general knowledge which may serve as references when practicing in relevant areas. Other supplementary resources such as materials from TED and major TV broadcasts will be exploited. This aims not only to enhance techniques important for interpretation but also to explore subjects in other areas to help students build a diverse knowledge base.

## 教科書 /Textbooks

越智美江. 『TOEIC 150点アップを目指す通訳訓練法』 (大阪: 大阪教育図書, 2010)

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

○ 植田 一三&上田 敏子. 『英語で説明する日本の文化』 (東京: 語研, 2009)

Others will be announced in class.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 The course introduction & discussion on desired traits of interpreters in the Global Age and what the globalization brings about to Japan.
- 第2回 Unit 1 (Strategic) Self-introduction
- 第3回 Unit 2 Family and Kinship
- 第4回 Unit 3 College Life
- 第5回 Unit 4 Study Abroad
- 第6回 Unit 5 Fashion
- 第7回 Unit 6 Medical Issues
- 第8回 Unit 7 Japanese Graphic Novel and Animation Work
- 第9回 Unit 8 Volunteer Efforts
- 第10回 Unit 9 Japanese Longevity Society
- 第11回 Unit 10 International Interaction
- 第12回 Unit 11 Japanese Traditional Events
- 第13回 Unit 12 Environment Preservation
- 第14回 Unit 13 International Contributions
- 第15回 Review

## 成績評価の方法 /Assessment Method

By evaluating weekly regular assignments (30%), specially appointed assignments (20%), and the final examination (50%).

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

Successful completion of each assignment specified by the instructor and active participation in class are required to pass this course. All students in this class are asked to register their accounts on "Language Cloud". More detailed information will be given during the first lesson.

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

This course is conducted in both Japanese and English. Students are encouraged to be enthusiastic in class activities and to express their opinions with due manner.

## キーワード /Keywords

Image-building, Retention, Quick-response, Reproduction, Repeating and Shadowing, Paraphrasing, Sight-translation, Simultaneous and Consecutive Interpretation, Current Japanese Affairs

# 通訳基礎演習Ⅰ【昼】

専門教育科目  
演習・研究科目  
ビジネス・コミュニケーション科  
目群

担当者名 /Instructor 吉村 理一 / Riichi YOSHIMURA / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /2nd Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 1学期 /1st Semester 授業形態 /Class Format 講義・実習 /Lecture・Practice クラス /Class 2 - 4 /2 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	知識に基づき情報を正確に把握し、通訳として正しく訳出することができる。
	英語力	●	高度な英語運用能力により正確にコミュニケーションを行うことができる。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力	●	グローバルな視野から社会の諸問題を学際的、複眼的に思考できる。
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力		
	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたり英語や異文化への関心と学習意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	広い視野から自分の見解を積極的に提案し、共同活動を推進することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

通訳基礎演習Ⅰ

ENG234M

## 授業の概要 /Course Description

Needless to say, a high level of command in both the English and Japanese languages is expected to become a successful interpreter. However, acquiring a high proficiency in language skills alone is not enough for the interpretation profession. One must also gain knowledge and experiences in a wide spectrum of areas such as world cultures, national events, sports, religions, politics, economics, etc.

通訳基礎演習Ⅰ focuses on Japanese national affairs in the attempt to prompt deeper understanding of current issues in Japan and to expand students' general knowledge which may serve as references when practicing in relevant areas. Other supplementary resources such as materials from TED and major TV broadcasts will be exploited. This aims not only to enhance techniques important for interpretation but also to explore subjects in other areas to help students build a diverse knowledge base.

## 教科書 /Textbooks

越智美江. 『TOEIC 150点アップを目指す通訳訓練法』 (大阪: 大阪教育図書, 2010)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

○ 植田 一三 & 上田 敏子. 『英語で説明する日本の文化』 (東京: 語研, 2009)

Others will be announced in class.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 The course introduction & discussion on desired traits of interpreters in the Global Age and what the globalization brings about to Japan.
- 第2回 Unit 1 (Strategic) Self-introduction
- 第3回 Unit 2 Family and Kinship
- 第4回 Unit 3 College Life
- 第5回 Unit 4 Study Abroad
- 第6回 Unit 5 Fashion
- 第7回 Unit 6 Medical Issues
- 第8回 Unit 7 Japanese Graphic Novel and Animation Work
- 第9回 Unit 8 Volunteer Efforts
- 第10回 Unit 9 Japanese Longevity Society
- 第11回 Unit 10 International Interaction
- 第12回 Unit 11 Japanese Traditional Events
- 第13回 Unit 12 Environment Preservation
- 第14回 Unit 13 International Contributions
- 第15回 Review

## 成績評価の方法 /Assessment Method

By evaluating weekly regular assignments (30%), specially appointed assignments (20%), and the final examination (50%).

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

Successful completion of each assignment specified by the instructor and active participation in class are required to pass this course. All students in this class are asked to register their accounts on "Language Cloud". More detailed information will be given during the first lesson.

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

This course is conducted in both Japanese and English. Students are encouraged to be enthusiastic in class activities and to express their opinions with due manner.

## キーワード /Keywords

Image-building, Retention, Quick-response, Reproduction, Repeating and Shadowing, Paraphrasing, Sight-translation, Simultaneous and Consecutive Interpretation, Current Japanese Affairs

# 通訳基礎演習II 【昼】

専門教育科目  
演習・研究科目  
ビジネス・コミュニケーション科  
目群

担当者名 /Instructor 吉村 理一 / Riichi YOSHIMURA / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	知識に基づき情報を正確に把握し、通訳として正しく訳出することができる。
	英語力	●	高度な英語運用能力により正確にコミュニケーションを行うことができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	グローバルな視野から社会の諸問題を学際的、複眼的に思考できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたり英語や異文化への関心と学習意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

通訳基礎演習 II

ENG235M

## 授業の概要 /Course Description

Needless to say, a high level of command in both the English and Japanese languages is expected to become a successful interpreter. However, acquiring a high proficiency in language skills alone is not enough for the interpretation profession. One must also gain knowledge and experiences in a wide spectrum of areas such as world cultures, national events, sports, religions, politics, economics, etc.

通訳基礎演習 II focuses on current world affairs in the attempt to facilitate better awareness of things happening in the world and to expand students' general knowledge which may serve as references when practicing in relevant areas. Other supplementary resources such as materials from TED and major TV broadcasts will be exploited. This aims not only to enhance techniques important for interpretation but also to explore subjects in other areas to help students build a diverse knowledge base.

## 教科書 /Textbooks

Sekido, Fuyuhiko, Masato Kogure, Jake Arnold & Ken Ikeda. CNN Student News Vol. 3. (Tokyo: Asahi Press, 2015)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

○ 植田 一三 & 上田 敏子. 『英語で説明する日本の文化』 (東京: 語研, 2009)

Others will be announced in class.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 The course introduction & discussion about traits important for interpreters in the global scene and how globalization affects Japan.
- 第2回 Unit 1 & Disaster Rescue
- 第3回 Unit 2 & How to Become an Internationally-minded Person
- 第4回 Unit 3 & World Music
- 第5回 Unit 5 & Issues on Emerging Technology
- 第6回 Unit 6 & Small and Medium-sized Enterprises (SME)
- 第7回 Unit 7 & World Festivals
- 第8回 Unit 8 & Issues on Education
- 第9回 Unit 9 & Convenience and Precariousness
- 第10回 Unit 10 & Issues on Health and Medical Treatment
- 第11回 Unit 11 & Issues on Sports
- 第12回 Unit 12 & Career in Women's Perspective
- 第13回 Unit 13 & Issues on Food
- 第14回 Unit 15 & Issues on Career Formation
- 第15回 Review

## 成績評価の方法 /Assessment Method

By evaluating weekly regular assignments (30%), specially appointed assignments (20%), and the final examination (50%).

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

Successful completion of each assignment specified by the instructor and active participation in class are required to pass this course. All students in this class are asked to register their accounts on "Language Cloud". More detailed information will be given during the first lesson.

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

This course is conducted in both Japanese and English. Students are encouraged to be enthusiastic in class activities and to express their opinions with due manner.

## キーワード /Keywords

Image-building, Retention, Quick-response, Reproduction, Repeating and Shadowing, Paraphrasing, Sight-translation, Simultaneous and Consecutive Interpretation, International Affairs



# 通訳基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 吉村 理一 / Riichi YOSHIMURA / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /2 Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2 Semester 授業形態 /Class Format 講義・実習 /Lecture・Practice クラス /Class 2 - 2 /2 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	知識に基づき情報を正確に把握し、通訳として正しく訳出することができる。
	英語力	●	高度な英語運用能力により正確にコミュニケーションを行うことができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	グローバルな視野から社会の諸問題を学際的、複眼的に思考できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたり英語や異文化への関心と学習意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

通訳基礎演習 II

ENG235M

## 授業の概要 /Course Description

Needless to say, a high level of command in both the English and Japanese languages is expected to become a successful interpreter. However, acquiring a high proficiency in language skills alone is not enough for the interpretation profession. One must also gain knowledge and experiences in a wide spectrum of areas such as world cultures, national events, sports, religions, politics, economics, etc.

通訳基礎演習 II focuses on current world affairs in the attempt to facilitate better awareness of things happening in the world and to expand students' general knowledge which may serve as references when practicing in relevant areas. Other supplementary resources such as materials from TED and major TV broadcasts will be exploited. This aims not only to enhance techniques important for interpretation but also to explore subjects in other areas to help students build a diverse knowledge base.

## 教科書 /Textbooks

Sekido, Fuyuhiko, Masato Kogure, Jake Arnold & Ken Ikeda. CNN Student News Vol. 3. (Tokyo: Asahi Press, 2015)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

○ 植田 一三 & 上田 敏子. 『英語で説明する日本の文化』 (東京: 語研, 2009)

Others will be announced in class.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 The course introduction & discussion about traits important for interpreters in the global scene and how globalization affects Japan.
- 第2回 Unit 1 & Disaster Rescue
- 第3回 Unit 2 & How to Become an Internationally-minded Person
- 第4回 Unit 3 & World Music
- 第5回 Unit 5 & Issues on Emerging Technology
- 第6回 Unit 6 & Small and Medium-sized Enterprises (SME)
- 第7回 Unit 7 & World Festivals
- 第8回 Unit 8 & Issues on Education
- 第9回 Unit 9 & Convenience and Precariousness
- 第10回 Unit 10 & Issues on Health and Medical Treatment
- 第11回 Unit 11 & Issues on Sports
- 第12回 Unit 12 & Career in Women's Perspective
- 第13回 Unit 13 & Issues on Food
- 第14回 Unit 15 & Issues on Career Formation
- 第15回 Review

## 成績評価の方法 /Assessment Method

By evaluating weekly regular assignments (30%), specially appointed assignments (20%), and the final examination (50%).

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

Successful completion of each assignment specified by the instructor and active participation in class are required to pass this course. All students in this class are asked to register their accounts on "Language Cloud". More detailed information will be given during the first lesson.

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

This course is conducted in both Japanese and English. Students are encouraged to be enthusiastic in class activities and to express their opinions with due manner.

## キーワード /Keywords

Image-building, Retention, Quick-response, Reproduction, Repeating and Shadowing, Paraphrasing, Sight-translation, Simultaneous and Consecutive Interpretation, International Affairs

# 通訳基礎演習II 【昼】

専門教育科目  
演習・研究科目  
ビジネス・コミュニケーション科  
目群

担当者名 /Instructor 吉村 理一 / Riichi YOSHIMURA / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /2nd Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	知識に基づき情報を正確に把握し、通訳として正しく訳出することができる。
	英語力	●	高度な英語運用能力により正確にコミュニケーションを行うことができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	グローバルな視野から社会の諸問題を学際的、複眼的に思考できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたり英語や異文化への関心と学習意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

通訳基礎演習 II

ENG235M

## 授業の概要 /Course Description

Needless to say, a high level of command in both the English and Japanese languages is expected to become a successful interpreter. However, acquiring a high proficiency in language skills alone is not enough for the interpretation profession. One must also gain knowledge and experiences in a wide spectrum of areas such as world cultures, national events, sports, religions, politics, economics, etc.

通訳基礎演習 II focuses on current world affairs in the attempt to facilitate better awareness of things happening in the world and to expand students' general knowledge which may serve as references when practicing in relevant areas. Other supplementary resources such as materials from TED and major TV broadcasts will be exploited. This aims not only to enhance techniques important for interpretation but also to explore subjects in other areas to help students build a diverse knowledge base.

## 教科書 /Textbooks

Sekido, Fuyuhiko, Masato Kogure, Jake Arnold & Ken Ikeda. CNN Student News Vol. 3. (Tokyo: Asahi Press, 2015)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

○ 植田 一三 & 上田 敏子. 『英語で説明する日本の文化』 (東京: 語研, 2009)

Others will be announced in class.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 The course introduction & discussion about traits important for interpreters in the global scene and how globalization affects Japan.
- 第2回 Unit 1 & Disaster Rescue
- 第3回 Unit 2 & How to Become an Internationally-minded Person
- 第4回 Unit 3 & World Music
- 第5回 Unit 5 & Issues on Emerging Technology
- 第6回 Unit 6 & Small and Medium-sized Enterprises (SME)
- 第7回 Unit 7 & World Festivals
- 第8回 Unit 8 & Issues on Education
- 第9回 Unit 9 & Convenience and Precariousness
- 第10回 Unit 10 & Issues on Health and Medical Treatment
- 第11回 Unit 11 & Issues on Sports
- 第12回 Unit 12 & Career in Women's Perspective
- 第13回 Unit 13 & Issues on Food
- 第14回 Unit 15 & Issues on Career Formation
- 第15回 Review

## 成績評価の方法 /Assessment Method

By evaluating weekly regular assignments (30%), specially appointed assignments (20%), and the final examination (50%).

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

Successful completion of each assignment specified by the instructor and active participation in class are required to pass this course. All students in this class are asked to register their accounts on "Language Cloud". More detailed information will be given during the first lesson.

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

This course is conducted in both Japanese and English. Students are encouraged to be enthusiastic in class activities and to express their opinions with due manner.

## キーワード /Keywords

Image-building, Retention, Quick-response, Reproduction, Repeating and Shadowing, Paraphrasing, Sight-translation, Simultaneous and Consecutive Interpretation, International Affairs

# 通訳基礎演習II 【昼】

専門教育科目  
演習・研究科目  
ビジネス・コミュニケーション科  
目群

担当者名 /Instructor 吉村 理一 / Riichi YOSHIMURA / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /2 Years 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2 Semesters 授業形態 /Class Format 講義・実習 /Lecture・Practical クラス /Class 2 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	知識に基づき情報を正確に把握し、通訳として正しく訳出することができる。
	英語力	●	高度な英語運用能力により正確にコミュニケーションを行うことができる。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力	●	グローバルな視野から社会の諸問題を学際的、複眼的に思考できる。
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力		
	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたり英語や異文化への関心と学習意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

通訳基礎演習 II

ENG235M

## 授業の概要 /Course Description

Needless to say, a high level of command in both the English and Japanese languages is expected to become a successful interpreter. However, acquiring a high proficiency in language skills alone is not enough for the interpretation profession. One must also gain knowledge and experiences in a wide spectrum of areas such as world cultures, national events, sports, religions, politics, economics, etc.

通訳基礎演習 II focuses on current world affairs in the attempt to facilitate better awareness of things happening in the world and to expand students' general knowledge which may serve as references when practicing in relevant areas. Other supplementary resources such as materials from TED and major TV broadcasts will be exploited. This aims not only to enhance techniques important for interpretation but also to explore subjects in other areas to help students build a diverse knowledge base.

## 教科書 /Textbooks

Sekido, Fuyuhiko, Masato Kogure, Jake Arnold & Ken Ikeda. CNN Student News Vol. 3. (Tokyo: Asahi Press, 2015)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

○ 植田 一三 & 上田 敏子. 『英語で説明する日本の文化』 (東京: 語研, 2009)

Others will be announced in class.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 The course introduction & discussion about traits important for interpreters in the global scene and how globalization affects Japan.
- 第2回 Unit 1 & Disaster Rescue
- 第3回 Unit 2 & How to Become an Internationally-minded Person
- 第4回 Unit 3 & World Music
- 第5回 Unit 5 & Issues on Emerging Technology
- 第6回 Unit 6 & Small and Medium-sized Enterprises (SME)
- 第7回 Unit 7 & World Festivals
- 第8回 Unit 8 & Issues on Education
- 第9回 Unit 9 & Convenience and Precariousness
- 第10回 Unit 10 & Issues on Health and Medical Treatment
- 第11回 Unit 11 & Issues on Sports
- 第12回 Unit 12 & Career in Women's Perspective
- 第13回 Unit 13 & Issues on Food
- 第14回 Unit 15 & Issues on Career Formation
- 第15回 Review

## 成績評価の方法 /Assessment Method

By evaluating weekly regular assignments (30%), specially appointed assignments (20%), and the final examination (50%).

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

Successful completion of each assignment specified by the instructor and active participation in class are required to pass this course. All students in this class are asked to register their accounts on "Language Cloud". More detailed information will be given during the first lesson.

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

This course is conducted in both Japanese and English. Students are encouraged to be enthusiastic in class activities and to express their opinions with due manner.

## キーワード /Keywords

Image-building, Retention, Quick-response, Reproduction, Repeating and Shadowing, Paraphrasing, Sight-translation, Simultaneous and Consecutive Interpretation, International Affairs

# ビジネス英語演習【昼】

担当者名 /Instructor 松田 智 / Matsuda, Satoshi / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 1・ 2 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	英語を通して得られる情報を駆使し、諸問題を探求することができる
	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明晰に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語を駆使して、異文化に関わっていく態度を身につけている。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力 コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ビジネス英語演習

ENG231M

## 授業の概要 /Course Description

The objectives of this course are:(1) to help you to understand how cultures have an influence upon doing international business and(2) to help you prepare personally and professionally to succeed in a global business context. This course focuses on the topics of international dimensions of organizational behavior and management such as: multicultural teams, cultural differences in values, cross-cultural communications, negotiations across cultures, and global leadership. Topics also include the management of international managers and expatriates who involve the achievement of success for an international firm in cross-cultural business environment. In addition to the above, it trains you to develop your business presentation skills in English.

国際ビジネスの分野のひとつである異文化人事管理の内容をケース、プレゼンテーションを通じて学ぶものです。グローバル・ビジネスの入門と理解してください。

講義は日本語でやります。

## 教科書 /Textbooks

プリントを配布します。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Harvard Business essentials. “Business Communication” Mary Munter.  
Edward T. Hall. “Hidden Differences” Anchor Books.  
八代京子他. “異文化コミュニケーションワークブック”. 三修社  
Mary Munter. “Guide to Managerial communication”. Prentice Hall.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Session 1: class orientation  
Session 2: setting communication objective  
Session 3: choosing a communication style  
Session 4: assenting and enhancing credibility  
Session 5: selecting and motivating audiences  
Session 6: setting a message strategy  
Session 7: overcoming language difficulties  
Session 8: using appropriate nonverbal behaviors  
Session 9: mid-term quiz  
Session10: presentation competition: country presentation1: groupA  
Session 11: presentation competition: country presentation2: groupB  
Session 12: negotiations role-play: transnational manager assignment1: groupA  
Session 13: negotiations role-play: transnational manager assignment2: groupB  
Session 14: negotiation case study: A Canadian firm's negotiations in China1: groupA  
Session 15: negotiation case study: A Canadian firm's negotiations in China2: groupB

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Participation:(weight 20%): class participation will be evaluated on attendance and attentive.  
Class quiz:(weight 40%): this will occur midway through the course.  
Presentation:(weight 40%):you will be assigned make a presentation on cross-cultural management and case of negotiation.

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

毎回アサインメントがありますので、継続的に出席して頂きたい。  
グローバルに活躍する多国籍企業の異文化マネジメントに関するクラスです。この方面の就職を検討されている学生には役に立つと思われる。尚、他の企業、経営関係の科目を受講していれば、この講義をさらに深く理解できると思います。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

多国籍企業や企業経営に関するニュースに日ごろ関心をもってください。新聞も読むようにしてください。

## キーワード /Keywords

異文化マネジメント、中国市場、国際ビジネス、アメリカ企業



# ビジネス英語演習【昼】

担当者名 松田 智 / Matsuda, Satoshi / 英米学科  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 2 - 3・2 - 4  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	英語を通して得られる情報を駆使し、諸問題を探求することができる
	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明晰に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語を駆使して、異文化に関わっていく態度を身につけている。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力 コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ビジネス英語演習

ENG231M

## 授業の概要 /Course Description

The objectives of this course are:(1) to help you to understand how cultures have an influence upon doing international business and(2) to help you prepare personally and professionally to succeed in a global business context. This course focuses on the topics of international dimensions of organizational behavior and management such as: multicultural teams, cultural differences in values, cross-cultural communications, negotiations across cultures, and global leadership. Topics also include the management of international managers and expatriates who involve the achievement of success for an international firm in cross-cultural business environment. In addition to the above, it trains you to develop your business presentation skills in English.

国際ビジネスの分野のひとつである異文化人事管理の内容をケース、プレゼンテーションを通じて学ぶものです。グローバル・ビジネスの入門と理解してください。

講義は日本語でやります。

## 教科書 /Textbooks

プリントを配布します。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Harvard Business essentials. “Business Communication” Mary Munter.  
Edward T. Hall. “Hidden Differences” Anchor Books.  
八代京子他. “異文化コミュニケーションワークブック”. 三修社  
Mary Munter. “Guide to Managerial communication”. Prentice Hall.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Session 1: class orientation  
Session 2: setting communication objective  
Session 3: choosing a communication style  
Session 4: assenting and enhancing credibility  
Session 5: selecting and motivating audiences  
Session 6: setting a message strategy  
Session 7: overcoming language difficulties  
Session 8: using appropriate nonverbal behaviors  
Session 9: mid-term quiz  
Session10: presentation competition: country presentation1: groupA  
Session 11: presentation competition: country presentation2: groupB  
Session 12: negotiations role-play: transnational manager assignment1: groupA  
Session 13: negotiations role-play: transnational manager assignment2: groupB  
Session 14: negotiation case study: A Canadian firm's negotiations in China1: groupA  
Session 15: negotiation case study: A Canadian firm's negotiations in China2: groupB

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Participation:(weight 20%): class participation will be evaluated on attendance and attentive.  
Class quiz:(weight 40%): this will occur midway through the course.  
Presentation:(weight 40%):you will be assigned make a presentation on cross-cultural management and case of negotiation.

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

毎回アサインメントがありますので、継続的に出席して頂きたい。  
グローバルに活躍する多国籍企業の異文化マネジメントに関するクラスです。この方面の就職を検討されている学生には役に立つと思われる。尚、他の企業、経営関係の科目を受講していれば、この講義をさらに深く理解できると思います。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

多国籍企業や企業経営に関するニュースに日ごろ関心をもってください。新聞も読むようにしてください。

## キーワード /Keywords

異文化マネジメント、中国市場、国際ビジネス、アメリカ企業

# 英日翻訳演習 【昼】

専門教育科目  
演習・研究科目  
ビジネス・コミュニケーション科  
目群

担当者名 /Instructor 鮫島 千明 / Chiaki Sameshima / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 1・2 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 高度な英語運用に必要な専門知識と、英米及び英語圏の文化・社会の諸問題についての専門的知識を身につけている。
	英語力	● 英語の読み・書きが正確にでき、英米及び英語圏の人たちと正確にコミュニケーションができる。
	その他言語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 英文を正確に翻訳するために必要なものが何かを見つけ出し、正しく英文を分析し、訳文の様々な可能性の探求をすることができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 英語を駆使して、日本と違った価値観や伝統、制度を持った異文化に積極的にかかわっていく態度を身につけている。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英日翻訳演習

MCC219M

## 授業の概要 /Course Description

本授業では、機械的翻訳のような「文法と意味」の置き換えではなく、「感情・印象」の翻訳を試み、創造的・文化的翻訳を目指す。これは、ただ文法通り英語を日本語に置き換える作業ではなく、英語でその場面を経験したときに生じる感情を、日本語に置き換えて表現することである。つまり、直訳的な意味を伝えるのではなく、元の文章にある喜怒哀楽を伝えるということである。このため、韻律やリズムが重視される詩や歌を題材にしたり、字幕翻訳など、文字の制限が与えられた状況での翻訳も行う予定である。

## 教科書 /Textbooks

特に定めない。適宜プリントを配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 グループディスカッション、翻訳練習【音楽】Popular Music
- 第3回 グループディスカッション、翻訳練習【音楽】Rock Music
- 第4回 グループディスカッション、翻訳練習【CM】Punch Line
- 第5回 グループディスカッション、翻訳練習【CM】Wit
- 第6回 グループディスカッション、翻訳練習【広告】Style
- 第7回 グループディスカッション、翻訳練習【広告】Culture
- 第8回 グループディスカッション、翻訳練習【漫画】Character
- 第9回 グループディスカッション、翻訳練習【漫画】Slang
- 第10回 グループディスカッション、翻訳練習【映画字幕】Love Romance
- 第11回 グループディスカッション、翻訳練習【映画字幕】Science Fiction
- 第12回 グループディスカッション、翻訳練習【詩】Rhythm
- 第13回 グループディスカッション、翻訳練習【詩】Rhyme
- 第14回 グループディスカッション、翻訳練習【童話】Mood
- 第15回 グループディスカッション、翻訳練習【童話】Humour

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平素および課題...30%  
レポート...70%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# 英日翻訳演習【昼】

専門教育科目  
演習・研究科目  
ビジネス・コミュニケーション科  
目群

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 英日翻訳演習 【昼】

専門教育科目  
演習・研究科目  
ビジネス・コミュニケーション科  
目群

担当者名 /Instructor 鮫島 千明 / Chiaki Sameshima / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 /2 Credits 単位 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 3・2 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 高度な英語運用に必要な専門知識と、英米及び英語圏の文化・社会の諸問題についての専門的知識を身につけている。
	英語力	● 英語の読み・書きが正確にでき、英米及び英語圏の人たちと正確にコミュニケーションができる。
	その他言語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 英文を正確に翻訳するために必要なものが何かを見つけ出し、正しく英文を分析し、訳文の様々な可能性の探求をすることができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 英語を駆使して、日本と違った価値観や伝統、制度を持った異文化に積極的にかかわっていく態度を身につけている。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英日翻訳演習

MCC219M

## 授業の概要 /Course Description

本授業では、機械的翻訳のような「文法と意味」の置き換えではなく、「感情・印象」の翻訳を試み、創造的・文化的翻訳を目指す。これは、ただ文法通り英語を日本語に置き換える作業ではなく、英語でその場面を経験したときに生じる感情を、日本語に置き換えて表現することである。つまり、直訳的な意味を伝えるのではなく、元の文章にある喜怒哀楽を伝えるということである。このため、韻律やリズムが重視される詩や歌を題材にしたり、字幕翻訳など、文字の制限が与えられた状況での翻訳も行う予定である。

## 教科書 /Textbooks

特に定めない。適宜プリントを配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨン
- 第2回 グループディスカッション、翻訳練習【音楽】Popular Music
- 第3回 グループディスカッション、翻訳練習【音楽】Rock Music
- 第4回 グループディスカッション、翻訳練習【CM】Punch Line
- 第5回 グループディスカッション、翻訳練習【CM】Wit
- 第6回 グループディスカッション、翻訳練習【広告】Style
- 第7回 グループディスカッション、翻訳練習【広告】Culture
- 第8回 グループディスカッション、翻訳練習【漫画】Character
- 第9回 グループディスカッション、翻訳練習【漫画】Slang
- 第10回 グループディスカッション、翻訳練習【映画字幕】Love Romance
- 第11回 グループディスカッション、翻訳練習【映画字幕】Science Fiction
- 第12回 グループディスカッション、翻訳練習【詩】Rhythm
- 第13回 グループディスカッション、翻訳練習【詩】Rhyme
- 第14回 グループディスカッション、翻訳練習【童話】Mood
- 第15回 グループディスカッション、翻訳練習【童話】Humour

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平素および課題...30%  
レポート...70%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# 英日翻訳演習【昼】

専門教育科目  
演習・研究科目  
ビジネス・コミュニケーション科  
目群

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 異文化間コミュニケーション演習【昼】

専門教育科目  
演習・研究科目  
ビジネス・コミュニケーション科  
目群

担当者名 /Instructor 山崎 和夫 / KAZUO YAMASAKI / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /2 Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 1学期 /1 Semester 授業形態 /Class Format 講義・実習 /Lecture・Practice クラス /Class 2 - 1・2 - 2 /2 - 1・2 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語を駆使して、異文化に関わっていく態度を身につけている。
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

異文化間コミュニケーション演習 MCC213M

## 授業の概要 /Course Description

日米話者のコミュニケーションギャップを考察する。ギャップの基底にある文化的背景を探っていくために具体的事例を中心に考察し、学生相互の意見交換を通じて理解を深めていく。また、各自選んだテーマに基づくプレゼンテーションを行うことにより異文化コミュニケーションへの興味を深めめることをめざす。

## 教科書 /Textbooks

授業の際にプリント資料を適宜配布する

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

八代京子、他、『異文化コミュニケーションワークブック』三修社

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースワークの説明
- 第2回 文化とは何か、コミュニケーションとは何か
- 第3回 異文化コミュニケーションとは
- 第4回 コミュニケーションスタイル、①コンテキスト、②パラ言語の差異
- 第5回 言語コミュニケーションギャップ(①ほめ方、とその反応、②断り方、とその反応)
- 第6回 非言語コミュニケーションギャップ(①ジェスチャー、②空間、③時間の使い方の差異)
- 第7回 価値観(基本価値観)の差異に基づくコミュニケーションギャップ
- 第8回 コミュニケーションスキルの訓練(DIEMethodによる記述)
- 第9回 コミュニケーションスキルの訓練(assertive communication)
- 第10回 Cultural Assimilator作成のための準備: Incidentsの観察(Incidentの内容、解説、文化的背景)
- 第11回 Cultural Assimilatorの作成
- 第12回 各自テーマによる発表(コミュニケーション関連)
- 第13回 各自テーマによる発表(文化関連)
- 第14回 各自テーマによる発表(そのほかの関連事象)
- 第15回 授業の概括、各自テーマ発表による意見集約

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業での活動(課題、プレゼンテーションを含む) 60% 期末試験 40%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# 異文化間コミュニケーション演習【昼】

専門教育科目  
演習・研究科目  
ビジネス・コミュニケーション科  
目群

## 履修上の注意 /Remarks

文化、コミュニケーションに関する事項において常に何故かを考えることが必要である。授業では各事項に関して各自の意見、またグループディスカッション(項目により英語で)を要求する。  
課題の提出、各自のプレゼンテーションが必須事項である。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords



# 異文化間コミュニケーション演習【昼】

専門教育科目  
演習・研究科目  
ビジネス・コミュニケーション科  
目群

担当者名 /Instructor 十時 康 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 3・2 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語を駆使して、異文化に関わっていく態度を身につけている。
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

異文化間コミュニケーション演習 MCC213M

## 授業の概要 /Course Description

異文化間コミュニケーション。この言葉は私たちが想像している以上に複雑かつ幅広いものです。本授業では、「個人、ペア、グループとさまざまなレベルで実際にコミュニケーションをとりながら、異文化」とは何か、「コミュニケーション」とは何かという根本的な問いに対して答えを探求します。そして、「異なる文化」の中でどのように振舞えばよいのか、その態度、スキル、知識の習得を目指します。ペアワーク、グループワークを多用し、受講生が自ら考え、実践し、体験する授業になるようにデザインされていますので、積極的な参加を期待します。

## 教科書 /Textbooks

教科書は用いません。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

○ 銅倉健悦『異文化間コミュニケーション入門』丸善ライブラリー

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. イントロダクション：授業方法：成績判定方法など
2. 異文化とは？：定義、モデルなど
3. コンフリクトとは？
4. 言語コミュニケーション：日英語のポライトネスを中心に
5. 非言語コミュニケーション：時間、空間、ジェスチャーなど
6. ステレオタイプ：その発生のメカニズムと問題
7. D.I.E.メソッドを使った事例分析
8. 価値観
9. 前半のまとめとしてのディスカッション:ワールドカフェ形式で
10. 異文化適応
11. 異文化体験シミュレーション:異文化適応
12. 合意形成
13. 異文化体験シミュレーション:コンセンサスゲーム
14. 異文化体験シミュレーション:異文化接触
15. 授業全体のまとめのディスカッション:ワールドカフェ形式で

\* 授業内容は進み具合に応じて変更される場合があります

# 異文化間コミュニケーション演習【昼】

専門教育科目  
演習・研究科目  
ビジネス・コミュニケーション科  
目群

## 成績評価の方法 /Assessment Method

ミニレポート25%  
課題提出 25%  
期末試験 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

当日の授業内容を確認し、自分が授業やグループ内でどのように貢献しうるかを常に意識して授業に臨んで下さい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

違和感を感じる力、日常に潜む「異文化」発見力を養いましょう。

## キーワード /Keywords

# 異文化フィールドワーク【昼】

専門教育科目  
演習・研究科目  
ビジネス・コミュニケーション科  
目群

担当者名 /Instructor 木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語を通して異文化に積極的に関わっていく態度を身につけている。
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

異文化フィールドワーク

MCC214M

## 授業の概要 /Course Description

この科目は、学生の自主的な異文化体験を「生きた学習」として認め、それに対して一定の評価を与え、学生の積極的な異文化体験を促進する目的のために開講されている。受講開始時において、原則として1年以内に2週間以上の海外滞在経験を持ち、撮ってきた写真を使って異文化体験を報告することができることが受講条件となる。

## 教科書 /Textbooks

特に定めない。

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

授業の中で適宜指摘する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 学生による異文化体験プレゼンテーション1(基礎1)
- 第3回 ディスカッション1(基礎1)
- 第4回 学生による異文化体験プレゼンテーション2(基礎2)
- 第5回 ディスカッション2(基礎2)
- 第6回 学生による異文化体験プレゼンテーション3(展開1)
- 第7回 ディスカッション3(展開1)
- 第8回 学生による異文化体験プレゼンテーション4(展開2)
- 第9回 ディスカッション4(展開2)
- 第10回 学生による異文化体験プレゼンテーション5(発展1)
- 第11回 ディスカッション5(発展1)
- 第12回 学生による異文化体験プレゼンテーション6(発展2)
- 第13回 ディスカッション6(発展2)
- 第14回 学生による異文化体験プレゼンテーション7(まとめ)
- 第15回 ディスカッション7(まとめ)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

海外滞在体験報告のプレゼンテーションと、それを簡単に文にまとめたレポートによって成績を出す。

レポート-40%プレゼンテーション-60%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# 異文化フィールドワーク【昼】

専門教育科目  
演習・研究科目  
ビジネス・コミュニケーション科  
目群

## 履修上の注意 /Remarks

1ヶ月以上の海外滞在経験を示す何か（写真等）を用意すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# ビジネス英語研究【昼】

専門教育科目  
演習・研究科目  
ビジネス・コミュニケーション科  
目群

担当者名 /Instructor 松田 智 / Matsuda, Satoshi / 英米学科

履修年次 /Year 2年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	社会の諸問題についての専門的知識を身につけている。
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	英語を通して得られる情報を駆使し、諸問題を探求することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	卒業後も、生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ビジネス英語研究

ENG232M

## 授業の概要 /Course Description

The objective of the course are:(1) to help you develop an understanding of basic economic concepts that underline the business management, and (2) to help you develop your economic vocabularies in English.

このクラスは英語で行います。

## 教科書 /Textbooks

Essentials of Economics 6th edition N. Gregory Mankiw South-Western cenage learning

ただし、書き込みしない場合は貸し出しまたはused bookで対応することも可能です。しっかり自分の財産としたい方は購入をお勧めします。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

マンキュー入門経済学  
アメリカの高校生が読んでいる経済の教科書  
池上彰のやさしい経済学

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

week1 Ten principles of economics  
week2 Thinking like a economist  
week3 Interdependence and the gains from trade  
week4 Supply and Demand  
week5 Consumers, producers, and the efficiency of markets  
week6 Measuring a nation's income  
week7 International Trade  
week8 Mid-term examination  
week9 Production and growth  
week10 The cost of production  
week11 The firm in competitive markets  
week12 Measuring cost of living  
week13 Basic tool of finance  
week14 The monetary system  
week15 Money growth and inflation

## 成績評価の方法 /Assessment Method

(1)Class participation	20%
(2)Homework papers	20%
(3)Mid-quizzes	30%
(3)Final test	30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

All lessons are basically conducted in English.

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

内容は易しいですので特に前知識は必要ありませんが、日本語で経済関係の基礎を学んだことがある学生はより理解が深まると思われる。

## キーワード /Keywords

GDP, Inflation, comparative advantage, opportunity cost, market force, GDP deflator, present value, future value, put, call, Black-Sholes, derivative, purchasing power parity, interest rate parity, fixed and float exchange rate, currency crisis, capital flight

担当者名 /Instructor 廣田 恵美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 1 - 1・ 1 - 2 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 高度な英語運用に必要な英文法に関して専門的知識を身につけている。
技能	専門分野のスキル	● 英文法の論理体系を正しく理解し、分析・研究を行うことができる。
	英語力 その他言語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力 コミュニケーション力	

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英文法I

LIN230M

## 授業の概要 /Course Description

英語の仕組みを平易な切り口で説明し、実践的な英文法の知識の習得を目標とする。この授業では、特に動詞句の用法について、具体例を多用しながら考察を進める。

## 教科書 /Textbooks

『Rediscover Grammar』（David Crystal著 Longman）

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

『英文法ビフォー&アフター』（豊永 彰著 南雲堂 1,400円）

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2回 Types of sentences
- 3回 Clause types
- 4回 The verb element, The subject element
- 5回 The object element, The complement element
- 6回 The adverbial element
- 7回 Verb phrase structure
- 8回 Auxiliary verbs
- 9回 Modal meanings
- 10回 The moods of the verb phrase
- 11回 Verb tenses
- 12回 Future time
- 13回 Verb aspects
- 14回 Active and passive
- 15回 学習内容の総括

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...80% 授業への取り組み（小テストなど含む）...20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

今回の学習予定項目を必ず読んでおくこと。また授業時に辞書を使用するので、辞書（紙または電子）を必ず持ってくること。スマートフォンの辞書アプリの使用は認めない。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

無届けの遅刻や欠席に対しては、厳しい態度で臨む所存です。

## キーワード /Keywords

「使える英文法」文の仕組み 動詞句の用法



# 英文法I【昼】

専門教育科目  
演習・研究科目  
英語学・英語教育科目群

担当者名 /Instructor 廣田 恵美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 1 - 3・ 1 - 4 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 高度な英語運用に必要な英文法に関して専門的知識を身につけている。
技能	専門分野のスキル	● 英文法の論理体系を正しく理解し、分析・研究を行うことができる。
	英語力 その他言語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力 コミュニケーション力	

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英文法I

LIN230M

## 授業の概要 /Course Description

英語の仕組みを平易な切り口で説明し、実践的な英文法の知識の習得を目標とする。この授業では、特に動詞句の用法について、具体例を多用しながら考察を進める。

## 教科書 /Textbooks

『Rediscover Grammar』（David Crystal著 Longman）

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

『英文法ビフォー&アフター』（豊永 彰著 南雲堂 1,400円）

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2回 Types of sentences
- 3回 Clause types
- 4回 The verb element, The subject element
- 5回 The object element, The complement element
- 6回 The adverbial element
- 7回 Verb phrase structure
- 8回 Auxiliary verbs
- 9回 Modal meanings
- 10回 The moods of the verb phrase
- 11回 Verb tenses
- 12回 Future time
- 13回 Verb aspects
- 14回 Active and passive
- 15回 学習内容の総括

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...80% 授業への取り組み（小テストなど含む）...20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

今回の学習予定項目を必ず読んでおくこと。また授業時に辞書を使用するので、辞書（紙または電子）を必ず持ってくること。スマートフォンの辞書アプリの使用は認めない。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

無届けの遅刻や欠席に対しては、厳しい態度で臨む所存です。

## キーワード /Keywords

「使える英文法」文の仕組み 動詞句の用法

担当者名 /Instructor 廣田 恵美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1 - 1・ 1 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	高度な英語運用に必要な英文法に関して専門的知識を身につけている。
技能	専門分野のスキル	●	英文法の論理体系を正しく理解し、分析・研究を行うことができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英文法Ⅱ

LIN231M

## 授業の概要 /Course Description

この授業では、単なる知識に留まらず、英語を使いこなすための根幹となる項目の習得を図り、主に名詞句・冠詞・形容詞等、特に英語を書く際に重要な項目を学習する。

## 教科書 /Textbooks

『Rediscover Grammar』 David Crystal 著 Longman

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

『英文法ビフォー&アフター』(豊永 彰著) 南雲堂 ￥1,400

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業内容と成績評価の仕方に関する説明 今後の概説
- 2回 The noun phrase: outline of NP
- 3回 The noun phrase: common and proper nouns
- 4回 The noun phrase: count and noncount nouns
- 5回 The noun phrase: variable and invariable nouns
- 6回 The noun phrase: gender and case
- 7回 Determiners
- 8回 The articles
- 9回 Predeterminers, premodification
- 10回 Relative clauses
- 11回 Pronouns
- 12回 Adjectives
- 13回 Adverbs
- 14回 Prepositions
- 15回 授業の総括

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の授業への取り組み...20%、試験...80%で総合評価をする。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

専門基礎教育科目の「英文法Ⅰ」とあわせて受講すればわかりやすい。次回の学習項目は必ず読んでくること。また授業時に辞書を使用するので、辞書(紙または電子)を必ず持参すること。スマートフォンの辞書アプリの使用は認めない。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

無届けでの欠席が多い場合は単位の取得が難しくなることがあるので、留意すること。

## キーワード /Keywords

名詞句の特徴、冠詞、形容詞・副詞、前置詞

担当者名 /Instructor 廣田 恵美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1 - 3・ 1 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 高度な英語運用に必要な英文法に関して専門的知識を身につけている。
技能	専門分野のスキル	● 英文法の論理体系を正しく理解し、分析・研究を行うことができる。
	英語力 その他言語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力 コミュニケーション力	

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英文法Ⅱ

LIN231M

## 授業の概要 /Course Description

この授業では、単なる知識に留まらず、英語を使いこなすための根幹となる項目の習得を図り、主に名詞句・冠詞・形容詞等、特に英語を書く際に重要な項目を学習する。

## 教科書 /Textbooks

『Rediscover Grammar』 David Crystal 著 Longman

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

『英文法ビフォー&アフター』(豊永 彰著) 南雲堂 ¥1,400

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業内容と成績評価の仕方に関する説明 今後の概説
- 2回 The noun phrase: outline of NP
- 3回 The noun phrase: common and proper nouns
- 4回 The noun phrase: count and noncount nouns
- 5回 The noun phrase: variable and invariable nouns
- 6回 The noun phrase: gender and case
- 7回 Determiners
- 8回 The articles
- 9回 Predeterminers, premodification
- 10回 Relative clauses
- 11回 Pronouns
- 12回 Adjectives
- 13回 Adverbs
- 14回 Prepositions
- 15回 授業の総括

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の授業への取り組み...20%、試験...80%で総合評価をする。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

専門基礎教育科目の「英文法Ⅰ」とあわせて受講すればわかりやすい。次回の学習項目は必ず読んでくること。また授業時に辞書を使用するので、辞書(紙または電子)を必ず持参すること。スマートフォンの辞書アプリの使用は認めない。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

無届けでの欠席が多い場合は単位の取得が難しくなることがあるので、留意すること。

## キーワード /Keywords

名詞句の特徴、冠詞、形容詞・副詞、前置詞

# 英語学概論 【昼】

専門教育科目  
演習・研究科目  
英語学・英語教育科目群

担当者名 /Instructor 北峯 裕士 / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 / 2単位 /Credits 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	高度な英語運用に必要な専門的知識と、英米及び英語圏の文化・社会の諸問題についての専門的知識を身につけている。
技能	専門分野のスキル	●	英語の論理構造を正しく理解し、英語による情報の収集や分析・研究を行い、それを英語で発信することができる。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	英語に関する情報や知識を駆使し、英語学の諸問題を複眼的に思考することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力 コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英語学概論

LIN232M

## 授業の概要 /Course Description

英語学に関する基礎知識の習得。

## 教科書 /Textbooks

『英語学概論 - 三大文法の流れと特徴 - 』松井千枝著 朝日出版社

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

『英語学基礎講義 英語学ってどんな学問?』高橋勝忠著 現代図書  
○『英語学へのファーストステップ』有村(他)英宝社

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

文は単語の配列で構成されているが、単語と単語の関係は線の順序だけではなく、階層的關係が存在することを理解してもらう。

- 1回 ガイダンス
  - 2回 言語学の諸分野
  - 3回 歴史比較言語学によるインド=ヨーロッパ祖語の再構築及び英語史の概略説明
  - 4回 英文法の歴史の概略説明(規範文法から記述文法への流れ)
  - 5回 音声と音素
  - 6回 語と形態素
  - 7回 アメリカ構造主義による複数個の形態素から成り立つ語のIC分析
  - 8回 伝統文法、アメリカ構造主義、生成文法における、それぞれの語の分類方法
  - 9回 統語論その1(品詞の分類に基づいた伝統文法における統語構造の分析方法とアメリカ構造主義における統語構造のIC分析の欠点、利点)
  - 10回 統語論その2(生成文法における統語構造の分析方法)
  - 11回 意味論(オグデン、リチャーズの意味の三角形の概略説明等)
  - 12回 認知言語学の概略説明
  - 13回 S. Kuno等が提案している機能文法の概略説明(前置詞残留現象を例に取り)
  - 14回 述語が持つ項構造(不定詞等に見られる発音されない意味上の主語を仮定する根拠の概略説明)
  - 15回 まとめ
- 10回程度、講義の終わりに小テストを行う。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

試験90% 小テスト10%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

前もって、テキストを読んでくること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

疑問が生じたらその日に質問等をし、疑問を解消すること。

## キーワード /Keywords



# 英語学研究I (音声学・音韻論) 【昼】

専門教育科目  
演習・研究科目  
英語学・英語教育科目群

担当者名 /Instructor 山内 ひさ子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /2nd Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 1学期 /1st Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 2年 /2nd Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	高度な英語運用に必要な音声学に関して専門的知識を身につけている。
技能	専門分野のスキル	●	音声学の論理体系を正しく理解し、分析・研究を行うことができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

(英米) 英語学研究I (音声学・音韻論)	LIN233M
(比文) 英語音声学	LIN233M

## 授業の概要 /Course Description

音声学・音韻論の基礎知識を学ぶとともに、実践的な訓練により、英語の正しい発音を習得する。英語の強勢、リズム、イントネーションについても学び、英語らしい音声について明らかにする。音声分析ソフトを用い、spectrographによる分析を試みる。英語学習者への英語音声指導のコツを身に付ける。

## 教科書 /Textbooks

佐藤 寧、佐藤 努 著『現代の英語音声学』金星堂、2400円(税別)

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じ、プリントを配布する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction 音声学・音韻論の定義、IPA (テキスト：第1章、第3章)
- 2回 発生のメカニズム、母音の種類(1) (テキスト：第2章、第4章)
- 3回 母音の種類(2)、二重母音 (テキスト：第4章)
- 4回 子音の種類(1) 鼻音、閉鎖音 (テキスト：第5章)
- 5回 子音の種類(2) 摩擦音 (テキスト：第5章)
- 6回 子音の種類(3) 破擦音、側音、半母音 (テキスト：第5章)
- 7回 紛らわしい子音、紛らわしい母音
- 8回 音の強勢 (テキスト：第7章)
- 9回 音の縮小、同時長音 (テキスト：第8章、第9章)
- 10回 英語のリズム (テキスト：第6章)
- 11回 イントネーション(1) 基礎理論 (テキスト：第10章)
- 12回 イントネーション(2) 意思を表す (テキスト：第10章)
- 13回 音響音声学、聴覚音声学 (テキスト：第11章、第12章)
- 14回 音変化と規則性 (テキスト：第13章、第15章)
- 15回 授業のまとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加、提出課題 40%  
期末試験 60%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

USBメモリを準備すること  
CALL教室で授業を行うので、1クラスの受講希望者が60名を超えた場合、別のクラスで受講してもらう場合がある。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この科目は講義科目ですが、音声分析ソフト等を用い、なるべく実践練習を加えます。

## キーワード /Keywords

IPA, articulation, vowel, consonant, stress, intonation, acoustic phonetics, phonology

# 英語学研究II ( 英語教育 ) 【昼】

専門教育科目  
演習・研究科目  
英語学・英語教育科目群

担当者名 /Instructor アーノルド・ウェイン / ARNOLD Wayne E. / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 / 2年  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 英語教育についての諸問題について、専門的知識を身につけている。
技能	専門分野のスキル	● 英語教育の諸問題を正しく理解し、英語による情報の収集や分析を行うことができる。
	英語力	
	その他言語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● グローバルな視野から英語教育の諸問題を学際的、複眼的に思考できる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英語学研究II (英語教育)

LIN234M

## 授業の概要 /Course Description

The objective of this course will provide practical ideas for those who are interested in teaching English in Japan. It will cover some of the theory of language learning and the difficulties that Japanese speaker have with specific English pronunciations. We will look at various classroom activities that help to generate conversation with young students. Additionally, various activities that are used in the United States to help English Language Learners (ELLs) will be part of our course. Collaborative learning (where English-learners work together) will be a central theme for this course.

The course will combine short lectures, discussions and student projects.

Every week, there will be homework in the form of readings and occasionally small, out of class assignments for group projects. There will also be reading summaries and occasional reading quizzes. Students will be expected to come to class prepared.

## 教科書 /Textbooks

Materials to be provided by the instructor.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Principles of Language Learning and Teaching Fifth Edition, Book (6th Edition)  
The D. Brown Series; 9780133041941

Essential Teacher Knowledge: Core Concepts in English Language Teaching; ISBN: 9781408268049

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Improving language skills, who are English language learners?
2. Theoretical overview of teaching second language acquisition; Small group discussions(1)
3. Types of communication; sheltered instruction
4. Forming groups: Small group discussions(2)
5. Designing easy listening and speaking tasks
6. Small group projects(1)
7. Designing more challenging listening and speaking tasks
8. Small group projects(2)
9. Evaluating the tasks you make
10. Interaction in the classroom
11. Small group projects(3)
12. Types of motivation
13. Motivating learners
14. Small group projects(4)
15. Correcting errors

# 英語学研究II ( 英語教育 ) 【昼】

専門教育科目  
演習・研究科目  
英語学・英語教育科目群

## 成績評価の方法 /Assessment Method

20% participation  
30% in-class projects  
20% homework, reading and quizzes  
30% final project

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

The course will be taught in English.

## キーワード /Keywords

# 英語史【昼】

専門教育科目  
演習・研究科目  
英語学・英語教育科目群

担当者名 /Instructor 北峯 裕士 / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 / 2年  
単位 /Credits 2単位 / 2学期 /Semester  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	高度な英語運用に必要な専門知識と、英米及び英語圏の文化・社会の諸問題についての専門的知識を身につけている。
技能	専門分野のスキル	●	英語の理論構造を正しく理解し、英語による情報の収集や分析・研究を行い、それを英語で発信することができる。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	英語に関する情報や知識を駆使し、英語史の諸問題を複眼的に思考することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英語史

LIN330M

## 授業の概要 /Course Description

英語の歴史をつかむ。具体的には、英語の誕生から現在に至るまでの経過を概観するが、歴史的に、英語がフランス語を中心とした諸外国語の影響を受けて現代の英語に至ったことを見ていく。

## 教科書 /Textbooks

松浪有（編）『英語史（英語学コース1）』大修館書店。後半は、別途プリント配布。

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

永野芳郎『英語学要説』英宝社。○

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 英語の起源
- 3回 英語の系譜（歴史比較言語学によるインド＝ヨーロッパ祖語の再構築及び英語史の概略説明）
- 4回 英語の歴史の概略
- 5回 古英語時代①（ケルト人）
- 6回 古英語時代②（ゲルマン民族（アングロ・サクソン民族））
- 7回 中期英語時代①（ノルマン征服）
- 8回 中期英語時代②（フランス語の借入語）
- 9回 中期英語時代③（水平化）
- 10回 近代英語時代①（歴史的背景）
- 11回 近代英語時代②音韻変化
- 12回 近代英語と現代英語の統語上の違い①（定形節と非定形節）
- 13回 近代英語と現代英語の統語上の違い②（疑問文）
- 14回 近代英語と現代英語の統語上の違い③（否定文）
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト20%、期末テスト80%。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 平野 圭子 / Keiko Hirano / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 /2 Years 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2 Semesters 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 2年 /2 Years

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 社会言語学研究に必要な基礎的・専門的知識を身につける。
技能	専門分野のスキル	● 社会と言語の関係を正しく理解し、分析・研究を行うことができる。
	英語力 その他言語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 社会と言語の諸問題を学際的、複眼的に思考し解決策を採求できる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力 コミュニケーション力	

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

(英米) 社会言語学研究	LIN310M
(比文) 社会言語学	LIN310M

## 授業の概要 /Course Description

本講義は社会言語学の基礎知識を学び、日常における様々な言語現象を観察し理解する力を身につけることが目的です。ことばは様々な要因によって影響を受け、変化やバリエーションが生じます。どのような要因がどのような影響を与えるのか、また私たちはことばをどのように駆使しているのかを、社会言語学の視点から考えます。ことばと社会との関係、そこに生じる諸問題を理解することがこの授業の狙いです。

## 教科書 /Textbooks

ハンドアウトを配布します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業時に紹介します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 社会言語学とは
- 2回 英語の地域変種
- 3回 標準英語と非標準英語
- 4回 ことばと社会階級
- 5回 ことばと性
- 6回 ことばと年齢
- 7回 ことばと人種・民族
- 8回 第1回小テスト
- 9回 ことばとソーシャルネットワーク
- 10回 ことばとスタイル
- 11回 ことばの変化
- 12回 方言接触(1)【アコモデーション】
- 13回 方言接触(2)【方言習得】
- 14回 言語接触
- 15回 第2回小テスト

## 成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(2回)...100%。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

出席を重視します。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords



# メディア英語演習【昼】

専門教育科目  
演習・研究科目  
英米研究・メディア科目群

担当者名 アダム・ヘイルズ / Adam Hailes / 英米学科  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 2 - 1・2 - 2  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	グローバルな視野から社会の諸問題を学際的、複眼的に思考できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語を通して異文化に積極的に関わっていく態度を身につけている。
	社会的責任・倫理観	●	国際人らしい良識と倫理感を持ち、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	卒業後も、生涯にわたり学ぼうとする高い意欲をもち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

メディア英語演習

MCC215M

## 授業の概要 /Course Description

This course will provide an English-language introduction to Media Studies. Classes will be built upon analysis of newspaper articles, websites, radio programmes, television programmes and films in the light of key elements of media theory.

Weekly homework assignments will be given to allow students to grow accustomed to the themes and language covered in class.

## 教科書 /Textbooks

Robert Kolker, Media Studies: An Introduction (Wiley-Blackwell, 2009)

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Suitable secondary reading will be discussed during the first class.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2回 From Broadsheet to Broadband: The History of Printed Media
- 3回 From Broadsheet to Broadband: Objective Reporting
- 4回 The Pitch: Advertising and Modernity
- 5回 The Pitch: Political Advertising
- 6回 Music In Every Room: The Coming of Radio
- 7回 Music In Every Room: The Culture of Rock
- 8回 Watching TV: The History of Television
- 9回 Watching TV: What Are We Doing?
- 10回 Movies and Film: The Cinema Experience
- 11回 Movies and Film: Narrative Conventions
- 12回 Digital Spaces: Advertising Online
- 13回 Digital Spaces: Social Networking
- 14回 Student-based Class Discussion
- 15回 Review

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Successful completion of regular written assignments ... 100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

Preparation tasks will be set by the class instructor at regular intervals during the course.

# メディア英語演習【昼】

専門教育科目  
演習・研究科目  
英米研究・メディア科目群

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# メディア英語演習【昼】

専門教育科目  
演習・研究科目  
英米研究・メディア科目群

担当者名 /Instructor 吉川 哲郎 / KIKKAWA TETSUROU / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 /2nd Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 3・2 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	グローバルな視野から社会の諸問題を学際的、複眼的に思考できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語を通して異文化に積極的に関わっていく態度を身につけている。
	社会的責任・倫理観	●	国際人らしい良識と倫理感を持ち、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	卒業後も、生涯にわたり学ぼうとする高い意欲をもち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

メディア英語演習

MCC215M

## 授業の概要 /Course Description

この授業の主な到達目標は、以下の内容である。

- ①グローバルな視点から社会の諸問題を学際的、複眼的に思考できる。②英語を通して、異文化に積極的に関わっていく態度を身につける。  
③国際人らしい良識と倫理観を持ち、主体的に行動することができる。④卒業後も、生涯にわたり学ぼうとする高い意欲をもち続けることができる。

この授業では、ミュージカル映画を題材に使う。ミュージカル映画の映画作法とはどんなものかを知るとともに、講読等も混ぜて総合的に英語とアメリカの文化を学んでいく。

## 教科書 /Textbooks

なし。プリントが主になる。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

特になし。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入
- 2回 ユニット1。映画『レ・ミゼラブル』を知る
- 3回 ユニット2。映画『レ・ミゼラブル』の解説
- 4回 ユニット3。トーク(1)【ロンドン発ミュージカルの魅力】
- 5回 ユニット4。映画『塔の上のラプンツェル』を知る
- 6回 ユニット5。映画『塔の上のラプンツェル』の解説
- 7回 ユニット6。トーク(2)【アニメーション・ミュージカルの魅力】
- 8回 ユニット7。映画『ヘアスプレー』を知る
- 9回 ユニット8。映画『ヘアスプレー』の解説
- 10回 ユニット9。トーク(3)【ミュージカルとカウンターカルチャー】
- 11回 ユニット10。映画『マイ・フェア・レディ』を知る
- 12回 ユニット11。映画『マイ・フェア・レディ』の解説
- 13回 ユニット12。トーク(4)【クラシック・ミュージカルの魅力】
- 14回 ユニット13。シナリオ講読
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

レポート・・・100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# メディア英語演習【昼】

専門教育科目  
演習・研究科目  
英米研究・メディア科目群

## 履修上の注意 /Remarks

特になし

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

特になし。家庭あるいは図書館でのアメリカ英語学習として、DVDのクローズド・キャプションを利用することをお勧めする。

## キーワード /Keywords

【メディア英語】 【ミュージカル映画】 【シナリオ講読】

# アメリカ劇文化研究 【昼】

専門教育科目  
演習・研究科目  
英米研究・メディア科目群

担当者名 吉川 哲郎 / KIKKAWA TETSUROU / 英米学科  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・実習 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力		
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力	●	グローバルな視野から社会の諸問題を学際的、複眼的に思考できる。
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力		
	実践力（チャレンジ力）	●	英語を通して異文化に積極的に関わっていく態度を身につけている。
	社会的責任・倫理観	●	国際人らしい良識と倫理感を持ち、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	卒業後も、生涯にわたり学ぼうとする高い意欲をもち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

アメリカ劇文化研究

MCC216M

## 授業の概要 /Course Description

この授業の主な到達目標は、以下の内容である。

- ①グローバルな視点から社会の諸問題を学際的、複眼的に思考できる。②英語を通して、異文化に積極的に関わっていく態度を身につける。  
③国際人らしい良識と倫理観を持ち、主体的に行動することができる。④卒業後も、生涯にわたり学ぼうとする高い意欲をもち続けることができる。

この授業では、アメリカのミュージカルを題材に使う。ミュージカルの舞台および映画の作法とはどんなものかを知るとともに、シナリオ講読等も混ぜて総合的に学んでいく。

## 教科書 /Textbooks

なし。プリントが主になる。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

特になし。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入。 ミュージカル映画について知ろう（導入編）
- 2回 ユニット1。ミュージカル映画について知ろう（基本編）
- 3回 ユニット2。ミュージカル映画について知ろう（完結編）
- 4回 ユニット3。ミュージカル演劇について知ろう（導入編）
- 5回 ユニット4。ミュージカル演劇について知ろう（基本編）
- 6回 ユニット5。ミュージカル演劇について知ろう（完結編）
- 7回 ユニット6。ミュージカルの作曲家たち（1930年代まで）
- 8回 ユニット7。ミュージカルの作曲家たち（1960年代まで）
- 9回 ユニット8。ミュージカルの作曲家たち（現代まで）
- 10回 ユニット9。ミュージカルのコレオグラファーたち（1930年代まで）
- 11回 ユニット10。ミュージカルのコレオグラファーたち（現代まで）
- 12回 ユニット11。ミュージカルのダンス
- 13回 ユニット12。ミュージカル映画のシナリオ講読
- 14回 ユニット13。ミュージカルー多民族国家としてのアメリカ
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

レポート・・・100%。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

特になし。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

特になし。家庭あるいは図書館でのアメリカ英語学習として、DVDのクローズド・キャプションを利用することをお勧めする。

## キーワード /Keywords

【メディア英語】 【ミュージカル映画】 【シナリオ講読】

# イギリス研究 【昼】

専門教育科目  
演習・研究科目  
英米研究・メディア科目群

担当者名 木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	高度な知識を得ることによってイギリス文化を理解することができる。
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	英語を通して得られる情報を駆使し、諸問題を探求することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	卒業後も、生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

(英米) イギリス研究	MCC217M
(比文) イギリス文化論	ARE234M

## 授業の概要 /Course Description

This course will be taught in English.

This course will assess and analyse British Culture through a focus on film, literature and journalism. Both historical and modern perspectives will be maintained and embraced throughout this investigation into the key themes of class, media, ideology, economy, sexuality, science, technology, media, nationalism and religion.

## 教科書 /Textbooks

Handouts will be provided at the beginning of each class.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Relevant material for further study will be introduced during each class.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

We will focus on 13 important era-defining figures that shaped the times, some of which are listed not because they are important in British history but as significant keys to consider each period: William Shakespeare, John Bunyan, Oliver Cromwell, Daniel Defoe, Erasmus Darwin, Mary Shelley, Isambard Kingdom Brunel, Charles Darwin, William Morris, Conan Doyle, D. H. Lawrence, A. A. Milne and John Lennon.

Class 1: Introduction

Class 2: Shakespeare and the Theatre as the Most Powerful Media in 16th Century

Class 3: Oliver Cromwell and the 17th Century Puritanism

Class 4: John Bunyan's Pilgrim's Progress as the Fundamental Framework of Protestantism

Class 5: Daniel Defoe's Robinson Crusoe and the Ideology of British Empire

Class 6: Erasmus Darwin's "Luna Society" and 18th Century Industrial Revolution

Class 7: Mary Shelley's Frankenstein and Bioethics in 19th Century

Class 8: Isambard Kingdom Brunel and the Age of Iron: Civil Engineering and the Industrial Hero

Class 9: Charles Darwin and A. R. Wallace: When did the Idea of Evolution Become Scientific?

Class 10: William Morris and the British Style

Class 11: Conan Doyle's Sherlock Homes and the End of the Century: 19th Century Occultism and Science

Class 12: D. H. Lawrence's Lady Chatterley's Lover and the Idea of Obscenity

Class 13: A. A. Milne's Winnie the Pooh and the Age of Wars: What Exists Where There is Nothing?

Class 14: John Lennon and the Rock Music: Pop, Youth and Identity in a Postcolonial World

Class 15: General Overview

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Examination 70%

Class Contribution 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords



# アメリカ研究 【昼】

専門教育科目  
演習・研究科目  
英米研究・メディア科目群

担当者名 /Instructor  
ダニエル・ストラック / Daniel C. Strack / 英米学科

履修年次 /Year 2年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	高度な知識を得ることによってアメリカ文化を理解することができる。
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	アメリカと関連する問題を正しく分析し、解決することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	学生が興味をもつゆえ、生涯にわたりアメリカに対して関心を示すこと。
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

(英米) アメリカ研究	MCC218M
(比文) アメリカ文化論	ARE223M

## 授業の概要 /Course Description

This course considers U.S. culture from multiple perspectives. Using materials such as the the Declaration of Independence, famous political speeches and other historical documents, lessons will examine the origins and development of U.S. culture and use this knowledge to compare and contrast with present-day U.S. cultural trends. Through this course, students will gain expertise on American culture and develop their ability to understand U.S. cultural trends in historical perspective.

## 教科書 /Textbooks

S. Kathleen Kitao et al. Events and Trends in American History. Sanshusha, 1992.

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

Reference materials will be handed out in class as necessary.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Course Introduction
- 2回 The New World
- 3回 The Original Colonies
- 4回 British Influence
- 5回 Early Expansion to the Mississippi
- 6回 The Moving Frontier
- 7回 【The Civil War】 and the 【Civil Rights Movement】
- 8回 The US System of 【Government】
- 9回 The Second World War
- 10回 The 1960s Counterculture
- 11回 Economic Values
- 12回 Lifestyle
- 13回 Popular Culture
- 14回 Continuing 【Immigration】
- 15回 Course Review

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加：30% 小テスト：0% 期末試験：60% 課題：0% 態度：10%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# アメリカ研究 【昼】

専門教育科目  
演習・研究科目  
英米研究・メディア科目群

## 履修上の注意 /Remarks

The course will be taught mostly in English with Japanese used often to further student understanding of difficult content. Lecture notes will be provided to aid student review. The examination will be in Japanese but will include some English vocabulary. Students are expected to read the English-language textbook chapter relating to each week's topic to gain historical background information so as to fully appreciate the lecture.

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 伊藤 健一 / Kenichi ITO / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 /3rd Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2nd Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 3年 /3rd Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	英米及び英語圏の文化・社会の諸問題についての専門的知識を身につけている。
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	グローバルな視野から社会の諸問題を学際的、複眼的に思考できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語を通して異文化に積極的に関わっていく態度を身につけている。
	社会的責任・倫理観	●	国際人らしい良識と倫理感を持ち、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	生涯にわたり英語や異文化への関心と学習意欲を持続することができる。
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英米文化研究

MCC311M

## 授業の概要 /Course Description

英米学科の教育の柱として、「語学力の養成」、「英語のこころを学ぶ」、「英語の先にある世界を学ぶ」をあげることができます。この授業は、このうち「英語のこころを学ぶ」ために用意されたものです。まずは比較文化論の方法論を踏まえ、異文化を読み解くにはどのようなことに注意を払えばよいのかを確認します。それに続いて、英語文化の背後にあるイギリス、アメリカの文化を見つめ、さらに英語が事実上国際共通語の地位にあることを踏まえ、英語の現状を理解し、さらに英米以外の英語圏の国々についても考察したいと考えています。最後にこれらの学習のまとめを兼ねて、それらとの対比によって明らかにされた日本文化のさまざまな特徴を英語で語る練習をしてみたいと思います。

【この授業の主な到達目標として、以下の内容を考えています。】

①高度な英語運用に必要な専門的知識と、英米及び英語圏の文化・社会の諸問題についての専門的知識を身につけている。②物事をグローバルな視野から多面的に考え、英語を通して得られる情報や知識を駆使し、現実社会の諸問題を学際的、複眼的に思考し、解決策を探索することができる。③専門的知識を応用しながら、日本語のみならず英語で自分の意見を明晰に表現することができる。④英語を駆使して、日本と違った価値観や伝統、制度を持った異文化に積極的に関わっていく態度を身につけている。⑤卒業後も、英語や異文化への高い関心と、生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持続することができる。

## 教科書 /Textbooks

テキストは使用しません。授業の中でプリントを配布します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて指示します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第01回 オリエンテーション：文化を読み解くとは
- 第02回 イギリス・アメリカを知る
- 第03回 マザーグースと児童文学
- 第04回 イギリス史ダイジェスト
- 第05回 歴史的スピーチから学ぶ近代史
- 第06回 キリスト教とイスラム教
- 第07回 アメリカの音楽：ジャズの歴史
- 第08回 アメリカの音楽：ロックの誕生
- 第09回 イギリスの音楽：イギリスでのロック
- 第10回 イギリスの音楽：プロムスで歌われるイギリスのこころ
- 第11回 聖地デイズニerland
- 第12回 世界共通語としての英語
- 第13回 英語を通して世界を見る
- 第14回 日本文化を英語で語ろう
- 第15回 まとめと総復習

## 成績評価の方法 /Assessment Method

原則として期末試験の成績のみで評価します。ただし、試験の点数が高くとも、欠席が極端に多い人は不可もしくは極端に低い評価とします。したがって、出席を非常に重視していると理解して下さい。

期末試験100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

この授業は、予習を前提に考えてはいませんので、特に何か準備をして臨んでいただく必要はありません。しかし、復習は十分にしてくださいと思います。授業の中で配布するプリントを読み直し、できればそれをもとに、自分なりにさらにリサーチを続けていただければと思います。ただし第14回の「日本文化を英語で語ろう」の回には、皆さんに作ってもらった内容をプレゼンしていただくこととなりますので、よろしくをお願いします。また、この科目は教職課程を履修する人にとっては必修の科目となっています。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

英語はもはやイギリス、アメリカだけのものではなくなっています。しかし、英語を育んできた両国の文化を学ぶことは、英語の背後にある考え方、ものの見方を知る上でも有益です。積極的な気持ちで学んでほしいと思います。

## キーワード /Keywords

# イギリス劇文化研究 【昼】

専門教育科目  
演習・研究科目  
英米研究・メディア科目群

担当者名 アダム・ヘイルズ / Adam Hailes / 英米学科  
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	グローバルな視野から社会の諸問題を学際的、複眼的に思考できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語を通して異文化に積極的に関わっていく態度を身につけている。
	社会的責任・倫理観	●	国際人らしい良識と倫理感を持ち、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	卒業後も、生涯にわたり学ぼうとする高い意欲をもち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

イギリス劇文化研究

MCC310M

## 授業の概要 /Course Description

This course will offer interpretations and analyses of seven plays by Shakespeare alongside explanation of the historical and social contexts in which Shakespeare wrote. Key areas of investigation will be the Renaissance imagination, religion, pleasure, sex and Elizabethan/Jacobean understanding of theatre itself. Course materials will include performance texts, historical documents and extracts from movies and filmed stage performances.

Each class will consist of a teacher-focused lecture followed by student-focused discussion.

## 教科書 /Textbooks

Handouts will be provided at the beginning of each class.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Relevant material for further study will be introduced during each class.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction: Who was Shakespeare? Are his plays really so important?
- 2回 Macbeth: The Renaissance Imagination
- 3回 Staging Macbeth: Ghost/No Ghost
- 4回 A Midsummer Night's Dream: The Anarchy Of Love
- 5回 Staging A Midsummer Night's Dream: Locating Bottom
- 6回 Hamlet: The Renaissance Self
- 7回 Staging Hamlet: Philosopher Prince v. Action Hero
- 8回 Twelfth Night: Puritan Blues
- 9回 Staging Twelfth Night: Boys Who Are Girls
- 10回 Othello: The Evil Director
- 11回 Staging Othello: Seeing Is Believing
- 12回 The Taming of the Shrew: Misogyny? Play?
- 13回 Staging The Taming of the Shrew: Positioning The Audience
- 14回 Henry V: Expanding The Stage
- 15回 Review: Shakespeare's World

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Short Essay (700-1000 words) - 100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# イギリス劇文化研究 【昼】

専門教育科目  
演習・研究科目  
英米研究・メディア科目群

## 履修上の注意 /Remarks

Please note that this course will be conducted in English.

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 異文化間コミュニケーションゼミA1【昼】

担当者名 /Instructor ロジャー・ウィリアムソン / Rodger S. Williamson / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明晰に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ゼミ A I

SEM411M

## 授業の概要 /Course Description

This seminar will enable students to examine their own interests and experiences in crossing cultures. We will explore, strengthen and deepen our skills in communication and collaboration. We will have weekly discussions based on readings by writers and scholars from a wide variety of countries and cultures. The improvement of analytical, comprehension, discussion, and writing skills in English are a major goal. The first semester of this seminar will focus on basic theories of communication and culture.

## 教科書 /Textbooks

Printed materials and handouts to be provided by the instructor.

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

In consultation with instructor.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction
- 2 回 Instructor-led discussions on differences in culture.
- 3 回 Workshop and discussion on differences in culture.
- 4 回 Instructor-led discussions on differences in communication.
- 5 回 Workshop and discussion on differences in communication.
- 6 回 Workshop on individual materials for analysis and presentation.
- 7 回 Student presentation A.
- 8 回 Student-led discussion and presentation A.
- 9 回 Student presentations B.
- 10 回 Student-led discussion and presentation B.
- 11 回 Student presentations C.
- 12 回 Student-led discussion and presentation C.
- 13 回 Student presentations D.
- 14 回 Student-led discussion and presentation D.
- 15 回 Final discussion and paper submission.

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Participation, & Presentations 50% Successful Completion of Paper 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

Our meetings will consist of presentations followed by group discussion. While students will be given the freedom to choose materials, they are expected to follow the basic parameters of this seminar. Students can translate materials from Japanese to English but presentations must be in English. All meetings and discussions will be conducted in English. Students will be expected to submit their individual analysis of presented materials in essay format each semester. Each paper should be approximately 2000 words in English.

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords



# 異文化間コミュニケーションゼミA1【昼】

担当者名 /Instructor  
フィオナ・クリーサー / Fiona Creaser / 英米学科

履修年次 /Year 3年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 演習  
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ゼミ A I

SEM411M

## 授業の概要 /Course Description

This seminar will focus on the relationships between men and women, men and men and women and women. In this semester we will look at images of gender in the media, music industry, fashion industry, manga and animation as well as looking at gender and language. We will take a look at how different countries represent women and men and compare this with Japan. Students will be able to improve their communication skills and increase their vocabulary on a number of issues and ideas related to men and women.

## 教科書 /Textbooks

Materials will be provided each week by the instructor

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

References will be provided by the instructor

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 An introduction to the seminar
- 2回 Media representation of gender: Japan
- 3回 Media representation of gender: Europe and the United States
- 4回 Media representation of gender: Films (Kinky Boots)
- 5回 Media representations of gender: Films (The Full Monty)
- 6回 Music (Japan)
- 7回 Music (Europe and the United States)
- 8回 Gender imagery in Manga and Anime(1)
- 9回 Gender imagery in Manga and Anime(2)
- 10回 The Fashion Industry
- 11回 LGBT lives (1)
- 12回 LGBT lives (2)
- 13回 Language (1)
- 14回 Language (2)
- 15回 Presentations and Review

## 成績評価の方法 /Assessment Method

In class assessment: 50%  
Essay: 25%  
Presentation: 25%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

Please come to class fully prepared by reading the relevant materials for each session.

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 異文化間コミュニケーションゼミAII【昼】

担当者名 /Instructor ロジャー・ウィリアムソン / Rodger S. Williamson / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明晰に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ゼミAII

SEM412M

## 授業の概要 /Course Description

This seminar will enable students to examine their own interests and experiences in crossing cultures. We will explore, strengthen and deepen our skills in communication and collaboration. We will have weekly discussions based on readings by writers and scholars from a wide variety of countries and cultures. The improvement of analytical, comprehension, discussion, and writing skills in English are a major goal. A goal of the second semester will be to nurture cultural and communicative competence through fieldwork exercises with exchange students and members of the international community.

## 教科書 /Textbooks

Printed materials and handouts to be provided by the instructor.

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

In consultation with instructor.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction and return of papers.
- 2 回 Paper-related discussions: Organization
- 3 回 Paper-related discussions: Content.
- 4 回 Paper-related discussions: Research Skills.
- 5 回 Instructor-led discussion and workshop A.
- 6 回 Instructor-led discussion and workshop B.
- 7 回 Instructor-led discussion and workshop C.
- 8 回 Presentations and discussion for student A.
- 9 回 Presentations and discussion for student B.
- 10 回 Presentations and discussion for student C.
- 11 回 Presentations and discussion for student D.
- 12 回 Presentations and discussion for student E.
- 13 回 Presentations and discussion for student F.
- 14 回 Presentations and discussion for student G.
- 15 回 Final discussion and paper submission.

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Participation, & Presentations 50% Successful Completion of Paper 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

Our meetings will consist of presentations followed by group discussion. While students will be given the freedom to choose materials, they are expected to follow the basic parameters of this seminar. Students can translate materials from Japanese to English but presentations must be in English. All meetings and discussions will be conducted in English. Students will be expected to submit their individual analysis of presented materials in essay format each semester. Each paper should be approximately 2000 words in English.

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords



## 履修上の注意 /Remarks

Students are expected to come fully prepared to class and to have read the relevant materials in preparation for each session.

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 通訳ゼミA1【昼】

担当者名 /Instructor 伊藤 健一 / Kenichi ITO / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明晰に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ゼミ A I

SEM411M

## 授業の概要 /Course Description

通訳ゼミは、通訳者になるために不可欠な語学面のトレーニングはもとより、通訳者に必要な教養や知識を得ることも目標としています。通訳をするために表現力を磨くことが大切なのは言うまでもありませんが、それだけでなく、相手の論理展開について行ける訓練も必要です。その意味では、表現力だけでなく思考力を磨くこともとても大切です。

また、通訳をするためには、そこで語られていることを理解できていなければなりません。野球のルールを知らない人が、野球の実況中継を相手に分かるように通訳できるでしょうか。

こうしたことを踏まえ、このゼミでは実践と理論をともに柱に据え、皆さんとともに高度な英語力を獲得し、同時に英語を通して幅広い知識を習得していけるゼミにしていきたいと思っています。

この「通訳ゼミA-1」では、リスニング力を磨くことを第一の課題として取り組み、あわせて総合的な英語力のブラッシュアップを図ります。もちろん通訳の練習もしっかり行ないますが、まずはその基礎となる英語力をブラッシュアップすることから始めたいと思います。授業計画には記されていませんが、日本語を英語に通訳する練習も時間を少しとって行ないたいと考えています。

【この授業の到達目標として、以下の内容を考えています。】

①物事をグローバルな視野から多面的に考え、英語を通して得られる情報や知識を駆使し、現実社会の諸問題を学際的、複眼的に思考し、解決策を探求することができる。②専門的知識を応用しながら、日本語のみならず英語で自分の意見を明晰に表現することができる。③広い視野を有する国際人として、市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。④卒業後も、英語や異文化への高い関心と、生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。⑤組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、かつ自らの見解を積極的に提案し、コミュニケーション力を発揮し共同の目標に向けた活動を推進することができる。

## 教科書 /Textbooks

「CNN Student News 3」（朝日出版社）

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて指示します。

# 通訳ゼミAI 【昼】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第01回 ゼミ・オリエンテーション
- 第02回 Unit 1
- 第03回 Unit 2
- 第04回 Unit 3
- 第05回 Unit 4
- 第06回 独自教材による演習1
- 第07回 Unit 5
- 第08回 Unit 6
- 第09回 Unit 7
- 第10回 Unit 8
- 第11回 独自教材による演習2
- 第12回 Unit 9
- 第13回 Unit 10
- 第14回 Unit 11
- 第15回 通訳実践演習：1学期のまとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

演習科目ですから、出席は当然です。その上で授業への積極的参加の度合いに実技を加味して総合的に評価します。  
積極的参加の度合い50%+実技・プレゼンテーション50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

言うまでもないことですが、ゼミに出席するだけで実力がつくわけではありません。平素から英語に触れる努力をし、たとえばテレビを見ながら一人通訳練習をする、というような心がけが大切だと思います。  
また、よく知られているように、You Tubeの中に、優れた英語の音声素材がたくさん入っています。こうしたものを使って、自宅で練習していただくのも良いと思います。時にはこうしたものを課題として指定することも考えたいと思っています。また、毎時間、次週までに準備して欲しいことを確認しますので、予習も怠りのないようお願いします。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

いよいよゼミが始まります。楽しいゼミになるよう努力します。皆さんも頑張ってください。

## キーワード /Keywords



# 通訳ゼミAII【昼】

担当者名 /Instructor 伊藤 健一 / Kenichi ITO / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明晰に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ゼミAII

SEM412M

## 授業の概要 /Course Description

通訳ゼミは、通訳者になるために不可欠な語学面のトレーニングはもとより、通訳者に必要な教養や知識を得ることも目標としています。通訳をするために表現力を磨くことが大切なのは言うまでもありませんが、それだけでなく、相手の論理展開について行ける訓練も必要です。その意味では、表現力だけでなく思考力を磨くこともとても大切です。

また、通訳をするためには、そこで語られていることを理解できていなければなりません。野球のルールを知らない人が、野球の実況中継を相手に分かるように通訳できるでしょうか。

こうしたことを踏まえ、このゼミでは実践と理論をともに柱に据え、皆さんとともに高度な英語力を獲得し、同時に英語を通して幅広い知識を習得していけるゼミにしていきたいと思っています。

この「通訳ゼミA-2」でも、引き続きリスニング力を磨くことを第一の課題として取り組み、あわせて総合的な英語力のブラッシュアップを図ります。そのうえで背景知識を増やしていくことを目標に据えて取り組んでいきます。そのためにニュースを教材として用、少しずつ背景知識を増やしていただけるよう取り組みたいと思います。

【この授業の到達目標として、以下の内容を考えています。】

①物事をグローバルな視野から多面的に考え、英語を通して得られる情報や知識を駆使し、現実社会の諸問題を学際的、複眼的に思考し、解決策を探求することができる。②専門的知識を応用しながら、日本語のみならず英語で自分の意見を明晰に表現することができる。③広い視野を有する国際人として、市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。④卒業後も、英語や異文化への高い関心と、生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。⑤組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、かつ自らの見解を積極的に提案し、コミュニケーション力を発揮し共同の目標に向けた活動を推進することができる。

## 教科書 /Textbooks

「CNN ビデオで見る世界のニュース(16)」 (朝日出版社)

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて指示します。

# 通訳ゼミAII【昼】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第01回 ゼミ・オリエンテーション
- 第02回 Unit 1に基づくトレーニング
- 第03回 Unit 2に基づくトレーニング
- 第04回 Unit 3に基づくトレーニング
- 第05回 Unit 4に基づくトレーニング
- 第06回 通訳訓練法の実践と復習・発展練習(1)
- 第07回 Unit 5に基づくトレーニング
- 第08回 Unit 6に基づくトレーニング
- 第09回 Unit 7に基づくトレーニング
- 第10回 Unit 8に基づくトレーニング
- 第11回 通訳訓練法の実践と復習・発展練習(2)
- 第12回 Unit 9に基づくトレーニング
- 第13回 Unit 10に基づくトレーニング
- 第14回 通訳実践演習：1学期のまとめ
- 第15回 皆さんのトレーニングの成果実演発表

## 成績評価の方法 /Assessment Method

演習科目ですから、出席は当然です。その上で授業への積極的参加の度合いに実技を加味して総合的に評価します。  
積極的参加の度合い50%+実技・プレゼンテーション50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

言うまでもないことですが、ゼミに出席するだけで実力がつくわけではありません。平素から英語に触れる努力をし、たとえばテレビを見ながら一人通訳練習をする、というような心がけが大切だと思います。  
また、よく知られているように、You Tubeの中に、優れた英語の音声素材がたくさん入っています。こうしたものを使って、自宅で練習していただくのも良いと思います。時にはこうしたものを課題として指定することも考えたいと思っています。また、毎時間、次週までに準備して欲しいことを確認しますので、予習も怠りのないようお願いします。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

いよいよゼミが始まります。楽しいゼミになるよう努力します。皆さんも頑張ってください。

## キーワード /Keywords

# 翻訳ゼミ AI 【昼】

担当者名 鮫島 千明 / Chiaki Sameshima / 英米学科  
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ゼミ AI

SEM411M

## 授業の概要 /Course Description

当ゼミでは、英語から日本語への翻訳を行う。この授業の目的は、翻訳を通して英語力の向上を目指し、英文テキストが書かれた社会背景の十分な理解を得ることにある。翻訳対象となる作品は、英語で書かれた文学作品・映画の字幕等である。  
ゼミの進め方は、発表討論形式とする。始めに翻訳対象を決め、こちらで決めたペースで翻訳を進める。初日に決定したスケジュールにそって、それぞれ進捗状況、訳出難解箇所、訳註必要箇所を発表し、ゼミ生全員で検討する。  
担当の学生は発表の2日前までに資料を用意する。事前に他の学生に読んでもらいたい資料がある場合は、前の週までに用意・指示しておく。

## 教科書 /Textbooks

特に定めない。適宜プリントを配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨン
- 第2回 翻訳 基礎 1
- 第3回 翻訳 基礎 2
- 第4回 翻訳 基礎 3
- 第5回 プレゼンテーションとディスカッション 1
- 第6回 翻訳 展開 1
- 第7回 翻訳 展開 2
- 第8回 翻訳 展開 3
- 第9回 プレゼンテーションとディスカッション 2
- 第10回 翻訳 応用 1
- 第11回 翻訳 応用 2
- 第12回 翻訳 応用 3
- 第13回 プレゼンテーションとディスカッション 3
- 第14回 プレゼンテーションとディスカッション 4
- 第15回 翻訳仕上げ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

- 課題 60%
- 発表 30%
- ディスカッションへの積極的参加 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 翻訳ゼミ AI 【昼】

担当者名 /Instructor  ダニエル・ストラック / Daniel C. Strack / 英米学科

履修年次 /Year  3年次  単位 /Credits  2単位  学期 /Semester  1学期  授業形態 /Class Format  演習  クラス /Class  3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明晰に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ゼミ AI

SEM411M

## 授業の概要 /Course Description

The aim of this seminar will be to give students practical experience in translating an entire literary text from Japanese to English and give students insights into the process of translation and the challenges faced by professional translators. Through this seminar, students will develop their critical thinking, communication and presentation skills, as well as come to understand the ways in which a responsible translator conducts translation for the benefit of society. To be determined after consultation with participants.

## 教科書 /Textbooks

プリントを配布します。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

必要なものは授業中に提示します

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 Seminar introduction
- 第 2 回 Translation Check of Selected Text (pp. 1-2)
- 第3回 Translation Check of Selected Text (pp. 3-4)
- 第4回 Translation Check of Selected Text (pp. 5-6)
- 第5回 Translation Check of Selected Text (pp. 7-8)
- 第6回 Translation Check of Selected Text (pp. 9-10)
- 第7回 Translation Check of Selected Text (pp. 11-12)
- 第8回 Translation Check of Selected Text (pp. 13-14)
- 第9回 Translation Check of Selected Text (pp. 15-16)
- 第 10回 Translation Check of Selected Text (pp. 17-18)
- 第 11回 Translation Check of Selected Text (pp. 19-20)
- 第 12回 Translation Check of Selected Text (pp. 21-22)
- 第 13回 Translation Check of Selected Text (pp. 23-24)
- 第 14回 Translation Check of Selected Text (pp. 25-26)
- 第 15回 Semester wrap-up

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加：40% 小テスト：0% 期末試験：0% 課題：40% 態度：20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

Students will be expected to translate extended passages from the chosen text between 3 and 6 times a semester depending on the number of participants. Students will be expected to bring copies of their translation for each participant whenever they present. Approximately 2 pages of text will be translated in each class. After each class, students will be expected to make corrections to their translated section and send them to the instructor by e-mail for compilation into the master document for further editing.

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 翻訳ゼミAII【昼】

担当者名 /Instructor 鮫島 千明 / Chiaki Sameshima / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ゼミAII

SEM412M

## 授業の概要 /Course Description

当ゼミでは、英語から日本語への翻訳を行う。この授業の目的は、翻訳を通して英語力の向上を目指し、英文テキストが書かれた社会背景の十分な理解を得ることにある。翻訳対象となる作品は、英語で書かれた文学作品・映画の字幕等である。

ゼミの進め方は、発表討論形式とする。始めに翻訳対象を決め、こちらで決めたペースで翻訳を進める。学期初日に決定したスケジュールにそって、それぞれ進捗状況、訳出難解箇所、訳註必要箇所を発表し、ゼミ生全員で検討する。

担当の学生は発表の2日前までに資料を用意する。事前に他の学生に読んでもらいたい資料がある場合は、前の週までに用意・指示しておく。

## 教科書 /Textbooks

特に定めない。適宜プリントを配布する。

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨン
- 第2回 翻訳 基礎1
- 第3回 翻訳 基礎2
- 第4回 翻訳 基礎3
- 第5回 プレゼンテーションとディスカッション 1
- 第6回 翻訳 展開1
- 第7回 翻訳 展開2
- 第8回 翻訳 展開3
- 第9回 プレゼンテーションとディスカッション 2
- 第10回 翻訳 応用1
- 第11回 翻訳 応用2
- 第12回 翻訳 応用3
- 第13回 プレゼンテーションとディスカッション 3
- 第14回 プレゼンテーションとディスカッション 4
- 第15回 翻訳仕上げ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

- 課題 60%
- 発表 30%
- ディスカッションへの積極的参加 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords



# 翻訳ゼミAII【昼】

担当者名 /Instructor  ダニエル・ストラック / Daniel C. Strack / 英米学科

履修年次 /Year  3年次  単位 /Credits  2単位  学期 /Semester  2学期  授業形態 /Class Format  演習  クラス /Class  3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明晰に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ゼミAII

SEM412M

## 授業の概要 /Course Description

The aim of this seminar will be to give students practical experience in translating an entire literary text from Japanese to English and give students insights into the process of translation and the challenges faced by professional translators. Through this seminar, students will develop their critical thinking, communication and presentation skills, as well as come to understand the ways in which a responsible translator conducts translation for the benefit of society. To be determined after consultation with participants.

## 教科書 /Textbooks

プリントを配布します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要なものは授業中に提示します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Seminar introduction
- 第2回 Translation Check of Selected Text (pp. 1-2)
- 第3回 Translation Check of Selected Text (pp. 3-4)
- 第4回 Translation Check of Selected Text (pp. 5-6)
- 第5回 Translation Check of Selected Text (pp. 7-8)
- 第6回 Translation Check of Selected Text (pp. 9-10)
- 第7回 Translation Check of Selected Text (pp. 11-12)
- 第8回 Translation Check of Selected Text (pp. 13-14)
- 第9回 Translation Check of Selected Text (pp. 15-16)
- 第10回 Translation Check of Selected Text (pp. 17-18)
- 第11回 Translation Check of Selected Text (pp. 19-20)
- 第12回 Translation Check of Selected Text (pp. 21-22)
- 第13回 Translation Check of Selected Text (pp. 23-24)
- 第14回 Translation Check of Selected Text (pp. 25-26)
- 第15回 Semester wrap-up

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加：40% 小テスト：0% 期末試験：0% 課題：40% 態度：20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

Students will be expected to translate extended passages from the chosen text between 3 and 6 times a semester depending on the number of participants. Students will be expected to bring copies of their translation for each participant whenever they present. Approximately 2 pages of text will be translated in each class. After each class, students will be expected to make corrections to their translated section and send them to the instructor by e-mail for compilation into the master document for further editing.

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# ビジネス英語ゼミAⅠ【昼】

担当者名 /Instructor 松田 智 / Matsuda, Satoshi / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ゼミAⅠ

SEM411M

## 授業の概要 /Course Description

The objective of the course are:(1) to help you develop an understanding of basic economic concepts that underline the business management, and (2) to help you develop your economic vocabularies in English.

MBAコースを学ぶための基礎作りをする期間です。

## 教科書 /Textbooks

アメリカの高校生が読んでいる「経済の教科書」アспект  
Learning MBA Basics in English:Masatsugu Fuji, Richard Sheehan, NHK publishing  
(英語で学ぶMBAベーシックス、NHK出版)

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

「マーケティング戦略」沼上 幹 有斐閣アルマ  
「入門経済学」マンキュー  
「地球市場時代の企業戦略」  
「入門企業財務」  
「簿記ABC」  
「International Business」 Shenkar sage

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- I. Fundamental Economics
- 1 回 scarcity, incentive
  - 2 回 economic choice, trade and money
  - 3 回 labor, tax
  - 4 回 entrepreneur
  - 5 回 productivity
  - 6 回 market price, demand curve
  - 7 回 supply curve
  - 8 回 financial intermediaries
  - 9 回 the rate of interests
  - 10 回 personal finance
  - 11 回 international trade

## II. Marketing

- 12 回 What is Marketing?
- 13 回 Marketing Analysis- 3C's
- 14 回 Segmentation, Targeting, Positioning
- 15 回 Marketing Mix-The 4P's

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Class participation...	20%	Mid-quizzes...	40%	Final test...	40%
------------------------	-----	----------------	-----	---------------	-----

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

経営・経済関係の基礎を学んでいれば効果的な学習ができると思われる。  
最近のビジネス動向を新聞やニュースで注目し、関心を持ってください。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

グローバルに活躍する多国籍企業を理解するためのMBAコースです。この方面の就職を検討されている学生には役に立つと思われる。尚、他の企業、経営関係の科目を受講していれば、この講義をさらに深く理解できると思います。

## キーワード /Keywords

MBA, marketing, finance, strategy, global, MNCs, case study.

# ビジネス英語ゼミAII【昼】

担当者名 松田 智 / Matsuda, Satoshi / 英米学科  
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明晰に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ゼミAII

SEM412M

## 授業の概要 /Course Description

The objectives of the course are: (1) to help you develop an understanding of basic concepts that underline the business management, and (2) to help you develop your business vocabularies in English. Also, you can learn the advanced tools in spread sheet(PC) to solve business problems.

MBA テキストを使い、英語と日本語の両方で学んでいき、国際ビジネスについて理解を深めていく。

この時期はaccounting について理解を深めることをねらいとする。

## 教科書 /Textbooks

Learning MBA Basics in English:Masatsugu Fuji, Richard Sheehan, NHK publishing  
(英語で学ぶMBAベーシックス、NHK出版)

プリントを配布する。

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

「企業財務-理論と実践」津森信也 東洋経済  
「証券アナリストのための企業分析」日本証券アナリスト協会  
ビジネス・セミナー「証券分析入門」井出正介 日本経済新聞社  
「統計・確率の意味がわかる」ベレ出版  
「決算書を読みこなして経営分析ができる本」高下淳子 日本実業社  
「実践 企業会計」岩田康成 日本経済新聞社

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- I Accounting and Finance  
 session1: The Income Statement 【overview】  
 session2: The Income Statement 【casestudy】  
 session3: The Balance Sheet 【overview】  
 session4: The Balance Sheet 【casestudy】  
 session5: The Cash Flow Statement 【overview】  
 session6: The Cash Flow Statement 【casestudy】  
 session7: The Time Value of Money 【overview】  
 session8: The Time Value of Money 【casestudy】  
 session9: EVA
- II Management Science  
 session10: Statistics review 【standard divation, variance】  
 session11: Statistics review 【hypothesis test】  
 session12: Managing data: regression, advanced listing  
 session13: Solver analysis: optimization  
 session 14: PC training  
 session15: presentation on financial analysis of companies

## 成績評価の方法 /Assessment Method

participation... 20%    class quizzes ...30%    presentation...50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

エクセル関数、会計、マーケティング、経営学、統計学などの基礎を日本語で学んでおくことが望ましい。

日本語で会計・簿記関係の本を読んでおくことを勧める。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

会計を学ばずに企業分析はできませんので、ここは会計の理解に専念すること。

## キーワード /Keywords

income statement, balance sheet, present value, future value, EVA, NPV

# メディア英語ゼミAI【昼】

担当者名 /Instructor 吉川 哲郎 / KIKKAWA TETSUROU / 英米学科

履修年次 /Year 3年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 演習  
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明晰に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ゼミ A I

SEM411M

## 授業の概要 /Course Description

この授業の主な到達目標は、以下の内容である。

①情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。②日本語のみならず英語で自分の意見を明晰に表現することができる。③市民としてふさわしい良識と倫理観を持ち、主体的に行動することができる。④英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。⑤組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

アメリカのミュージカル演劇研究を行う。資料の調査、分析、発表、議論が主体になる。

## 教科書 /Textbooks

なし。プレゼンが主になる。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

特になし。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 導入

2回 『オペラ座の怪人』

3回 『ヘア・スプレー』

4回 『ミス・サイゴン』

5回 『エニシング・ゴーズ』

6回 『アニー』

7回 『マイ・フェア・レディ』

8回 『ウェスト・サイド・ストーリー』

9回 『マンマ・ミーア』

10回 『クレージー・フォー・ユー』

11回 『キャッツ』

12回 『エヴィータ』

13回 『ピーター・パン』

14回 『ウィキッド』

15回 結び

## 成績評価の方法 /Assessment Method

プレゼン... 50%

エッセー... 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

プレゼンの時は、万全の準備をすること  
特になし

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

特になし

## キーワード /Keywords

【ミュージカル】 【演劇】



# メディア英語ゼミAI【昼】

担当者名 アダム・ヘイルズ / Adam Hailes / 英米学科  
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明晰に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ゼミ A I

SEM411M

## 授業の概要 /Course Description

British Studies: Media and Culture  
メディア英語ゼミAI offers students the opportunity to analyse the media of Britain and assess their relationship with the nation's social, political and cultural activities. The course will embrace analyses of media and culture from the very beginnings of Britain through to the present day. Students will be required to lead English-language discussions and make presentations on topics to be chosen by themselves.

## 教科書 /Textbooks

Handouts/research materials will be provided by the instructor.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

A reading list will be provided at the beginning of the course.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2回 Identifying a Research Topic
- 3回 The Uses of Theory
- 4回 Example Presentation: Performing Hamlet
- 5回 Student-led class (presentation and discussion) + Analysing Film: The Opening Sequence
- 6回 Student-led class (presentation and discussion) + Analysing Film: Semiology
- 7回 Student-led class (presentation and discussion) + Analysing Film: Presenting Gender
- 8回 Student-led class (presentation and discussion) + Analysing Theatre: The Empty Space
- 9回 Student-led class (presentation and discussion) + Analysing Theatre: Introducing Pleasure
- 10回 Student-led class (presentation and discussion) + Analysing Theatre: Metatheatre
- 11回 Student-led class (presentation and discussion) + Essay Writing Skills: Logical Structuring
- 12回 Student-led class (presentation and discussion) + Essay Writing Skills: Referencing
- 13回 Student-led class (presentation and discussion) + Essay Writing Skills: Objectivity
- 14回 Student-led class (presentation and discussion) + Academic Presentation Skills
- 15回 Review and Final Discussion

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Successful completion of 1500-word essay ... 100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

The weekly preparation routine will be outlined in the first class.

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# メディア英語ゼミAll 【昼】

担当者名 /Instructor 吉川 哲郎 / KIKKAWA TETSUROU / 英米学科

履修年次 /Year 3年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 演習  
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明晰に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ゼミ A II

SEM412M

## 授業の概要 /Course Description

この授業の主な到達目標は、以下の内容である。

①情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。②日本語のみならず英語で自分の意見を明晰に表現することができる。③市民としてふさわしい良識と倫理観を持ち、主体的に行動することができる。④英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。⑤組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

アメリカのミュージカル演劇研究を行う。資料の収集、分析、発表、議論が主体になる。

## 教科書 /Textbooks

プレゼンが主になる。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

特になし。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入
- 2回 『美女と野獣』
- 3回 『ドリームガールズ』
- 4回 『アイダ』
- 5回 『ショウ・ポート』
- 6回 『シカゴ』
- 7回 『レ・ミゼラブル』
- 8回 『プロデューサーズ』
- 9回 『ライオン・キング』
- 10回 『キャバレー』
- 11回 『ファンタスティックス』
- 12回 『メリー・ポピンズ』
- 13回 『コーラス・ライン』
- 14回 『春の目覚め』
- 15回 結び

# メディア英語ゼミAll 【昼】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

プレゼン... 50%      エッセー... 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

プレゼンの時は、万全の準備をすること。  
特になし。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

特になし。

## キーワード /Keywords

【ミュージカル】    【演劇】

# メディア英語ゼミAII 【昼】

担当者名 アダム・ヘイルズ / Adam Hailes / 英米学科  
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明晰に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ゼミ A II

SEM412M

## 授業の概要 /Course Description

British Studies: Media and Culture

メディア英語ゼミAII follows on from メディア英語ゼミAI. The course offers students the opportunity to analyse the media of Britain and assess their relationship with the nation's social, political and cultural activities. The course will embrace analyses of media and culture from the very beginnings of Britain through to the present day. Students will be required to lead English-language discussions and make presentations on topics to be chosen by themselves.

## 教科書 /Textbooks

Handouts/research materials will be provided by the instructor.

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

A reading list will be provided at the beginning of the course.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2回 Developing a Research Topic
- 3回 Assessing The Use of Theory: New Historicism
- 4回 Example Presentation: Pleasure and the Shakespearean Playhouse
- 5回 Student-led class (presentation and discussion) + Analysing Advertisements: Type and Theory
- 6回 Student-led class (presentation and discussion) + Analysing Advertisements: Gender Depiction
- 7回 Student-led class (presentation and discussion) + Analysing Advertisements: The Hidden Message
- 8回 Student-led class (presentation and discussion) + Analysing Theatre: The Joy of Tragedy
- 9回 Student-led class (presentation and discussion) + Analysing Theatre: The Joy of Comedy
- 10回 Student-led class (presentation and discussion) + Analysing Theatre: The Theatrum Mundi Topos
- 11回 Student-led class (presentation and discussion) + Essay Writing Skills: Using a Thesaurus
- 12回 Student-led class (presentation and discussion) + Essay Writing Skills: Avoiding Plagiarism
- 13回 Student-led class (presentation and discussion) + Essay Writing Skills: Finding a Voice
- 14回 Student-led class (presentation and discussion) + Academic Presentation Skills: Using Powerpoint Effectively
- 15回 Review and Final Discussion

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Successful completion of 1500-word essay ... 100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

The weekly preparation routine will be outlined in the first class.

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# アメリカ研究ゼミAⅠ【昼】

担当者名 /Instructor アーノルド・ウェイン / ARNOLD Wayne E. / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 演習 クラス 3年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力		
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明晰に表現することができる。
	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ゼミAⅠ

SEM411M

## 授業の概要 /Course Description

We will explore New York City as a cultural epicenter. Materials used will integrate three specific approaches to examining the modern city, specifically: consumerism, urban environments, and identity. The course will be comprised of readings from New York Stories: The Best of the City Section of the New York Times (2005), as well as TED Talks and recent articles on cultural and social transformations taking place in New York City. Additionally, students will examine various cultural differences between New York City and major cities in Japan. The end goal of this class is to help broaden your world perspective and understanding of cosmopolitan life by strengthening your ability to discuss various social topics. In doing this, you will learn strategies for listening to others' opinions in order to better formulate your own argument.

## 教科書 /Textbooks

New York Stories: The Best of the City Section of the New York Times; by Constance Rosenblum (Editor); ISBN-13: 978-0814775721

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

N/A

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Class 1: Introduction and getting to know your classmates  
 Class 2: New York City: Reading and writings;  
 Class 3: New York City: Reading and Listening;  
 Class 4: New York City: Homelessness;  
 Class 5: New York City: Sports;  
 Class 6: New York City: Claustrophobia;  
 Class 7: New York City: Shopping;  
 Class 8: New York City: Starbucks;  
 Class 9: New York City: Survival;  
 Class 10: New York City: Weather;  
 Class 12: New York City: Security;  
 Class 13: New York City: Art;  
 Class 14: New York City: Subway;  
 Class 15: Final paper presentations and final discussion.

## 成績評価の方法 /Assessment Method

One research essay: 30%  
 4 Poster presentations: 20%  
 Reading summaries: 20%  
 In-class participation: 20%  
 Homework assignments: 10%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

I will be taking roll at the beginning of every class meeting. Consistent attendance and participation will be expected. If you miss class, you will not receive any participation points for that day. Anyone who has excessive absences will receive no participation points for the entire semester.

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

The course objectives will include some of the following elements:

- Note-taking.
- Absorb information from audio and be able to listen for key vocabulary.
- Participate in class discussions by asking and responding to questions.
- Give effective oral presentations.
- Express their own ideas about differing value systems around the world and how these differ from Japanese society.
- Increase and diversify vocabulary usage.
- Read a literary work for a thematic meaning.
- Read secondary sources and material and be able to incorporate the themes into research essays.
- Avoid plagiarism and use MLA documentation outlines.

## キーワード /Keywords

New York City



# アメリカ研究ゼミAII【昼】

担当者名 /Instructor アーノルド・ウェイン / ARNOLD Wayne E. / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 / 3年  
 単位 /Credits 2単位  
 学期 /Semester 2学期  
 授業形態 /Class Format 演習  
 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力		
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明晰に表現することができる。
	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ゼミAII

SEM412M

## 授業の概要 /Course Description

This section of the seminar will specifically look at New York City Broadway plays and their cultural impact on the city and society. New York City: A Study in Cosmopolitan Culture will explore New York City as a cultural epicenter. Materials used will integrate three specific approaches to examining the modern city, specifically: consumerism, urban environments and identity. Beginning with the First World War, each class period will center on a decade in an attempt to understand the changes taking place—from social to literary to political. The previous 100 years have been witness to drastic developments in urban living and we will investigate these changes in an effort to realize how they influence the cosmopolitan environment today. The end goal of this class is to help broaden your world perspective and understanding of cosmopolitan life by strengthening your ability to analyze various social topics.

## 教科書 /Textbooks

N/A

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

N/A

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Class 1: Introduction to topic and course expectations
- Class 2: New York City plays: Play 1 viewing
- Class 3: New York City plays: Play 1 reading
- Class 4: New York City plays: Play 1 discussion
- Class 5: New York City plays: Play 1 analysis
- Class 6: New York City plays: Play 2 viewing;
- Class 7: New York City plays: Play 2 reading
- Class 8: New York City plays: Play 2 discussion
- Class 9: New York City plays: Play 2 analysis
- Class 10: New York City plays: Play 3 viewing;
- Class 12: New York City plays: Play 3 viewing;
- Class 13: New York City plays: Play 3 discussion
- Class 14: New York City plays: Play 3 analysis
- Class 15: Final paper presentations and final discussion.

## 成績評価の方法 /Assessment Method

One research essay: 30%  
4 Poster presentations: 20%  
Reading summaries: 20%  
In-class participation: 20%  
Homework assignments: 10%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

I will be taking roll at the beginning of every class meeting. Consistent attendance and participation will be expected. If you miss class, you will not receive any participation points for that day. Anyone who has excessive absences will receive no participation points for the entire semester.

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

The course objectives will include some of the following elements:

- Note-taking.
- Absorb information from audio and be able to listen for key vocabulary.
- Participate in class discussions by asking and responding to questions.
- Give effective oral presentations.
- Express their own ideas about differing value systems around the world and how these differ from Japanese society.
- Increase and diversify vocabulary usage.
- Read a literary work for a thematic meaning.
- Read secondary sources and material and be able to incorporate the themes into research essays.
- Avoid plagiarism and use MLA documentation outlines.

## キーワード /Keywords

Broadway; New York City

# イギリス研究ゼミAI【昼】

担当者名 /Instructor 木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ゼミ A I

SEM411M

## 授業の概要 /Course Description

当ゼミでは「文字で書かれたイギリス文化」を研究対象とする。つまりこのゼミで扱うイギリス研究とは文字で書かれたイギリス文化というくらの意味になる。というわけで、研究対象には当然ミルトン、ワーズワース、ディケンズ、イェイツ、ロレンスなど本格的なイギリス文学の作家も入るが、その他マザーグース（イギリス伝承童謡）、アイルランド民話、『ピーター・ラビット』や『くまのプーさん』のような児童文学も入る。また、イギリスではなくてもアイルランド、オーストラリアなどのアメリカを除く旧イギリス植民地も対象となることもある。ゼミは木原研究室(E1111)で行う。ゼミの進め方はすべて発表討論形式。すべて英語で行う。まず、自分の研究テーマを決め、各自インターネットの文献検索を利用したり図書館に足を運んだりして資料を集め研究を進める。およそ1ヶ月に一回くらの割合で自分の研究成果を発表する。前もって資料を用意し、ゼミの他のメンバーに読んでもらう。当日発表に続いてディスカッションをする。

## 教科書 /Textbooks

特に定めない。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 プレゼンテーションとディスカッション ( 導入 1 )
- 第2回 プレゼンテーションとディスカッション ( 導入 2 )
- 第3回 プレゼンテーションとディスカッション ( 基礎 1 )
- 第4回 プレゼンテーションとディスカッション ( 基礎 2 )
- 第5回 プレゼンテーションとディスカッション ( 基礎 3 )
- 第6回 プレゼンテーションとディスカッション ( 基礎 4 )
- 第7回 プレゼンテーションとディスカッション ( 展開 1 )
- 第8回 プレゼンテーションとディスカッション ( 展開 2 )
- 第9回 プレゼンテーションとディスカッション ( 展開 3 )
- 第10回 プレゼンテーションとディスカッション ( 展開 4 )
- 第11回 プレゼンテーションとディスカッション ( 発展 1 )
- 第12回 プレゼンテーションとディスカッション ( 発展 2 )
- 第13回 プレゼンテーションとディスカッション ( 発展 3 )
- 第14回 プレゼンテーションとディスカッション ( 発展 4 )
- 第15回 プレゼンテーションとディスカッション ( まとめ )

## 成績評価の方法 /Assessment Method

レポート 30%、発表 40%、ディスカッションへの参加 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

担当の学生は、他の学生に読んできて欲しい文献や資料を遅くとも前の週までに指示する。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# イギリス研究ゼミAII 【昼】

担当者名 /Instructor 木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ゼミ A II

SEM412M

## 授業の概要 /Course Description

当ゼミでは「文字で書かれたイギリス文化」を研究対象とする。つまりこのゼミで扱うイギリス研究とは文字で書かれたイギリス文化というくらの意味になる。というわけで、研究対象には当然ミルトン、ワーズワース、ディケンズ、イェイツ、ロレンスなど本格的なイギリス文学の作家も入るが、その他マザーグース（イギリス伝承童話）、アイルランド民話、『ピーター・ラビット』や『くまのプーさん』のような児童文学も入る。また、イギリスではなくてもアイルランド、オーストラリアなどのアメリカを除く旧イギリス植民地も対象となることもある。ゼミは木原研究室(E1111)で行う。ゼミの進め方はすべて発表討論形式。すべて英語で行う。まず、自分の研究テーマを決め、各自インターネットの文献検索を利用したり図書館に足を運んだりして資料を集め研究を進める。およそ1ヶ月に一回くらの割合で自分の研究成果を発表する。前もって資料を用意し、ゼミの他のメンバーに読んでもらう。当日発表に続いてディスカッションをする。

## 教科書 /Textbooks

特に定めない。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 プレゼンテーションとディスカッション ( 導入 1 )
- 第2回 プレゼンテーションとディスカッション ( 基礎 1 )
- 第3回 プレゼンテーションとディスカッション ( 基礎 2 )
- 第4回 プレゼンテーションとディスカッション ( 基礎 3 )
- 第5回 プレゼンテーションとディスカッション ( 基礎 4 )
- 第6回 プレゼンテーションとディスカッション ( 発展 1 )
- 第7回 プレゼンテーションとディスカッション ( 発展 2 )
- 第8回 プレゼンテーションとディスカッション ( 発展 3 )
- 第9回 プレゼンテーションとディスカッション ( 発展 4 )
- 第10回 プレゼンテーションとディスカッション ( 応用 1 )
- 第11回 プレゼンテーションとディスカッション ( 応用 2 )
- 第12回 プレゼンテーションとディスカッション ( 応用 3 )
- 第13回 プレゼンテーションとディスカッション ( 応用 4 )
- 第14回 プレゼンテーションとディスカッション ( まとめ 1 )
- 第15回 プレゼンテーションとディスカッション ( まとめ 2 )

## 成績評価の方法 /Assessment Method

レポート30%、発表40%、ディスカッションへの参加30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

担当の学生は、他の学生に読んできて欲しい文献や資料を遅くとも前の週までに指示する。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 英語学ゼミAⅠ【昼】

担当者名 北峯 裕士 / 英米学科  
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明晰に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ゼミAⅠ

SEM411M

## 授業の概要 /Course Description

生成文法の基礎知識の習得。

## 教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

『ミニマリストプログラム序説』 大修館書店

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回ガイダンス
- 2回理論的背景
- 3回語彙範疇
- 4回名詞句の構造
- 5回形容詞句の構造
- 6回動詞句の構造
- 7回前置詞句の構造
- 8回機能範疇
- 9回DP仮説
- 10回節の構造
- 11回名詞句と節の平行性
- 12回虚辞①(it)
- 13回虚辞②(there)
- 14回数量詞
- 15回まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

発表内容 100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

無断欠席は、決して容認しない。学生が主体となる授業です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords



# 英語学ゼミAII【昼】

担当者名 北峯 裕士 / 英米学科  
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明晰に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ゼミAII

SEM412M

## 授業の概要 /Course Description

1学期に引き続き、生成文法の基礎知識の習得。

## 教科書 /Textbooks

Radford(2004) Cambridge UP.

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

『ミニマリストプログラム序説』 大修館書店  
また、必要なときに、別途指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回ガイダンス
- 2回単語① ( 語彙範疇 )
- 3回単語② ( 機能範疇 )
- 4回統語構造① ( 名詞句等の句構造 )
- 5回統語構造② ( 節の構造 )
- 6回統語構造③ ( 定形節と非定形節 )
- 7回空構成素① ( 移動により生じた空の構成素 )
- 8回空構成素② ( 非定形節に生じる空の構成素 )
- 9回空構成素③ ( イタリア語等の定形節に生じる空の構成素 )
- 10回主要部移動① ( 初期エリザベス朝の英語におけるVからTへの移動 )
- 11回主要部移動② ( 現代英語における一般動詞のVからTへの移動の不在およびPFにおけるafix-hopping )
- 12回主要部移動③ ( TからCへの移動 )
- 13回Wh移動① ( 単純なWh疑問文 )
- 14回Wh移動② ( Pied-piping )
- 15回Wh移動③ ( Split spell-out )

## 成績評価の方法 /Assessment Method

発表内容 100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

無断欠席は、決して容認しない。学生が主体となる授業です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 英語教育ゼミ A I 【昼】

担当者名 /Instructor クレイグ・ランバート / Craig P. Lambert / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 /3rd Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 1学期 /1st Semester 授業形態 /Class Format 演習 /Seminar クラス /Class 3年 /3rd Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明晰に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ゼミ A I

SEM411M

## 授業の概要 /Course Description

This two-year course will provide learners with a foundation in second language language teaching and a practical basis for improving communication skills in Japanese schools. Learners will gain an understanding of the range of the second language learning tasks currently available and how they relate to language development.

## 教科書 /Textbooks

Materials to be arranged by instructor.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

References to be arranged by instructor.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Knowledge of a language
- 2 回 Description and instruction tasks / Short presentations: 'a good English lesson'
- 3 回 Narrative and opinion tasks / Short presentations: 'my description tasks'
- 4 回 The development of grammar / Short presentations: 'my instruction tasks'
- 5 回 Computational measures of language performance / Short presentations 'my narrative tasks'
- 6 回 The teacher's role in the classroom / Project work: task performance and analysis
- 7 回 Lesson planning / Project work: task performance and analysis
- 8 回 Communicative focus on form / Project work: task performance and analysis
- 9 回 Approaches to task sequencing / Project work: task performance and analysis
- 1 0 回 Introducing task work in Japanese schools / Project work: task performance and analysis
- 1 1 回 Peer-teaching using own materials (1)
- 1 2 回 Peer-teaching using own materials (2): First draft of projects reports due
- 1 3 回 Peer-teaching using own materials (3)
- 1 4 回 Peer-teaching using own materials (4)
- 1 5 回 Final project reports

## 成績評価の方法 /Assessment Method

30% Short presentations  
40% Project work final reports  
30% Peer-teaching

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

All lectures, materials, presentations and discussions will be English.  
Learners should have a strong interest in pursuing a career teaching English in the future.

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 英語教育ゼミ A1 【昼】

担当者名 /Instructor 雪丸 尚美 / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明晰に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ゼミ A I

SEM411M

## 授業の概要 /Course Description

本ゼミでは、言語学と言語教育の有機的な関係に着目して、外国語（英語）教育の基本的な課題について理解を深め、基礎的な知識を得ることを目標とする。具体的には、外国語習得論、外国語学習者論、外国語指導法、外国語学習評価について英文の研究論文を読み、それらの内容について理解を深めるとともに教育実践への示唆を考察する。また、今回の授業内容を中心に、毎週自習を行うことが必要である。自習内容については毎回授業中に指示するので、指示に従って授業の予習・復習を行うようにしたい。

## 教科書 /Textbooks

適宜プリントを配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業中に紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業計画は以下のとおりであるが、履修者の理解や関心に応じて内容を調整する。

1. ガイダンス
2. 言語教育学の研究
3. 外国語習得論（概説）
4. 外国語習得論（発表）
5. 外国語習得論（発表及びまとめ）
6. 外国語学習者論（概説）
7. 外国語学習者論（発表）
8. 外国語学習者論（発表及びまとめ）
9. 外国語指導法（概説）
10. 外国語指導法（発表）
11. 外国語指導法（発表及びまとめ）
12. 外国語学習評価（概説）
13. 外国語学習評価（発表）
14. 外国語学習評価（発表及びまとめ）
15. 教育言語学の課題

## 成績評価の方法 /Assessment Method

成績は（1）授業参加に対する積極性（発言や質問など）20%，（2）発表40%，（3）レポート課題40%によって評価する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回の講義では、発表のみならず、グループによるプレゼンテーション・議論などを行います。そのため、授業時間外での(相当の)準備が必要となります。卒業後に英語教育に関わる意欲のある学生をはじめ、英語教育に関心がある人の参加を期待します。また、やむを得ない場合を除き、無断欠席は受講放棄とみなします。

## キーワード /Keywords

# 英語教育ゼミ AII 【昼】

担当者名 /Instructor クレイグ・ランバート / Craig P. Lambert / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明晰に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ゼミ A II

SEM412M

## 授業の概要 /Course Description

This two-year course will provide learners with a foundation in second language language teaching and a practical basis for improving communication skills in Japanese schools. The second term will move from the principles covered in the first term to the bigger picture of a systematic approach to language teaching course. The focus will be on second language tasks within the bigger picture of a balanced curriculum. Learners will gain a sound understanding of the range of opportunities that must be provided for in well-designed second language teaching.

## 教科書 /Textbooks

Materials to be arrange by the instructor.

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

References to be arranged by the instructor.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 The components of a second language course
- 2 回 Learners' needs: questions to ask before planning classes / Presentations: 'my own lesson'
- 3 回 Goals and objectives / Presentations: 'my own lesson'
- 4 回 Writing good teaching objectives / Presentations: 'my own lesson'
- 5 回 Matching test items to goals and objectives / Project: performance and analysis
- 6 回 Types of language tests / Project: performance and analysis
- 7 回 Teaching Materials: Criteria for Evaluating Units of Work / Project: performance and analysis
- 8 回 Evaluating your teachings: questions to ask after teaching classes / Project: performance and analysis
- 9 回 Peer-teaching using own materials (1)
- 1 0 回 Peer-teaching using own materials (2)
- 1 1 回 Peer-teaching using own materials (3): First draft of projects reports due
- 1 2 回 Peer-teaching using own materials (4)
- 1 3 回 Peer-teaching using own materials (5)
- 1 4 回 Peer-teaching using own materials (6)
- 1 5 回 Final project reports

## 成績評価の方法 /Assessment Method

- 30% Presentations
- 40% Projects and final report
- 30% Peer-teaching

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

All lectures, materials, presentations and discussions will be English.  
Learners should have a strong interest in teaching English.

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords



# 英語教育ゼミ AII 【昼】

担当者名 雪丸 尚美 / 英米学科  
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明晰に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ゼミ A II

SEM412M

## 授業の概要 /Course Description

本ゼミでは、教室における外国語（主に英語）教育の実践と理論研究にかかわる諸問題を広く取り上げながら、受講生が自分の問題意識を鮮明に持つことが出来るようになることを期待して進められる。そのため受講生は、自分が興味関心を持つテーマやトピックについて、各自で関連論文を読む積極的な学習態度が必要である。各自の問題意識を教育言語学（英語教育学など）における研究テーマへと発展させ、先行文献等を中心としたリサーチを行い、論文を執筆する。

## 教科書 /Textbooks

適宜プリントを配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業計画は以下のとおりであるが、履修者の理解や関心に応じて内容を調整する。

1. ガイダンス
2. 言語教育学と研究方法
3. 言語教育学と教材研究（概説及び発表）
4. 教材研究（事例収集）
5. 教材研究（事例発表・議論）
6. 教育言語学と学習・指導法研究（概説）
7. 学習・指導法研究（事例収集）
8. 学習・指導法研究（事例発表・議論）
9. 教育言語学と言語活動研究（概説）
10. 言語活動研究（事例収集）
11. 言語活動研究（事例発表・議論）
12. 教育言語学と評価方法研究（概説）
13. 評価方法研究（事例収集）
14. 評価方法研究（事例発表・議論）
15. 教育言語学の研究課題

## 成績評価の方法 /Assessment Method

成績は（1）授業参加に対する積極性15%、（2）発表40%、（3）レポート課題45%によって評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回の講義では、発表のみならず、グループによるプレゼンテーション・議論などを行います。そのため、授業時間外での(相当の)準備が必要となります。卒業後に英語教育に関わる意欲のある学生をはじめ、英語教育に関心がある人の参加を期待します。また、やむを得ない場合を除き、無断欠席は受講放棄とみなします。

キーワード /Keywords

# 社会言語学ゼミ AI 【昼】

担当者名 /Instructor 平野 圭子 / Keiko Hirano / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明晰に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ゼミ AI

SEM411M

## 授業の概要 /Course Description

本ゼミでは言語と社会の係わりを様々な視点から考え、社会言語学研究に必要な基本的概念や理論を理解することを目的とします。AIでは言葉の変化とバリエーションを扱う代表的な研究を紹介・解説し、変化や変異を引き起こす社会的要因や言語的要因を学びます。また言語調査を行うために必要な方法論の基礎知識を学びます。

## 教科書 /Textbooks

ハンドアウトを配布します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業時に紹介します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 言語のバリエーション(1)【社会階級】
- 3回 調査方法(1)会話データ収集
- 4回 言語のバリエーション(2)【年齢】
- 5回 調査方法(2)会話データ書き起こし
- 6回 言語のバリエーション(3)【社会的ネットワーク】
- 7回 調査方法(3)データのコーディング
- 8回 言語のバリエーション(4)【コミュニティオブプラクティス】
- 9回 言語データ収集準備
- 10回 言語データ収集実施
- 11回 調査方法(4)データ分析
- 12回 言語のバリエーション(5)【スタイル】
- 13回 結果発表
- 14回 ディスカッション(1)
- 15回 ディスカッション(2)まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

研究発表・平常の学習状況...50%、レポート...50%。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 社会言語学ゼミ AII 【昼】

担当者名 平野 圭子 / Keiko Hirano / 英米学科  
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	日本語のみならず英語で自分の意見を明晰に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ゼミ A II

SEM412M

## 授業の概要 /Course Description

本ゼミでは言語と社会の係わりを様々な視点から考え、社会言語学研究に必要な基本的概念や理論を理解することを目的とします。AIIでは学生が各自テーマを決め言語調査を行います。授業時に先行研究、言語データの収集方法や分析方法、調査結果を発表し、その内容について全員で議論します。

## 教科書 /Textbooks

ハンドアウトを配布します。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

授業時に紹介します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 言語調査プロジェクトについて
- 2回 文献検索
- 3回 テーマ発表
- 4回 研究発表の仕方
- 5回 学生による研究発表（第1回：第1グループ）
- 6回 学生による研究発表（第1回：第2グループ）
- 7回 学術論文の構成
- 8回 発表準備
- 9回 学生による研究発表（第2回：第1グループ）
- 10回 学生による研究発表（第2回：第2グループ）
- 11回 方法論についての議論
- 12回 レポートの書き方・発表準備
- 13回 学生による研究発表（第3回：第1グループ）
- 14回 学生による研究発表（第3回：第2グループ）
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

研究発表・平常の学習状況...50%、レポート...50%。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 基礎演習I【昼】

担当者名 鮫島 千明 / Chiaki Sameshima / 英米学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1 - 1  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	正確に発音でき、英語圏の人たちと正確にコミュニケーションを行うことができる。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力	●	英語で自分の意見を明確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	組織や集団において伝達力を発揮し共同の目標に向けた活動を推進することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

基礎演習 I

ENG100M

## 授業の概要 /Course Description

この授業では、英語発音の基本的な理論に基づいて、英語特有の発音体系を理解し、より正しい英語の発音を身につけることを目指す。日本人の学生が苦手な母音、子音のポイントを重点的に練習し、実際に発音する場合に陥りやすいパターンを紹介し、教科書だけでなく、英語の歌や早口言葉を通して発音の実践的なトレーニングを行う。

## 教科書 /Textbooks

Sounds Right! Sounds Good! (Macmillan Language House, 2000)

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 Lesson 1 /p//t//k/  
2回 Lesson 2 /b//d//g/  
3回 Lesson 3 /r/  
4回 Lesson 4, 5 vowel +/r/ /r/cluster  
5回 Lesson 6,7 /l/ /l/cluster  
6回 Lesson 8 /s//z/  
7回 Lesson 9 /θ//ð/  
8回 Lesson 10 /f//v/  
9回 Lesson 11 /j//z/  
10回 Lesson 12 /tʃ//dʒ/  
11回 Lesson 13 /n//m/  
12回 Lesson 14, 15, 16 /w//j/ /h//hw/ /i//I/  
13回 Lesson 17,18, 19 /e//é/ /æ//a//N /u//U/  
14回 Lesson 20,21,22 /o//ou/ /au//ai//ju/ flap  
15回 General Overview

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平素および小テスト...70%  
期末試験...30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

# 基礎演習I【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords



# 基礎演習I【昼】

担当者名 鮫島 千明 / Chiaki Sameshima / 英米学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1 - 2  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 正確に発音でき、英語圏の人たちと正確にコミュニケーションを行うことができる。
	英語力 その他言語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	● 英語で自分の意見を明確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 組織や集団において伝達力を発揮し共同の目標に向けた活動を推進することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

基礎演習 I

ENG100M

## 授業の概要 /Course Description

この授業では、英語発音の基本的な理論に基づいて、英語特有の発音体系を理解し、より正しい英語の発音を身につけることを目指す。日本人の学生が苦手な母音、子音のポイントを重点的に練習し、実際に発音する場合に陥りやすいパターンを紹介し、教科書だけでなく、英語の歌や早口言葉を通して発音の実践的なトレーニングを行う。

## 教科書 /Textbooks

Sounds Right! Sounds Good! (Macmillan Language House, 2000)

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Lesson 1 /p//t//k/
- 2回 Lesson 2 /b//d//g/
- 3回 Lesson 3 /r/
- 4回 Lesson 4, 5 vowel +/r/ /r/cluster
- 5回 Lesson 6,7 /l/ /l/cluster
- 6回 Lesson 8 /s//z/
- 7回 Lesson 9 /θ//ð/
- 8回 Lesson 10 /f//v/
- 9回 Lesson 11 /j//ʒ/
- 10回 Lesson 12 /tʃ//dʒ/
- 11回 Lesson 13 /n//m/
- 12回 Lesson 14, 15, 16 /w//j/ /h//hw/ /i//I/
- 13回 Lesson 17,18, 19 /e//é/ /æ//a//N /u//U/
- 14回 Lesson 20,21,22 /o//ou/ /au//ai//ju/ flap
- 15回 General Overview

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平素および小テスト...70%  
期末試験...30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

# 基礎演習I【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 基礎演習I【昼】

担当者名 鮫島 千明 / Chiaki Sameshima / 英米学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1 - 3  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 正確に発音でき、英語圏の人たちと正確にコミュニケーションを行うことができる。
	英語力 その他言語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	● 英語で自分の意見を明確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 組織や集団において伝達力を発揮し共同の目標に向けた活動を推進することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

基礎演習 I

ENG100M

## 授業の概要 /Course Description

この授業では、英語発音の基本的な理論に基づいて、英語特有の発音体系を理解し、より正しい英語の発音を身につけることを目指す。日本人の学生が苦手な母音、子音のポイントを重点的に練習し、実際に発音する場合に陥りやすいパターンを紹介し、教科書だけでなく、英語の歌や早口言葉を通して発音の実践的なトレーニングを行う。

## 教科書 /Textbooks

Sounds Right! Sounds Good! (Macmillan Language House, 2000)

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Lesson 1 /p//t//k/
- 2回 Lesson 2 /b//d//g/
- 3回 Lesson 3 /r/
- 4回 Lesson 4, 5 vowel +/r/ /r/cluster
- 5回 Lesson 6,7 /l/ /l/cluster
- 6回 Lesson 8 /s//z/
- 7回 Lesson 9 /θ//ð/
- 8回 Lesson 10 /f//v/
- 9回 Lesson 11 /j//ʒ/
- 10回 Lesson 12 /tʃ//dʒ/
- 11回 Lesson 13 /n//m/
- 12回 Lesson 14, 15, 16 /w//j/ /h//hw/ /i//I/
- 13回 Lesson 17,18, 19 /e//é/ /æ//a//N /u//U/
- 14回 Lesson 20,21,22 /o//ou/ /au//ai//ju/ flap
- 15回 General Overview

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平素および小テスト...70%  
期末試験...30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

# 基礎演習I【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 基礎演習I【昼】

担当者名 鮫島 千明 / Chiaki Sameshima / 英米学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1 - 4  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 正確に発音でき、英語圏の人たちと正確にコミュニケーションを行うことができる。
	英語力 その他言語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	● 英語で自分の意見を明確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 組織や集団において伝達力を発揮し共同の目標に向けた活動を推進することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

基礎演習 I

ENG100M

## 授業の概要 /Course Description

この授業では、英語発音の基本的な理論に基づいて、英語特有の発音体系を理解し、より正しい英語の発音を身につけることを目指す。日本人の学生が苦手な母音、子音のポイントを重点的に練習し、実際に発音する場合に陥りやすいパターンを紹介し、教科書だけでなく、英語の歌や早口言葉を通して発音の実践的なトレーニングを行う。

## 教科書 /Textbooks

Sounds Right! Sounds Good! (Macmillan Language House, 2000)

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 Lesson 1 /p//t//k/  
2回 Lesson 2 /b//d//g/  
3回 Lesson 3 /r/  
4回 Lesson 4, 5 vowel +/r/ /r/cluster  
5回 Lesson 6,7 /l/ /l/cluster  
6回 Lesson 8 /s//z/  
7回 Lesson 9 /θ//ð/  
8回 Lesson 10 /f//v/  
9回 Lesson 11 /j//z/  
10回 Lesson 12 /tʃ//dʒ/  
11回 Lesson 13 /n//m/  
12回 Lesson 14, 15, 16 /w//j/ /h//hw/ /i//I/  
13回 Lesson 17,18, 19 /e//é/ /æ//a//N /u//U/  
14回 Lesson 20,21,22 /o//ou/ /au//ai//ju/ flap  
15回 General Overview

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平素および小テスト...70%  
期末試験...30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

# 基礎演習I【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 基礎演習Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 松崎 徹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス 1 - 3 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	英語の論理構造を正しく理解し、英語による情報の収集や分析・研究を行うこと。
	英語力	●	英語の読み・書きが正確にでき、英語圏の人たちとコミュニケーションを行うこと。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力	●	専門的知識を応用しながら、英語で自分の意見を明確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

基礎演習Ⅱ

ENG110M

## 授業の概要 /Course Description

この授業では、英語による学術論文作成のための基礎力養成を目的とします。具体的には、英語論文にふさわしい英語表現、パラグラフライティングの技術、注釈および参考文献の正しい記載方法、タイトルページや目次などの正しい書式の設定方法などを、教科書に記載された豊富な用例をもとに学んでいきます。本講座の最終目標は、この授業で習得した論文作成の基礎技能を4年次の卒業論文作成に活かせるようになることです。

## 教科書 /Textbooks

迫 桂, 徳永 聡子 『英語論文の書き方入門』 慶應義塾大学出版会 2012年 ¥2,000

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

Gibaldi, Joseph MLA Handbook for Writers of Research Papers. 7th ed. Modern Language Association of America, 2009  
石黒 圭 『この1冊できちんと書ける! 論文・レポートの基本』 日本実業出版 2012年 ¥1,400

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 アカデミックライティングの特色 【主張と論証】
- 2回 英語で書くために 【英語らしい表現】
- 3回 パラグラフとは 【パラグラフの構造】
- 4回 パラグラフとは 【UnityとCoherence】
- 5回 エッセイの構造 【パラグラフとエッセイの関係】
- 6回 エッセイの枠組みを構想する 【アウトライン作成方法】
- 7回 文献資料の扱い方 【文献資料収集方法】
- 8回 文献資料の扱い方 【引用方法】
- 9回 文献資料の扱い方 【出典の示し方】
- 10回 エッセイの構造 【Introduction】
- 11回 エッセイの構造 【Body Paragraphs】
- 12回 エッセイの構造 【Conclusion】
- 13回 完成に向けて 【書式】
- 14回 完成に向けて 【推敲】
- 15回 完成に向けて 【チェックリスト】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

ファイナルエッセイ(英文)・・・50%  
ショートエッセイ(英文)・・・30%  
日常の授業への取り組み・・・20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 基礎演習II【昼】

### 履修上の注意 /Remarks

特になし

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

特になし

### キーワード /Keywords

英語論文作成、英語表現、主張と論証、パラグラフライティング、文献調査



# 基礎演習II【昼】

担当者名 /Instructor 松崎 徹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	英語の論理構造を正しく理解し、英語による情報の収集や分析・研究を行うこと。
	英語力	●	英語の読み・書きが正確にでき、英語圏の人たちとコミュニケーションを行うこと。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力	●	専門的知識を応用しながら、英語で自分の意見を明確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

基礎演習 II

ENG110M

## 授業の概要 /Course Description

この授業では、英語による学術論文作成のための基礎力養成を目的とします。具体的には、英語論文にふさわしい英語表現、パラグラフライティングの技術、注釈および参考文献の正しい記載方法、タイトルページや目次などの正しい書式の設定方法などを、教科書に記載された豊富な用例をもとに学んでいきます。本講座の最終目標は、この授業で習得した論文作成の基礎技能を4年次の卒業論文作成に活かせるようになることです。

## 教科書 /Textbooks

迫 桂, 徳永 聡子 『英語論文の書き方入門』 慶應義塾大学出版会 2012年 ¥2,000

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

Gibaldi, Joseph MLA Handbook for Writers of Research Papers. 7th ed. Modern Language Association of America, 2009  
石黒 圭 『この1冊できちんと書ける! 論文・レポートの基本』 日本実業出版 2012年 ¥1,400

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 アカデミックライティングの特色 【主張と論証】
- 2回 英語で書くために 【英語らしい表現】
- 3回 パラグラフとは 【パラグラフの構造】
- 4回 パラグラフとは 【Unity と Coherence】
- 5回 エッセイの構造 【パラグラフとエッセイの関係】
- 6回 エッセイの枠組みを構想する 【アウトライン作成方法】
- 7回 文献資料の扱い方 【文献資料収集方法】
- 8回 文献資料の扱い方 【引用方法】
- 9回 文献資料の扱い方 【出典の示し方】
- 10回 エッセイの構造 【Introduction】
- 11回 エッセイの構造 【Body Paragraphs】
- 12回 エッセイの構造 【Conclusion】
- 13回 完成に向けて 【書式】
- 14回 完成に向けて 【推敲】
- 15回 完成に向けて 【チェックリスト】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

ファイナルエッセイ(英文)・・・50%  
ショートエッセイ(英文)・・・30%  
日常の授業への取り組み・・・20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 基礎演習II【昼】

### 履修上の注意 /Remarks

特になし

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

特になし

### キーワード /Keywords

英語論文作成、英語表現、主張と論証、パラグラフライティング、文献調査

# 基礎演習Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor                      ダニエル・ストラック / Daniel C. Strack / 英米学科

履修年次 /Year                      1年次                      単位 /Credits                      2単位                      学期 /Semester                      2学期                      授業形態 /Class Format                      演習                      クラス /Class                      1 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	英語の論理構造を正しく理解し、英語による情報の収集や分析・研究を行うこと。
	英語力	●	英語の読み・書きが正確にでき、英語圏の人たちとコミュニケーションを行うこと。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力	●	専門的知識を応用しながら、英語で自分の意見を明確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

基礎演習Ⅱ

ENG110M

## 授業の概要 /Course Description

This course is designed to allow students to improve their English writing skills and general English ability. Students will learn various writing strategies, culminating in the writing of an academic paper. Each class will introduce specific tasks by which students will gradually increase their knowledge of broad written communication objectives and genre-specific writing techniques.

## 教科書 /Textbooks

Copies will be distributed in class.

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

Reference works will be recommended as necessary.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Lesson 1: Course Introduction  
Lesson 2: Biographical Writing  
Lesson 3: Journalistic Writing  
Lesson 4: Opinion Essay  
Lesson 5: Evaluating Texts  
Lesson 6: Outlining and Summarizing  
Lesson 7: Determining a Subject  
Lesson 8: Organizing Paragraphs  
Lesson 9: Citing Source Information  
Lesson 10: Revising a Draft  
Lesson 11: Writing Introductions and Conclusions  
Lesson 12: Writing Poetry in English  
Lesson 13: Term Paper Submission  
Lesson 14: Review  
Lesson 15: Class Wrap-up

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Class Participation : 30%, Quizzes : 20%, Assignments : 30%, Attitude : 20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 基礎演習II【昼】

### 履修上の注意 /Remarks

Weekly homework assignments will be given to allow students to practice and grow accustomed to the various writing-related skills covered in class. Speaking practice will also constitute part of the course and each class will include time for discussion of class content in English.

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

### キーワード /Keywords

# 基礎演習Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor                      フィオナ・クリーサー / Fiona Creaser / 英米学科

履修年次 /Year      1年次                      単位 /Credits      2単位                      学期 /Semester                      2学期                      授業形態 /Class Format                      演習                      クラス /Class                      1 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	英語の論理構造を正しく理解し、英語による情報の収集や分析・研究を行うこと。
	英語力	●	英語の読み・書きが正確にでき、英語圏の人たちとコミュニケーションを行うこと。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力	●	専門的知識を応用しながら、英語で自分の意見を明確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

基礎演習Ⅱ

ENG110M

## 授業の概要 /Course Description

This course will teach students the basics of essay writing. Step by step students will learn how to develop their own ideas and put them onto paper in an acceptable academic way. Students will study different types of academic writing and how to format essays using in-text citations as well as learning how to compile a correct reference list of sources.

## 教科書 /Textbooks

Writing Essays from Paragraph to Essay by Dorothy E. Zemach and Lisa A. Ghulldu

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Dictionary

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction: Process Writing
- 2回 Pre-Writing: Getting Ready to Write
- 3回 The Structure of a Paragraph
- 4回 Descriptive Paragraphs
- 5回 Opinion Paragraphs
- 6回 Comparison/ Contrast Paragraphs
- 7回 Problem/ Solution Paragraphs
- 8回 The Structure of an Essay
- 9回 Outlining an Essay
- 10回 Introductions and Conclusions
- 11回 Unity and Coherence
- 12回 Essays for Examinations
- 13回 In-text Citations
- 14回 Referencing
- 15回 Review

## 成績評価の方法 /Assessment Method

In class assessment 40% / Homework 40% / Final Essay 20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 基礎演習II【昼】

### 履修上の注意 /Remarks

Students are expected to bring the text book and a dictionary to every class.

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

### キーワード /Keywords

# 英会話演習 A 【昼】

担当者名 /Instructor                      フィオナ・クリーサー / Fiona Creaser / 英米学科

履修年次 /Year      1年次      単位 /Credits      2単位      学期 /Semester      1学期      授業形態 /Class Format      講義・実習      クラス /Class      1 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	英語の論理構造を正しく理解し、英語による情報の収集や分析・研究を行う。
	英語力	●	英米及び英語圏の人たちと正確にコミュニケーションを行うこと。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力	●	専門的知識を応用しながら、英語で自分の意見を明晰に表現することができる。
	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、かつ自らの見解を積極的に提案し、コミュニケーション力を発揮し共同の目標に向けた活動を推進できる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英会話演習 A

ENG251M

## 授業の概要 /Course Description

In this course students will learn how to present their ideas and opinions to each other in small discussion group and to the class as a whole in individual presentations. Topics for discussion will be chosen each week and students are expected to build upon their vocabulary as each week goes by.

## 教科書 /Textbooks

Communication Strategies 2 by David Paul

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

In consultation with the instructor

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1: Attitudes
- Week 2: Money
- Week 3: Health
- Week 4: Education
- Week 5: Crime
- Week 6: The Environment
- Week 7: Aliens
- Week 8: History
- Week 9: Women in Society
- Week 10: The Developing World
- Week 11: Violence
- Week 12: Politics
- Week 13: Economics
- Week 14: Happiness
- Week 15: Globalisation

## 成績評価の方法 /Assessment Method

In class assessment 50%  
Homework: 20%  
Presentation and discussion 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 英会話演習 A 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords





## 英会話演習 A 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 英会話演習 A 【昼】

担当者名 シェーン・ドイル / 北方キャンパス 非常勤講師  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 1 - 3  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	英語の論理構造を正しく理解し、英語による情報の収集や分析・研究を行う。
	英語力	●	英米及び英語圏の人たちと正確にコミュニケーションを行うこと。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力	●	専門的知識を応用しながら、英語で自分の意見を明確に表現することができる。
	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、かつ自らの見解を積極的に提案し、コミュニケーション力を発揮し共同の目標に向けた活動を推進できる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英会話演習 A

ENG251M

## 授業の概要 /Course Description

In this course students will learn how to present their ideas and opinions to each other in small discussion groups and to the class as a whole in individual presentations. Topics for discussion will be chosen each week and students are expected to build upon their vocabulary as each week goes by.

## 教科書 /Textbooks

Communication Strategies 2 by David Paul

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

In Consultation with the instructor

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: Attitudes  
Week 2: Money  
Week 3: Health  
Week 4: Education  
Week 5: Crime  
Week 6: The Environment  
Week 7: Aliens  
Week 8: History  
Week 9: Women in Society  
Week 10: The Developing World  
Week 11: Violence  
Week 12: Politics  
Week 13: Economics  
Week 14: Happiness  
Week 15: Globalisation

## 成績評価の方法 /Assessment Method

In class assessment 50%  
Homework 20%  
Presentation and discussion 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 英会話演習 A 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 英会話演習 A 【昼】

担当者名 シェーン・ドイル / 北方キャンパス 非常勤講師  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 1 - 4  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	英語の論理構造を正しく理解し、英語による情報の収集や分析・研究を行う。
	英語力	●	英米及び英語圏の人たちと正確にコミュニケーションを行うこと。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力	●	専門的知識を応用しながら、英語で自分の意見を明確に表現することができる。
	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、かつ自らの見解を積極的に提案し、コミュニケーション力を発揮し共同の目標に向けた活動を推進できる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英会話演習 A

ENG251M

## 授業の概要 /Course Description

In this course students will learn how to present their ideas and opinions to each other in small discussion groups and to the class as a whole in individual presentations. Topics for discussion will be chosen each week and students are expected to build upon their vocabulary as each week goes by.

## 教科書 /Textbooks

Communication Strategies 2 by David Paul

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

In Consultation with the instructor

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: Attitudes  
Week 2: Money  
Week 3: Health  
Week 4: Education  
Week 5: Crime  
Week 6: The Environment  
Week 7: Aliens  
Week 8: History  
Week 9: Women in Society  
Week 10: The Developing World  
Week 11: Violence  
Week 12: Politics  
Week 13: Economics  
Week 14: Happiness  
Week 15: Globalisation

## 成績評価の方法 /Assessment Method

In class assessment 50%  
Homework 20%  
Presentation and discussion 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 英会話演習 A 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 英語リスニング演習 A 【昼】

担当者名 平野 圭子 / Keiko Hirano / 英米学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 1 - 1  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 英語を正しく理解し、英語による情報の収集を行うことができる。
	英語力	● 英語を正確に聴き取り、英語でコミュニケーションを行うことができる。
思考・判断・表現	その他言語力	
	課題発見・分析・解決力	
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力	
	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英語リスニング演習 A	ENG255M
-------------	---------

## 授業の概要 /Course Description

本授業は英語のリスニングスキルの上達を目的とします。オーディオ教材を利用して、語彙・表現・聴き取り等の練習をします。情報を正確に聴き取るために必要なリスニング力を強化することで、総合的なコミュニケーション能力を高めることを目標とします。

## 教科書 /Textbooks

Timothy Knowles, Daniel Brooks, Yukiko Takeoka, Mayumi Tamura & Rima Uruguchi. (2015). 『Seeing the World through the News 2』金星堂 2015年。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction
- 2 回 Unit 1 Pie and Mash Shop Given Special Status
- 3 回 Unit 2 Canterbury Girls' Choir
- 4 回 Unit 3 Festival for Geeks
- 5 回 Unit 4 English Students Falling Behind in Maths
- 6 回 Unit 5 Saving the Elephants
- 7 回 第1回小テスト
- 8 回 Unit 6 Renovation of King's Cross Station
- 9 回 Unit 7 Horse Therapy
- 1 0 回 Unit 8 Cyber Monday
- 1 1 回 Unit 9 The Red Cross to Aid Food Poverty
- 1 2 回 Unit 10 Bike Hire Scheme
- 1 3 回 第2回小テスト
- 1 4 回 全体Review
- 1 5 回 第3回小テスト

## 成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(3回)...90%、平常の学習状況...10%。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

毎回指定された箇所を予習・復習してきて下さい。必ず辞書を持参して下さい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

# 英語リスニング演習 A 【昼】

キーワード /Keywords



# 英語リスニング演習 A 【昼】

担当者名 /Instructor クレイグ・ランバート / Craig P. Lambert / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 英語を正しく理解し、英語による情報の収集を行うことができる。
	英語力	● 英語を正確に聴き取り、英語でコミュニケーションを行うことができる。
思考・判断・表現	その他言語力	
	課題発見・分析・解決力	
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力	
	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英語リスニング演習 A	ENG255M
-------------	---------

## 授業の概要 /Course Description

本授業は英語のリスニングスキルの上達を目的とします。オーディオ教材を利用して、語彙・表現・聴き取り等の練習をします。情報を正確に聴き取るために必要なリスニング力を強化することで、総合的なコミュニケーション能力を高めることを目標とします。

## 教科書 /Textbooks

Timothy Knowles, Daniel Brooks, Yukiko Takeoka, Mayumi Tamura & Rima Uruguchi. (2015). 『Seeing the World through the News 2』金星堂 2015年。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction
- 2 回 Unit 1 Pie and Mash Shop Given Special Status
- 3 回 Unit 2 Canterbury Girls' Choir
- 4 回 Unit 3 Festival for Geeks
- 5 回 Unit 4 English Students Falling Behind in Maths
- 6 回 Unit 5 Saving the Elephants
- 7 回 第1回小テスト
- 8 回 Unit 6 Renovation of King's Cross Station
- 9 回 Unit 7 Horse Therapy
- 1 0 回 Unit 8 Cyber Monday
- 1 1 回 Unit 9 The Red Cross to Aid Food Poverty
- 1 2 回 Unit 10 Bike Hire Scheme
- 1 3 回 第2回小テスト
- 1 4 回 全体Review
- 1 5 回 第3回小テスト

## 成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(3回)...90%、平常の学習状況...10%。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

毎回指定された箇所を予習・復習してきて下さい。必ず辞書を持参して下さい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 英語リスニング演習 A 【昼】

担当者名 /Instructor クレイグ・ランバート / Craig P. Lambert / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 英語を正しく理解し、英語による情報の収集を行うことができる。
	英語力	● 英語を正確に聴き取り、英語でコミュニケーションを行うことができる。
思考・判断・表現	その他言語力	
	課題発見・分析・解決力	
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力	
	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英語リスニング演習 A	ENG255M
-------------	---------

## 授業の概要 /Course Description

本授業は英語のリスニングスキルの上達を目的とします。オーディオ教材を利用して、語彙・表現・聴き取り等の練習をします。情報を正確に聴き取るために必要なリスニング力を強化することで、総合的なコミュニケーション能力を高めることを目標とします。

## 教科書 /Textbooks

Timothy Knowles, Daniel Brooks, Yukiko Takeoka, Mayumi Tamura & Rima Uraguchi. (2015). 『Seeing the World through the News 2』金星堂 2015年。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction
- 2 回 Unit 1 Pie and Mash Shop Given Special Status
- 3 回 Unit 2 Canterbury Girls' Choir
- 4 回 Unit 3 Festival for Geeks
- 5 回 Unit 4 English Students Falling Behind in Maths
- 6 回 Unit 5 Saving the Elephants
- 7 回 第1回小テスト
- 8 回 Unit 6 Renovation of King's Cross Station
- 9 回 Unit 7 Horse Therapy
- 1 0 回 Unit 8 Cyber Monday
- 1 1 回 Unit 9 The Red Cross to Aid Food Poverty
- 1 2 回 Unit 10 Bike Hire Scheme
- 1 3 回 第2回小テスト
- 1 4 回 全体Review
- 1 5 回 第3回小テスト

## 成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(3回)...90%、平常の学習状況...10%。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

毎回指定された箇所を予習・復習してきて下さい。必ず辞書を持参して下さい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

# 英語リスニング演習 A 【昼】

キーワード /Keywords

# 英語リスニング演習 A 【昼】

担当者名 /Instructor 木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	英語を正しく理解し、英語による情報の収集を行うことができる。
	英語力	●	英語を正確に聴き取り、英語でコミュニケーションを行うことができる。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力		
	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英語リスニング演習 A	ENG255M
-------------	---------

## 授業の概要 /Course Description

本授業は英語のリスニングスキルの上達を目的とします。オーディオ教材を利用して、語彙・表現・聴き取り等の練習をします。情報を正確に聴き取るために必要なリスニング力を強化することで、総合的なコミュニケーション能力を高めることを目標とします。

## 教科書 /Textbooks

Timothy Knowles, Daniel Brooks, Yukiko Takeoka, Mayumi Tamura & Rima Uraguchi. (2015). 『Seeing the World through the News 2』 金星堂 2015年.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction
- 2 回 Unit 1 Pie and Mash Shop Given Special Status
- 3 回 Unit 2 Canterbury Girls' Choir
- 4 回 Unit 3 Festival for Geeks
- 5 回 Unit 4 English Students Falling Behind in Maths
- 6 回 Unit 5 Saving the Elephants
- 7 回 Unit 6 Renovation of King's Cross Station
- 8 回 Unit 7 Horse Therapy
- 9 回 Unit 8 Cyber Monday
- 1 0 回 Unit 9 The Red Cross to Aid Food Poverty
- 1 1 回 Unit 10 Bike Hire Scheme
- 1 2 回 Unit 11 Processed Meat Linked to Early Death
- 1 3 回 Unit 12 Nursery Ratios Changed to Cut Fees
- 1 4 回 Unit 13 Hope for the Blind
- 1 5 回 Unit まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

試験...90%、平常の学習状況...10%。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

毎回指定された箇所を予習・復習してきて下さい。必ず辞書を持参して下さい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 英会話演習B 【昼】

担当者名 アダム・ヘイルズ / Adam Hailes / 英米学科  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・実習 クラス 2 - 1  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	正確に発音でき、英語圏の人達と正確にコミュニケーションを行うことができる。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力	●	英語で自分の意見を明確に表現することができる。
	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	組織や集団において伝達力を発揮し共同の目標に向けた活動を推進することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英会話演習B

ENG252M

## 授業の概要 /Course Description

This course aims to raise student awareness of the processes central to communication through topic-focused discussion whilst encouraging the development of key communication skills through objective-focused pair and group work. Student expression of personal ideas, opinions and values will be a further integral element of the course.

## 教科書 /Textbooks

Global: Upper Intermediate Coursebook by Lindsay Clandfield & Rebecca Robb Benne  
Macmillan, 2011

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Students are encouraged to bring a dictionary to every class.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2回 Alive & Well
- 3回 Right & Wrong
- 4回 Land & Sea
- 5回 Magic & Mystery
- 6回 Group Discussion 1: A Better Place To Live
- 7回 Parents & Children
- 8回 Power & Money
- 9回 Rhyme & Reason
- 10回 Dreams & Reality
- 11回 Rise & Fall
- 12回 Tears & Laughter
- 13回 Group Discussion 2: Hunting for Happiness
- 14回 Speech Week: Explanation/Persuasion
- 15回 Group Discussion 3: (Student-Selected Topic)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Regular homework assignments - 100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 英会話演習B 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords



# 英会話演習B 【昼】

担当者名 アダム・ヘイルズ / Adam Hailes / 英米学科  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・実習 クラス 2 - 2  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	正確に発音でき、英語圏の人達と正確にコミュニケーションを行うことができる。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力	●	英語で自分の意見を明確に表現することができる。
	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	組織や集団において伝達力を発揮し共同の目標に向けた活動を推進することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英会話演習B

ENG252M

## 授業の概要 /Course Description

This course aims to raise student awareness of the processes central to communication through topic-focused discussion whilst encouraging the development of key communication skills through objective-focused pair and group work. Student expression of personal ideas, opinions and values will be a further integral element of the course.

## 教科書 /Textbooks

Global: Upper Intermediate Coursebook by Lindsay Clandfield & Rebecca Robb Benne  
Macmillan, 2011

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Students are encouraged to bring a dictionary to every class.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction
- 2 回 Alive & Well
- 3 回 Right & Wrong
- 4 回 Land & Sea
- 5 回 Magic & Mystery
- 6 回 Group Discussion 1: A Better Place To Live
- 7 回 Parents & Children
- 8 回 Power & Money
- 9 回 Rhyme & Reason
- 1 0 回 Dreams & Reality
- 1 1 回 Rise & Fall
- 1 2 回 Tears & Laughter
- 1 3 回 Group Discussion 2: Hunting for Happiness
- 1 4 回 Speech Week: Explanation/Persuasion
- 1 5 回 Group Discussion 3: (Student-Selected Topic)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Regular homework assignments - 100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 英会話演習B 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 英会話演習B 【昼】

担当者名 アダム・ヘイルズ / Adam Hailes / 英米学科  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・実習 クラス 2 - 3  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
	専門分野のスキル		
技能	英語力	●	正確に発音でき、英語圏の人達と正確にコミュニケーションを行うことができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力	●	英語で自分の意見を明確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	組織や集団において伝達力を発揮し共同の目標に向けた活動を推進することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英会話演習B

ENG252M

## 授業の概要 /Course Description

This course aims to raise student awareness of the processes central to communication through topic-focused discussion whilst encouraging the development of key communication skills through objective-focused pair and group work. Student expression of personal ideas, opinions and values will be a further integral element of the course.

## 教科書 /Textbooks

Global: Upper Intermediate Coursebook by Lindsay Clandfield & Rebecca Robb Benne  
Macmillan, 2011

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Students are encouraged to bring a dictionary to every class.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction
- 2 回 Alive & Well
- 3 回 Right & Wrong
- 4 回 Land & Sea
- 5 回 Magic & Mystery
- 6 回 Group Discussion 1: A Better Place To Live
- 7 回 Parents & Children
- 8 回 Power & Money
- 9 回 Rhyme & Reason
- 1 0 回 Dreams & Reality
- 1 1 回 Rise & Fall
- 1 2 回 Tears & Laughter
- 1 3 回 Group Discussion 2: Hunting for Happiness
- 1 4 回 Speech Week: Explanation/Persuasion
- 1 5 回 Group Discussion 3: (Student-Selected Topic)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Regular homework assignments - 100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 英会話演習B 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 英会話演習B 【昼】

担当者名 アダム・ヘイルズ / Adam Hailes / 英米学科  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・実習 クラス 2 - 4  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	正確に発音でき、英語圏の人達と正確にコミュニケーションを行うことができる。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力	●	英語で自分の意見を明確に表現することができる。
	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	組織や集団において伝達力を発揮し共同の目標に向けた活動を推進することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英会話演習B

ENG252M

## 授業の概要 /Course Description

This course aims to raise student awareness of the processes central to communication through topic-focused discussion whilst encouraging the development of key communication skills through objective-focused pair and group work. Student expression of personal ideas, opinions and values will be a further integral element of the course.

## 教科書 /Textbooks

Global: Upper Intermediate Coursebook by Lindsay Clandfield & Rebecca Robb Benne  
Macmillan, 2011

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Students are encouraged to bring a dictionary to every class.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2回 Alive & Well
- 3回 Right & Wrong
- 4回 Land & Sea
- 5回 Magic & Mystery
- 6回 Group Discussion 1: A Better Place To Live
- 7回 Parents & Children
- 8回 Power & Money
- 9回 Rhyme & Reason
- 10回 Dreams & Reality
- 11回 Rise & Fall
- 12回 Tears & Laughter
- 13回 Group Discussion 2: Hunting for Happiness
- 14回 Speech Week: Explanation/Persuasion
- 15回 Group Discussion 3: (Student-Selected Topic)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Regular homework assignments - 100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 英会話演習B 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 英語リスニング演習B 【昼】

担当者名 /Instructor アーノルド・ウェイン / ARNOLD Wayne E. / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 英語を正しく理解し、英語による情報の収集を行うことができる。
	英語力	● 英語を正確に聴き取り、英語でコミュニケーションを行うことができる。
思考・判断・表現	その他言語力	
	課題発見・分析・解決力	
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力	
	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英語リスニング演習B	ENG256M
------------	---------

## 授業の概要 /Course Description

英語リスニング演習B aims to develop listening ability through active student participation in topic-focused conversation/discussions and presentations in an all-English environment. Emphasis will be on discovering English language patterns and using them to understand native English speaking patterns representing efficient spoken personal expression. In the mid to latter stages of the course, students will be expected to analyze spoken dialogue using critical thinking on topics covered in class.

## 教科書 /Textbooks

Unlock: Listening & Speaking Skills 3, Cambridge Publishing, 2014.

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

None

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Introduction to the course, get to know your classmates.
2. Unit 2, customs and traditions, part 1.
3. Unit 2, customs and traditions, part 2.
4. Unit 4. transport, part 1.
5. Unit 4. transport, part 2.
6. Unit 5. environment, part 1.
7. Unit 5. environment, part 2.
8. Unit 6, health and fitness, part 1.
9. Unit 6, health and fitness, part 2.
10. Unit 7, discovery and invention, part 1.
11. Unit 7, discovery and invention, part 2.
12. Unit 8, Fashion, part 1.
13. Unit 8, Fashion, part 2.
14. Unit 9, Economics, part 1.
15. Unit 9, Economics, part 2.

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Attendance and participation:(30%) Listening Assignment reports : (30%); Two in-class listening challenges: (40%)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords



# 英語リスニング演習B 【昼】

担当者名 /Instructor アーノルド・ウェイン / ARNOLD Wayne E. / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 英語を正しく理解し、英語による情報の収集を行うことができる。
	英語力	● 英語を正確に聴き取り、英語でコミュニケーションを行うことができる。
思考・判断・表現	その他言語力	
	課題発見・分析・解決力	
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力	
	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英語リスニング演習B

ENG256M

## 授業の概要 /Course Description

英語リスニング演習B aims to develop listening ability through active student participation in topic-focused conversation/discussions and presentations in an all-English environment. Emphasis will be on discovering English language patterns and using them to understand native English speaking patterns representing efficient spoken personal expression. In the mid to latter stages of the course, students will be expected to analyze spoken dialogue using critical thinking on topics covered in class.

## 教科書 /Textbooks

Unlock: Listening & Speaking Skills 3, Cambridge Publishing, 2014.

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

None

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Introduction to the course, get to know your classmates.
2. Unit 2, customs and traditions, part 1.
3. Unit 2, customs and traditions, part 2.
4. Unit 4. transport, part 1.
5. Unit 4. transport, part 2.
6. Unit 5. environment, part 1.
7. Unit 5. environment, part 2.
8. Unit 6, health and fitness, part 1.
9. Unit 6, health and fitness, part 2.
10. Unit 7, discovery and invention, part 1.
11. Unit 7, discovery and invention, part 2.
12. Unit 8, Fashion, part 1.
13. Unit 8, Fashion, part 2.
14. Unit 9, Economics, part 1.
15. Unit 9, Economics, part 2.

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Attendance and participation:(30%) Listening Assignment reports : (30%); Two in-class listening challenges: (40%)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 英語リスニング演習B 【昼】

担当者名 /Instructor 河本 恵美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 英語を正しく理解し、英語による情報の収集を行うことができる。
	英語力	● 英語を正確に聴き取り、英語でコミュニケーションを行うことができる。
思考・判断・表現	その他言語力	
	課題発見・分析・解決力	
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力	
	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英語リスニング演習B	ENG256M
------------	---------

## 授業の概要 /Course Description

この授業では、天文学、政治科学、生物学などのアカデミックなトピックを取り上げた講義を聞き、理解する能力を養成することを目指す。毎回の授業で英語母語話者向けの講義を聞き取り、実践的なリスニングやノートのとり方を学ぶ。予習課題をオンラインで提出し、グループやペアでの活動を頻繁に行うので、それらの活動への積極的な参加が必要である。

## 教科書 /Textbooks

David Beglar and Neil Murray 『Contemporary Topics 3: Academic Listening and Note-Taking Skills (Third edition)』（Pearson ELT, 2009年）

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

○教科書準拠のDVD ( 詳細は初回授業で説明する )

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業計画は以下のとおりであるが、履修者の理解や関心に依りて内容を調整する。

- 1 . Introduction
- 2 . Unit 1 Communication Studies: Slang and Language Change
- 3 . Unit 2 Child Psychology: The Genius Within
- 4 . Unit 3 Sociology: Social Status
- 5 . Unit 4 Business: The Art of Marketing in a Global Culture
- 6 . Unit 5 Cognitive Psychology: Memory
- 7 . Unit 6 Anthropology biology: The Science of Love
- 8 . Review of unit1-6, 小テスト 1
- 9 . Unit 7 Astronomy: Mission to Mars
- 10 . Unit 8 Political Science: Big Brother and the Surveillance Society
- 11 . Unit 9 Linguistics: Animal Communication
- 12 . Unit 10 Economics: The Evolution of Money
- 13 . Unit 11 Biology: The Fountain of Youth
- 14 . Unit 12 Sociology: Marriage
- 15 . Review of unit7-12, 小テスト 2

## 成績評価の方法 /Assessment Method

成績は ( 1 ) 授業参加に対する積極性10% , ( 2 ) 課題の提出20% , ( 3 ) 小テスト ( 2回 ) 70%によって評価する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

# 英語リスニング演習B 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 英語リスニング演習B 【昼】

担当者名 /Instructor 河本 恵美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 英語を正しく理解し、英語による情報の収集を行うことができる。
	英語力	● 英語を正確に聴き取り、英語でコミュニケーションを行うことができる。
思考・判断・表現	その他言語力	
	課題発見・分析・解決力	
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力	
	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英語リスニング演習B

ENG256M

## 授業の概要 /Course Description

この授業では、天文学、政治科学、生物学などのアカデミックなトピックを取り上げた講義を聞き、理解する能力を養成することを目指す。毎回の授業で英語母語話者向けの講義を聞き取り、実践的なリスニングやノートのとり方を学ぶ。予習課題をオンラインで提出し、グループやペアでの活動を頻繁に行うので、それらの活動への積極的な参加が必要である。

## 教科書 /Textbooks

David Beglar and Neil Murray 『Contemporary Topics 3: Academic Listening and Note-Taking Skills (Third edition)』（Pearson ELT, 2009年）

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

○教科書準拠のDVD ( 詳細は初回授業で説明する )

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業計画は以下のとおりであるが、履修者の理解や関心に依りて内容を調整する。

- 1 . Introduction
- 2 . Unit 1 Communication Studies: Slang and Language Change
- 3 . Unit 2 Child Psychology: The Genius Within
- 4 . Unit 3 Sociology: Social Status
- 5 . Unit 4 Business: The Art of Marketing in a Global Culture
- 6 . Unit 5 Cognitive Psychology: Memory
- 7 . Unit 6 Anthropology biology: The Science of Love
- 8 . Review of unit1-6, 小テスト 1
- 9 . Unit 7 Astronomy: Mission to Mars
- 10 . Unit 8 Political Science: Big Brother and the Surveillance Society
- 11 . Unit 9 Linguistics: Animal Communication
- 12 . Unit 10 Economics: The Evolution of Money
- 13 . Unit 11 Biology: The Fountain of Youth
- 14 . Unit 12 Sociology: Marriage
- 15 . Review of unit7-12, 小テスト 2

## 成績評価の方法 /Assessment Method

成績は ( 1 ) 授業参加に対する積極性10% , ( 2 ) 課題の提出20% , ( 3 ) 小テスト ( 2回 ) 70%によって評価する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

# 英語リスニング演習B 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# Reading and Discussion I 【昼】

担当者名 /Instructor 河本 恵美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	英語を正しく理解し、英語による情報の収集を行うことができる。
	英語力	●	英語を正確に理解し、英語でコミュニケーションを行うことができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語を通して異文化に積極的に関わっていく態度を身につけている。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

Reading and Discussion I

ENG253M

## 授業の概要 /Course Description

この授業では、流暢で正確な読解力と、読んだ内容や関連する事柄について英語で議論する能力の養成を目指す。毎回の授業で短い英語の物語を読み、その内容や関連する事柄（異文化に関わる事柄など）についてグループで議論したり発表したりする。予習・復習課題の提出や、グループやペアでの活動を毎回行うので、それらの活動への積極的な参加が必要である。

## 教科書 /Textbooks

Mark Furr (ed) (2007) 『Bookworms Club Gold: Stories for reading circles (Stage3&4)』 Oxford University Press (896円)

Mark Furr (ed) (2009) 『Bookworms Club Platinum: Stories for reading circles (Stage4&5)』 Oxford University Press (896円)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業中に適宜紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業計画は以下のとおりであるが、履修者の理解や関心にに応じて内容を調整する。

- 1 . Introduction
- 2 . The Black Cat
- 3 . Sredni Vashter
- 4 . The Railway Crossing
- 5 . The Daffodil Sky
- 6 . A Moment of Madness
- 7 . The secret
- 8 . Review, Group presentation1
- 9 . The Experiment
- 10 . No Morning After
- 11 . The Nine Billiomn Names of God
- 12 . Across the Australian Desert
- 13 . Casting the Runes
- 14 . The Songs of Distant Earth
- 15 . Review, Group Presentaiton2

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度（グループワーク等での積極性）：20%

課題提出：40%

プレゼンテーション：40%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# Reading and Discussion I 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords



# Reading and Discussion I 【昼】

担当者名 /Instructor クレイグ・ランバート / Craig P. Lambert / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 / 2年次  
単位 /Credits 2単位 / 2単位  
学期 /Semester 1学期 / 1学期  
授業形態 /Class Format 講義・実習 / 講義・実習  
クラス /Class 2 - 2 / 2 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	英語を正しく理解し、英語による情報の収集を行うことができる。
	英語力	●	英語を正確に理解し、英語でコミュニケーションを行うことができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語を通して異文化に積極的に関わっていく態度を身につけている。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

Reading and Discussion I

ENG253M

## 授業の概要 /Course Description

Learners will read unabridged stories, dramas or novels in English each week in order to develop comprehension and self-expression skills. To facilitate this process, they may be provided with support such as: (1) organizing activities that focus their attention of key elements of the story, (2) notes to draw their attention to difficult or idiomatic aspects of the language used, and (3) videos to help them experience how the language is used in its social context.

## 教科書 /Textbooks

Roald Dahl. Ten Short Stories. Penguin student edition edited by Ronald Carter. Penguin Books. ISBN: 978-0-14-081779-9.

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

Supplementary resources to be used each term will be specified by the instructor.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Orientation
- 2 回 The Umbrella Man
- 3 回 Dip in the Pool
- 4 回 The Butler
- 5 回 The Hitchhiker
- 6 回 Mr. Botibol (Part 1)
- 7 回 Mr. Botibol (Part 2)
- 8 回 Review
- 9 回 My Lady Love, My Dove
- 10 回 The Way up to Heaven
- 1 1 回 Parson's Pleasure (Part 1)
- 1 2 回 Parson's Pleasure (Part 2)
- 1 3 回 The Sound Machine
- 1 4 回 The Wish
- 1 5 回 Review

## 成績評価の方法 /Assessment Method

- 40% Weekly homework
- 40% Active in-class discussion
- 20% Final examination

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# Reading and Discussion I 【昼】

## 履修上の注意 /Remarks

Learners will read approximately 10 pages of unabridged text each week and complete written assignment to help them prepare for in-class discussions.

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# Reading and Discussion I 【昼】

担当者名 /Instructor  デニス・ジョーンズ / 北方キャンパス  非常勤講師

履修年次 /Year  2年次  単位 /Credits  2単位  学期 /Semester  1学期  授業形態 /Class Format  講義・実習  クラス /Class  2 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	英語を正しく理解し、英語による情報の収集を行うことができる。
	英語力	●	英語を正確に理解し、英語でコミュニケーションを行うことができる。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語を通して異文化に積極的に関わっていく態度を身につけている。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力 コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

Reading and Discussion I

ENG253M

## 授業の概要 /Course Description

The purpose of the course will be to develop reading and discussion skills, while familiarizing students with idiomatic English in a variety of contexts. Texts are provided on a weekly basis, together with study guides, which include comprehension questions, vocabulary items, and topics for discussion. As much of the reading, as well as related discussion, is done orally in pair and group formats, it is essential that students attend on weekly basis. Students will be expected to complete written homework assignments relating to in-class work.

## 教科書 /Textbooks

Texts and study guides will be provided by the instructor

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

In consultation with the instructor

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction
- 2 回 “Ali Baba and the Forty Thieves”
- 3 回 “Beauty and the Beast”
- 4 回 Oscar Wilde, “The Happy Prince,” Part 1
- 5 回 The Happy Prince,” Part 2
- 6 回 James Joyce, “Eveline”
- 7 回 E. M. Forster, “The Other Side of the Hedge”
- 8 回 Mid-term test
- 9 回 D. H. Lawrence, “The Rocking Horse Winner,” Part 1
- 10 回 Lawrence, “The Rocking Horse Winner,” Part 2
- 11 回 Lawrence, “The Rocking Horse Winner,” Part 3
- 12 回 Haruki Murakami, “The Birthday Girl,” Part 1
- 13 回 Murakami, “The Birthday Girl,” Part 2
- 14 回 Murakami, “The Birthday Girl,” Part 3
- 15 回 Review & Summation

## 成績評価の方法 /Assessment Method

In-class reading and discussion -- 25%    Homework assignments --25%    Mid-term and final tests -- 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

# Reading and Discussion I 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# Reading and Discussion I 【昼】

担当者名 /Instructor DENIS・ジョーンズ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 授業形態 講義・実習 クラス 2 - 4 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	英語を正しく理解し、英語による情報の収集を行うことができる。
	英語力	●	英語を正確に理解し、英語でコミュニケーションを行うことができる。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語を通して異文化に積極的に関わっていく態度を身につけている。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力 コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

Reading and Discussion I

ENG253M

## 授業の概要 /Course Description

The purpose of the course will be to develop reading and discussion skills, while familiarizing students with idiomatic English in a variety of contexts. Texts are provided on a weekly basis, together with study guides, which include comprehension questions, vocabulary items, and topics for discussion. As much of the reading, as well as related discussion, is done orally in pair and group formats, it is essential that students attend on weekly basis. Students will be expected to complete written homework assignments relating to in-class work.

## 教科書 /Textbooks

Texts and study guides will be provided by the instructor

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

In consultation with the instructor

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2回 “Ali Baba and the Forty Thieves”
- 3回 “Beauty and the Beast”
- 4回 Oscar Wilde, “The Happy Prince,” Part 1
- 5回 The Happy Prince,” Part 2
- 6回 James Joyce, “Eveline”
- 7回 E. M. Forster, “The Other Side of the Hedge”
- 8回 Mid-term test
- 9回 D. H. Lawrence, “The Rocking Horse Winner,” Part 1
- 10回 Lawrence, “The Rocking Horse Winner,” Part 2
- 11回 Lawrence, “The Rocking Horse Winner,” Part 3
- 12回 Haruki Murakami, “The Birthday Girl,” Part 1
- 13回 Murakami, “The Birthday Girl,” Part 2
- 14回 Murakami, “The Birthday Girl,” Part 3
- 15回 Review & Summation

## 成績評価の方法 /Assessment Method

In-class reading and discussion -- 25% Homework assignments --25% Mid-term and final tests -- 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

# Reading and Discussion I 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# Reading and Discussion II 【昼】

担当者名 細川 博文 / 北方キャンパス 非常勤講師  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・実習 クラス 2 - 1  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	英語を正しく理解し、英語による情報の収集を行うことができる。
	英語力	●	英語を正確に理解し、英語でコミュニケーションを行うことができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語を通して異文化に積極的に関わっていく態度を身につけている。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

Reading and Discussion II

ENG254M

## 授業の概要 /Course Description

英語力をつける最善の方法は英語を使うことです。本科目では文法訳読式指導は行わず、本文の内容に関する英語での発問を通して読解力およびコミュニケーション力を育成する。まず、テキストの内容についてグループで確認し、その後クラス全体で確認を行う。毎回テキストの内容に関連するテーマについてグループ討論を行い、各自の意見を交換する。したがって、受講者の積極的な授業参加を求める。

## 教科書 /Textbooks

Lee and Gundersen (2011) Select Readings: Pre-intermediate (2nd ed.) Oxford University Press

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

- ( 1 ) Gairns and Redman (2008) Oxford Word Skills. Oxford University Press
- ( 2 ) 石黒昭博著 『総合英語フォレスト』( 桐原書店 )

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 : 授業方針の説明および使用テキストの紹介・分析
- 第 2 回 : Ch. 1: Are you getting enough sleep? グループ討論および発表
- 第 3 回 : Ch. 2: Mika's homestay in London グループ討論および発表
- 第 4 回 : Ch. 4: Helping others グループ討論および発表
- 第 5 回 : Ch. 5: Generation Z: Digital natives グループ討論および発表
- 第 6 回 : Ch. 6: How to be a successful businessperson グループ討論および発表
- 第 7 回 : Ch. 7: The growth of urban farming グループ討論および発表
- 第 8 回 : 中間振り返りセッション
- 第 9 回 : Ch. 9: Baseball fans around the world グループ討論および発表
- 第 10 回 : Ch. 10: Mobile phones: hang up or keep talking? グループ討論および発表
- 第 11 回 : Ch. 11: Vanessa-Mae: A 21st century musician グループ討論および発表
- 第 12 回 : Ch. 12: A day in the life of a freshman グループ討論および発表
- 第 13 回 : Ch. 13: Love at first sight グループ討論および発表
- 第 14 回 : Ch. 14: Great Places to Visit グループ討論および発表
- 第 15 回 : 授業を振り返り自由討論を行う

定期試験

## 成績評価の方法 /Assessment Method

- ( 1 ) 授業活動:50% ( 授業参加度、読解、討論参加を含む )
  - ( 2 ) 期末試験:50%
- ※ 詳細については、授業初回に説明する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## Reading and Discussion II 【昼】

### 履修上の注意 /Remarks

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ( 1 ) 発問に答えながらテキストをより深く理解できる読解力をつける。
- ( 2 ) テキスト理解のために既有知識や推論を適切に使える力をつける。
- ( 3 ) テキストに関連するテーマについて、討論できるだけの英語力・コミュニケーション力をつける。

### キーワード /Keywords



# Reading and Discussion II 【昼】

担当者名 /Instructor デニス・ジョーンズ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 講義・実習  
クラス /Class 2 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	英語を正しく理解し、英語による情報の収集を行うことができる。
	英語力	●	英語を正確に理解し、英語でコミュニケーションを行うことができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語を通して異文化に積極的に関わっていく態度を身につけている。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

Reading and Discussion II

ENG254M

## 授業の概要 /Course Description

Course seeks to develop students' ability to read and comprehend longer texts on a variety of topics. Newspaper articles, essays, and short fiction will be used to improve reading speed, expand vocabulary, and help students identify and discuss key points. Readings, along with comprehension and speaking exercises, are conducted on individual basis, as well as in pair and group format. In course of the semester, students will be expected to prepare sample texts and study guides. Exercises are designed to help students prepare for reading sections of standardized tests (TOEIC, TOEFL, IELTS).

## 教科書 /Textbooks

Texts and study guides will be provided by the instructor

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

In consultation with the instructor

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction
- 2 回 “Are We Still Evolving?”
- 3 回 “Intelligent Machines”
- 4 回 E. M. Forster, “The Machine Stops”
- 5 回 Raymond Carver, “Neighbors”
- 6 回 “Marriage”
- 7 回 Ernest Hemingway, “The Cat in the Rain”
- 8 回 Mid-term test
- 9 回 Media and Privacy: Cheever, “The Enormous Radio”
- 1 0 回 Cheever, “The Enormous Radio” (cont.)
- 1 1 回 Generations: Flannery O'Connor, “Everything that Rises Must Converge”
- 1 2 回 O'Connor, “Everything that Rises Must Converge” (cont.)
- 1 3 回 Youth and Age: “The Odyssey Years”
- 1 4 回 Generation X, Generation Y ...
- 1 5 回 Review and Summary

## 成績評価の方法 /Assessment Method

25% -- in-class reading and discussion 25% -- homework assignments 50% -- mid-term and final tests

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## Reading and Discussion II 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# Reading and Discussion II 【昼】

担当者名 /Instructor デニス・ジョーンズ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 講義・実習  
クラス /Class 2 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	英語を正しく理解し、英語による情報の収集を行うことができる。
	英語力	●	英語を正確に理解し、英語でコミュニケーションを行うことができる。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語を通して異文化に積極的に関わっていく態度を身につけている。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力 コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

Reading and Discussion II

ENG254M

## 授業の概要 /Course Description

Course seeks to develop students' ability to read and comprehend longer texts on a variety of topics. Newspaper articles, essays, and short fiction will be used to improve reading speed, expand vocabulary, and help students identify and discuss key points. Readings, along with comprehension and speaking exercises, are conducted on individual basis, as well as in pair and group format. In course of the semester, students will be expected to prepare sample texts and study guides. Exercises are designed to help students prepare for reading sections of standardized tests (TOEIC, TOEFL, IELTS).

## 教科書 /Textbooks

Texts and study guides will be provided by the instructor

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

In consultation with the instructor

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction
- 2 回 “Are We Still Evolving?”
- 3 回 “Intelligent Machines”
- 4 回 E. M. Forster, “The Machine Stops”
- 5 回 Raymond Carver, “Neighbors”
- 6 回 “Marriage”
- 7 回 Ernest Hemingway, “The Cat in the Rain”
- 8 回 Mid-term test
- 9 回 Media and Privacy: Cheever, “The Enormous Radio”
- 1 0 回 Cheever, “The Enormous Radio” (cont.)
- 1 1 回 Generations: Flannery O'Connor, “Everything that Rises Must Converge”
- 1 2 回 O'Connor, “Everything that Rises Must Converge” (cont.)
- 1 3 回 Youth and Age: “The Odyssey Years”
- 1 4 回 Generation X, Generation Y ...
- 1 5 回 Review and Summary

## 成績評価の方法 /Assessment Method

25% -- in-class reading and discussion 25% -- homework assignments 50% -- mid-term and final tests

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## Reading and Discussion II 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# Reading and Discussion II 【昼】

担当者名 /Instructor 河本 恵美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 英語を正しく理解し、英語による情報の収集を行うことができる。
	英語力	● 英語を正確に理解し、英語でコミュニケーションを行うことができる。
思考・判断・表現	その他言語力	
	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 英語を通して異文化に積極的に関わっていく態度を身につけている。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力 コミュニケーション力	

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

Reading and Discussion II

ENG254M

## 授業の概要 /Course Description

この授業では、正確な読解力と、読んだ内容や関連する事柄について英語で考え、議論する能力の養成を目指す。授業で使用するテキストは、異文化コミュニケーションにおける重要概念を中心としており、毎回の授業では各章の内容や関連する事柄についてグループで議論したり、発表したりする。同時に、授業を通じて多文化社会・エスニティーに対する理解や受容、個々の意識の変革の大切さを学ぶことも目指す。課題（予習・復習・多読レポート等）の提出や、グループでの活動を毎回行うので、積極的な授業参加が必要である。

## 教科書 /Textbooks

Different Realities~Adventures in Intercultural Communication~ 異文化コミュニケーションー己を知る、相手を知るー 南雲堂 ISBN: 978-4-523-17565-0

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業中に多読用教材や関連資料（ハンドアウト）を配布する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業計画は以下のとおりであるが、履修者の理解や関心に応じて内容を調整する。

- 1回 Orientation
- 2回 Culture and Identity 文化ってなに？
- 3回 Hidden Culture 見えない文化が、私たちの判断を左右する
- 4回 Stereotypes 思い込みが、コミュニケーションを妨げる
- 5回 Words, Words, Words 言葉の違いが生むコミュニケーション・ギャップ
- 6回 Communication Without Words ノンバーバル・コミュニケーションー身体は話す
- 7回 Diversity ひとつの国には、一つの文化しかない？様々な文化の共存
- 8回 Review, Presentation 1
- 9回 Perception 緑は青？ピンクは桃色？文化によって異なる見方
- 10回 Communication Styles (1) 「沈黙」もコミュニケーションのシグナル
- 11回 Communication Styles (2) 腹芸ってどんな芸？ - 語る文化、語らぬ文化
- 12回 Values 行動の規範となる価値観は文化によって様々
- 13回 Deep Culture (Beliefs and Values) 文化を支える思想・信条ー個人主義・集団主義
- 14回 Culture Shock カルチャー・ショックから学ぶこと
- 15回 Review, Presentation 2

## 成績評価の方法 /Assessment Method

30%： 授業への参加度（グループワーク等での積極性）  
40%： 課題提出（予習・復習・多読レポート他）  
30%： プレゼンテーション

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## Reading and Discussion II 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 日英翻訳演習 【昼】

担当者名 /Instructor だニエル・ストラック / Daniel C. Strack / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 授業形態 講義・実習 クラス 2 - 1 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	正当な翻訳方法を通して良質な英訳を執筆することができる。
	英語力	●	英語圏の人たちにとって理解されやすい翻訳を執筆することができる。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力	●	翻訳作業に関して自分の見解を明確に発言することができる。
	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

日英翻訳演習

ENG233M

## 授業の概要 /Course Description

日本の文学作品を英語に翻訳する。作品の引用箇所を徹底的に解釈したのちに、修辞学上の理解に基づいて翻訳することができれば幸いである。本授業は、英語の表現力及び英作文に関する知識を向上させると同時に、日本語及び日本文学への理解を深めることを目的とする。

## 教科書 /Textbooks

Strack, Daniel C. Literature in the Crucible of Translation: A Cognitive Account. (Okayama: University Education Press, 2007)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

プリントを必要に応じて配布する。適切な和英辞典或いは電子辞典(辞典の選択は各自判断の上)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 当授業の翻訳に対するアプローチの紹介
- 第2回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【翻訳とは何か】
- 第3回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【名詞】
- 第4回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【方言】
- 第5回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【総理解】
- 第6回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【概念】
- 第7回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【詩学】
- 第8回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【背景の知識】
- 第9回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【読者間における差異】
- 第10回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【対話】
- 第11回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【敬語】
- 第12回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【類音異義語】
- 第13回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【タイトル】
- 第14回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【歴史的観点】
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加：30% 小テスト：0% 期末試験：35% 課題：22% 態度：13%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

学生は毎回その日のリーディング(英語)を読んで、授業の前に日本語の翻訳課題を英語に翻訳します。授業中では、リーディングに対する質問を解答してから、翻訳課題の例文を見ながら、その翻訳における特徴や難題を取り上げていきます。

# 日英翻訳演習 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords



# 日英翻訳演習 【昼】

担当者名 /Instructor だニエル・ストラック / Daniel C. Strack / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 授業形態 講義・実習 クラス 2 - 2 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	正当な翻訳方法を通して良質な英訳を執筆することができる。
	英語力	●	英語圏の人たちにとって理解されやすい翻訳を執筆することができる。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力	●	翻訳作業に関して自分の見解を明確に発言することができる。
	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

日英翻訳演習

ENG233M

## 授業の概要 /Course Description

日本の文学作品を英語に翻訳する。作品の引用箇所を徹底的に解釈したのちに、修辞学上の理解に基づいて翻訳することができれば幸いである。本授業は、英語の表現力及び英作文に関する知識を向上させると同時に、日本語及び日本文学への理解を深めることを目的とする。

## 教科書 /Textbooks

Strack, Daniel C. Literature in the Crucible of Translation: A Cognitive Account. (Okayama: University Education Press, 2007)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

プリントを必要に応じて配布する。適切な和英辞典或いは電子辞典(辞典の選択は各自判断の上)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 当授業の翻訳に対するアプローチの紹介
- 第2回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【翻訳とは何か】
- 第3回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【名詞】
- 第4回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【方言】
- 第5回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【総理解】
- 第6回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【概念】
- 第7回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【詩学】
- 第8回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【背景の知識】
- 第9回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【読者間における差異】
- 第10回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【対話】
- 第11回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【敬語】
- 第12回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【類音異義語】
- 第13回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【タイトル】
- 第14回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【歴史的観点】
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加：30% 小テスト：0% 期末試験：35% 課題：22% 態度：13%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

学生は毎回その日のリーディング(英語)を読んで、授業の前に日本語の翻訳課題を英語に翻訳します。授業中では、リーディングに対する質問を解答してから、翻訳課題の例文を見ながら、その翻訳における特徴や難題を取り上げていきます。

# 日英翻訳演習 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 日英翻訳演習 【昼】

担当者名 /Instructor だニエル・ストラック / Daniel C. Strack / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 授業形態 講義・実習 クラス 2 - 3 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	正当な翻訳方法を通して良質な英訳を執筆することができる。
	英語力	●	英語圏の人たちにとって理解されやすい翻訳を執筆することができる。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力	●	翻訳作業に関して自分の見解を明確に発言することができる。
	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

日英翻訳演習

ENG233M

## 授業の概要 /Course Description

日本の文学作品を英語に翻訳する。作品の引用箇所を徹底的に解釈したのちに、修辞学上の理解に基づいて翻訳することができれば幸いである。本授業は、英語の表現力及び英作文に関する知識を向上させると同時に、日本語及び日本文学への理解を深めることを目的とする。

## 教科書 /Textbooks

Strack, Daniel C. Literature in the Crucible of Translation: A Cognitive Account. (Okayama: University Education Press, 2007)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

プリントを必要に応じて配布する。適切な和英辞典或いは電子辞典(辞典の選択は各自判断の上)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 当授業の翻訳に対するアプローチの紹介
- 第2回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【翻訳とは何か】
- 第3回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【名詞】
- 第4回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【方言】
- 第5回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【総理解】
- 第6回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【概念】
- 第7回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【詩学】
- 第8回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【背景の知識】
- 第9回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【読者間における差異】
- 第10回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【対話】
- 第11回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【敬語】
- 第12回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【類音異義語】
- 第13回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【タイトル】
- 第14回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【歴史的観点】
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加：30% 小テスト：0% 期末試験：35% 課題：22% 態度：13%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

学生は毎回その日のリーディング(英語)を読んで、授業の前に日本語の翻訳課題を英語に翻訳します。授業中では、リーディングに対する質問を解答してから、翻訳課題の例文を見ながら、その翻訳における特徴や難題を取り上げていきます。

# 日英翻訳演習 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 日英翻訳演習 【昼】

担当者名 /Instructor だニエル・ストラック / Daniel C. Strack / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 授業形態 講義・実習 クラス 2 - 4 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	正当な翻訳方法を通して良質な英訳を執筆することができる。
	英語力	●	英語圏の人たちにとって理解されやすい翻訳を執筆することができる。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力	●	翻訳作業に関して自分の見解を明確に発言することができる。
	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

日英翻訳演習

ENG233M

## 授業の概要 /Course Description

日本の文学作品を英語に翻訳する。作品の引用箇所を徹底的に解釈したのちに、修辞学上の理解に基づいて翻訳することができれば幸いである。本授業は、英語の表現力及び英作文に関する知識を向上させると同時に、日本語及び日本文学への理解を深めることを目的とする。

## 教科書 /Textbooks

Strack, Daniel C. Literature in the Crucible of Translation: A Cognitive Account. (Okayama: University Education Press, 2007)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

プリントを必要に応じて配布する。適切な和英辞典或いは電子辞典(辞典の選択は各自判断の上)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 当授業の翻訳に対するアプローチの紹介
- 第2回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【翻訳とは何か】
- 第3回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【名詞】
- 第4回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【方言】
- 第5回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【総理解】
- 第6回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【概念】
- 第7回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【詩学】
- 第8回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【背景の知識】
- 第9回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【読者間における差異】
- 第10回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【対話】
- 第11回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【敬語】
- 第12回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【類音異義語】
- 第13回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【タイトル】
- 第14回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【歴史的観点】
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加：30% 小テスト：0% 期末試験：35% 課題：22% 態度：13%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

学生は毎回その日のリーディング(英語)を読んで、授業の前に日本語の翻訳課題を英語に翻訳します。授業中では、リーディングに対する質問を解答してから、翻訳課題の例文を見ながら、その翻訳における特徴や難題を取り上げていきます。

# 日英翻訳演習【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# Presentation and Writing A 【昼】

担当者名 /Instructor  
フィオナ・クリーサー / Fiona Creaser / 英米学科

履修年次 /Year 2年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 講義・実習  
クラス /Class 2 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	英語の論理構造を正しく理解し、英語による情報の収集や分析・研究を行うこと。
	英語力	●	英語の読み・書きが正確にでき、英語圏の人たちとコミュニケーションを行うこと。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力	●	専門的知識を応用しながら、英語で自分の意見を明確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語のコミュニケーション力を発揮し共同の目標に向けた活動を推進すること。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

Presentation and Writing A

ENG250M

## 授業の概要 /Course Description

Students will learn how to write and format a research paper of their own choice. You will study how to choose a suitable research topic, search for appropriate sources and format those sources using in-text citations. You will also learn how to avoid plagiarism and create a solid reference list of information. You will also be taught how to present your research to your peers and learn how to evaluate your peers research papers and presentations.

## 教科書 /Textbooks

Writing Research Papers: From Essay to Research Paper by Dorothy E. Zemach, Daniel Broudy, and Chris Valvona.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

In consultation with the instructor.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: Review of the Essay  
Week 2: Choosing a Topic  
Week 3: Peer Review  
Week 4: Researching  
Week 5: Outlining  
Week 6: Avoiding Plagiarism  
Week 7: The Language of the Research Paper  
Week 8: Writing the First Draft  
Week 9: In-text Citations  
Week 10: Academic Language  
Week 11: Editing your Paper  
Week 12: Presenting your Research  
Week 13: Presentations: Group 1  
Week 14: Presentations: Group 2  
Week 15: Presentations: Group 3

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Homework and in class assessment combined: 50%, Final Research Paper: 30%, Presentation of Paper: 20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# Presentation and Writing A 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords



# Presentation and Writing A 【昼】

担当者名 /Instructor  
フィオナ・クリーサー / Fiona Creaser / 英米学科

履修年次 /Year 2年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 講義・実習  
クラス /Class 2 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	英語の論理構造を正しく理解し、英語による情報の収集や分析・研究を行うこと。
	英語力	●	英語の読み・書きが正確にでき、英語圏の人たちとコミュニケーションを行うこと。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力	●	専門的知識を応用しながら、英語で自分の意見を明確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語のコミュニケーション力を発揮し共同の目標に向けた活動を推進すること。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

Presentation and Writing A

ENG250M

## 授業の概要 /Course Description

Students will learn how to write and format a research paper of their own choice. You will study how to choose a suitable research topic, search for appropriate sources and format those sources using in-text citations. You will also learn how to avoid plagiarism and create a solid reference list of information. You will also be taught how to present your research to your peers and learn how to evaluate your peers research papers and presentations.

## 教科書 /Textbooks

Writing Research Papers: From Essay to Research Paper by Dorothy E. Zemach, Daniel Broudy, and Chris Valvona.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

In consultation with the instructor.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: Review of the Essay  
Week 2: Choosing a Topic  
Week 3: Peer Review  
Week 4: Researching  
Week 5: Outlining  
Week 6: Avoiding Plagiarism  
Week 7: The Language of the Research Paper  
Week 8: Writing the First Draft  
Week 9: In-text Citations  
Week 10: Academic Language  
Week 11: Editing your Paper  
Week 12: Presenting your Research  
Week 13: Presentations: Group 1  
Week 14: Presentations: Group 2  
Week 15: Presentations: Group 3

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Homework and in class assessment combined: 50%, Final Research Paper: 30%, Presentation of Paper: 20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# Presentation and Writing A 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# Presentation and Writing A 【昼】

担当者名 シェーン・ドイル / 北方キャンパス 非常勤講師  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・実習 クラス 2 - 3  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	英語の論理構造を正しく理解し、英語による情報の収集や分析・研究を行うこと。
	英語力	●	英語の読み・書きが正確にでき、英語圏の人たちとコミュニケーションを行うこと。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力	●	専門的知識を応用しながら、英語で自分の意見を明確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語のコミュニケーション力を発揮し共同の目標に向けた活動を推進すること。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

Presentation and Writing A

ENG250M

## 授業の概要 /Course Description

Students will learn how to write and format a research paper on a topic of their own choice. You will choose a suitable research topic, search for appropriate sources and format those sources using in-text citations. You will also learn how to avoid plagiarism and create a solid reference list of information. You will also be taught how to present your research to your peers and learn how to evaluate your peer's research papers and presentations.

## 教科書 /Textbooks

Writing Research Papers: from Essay to Research Paper by Dorothy E. Zemach, Daniel Broudy, and Chris Valvona

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

In consultation with the Instructor

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: Review of the Essay  
Week 2: Choosing a Topic  
Week 3: Peer Review  
Week 4: Researching  
Week 5: Outlining  
Week 6: Avoiding Plagiarism  
Week 7: The Language of the Research Paper  
Week 8: Writing the First Draft  
Week 9: In-text Citations  
Week 10: Academic Language  
Week 11: Editing your Paper  
Week 12: Presenting your Research  
Week 13: Presentations: Group 1  
Week 14: Presentations: Group 2  
Week 15: Presentations: Group 3

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Homework and in-class assessment combined: 50%, Final Research Paper 30%, Presentation of Paper 20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# Presentation and Writing A 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# Presentation and Writing A 【昼】

担当者名 シェーン・ドイル / 北方キャンパス 非常勤講師  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・実習 クラス 2 - 4  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	英語の論理構造を正しく理解し、英語による情報の収集や分析・研究を行うこと。
	英語力	●	英語の読み・書きが正確にでき、英語圏の人たちとコミュニケーションを行うこと。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力	●	専門的知識を応用しながら、英語で自分の意見を明確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語のコミュニケーション力を発揮し共同の目標に向けた活動を推進すること。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

Presentation and Writing A

ENG250M

## 授業の概要 /Course Description

Students will learn how to write and format a research paper on a topic of their own choice. You will choose a suitable research topic, search for appropriate sources and format those sources using in-text citations. You will also learn how to avoid plagiarism and create a solid reference list of information. You will also be taught how to present your research to your peers and learn how to evaluate your peer's research papers and presentations.

## 教科書 /Textbooks

Writing Research Papers: from Essay to Research Paper by Dorothy E. Zemach, Daniel Broudy, and Chris Valvona

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

In consultation with the Instructor

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: Review of the Essay  
Week 2: Choosing a Topic  
Week 3: Peer Review  
Week 4: Researching  
Week 5: Outlining  
Week 6: Avoiding Plagiarism  
Week 7: The Language of the Research Paper  
Week 8: Writing the First Draft  
Week 9: In-text Citations  
Week 10: Academic Language  
Week 11: Editing your Paper  
Week 12: Presenting your Research  
Week 13: Presentations: Group 1  
Week 14: Presentations: Group 2  
Week 15: Presentations: Group 3

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Homework and in-class assessment combined: 50%, Final Research Paper 30%, Presentation of Paper 20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# Presentation and Writing A 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# Presentation and Writing B 【昼】

担当者名 /Instructor 木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 3 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	英語の論理構造を正しく理解し、英語による情報の収集や分析・研究を行う。
	英語力	●	英語の読み・書きが正確にでき、英語圏の人たちとコミュニケーションを行うこと。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力	●	専門的知識を応用しながら、英語で自分の意見を明晰に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語のコミュニケーション力を発揮し共同の目標に向けた活動を推進すること。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

Presentation and Writing B	ENG350M
----------------------------	---------

## 授業の概要 /Course Description

Students will learn how to do academic presentations and write research papers. You will study how to choose a suitable research topic, search for appropriate sources and format those sources using in-text citations. You will also learn how to avoid plagiarism and create a solid reference list of information. You will also be taught how to present your research to your peers and learn how to evaluate your peers research papers and presentations.

## 教科書 /Textbooks

Roger J. Davies & Osamu Ikeno ed., The Japanese Mind: Understanding Contemporary Japanese Culture (Tokyo: Tuttle Publishing)

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Relevant material for further study will be introduced during each class

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: Review of the Essay  
Week 2: Choosing a Topic  
Week 3: Peer Review  
Week 4: Researching  
Week 5: Outlining  
Week 6: Avoiding Plagiarism  
Week 7: The Language of the Research Paper  
Week 8: Writing the First Draft  
Week 9: In-text Citations  
Week 10: Academic Language  
Week 11: Editing your Paper  
Week 12: Presenting your Research  
Week 13: Presentations: Group 1  
Week 14: Presentations: Group 2  
Week 15: Presentations: Group 3

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Essays 50%, Presentation 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

# Presentation and Writing B 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords



# Presentation and Writing B 【昼】

担当者名 /Instructor 木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 3 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	英語の論理構造を正しく理解し、英語による情報の収集や分析・研究を行う。
	英語力	●	英語の読み・書きが正確にでき、英語圏の人たちとコミュニケーションを行うこと。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力	●	専門的知識を応用しながら、英語で自分の意見を明晰に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語のコミュニケーション力を発揮し共同の目標に向けた活動を推進すること。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

Presentation and Writing B	ENG350M
----------------------------	---------

## 授業の概要 /Course Description

Students will learn how to do academic presentations and write research papers. You will study how to choose a suitable research topic, search for appropriate sources and format those sources using in-text citations. You will also learn how to avoid plagiarism and create a solid reference list of information. You will also be taught how to present your research to your peers and learn how to evaluate your peers research papers and presentations.

## 教科書 /Textbooks

Roger J. Davies & Osamu Ikeno ed., The Japanese Mind: Understanding Contemporary Japanese Culture (Tokyo: Tuttle Publishing)

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Relevant material for further study will be introduced during each class

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1: Review of the Essay
- Week 2: Choosing a Topic
- Week 3: Peer Review
- Week 4: Researching
- Week 5: Outlining
- Week 6: Avoiding Plagiarism
- Week 7: The Language of the Research Paper
- Week 8: Writing the First Draft
- Week 9: In-text Citations
- Week 10: Academic Language
- Week 11: Editing your Paper
- Week 12: Presenting your Research
- Week 13: Presentations: Group 1
- Week 14: Presentations: Group 2
- Week 15: Presentations: Group 3

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Essays 50%, Presentation 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

# Presentation and Writing B 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# Presentation and Writing B 【昼】

担当者名 /Instructor アーノルド・ウェイン / ARNOLD Wayne E. / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 /Credits 単位 2単位 /Semester 学期 2学期 /Class Format 授業形態 講義・実習 /Class クラス 3 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	英語の論理構造を正しく理解し、英語による情報の収集や分析・研究を行う。
	英語力	●	英語の読み・書きが正確にでき、英語圏の人たちとコミュニケーションを行うこと。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力	●	専門的知識を応用しながら、英語で自分の意見を明確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語のコミュニケーション力を発揮し共同の目標に向けた活動を推進すること。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

Presentation and Writing B	ENG350M
----------------------------	---------

## 授業の概要 /Course Description

Presentation and Writing B aims to develop writing and presentation skills through active student participation in topic-focused writing topics and presentations in an all-English environment. Emphasis will be on developing English writing proficiency patterns and using them to generate accurate and efficient written expression. In the mid to latter stages of the course, students will be expected to prepare and give oral presentations on their selected essay topics.

## 教科書 /Textbooks

Longman Academic Writing Series 4: Essays Alice Oshima; Longman 2013.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

None

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Introduction to course and getting to know your classmates.
2. Chapter 1: Paragraph Structure, part 1
3. Chapter 7: Compare/Contrast Essay, part 1
4. Chapter 1: Paragraph structure, part 2
4. Chapter 7: Compare/Contrast Essay, part 2
5. Chapter 2: Unity and coherence, part 1 / presentation guidelines
6. Chapter 3: Using Outside sources, part 1.
7. Chapter 9: Types of sentences / presentation guidelines / peer review
8. Presentations on your essay topic / Essay due
9. Chapter 8: Argumentative essays, part 1
10. Chapter 2: Unity and coherence, part 2
11. Chapter 3: Using outside sources, part 2
12. Chapter 8: Argumentative essays, part 2
13. Chapter 10: Parallelism and Sentence problems / presentation guidelines
14. Chapter 14: Participles and participial phrases / peer review
15. Final presentations on essay topic / Essay due

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Attendance and participation: (30%); 2 Essays: (40%); In-class presentations: (30%)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# Presentation and Writing B 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# Presentation and Writing B 【昼】

担当者名 /Instructor アーノルド・ウェイン / ARNOLD Wayne E. / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 3 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 英語の論理構造を正しく理解し、英語による情報の収集や分析・研究を行う。
	英語力	● 英語の読み・書きが正確にでき、英語圏の人たちとコミュニケーションを行うこと。
思考・判断・表現	その他言語力	
	課題発見・分析・解決力	
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力	● 専門的知識を応用しながら、英語で自分の意見を明確に表現することができる。
	実践力（チャレンジ力）	
関心・意欲・態度	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 英語のコミュニケーション力を発揮し共同の目標に向けた活動を推進すること。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

Presentation and Writing B

ENG350M

## 授業の概要 /Course Description

Presentation and Writing B aims to develop writing and presentation skills through active student participation in topic-focused writing topics and presentations in an all-English environment. Emphasis will be on developing English writing proficiency patterns and using them to generate accurate and efficient written expression. In the mid to latter stages of the course, students will be expected to prepare and give oral presentations on their selected essay topics.

## 教科書 /Textbooks

Longman Academic Writing Series 4: Essays Alice Oshima; Longman 2013.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

None

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Introduction to course and getting to know your classmates.
2. Chapter 1: Paragraph Structure, part 1
3. Chapter 7: Compare/Contrast Essay, part 1
4. Chapter 1: Paragraph structure, part 2
4. Chapter 7: Compare/Contrast Essay, part 2
5. Chapter 2: Unity and coherence, part 1 / presentation guidelines
6. Chapter 3: Using Outside sources, part 1.
7. Chapter 9: Types of sentences / presentation guidelines / peer review
8. Presentations on your essay topic / Essay due
9. Chapter 8: Argumentative essays, part 1
10. Chapter 2: Unity and coherence, part 2
11. Chapter 3: Using outside sources, part 2
12. Chapter 8: Argumentative essays, part 2
13. Chapter 10: Parallelism and Sentence problems / presentation guidelines
14. Chapter 14: Participles and participial phrases / peer review
15. Final presentations on essay topic / Essay due

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Attendance and participation: (30%); 2 Essays: (40%); In-class presentations: (30%)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# Presentation and Writing B 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 英語リーディング演習I【昼】

担当者名 /Instructor 木下 善貞 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 3 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	英語の文章構造を正しく理解し、正確に解釈できる。
	英語力	●	英語を正確に読めて、英米及び英語圏の文化的背景が理解できる。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語を駆使して、異文化に積極的に関わっていく態度を身につける。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力 コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英語リーディング演習 I

ENG351M

## 授業の概要 /Course Description

Anthony TrollopeのThe Last Chronicle of Barsetを扱う。

①テキストが書かれた時代背景、社会状況のじゅうぶんな理解、②読む者の主観を排してテキストの意図する意味の把握、③叙述の仕方と文法の分析、以上3点がねらいである。

## 教科書 /Textbooks

必要な者はAnthony Trollope: The Last Chronicle of Barset (Penguin Classics)を購入する。

授業はこのテキストのコピーを適宜プリントして配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

R. C. Terry: Oxford Reader's Companion to Trollope (Oxford)

# 英語リーディング演習I【昼】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の進め方。1回に5頁ずつ読んでいく。担当となった受講生は授業日の2日前までに1頁の翻訳を木下に添付ファイルで提出する。授業では全員5頁を当然読んできているものとして訳出難解箇所、訳註必要箇所をチェックする。
- 2回 791-795頁の翻訳
  - 3回 796-800頁の翻訳
  - 4回 801-805頁の翻訳
  - 5回 806-810頁の翻訳
  - 6回 811-815頁の翻訳
  - 7回 816-820頁の翻訳
  - 8回 821-825頁の翻訳
  - 9回 826-830頁の翻訳
  - 10回 831-835頁の翻訳
  - 11回 836-840頁の翻訳
  - 12回 841-845頁の翻訳
  - 13回 846-850頁の翻訳
  - 14回 851-855頁の翻訳
  - 15回 856-860頁の翻訳

## 成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

担当頁の日本語訳をワードのファイルで提出する。各担当者は担当章のbrush-upに励み、書式を統一する。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords



# 英語リーディング演習I【昼】

担当者名 /Instructor 木下 善貞 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 3 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	英語の文章構造を正しく理解し、正確に解釈できる。
	英語力	●	英語を正確に読めて、英米及び英語圏の文化的背景が理解できる。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語を駆使して、異文化に積極的に関わっていく態度を身につける。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力 コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英語リーディング演習 I

ENG351M

## 授業の概要 /Course Description

Anthony TrollopeのThe Last Chronicle of Barsetを扱う。

①テキストが書かれた時代背景、社会状況のじゅうぶんな理解、②読む者の主観を排してテキストの意図する意味の把握、③叙述の仕方と文法の分析、以上3点がねらいである。

## 教科書 /Textbooks

必要な者はAnthony Trollope: The Last Chronicle of Barset (Penguin Classics)を購入する。

授業はこのテキストのコピーを適宜プリントして配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

R. C. Terry: Oxford Reader's Companion to Trollope (Oxford)

# 英語リーディング演習I【昼】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の進め方。1回に5頁ずつ読んでいく。担当となった受講生は授業日の2日前までに1頁の翻訳を木下に添付ファイルで提出する。授業では全員5頁を当然読んできているものとして訳出難解箇所、訳註必要箇所をチェックする。
- 2回 791-795頁の翻訳
  - 3回 796-800頁の翻訳
  - 4回 801-805頁の翻訳
  - 5回 806-810頁の翻訳
  - 6回 811-815頁の翻訳
  - 7回 816-820頁の翻訳
  - 8回 821-825頁の翻訳
  - 9回 826-830頁の翻訳
  - 10回 831-835頁の翻訳
  - 11回 836-840頁の翻訳
  - 12回 841-845頁の翻訳
  - 13回 846-850頁の翻訳
  - 14回 851-855頁の翻訳
  - 15回 856-860頁の翻訳

## 成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

担当頁の日本語訳をワードのファイルで提出する。各担当者は担当章のbrush-upに励み、書式を統一する。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 英語リーディング演習I【昼】

担当者名 /Instructor 田吹 長彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 3 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	英語の文章構造を正しく理解し、正確に解釈できる。
	英語力	●	英語を正確に読めて、英米及び英語圏の文化的背景が理解できる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語を駆使して、異文化に積極的に関わっていく態度を身につける。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英語リーディング演習 I

ENG351M

## 授業の概要 /Course Description

テーマ：「イギリス・ロマン派とスイス」

風光明媚なスイスを背景に、Lord Byronを中心とするイギリス・ロマン派の作家の動向を探索する。

産業革命・フランス革命・ナポレオン戦争といった激動の時代を経てスイスを旅した人たちの中にByron、P.B.Shelley、Mary Shelley、William Polidoriなどがある。

テキストの背景は、イギリスのLondonを出て、Dover, Belgium, Rhine河を經由、スイスのBaselから入国、同国内各地を旅してイタリアとの国境にあるSimplon峠まで、現在の観光地をほぼ網羅する。内容には名所旧蹟・風物・歴史・文化なども含む。

「英語リーディング演習I」では主にテキストの前半部分のLondonから Rhine河を経てスイスに着くまでと、同国レマン湖畔およびChamonix-Mont-Blanc地方を背景とする彼らの動向について精読する。

## 教科書 /Textbooks

Elma Dangerfield: Byron and the Romantics in Switzerland.

テキストについては授業の冒頭で説明する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

和書

- 上杉文世 『バイロン研究』 研究社
- 楠本哲夫 『永遠の巡礼詩人バイロン』 三省堂
- 阿部知二 『バイロン』 研究社
- 田吹長彦 『ヨーロッパ夢紀行、詩人バイロンの旅—ベルギー・ライン河・スイス編』 丸善出版サービスセンター  
その他、原書は多数あるが授業で必要に応じて紹介する。

# 英語リーディング演習I【昼】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

上記のテキストを精読。各種の映像・地図などを必要に応じて随時活用する予定。

「英語リーディング演習I」では、上記の原書の前半部分を精読する。必ず予習を行うこと。読解力によって進捗の度が均一でない場合は、予定が前後する場合がある。

- 1 講義内容の概説。原書の背景(時代・地理・イギリス・ロマン派)
- 2 Introduction, "Switzerland Revisited 1814-1817"(1)
- 3 Introduction, "Switzerland Revisited 1814-1817"(2)
- 4 London, Dover, Belgium(Ostend,Brussels, Waterloo, etc.), the Rhine
- 5 Basel, Bern, Morat, Avenches, Lausanne, Lake Lemman (1)
- 6 Basel, Bern, Morat, Avenches, Lausanne, Lake Lemman (2)
- 7 Byron and the Romantics (Lake Lemman, Geneva, Sécheron, Cologny )(1)
- 8 Byron and the Romantics (Lake Lemman, Geneva, Sécheron, Cologny) (2)
- 9 Lake Lemman and Rousseau's Nouvelle Héloïse (1)
- 10 Lake Lemman and Rousseau's Nouvelle Héloïse (2)
- 11 Lausanne and Edward Gibbon
- 12 Coppet and Mme de Staël (1)
- 13 Coppet and Mme de Staël (2)
- 14 Chamonix-Mont-Blanc and the Shelleys
- 15 Chamonix-Mont-Blanc and the Shelleys、および総括。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度(予習・積極性・理解度を含む)...20% 期末試験...80%。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

語学力・読解力を増強するために、必ず講義ノートを作成して、各授業の予習をすること。

この授業は、自主的な予習を重視します。

なお、当然のことながら、

開講回数の2 / 3以上の出席回数がないと単位認定はできません。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ヨーロッパ旅行をする場合のさまざまな旅の情報を提供できると思います。

## キーワード /Keywords

ヨーロッパの歴史・地理・文化・文学・宗教。旅とイギリス・ロマン派文学。

# 英語リーディング演習I【昼】

担当者名 /Instructor 田吹 長彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 3 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 英語の文章構造を正しく理解し、正確に解釈できる。
	英語力	● 英語を正確に読めて、英米及び英語圏の文化的背景が理解できる。
思考・判断・表現	その他言語力	
	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 英語を駆使して、異文化に積極的に関わっていく態度を身につける。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力 コミュニケーション力	

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英語リーディング演習 I

ENG351M

## 授業の概要 /Course Description

テーマ：「イギリス・ロマン派とスイス」

風光明媚なスイスを背景に、Lord Byronを中心とするイギリス・ロマン派の作家の動向を探索する。

産業革命・フランス革命・ナポレオン戦争といった激動の時代を経てスイスを旅した人たちの中にByron、P.B.Shelley、Mary Shelley、William Polidoriなどがある。

テキストの背景は、イギリスのLondonを出て、Dover, Belgium, Rhine河を經由、スイスのBaselから入国、同国内各地を旅してイタリアとの国境にあるSimplon峠まで、現在の観光地をほぼ網羅する。内容には名所旧蹟・風物・歴史・文化なども含む。

「英語リーディング演習I」では主にテキストの前半部分のLondonから Rhine河を経てスイスに着くまでと、同国レマン湖畔およびChamonix-Mont-Blanc地方を背景とする彼らの動向について精読する。

## 教科書 /Textbooks

Elma Dangerfield: Byron and the Romantics in Switzerland.

テキストについては授業の冒頭で説明する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

和書

- 上杉文世 『バイロン研究』 研究社
- 楠本哲夫 『永遠の巡礼詩人バイロン』 三省堂
- 阿部知二 『バイロン』 研究社
- 田吹長彦 『ヨーロッパ夢紀行、詩人バイロンの旅—ベルギー・ライン河・スイス編』 丸善出版サービスセンター  
その他、原書は多数あるが授業で必要に応じて紹介する。

# 英語リーディング演習I【昼】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

上記のテキストを精読。各種の映像・地図などを必要に応じて随時活用する予定。

「英語リーディング演習I」では、上記の原書の前半部分を精読する。必ず予習を行うこと。読解力によって進捗の度が均一でない場合は、予定が前後する場合がある。

- 1 講義内容の概説。原書の背景(時代・地理・イギリス・ロマン派)
- 2 Introduction, "Switzerland Revisited 1814-1817"(1)
- 3 Introduction, "Switzerland Revisited 1814-1817"(2)
- 4 London, Dover, Belgium(Ostend,Brussels, Waterloo, etc.), the Rhine
- 5 Basel, Bern, Morat, Avenches, Lausanne, Lake Lemman (1)
- 6 Basel, Bern, Morat, Avenches, Lausanne, Lake Lemman (2)
- 7 Byron and the Romantics (Lake Lemman, Geneva, Sécheron, Cologny )(1)
- 8 Byron and the Romantics (Lake Lemman, Geneva, Sécheron, Cologny) (2)
- 9 Lake Lemman and Rousseau's Nouvelle Héloïse (1)
- 10 Lake Lemman and Rousseau's Nouvelle Héloïse (2)
- 11 Lausanne and Edward Gibbon
- 12 Coppet and Mme de Staël (1)
- 13 Coppet and Mme de Staël (2)
- 14 Chamonix-Mont-Blanc and the Shelleys
- 15 Chamonix-Mont-Blanc and the Shelleys、および総括。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度(予習・積極性・理解度を含む)...20% 期末試験...80%。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

語学力・読解力を増強するために、必ず講義ノートを作成して、各授業の予習をすること。

この授業は、自主的な予習を重視します。

なお、当然のことながら、

開講回数の2 / 3以上の出席回数がないと単位認定はできません。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ヨーロッパ旅行をする場合のさまざまな旅の情報を提供できると思います。

## キーワード /Keywords

ヨーロッパの歴史・地理・文化・文学・宗教。旅とイギリス・ロマン派文学。

# 英語リーディング演習II【昼】

担当者名 田吹 長彦 / 北方キャンパス 非常勤講師  
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・実習 クラス 3 - 1  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 英語の文章構造を正しく理解し、正確に解釈できる。
	英語力	● 英語を正確に読めて、英米及び英語圏の文化的背景が理解できる。
思考・判断・表現	その他言語力	
	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 英語を駆使して、異文化に積極的に関わっていく態度を身につける。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力 コミュニケーション力	

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英語リーディング演習II

ENG352M

## 授業の概要 /Course Description

テーマ：「イギリス・ロマン派とスイス」

風光明媚なスイスを背景に、Lord Byronを中心とするイギリス・ロマン派の作家の動向を探索する。産業革命・フランス革命・ナポレオン戦争といった激動の時代を経てスイスを旅した人たちの中にByron, P.B.Shelley, Mary Shelley, William Polidoriなどがいる。

テキストの背景は、イギリスのLondonを出て、Dover, Belgium, Rhineを河経て、スイスのBaselから入国、同国内各地を旅してイタリアとの国境にあるSimplon峠まで、現在の観光地をほぼ網羅する。内容には名所旧蹟・風物・歴史・文化なども含む。

この「英語リーディング演習II」では、テキストの後半部分、主にスイスのLeman湖北東岸、Golden Pass、Berner Oberland、Leman湖南西岸Geneveからイタリア国境Simplon峠を背景とする部分の動向について精読する。

## 教科書 /Textbooks

Elma Dangerfield: Byron and the Romantics in Switzerland.

テキストについては授業の冒頭で説明する。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

和書

- 上杉文世 『バイロン研究』 研究社
  - 楠本哲夫 『永遠の巡礼詩人バイロン』 三省堂
  - 阿部知二 『バイロン』 研究社
  - 田吹長彦 『ヨーロッパ夢紀行、詩人バイロンの旅—ベルギー・ライン河・スイス編』 丸善出版サービスセンター
- 原書は多数あるが授業で必要に応じて紹介する。

# 英語リーディング演習II【昼】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

上記のテキストの後半部分を精読。各種の映像・地図などを必要に応じて随時活用する予定。読破の場合は、スイスに関するパイロンの他の教材を追加して読むことがある。読解力によって進捗の度合いが均一でない場合は、予定が前後することがある。

- 1 講義内容の概説。原書の背景。テキストの前半部分(イギリスのLondonからスイスのGeneveまでの旅)の概説。
- 2 Geneve, Coligny (Villa Diodati), and Ferney
- 3 Chamonix-Mont-Blanc, Coppet(Mme de Staël)
- 4 Coppet(Mme de Staël)
- 5 Lake Lemman(Lausanne, Ouchy, Vevey, Clarens)(1)
- 6 Lake Lemman(Lausanne, Ouchy, Vevey, Clarens)(2)
- 7 Golden Pass (Montbovon, Château d'Oex, Zweisimmen), Lake Thun, Interlaken
- 8 Berner Oberland(1) (Interlaken, Lauterbrunnen, Wengen, Jungfrau, Mönch, Eiger, Grindelwald)
- 9 Berner Oberland(2) (Wengen, Jungfrau, Mönch, Eiger, Grindelwald)
- 10 Reichenbach, Lake Brienz, Thun, Bern, Fribourg, Neuchatel, Geneve, Colgny)
- 11 Byron in Geneve and Coligny (1)
- 12 Byron and his friends in Geneve (1)
- 13 Their Journey from Congny to the Simplon Pass (1)
- 14 Their Journey from Congny to the Simplon Pass (2)
- 15 the Simplon Pass and Italy、総括

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度(予習・積極性・理解度を含む)...20% 期末試験...80%。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

語学力・読解力を増強するために、必ず講義ノートを作成して、各授業の予習をすること。  
この授業は、自主的な活動・予習を重視します。  
なお、当然のことながら、開講回数の2 / 3以上の出席回数がないと単位認定はできません。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ヨーロッパ旅行をする場合のさまざまな旅の情報を提供できると思います。

## キーワード /Keywords

ヨーロッパの歴史・地理・文化・文学・宗教。旅とイギリス・ロマン派文学。



# 英語リーディング演習II【昼】

担当者名 田吹 長彦 / 北方キャンパス 非常勤講師  
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・実習 クラス 3 - 2  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	英語の文章構造を正しく理解し、正確に解釈できる。
	英語力	●	英語を正確に読めて、英米及び英語圏の文化的背景が理解できる。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語を駆使して、異文化に積極的に関わっていく態度を身につける。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力 コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英語リーディング演習II

ENG352M

## 授業の概要 /Course Description

テーマ：「イギリス・ロマン派とスイス」

風光明媚なスイスを背景に、Lord Byronを中心とするイギリス・ロマン派の作家の動向を探索する。産業革命・フランス革命・ナポレオン戦争といった激動の時代を経てスイスを旅した人たちの中にByron, P.B.Shelley, Mary Shelley, William Polidoriなどがいる。

テキストの背景は、イギリスのLondonを出て、Dover, Belgium, Rhineを河経て、スイスのBaselから入国、同国内各地を旅してイタリアとの国境にあるSimplon峠まで、現在の観光地をほぼ網羅する。内容には名所旧蹟・風物・歴史・文化なども含む。

この「英語リーディング演習II」では、テキストの後半部分、主にスイスのLeman湖北東岸、Golden Pass、Berner Oberland、Leman湖南西岸Geneveからイタリア国境Simplon峠を背景とする部分の動向について精読する。

## 教科書 /Textbooks

Elma Dangerfield: Byron and the Romantics in Switzerland.

テキストについては授業の冒頭で説明する。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

和書

- 上杉文世 『バイロン研究』 研究社
  - 楠本哲夫 『永遠の巡礼詩人バイロン』 三省堂
  - 阿部知二 『バイロン』 研究社
  - 田吹長彦 『ヨーロッパ夢紀行、詩人バイロンの旅—ベルギー・ライン河・スイス編』 丸善出版サービスセンター
- 原書は多数あるが授業で必要に応じて紹介する。

# 英語リーディング演習II【昼】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

上記のテキストの後半部分を精読。各種の映像・地図などを必要に応じて随時活用する予定。読破の場合は、スイスに関するパイロンの他の教材を追加して読むことがある。読解力によって進捗の度合いが均一でない場合は、予定が前後することがある。

- 1 講義内容の概説。原書の背景。テキストの前半部分(イギリスのLondonからスイスのGeneveまでの旅)の概説。
- 2 Geneve, Coligny (Villa Diodati), and Ferney
- 3 Chamonix-Mont-Blanc, Coppet(Mme de Staël)
- 4 Coppet(Mme de Staël)
- 5 Lake Lemman(Lausanne, Ouchy, Vevey, Clarens)(1)
- 6 Lake Lemman(Lausanne, Ouchy, Vevey, Clarens)(2)
- 7 Golden Pass (Montbovon, Château d'Oex, Zweisimmen), Lake Thun, Interlaken
- 8 Berner Oberland(1) (Interlaken, Lauterbrunnen, Wengen, Jungfrau, Mönch, Eiger, Grindelwald)
- 9 Berner Oberland(2) (Wengen, Jungfrau, Mönch, Eiger, Grindelwald)
- 10 Reichenbach, Lake Brienz, Thun, Bern, Fribourg, Neuchatel, Geneve, Colgny)
- 11 Byron in Geneve and Coligny (1)
- 12 Byron and his friends in Geneve (1)
- 13 Their Journey from Congny to the Simplon Pass (1)
- 14 Their Journey from Congny to the Simplon Pass (2)
- 15 the Simplon Pass and Italy、総括

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度(予習・積極性・理解度を含む)...20% 期末試験...80%。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

語学力・読解力を増強するために、必ず講義ノートを作成して、各授業の予習をすること。  
この授業は、自主的な活動・予習を重視します。  
なお、当然のことながら、開講回数の2 / 3以上の出席回数がないと単位認定はできません。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ヨーロッパ旅行をする場合のさまざまな旅の情報を提供できると思います。

## キーワード /Keywords

ヨーロッパの歴史・地理・文化・文学・宗教。旅とイギリス・ロマン派文学。

# 英語リーディング演習Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 木下 善貞 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 3 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	英語の文章構造を正しく理解し、正確に解釈できる。
	英語力	●	英語を正確に読めて、英米及び英語圏の文化的背景が理解できる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語を駆使して、異文化に積極的に関わっていく態度を身につける。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英語リーディング演習Ⅱ

ENG352M

## 授業の概要 /Course Description

Anthony TrollopeのThe Last Chronicle of Barsetを扱う。

①テキストが書かれた時代背景、社会状況のじゅうぶんな理解、②読む者の主観を排してテキストの意図する意味の把握、③叙述の仕方と文法の分析、以上3点がねらいである。

## 教科書 /Textbooks

News Gallery 2015 (木下善貞, 関文社出版, 2015)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

R. C. Terry: Oxford Reader's Companion to Trollope (Oxford)

# 英語リーディング演習II【昼】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 授業の進め方。1回に5頁ずつ読んでいく。担当となった受講生は授業日の2日前までに1頁の翻訳を木下に添付ファイルで提出する。授業では全員5頁を当然読んできているものとして訳出難解箇所、訳註必要箇所をチェックする。

- 2回 638-642頁の翻訳
- 3回 643-647頁の翻訳
- 4回 648-652頁の翻訳
- 5回 653-657頁の翻訳
- 6回 658-662頁の翻訳
- 7回 663-667頁の翻訳
- 8回 668-672頁の翻訳
- 9回 673-677頁の翻訳
- 10回 678-682頁の翻訳
- 11回 683-687頁の翻訳
- 12回 688-692頁の翻訳
- 13回 693-697頁の翻訳
- 14回 698-702頁の翻訳
- 15回 703-707頁の翻訳

## 成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

担当頁の日本語訳をワードのファイルで提出する。各担当者は担当章のbrush-upに励み、書式を統一する。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 英語リーディング演習Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 木下 善貞 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 3 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	英語の文章構造を正しく理解し、正確に解釈できる。
	英語力	●	英語を正確に読めて、英米及び英語圏の文化的背景が理解できる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語を駆使して、異文化に積極的に関わっていく態度を身につける。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英語リーディング演習Ⅱ

ENG352M

## 授業の概要 /Course Description

Anthony TrollopeのThe Last Chronicle of Barsetを扱う。

①テキストが書かれた時代背景、社会状況のじゅうぶんな理解、②読む者の主観を排してテキストの意図する意味の把握、③叙述の仕方と文法の分析、以上3点がねらいである。

## 教科書 /Textbooks

News Gallery 2015 (木下善貞, 開文社出版, 2015)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

R. C. Terry: Oxford Reader's Companion to Trollope (Oxford)

# 英語リーディング演習II【昼】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 授業の進め方。1回に5頁ずつ読んでいく。担当となった受講生は授業日の2日前までに1頁の翻訳を木下に添付ファイルで提出する。授業では全員5頁を当然読んできているものとして訳出難解箇所、訳註必要箇所をチェックする。

- 2回 638-642頁の翻訳
- 3回 643-647頁の翻訳
- 4回 648-652頁の翻訳
- 5回 653-657頁の翻訳
- 6回 658-662頁の翻訳
- 7回 663-667頁の翻訳
- 8回 668-672頁の翻訳
- 9回 673-677頁の翻訳
- 10回 678-682頁の翻訳
- 11回 683-687頁の翻訳
- 12回 688-692頁の翻訳
- 13回 693-697頁の翻訳
- 14回 698-702頁の翻訳
- 15回 703-707頁の翻訳

## 成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

担当頁の日本語訳をワードのファイルで提出する。各担当者は担当章のbrush-upに励み、書式を統一する。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# ビジネスコミュニケーション演習【昼】

担当者名 /Instructor アーノルド・ウェイン / ARNOLD Wayne E. / 英米学科

履修年次 /Year 3年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 講義・実習  
クラス /Class 3 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	英語を正しく理解し、英語による情報の収集を行うことができる。
	英語力	●	英語圏の人達と正確にコミュニケーションを行うことができる。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力	●	英語で自分の意見を明確に表現することができる。
	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団において伝達力を発揮し共同の目標に向けた活動を推進することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ビジネスコミュニケーション演習

ENG330M

## 授業の概要 /Course Description

ビジネスコミュニケーション演習 aims to develop business speaking ability through active student participation in topic-focused conversation/discussions and presentations in an all-English environment. Emphasis will be on discovering English business language patterns and using them to generate accurate and efficient professional spoken expression. In the mid to latter stages of the course, students will be expected to prepare and give oral business presentations on selected topics covered in class.

## 教科書 /Textbooks

Business Advantage, Michael Hanford, Cambridge, 2012

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

None

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Introduction to course and get to know your classmates
2. Unit 1. Market entry strategies
3. Unit 2. Standardization and differentiation
4. Unit 3. Competition within industries, part 1
5. Unit 3. Competition within industries, part 2
6. Unit 4. Entrepreneurship, part 1
7. Unit 4. Entrepreneurship, part 2
8. Unit 6. Leadership, part 1
9. Unit 6. Leadership, part 2
10. Unit 7. International Communication
11. Unit 8. International Outsourcing
12. Unit 11. The economic environment, part 1.
13. Unit 11. The economic environment, part 2.
14. Unit 14. Social enterprise
15. Final business proposal presentations.

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Attendance and participation: (30%); 3 Writing Assignments: (30%); 4 Case study analysis reports (20%); Final in-class business proposal presentation: (20%)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# ビジネスコミュニケーション演習【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords



# ビジネスコミュニケーション演習【昼】

担当者名 /Instructor アーノルド・ウェイン / ARNOLD Wayne E. / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 授業形態 講義・実習 クラス 3 - 2 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	英語を正しく理解し、英語による情報の収集を行うことができる。
	英語力	●	英語圏の人達と正確にコミュニケーションを行うことができる。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力	●	英語で自分の意見を明確に表現することができる。
	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団において伝達力を発揮し共同の目標に向けた活動を推進することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ビジネスコミュニケーション演習

ENG330M

## 授業の概要 /Course Description

ビジネスコミュニケーション演習 aims to develop business speaking ability through active student participation in topic-focused conversation/discussions and presentations in an all-English environment. Emphasis will be on discovering English business language patterns and using them to generate accurate and efficient professional spoken expression. In the mid to latter stages of the course, students will be expected to prepare and give oral business presentations on selected topics covered in class.

## 教科書 /Textbooks

Business Advantage, Michael Hanford, Cambridge, 2012

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

None

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Introduction to course and get to know your classmates
2. Unit 1. Market entry strategies
3. Unit 2. Standardization and differentiation
4. Unit 3. Competition within industries, part 1
5. Unit 3. Competition within industries, part 2
6. Unit 4. Entrepreneurship, part 1
7. Unit 4. Entrepreneurship, part 2
8. Unit 6. Leadership, part 1
9. Unit 6. Leadership, part 2
10. Unit 7. International Communication
11. Unit 8. International Outsourcing
12. Unit 11. The economic environment, part 1.
13. Unit 11. The economic environment, part 2.
14. Unit 14. Social enterprise
15. Final business proposal presentations.

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Attendance and participation: (30%); 3 Writing Assignments: (30%); 4 Case study analysis reports (20%); Final in-class business proposal presentation: (20%)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# ビジネスコミュニケーション演習【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# ビジネスコミュニケーション演習【昼】

担当者名 /Instructor アーノルド・ウェイン / ARNOLD Wayne E. / 英米学科

履修年次 /Year 3年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 講義・実習  
クラス /Class 3 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 英語を正しく理解し、英語による情報の収集を行うことができる。
	英語力	● 英語圏の人達と正確にコミュニケーションを行うことができる。
思考・判断・表現	その他言語力	
	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 英語で自分の意見を明確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	● 英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	● 組織や集団において伝達力を発揮し共同の目標に向けた活動を推進することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ビジネスコミュニケーション演習

ENG330M

## 授業の概要 /Course Description

ビジネスコミュニケーション演習 aims to develop business speaking ability through active student participation in topic-focused conversation/discussions and presentations in an all-English environment. Emphasis will be on discovering English business language patterns and using them to generate accurate and efficient professional spoken expression. In the mid to latter stages of the course, students will be expected to prepare and give oral business presentations on selected topics covered in class.

## 教科書 /Textbooks

Business Advantage, Michael Hanford, Cambridge, 2012

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

None

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Introduction to course and get to know your classmates
2. Unit 1. Market entry strategies
3. Unit 2. Standardization and differentiation
4. Unit 3. Competition within industries, part 1
5. Unit 3. Competition within industries, part 2
6. Unit 4. Entrepreneurship, part 1
7. Unit 4. Entrepreneurship, part 2
8. Unit 6. Leadership, part 1
9. Unit 6. Leadership, part 2
10. Unit 7. International Communication
11. Unit 8. International Outsourcing
12. Unit 11. The economic environment, part 1.
13. Unit 11. The economic environment, part 2.
14. Unit 14. Social enterprise
15. Final business proposal presentations.

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Attendance and participation: (30%); 3 Writing Assignments: (30%); 4 Case study analysis reports (20%); Final in-class business proposal presentation: (20%)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# ビジネスコミュニケーション演習【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# ビジネスコミュニケーション演習【昼】

担当者名 /Instructor アーノルド・ウェイン / ARNOLD Wayne E. / 英米学科

履修年次 /Year 3年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 講義・実習  
クラス /Class 3 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	英語を正しく理解し、英語による情報の収集を行うことができる。
	英語力	●	英語圏の人達と正確にコミュニケーションを行うことができる。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	英語で自分の意見を明確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	●	組織や集団において伝達力を発揮し共同の目標に向けた活動を推進することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ビジネスコミュニケーション演習

ENG330M

## 授業の概要 /Course Description

ビジネスコミュニケーション演習 aims to develop business speaking ability through active student participation in topic-focused conversation/discussions and presentations in an all-English environment. Emphasis will be on discovering English business language patterns and using them to generate accurate and efficient professional spoken expression. In the mid to latter stages of the course, students will be expected to prepare and give oral business presentations on selected topics covered in class.

## 教科書 /Textbooks

Business Advantage, Michael Hanford, Cambridge, 2012

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

None

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Introduction to course and get to know your classmates
2. Unit 1. Market entry strategies
3. Unit 2. Standardization and differentiation
4. Unit 3. Competition within industries, part 1
5. Unit 3. Competition within industries, part 2
6. Unit 4. Entrepreneurship, part 1
7. Unit 4. Entrepreneurship, part 2
8. Unit 6. Leadership, part 1
9. Unit 6. Leadership, part 2
10. Unit 7. International Communication
11. Unit 8. International Outsourcing
12. Unit 11. The economic environment, part 1.
13. Unit 11. The economic environment, part 2.
14. Unit 14. Social enterprise
15. Final business proposal presentations.

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Attendance and participation: (30%); 3 Writing Assignments: (30%); 4 Case study analysis reports (20%); Final in-class business proposal presentation: (20%)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# ビジネスコミュニケーション演習【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 教職論 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

教職の意義及び教員の役割、教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む。）、等に関する教職に関する基本的な知識を獲得し、教職についての理解を深め、教職についての課題を発見し、思考し、教職についての意欲や適性等を熟考し、「学生が教員としての適格性を持つためにどのような努力をしていけばよいのか」ということを含めて、進路選択に資する各種の機会の提供等の指導を受ける。

（以下、平成26年度以降入学生）

この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類-1」に分類される科目である。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし（授業中に適宜紹介する）

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

（【】内はキーワード）

1回 学校教育と教職の意義	【学校教育】【教職】
2回 学校教育と教員の役割	【学校】【教育】【教員の役割】
3回 学校教育の「目的」	【教育目的論】
4回 学校教育の「内容」と「方法」	【教育課程】【教育課程の編成原理】
5回 教員の職務内容と生徒指導	【教員の職務】【生徒指導の伝統】
6回 キャリア教育と進路選択	【職業選択の基礎理論】【進路選択】
7回 教員の使命	【教育の論理】【生活の論理】
8回 「生きる力」と教員の資質と適格性	【青少年の意識】【愛と要求】
9回 「自主的な問題解決」と教員の役割	【自主性】【生徒の意識】
10回 「いのちの教育」と教員の役割	【生と死の教育課程】
11回 「身体教育」と教員の役割	【健康管理】【食教育】【排便教育】
12回 「喫煙防止」と教員の役割	【未成年者喫煙防止法】
13回 「掃除」と教員の役割	【学校掃除】【掃除の指導】
14回 「評価」「懲戒」と「体罰」の相違	【評価の種類】【体罰】
15回 教員の「資質」と「適格性」/まとめ	【指導】【管理】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況（小テストを含む） 100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

なし

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 教育原理【昼】

担当者名 /Instructor 下地 貴樹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

本授業は、教育の意義や役割について考え、現在の教師に求められる資質能力とこれからの社会における教師の役割を意識し、教師としての使命や責任感を考えていく。教育の原理として「教育とは何か」について省察することで、教師観の形成をねらいとする。

## 教科書 /Textbooks

- ・ 田嶋一 中野新之祐 福田須美子 狩野浩二 著 『やさしい教育原理』 有斐閣 (2011)
- ・ 他にも講義内で適宜配布する

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- ・ 授業内で適宜紹介する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション - 教職とは何か
- 第2回：教師に求められる資質能力 (教師の資質能力に関する文科省資料の確認)
- 第3回：教師の役割・社会的責任と使命
- 第4回：教員免許状と教員養成制度 (教員免許と専門性)
- 第5回：教育の思想と歴史の変遷 (コメニウスからルソーまで)
- 第6回：教育の思想と歴史の変遷 (フレーベル、デューイら 近代的教育思想へ)
- 第7回：教職のための基礎知識・教育六法1 (教育基本法・学校教育法・学校教育法施行規則・地公法)
- 第8回：教職のための基礎知識・教育六法2 (日本国憲法・子どもの権利条約など。関係する法規を調べる)
- 第9回：学習指導要領の変遷・観点別評価について
- 第10回：教育課程・カリキュラムについて
- 第11回：教育の実践現場における諸課題 (新聞、統計資料、生徒指導提要などを参考に)
- 第12回：教師教育のあり方・授業研究と専門性
- 第13回：教師教育のあり方・教材研究と同僚性
- 第14回：今日における教育改革と動向 (文部科学省ホームページ、答申などを参考に)
- 第15回：まとめ・どのような子どもを育てるのが  
定期試験

## 成績評価の方法 /Assessment Method

- 講義内での活動への参加度 (グループワークや質疑などへの参加)・・・20%
- 講義内での発表・報告・・・30%
- 最終試験・課題レポート・・・50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

課題や発表について、期日を守るよう心掛けてもらいたい。出席は全講義数の3分の2以上している事がテストを受ける前提条件とする。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業の中では、グループワークやディベートをとり入れるため、積極的な参加を望む。

## キーワード /Keywords



# 発達心理学【昼】

担当者名 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

発達心理学は、年齢に関連した経験と行動にみられる変化の科学的理解に関する学問である ( Butterworth, 1994 )。本講義では乳児期から青年期を中心に特徴的なテーマを取り上げ、人間の発達に関する心理学的理解を深める。特に、自己・他者への理解、他者との関係性の形成について紹介したい。

また、児童生徒の理解と指導について、発達における障害の問題等を取り上げ、その基本的な理解や支援について学ぶ。

## 教科書 /Textbooks

藤村 宣之 編著  
『発達心理学 周りの世界とかわりながら人はいかに育つか ( いちばんはじめに読む心理学の本 3 )』  
ミネルヴァ書房

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

文部科学省 ( 2011 ) 「生徒指導提要」  
その他、授業中に適宜紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：発達心理学とは何か
- 第2回 乳児は世界をどのように感じるのか【知覚、認知、言語の発達】
- 第3回 ヒトの発達的特徴とは【発達のメカニズム】
- 第4回 ヒトは他者との関係をどのように築くのか【愛着、共同注意】
- 第5回 イメージと言葉の世界【知能の発達、表象能力】
- 第6回 他者とのコミュニケーション、心を推測する力【心の理論】
- 第7回 自己・他者を理解する【自己概念・自己意識】
- 第8回 学習の過程【学習理論、論理的思考】
- 第9回 友人とのかかわりと社会性の発達【ギャング・エイジ、道徳性】
- 第10回 自分らしさの発達について【アイデンティティの形成】
- 第11回 他者を通して見る自己【友人関係、問題行動】
- 第12回 成人期以降の発達段階【親密性、生殖性、人生の統合】
- 第13回 児童生徒の心理と理解①【発達障害の基本的理解】
- 第14回 児童生徒の心理と理解②【発達障害と思春期】
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 教育制度論 【昼】

担当者名 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科  
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

教育制度に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育制度における問題について、諸外国の事例もふまえながら考察する。

## 教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて、プリント・資料配布。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業時に提示。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教育制度の基本原則(1) 教育制度とは
- 2回 教育制度の基本原則(2) 日本の教育法制
- 3回 学校制度の基本的事項(1) 機会均等、学校教育における中立性等
- 4回 学校制度の基本的事項(2) 義務教育
- 5回 学校制度の基本的事項(3) 学校体系
- 6回 学校制度の基本的事項(4) 就学
- 7回 教科書に関する制度 教科書、副教材
- 8回 教員制度の基本的事項(1) 教員免許法制、公務員としての教師
- 9回 教員制度の基本的事項(2) 教員の指導力、研修
- 10回 教員制度の基本的事項(3) 教員の待遇、福利厚生
- 11回 学校関係者による支援の制度 地域住民の学校への参画
- 12回 教育行財政の仕組み(1) 中央教育行政、地方教育行政
- 13回 教育行財政の仕組み(2) 教育委員会と学校
- 14回 教育制度改革の動向 学校選択制、学校評価
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題(試験) 70%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

教育について興味・関心をもって臨むこと。  
配布したレジュメ・資料をよく読んでおくこと。  
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 教育課程論 【昼】

担当者名 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科  
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

### 概要

教育課程に関わる概念や学校における教育課程編成・方法、学習指導要領に関する基礎的な知識を習得し、今日の教育課程の課題について学ぶ。

### 目標

- ①教育課程に関わる基礎的な知識を習得する。
- ②教育課程の課題について整理し、対応策などを考えることができるようになる。

## 教科書 /Textbooks

なし。

プリント（講義レジュメ及び資料）を配布。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

講義中に配布するプリントに提示するもの他、必要に応じ適宜紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 教育課程編成の基本原則
- 第2回 日本の教育課程の変遷
- 第3回 学習指導要領と教育課程編成
- 第4回 学力と教育課程
- 第5回 学校における教育課程編成
- 第6回 「カリキュラム・マネジメント」と学校改善
- 第7回 教育課程の評価
- 第8回 諸外国の教育課程・カリキュラム(1) 東アジアを中心に
- 第9回 諸外国の教育課程・カリキュラム(2) 英語文化圏を中心に
- 第10回 諸外国の教育課程・カリキュラム(3) 欧州を中心に
- 第11回 教育課程の開発
- 第12回 今日の課題と教育課程(1) 人の国際移動と教育
- 第13回 今日の課題と教育課程(2) 市民性教育
- 第14回 今日の課題と教育課程(3) ESD
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題(試験) 70%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

配布したレジュメ・資料は、授業後にもよく読んでおくこと。  
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めします。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教育について興味・関心をもって臨んでもらいたいと思っています。

## キーワード /Keywords

# 英語科教育法 A 【昼】

担当者名 /Instructor 森 千鶴 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

この授業には、主に二つのねらいがある。まず英語科教育の基本となる理論を学び、知識を修得することを目的とする。次に、中学校の学習指導案の書き方を学び、モデル授業を実際に行って理論と実践を結びつけることにより、ある程度の実践力を身につけることを目的とする。中学校との関連において、小学校の外国語活動の理論と現状についてもふれる。

## 教科書 /Textbooks

三浦省五・深澤清治（編著）『新しい学びを拓く英語科授業の理論と実践』ミネルヴァ書房、2009年、2,500円  
文部科学省 中学校学習指導要領 外国語編 開隆堂、2009年 72円

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜プリントを配布する。

なお、以下の教科書は教職資料室に保管しています。

新里真男ほか著、SUNSHINE ENGLISH COURSE 1～3 開隆堂 2012年 310円

松本茂ほか著、ONE WORLD English Course 1～3 教育出版 2012年 310円

高橋貞雄ほか著、"NEW CROWN ENGLISH SERIES New Edition 1～3"三省堂 2012年 310円

笠島準一、関典明ほか著、NEW HORIZON English Course 1～3 東京書籍 2012年 310円

矢田裕士、吉田研作ほか著、TOTAL ENGLISH 1～3 教育出版 2012年 310円

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. イントロダクション及び英語教育の目的
2. 英語教育の目的
3. 指導法へのアプローチ【行動主義と認知主義】
4. 指導法へのアプローチ【コミュニケーション能力】
5. Communicative Language Teaching の理念【インフォメーション・ギャップ】
6. Communicative Language Teaching の理念【タスク活動】
7. 中学校の英語科教育および小学校の外国語活動
8. 学習指導案(中学校)の立て方
9. 評価について
10. DVD ( 師範授業 ) の視聴【筑波大学附属中学校教諭】
11. DVD ( 師範授業 ) の視聴【田尻悟郎先生】
12. モデル授業の準備
13. モデル授業 ( 中学校 ) 【1年生】
14. モデル授業 ( 中学校 ) 【2・3年生】
15. 復習と試験の準備

## 成績評価の方法 /Assessment Method

学期末の定期試験 ( 75%程度 ) を中心として、提出物 ( 15%程度 ) 及び授業参加度 ( 10%程度 ) を考慮に入れ、総合的に評価する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

- ・ 前もってプリントを配布したり、次回の授業内容に関連する教科書ページを予告をする場合は、予習しておくこと。
- ・ 多少なりとも教員になるという意思をもって、履修すること。
- ・ 出欠席は厳密にとる。無断欠席は厳に慎むこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 英語科教育法B 【昼】

担当者名 /Instructor 森 千鶴 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

この授業には主に二つのねらいがある。まず英語科教育における発展的な理論や学習指導案の書き方を学び、モデル授業を行うことによって、高等学校の英語科教員としての技能を身につける。次に英語科教育の学問的な側面に目を向け、英語で書かれた論文を講読することによって、英語科教育の今日的な課題を深く論考することができるようになることを目指す。

## 教科書 /Textbooks

三浦省五・深澤清治（編著）『新しい学びを拓く英語科授業の理論と実践』ミネルヴァ書房、2009年、2500円  
文部科学省 高等学校学習指導要領 外国語編 英語編 開隆堂 2011年 158円

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜プリントを配布する。なお、以下の教科書は教職資料室に保管しています。  
 松本世志子ほか著、ENGLISH NOW Revised Edition I・II開隆堂 2012年、630円 NEW WORLD ENGLISH COURSE I・II 三友社  
 南村俊夫著、Vivid Reading MEW EDITION第一学習社、2007年、765円 Onstage English Course I・II池田書店  
 EXCEED English Series New Edition I・II 三省堂 田辺正美ほか著、PROMINENCE English I・II東京書籍、2012年、630円  
 山本良一ほか著、"MAINSTREAM ENGLISH COURSE Second Edition I・II" 増進堂 2012年 570円  
 Minton, T.D. ほか著 Revised POLESTAR English Course I・II 数研出版 2012年 570円 "Revised Edition SUNSHINE English Course I・II"開隆堂  
 田中茂範、武田修一ほか著、"PRO-VISION New Edition ENGLISH COURSE I・II" 桐原書店 2013年、650円 卯城祐司ほか著、ELEMENT English Course I・II啓林館 2013年、650円  
 Voyager English Course NEW EDITION I・II第一学習社  
 市川泰男、高橋和久ほか著、"NEW EDITION UNICORN 2012年、630円 ENGLISH COURSE I・II"文英堂  
 Genius English Course Revised I・II大修館書店 霜崎寛ほか著、CROWN English Series New Edition I・II三省堂 2012年、630円

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. コミュニケーション能力および英語科の評価論について
2. 学習指導要領および4技能の統合
3. リーディングの理論と実践 [理論編]
4. リーディングの理論と実践 [発展編]
5. 絶対評価について (高等学校編)
6. 学習指導案 (高等学校) の立て方
7. モデル授業の準備
8. モデル授業 (高等学校) [コミュニケーション英語I]
9. モデル授業 (高等学校) [コミュニケーション英語I以外の科目]
10. ALTに関わる英語論文を読む[論文前半]
11. ALTに関わる英語論文を読む[論文後半]
12. 韓国の英語教育に関する英語論文を読む[論文前半]
13. 韓国の英語教育に関する英語論文を読む[論文後半]
14. リスニング・スピーキングに関する英語論文を読む
15. 復習と試験の準備

## 成績評価の方法 /Assessment Method

学期末の定期試験 ( 75%程度 ) を中心として、提出物 ( 15%程度 ) 及び授業参加度 ( 10%程度 ) を考慮に入れ、総合的に評価する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

- ・ 前もってプリントを配布したり、次回の授業内容に関連する教科書ページを予告する場合は、予習しておくこと。
- ・ 多少なりとも教員になるという意思をもって、履修すること。
- ・ 出欠席は厳密にとる。無断欠席は厳に慎むこと。
- ・ モデル授業の日程や英語論文のトピックは学生と相談した上で決定することになるので、シラバス内容に関しては柔軟に考えていただきたい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 英語科教育法C 【昼】

担当者名 伊藤 健一 / Kenichi ITO / 英米学科  
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

「英語科教育法」は、中学校、高等学校の英語科教員を目指す人のために、実際に教壇に立って授業をすることはもとより、授業の準備、練習問題（試験問題）の作成、成績評価に至るまでを概括し、現代のニーズに応える英語教育を実践していくための、実践的な授業です。ただ講義を聴くのではなく、それをどのように実践力に変えていくのか、という目的意識を持っていただきたいと思います。ことに、高等学校では2013年から基本的に英語で授業が行なわれるという方針が示されています。模擬授業に関しては、他の人が授業を行なっているときも、自分の身に置き換えて、教育実習や実際に教員となったときに生かせるよう、積極的な姿勢で臨んでいただきたいと思います。板書の仕方、副教材の作成、生徒の学習動機づけ、などについても指導します。

なお、この授業は、森千鶴先生開講の「英語科教育法A」と整合性を保つよう考慮してはいますが、適正なクラスサイズで一貫性のある英語科教育法の授業を提供するために、原則として雪丸先生担当の「英語科教育法D」とあわせての受講をお勧めします。

## 教科書 /Textbooks

講師作成のプリント教材を用意します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 文部科学省 高等学校学習指導要領 外国語
- 文部科学省 中学校学習指導要領 外国語

上記の文献については、かならずご一読ください。その他の参考文献は授業時に必要に応じて紹介します。なお、以下の教科書は教職資料室で保管していますので閲覧可能です。

- ・ ENGLISH NOW Revised Edition I・ II ( 開隆堂 )
- NEW WORLD ENGLISH COURSE I・ II ( 三友社 )
- Vivid Reading MEW EDITION ( 第一学習社 )
- Onstage English Course I・ II ( 池田書店 )
- EXCEED English Series New Edition I・ II ( 三省堂 )
- PROMINENCE English I・ II ( 東京書籍 )
- MAINSTREAM ENGLISH COURSE : Second Edition I・ II ( 増進堂 )
- Revised POLESTAR English Course I・ II ( 数研出版 )
- Revised Edition SUNSHINE English Course I・ II ( 開隆堂 )
- PRO-VISION New Edition ENGLISH COURSE I・ II ( 桐原書店 )
- ELEMENT English Course I・ II ( 啓林館 )
- Voyager English Course NEW EDITION I・ II ( 第一学習社 )
- NEW EDITION UNICORN ENGLISH COURSE I・ II ( 文英堂 )
- Genius English Course Revised I・ II ( 大修館書店 )
- CROWN English Series New Edition I・ II ( 三省堂 )

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第01回 オリエンテーション：新しい時代の英語教育を目指して
- 第02回 アジア諸国における英語
- 第03回 TESOLとは何か：TESLとTEFL
- 第04回 日本における英語教育と言語政策
- 第05回 言語理論の基礎
- 第06回 言語習得理論の基礎
- 第07回 アプローチとメソッド
- 第08回 コミュニカティブ・アプローチ
- 第09回 学習者とモチベーション
- 第10回 カリキュラム・シラバス・テスト
- 第11回 デイバート教育
- 第12回 ALTとのチーム・ティーチング
- 第13回 通訳教育からの提言
- 第14回 グローバル人材育成教育
- 第15回 英語科教員としての責任と課題(まとめ)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

本科目は講義科目と演習科目の両面の正確さを持っていますので、学期末試験の成績を基本として評価するつもりですが、それだけでなく通常の授業での発表やディスカッション等への参加姿勢を加味して、総合的に評価します。

# 英語科教育法C 【昼】

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

英語を教える場は、必ずしも中学校、高等学校だけとは限りません。塾や民間の英会話スクールなどで英語を教えることもあるでしょうし、そういう人にとっても有益な授業となるでしょう。しかし、この授業は基本的に教職を目指す人のためのものであることを踏まえ、安易な気持ちでなく、責任感を持って参加していただきたいと思います。課題などをお願いする際は、必ず仕上げ、提出または発表をしていただきたいと思います。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

厳しいことをたくさん記しましたが、英語を学び教えることは、本来楽しいことです。楽しく、その上で気持ちをしっかりこめて、授業を行なっていきたいと思います。

## キーワード /Keywords



# 英語科教育法D 【昼】

担当者名 /Instructor 細川 博文 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

中学・高等学校の英語科教員を志望する学生を対象に、模擬授業を通して実践的な指導力を育成する。現行学習指導要領では、生徒の「コミュニケーションを図ろうとする態度」および「能力」を養うことが求められている。また、高等学校においては「授業は英語で行うことを基本とする」という方針が出されている。受講者は本講座を通して訳読に頼らないコミュニケーション型な指導法を学ぶと共に、指導上求められる実践的英語力とは何かを模擬授業を通して学ぶ。授業は文科省の教育政策を概観した後、受講者による模擬授業へ移る。各模擬授業の後に振り返り討論を行うので、受講者全員の積極的な参加を求める。

## 教科書 /Textbooks

- (1) 『New Horizon English Course 3』(中学検定教科書)(東京書籍)
- (2) 『Unicorn English Communication 1』(高校検定教科書)(文英堂)
- (3) 『中学校学習指導要領解説(外国語編)』(文部科学省)(開隆堂)
- (4) 『高等学校学習指導要領解説(外国語編・英語編)』(文部科学省)(開隆堂)

## 参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- (1) 『英語教育』(大修館)(月刊雑誌)
- (2) 石黒昭博(2009)『総合英語Forest』(桐原書店)
- (3) 卯城祐司(編)(2011)『英語で英語を読む授業』(研究社)
- (4) 卯城祐司(編)(2014)『英語で教える英文法』(研究社)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回: 授業方針の説明及びインタラクティブな指導法解説
- 第2回: 文科省の英語教育政策(「行動計画」「5つの提言」「学習指導要領」)
- 第3回: 中学学習指導要領の解説及び指導案作成法(細案の書き方)
- 第4回: 模擬授業(導入指導の実践)(中学教科書使用)
- 第5回: 模擬授業(会話文指導の実践)(中学教科書使用)
- 第6回: 模擬授業(リーディング指導の実践①)(中学教科書使用)
- 第7回: 模擬授業(リーディング指導の実践②)(中学教科書使用)
- 第8回: 模擬授業(文法指導の実践)(中学教科書使用)
- 第9回: 高校学習指導要領の解説および高校教科書分析
- 第10回: 模擬授業(導入指導の実践)(高校教科書使用)
- 第11回: 模擬授業(リーディング指導の実践①)(高校教科書使用)
- 第12回: 模擬授業(リーディング指導の実践②)(高校教科書使用)
- 第13回: 模擬授業(文法指導の実践)(高校教科書使用)
- 第14回: 模擬授業(タスク指導の実践)(高校教科書使用)
- 第15回: 総括(指導法に関する質疑応答)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

- (1) 指導案作成(20%)、模擬授業(20%)、報告書(10%)
- (2) 模擬授業振り返り報告書(30%)
- (3) 授業及び討論参加度(20%)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

- (1) 教員免許状を取得し将来の進路として教員を強く希望する学生を対象とする。やむを得ない場合を除いて、無断欠席は履修放棄とみなす。
  - (2) 模擬授業を行う際は、服装や振る舞いまで、教育実習と同じ想定で行う(発表者はスーツ着用)。
- 詳細については授業初回に説明する。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

# 英語科教育法D 【昼】

キーワード /Keywords

# 道徳教育指導論【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

この授業では、「学習指導要領」に規定されている学校教育（中学校・高等学校の教育；参考のために小学校の教育も含む）における道徳教育の理念と道徳の指導法、及び学習指導案の作成について学習する。

## 教科書 /Textbooks

文部科学省『中学校学習指導要領』（平成20年）＜中学校教諭免許状の取得希望者＞、文部科学省『高等学校学習指導要領』（平成21年）＜高等学校教諭免許状の取得希望者＞

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 「学校教育」における道徳教育の構造	【学校教育の全領域】
2回 「各教科」と道徳教育	【陶冶】【訓育】【教育活動全体を通じて行う指導】
3回 「特別活動」と道徳教育	【学級活動】【生徒会活動】【学校行事】
4回 「総合的な学習の時間」と道徳教育	【横断的・総合的な学習】【活動】
5回 道徳教育の目標と内容	【道徳の時間の指導内容】【全体計画】
6回 「道徳の時間」の計画と指導	【指導方法】
7回 学習指導案の内容と作成と指導	【学習指導案】【指導技術】
8回 「道徳の時間」と「モラルジレンマ」	【ジレンマ教材】【対立・葛藤】
9回 「道徳の時間」と「役割演技」	【動作化】【ロール・プレイ】
10回 「道徳の時間」と「アサーション」	【主張】
11回 「道徳の時間」と「エンカウンター」	【出会い】【構成的グループエンカウンター】
12回 「道徳の時間」と「作文」	【教育的リアリズム】【教育的ヒューマニズム】
13回 「道徳の時間」と「体験」	【自然体験】【社会体験】【家庭や地域社会との連携】
14回 「道徳の時間」の「模擬授業」	【道徳教育の評価】
15回 まとめ	

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況（小テストを含む）100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 特別活動論 【昼】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

1. 文科省の中学校及び高等学校学習指導要領・特別活動の目標と内容、及び指導計画の作成と内容の取扱いの留意点について理解する。
2. 学級活動や学校行事を進めていく上で求められる基本的な指導計画の作成方法を理解する。(特別活動の指導案の作成など)
3. 子どものコミュニケーション能力や自治の力を育む学級活動の進め方や指導方法について学習する。
4. 生徒集団の自治の力を育む学校行事、生徒会活動の進め方について、具体的な実践報告を手がかりにしながら学習する。

## 教科書 /Textbooks

中学校学習指導要領解説 「特別活動編」(平成20年9月)  
高等学校学習指導要領 「特別活動」

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

折出健二編 2008 「特別活動」(教師教育テキストシリーズ) 学文社  
高旗正人他編 「新しい特別活動指導論」 ミネルヴァ書房

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション - 特別活動の教育的意義
- 2回 学級活動の目標・内容と指導計画(テキスト第3章第1節他)
- 3回 学級活動の実際 その1 中学校の実践
- 4回 学級活動の実際 その2 高等学校の実践
- 5回 生徒会活動の目標・内容と指導計画(テキスト第3章2節他)
- 6回 学校行事の目標・内容と指導計画(テキスト第3章3節他)
- 7回 学校行事の実際 - 合唱コンクールの取り組み
- 8回 生徒のコミュニケーション能力と問題解決能力を育てる学級活動 その1 対立解決プログラムについて
- 9回 生徒のコミュニケーション能力と問題解決能力を育てる学級活動 その2 傾聴のスキル、アサーティブネス
- 10回 生徒のコミュニケーション能力と問題解決能力を育てる学級活動 その3 ウイン・ウイン型の問題解決
- 11回 生徒の実態を捉えた学級経営と学級経営案
- 12回 学級の荒れを克服し、お互いを大切に作る人間関係を築く学級活動の取り組み
- 13回 困難な課題を抱える生徒の居場所づくりと学級活動の取り組み
- 14回 指導計画の作成と内容の取扱い(テキスト第4章)
- 15回 全体のまとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常点20点(課題レポートなど) 期末試験 80点  
なお、出席回数が全体の2/3に満たない場合にはこの授業の単位は認められません。  
授業の欠席については、一回につき5点のマイナスとします。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

受身的な授業への参加では実践的な指導力は養われません。  
グループワークなども含めて、積極的な授業参加を求めます。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

特別活動の目標・内容、指導計画の作成、学級活動の実際

# 教育方法学【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

本授業では、各教科等を実際に指導する場面を想定し、学習指導案の作成や教材研究等を組み入れて、将来の高度情報社会に生きる生徒に必要な資質を養うための、教育方法についての基本的な知識を獲得し、理解し、教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）の理論と基本的なスキルを獲得するとともに、教育方法についての課題を発見し、思考する。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし ( 授業中に適宜紹介する )

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 「教育の方法」とは何か	【教育の方法の形態】【比喩・モデル】
2回 20世紀までの「教育の方法」の遺産	【指導】【管理】【生活と文化】【対話】
3回 「現代」の「教育の方法」	【連続と非連続】【現代化】
4回 「新しい時代」の教師の「指導技術」	【教師の資質能力】【ファシリテーター】
5回 情報機器及び教材の活用	【メディアリテラシー】【情報活用能力】
6回 「情報化社会」における生徒の指導	【情報化社会】【インターネット】
7回 「学習遅滞」の指導	【学習遅滞】【SHELLモデル】
8回 教師と生徒の「コミュニケーション」	【話す】【聞く】
9回 「学習規律」を育てる指導方法	【出席と参加】【学習規律】
10回 各教科指導の「具体的システム」	【学習指導要領】【学習のシステム】
11回 各教科指導の「構想」と「教材研究」	【授業の三角形モデル】【事前の教材解釈】
12回 各教科指導の「学習指導案」の作成	【指導】【学習活動】【指導上の留意点】
13回 各教科指導の「展開過程」における「指導技術」	【発問】【説明】【指示】【助言】
14回 各教科指導における「評価」	【授業評価】【自己評価】
15回 「模擬授業」 - 各教科指導に向けて -	【実践的な指導】【各教科の授業】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 (小テストを含む) 100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 生徒・進路指導論【昼】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

本授業の目的は以下のとおりである。

- ① 生徒指導の意義、生徒指導の3機能(①児童生徒に自己存在感を与えること、②共感的な人間関係を育成すること、③自己決定の場を与え、自己の可能性の開発を援助すること)を理解するとともに、開発的生徒指導、予防的生徒指導、問題解決的生徒指導の区別と関連などを検討していくこと
- ② 教育課程と生徒指導、生徒指導に関する法制度、生徒指導に関する家庭・地域・関係諸機関との連携等に関する基本的な知識・理解を修得すること
- ③ 養育環境等の何らかの要因による困難な課題を抱える子どもの自立を支援する生徒指導の取り組みについて学習すること。
- ④ 実際の生徒指導の場面や事例を想定しながら、その場面での対応のあり方を考える力を養うこと。
- ⑤ 思春期・青年期の進路指導、キャリア教育の意義と課題について、今日の若者の就労をめぐる問題状況も含めつつ検討していくこと。また、実際の進路指導の場面に関する適切な指導のあり方を考える力を養うこと。

## 教科書 /Textbooks

文部科学省編 「生徒指導提要」 教育図書

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

- 桑原憲一編 中学校教師のための生徒指導提要実践ガイド 明治図書
- 嶋崎政男 「法規+教育で考える 生徒指導ケース100」 ぎょうせい
- 楠 凡之 「虐待 いじめ 悲しみから希望へ」 (高文研)
- 文部科学省 中学校キャリア教育の手引き
- 児美川孝一郎 権利としてのキャリア教育 明石書店
- キャリア発達論 - 青年期のキャリア形成と進路指導の展開 ナカニシヤ出版

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 生徒指導の意義と原理(テキスト第1章他)
- 3回 教育課程と生徒指導(テキスト第2章他)
- 4回 学級活動・学校行事と生徒指導 - 中学校1年生の実践報告
- 5回 学級活動・学校行事と生徒指導 - 中学校3年生の実践報告
- 6回 生徒指導に関する法制度等(テキスト第7章他)
- 7回 生徒指導における家庭・地域・関係機関との連携(テキスト第8章他)
- 8回 我が子の非行と向き合う親たちの会の方の講演
- 9回 思春期の「自己形成モデル」の意義と進路指導・キャリア教育
- 10回 中学校の進路指導実践 - 「ようこそ先輩」の取組み
- 11回 今日の若者の労働実態から高校進路指導の課題を考える
- 12回 個別の課題を抱える生徒への指導 その1 (テキスト 第6章II第1節他)
- 13回 個別の課題を抱える生徒への指導 その2 (テキスト 第6章II第6節他)
- 14回 個別の課題を抱える生徒への指導 その3 養育環境に困難さを抱える生徒の問題(テキスト第6章10節他)
- 15回 全体のまとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

レポート20%、期末試験80%

なお、授業の出席が2/3に満たない場合には単位の修得は認められません。  
授業を欠席した場合には、一回につき5点の減点とします。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

受け身的な受講では実践的な指導力を身につけることはできません。能動的な授業参加を期待します。

# 生徒・進路指導論【昼】

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は教職課程を履修する学生の必修科目ですが、人間関係学科の学生でスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなどの援助専門職につきたいと考えている学生にも役立つ授業だと思います。積極的に受講してください。

## キーワード /Keywords

生徒指導の三機能、児童虐待、様々な問題を表出する生徒への指導、進路指導

# 教育相談【昼】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

授業の目的は以下のとおりである。

1. 学校での教育相談の意義と課題、教育相談の領域(予防的・開発的教育相談、問題解決的教育相談)、教育相談の学校体制、他の専門職や関係諸機関との連携のあり方等についての基本的な理解を持つこと。
2. 教育相談の基本的な理念と技法(傾聴、共感的応答、開かれた質問、直面化など)を修得すること。
3. 不登校やいじめなど、様々な問題を表出している生徒に対する理解を深めていくと同時に、生徒に対する援助の留意点について、具体的な教育相談の事例や実践を踏まえて、検討していくこと。

## 教科書 /Textbooks

春日井敏之・伊藤美奈子編 「よくわかる教育相談」 ミネルヴァ書房  
文科省編 「生徒指導提要」

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 広木克行 「教育相談」(教師教育テキストシリーズ) 学文社
- 吉田圭吾 教師のための教育相談の技術 金子書房
- 日本学校教育相談学会 学校教育相談学ハンドブック ほんの森出版
- 一丸藤太郎・菅野信夫編著 学校教育相談 ミネルヴァ書房
- 楠 凡之 「いじめと児童虐待の臨床教育学」 ミネルヴァ書房
- 楠 凡之 「虐待 いじめ 悲しみから希望へ」 高文研

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション - 教育相談の意義
- 2回 教育相談の担い手としての教師(テキスト 第1章 生徒指導提要第4章)
- 3回 子どもの発達課題と教育相談(テキスト 第2章)
- 4回 教育相談の基本的な理念について - 人間に内在する力への信頼、受容、共感的理解
- 5回 教育相談の基本的なスキルについて - 開かれた質問と直面化
- 6回 教育相談の基本的なスキルについて - ロールプレイ体験
- 7回 子どもの「問題行動」と教育相談 その1 不登校問題など(テキスト 第3章)
- 8回 子どもの「問題行動」と教育相談 その2 摂食障害、性的問題行動など(テキスト 第3章)
- 9回 子どもの「問題行動」と教育相談 その3 薬物問題(外部講師)
- 10回 特別支援教育と教育相談(テキスト 第4章)
- 11回 予防・開発的取り組みと教育相談(テキスト 第5章)
- 12回 保護者への支援と教育相談(テキスト 第7章)
- 13回 教育相談の学校体制とスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなどとの連携(テキスト第9章)
- 14回 今日のいじめ問題への理解と指導 - 文科省の通知(H25.10.15)内容と学生の体験報告を踏まえて
- 15回 全体のまとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

レポート20%、期末試験80%  
なお、授業の出席が2/3に満たない場合にはこの授業の単位は認められません。  
授業を欠席した場合には、一回につき5点のマイナスとします。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

テキストはできるだけ授業の前に読んでおくこと。



# 教育相談【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育相談の理念と技法、予防・開発的教育相談、問題解決的教育相談

# 教育実習 1 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科, 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科  
恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 3年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

4年次の「教育実習」(実習校実習)に向けての事前理解として、実習生として必要な心構え、学習指導及び生徒指導等の理論・知識・技術を習得する。

## 教科書 /Textbooks

北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード	
1回 「教育実習 1」オリエンテーション	【教育実習】 【実習校】
2回 教育実習の1日	【教育実習の実態】 【教師の勤務】
3回 教育実習の体験から学ぶ(中学)	【教科指導】 【学級経営】
4回 教育実習の体験から学ぶ(高校)	【教科指導】 【学級経営】
5回 授業観察の方法	【授業観察の視点】 【授業記録シート】
6回 人権と教育	【人権】 【自尊感情】
7回 生徒の問題状況と生徒指導	【生徒指導】 【生徒理解】
8回 学級経営・学級活動の進め方	【学級集団づくり】 【学級通信】
9回 特別活動の学習指導案と模擬授業	【学習指導案】 【模擬授業】
10回 教育実習における特別活動の指導	【特別活動】 【指導事例】
11回 教材研究と授業構想	【教材研究】 【学習指導案】
12回 模擬授業①(特別活動:授業展開)	【学習指導案】 【指導目標】
13回 模擬授業②(特別活動:指導技術)	【授業構成】 【指導技術】
14回 模擬授業③(各教科:授業展開)	【授業展開】 【導入】 【展開】
15回 模擬授業④(各教科:指導技術)	【発問】 【説明】 【指示・助言】 【指導技術】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況の評価(50%) 学期末の提出物の評価(50%)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

授業の事前に指示されたことを準備すること

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 教育心理学【昼】

担当者名 /Instructor 五十嵐 亮 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

本講義では、学校教育現場や地域社会、家庭における子どもの「学び」と、それらを育む学習教育環境（教育測定・評価、教師、カリキュラム、学級集団など）の在り様に関して、主に心理学的側面に注目しながら理解を深めていく。

本講義では、子どもの「学び」に関わる理論や実践例を、代表的な研究者の考え方、日常的な具体例を取り上げながら学習することを通して、上記の問題に関して、「心理学的視点から自分の考えを持てるようになること」を目標とする。

講義を中心としながら、日常的な具体例を通して実際の関わり方を考えることのできる機会を毎回設けていく。

## 教科書 /Textbooks

指定せず（毎回配布資料を用いる）

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業中に随時情報を提供する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回オリエンテーション
- 2回教育心理学の理論と方法
- 3回子どもの「学力」(1) 【関心・意欲】
- 4回子どもの「学力」(2) 【知識・理解】
- 5回子どもの「学力」(3) 【思考・判断】
- 6回子どもの「学力」(4) 【表現・技能】
- 7回教育測定・評価(1) 【測定学力、目標学力】
- 8回教育測定・評価(2) 【評価基準、テスト作成】
- 9回教師と授業づくり(1) 【教師の思考様式、教師の信念体系】
- 10回教師と授業づくり(2) 【学びの共同体、グラウンド・ルール】
- 11回学習環境と教育方法(1) 【学習集団編成、集団力学】
- 12回学習環境と教育方法(2) 【習熟度別学習、協働学習理論】
- 13回カリキュラムと学習材
- 14回発達障害
- 15回まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平素の学習状況（学習態度、ミニレポート等）...30%  
レポート...20%  
学期末試験...50%  
（ミニレポートは、毎回講義時間内（10分）に記述する）

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

特になし

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 障害児の心理と指導 【昼】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

「障害」とは何か。その社会的定義、障害者観を踏まえ、障害を有する人々が示す特徴について理解を深める。また、障害児・者の抱える発達課題、支援のあり方について具体的なアセスメント・臨床技法を交えて考える。

## 教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

授業中に適宜紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：障害児・者心理学について
- 第2回 障害の概念とノーマライゼーション
- 第3回 人々の障害者観：障害をどう捉えるか
- 第4回 障害の重積・深化の過程と発達援助
- 第5回 障害のアセスメント【発達評価・心理検査】
- 第6回 視覚障害について
- 第7回 聴覚障害について
- 第8回 姿勢・運動の障害について
- 第9回 知的障害について
- 第10回 自閉症スペクトラム障害について
- 第11回 注意欠陥多動性障害について
- 第12回 学習障害について
- 第13回 青年期以降に診断される障害について
- 第14回 障害児・者への地域支援の在り方
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

なし

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 教育社会学【昼】

担当者名 /Instructor 作田 誠一郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 集中  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

社会学的な視点から教育に関わる諸現象を多角的に考察することで、教育制度や教育問題（いじめや非行等）を客観的に検討し、理解することが本講のテーマである。

- ・ 教育社会学および社会学の理論の基礎的な知見を学び、社会や教育の常識を問い直す。
- ・ 教育に関わる諸問題を多角的に考察することで、新たな知見を得る。
- ・ 教育に関わる諸制度の変遷や社会的な変動等を踏まえて、学校社会について理解する。

## 教科書 /Textbooks

なし。資料等については、授業中に適宜配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

- I.イリッチ,東洋・小沢周三訳,1977,『脱学校の社会』東京創元社  
P.ブルデュー・J.-C.パスロン,宮島喬訳,1991,『再生産』藤原書店  
P.ウィリス,山田潤・熊沢誠訳,1996,『ハマータウンの野郎ども』筑摩書房  
E.デュルケム,麻生誠・山村健訳,2010,『道徳教育論』講談社  
広田照幸・伊藤茂樹,2010,『教育問題はなぜまちがって語られるのか?』日本図書センター  
酒井朗・多賀太・中村高康編著,2012,『よくわかる教育社会学』ミネルヴァ書房

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション  
第2回：教育社会学の対象と方法  
第3回：子どもの社会化と家族・学校  
第4回：学校という組織  
第5回：学校社会と生徒文化  
第6回：学校社会と教師文化  
第7回：文化的再生産論にみる学校社会  
第8回：少年非行と逸脱理論(1) -アノミー論と文化的接触理論  
第9回：少年非行と逸脱理論(2) -コンフリクト理論とラベリング論  
第10回：日本における少年非行の歴史とその特徴  
第11回：いじめ現象の構造とその特徴  
第12回：近代化とメリトクラシーの諸問題  
第13回：グローバリゼーションと教育  
第14回：情報化社会と教育  
第15回：再帰的近代化における生徒の意識とその特徴  
定期試験

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験50%、日常の授業への取り組み30%、小レポート20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 人権教育論【昼】

担当者名 /Instructor 弓野 勝族 / YUMINO MASATSUGU / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 / 2年 / 単位 /Credits 2単位 / 学期 /Semester 1学期 / 授業形態 /Class Format 講義 / クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

教育現場及び日常生活での人権問題の具体的な事象に学びながら、人権教育の知識を豊かにするとともに、人権感覚を研ぎ、人権問題解決への技能・スキル・態度を培う。

## 教科書 /Textbooks

「手作り資料」を活用します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

人権の絵本(大月書房)、みんなの人権(明石書店)、世界が100人の村だったら(マガジンハウス)、人権・同和問題一問一答(解放出版社)、差別と日本人(角川書店)、もののけ姫(徳間書店)、他。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

私の人権教育の創造をめざして

1, 気づきと発見の部落史授業 「出会い直しと新たな発見」

第1回 「もののけ姫」(導入)

- 製作の時代背景と人権確立の潮流
- 物語の登場人物からのメッセージ

第2回 中世(平安～鎌倉～室町)

- 仏教の伝来とケガレ観
- 社会や文化のしくみと差別意識の起こり

第3回 近世(安土桃山～江戸)

- 身分統制令、身分の制度化、法制化への変遷
- 島原の乱と宗門改め帳・別帳通達と差別の強化

第4回 文学者の人権感覚に学ぶ(一茶・蕪村・芭蕉)

近代医学の夜明け(解体新書の腑分けの主人公)

第5回 近代(明治～)

- 「解放令」とその意義
- 近代化と差別の再生産へのしくみ

第6回 竹田の子守唄と少女たちの叫び

教科書無償の取り組みと親たちの願い

2, 文部科学省「人権教育の指導方法の在り方」 「継承・挑戦・創造」

第7回 同和教育の遺産と教訓に学ぶ(成果と手法の評価)

第8回 人権尊重の精神に立った学習活動の創造(学力と進路の保障)

- 人権が尊重される授業づくり「7つの視点」
- 自尊感情と学習理解力・人権意識の相関関係
- 全国学力テスト結果の分析と課題

第9回 人間関係づくり

- 「なかまづくり」の原点と実践例
- 金子みすず「わたしと小鳥と鈴と」からのメッセージ

第10回 教育環境・雰囲気づくり

- 学級の人権文化の創造(子どもの居場所づくり)

第11回 隠れたカリキュラム・空間的意識の大切さ

- 人権教育の技能・スキル・態度
- 金子みすず「東京大学入試問題」

第12回 ソーシャルスキル・アサーティブな表現を研く

- 教育現場の「具体的な実例」から考える

第13回 「体罰」と人権

- 文部科学省の調査
- 教育現場の「体罰の実例」から考える

第14回 「いじめ」問題と人権

- 「いじめ」問題の現状を認識する
- 「いじめ」の構図・しくみと解決への課題

第15回 「いじめ」問題と人権

- 「いじめ対策防止法」
- 「いじめ対策の留意点8力条」(法務省委託研究・有識者検討委員会)

# 人権教育論 【昼】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況の評価 ( 30% ) 及び学期末のレポートによる評価 ( 70% )

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

授業の中で課題を出します。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 生涯学習学【昼】

担当者名 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

本講義では、社会教育の法制度、国際的な生涯教育論の展開なども視野に入れつつ、生涯学習を支援・推進する制度・システムについて考えていきます。内容としては、生涯学習及び社会教育の本質と意義の理解を図り、教育に関する法律・自治体行財政・施策、学校教育・家庭教育等との関連、並びに社会教育施設、専門的職員の役割、学習活動への支援等の基本を解説します。

授業のねらいは、生涯学習及び社会教育の本質と意義を理解し、生涯学習に関する制度・行政・施策、家庭教育・学校教育・社会教育等との関連、専門的職員の役割、学習活動への支援等についての理解に関する基礎的能力を養うことにあります。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 社会教育推進全国協議会『社会教育・生涯学習ハンドブック』エイデル研究所
- 雑誌『月刊 社会教育』国土社
- 雑誌『社会教育』全日本社会教育連合会
- 雑誌『月刊 公民館』全国公民館連合会

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回生涯学習・社会教育の意義
- 第2回 生涯学習ボランティア -学習への支援と学習成果の活用-
- 第3回社会教育と生涯学習関連の法制度
- 第4回社会教育施設と生涯学習施設 -管理運営と連携-
- 第5回生涯学習関連施策の動向 -社会教育の歴史と発展-
- 第6回学習者の特性と学習の継続発展-学習相談、サービス、学習情報の提供
- 第7回社会教育の内容・方法・形態-学級・講座の企画
- 第8回社会教育及び生涯学習関連の指導者とボランティア
- 第9回社会教育施設-公民館
- 第10回社会教育施設-博物館
- 第11回社会教育施設-図書館
- 第12回大都市における公民館-北九州市 -自治体行財政制度と施策立案・推進-
- 第13回図書館、博物館における学習・グループ活動
- 第14回成人教育の国際的動向 -日本の特質と学習権-
- 第15回住民の力量形成と地域づくり -家庭教育・学校教育・社会教育の連携-

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の小レポート...70% 課題レポート...30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

学芸員資格や社会教育主事資格として受講する場合、必修科目の基本科目としてこの授業を先に受講するか、他の関連科目とあわせて受講すると、資格科目の理解が深まります。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords



# 教育工学【昼】

担当者名 /Instructor 大塚 一徳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

本講義は、教員免許を取得するにあたって必要な教育方法・技術、教材と教具、指導方法を学び、授業の実践的指導力の基礎を養うことを目標とする。また近年の著しいICT(情報通信技術)の進展を踏まえ、PCやWebを活用した教材作成の方法・技術の修得の基礎についても概観する。さらに、模擬授業の実施及び評価等を通して、教育の方法と技術の実践的活用能力の基礎を育成し、各教科等の指導に最小限必要な資質について学ぶことを主なねらいとする。

## 教科書 /Textbooks

指定しない。必要な資料を適宜授業で配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

中学校学習指導要領 平成20年3月告示 東山書房 244円  
 高等学校学習指導要領 平成21年3月 告示東山書房 588円  
 平沢茂編著 教育の方法と技術 図書文化2000円  
 小川哲生他著 教育方法の理論と実践 明星大学出版部 1500円

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
1. オリエンテーション【本授業の内容・進行・評価方法】
  2. 授業と教育方法【教育方法】
  3. 授業と教育技術【教育技術】
  4. 授業のシステム化の方法と授業設計の手順【授業設計】
  5. 授業過程の分析と改善【授業過程】
  6. 授業実施の技術【授業技術】
  7. 授業の評価【授業評価】
  8. 教育における情報化社会の影響【情報化社会】
  9. 教育におけるICT(情報通信技術)の活用【ICT】
  10. 学習指導案の作成【学習指導案】
  11. 教材研究【教育メディアとその活用】
  12. 模擬授業【模擬授業】
  13. テストと学習内容の評価【テスト】
  14. 授業実践能力の改善と向上【教育の方法と技術の実践能力】
  15. 現代の教育課題と講義のまとめ【現代の教育課題】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

教材研究課題(20%)、模擬授業(30%)、試験(50%)により総合的に評価する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

教材研究、模擬授業等に関する課題の提出は必須の課題となります。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 歴史と政治【夜】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と歴史との関係性を政治学的視点から総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	歴史について政治学的視点から総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	歴史と政治に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			歴史と政治
			PLS110F

## 授業の概要 /Course Description

明治憲法体制の成立（1889年）から崩壊（1945年）までの日本政治の歩みを概説します。明治憲法の下でなぜ、政党政治が発展できたのか。それにもかかわらず、なぜ、昭和期に入ると軍部が台頭したのか。この二つの問題を中心に講義を進めていきます。日本のことを知らなくて、国際化社会に対処することはできません。この講義では、日本近現代史を学び直すことを通じて、21世紀にふさわしい歴史的感覚を涵養していきます。

## 教科書 /Textbooks

なし。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

○小林道彦『児玉源太郎』・『桂太郎』（ともにミネルヴァ書房）、○岡義武『山県有朋』（岩波新書）、○岡義武『近衛文麿』（岩波新書）、○高坂正堯『宰相吉田茂』など。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN
- 第2回 「文明国」をめざして - 憲法制定・自由民権運動【伊藤博文】【井上毅】【板垣退助】【大隈重信】
- 第3回 明治憲法体制の成立【伊藤博文】【山県有朋】【児玉源太郎】【統帥権】
- 第4回 日清戦争【伊藤博文】【陸奥宗光】
- 第5回 立憲政友会の成立【伊藤博文】【山県有朋】【星亨】
- 第6回 日露戦争【桂太郎】【小村寿太郎】
- 第7回 憲法改革の頓挫【伊藤博文】【児玉源太郎】【韓国併合】
- 第8回 大正政変【桂太郎】【尾崎行雄】【21カ条要求】
- 第9回 政党内閣への道【原敬】【山県有朋】【加藤高明】
- 第10回 二大政党の時代【浜口雄幸】【田中義一】【統帥権干犯問題】
- 第11回 軍部の台頭【満州事変】【皇道派】【統制派】
- 第12回 2・26事件【高橋是清】【永田鉄山】【「満州国」】
- 第13回 日中戦争【近衛文麿】【西園寺公望】【近衛新体制】
- 第14回 太平洋戦争 - 明治憲法体制の崩壊【昭和天皇】【日独伊三国軍事同盟】
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な講義への取り組み...10% 期末試験...90%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# 歴史と政治【夜】

## 履修上の注意 /Remarks

講義前に高校教科書程度のレベルの知識を得ておくこと。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。各自積極的に受講して下さい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 異文化理解の基礎【夜】

担当者名 /Instructor 杉原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	文化に関する知識を学び、人間と「思想・文化」「国際社会」「地域社会」の関係性について総合的に理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化に関する既存概念を根本的に省察したうえで総合的分析を行い、自ら発見した課題の解決に有効な思索ができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	文化に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。	
	コミュニケーション力			
			異文化理解の基礎	ANT110F

## 授業の概要 /Course Description

「文化」という言葉から伝統芸能や芸術活動を連想する受講者も多いかもしれない。本講義では文化を「人間の生活様式を規定してきたもの」としてより幅広く考え、現代社会における多様な文化のありかたを基礎から考えることを目指す。  
 (おそらく大部分が)北九州周辺に在住の大学生という受講者にとってあたりまえである「常識」もまた、それまで生きてきた文化のなかではくまれたものである。本講義では、その受講者にとっての「常識」を問いなおしつつ、世界や日本の家族・親族関係のありかた、世界観を軸に文化を理解することの基礎を学ぶ。毎回最後の10-15分は指定するトピック(次回のテーマに関するもの)についての記述を求め、次回の講義の冒頭で、提出された内容から読み取れる「現在、受講者が持っている文化に関する常識」を導入に講義を進める。  
 本講義は、個々の文化の違いについて逐一学ぶものではない。身近なようだがみどころのない文化をどうとらえるか、文化という既存概念を問い直すことで、自分が世界に対峙するための姿勢を身に着ける手掛かりを学んでほしい。

## 教科書 /Textbooks

特に指定しない。授業ではPower Pointを使用するが、それだけに頼らず、各自ノートをしっかり取ること。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 綾部恒雄・桑山敬己2006『よくわかる文化人類学』ミネルヴァ書房
- 奥野克己(編)2005『文化人類学のレッスン』学陽書房
- 田中雅一ほか(編)2005『ジェンダーで学ぶ文化人類学』世界思想社
- 波平恵美子2005『からだの文化人類学』大修館書店

※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

# 異文化理解の基礎【夜】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 導入：グローバルでローカルな世界を理解するてがかりとしての文化

第I部 文化の基礎としての家族

第2回 家族は普遍的な概念か？

第3回 生殖医療の時代に至るまでの家族・親族関係の変容

第4回 伝統的社会における親族関係

第5回 親族・家族関係から社会関係への拡張

第6回 ジェンダーと伝統文化

第7回 伝統文化について：構築主義と本質主義

第8回 文化相対主義の考え方

第9回 中間テスト

第II部 文化と世界観

第10回 儀礼にもとづく時間・空間認識

第11回 宗教紛争と日常の中の宗教

第12回 不幸への対処としての呪術

第13回 中間テストの解説

第14回 現代社会のなかの呪術

第15回 政教分離と世俗化

## 成績評価の方法 /Assessment Method

中間テストまたはレポート 40%、期末レポート 60% を基本に、各自の授業貢献を適宜加点する。

※中間テストを予定しているが、受講者の数によってはレポートにすることがあります。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

- ・ 講義に出席していても、テストやレポートで評価が悪ければ、結果として単位を落とすこともあります。講義に真剣に取り組んでください。
- ・ 評価方法などは第一回の講義で説明しますので、第一回目の講義は必ず出席してください。
- ・ 中間テストの無断欠席者や提出課題の未提出者、授業態度が目に見えて余る受講生は、評価割合の枠を超えて大幅に減点することがあります。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義「異文化理解の基礎」の応用編はテーマ科目「政治のなかの文化（新カリのみ）」とビジョンII「現代社会と文化（旧カリ：文化と政治）」です。基礎が分かるからこそ面白いと思える内容ですので、受講すると、文化についてより包括的な理解が深まります。

## キーワード /Keywords

文化、個人と集団、家族、ジェンダー、宗教、共同体、社会関係

# ことばの科学 【夜】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	言語の様々な側面についての基本的知識を身につけ、言語学の課題を理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	自身の言語活動を通して言語学に関する課題を発見し、言語学の手法を用いて分析する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力 コミュニケーション力	●	生涯にわたって言語に関心を持ち、言語および言語学の課題についての意識を高める。
			ことばの科学 LIN110F

## 授業の概要 /Course Description

「ことば」は種としての「ヒト」を特徴づける重要な要素です。しかし、私たちはそれをいかにして身につけたのでしょうか。「ことば」はどのような構造と機能を持っているのでしょうか。「ことば」の構成要素を詳しく見ていくと、私たちが「ことば」のうちに無意識に体現しているすばらしい規則性が明らかになります。それは、狭い意味での「文法」ではなく、もっと広い意味での言語の知識です。この講義では、私の専門である生成文法の言語観に基づきながら、日本語、英語をはじめその他の言語のデータや最近の脳科学での発見を交え、「ことば」について考えていきます。

## 教科書 /Textbooks

配布資料・その他授業中に指示

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 『はじめて学ぶ言語学：ことばの世界をさぐる17章』大津由紀雄編著、ミネルヴァ書房、2009年。
- 『言語を生みだす本能(上)・(下)』ステイヴン・ピンカー著、棕田直子訳、NHKブックス、1995年。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 序(1)：ことばの不思議
- 第2回 序(2)：ことばの習得
- 第3回 ことばの単位(1)：音韻
- 第4回 連濁
- 第5回 鼻濁音
- 第6回 ことばの単位(2)：語
- 第7回 語の基本：なりたち・構造・意味
- 第8回 語の文法：複合語・短縮語・新語
- 第9回 ことばの単位(3)：文
- 第10回 動詞の自他
- 第11回 日本語と英語の受動態
- 第12回 数量詞
- 第13回 時制と相：方言比較
- 第14回 ことばと脳：言語野と他の領域
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の態度...10% 課題...30% 期末試験...60%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 国際学入門【夜】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の国際社会で生起する様々な問題について、総合的に理解する能力を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の国際社会で生起する様々な問題について、地域研究的視点からの理解を習得する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	国際問題に関して、地域研究的視点から見直す能力を獲得する。
	コミュニケーション力		
			国際学入門 IRL100F

## 授業の概要 /Course Description

現代の国際社会を理解するに当たっては、大きく2本の柱が必要となる。すなわち、①グローバル化のすすむ国際社会へ対応する形での研究（国際関係論、国際機構論、国際地域機構論、国際経済論、国際社会論など）と②世界の多様化に対応するための研究（地域研究、比較文化論、比較政治論など）である。本講義では、後者「地域研究」の問題意識、手法を中心に、現代国際社会理解に当たって、その有用性を考えてみる。

## 教科書 /Textbooks

適宜指示する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準等の説明。
- 第2回：現代の国際社会、現代国際社会理解の方法。【国際問題の変容】【グローバル化】【多様化】
- 第3回：「地域研究」の問題意識、【地域研究のルーツ】
- 第4回：地域研究における総合的認識とは【総合的認識】
- 第5回：地域研究における全体像把握とは【全体像の把握】
- 第6回：全体像把握の方法【全体像把握の方法】
- 第7回：オリエンタリズム関連DVDの視聴【オリエンタリズム】
- 第8回：オリエンタリズム克服の方法【オリエンタリズムの克服方法】
- 第9回：「地域研究」における文化主義的アプローチ【文化主義的アプローチ】
- 第10回：「地域」概念、中間的まとめ。【地域概念】
- 第11回：「地域研究」の技法。【フィールドワーク】
- 第12回：「関わり」の問題【ジョージ・オーウェルとミャンマー】
- 第13回：地域研究の視点（人間関係）【人間関係】
- 第14回：まとめ
- 第15回：質問

## 成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

可能であるならば、本講義と共に、国際関係論、国際機構論、比較文化論などを履修することを勧める。



担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 生活世界の哲学【夜】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	哲学の知識に基づいて人間と生活世界との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	生活世界に関する課題を哲学的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生活世界に関する問題を哲学的に解決するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			生活世界の哲学
			PHR110F

## 授業の概要 /Course Description

「生活世界」を講義全体のキーワードとして、初学者向けに社会哲学への手引きを行なう。この科目を真摯に受講すれば、20世紀のヨーロッパで展開された社会思想に関する基本的な知識が得られるだろう。具体的には、フッサール現象学からフランクフルト学派、ハンナ・アーレントにまで至る思想家たちの「近代」に対する基本的なスタンスを説明しつつ、生活世界の変容とその問題点を確認したあと、21世紀の今日でもなお哲学的思索の糧となりうる「古代」の分析に取り組む。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- E・フッサール『ヨーロッパ諸学の危機と超越論的現象学』（細谷恒夫・木田元訳）、中公文庫、1995年。
  - ホルクハイマー/アドルノ『啓蒙の弁証法—哲学的断想』（徳永恂訳）、岩波文庫、2007年。
  - ハンナ・アーレント『イェルサレムのアイヒマン』（大久保和郎訳）、みすず書房、1969年。
  - ハンナ・アーレント『人間の条件』（志水速雄訳）、ちくま学芸文庫、1994年。
- その他は授業中に指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 近代の勃興【ガリレイと科学革命】
- 3回 生活世界の概念【フッサールの科学批判】
- 4回 生活世界の変容(1)【高度産業社会】
- 5回 生活世界の変容(2)【美とテクネー】
- 6回 生活世界の変容(3)【複製技術と政治】
- 7回 確認テスト
- 8回 生活世界の変容(4)【全体主義と思考能力・前半】
- 9回 生活世界の変容(5)【全体主義と思考能力・後半】
- 10回 生活世界の二元性【アーレントの近代批判】
- 11回 公私の区別とその起源(1)【古代ギリシャ概説・前半】
- 12回 公私の区別とその起源(2)【古代ギリシャ概説・後半】
- 13回 公私の区別とその起源(3)【古代ギリシャの公と私】
- 14回 宗教の私事性と公的領域(1)【寛容の概念】
- 15回 宗教の私事性と公的領域(2)【衝突と共生】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

確認テスト...40% 学期末試験...60%  
(第7回に予定している確認テストを受験していない者は、自動的に期末試験の受験資格を失う。)

# 生活世界の哲学 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

高校世界史の教科書を一通り読み直しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

科学技術 生活世界 活動 ポリス

# 日本の防衛【夜】

担当者名 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	安全保障や防衛と国民との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	わが国の防衛上の諸問題について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	わが国の防衛上の課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			日本の防衛
			PLS111F

## 授業の概要 /Course Description

わが国の防衛に関する概説を通じて、その必要性や意義について理解し、防衛一般についての知識や理解に基づいて、広く安全保障一般に対する思考を促すことを目的とする。具体的には、安全保障とは何か、防衛とは何か、といった基礎概念の提示を行い、防衛の必要性や意義を論ずることになるが、これらを理解するためには、前提として、わが国が置かれた環境および目下の脅威を把握する作業（状況認識）が欠かせない。一方で、わが国は憲法9条のもと「平和主義」を標榜していることから、その防衛も様々な制約を受けることになる。従って、わが国の防衛を考えるには、そうした「制度」面での知識も欠かせない。以上を踏まえ、本講義では、日本の防衛について、現実的な視点と制度的な視点の双方を重視し、総論、各論を通じて、現状と課題の理解と思考を促したい。

なお、この授業の到達目標は、同分野における①総合的知識・理解の獲得、②課題発見・分析・解決力の獲得、③生涯学習力の獲得、に置かれている。

## 教科書 /Textbooks

なし。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

『防衛白書』、『防衛ハンドブック』、その他は適宜指示する。

# 日本の防衛【夜】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 安全保障と防衛(1)  
安全保障を学ぶことの重要性、安全保障の目標、安全保障のスペクトラム
- 第3回 安全保障と防衛(2)  
安全保障の定義、脅威の定義、安全保障の非軍事的側面と総合安全保障、国土安全保障
- 第4回 わが国周辺の軍事的脅威(1)  
有事の意識、三矢研究、有事の想定(国民保護「基本指針」)、わが国の地理的・地政学的特性、防空の基本(警戒・管制、領空と防空識別圏、領空侵犯対処とスクランブル、現況と今後)
- 第5回 わが国周辺の軍事的脅威(2)  
海上警備の基本(空と海の違い、哨戒について、九州南西海域不審船事案)、北朝鮮の脅威について①(兵力の特徴、特殊部隊、江陵事案、わが国の防衛に対する意味、島嶼防衛とゲリコマ対処)
- 第6回 わが国周辺の軍事的脅威(3)  
北朝鮮の脅威について②(1993年ノドン発射、北朝鮮の保有する弾道ミサイルとノドンの重要性、1998年テポドン発射、弾道ミサイルと人工衛星、2006年ミサイル発射、米国のMD構想と日本のBMD)、2009年テポドン2発射と日本の対応、2012年ミサイル発射と日本の対応)
- 第7回 わが国周辺の軍事的脅威(4)  
中国海空軍の脅威について(中国軍の不透明性、軍事態勢、海軍の動向と海上戦略、動的防衛力)ロシア軍の動向について(軍事再編の概況、極東の現況、ロシア海空軍の動向)
- 第8回 「平和主義」国の防衛(1)  
いわゆる「軍隊のない国」はわが国の参考になるか、憲法9条と平和主義①(戦争放棄で放棄される「戦争」とは、自衛権について、「防衛戦争」と「防衛行動」、わが国が「自衛」で認められる範囲について)
- 第9回 「平和主義」国の防衛(2)  
「戦力」と「防衛力」の違い、「必要最小限度の実力」と防衛力の限界、専守防衛とは何か、
- 第10回 「平和主義」国の防衛(3)  
「防衛」の目的、攻撃の未然防止と「抑止」、「さらなる攻撃の阻止」と専守防衛、わが国の「拒否力」のあり方と動的防衛力、敵基地攻撃の可能性と限界)
- 第11回 国際平和協力  
国際平和協力活動の枠組み、国際平和協法力について、主な取組み、課題(武器使用基準、駆けつけ警護、集団的自衛権について)
- 第12回 海洋国家日本とシーレーン  
シーレーンとは何か、シーレーン問題についての議論の推移、91年海自ペルシャ湾派遣の「目的」、海賊対処の重要性
- 第13回 防衛計画の大綱(1)  
基盤的防衛力構想と51大綱、16大綱までの概略
- 第14回 防衛計画の大綱(2)  
22大綱の特徴(基盤的防衛力構想からの離脱、動的防衛力とは何か、自衛隊の新体制と課題、わが国防衛はどこに向かってゆくのか)
- 第15回 予備

1回程度は、自衛官(高級幹部)をゲストで招き、講演してもらう予定。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

試験100%。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

特になし。  
安全保障や防衛問題に関心があれば、誰でも履修してみてください。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 生命と環境【夜】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	多様な生命とそれを生み出した環境についての基礎知識を獲得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	生命およびそれを生み出した環境について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	身近な生命と環境に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			生命と環境
			BI0100F

## 授業の概要 /Course Description

約40億年前の地球に生命は誕生し、長い時間をかけて多様な生物種へと進化してきた。そもそも生命とはなにか。生物は何からできており、どのようなしくみで成り立ち、地球という環境においてその多様性はどのように生じてきたか。本講では、遺伝子や生物の多様性と進化、それに影響を与えてきた生命を取り巻く環境について広く学び、生命と環境に関する身近な課題を自ら発見・解決するための基礎的な力を身につける。また、生命や宇宙がこれまでどのように「科学」されてきたかを知ることによって、科学的なものの捉え方の大切さについて理解することを目標とする。

## 教科書 /Textbooks

なし。毎回資料を配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 文系のための生命科学入門 東京大学生命科学教科書編集委員会 2011年(羊土社)2940円
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1890円
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1890円
- 宇宙と生命の起源—ビッグバンから人類誕生まで 嶺重慎・小久保英一郎編著 2004年(岩波ジュニア新書)903円

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(日高・中尾)
- 2回 ミクロとマクロの世界(日高・中尾)【物質の単位】【自然科学】
- 3回 宇宙に生まれた物質(中尾)【元素】【原子】【超新星爆発】
- 4回 生命と分子のなりたち(日高)【DNA】【タンパク質】
- 5回 生命の誕生・細胞(日高)【細胞膜】【共生説】
- 6回 単細胞から多細胞生物へ(日高)【地球環境の変化と生物】
- 7回 生物の分類と系統(日高)【種】【進化】
- 8回 生殖と生命多様性(日高)【有性生殖】【減数分裂】
- 9回 遺伝子につけられた名前(日高)【突然変異】【遺伝学】
- 10回 放射能と放射線(日高)【放射性同位元素】
- 11回 科学と似非科学(日高・中尾)【血液型】【星座】
- 12回 太陽と地球の環境(中尾)【太陽活動】【地球温暖化問題】
- 13回 人類の起源(日高)【ミトコンドリア】【ゲノム】
- 14回 映画鑑賞(日高)
- 15回 質疑応答とまとめ(日高)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の課題・小テスト 40%  
期末テスト 60%

# 生命と環境 【夜】

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

高校で生物を履修していない者は参考書を入手し、授業に備えること。  
2学期開講「人間と生命」を合わせて受講すると理解がより深まるでしょう。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

基盤教育センターの専任教員・日高（生物担当）および中尾（物理担当）による自然科学の入門講座です。この分野が苦手な者や初めて学ぶ者も歓迎します。参考書やインターネットを活用し、わからない用語は自分で調べるなど、積極的に取り組んで下さい。暗記中心の受験勉強とは違った楽しみが生まれるかもしれません。

## キーワード /Keywords

# 情報社会への招待【夜】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と情報社会との関係性を総合的に理解し、21世紀の市民として必要な教養を身につけている。
技能	情報リテラシー	●	情報社会の特性を理解した上で、情報及び情報システム、インターネットを活用する技能を身につけている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報社会についての総合的な分析をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	情報社会の現在、及び、未来に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			情報社会への招待
			INF100F

## 授業の概要 /Course Description

本授業のねらいは、現在の情報社会を生きるために必要な技術や知識を習得し、インターネットをはじめとする情報システムを利用する際の正しい判断力を身につけることです。具体的には以下のような項目について説明できるようになります：

- 情報社会を構成する基本技術
- 情報社会にひそむ危険性
- 情報を受け取る側、発信する側としての注意点

本授業を通して、情報社会を総合的に理解し、現在および将来における課題を受講者一人一人が認識すること、また、学んだ内容を基礎として、変化し続ける情報技術と正しくつき合って適応できる能力を身につけることを目指します。

## 教科書 /Textbooks

なし。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 『エンドユーザのための情報基礎』 (浅羽 修丈他著) FOM出版

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 情報社会の特質【システムトラブル、炎上、個人情報】
- 2回 情報を伝えるもの【光、音、匂い、味、触覚、電気】
- 3回 コンピュータはどうやって情報を取り扱うか【2進数、ビット・バイト】
- 4回 コンピュータを構成するもの 1【入力装置、出力装置、解像度】
- 5回 コンピュータを構成するもの 2【CPU、メモリ、記憶メディア】
- 6回 コンピュータ上で動くソフトウェア【OS、拡張子とアプリケーション、文字コード】
- 7回 電話網とインターネットの違い【回線交換、パケット交換、LAN、IPアドレス】
- 8回 ネットワーク上の名前と情報の信頼性【ドメイン名、DNS、サーバ/クライアント】
- 9回 携帯電話はなぜつながるのか【スマートフォン、位置情報、GPS、GIS、プライバシー】
- 10回 ネットワーク上の悪意【ウイルス、スパイウェア、不正アクセス、詐欺、なりすまし】
- 11回 自分を守るための知識【暗号通信、ファイアウォール、クッキー、セキュリティ更新】
- 12回 つながる社会と記録される行動【ソーシャルメディア、防犯カメラ、ライフログ】
- 13回 集合知の可能性とネットワークサービス【検索エンジン、Wikipedia、フリーミアム、クラウド】
- 14回 著作権をめぐる攻防【著作権、コンテンツのデジタル化、クリエイティブコモンズ】
- 15回 情報社会とビッグデータ【オープンデータ】



# 情報社会への招待【夜】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題 ... 75%  
日常の授業への取り組み ... 25%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

受講生の理解や授業進度に応じて、授業計画を変更する可能性があります。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

専門用語が数多く出てきますが覚える必要はありません。必要なときに必要なものを取り出せる能力が重要です。アンテナを張り巡らせ、「情報」に関するセンスをみがきましょう。分からないことがあれば、随時、質問してください。

## キーワード /Keywords

情報社会，ネットワーク，セキュリティ

# 環境問題概論 【夜】

担当者名  
/Instructor

廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
									○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と「自然・環境」との関係性の総合的な理解、環境問題に関する正しい知識などを身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	環境問題の根本的な省察、総合的な考察をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各自が所属する社会が抱える環境問題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
		環境問題概論 ENV100F	

## 授業の概要 /Course Description

農林水産業の第一次産業の視点から、生物多様性、地域内物質循環、自然資源の管理等、「なぜ環境問題が生じるのか？」について、基礎的な知識を充足することを目的とする。望ましい人間と自然、または自然を介した人と人との関係性について、環境問題に対する総合的な理解を促すことが狙いである。本授業で基本的な環境に対する見方・考え方を身に付ける事によって、その後、環境問題に対し自立的に課題を発見し分析、解決することができる知識の充足を目指す。

## 教科書 /Textbooks

特になし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて適宜紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション -環境問題を見る視点について-
- 第2回 沿岸海域の環境保全者としての漁業者 -干潟の仕組み-
- 第3回 沿岸海域の環境保全者としての漁業者 -海はだれのものか-
- 第4回 伝統的な農村部の生活と自然環境
- 第5回 農業の環境保全的機能と大規模集約型農業について
- 第6回 農業の可能性と第6次産業化
- 第7回 山を守る人々 -守るために利用すること-
- 第8回 森林を焼き払う農業 -焼き畑農業は環境保全的か-
- 第9回 中間試験 (※中間試験の日程は前後する可能性があります)
- 第10回 日本人における自然観の変遷と考え方 -環境倫理-
- 第11回 生物多様性と日本の草原
- 第12回 国際的枠組み -SATOYAMAイニシアティブの取り組み-
- 第13回 食物連鎖と地域内物質循環
- 第14回 なぜ環境問題は生じるのか -レポート試験の実施- (※レポート試験は日程が前後する可能性があります)
- 第15回 総括と復習

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極的参加姿勢：20%  
不定期に何回か実施する試験(レポート試験含む)：80%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# 環境問題概論 【夜】

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

環境問題の中でも本授業は都市環境問題や地球温暖化等の問題ではなく、自然環境に特化した授業となる。  
特に専門的な知識は必要ないが、中学生レベルの生物および、安易な生態学（食物連鎖等）的な基礎的な知識に対する言及や説明を行うことを想定し、履修していただきたい。

## キーワード /Keywords

# 教養基礎演習I【夜】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 演習  
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習 I
			GES101F

## 授業の概要 /Course Description

このクラスのテーマは、「バレーボールを科学する！技術編」です。  
「映像情報および公式情報に基づくゲームの見直し作業」を通じて得られた知見をもとに、戦術理解の深化をキーワードに、大学生の武器である「頭（頭脳）」を使って「バレーボール」と真正面から向き合うための基礎知識・技術を習得してもらおうと思っています。バレーボールで試合に勝つためには、連続失点を少なくすること、連続得点を多くすることを考えたチーム作りが必要になりますが、今回、ここでは「連続得点をとる」をキーワードに、基本的な戦術の理解とともに映像等を基にしたデータ分析の基礎的な手法を学んでいきます。  
作業は、座学と調査・実習を組み合わせながら、グループで行うことを予定しています。このプロセスを通じ、①情報を収集する力、②データを分析する力、③問題（ポイント）を発見する力、④自分の考えを人に伝達する力、⑤考えを異にする人と討論し、説得する力を、みなさんには身につけ、高めてほしいと思います。

生涯学習力との関係で、今年度は、（財）日本バレーボール協会に有効に登録されているチーム/組織のメンバーのみを受講の対象とします。（選手登録、スタッフ登録いずれも可。1年生で登録予定の方も可。大学チーム、クラブチームは問いません。）

## 教科書 /Textbooks

テキスト等はありません。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

参考書等は、初回の授業時に、紹介します。  
授業の理解に必要な資料等は、適宜、配布します。

# 教養基礎演習I【夜】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースガイダンス，受講者の確定  
 第2回 バレーボールとアナリストの役割，公式記録の見方
- 【連続得点をとるための分析軸I：サービス⇒レセプション（サービスによって先手を取る）】  
 第3回 戦術理解I：レセプションフォーメーション&サービス  
 第4回 ゲーム映像からの分析I①：フォーメーションのチェック  
 第5回 ゲーム映像からの分析I②：ローテーションごとに結果を整理（レセプションの評価）  
 第6回 分析結果の発表I：サービスの狙い目はどこか
- 【連続得点をとるための分析軸II：レセプション⇒アタック（相手チームの攻撃パターンを知る）】  
 第7回 戦術理解II：アタックフォーメーション  
 第8回 ゲーム映像からの分析II①：レセプション⇒攻撃（軌跡化）  
 第9回 ゲーム映像からの分析II②：レセプション⇒攻撃（選手ごとの特徴）  
 第10回 分析結果の発表II：どのような特徴がレセプションからの攻撃に見られるか
- 【連続得点をとるための分析軸III：ディグ⇒アタック（拾って攻撃につなげる）】  
 第11回 戦術理解III A：ブロックシステム，フロアディフェンスフォーメーション  
 第12回 ケーススタディIII A：チーム事情に応じたシステムを考えよう  
 第13回 戦術理解III B：アタック&ブロックフォローフォーメーション  
 第14回 ケーススタディIII B：高さを理解した攻撃を考えよう（2つの最高到達点の比較から）
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加の程度をもとに総合的に評価します。  
 具体的には、受講意識、出席状況、報告・課題などへの取り組み状況、授業態度、貢献度（積極的な発言など）を基準として評価することになります。総合的知識・理解については、分析に必要な理論や技術を習得し使いこなすことができるかどうか、人間の行動パターンを数値化してとらえることの意義を理解できているかどうかの観点から評価します。課題発見・分析・解決力については、実際のゲーム映像を分析することで、対象チームや選手個人の特徴を抽出するとともに、試合に勝つために必要なオリジナルの分析結果（解決案）を導き出すことができるかどうかの観点から評価します。生涯学習力については、競技としてのバレーボールとのかかわり方や授業や課題への取り組み姿勢といった観点から評価します。コミュニケーション力については、グループ作業へのかかわり方やプレゼンの状況といった観点から評価します。  
 ゼミへの参加と観点評価...100%（4つの観点・各25%）

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

生涯学習力との関係で、今年度は、（財）日本バレーボール協会に有効に登録されているチーム/組織のメンバーのみを受講の対象とします。（選手登録、スタッフ登録いずれも可。1年生で登録予定の方も可。大学チーム、クラブチームは問いません。）

サブゼミなどのため、正規の授業時間外にも時間を取ってもらうことになります。  
 受講申請にあたってはこの点に注意してください。  
 最大でも12人を予定しています。  
 欠席や遅刻は、ゼミの運営に支障をきたし、グループでの作業に深刻な影響を与えることになります。参加状況が悪い場合には、その後のゼミ受講を認めませんので、注意してください。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

バレーボールが真に好きで、競技接点を持っており、得られた知見を、現在、そして将来にわたって、活かしてくれる人を募集します。  
 あなたの『バレーボール力』をさらに伸ばしてみませんか。

## キーワード /Keywords

バレーボール アナリスト データ分析 各スキル・エリアの記号化 スキル評価の基準

# 地球の生いたち【夜】

担当者名 /Instructor 長井 孝一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	地球史を学ぶことを通じて地球と人間とのあるべき関係性を総合的に理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地球と人間について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	地球と人間に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。	
	コミュニケーション力			
			地球の生いたち	GOL001F

## 授業の概要 /Course Description

我々の住む地球は太陽系の第3惑星として、今から約46億年前に誕生した。その46億年の地球史の中で、大地や海、大気が形成され、地球生命が誕生し、さらに、そのそれぞれが進化あるいは変遷を繰り返してきた。地球生命は約38億年前に誕生し、長大な時間をかけて進化を繰り返してきた。我々人類は今、地球の生物史上初めて地球に能動的にかかわる生物として、その長大な時間の延長線上にいる。高度文明社会が人類や地球の未来を危うくしかねない問題を次々と引き起こしている現在、我々はこれまでも増して地球のしくみと地球史について正しく理解する必要がある。

この授業では、地球のしくみと地球史に対する講義を通して、地球と人間とのあるべき関係を正しく理解するとともに、地球と人間との共生の道をさぐる。

## 教科書 /Textbooks

教科書は使用せず、プリントを適宜配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

川上伸一『生命と地球の共進化』（日本放送協会）、1071円  
丸山茂徳・磯崎行雄著『生命と地球の歴史』（岩波書店）、861円  
田近英一著「地球環境46億年の大変動史」（化学同人）、1680円  
その他の参考書については授業中に適宜紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目：地球の歴史の表し方【地質時代と絶対年代】
- 2回目：生きている地球1【プレートテクトニクス】
- 3回目：生きている地球2【ウエゲナーと大陸移動説】
- 4回目：地球惑星の起源と進化【水の惑星の誕生】
- 5回目：地球生命の起源と目に見えない生物の長い長い時代【先カンブリア時代】
- 6回目：先カンブリア時代末の大事変【全球凍結】
- 7回目：生物進化史上最大の事変1【カンブリア爆発】
- 8回目：生物進化史上最大の事変2【カンブリア爆発の意義】
- 9回目：顕生累代の生物の変遷史1【古生代】
- 10回目：繰り返す大量絶滅1【ペルム紀末の大量絶滅】
- 11回目：顕生累代の生物の変遷史2【中生代】
- 12回目：繰り返す大量絶滅2【白亜紀末の大量絶滅】
- 13回目：顕生累代の生物の変遷史3【新生代】
- 14回目：人間圏の成立と地球環境問題【人類と地球環境】
- 15回目：まとめと演習

# 地球の生いたち【夜】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験：90%，ミニレポート：10%  
欠席の多い学生は減点する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

毎回配布する資料プリントの説明文や図表類を帰宅後に読み直し、授業の内容を復習すること。また、シラバスによって次回の授業内容の確認を行ない、可能であればシラバスに載せている参考書等を用いて、授業に関係する部分を適宜予習・復習すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地球のしくみと地球史を学ぶ事を通して、地球と人間とのあるべき関係について考えましょう。

## キーワード /Keywords

地球のしくみ，地球史，生命と地球の共進化

# 思想と現代【夜】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の人間と思想との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の思想について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代の思想に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			思想と現代
			PHR004F

## 授業の概要 /Course Description

今年度は、サブタイトルを「教養としてのユダヤ思想」と題し、主に19世紀末から20世紀にかけて登場したエポックメイキングなユダヤ文化と思想との関わりを紹介する。まずは「ユダヤ人」という存在に対する、フェアで中立的な考え方を身に付けてもらうべく、その来歴と特徴について詳しく解説した後、精神分析・音楽・文学・映画・倫理等のジャンルで革新的な業績を残した現代ユダヤ人について、若干の作品分析を通してユダヤ性の広がりや豊かさを確認する。以上の考察をヒントにしつつ、最終的には現代の人間と思想との関係について複眼的な思索を可能にすることが、本授業の狙いである。

## 教科書 /Textbooks

適宜プリントを配布する。

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

- 沼野充義編『ユダヤ学のすべて』、新書館、2009年。
  - 小此木啓吾『フロイト思想のキーワード』、講談社現代新書、2002年。
- その他の基本文献については授業中に指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 ユダヤ人の原点(1)【概説】
- 3回 ユダヤ人の原点(2)【トーラーの宗教】
- 4回 ユダヤ人の歴史(1)【古代から中世へ】
- 5回 ユダヤ人の歴史(2)【中世から近代へ】
- 6回 ユダヤ人の歴史(3)【近代から現代へ】
- 7回 中間総括(確認テストの実施)
- 8回 精神分析の思想(1)【概説】
- 9回 精神分析の思想(2)【一神教の精神】
- 10回 精神分析の思想(3)【補足回】
- 11回 音楽の思想【シエーンベルク】
- 12回 文学の思想【カフカ】
- 13回 倫理の思想【ヨナス】
- 14回 映画の思想【ハリウッドの亡命ユダヤ人・前半】
- 15回 映画の思想【ハリウッドの亡命ユダヤ人・後半】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

確認テスト...40% 期末テスト...60%  
(※確認テストを受験していない者は、期末テスト受験の権利を失う)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review



## 履修上の注意 /Remarks

ユダヤ人問題の原点ともいえるべき「ユダヤ教」について、その基本的教義や古代史の側面から一層の知識を身につけたい場合には、同じ担当者によるテーマ科目「ヨーロッパ道德思想史」（2学期開講 / 2013年度以降の入学者のみ対象）の受講を推奨する。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

第7回に確認テスト（第3回～第6回が試験範囲）を実施するので、受講希望者は遅くとも第3週目から出席しておく必要がある。テスト予定日は授業内で早めに通知するつもりである。原則としてこのテストを受験していない者には単位を認めないので、あらかじめ注意しておくこと。

## キーワード /Keywords

# 民主主義とは何か【夜】

担当者名 /Instructor 大澤 津 / 政策科学科, 濱本 真輔 / SHINSUKE HAMAMOTO / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と民主主義との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	民主主義について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	民主主義に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			民主主義とは何か
			PLS002F

## 授業の概要 /Course Description

20世紀は「民主主義の世紀」と呼ばれたように、私たちには民主主義が当たり前になっているかもしれませんが、しかし、民主主義に対する評価は分かれ、人々はより良い統治のあり方をめぐって、古来より様々な思索、実験を重ねてきました。このように、民主主義という概念はその歴史も長く、様々な概念から構成されます。そのため、本講義では民主主義を構成する思想、制度を理解するとともに、民主主義の型と作動様式を学びます。

## 教科書 /Textbooks

講義時に適宜、紹介します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

講義時に適宜、紹介します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 イントロダクション

第2回 古代ギリシアの民主制

第3回 近代デモクラシーの基礎① 【秩序か権利か：ホブズとロック】

第4回 近代デモクラシーの基礎② 【一般意志と同調圧力：ルソーとトクヴィル】

第5回 近代デモクラシーの基礎③ 【日本への輸入：福澤諭吉と中江兆民】

第6回 現代の民主主義理論 【討議デモクラシー】 【ラディカル・デモクラシー】

第7回 現代日本の民主主義理論① 【集合行為問題・境界線の政治学】

第8回 現代日本の民主主義理論② 【〈私〉時代のデモクラシー】

第9回 民主政治の形成と崩壊① 【自由民主主義体制】 【権威主義体制】 【全体主義体制】

第10回 民主政治の形成と崩壊② 【共存理論】 【対立理論】 【ポピュリストモデル】

第11回 民主政治の形成と崩壊③ 【調和理論】 【民主化支援】

第12回 民主主義と有権者① 【政治参加】 【エリート民主主義】 【参加民主主義】

第13回 民主主義と有権者② 【政治的有効性感覚】

第14回 民主主義と有権者③ 【シティズンシップ教育】

第15回 民主主義と議会【代表・立法・審議・行政監視機能】 【二院制】 【ねじれ国会】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

試験 ( 80% )、講義への参加態度 ( 20% )

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

なし

# 民主主義とは何か 【夜】

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

## キーワード /Keywords

なし

# 人権論 【夜】

担当者名 /Instructor 柳井 美枝 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	社会と人権との関係・歴史や社会の中における人権の重要性を総合的に理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力 その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間理解に必要とされる人権の意義・重要性について総合的に分析し、直面する課題を発見するとともに解決を模索する。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	社会の中での人権について、自ら課題を発見し、解決のための学びを継続する。	
	コミュニケーション力			
			人権論	SOC004F

## 授業の概要 /Course Description

「人権」といえば「特別なこと」というイメージを持つかもしれないが、実際には「気づかない」「知らない」ことにより、自分自身の「人権」が侵害されていたり、無意識に他者の「人権」を侵害しているということがある。

本講義では、「人権とは何か」という基本的な概念をふまえて、現存する「人権課題」の実情や社会的背景を考察していく。その上で、自分自身がどのように「人権」と向き合っていくのかを問う。

### 目標

1. 人権とは何かについての理論的概念が理解できる。
2. 人権獲得の歴史を体系的に理解できる。
3. 現代社会における様々な人権課題についての認識を深め、自分との関係を知る。
4. 自分自身にとっての人権課題を明確にする。

## 教科書 /Textbooks

『人権とは何か』（横田耕一著 / 福岡県人権研究所発行 ¥1000）

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要な参考書は授業時に紹介する。

# 人権論 【夜】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 「自分にとっての人権課題」：自分と人権との関わりを考える。
- 2 「人権とは何か」：人権とは何かについて解説する。
- 3 「人権獲得の歴史」：人権獲得の歴史を近代革命を中心に解説する。
- 4 「世界人権宣言と人権条約」：世界人権宣言採択の歴史的経緯や意義などを解説する。
- 5 「部落問題について」：現存する部落問題の事例から部落問題とは何かを解説する。
- 6 「部落問題について」：当事者の思いを聞き、部落差別とは何かを考える。
- 7 「在日外国人と人権課題」：在日外国人の現状と人権課題を解説する。
- 8 「在日コリアンについて」：在日コリアンの歴史、現状、課題などを解説する。
- 9 「ハンセン病について」：ハンセン病についての認識を深めることや元患者を取り巻く日本社会の歴史や現状を解説する。
- 10 「教育と人権～識字問題」：読み書きができないことがもたらす人権侵害などを解説する。
- 11 「教育と人権～夜間中学」：教育を受ける権利の保障とは何かを事例を交えて解説する。
- 12 「障害者と人権」：障害者の立場からみる人権課題を知る。
- 13 「平和と人権」：戦争・平和についての解説。
- 14 「アジアの人権状況」：アジアの人権問題を事例を交えて解説する。
- 15 「まとめ」：現代社会の人権課題に自分たちはどう向き合うのか、共に考える。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 50%  
期末テスト50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

日常生活の中にあるさまざまな人権課題に関心を持ち、授業のミニレポートまたは感想用紙に反映させることが望ましい。  
私語は厳禁  
出席回数が基準を満たさない場合は期末テストの受験資格を失う。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学ぶ権利を意識して授業に取り組んでほしい。

## キーワード /Keywords

「すべての人」  
「人間らしく生きる」

# ジェンダー論【夜】

担当者名 /Instructor カ武 由美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	社会とジェンダーとの関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会の理解に必要とされるジェンダーの考え方について総合的に分析し、課題を発見するとともに、解決策を考える。
関心・意欲・態度	自己管理能力 社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各自が帰属する社会においてジェンダーにかかわる課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する。
	コミュニケーション力		
			ジェンダー論
			GEN001F

## 授業の概要 /Course Description

なぜ男言葉と女言葉があるのか、なぜ女性の大芸術家は現れないのか、「男は仕事、女は家庭」は自然な役割なのか、なぜ政治学や法学・科学の分野に女性教員や女子学生が少ないのか、なぜ戦時・平時にかかわらず女性に対して暴力が振られるのか—そのような日常的に「当たり前」となっていることをジェンダーの視点で問い直すことで、社会や文化に潜むジェンダー・ポリティクスを読み解く視点と理論を身につける。さまざまな現象や表象されたものを対象に分析を実践する。また、社会や文化に潜むジェンダーを可視化するツールとしての統計を分析する方法を学ぶ。

## 教科書 /Textbooks

牟田和恵編『ジェンダー・スタディーズ—女性学・男性学を学ぶ』（大阪大学出版会、2009）  
適宜、補足資料を配布

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

井上輝子・上野千鶴子・江原由美子・大沢真理・加納実紀代編『岩波女性学辞典』（岩波書店、2002）  
マギー・ハム『フェミニズム理論辞典』（明石書店、1997）  
R.W. Connell, Gender: Short Introduction. Polity, 2002.

# ジェンダー論【夜】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 日本語とジェンダー-戦後から現代までの日本歌謡曲【女言葉】【男言葉】
- 2回 ジェンダー・リテラシーで読み解く文学-村上春樹作・小説『ノルウェイの森』【眼差し】
- 3回 現代アートとジェンダー-映画『ロダンが愛したカミーユ・クローデル』【制度】
- 4回 男もつらいよ-アーサー・ミラー作・戯曲『セールスマンの死』【男らしさ】【性別分業】
- 5回 ジェンダー家族を超えて-週刊誌『女性自身』にみる皇室家族の肖像【近代家族】
- 6回 セクシュアリティを考える-あだち充作・マンガアニメ『タッチ』【ホモソーシャル】
- 7回 学校教育の今昔-学園TVドラマの系譜【隠れたカリキュラム】
- 8回 社会保障とジェンダー-津村記久子作・小説『ポトスライムの舟』【貧困の女性化】
- 9回 ジェンダーの視点からみる農業-エレン・グラスゴー作・小説『不毛の大地』【農業経営】
- 10回 アジア現代女性史の試み-ミュージカル『ミス・サイゴン』【女性に対する暴力】
- 11回 女性差別撤廃条約と人権-絵本『世界中のひまわり姫へ』【民法】【均等法】【DV防止法】
- 12回 ジェンダーと平和学-女性戦士の系譜『リボンの騎士』『風の谷のナウシカ』【平和構築】
- 13回 グローバリゼーションと労働市場-国連『人間開発計画報告書』【移住労働】
- 14回 デートDV-TVドラマ「ラスト・フレンズ」【ドメスティック・バイオレンス(DV)】
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の積極的な発言...25%、プレゼン...25%、レポート...25%、期末試験...25%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

(1)法制度改正の動きを新聞等で把握しておく。(2)メディア表現を含め日常的な会話・風景をジェンダーの視点で問い直す作業を日頃から行い、授業中の発言、プレゼン、レポート、期末試験に反映させる。(3)プレゼンにはパワーポイント使用のためプレゼンおよびPPTスキルズを身につけておく。

## キーワード /Keywords

「ジェンダー」「セクシュアリティ」「ポリティクス」「ジェンダー統計」

# 障がい学【夜】

担当者名 伊野 憲治 / 基盤教育センター  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	障がいについての様々な捉え方を理解し、多角的に考えていく能力を養う。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	障がいの捉え方に関する3つのモデルの関係性について理解する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	障がい観を見直す視座を習得する。
	コミュニケーション力		
			障がい学
			SOW001F

## 授業の概要 /Course Description

「障害」という否定的なイメージで捉えられることが少なくないが、本講義では、「文化」といった視点から「障害」という概念を捉えなおし、異文化が共存・共生していくための阻害要因や問題点を浮き彫りにしていくとともに、共存・共生社会を実現するための考え方を学ぶ。障害者問題をテーマとしたテレビドラマ等にも随時ふれながら、身近な問題として考えていく。

## 教科書 /Textbooks

特になし。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

随時指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準。
- 第2回：「障がい学」とは【障害学】【障がい学】
- 第3回：障害の捉え方【医療モデル】【社会モデル】【文化モデル】
- 第4回：自閉症とは①【自閉症観の変遷】
- 第5回：自閉症とは②【自閉症】
- 第6回：医療モデル的作品DVDの視聴①【医療モデル的作品】
- 第7回：医療モデル的作品DVDの視聴②【医療モデル的作品】
- 第8回：医療モデル的作品の解説・評価【3つのモデルとの関連で】
- 第9回：文化モデル的作品DVDの視聴①【文化モデル的作品】
- 第10回：文化モデル的作品DVDの視聴②【文化モデル的作品】
- 第11回：文化モデル的作品の評価【3つのモデルとの関連で】
- 第12回：3つのモデルの関係性【3モデルの在り方】
- 第13回：共生社会へ向けての課題【共生社会】
- 第14回：自己への問いとしての障がい学【自己への問い】
- 第15回：まとめ、質問。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

特になし。



担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 社会調査【夜】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と社会との関係性を総合的に理解するため、社会調査の知識を身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル	●	社会的事象に関する量的・質的調査の基本的な考え方を身につける。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	社会的な課題の発見、データに基づく解説、解決策の提示を可能とするための方法を考える。
関心・意欲・態度	自己管理能力 社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各自が所属する社会における課題を自ら発見し、解決策を提示するための調査方法を継続して考える。
	コミュニケーション力		
			社会調査
			SOC003F

## 授業の概要 /Course Description

社会調査（量的調査）の基本的な考え方と技法を習得する。  
社会調査の目的は、さまざまな社会現象の中から、社会にとって「意味がある」と思われる現象を見つけ出し、「どうなっているのか」「なぜそうなるのか」を、データに基づいて解釈することにある。この授業では、（１）意味のある「問い」をたてること、（２）その「問い」への「答え」を導くための手順（論証戦略）をたてること、（３）論証戦略に基づいて適切な調査票を作成すること、（４）データを統計的に処理すること、（５）データを解釈すること、について学ぶ。  
なお、パソコン教室を使う関係上、教室定員に応じて受講者数調整を行うことがある。

## 教科書 /Textbooks

使用しない。（適宜、資料・プリントを配布する。）

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 『社会調査法入門』、盛山和夫著、有斐閣、2004
- 『ガイドブック社会調査（第2版）』、森岡清志編著、日本評論社、2007
- その他、授業の中で紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 何のための社会調査か
- 第2回 量的調査と質的調査
- 第3回 調査と研究の進め方
- 第4回 社会調査を企画する
- 第5回 ワーディングと調査票の作成（１）
- 第6回 ワーディングと調査票の作成（２）
- 第7回 ワーディングと調査票の作成（３）
- 第8回 サンプリング
- 第9回 調査の実施
- 第10回 データファイルの作成（実習）1
- 第11回 データファイルの作成（実習）2
- 第12回 分布と統計量
- 第13回 クロス集計
- 第14回 相関係数
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 40% 期末レポート... 60%  
(総合的に判断する。)

# 社会調査【夜】

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

課題をきちんと提出すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業を通して「実証研究の考え方」を学んで欲しいと思います。

## キーワード /Keywords

量的調査、基本仮説、作業仮説、ワーディング、ランダムサンプリング、SPSS、度数分布、クロス表、相関係数

# 企業と社会【夜】

担当者名 /Instructor 山岡 敏秀 / toshihide yamaoka / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	企業と社会に関する諸問題を歴史、思想・文化との関連で理解するための基本的な知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	歴史、思想・文化等の総合的理解を通して、企業と社会に関する諸問題を発見し、主体的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各自の生活世界から企業と社会に関する諸問題に常に興味を持ち、直面する課題を発見し、解決する力を継続的に涵養することができる。
	コミュニケーション力		
			企業と社会
			BUS001F

## 授業の概要 /Course Description

我が国は、アジア太平洋戦争に敗北した。しかし、日米同盟という軍事的・政治的・経済的枠組みのもとで、奇跡的とも言うべき復活・再生（高度成長から安定成長）を果たした。そして、その後の不況下の物価上昇というスタグフレーションをひとまず克服した日本経済は、欧米からジャパンアズナンバーワンとも賞賛された。こうした日本の企業社会であるが、その「ピーク＝破壊」たる1990年代前半のバブル崩壊を契機として、一転して失われた15年さらには20年とも評価されるにいたっている。

終身雇用（lifetime commitmentの日本語訳、広義には職場共同体という意識）・年功制や労使協調型経営のシステムは、今や、液状化して剥き出しの資本制経済の荒波（マーケット中心主義）にさらされている。日く、ワーキングプア（働いていても生活がいよいよ苦しい）・ネットカフェ難民（帰るべく家がない）・格差から貧困（経済的格差・貧困から意欲の格差が目目される）・99%対1%、そしてついにはブラック企業の台頭、等々である。

にもかかわらず、経済政策をリードしている新自由主義路線。すなわち「市場＝マーケット」万能路線である。そこでは、市場から脱落・排除（彼女／彼らはこれを退出という）された者は、もはや回帰不可能な存在として処理されているかのようである（例えば、退場をしたサッカー選手には、帰るべく家があるが、市場から退場を命じられた労働者に帰るべく家は必ずしも存在しない。さらには、待ち構えている企業そのものがブラック企業でもある）。

だからこそ、これまでの日本経済においては、ケインズ型経済政策を基底にして、社会そのものがこうした人々を支えるセーフティネットをもってたと判断される（社会統合機能）。しかし、赤字財政と経済危機という観点から、いよいよ新自由主義なる路線が浸透しているかのようである（社会統合機能の麻痺と当該社会の正統性の危機）。

そうすると行き着くところ、社会（資本制経済あるいは資本家的生産社会）というものは、必ずしも人々の生命の再生産を所与としないかのようには振る舞うことが可能なのだろうか？

こうした問題を、日本の企業社会という文脈にひきつけて展開してみようというのが講義のねらいである。

## 教科書 /Textbooks

テキストは、竹内章郎『新自由主義の嘘』岩波書店、2007年。  
また、レジユムも配布する。

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

- 1、市場を扱った文献については、カール・ポランニー『市場社会と人間の自由』大月書店、2012』(○)
- 2、格差と貧困に関わるテーマを扱った文献については、①雑誌『世界』(○)・岩波新書等の最新の文献、②『私たちは“99%”だ』(岩波書店、2012)』(○)、③國島・重本・山崎編『「社会と企業」の経営学～新自由主義的経営から社会共生的経営へ～』ミネルヴァ書房（2009年）(○)、森岡孝二編『貧困社会ニッポンの断層』桜井書店、2012。ブラック企業関連の最新の文献。
- 3、社会統合と社会の正統性に関する議論については、ハバースとルーマンの議論を紹介した文献を参照。①山之内靖『システム社会の現代的位相』岩波書店、2011、②尾関周二『言語的コミュニケーションと労働の弁証法』大月書店、2002、その他、この論争を紹介している最近の資料を紹介していく。

# 企業と社会【夜】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 商品に表された労働の二重性(現代社会の二重性)～「誠の恋は、何故、みのらない」?
- 2回 資本主義という俗語と市民社会という講学用語 【資本主義】【市民社会】【ブルジョア社会】
- 3回 市場とは～[私達]の振る舞いである「C(商品) - M(貨幣) - C(商品)」
- 4回 市場とは～[資本家]の振る舞いたる「M(貨幣) - C(商品) - M(貨幣)」
- 5回 商品流通の次元と平等～何故、格差・貧困・「99%対1%」なのか 【格差】・【貧困】
- 6回 市民社会の歴史的創出～本源的蓄積過程 【本源的蓄積過程】【賃労働関係】
- 7回 労働者および資本家の歴史的誕生・英国のケース 【本源的蓄積過程】【ゼントルマン資本主義】
- 8回 商品流通と生産過程・利潤の源泉 【剰余価値】【利潤】【公表利益】(【公開】【開示】)
- 9回 長時間労働・過労死そして格差・貧困の発生そしてブラック企業 【絶対的剰余価値】【相対的剰余価値】【労働組合】
- 10回 ブラック企業の台頭～日本という社会そのものの脆弱性 【衰退する既存の労働組合】【台頭する新たな労働組合】
- 11回 資本主義と危機=福祉国家(混合経済)の登場 【恐慌と危機】【福祉国家】
- 12回 福祉国家の危機=赤字財政というシステム統合危機・市場回帰の新自由主義の台頭 【赤字財政】【新自由主義】
- 13回 新自由主義の台頭とセーフティネット装置の浸食・システム統合危機から社会統合危機へ 【危機】【社会統合】
- 14回 システム統合と社会統合・マーケットとその外側(生活世界) 【システム統合】【社会統合】【生活世界】
- 15回 まとめ～このかけがえのない個体としての私

## 成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...100%、およびボーナスとして、レポート...10%と小テスト...10%。この配分を100点満点に換算して評価する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

- ①、テキストを用意すること。②、レジュメだけにしがみつかない。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

最近では、ブラック企業という言葉が頻りに聞きます(ホワイト企業という言葉もあります。それはともかく、白と黒という二重性にまず注目しましょう)。ブラック企業の台頭は就活にとって無視できません。私たちは、次々とこうした魔物(私達の社会的産物)にからめとられてしまうのでしょうか。だから、私達にとって社会とは、単なる観察対象ではなく、観察主体である自らも同時に、観察対象そのものであることを常に意識してもらいたい。それというのも、私達の社会的産物そのものが、私達自身に刃向かってくるのだから。

## キーワード /Keywords

【商品流通】【資本家】【労働者】【市民社会】【資本制経済】【市民法】【本源的蓄積過程】【剰余価値】【賃労働関係】【ブラック企業】  
 【福祉国家】【ケインズ政策】【新自由主義】【システム統合】【社会統合】【生活世界】

# 現代の国際情勢【夜】

担当者名 /Instructor 山本 直 / Tadashi YAMAMOTO / 国際関係学科, 下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科  
大平 剛 / 国際関係学科, 久木 尚志 / 国際関係学科  
白石 麻保 / 中国学科, 堀地 明 / 中国学科  
尹 明憲 / YOON, Myoung Hun / 国際関係学科, 吉川 哲郎 / KIKKAWA TETSUROU / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 授業形態 講義 クラス 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の国際情勢について理解を深める。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の国際社会における問題を認識した上で、分析を行い、解決方法を考察する。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	現代の国際情勢に対して、継続的な関心を持ち、学びを継続することができる。	
	コミュニケーション力			
			現代の国際情勢	IRL003F

## 授業の概要 /Course Description

現代の国際情勢を、政治、経済、社会、文化などから多面的に読み解く。近年、国際関係および地域研究の分野で注目されている出来事や言説を紹介しながら講義を進める。

## 教科書 /Textbooks

使用しない。必要に応じてレジュメと資料を配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

この授業は、複数の教員および招聘講師が、各自の専門と関心から国際関係や地域の情勢を論じるオムニバス授業である。授業テーマと担当者については初回授業で紹介するので、必ず出席すること。

- 第1回 山本 オリエンテーション
- 第2回 大平 変容するアジア情勢と日本の国際協力(1) 中国の海洋進出、南シナ海・東シナ海、シーレーン、アジア・リバランシング戦略
- 第3回 大平 変容するアジア情勢と日本の国際協力(2) 開発協力大綱、防衛装備移転三原則
- 第4回 吉川 アメリカのミュージカル演劇(1) 概論
- 第5回 吉川 アメリカのミュージカル演劇(2) ミュージカル
- 第6回 吉川 アメリカのミュージカル演劇(3) 演劇
- 第7回 三浦 国境を越える放送文化
- 第8回 下野 中国と民主化
- 第9回 白石 中国の持続的発展の可能性：経済成長・SNA・投資
- 第10回 久木 2010年代のイギリス(1) 2010年総選挙
- 第11回 久木 2010年代のイギリス(2) 2015年総選挙
- 第12回 堀地 北京探索 - 悠久の歴史と再開発の現在 -
- 第13回 尹 東アジアの経済事情(1) 東アジアとは何か、日本との経済関係
- 第14回 尹 東アジアの経済事情(2) 東アジアの地域統合、九州との経済交流
- 第15回 山本 ヨーロッパの多国間主義と国際情勢

都合により、講義の順番を変えることがある。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(8回) 100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# 現代の国際情勢【夜】

基盤教育科目  
教養教育科目  
テーマ科目

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 開発と統治【夜】

担当者名 /Instructor 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科, 伊野 憲治 / 基盤教育センター  
申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	海外及び国内地域社会のガバナンス（協治）について総合的理解が可能となる。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国内外のガバナンス（協治）の在り方を通しての課題を発見でき、その課題を解決するための方策が学習できる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	大学卒業後、地域社会で生活するにあたって積極的に社会作りに関わり、生涯学習としてその実践活動に携わることが可能となる。
	コミュニケーション力		
			開発と統治
			IRL002F

## 授業の概要 /Course Description

グローバル化が刻々と進行している中、現在、持続可能な社会の構築が求められています。なかにはその目標に向かって進んでいる国や地域がある一方で、紛争や対立を繰り返している国や地域もあります。本講義では各国や地域を熟知・精通した教員が、各自が考える「ガバナンス（協治）」の意味を世界各国(ミャンマー、韓国、米国と日本が対象国)や日本の地域社会の具体的な実例を用いて説明します。そして、最後に受講生にとって「ガバナンス」とは何なのかについてグループワークを通じて探ります。

以上の概要を通して、開発されている社会の中でのガバナンス概念の知識を吸収すると同時に理解し、地域においては自らもガバナンスの一翼を担えるような能力を付けてもらいたいと考えています。

## 教科書 /Textbooks

その都度必要資料の配布

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

『○○を知るための○章』シリーズ( 明石書店 )、特にミャンマー、韓国を参照のこと。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回	「開発と統治」をはじめるとにあたって		担当：三宅
第2回	民主化問題を考える視座(1)	【民主化問題】	担当：伊野
第3回	民主化問題を考える視座(2)		担当：伊野
第4回	理論と現実～ミャンマーの民主化をめぐる	【ミャンマー】	担当：伊野
第5回	理論と現実～開発の陰でのガバナンスの変化		担当：伊野
第6回	韓国セウォル号沈没事件に見るガバナンス		担当：ソンミンホ・三宅
第7回	セウォル号沈没事件を引き起こさないために～危機管理の在り方		担当：ソンミンホ・三宅
第8回	韓国版水俣病の発現～その歴史と事実		担当：ソンミンホ・三宅
第9回	水俣病を繰り返さないための対策～ガバナンスとの関連で		担当：ソンミンホ・三宅
第10回	韓国の民主化とガバナンスの形成過程	【韓国】	担当：申
第11回	米国におけるガバナンスと環境	【米国】	担当：申
第12回	エネルギー問題にみるガバナンス形成	【エネルギー問題】	担当：申
第13回	日本の食品ロス削減運動に見るガバナンスのあり方	【食品ロス削減運動】	担当：三宅
第14回	日本の子ども会を取り巻く環境	【子ども会】	担当：三宅
第15回	まとめ～ガバナンスに関するグループワーク	【グループワーク】	担当：三宅

## 成績評価の方法 /Assessment Method

参加態度...30% 小課題の提出...20% 試験...50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review



## 開発と統治【夜】

### 履修上の注意 /Remarks

日ごろから世界や日本の地域社会の動きに注目し、新聞やインターネットなどで情報をキャッチしておくこと。また、時々、小課題を出すので、必要に応じて提出すること。

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

世界と私たちが住む地域は恒常的に結びついています。その結びつきを最終的には理解できるようにします。

### キーワード /Keywords

ガバナンス ミャンマー 韓国 米国 子ども会 食品ロス削減運動 グループワーク

# 国際紛争と国連【夜】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	国際紛争に対する国連の役割を考察することにより、人間と国際社会の関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国際紛争と国連に関する諸問題について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	国際紛争と国連に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			国際紛争と国連
			IRL005F

## 授業の概要 /Course Description

国際紛争に対し国連がどのような対応を取ってきているのかについて、法的・制度的枠組みや実際の活動の紹介・分析を通じ、学習することで、国連による国際紛争の処理メカニズムの現状と課題についての認識を深めてもらうことを目指します。

まずは国際紛争とは何か、時間経過軸による紛争の分類（Phase化）の議論を紹介し、紛争の各段階における国連の対応の必要性を認識してもらいます。次に、その分析軸を基に、総論として、国連における国際の平和と安全のための活動の基本的枠組みと、そこでの加盟国が果たすべき役割を認識してもらった上で、各論として、①平和的解決の手法を駆使し平和を創出する段階、②停戦合意後の暫定的な平和を維持する段階、③政治的意思の欠如から平和を強制せざるを得ない段階、④紛争後の平和を持続・定着させる段階についてそれぞれ取り上げ、事例の紹介も交えながら、国連による国際紛争の処理メカニズムの現状と課題について、学んでもらいます。

## 教科書 /Textbooks

テキストは設定しません。  
講義の理解に必要な参考資料を、適宜、配布します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

参考書 財団法人日本国際連合協会『わかりやすい国連の活動と世界（改訂版）』（三修社・2007）○  
その他の参考文献は、適宜、指示します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースガイダンス
- 第2回 国連情報へのアクセス方法 【ODS】【UNBISnet】【UN Journal】
- 第3回 国連を知る 【国連の生立ち】【国連の目的】【国連の組織構造】
- 第4回 紛争を知る 【難民】【発生日】【受入国】
- 第5回 国際紛争を見る分析軸 【DisputeとConflict】【国際紛争の定義】【紛争のPhase】
- 第6回 国連による平和の創出①：紛争処理のメカニズム 【国連憲章第6章】【総会】【安全保障理事会】
- 第7回 国連による平和の創出②：平和創造 【事務総長による周旋】【The Team】
- 第8回 国連による平和の創出③：司法的解決 【国際司法裁判所（ICJ）】【法の支配】
- 第9回 国連による平和の維持①：国連平和維持活動（PKO）の創設と展開 【6章半の活動】【PKO原則】
- 第10回 国連による平和の維持②：国連平和維持活動（PKO）の深化 【多機能化】【キャップストーン報告】
- 第11回 国連による平和の強制①：決定プロセス 【平和に対する脅威等の認定】【強制措置】
- 第12回 国連による平和の強制②：実施上の課題 【経済制裁】【多国籍軍】【地域的機関】
- 第13回 国連による持続的平和の定着 【平和構築】【平和構築委員会】
- 第14回 国連による国際の平和と安全のための活動と加盟国 【財政的貢献】【人的貢献】
- 第15回 まとめ

# 国際紛争と国連【夜】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

課題等への対応および学期末試験で評価します。  
課題等への対応...30% 学期末試験...70%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

毎回、予習を前提とした講義を展開します。  
指示された課題に誠実に取り組んでから、授業に臨むようにしてください。  
詳細は、学習支援フォルダーで確認してください。  
成績評価において、授業を通じ提出を求められる課題への対応の比率が高く設定されています。  
そのため単位取得のためには、提出を求められた課題に対し、誠実に取り組むことが必要となりますので、受講の決定の際には、この点に注意してください。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

3つの願いがあります。  
国際問題に関心を持ってほしい。国連の現状と限界を学習し、現在の国際社会の姿を正しく理解してほしい。そして国際問題は、自分たちの問題であることを認識してほしい。

## キーワード /Keywords

【国際紛争】 【国連】 【平和創出】 【平和維持】 【平和強制】 【平和構築】

# 歴史の読み方I【夜】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 講義 クラス 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	史料や文献を講読することを通じて、歴史の見方の多様性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	史料や文献を講読することを通じて、歴史の中に問題を発見・分析する能力を涵養することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	史料や文献を講読することを通じて、幅広い歴史の見方を涵養するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			歴史の読み方 I
			HIS004F

## 授業の概要 /Course Description

ここでは明治時代をはじめとする、歴史上の人物や実際の史料を取り上げながら、今日の世界の中で日本の歴史がどう捉えられているのか、また、私たち自身が歴史をどう見ているのかを考えることを目的とした歴史の見方を学びます。具体的には、明治維新から敗戦までの一次史料を直接読み、さまざまな歴史認識の可能性を探っていきます。

## 教科書 /Textbooks

講義の中で適宜史料プリントを配布致します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

○外務省編『日本外交文書』、○『山県有朋意見書』、○『原敬日記』、○『牧野伸顕日記』、○『木戸幸一日記』、○『西園寺公と政局』など。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 西南戦争【木戸孝允】
- 第3回 日清戦争【山県有朋】
- 第4回 日露戦争【桂太郎】【小村寿太郎】
- 第5回 韓国併合と「満州」経営【伊藤博文】【山県有朋】
- 第6回 辛亥革命【伊藤博文】【山県有朋】
- 第7回 政治家の肉筆書簡【田中義一】
- 第8回 政党政治(1)【原敬】【山県有朋】
- 第9回 政党政治(2)【牧野伸顕】
- 第10回 山東出兵と張作霖爆殺【牧野伸顕】
- 第11回 満州事変(1)【木戸幸一】【西園寺公望】
- 第12回 満州事変(2)【石原莞爾】
- 第13回 日中戦争【近衛文麿】
- 第14回 太平洋戦争【昭和天皇】
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な取り組み... 10% 課題... 10% 期末試験... 80%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

講義前に最低限高校教科書程度のレベルの知識を得ておくこと。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

# 歴史の読み方I【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 人物と時代の歴史【夜】

担当者名 /Instructor 山崎 勇治 / 国際教育交流センター, 新村 昭雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	歴史上著名な人物を通じて、歴史の流れを理解するために必要な知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	歴史上重要な人物を特定し、その人物が果たした歴史的役割を見出す能力を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	身の回りの歴史と著名人物に関する諸問題を発見する姿勢を持つ。
	コミュニケーション力		
			人物と時代の歴史
			HIS001 F

## 授業の概要 /Course Description

歴史の面白さを、特定の代表的な人物を中心として講義して、学生に知らせることを目的とする。  
 なぜならば、歴史の背後にある人物や文化などを理解することが複雑な今日政治、経済、文化、外交、戦争などの諸現象を理解できるからである。  
 二人の教員が、イギリス・日本の代表的な人物について、人物と時代について語る。  
 まず、新村は、「剣と禅」に生きた山岡鉄舟と幕末・明治維新について語る。今、武士道 (Bushido) が見直されている。核兵器と原子力を抑止するのは結局のところ人間の心しかない。禅と武道を極めた鉄舟もその心を無刀流においた。江戸時代、上杉鷹山はその儒教的経営で壊滅的な上杉家の財政を見事に立て直した。その技を見てみよう。次に、徳川幕府が始まってまだその礎が固まっていないとき、3代将軍家光の弟・保科正之は江戸幕府の礎を築いた。長い平安の時代が終わり、貴族に代わって武士が台頭したとき、貴族のための仏教に代わって、庶民のために仏教が生まれた。それを代表するのが浄土真宗の親鸞であった。日本古来の縄文信仰 (アイヌや南方諸島に残る) や弥生信仰に代わって、聖徳太子 (既戸皇子) は仏教を大和 (やまと) の国の根本におかれた。飛鳥・奈良時代、なぜ、インド・中国から渡来した仏教が日本で繁栄したのか。これらを明らかにする。  
 次に山崎は、スコットランドを紹介したのち、日本の近代化に貢献したスコットランド人のトーマス・グラバーと雇われ外国人の果たした役割について述べる。次にスコットランドが生んだ偉大な経済学者であるアダム・スミスの『国富論』について述べる。市場原理と自由競争を唱えたアダム・スミスの考えはグローバル化時代の今日でも十分有効であると考えられるからである。  
 第2に私が二年間在籍したことのあるケンブリッジ大学を案内する。その後「ケインズ革命」で有名なメーヤード・ケインズその人物と理論を紹介する。世界恐慌に苦しんだ世界経済を救済するために考え出したケインズ政策について解説し、安倍首相までもがアベノミクスで活用している実態を明らかにする。  
 第3にロンドンの大英博物館を紹介した後、『資本論』を大英博物館で書き上げカール・マルクスを紹介する。グローバル化の結果世界中で格差問題が起こっているが、140年前にすでに資本主義の発達と窮乏化に取り組んだマルクスの眼には狂いがなかったと言えよう。今日の資本主義のアキレス腱をマルクス理論で解明する。

## 教科書 /Textbooks

資料を配付します。(新村)  
口述講義 (山崎)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

参考書  
 新渡戸稲造『武士道』( BUSHIDO )  
 ○藤沢周平『漆の実のみのる国』( 文春文庫 )  
 ○中村彰彦『保科正之』( 中公新書 )  
 山崎勇治『石炭で栄え滅んだ大英帝国一産業革命からサッチャー改革まで』( ミネルヴァ書房、2008年 )

# 人物と時代の歴史【夜】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

日本,イギリスの歴史の中からテーマを厳選し、講義をする。

(新村)

- 第1回 「ラスト・サムライ」山岡鉄舟と【幕末・明治維新】
- 第2回 【江戸時代】、ギリシャと同様に壊滅的だった藩の財政を立て直した上杉鷹山と 儒教的経営
- 第3回 【3・11東日本大震災】同様の危機を乗り越えたり【江戸幕府】の礎を築いた三代将軍家光の弟・保科正之
- 第4回 乱世の世に現れた宗教家・親鸞と【平安・鎌倉時代】(1)
- 第5回 乱世の世に現れた宗教家・親鸞と【平安・鎌倉時代】(2)
- 第6回 聖徳太子と【飛鳥・奈良時代】(1)
- 第7回 聖徳太子と【飛鳥・奈良時代】(2)

(山崎)

- 第8回 イギリスとはどんな国か
- 第9回 薩長の討幕運動を後ろから支援したトーマス・グラバー
- 第10回 明治維新後のトーマスグラバーと岩崎弥太郎
- 第11回 なぜスコットランド民謡が「蛍の光」になったのか一雇われ外国人たちを中心に
- 第12回 経済学の父、アダム・スミス『国富論』とはどんな本か
- 第13回 ケンブリッジ大学とメーヤードケインズの『一般理論』
- 第14回 大英博物館とカール・マルクスの『資本論』
- 第15回 まとめレポート提出の要件、提出締切日などの説明

## 成績評価の方法 /Assessment Method

レポート(70%)と平常の学習状況(30%)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

\* 受講する際に、各回で取り上げる人物やテーマについて図書館等で調べておくこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# メンタル・ヘルスI【夜】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	メンタルヘルスについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分自身で心身の健康の保持増進を行うことができる。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	メンタルヘルスに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			メンタル・ヘルス I
			PSY001F

## 授業の概要 /Course Description

メンタルヘルス（心の健康）の学習とは、病気や不応事例の発生予防だけでなく、もっと幅広く、多くの「健康な生活人」の健康増進にも役立つような要件を学ぶことである。ストレス社会と言われる現代にあつては、メンタルのタフさがなければ生活人としての活動は難しい。身近なことでは学生生活そのものがさまざまなストレス源への対処を余儀なくされる。過剰なストレスは友人間や家族内の人間関係の悪化や学習意欲の低下、生活上の事故やミス、無気力や抑うつ症状などを生じさせる。本講義では一般的な心理学を基盤に「メンタルヘルス（心の健康）」を生涯発達（エリクソン理論）の視点からとらえながら、日々の生活を充実させるための、人生でのその時期、その時期でのストレスマネジメントの力を身につけることを大きな目的とする。

またこの授業での本大学の学位授与方針に関わる到達目標は、以下のとおりである。1．自分自身で心身の健康の保持増進を行うことができるようになる。（自己管理）2．現実の諸問題を一面的な価値観にとらわれることなく多面的に考え解決策を考えることができる（思考判断）3．卒業後も現実社会で理想を失うことなく主体的に学ぶ姿勢を持ちつづける事ができる（生涯学習）。以上の到達を目標とする。

## 教科書 /Textbooks

教科書はない。適宜資料を配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

「こころの旅」神谷美恵子著 みすず書房  
「こころと人間」中島俊介著,ナカニシヤ出版



# メンタル・ヘルスI【夜】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 以下のスケジュールで行う（【 】はキーワード）
- 1回 オリエンテーション，受講上の注意，講師自己紹介など。
  - 2回 心の健康を学ぶ目的。「心」とは「健康」とは。【心の健康】【生涯発達心理学】
  - 3回 乳幼児の心の健康を知る。【エリクソンの自我発達理論】
  - 4回 児童期の心の健康を知る 【勤勉性と劣等感】
  - 5回 思春期の心のありよう【第二反抗期】
  - 6回 ライフスタイルの心理学【ライフスタイル】
  - 7回 青年前期の心理【葛藤と感情】
  - 8回 青年後期の同一性（アイデンティティ）の確立【こころの病】
  - 9回 適応と社会参加の心理学【組織的メンタルヘルス】【こころの健康管理】
  - 10回 こころと健康1【うつ病・神経症など】
  - 11回 こころと健康2【自己受容・自己開示・あるがまま】
  - 12回 成人期の心理【生きがい】【職場の人間関係】
  - 13回 発達の障がいについての理解 【自閉症】【アスペルガー - 】
  - 14回 健康な心と身体に行く末について。【老いと死の受容】
  - 15回 まとめと今後の課題について【環境と心の健康】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 受講態度と勉学への熱意...50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

当該個所に対する自分の課題や疑問を整理しておくこと。自分なりの意見をまとめておいて授業に臨むこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# フィジカル・ヘルスII【夜】

担当者名 /Instructor 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 講義・演習  
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルスII	HSS002F

## 授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、自分自身の健康について身体的・精神的・社会的側面から考え（講義）、年齢、性別、障害の有無にかかわらず、誰でもできる運動を取り入れ（実習）、生涯にわたる健康の自己管理能力を養うことを目指していく。

## 教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを配布

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて紹介

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 (講義) 運動と身体の健康
- 3回 (実習) 仲間づくりを意図したウォーミングアップ
- 4回 (実習) 運動強度測定
- 5回 (講義) 運動の効果(精神的側面)
- 6回 (実習) ウェイトトレーニングのやり方
- 7回 (実習) 体脂肪を減らすトレーニング
- 8回 (実習) テーピングによる簡単な予防法
- 9回 運動の効果(身体的側面)
- 10回 (実習) レクリエーションスポーツ①(ベタンク・インディアカ)
- 11回 (実習) レクリエーションスポーツ②(風船バレー)
- 12回 (実習) レクリエーションスポーツ③(アルティメット)
- 13回 (講義) 運動の効果(社会的側面)
- 14回 これからのスポーツ
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

授業内容（講義・実習）によって教室・体育館（多目的ホール）と場所が異なるので、間違いがないようにすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）  
実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

運動ができる（得意）、できない（不得意）などは一切関係ありません。楽しく気軽に受講できると思います。

## キーワード /Keywords

# フィジカル・エクササイズI ( バドミントン ) 【夜】

担当者名 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 実技 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズ I	HSS081F

## 授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 フライト練習(1) <ヘアピン>
- 4回 フライト練習(2) <ハイクリアー>
- 5回 フライト練習(3) <ドライブ、スマッシュ>
- 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
- 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
- 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
- 13回 ダブルスゲーム(3) <ゲームの実践>
- 14回 ダブルスゲーム(4) <まとめ>
- 15回 スキル獲得の確認

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# フィジカル・エクササイズI ( バドミントン ) 【夜】

基盤教育科目  
教養教育科目  
ライフ・スキル科目

## 履修上の注意 /Remarks

気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。運動のできる服装とシューズを準備すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# データ処理【夜】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1学期未修得者再履

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	コンピュータやインターネットを活用するための基礎的な技能を身につけている。
	数量的スキル	●	コンピュータを使った基礎的なデータの処理技法を身につけている。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	情報社会を生きる責任感と倫理観を自覚する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
		データ処理	INF101F

## 授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要である。この授業では、コンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習する。具体的には、以下のような知識や技術を習得する：

- タイピングの基礎
- 表計算ソフトを使った表作成、グラフ作成の基礎
- 様々なデータを目的に沿って処理・分析するための数量的スキルの基礎
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎

## 教科書 /Textbooks

「情報利活用 表計算 Excel 2013/2010対応」 日経BP社

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境について【ID】【パスワード】【ポータルサイト】
- 2回 正確な文字入力と電子メールの送受信方法【タイピング】【電子メール】
- 3回 ネットワークの光と影1【情報倫理】【セキュリティ】
- 4回 ネットワークの光と影2【著作権】【個人情報保護】
- 5回 表作成の基本操作【セル】【書式】【罫線】【数式】【合計】
- 6回 見やすい表の作成【列幅】【結合】【ページレイアウト】【印刷】
- 7回 関数を活用した集計表【セルの参照】【平均】
- 8回 グラフ作成の基礎【グラフ】
- 9回 グラフ作成の応用【目的に合ったグラフ】【複合グラフ】
- 10回 表・グラフ作成演習
- 11回 データ処理の基礎【散布図】【相関】
- 12回 データ処理演習1【データ処理の計画】
- 13回 データ処理演習2【データ処理の実践】
- 14回 データ処理演習3【データ処理手法の見直し】
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50%、  
積極的な授業参加（タイピング、電子メール送受信、情報倫理の理解等を含む） ... 50%

# データ処理 【夜】

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

コンピュータの基本的な操作（キーボードでの文字入力、マウス操作など）ができるようになっておく受講しやすい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実際にコンピュータを操作しながら学習するため、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切である。予習と復習を欠かさず行って欲しい。また、授業の進度や情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」を変更することがある。その際には、授業中に説明する。

## キーワード /Keywords

表計算ソフト、タイピング、電子メール、情報倫理

# 情報表現【夜】

担当者名 /Instructor 浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年  
単位 /Credits 2単位 2学期  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	情報の収集、加工、発信の各段階において、情報システムを適切に活用する技能を身に付けている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	収集した情報についての総合的な考察をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協調しながら協同学習を進め、相互理解を深めることの重要性を理解する。
		情報表現	INF230F

## 授業の概要 /Course Description

この授業では、情報収集、情報加工、情報発信の一連の過程を通じて、「見せる情報」と「聞かせる情報」それぞれに必要な能力を磨く。具体的には、以下のような項目を身につける：

- インターネットを利用したデータ収集、情報の信頼性の基礎
- 表計算ソフトやプレゼンテーションソフトを利用したデータの可視化手法
- データの分析を通じた課題発見と論理的な思考のアウトプット手法
- グループ活動を通じた他者とのコミュニケーション能力

前半は個人的な能力の養成、後半はグループ活動を通じたコミュニケーション能力の養成を目指す。

## 教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コンピュータを用いた情報表現【ガイダンス】
- 2回 データの収集【検索エンジン】【情報の信頼性】
- 3回 データの加工【表計算の復習】【グラフ】【チャート】
- 4回 データの表現【レイアウト】【デザイン】
- 5回 論理的な思考法の基礎1【課題発見】
- 6回 論理的な思考法の基礎2【原因分析】【解決手段検討】
- 7回 プレゼンテーション作成演習
- 8回 個人発表
- 9回 個人発表とふりかえり
- 10回 グループによる発表テーマ設定
- 11回 グループによるスライド作成演習
- 12回 発表配布資料作成演習
- 13回 グループによる発表
- 14回 グループによる発表と相互評価
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題... 90%、積極的な授業参加... 10%



## 情報表現【夜】

### 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

### 履修上の注意 /Remarks

「データ処理」を受講してコンピュータの操作にある程度慣れておくと受講しやすくなる。また、授業中に作成したデータの保存用にUSBメモリを持参してもらいたい。  
情報処理教室のコンピュータ台数に制限があるため、受講者数調整を行うことがある。

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

よく分からないことがある場合は、随時、質問して欲しい。また、この授業ではグループによる協同学習を導入している。グループのメンバーで互いに協力して学習課題を進めるよう心がけて欲しい。

### キーワード /Keywords

プレゼンテーション、ロジカルシンキング、マルチメディア、スライドデザイン

# 国際金融論I【夜】

担当者名 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科  
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際金融の経済分析に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	国際金融に関する諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができている。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの国際金融に関する諸問題を発見することができる。
	生涯学習力	●	身の回りの国際金融に関する諸問題を発見する姿勢を持つ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際金融論 I

ECN363M

## 授業の概要 /Course Description

現代の国際金融システムの全容を知ることがを目的とする。新聞・ニュースの経済関係の報道内容を理解できるとともに、国際金融に関する平易な解説書やテキストを理解できるレベルを目標とする。

## 教科書 /Textbooks

使用しない。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

川本明人 (2012) 『外国為替・国際金融入門』中央経済社。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 【】はキーワード。
- 1回 円高・円安とは 【クロスレート】
  - 2回 為替レートによる換算 【経常収支】 【資本収支】
  - 3回 国際収支表 【フロー統計】
  - 4回 国際収支表における複式簿記の原理 【貸借対照表】
  - 5回 貿易取引と国際決済 【並為替と逆為替】
  - 6回 貿易取引と国際決済 【信用状】 【荷為替信用制度】
  - 7回 グローバル化と直接投資 【直接投資】
  - 8回 国際証券投資と外貨準備 【証券投資】 【外貨準備】
  - 9回 為替レートの変動 【購買力平価】 【アセットアプローチ】
  - 10回 為替レートの変動 【為替リスク】 【マーシャル・ラーナー条件】
  - 11回 国際収支を左右するもの 【ISバランス】
  - 12回 国際収支を左右するもの 【キャリートレード】
  - 13回 実質為替レートと実効為替レート 【幾何平均】
  - 14回 パラッサ=サミュエルソン効果 【中所得国の罫】
  - 15回 まとめと総復習 【24時間ディーリング】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 100 %

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

専門用語が多く出てくるので、インターネットで用語検索する習慣を身につけることを奨励する。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 国際金融論II 【夜】

担当者名 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科  
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際金融の経済分析に必要な専門知識を修得する。	
技能	専門分野のスキル			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国際金融に関する諸問題を理解し、その解決策を検討できる。	
	プレゼンテーション力			
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの国際金融の諸問題に対して、その解決策を検討できる。	
	生涯学習力	●	身の回りの国際金融の諸問題に対して、その解決策を検討する姿勢を持つ。	
	コミュニケーション力			

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際金融論II

ECN364M

## 授業の概要 /Course Description

現代の国際金融システムの全容を知ることが目的とする。新聞・ニュースの経済関係の報道内容を理解できるとともに、国際金融に関する平易な解説書やテキストを理解できるレベルを目標とする。

## 教科書 /Textbooks

使用しない。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

川本明人(2012)『外国為替・国際金融入門』中央経済社。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 【】はキーワード。
- 1回 基軸通貨と国際通貨体制 【為替媒介通貨】
  - 2回 各種の国際通貨体制 【固定相場制】【変動相場制】
  - 3回 為替リスクと為替持高・資金調整 【スクエア】【カバー取引】
  - 4回 デリバティブ取引 【先渡し】【先物】【オプション】【スワップ】
  - 5回 国際金融市場と国際資本移動 【オフショア市場】【キャリー取引】
  - 6回 欧州通貨統合の目的と経緯 【ユーロ】【ERM】
  - 7回 欧州通貨統合の構造的問題 【安定成長協定】
  - 8回 途上国の発展と国際資金フロー 【G20】
  - 9回 国際的な金融危機の類型 【資本収支型の危機】
  - 10回 頻発する通貨危機・国際金融危機 【サブプライムローン危機】
  - 11回 頻発する通貨危機・国際金融危機 【世界金融危機】
  - 12回 デフォルトか救済か 【IMFコンディショナリティー】
  - 13回 国際金融危機の予防 【自己資本比率規制】【ブルーデンス政策】
  - 14回 国際金融危機の予防 【流動性規制】【ボルカールール】
  - 15回 まとめと総復習-望ましい国際金融システムとは

## 成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 100 %

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

専門用語が多く出てくるので、日ごろからインターネットなどで用語を検索する習慣を身につけること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 国際経済論I【夜】

担当者名 末永 勝昭 / 北方キャンパス 非常勤講師  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際経済の分析に必要な基礎的な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	国際経済に関する諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができています。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの国際経済に関する諸問題を発見できる。
	生涯学習力	●	身の回りの国際経済に関する諸問題を発見する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。  
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際経済論 I

ECN240M

## 授業の概要 /Course Description

本講義では、国際経済論を学ぶ上で必要な「基礎概念」と「基本理論」をできる限り平易に説明することを目的としている。特に、経済のグローバル化が急速に進んでいる状況下、海外との経済取引（貿易や資本取引-国際金融&国際投資-）と日本経済について分析していくことが重要となる。ここでは、国際経済論を日本経済を基軸にして考察する。

また講義では、「国際経済の動きと今後の展望」について、具体的な統計データを示しながら分かりやすく解説していく予定である。

本講義を受けることで、「国際経済の動き」を日本経済の視点から理解することができ、また「日本経済が抱える課題」を国際経済の動向と結び付けて解明することが出来るようになる。

< 本講義の到達目標 >

1. 国際経済の動向と諸課題を理解するための「基礎概念」と「基礎理論」を身につける。
2. 国際経済の新しい動きと日本経済の課題について、解説できること。
3. 国際資本の流れ-国際金融の視点-から日本経済を分析できること。

\* 日本経済新聞を読むようになればなお良い。

## 教科書 /Textbooks

末永勝昭著 『国際マクロ経済学』 税務経理協会

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

- (1) 伊藤元重著 『ゼミナール国際経済入門』 日本経済新聞社
- (2) 末永勝昭著 『マクロ経済学』 税務経理協会

# 国際経済論I【夜】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション-経済のグローバル化と日本経済の動向-
- 第2回 国際経済の現状 (I) : 国際経済の新潮流-グローバル経済化と新興経済諸国 (BRICs) -  
【東西冷戦の終焉】 【資源大国】 【国際資本】
- 第3回 国際経済の現状 (II) : アメリカ経済の動向と今後-その変遷と戦略-  
【レーガノミクス】 【クリントノミクス】 【IT革命】 【ニュー・エコノミー】 【ドル基軸通貨】 【双子の赤字】
- 第4回 国際経済の現状 (III) : 欧州連合 (EU)と通貨統合 (統一通貨ユーロ) 【欧州連合】 【ユーロ】
- 第5回 国際経済と日本経済 (I) : 戦後の日本経済の変遷とその特徴  
【経済の民主化政策】 【政府主導の成長政策】 【高度経済成長】 【オイルショック】 【バブル崩壊と低成長】
- 第6回 国際経済と日本経済 (II) : 外需 (輸出) 主導型の経済成長と円高デフレ - ション  
【ブラザ合意】 【円高不況】 【経常収支の黒字】 【外貨準備高】
- 第7回 国際経済と日本経済 (III) : 国際金融市場の動きと日本経済  
【ジャパン・マネー】 【オイル・マネー】 【国際資本】
- 第8回 国際貿易の基礎理論 (I) -基本構造 (メカニズム) と基本理念- 【国際分業】 【交易条件】
- 第9回 国際貿易の基礎理論 (II) -自由貿易と比較優位 (生産費) の理論-  
【リカード】 【比較生産費】 【ヘクシャー=オーリンの理論】 【国際競争力】
- 第10回 貿易政策の基礎分析 (I) : 貿易摩擦と保護政策 【日米貿易摩擦】 【市場開放】 【非関税障壁】
- 第11回 貿易政策の基礎分析 (II) : 保護政策の具体的手段とその効果 【関税政策】 【数量割当政策】
- 第12回 戦後の国際貿易制度: GATT&WTO、及びFTA (EPA)
- 第13回 TPP (環太平洋戦略的経済連携協定) と日本経済 【関税撤廃】 【市場開放】 【高コスト構造の是正】
- 第14回 グローバル経済化と直接投資-日本経済の問題点: 対外直接投資と対内直接投資-  
【対外純資産】 【産業の空洞化】 【産業構造の変化】
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

- (1) 学期末試験・・・ 80%
- (2) 日常の授業への取り組み・・・ 20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

\* 遅刻や途中退席、授業中の私語は禁止します。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- (1) 日本経済や世界経済の動向を記載した新聞記事や雑誌記事etcを読んでおくと、この授業がより効果的なものになるでしょう。
- (2) 授業を受けるにあたっては、教科書や授業中に配布する資料etcをよく読んでおいて下さい。

## キーワード /Keywords

グローバル経済 BRICs 資源大国 国際資本 基軸通貨 ドル ユーロ 円高 経常収支 資本収支  
外貨準備 国際分業 比較優位 交易条件 国際競争力 関税障壁 市場開放  
対外債権 対外債務 対外純資産 対外直接投資 対内直接投資 産業の空洞化

# 国際経済論II 【夜】

担当者名 /Instructor 末永 勝昭 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際経済の分析に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国際経済に関する諸問題を理解し、その解決策を検討できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの国際経済に関する諸問題に対して、その解決策を検討できる。
	生涯学習力	●	身の回りの国際経済に関する諸問題に対して、その解決策を検討する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際経済論II

ECN241M

## 授業の概要 /Course Description

国際経済論は、世界の様々な国々・地域の経済動向について学び、国際経済の動き（趨勢）を的確に把握すると同時に、国の対外的な経済活動、すなわち「貿易や資本取引」（国際金融&国際投資）、「企業の国際的な事業展開」（多国籍企業の動向、外資系企業の活動）等々を学ぶ分野である。

本講義では、1学期の「国際経済論I」の講義内容を前提に、国際経済の動きをよりの確・理論的に理解するために外国為替市場を通じた国際的経済取引（貿易や資本取引）のメカニズムについて解説していく。なお、国際経済論では、海外との経済取引を前提とした一国全体の経済問題が対象となるので、「国際収支表」「国際収支の諸概念」等々のマクロ経済指標（統計データ）の動きについても適宜解説していく予定である。

## 教科書 /Textbooks

末永勝昭著 『国際マクロ経済学』 税務経理協会

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- (1)伊藤元重著 『ゼミナール国際経済入門』 日本経済新聞社：○
- (2)末永勝昭著 『マクロ経済学』 税務経理協会

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション：世界経済と資金の流れ
- 第2回 国際収支表と国際収支の諸概念 …… 【経常収支】 【資本収支】 【外貨準備】
- 第3回 国際収支と日・米経済関係（I）：世界経済の不均衡問題 …… 【経常赤字と財政赤字】 【双子の赤字】  
【資本収支の黒字】 【債務大国：アメリカ】
- 第4回 国際収支と日・米経済関係（II）：資本輸出国日本 …… 【経常収支の黒字】 【資本輸出】 【対外投資】  
【資本収支の赤字】 【債権大国：日本】
- 第5回 経常収支と「貯蓄・投資のマクロ・バランス」 …… 【貯蓄超過】 【財政収支赤字】 【経常収支黒字】
- 第6回 国際通貨制度とその変遷 …… 【金本位制度】 【管理通貨制度】 【IMF 体制】
- 第7回 外国為替取引と為替レート …… 【円建て】 【ドル建て】
- 第8回 外国為替制度：固定相場制度 …… 【平価】 【為替介入】 【固定レート】
- 第9回 外国為替制度：変動為替相場（フロート）制度 …… 【市場レート】 【円高】 【円安】
- 第10回 変動為替相場制度と為替介入（I） …… 【管理フロート制】 【通貨当局】 【為替介入】 【外貨準備高】
- 第11回 変動為替相場制度と為替介入（II） …… 【FB：政府短期証券】 【外国為替資金特別会計】
- 第12回 外国為替レートとマクロ経済政策の効果 …… 【財政政策】 【金融政策】 【金利の動き】 【為替変動】  
【不胎化介入】 【非不胎化介入】
- 第13回 固定相場制と変動相場制度：経済政策の効果分析 …… 【IS曲線】 【LM曲線】 【BP曲線】
- 第14回 グローバル経済化と自由な国際資本移動 …… 【マンデル＝フレミング・モデル】 【資本移動】
- 第15回 まとめ -世界経済の動向と今後の展望-



## 成績評価の方法 /Assessment Method

- (1) 学期末試験 . . . . 80%
- (2) 日常の授業への取り組み . . . . 20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

\* 遅刻や途中退席、授業中の私語は禁止します。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- (1)世界経済や日本経済の動向を記載した新聞記事や雑誌記事etcを読んでおくと、この授業がより効果的なものになるでしょう。
- (2)授業を受けるにあたっては、教科書や授業中に配布する資料をよく読んでおいて下さい。
- (3)日本経済新聞を読めるようになって下さい。

## キーワード /Keywords

経常収支    資本収支    外貨準備高    総需要と総供給    マクロ均衡と不均衡    輸出超過    輸入超過    内需・外需  
 国際通貨制度    MF体制    円建レート    ドル建レート    市場レート    円高・円安    通貨当局    管理フロート制    外為特会  
 FB・政府短期証券    平価    為替介入    不胎化介入    非不胎化介入    マクロ経済政策  
 財政政策    金融政策    国際資本移動

# 教職論 【夜】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

教職の意義及び教員の役割、教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む。）、等に関する教職に関する基本的な知識を獲得し、教職についての理解を深め、教職についての課題を発見し、思考し、教職についての意欲や適性等を熟考し、「学生が教員としての適格性を持つためにどのような努力をしていけばよいのか」ということを含めて、進路選択に資する各種の機会の提供等の指導を受ける。

（以下、平成26年度以降入学生）

この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類-1」に分類される科目である。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし（授業中に適宜紹介する）

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

（【】内はキーワード）

1回 学校教育と教職の意義	【学校教育】【教職】
2回 学校教育と教員の役割	【学校】【教育】【教員の役割】
3回 学校教育の「目的」	【教育目的論】
4回 学校教育の「内容」と「方法」	【教育課程】【教育課程の編成原理】
5回 教員の職務内容と生徒指導	【教員の職務】【生徒指導の伝統】
6回 キャリア教育と進路選択	【職業選択の基礎理論】【進路選択】
7回 教員の使命	【教育の論理】【生活の論理】
8回 「生きる力」と教員の資質と適格性	【青少年の意識】【愛と要求】
9回 「自主的な問題解決」と教員の役割	【自主性】【生徒の意識】
10回 「いのちの教育」と教員の役割	【生と死の教育課程】
11回 「身体教育」と教員の役割	【健康管理】【食教育】【排便教育】
12回 「喫煙防止」と教員の役割	【未成年者喫煙防止法】
13回 「掃除」と教員の役割	【学校掃除】【掃除の指導】
14回 「評価」「懲戒」と「体罰」の相違	【評価の種類】【体罰】
15回 教員の「資質」と「適格性」/まとめ	【指導】【管理】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況（小テストを含む） 100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

なし

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 発達心理学【夜】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

発達心理学は、年齢に関連した経験と行動にみられる変化の科学的理解に関する学問である ( Butterworth, 1994 )。本講義では乳児期から青年期を中心に特徴的なテーマを取り上げ、人間の発達に関する心理学的理解を深める。特に、自己・他者への理解、他者との関係性の形成について紹介したい。  
また、児童生徒の理解と指導について、発達における障害の問題等を取り上げ、その基本的な理解や支援について学ぶ。

## 教科書 /Textbooks

藤村 宣之 編著  
『発達心理学 周りの世界とかがわりながら人はいかに育つか ( いちばんはじめに読む心理学の本 3 )』  
ミネルヴァ書房

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

文部科学省 ( 2011 ) 「生徒指導提要」  
その他、授業中に適宜紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：発達心理学とは何か
- 第2回 乳児は世界をどのように感じるのか【知覚、認知、言語の発達】
- 第3回 ヒトの発達の特徴とは【発達のメカニズム】
- 第4回 ヒトは他者との関係をどのように築くのか【愛着、共同注意】
- 第5回 イメージと言葉の世界【知能の発達、表象能力】
- 第6回 他者とのコミュニケーション、心を推測する力【心の理論】
- 第7回 自己・他者を理解する【自己概念・自己意識】
- 第8回 学習の過程【学習理論、論理的思考】
- 第9回 友人とのかかわりと社会性の発達【ギャング・エイジ、道徳性】
- 第10回 自分らしさの発達について【アイデンティティの形成】
- 第11回 他者を通して見る自己【友人関係、問題行動】
- 第12回 成人期以降の発達段階【親密性、生殖性、人生の統合】
- 第13回 児童生徒の心理と理解①【発達障害の基本的理解】
- 第14回 児童生徒の心理と理解②【発達障害と思春期】
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

なし

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 教育制度論 【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

教育制度に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育制度における問題について、諸外国の事例もふまえながら考察する。

## 教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて、プリント・資料配布。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業時に提示。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教育制度の基本原則(1) 教育制度とは
- 2回 教育制度の基本原則(2) 日本の教育法制
- 3回 学校制度の基本的事項(1) 機会均等、学校教育における中立性等
- 4回 学校制度の基本的事項(2) 義務教育
- 5回 学校制度の基本的事項(3) 学校体系
- 6回 学校制度の基本的事項(4) 就学
- 7回 教科書に関する制度 教科書、副教材
- 8回 教員制度の基本的事項(1) 教員免許法制、公務員としての教師
- 9回 教員制度の基本的事項(2) 教員の指導力、研修
- 10回 教員制度の基本的事項(3) 教員の待遇、福利厚生
- 11回 学校関係者による支援の制度 地域住民の学校への参画
- 12回 教育行財政の仕組み(1) 中央教育行政、地方教育行政
- 13回 教育行財政の仕組み(2) 教育委員会と学校
- 14回 教育制度改革の動向 学校選択制、学校評価
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題(試験) 70%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

教育について興味・関心をもって臨むこと。  
配布したレジュメ・資料をよく読んでおくこと。  
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 教育課程論 【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

**概要**  
教育課程に関わる概念や学校における教育課程編成・方法、学習指導要領に関する基礎的な知識を習得し、今日の教育課程の課題について学ぶ。

**目標**  
①教育課程に関わる基礎的な知識を習得する。  
②教育課程の課題について整理し、対応策などを考えることができるようになる。

## 教科書 /Textbooks

なし。  
プリント（講義レジュメ及び資料）を配布。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

講義中に配布するプリントに提示するものの他、必要に応じ適宜紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 教育課程編成の基本原則
- 第2回 日本の教育課程の変遷
- 第3回 学習指導要領と教育課程編成
- 第4回 学力と教育課程
- 第5回 学校における教育課程編成
- 第6回 「カリキュラム・マネジメント」と学校改善
- 第7回 教育課程の評価
- 第8回 諸外国の教育課程・カリキュラム(1) 東アジアを中心に
- 第9回 諸外国の教育課程・カリキュラム(2) 英語文化圏を中心に
- 第10回 諸外国の教育課程・カリキュラム(3) 欧州を中心に
- 第11回 教育課程の開発
- 第12回 今日の課題と教育課程(1) 人の国際移動と教育
- 第13回 今日の課題と教育課程(2) 市民性教育
- 第14回 今日の課題と教育課程(3) ESD
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題(試験) 70%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

配布したレジュメ・資料は、授業後にもよく読んでおくこと。  
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めします。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教育について興味・関心をもって臨んでもらいたいと思っています。

## キーワード /Keywords

# 英語科教育法 A 【夜】

担当者名 /Instructor 森 千鶴 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

この授業には、主に二つのねらいがある。まず英語科教育の基本となる理論を学び、知識を修得することを目的とする。次に、中学校の学習指導案の書き方を学び、モデル授業を実際に行って理論と実践を結びつけることにより、ある程度の実践力を身につけることを目的とする。中学校との関連において、小学校の外国語活動の理論と現状についてもふれる。

## 教科書 /Textbooks

三浦省五・深澤清治（編著）『新しい学びを拓く英語科授業の理論と実践』ミネルヴァ書房 2009年、2500円  
文部科学省 中学校学習指導要領 外国語編 開隆堂 2009年 72円

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜プリントを配布する。

なお、以下の教科書は教職資料室に保管しています。

新里真男ほか著、SUNSHINE ENGLISH COURSE 1～3 開隆堂 2012年 310円

松本茂ほか著、ONE WORLD English Course 1～3 教育出版 2012年 310円

高橋貞雄ほか著、"NEW CROWN ENGLISH SERIES New Edition 1～3"三省堂 2012年 310円

笠島準一、関典明ほか著、NEW HORIZON English Course 1～3 東京書籍 2012年 310円

矢田裕士、吉田研作ほか著、TOTAL ENGLISH 1～3 教育出版 2012年 310円

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. イントロダクション及び英語教育の目的
2. 英語教育の目的
3. 指導法へのアプローチ【行動主義と認知主義】
4. 指導法へのアプローチ【コミュニケーション能力】
5. Communicative Language Teaching の理念【インフォメーション・ギャップ】
6. Communicative Language Teaching の理念【タスク活動】
7. 中学校の英語科教育および小学校の外国語活動
8. 学習指導案(中学校)の立て方
9. 評価について
10. DVD ( 師範授業 ) の視聴【筑波大学附属中学校教諭】
11. DVD ( 師範授業 ) の視聴【田尻悟郎先生】
12. モデル授業の準備
13. モデル授業 ( 中学校 ) 【1年生】
14. モデル授業 ( 中学校 ) 【2・3年生】
15. 復習と試験の準備

## 成績評価の方法 /Assessment Method

学期末の定期試験 ( 75%程度 ) を中心として、提出物 ( 15%程度 ) 及び授業参加度 ( 10%程度 ) を考慮に入れ、総合的に評価する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

- ・ 前もってプリントを配布したり、次回の授業内容に関連する教科書ページを予告をする場合は、予習しておくこと。
- ・ 多少なりとも教員になるという意思をもって、履修すること。
- ・ 出欠席は厳密にとる。無断欠席は厳に慎むこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 英語科教育法B【夜】

担当者名 /Instructor 森 千鶴 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

この授業には主に二つのねらいがある。まず英語科教育における発展的な理論や学習指導案の書き方を学び、モデル授業を行うことによって、高等学校の英語科教員としての技能を身につける。次に英語科教育の学問的な側面に目を向け、英語で書かれた論文を講読することによって、英語科教育の今日的な課題を深く論考することができるようになることを目指す。

## 教科書 /Textbooks

三浦省五・深澤清治（編著）『新しい学びを拓く英語科授業の理論と実践』ミネルヴァ書房  
文部科学省 高等学校学習指導要領 外国語

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

適宜プリントを配布する。なお、以下の教科書は教職資料室に保管しています。  
 松本世志子ほか著、ENGLISH NOW Revised Edition I・II開隆堂 2012年 630円 NEW WORLD ENGLISH COURSE I・II 三友社  
 南村俊夫ほか著、Vivid Reading MEW EDITION第一学習社 2007年 765円 Onstage English Course I・II池田書店  
 EXCEED English Series New Edition I・II 三省堂 田辺正美ほか著、PROMINENCE English I・II東京書籍 2012年 630円 山本良一  
 ほか著、"MAINSTREAM ENGLISH COURSE Second Edition I・II" 増進堂 2012年 570円  
 Minton, T.D. ほか著、Revised POLESTAR English Course I・II 数研出版 2012年 "Revised Edition SUNSHINE English Course I・II"開隆  
 堂  
 田中茂範、武田修一ほか著、"PRO-VISION New Edition ENGLISH COURSE I・II" 桐原書店 2013年 650円 卯城祐司ほか著、ELEMENT  
 English Course I・II啓林館 2013年、650円  
 Voyager English Course NEW EDITION I・II第一学習社  
 市川泰男、高橋和久ほか著 "NEW EDITION UNICORN ENGLISH COURSE I・II"文英堂 2012年 630円  
 Genius English Course Revised I・II大修館書店 霜崎寛ほか著、CROWN English Series New Edition I・II三省堂 2012年、630円

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. コミュニケーション能力および英語科の評価論について
2. 学習指導要領および4技能の統合
3. リーディングの理論と実践 [理論編]
4. リーディングの理論と実践 [発展編]
5. 絶対評価について (高等学校編)
6. 学習指導案 (高等学校) の立て方
7. モデル授業の準備
8. モデル授業 (高等学校) [コミュニケーション英語I]
9. モデル授業 (高等学校) [コミュニケーション英語I以外の科目]
10. ALTに関わる英語論文を読む[論文前半]
11. ALTに関わる英語論文を読む[論文後半]
12. 韓国の英語教育に関する英語論文を読む[論文前半]
13. 韓国の英語教育に関する英語論文を読む[論文後半]
14. リスニング・スピーキングに関する英語論文を読む
15. 復習と試験の準備

## 成績評価の方法 /Assessment Method

学期末の定期試験 ( 75%程度 ) を中心として、提出物 ( 15%程度 ) 及び授業参加度 ( 10%程度 ) を考慮に入れ、総合的に評価する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

- ・ 前もってプリントを配布したり、次回の授業内容に関連する教科書ページを予告する場合は、予習しておくこと。
- ・ 多少なりとも教員になるという意味をもって、履修すること。
- ・ 出欠席は厳密にとる。無断欠席は厳に慎むこと。
- ・ モデル授業の日程や英語論文のトピックは学生と相談した上で決定することになるので、シラバス内容に関しては柔軟に考えていただきたい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords



# 道徳教育指導論【夜】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

この授業では、「学習指導要領」に規定されている学校教育（中学校・高等学校の教育；参考のために小学校の教育も含む）における道徳教育の指導についての基本的な知識を獲得し、理解し、道徳教育についての基本的なスキルを獲得し、課題を発見し、思考し、学習指導案の作成について学習する。

## 教科書 /Textbooks

文部科学省『中学校学習指導要領』（平成20年）＜中学校教諭免許状の取得希望者＞、文部科学省『高等学校学習指導要領』（平成21年）＜高等学校教諭免許状の取得希望者＞

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード	
1回 「学校教育」における道徳教育の構造	【学校教育の全領域
2回 「各教科」と道徳教育	【陶冶】【訓育】【教育活動全体を通じて行う指導】
3回 「特別活動」と道徳教育	【学級活動】【生徒会活動】【学校行事】
4回 「総合的な学習の時間」と道徳教育	【横断的・総合的な学習】【活動】
5回 道徳教育の目標と内容	【道徳の時間の指導内容】【全体計画】
6回 「道徳の時間」の計画と指導	【指導方法】
7回 学習指導案の内容と作成と指導	【学習指導案】【指導技術】
8回 「道徳の時間」と「モラルジレンマ」	【ジレンマ教材】【対立・葛藤】
9回 「道徳の時間」と「役割演技」	【動作化】【ロール・プレイ】
10回 「道徳の時間」と「アサーション」	【主張】
11回 「道徳の時間」と「エンカウンター」	【出会い】【構成的グループエンカウンター】
12回 「道徳の時間」と「作文」	【教育的リアリズム】【教育的ヒューマニズム】
13回 「道徳の時間」と「体験」	【自然体験】【社会体験】【家庭や地域社会との連携】
14回 「道徳の時間」の「模擬授業」	【道徳教育の評価】
15回 まとめ	

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況（小テストを含む）100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 特別活動論【夜】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

1. 文科省の中学校及び高等学校学習指導要領・特別活動の目標と内容、及び指導計画の作成と内容の取扱いの留意点について理解する。
2. 学級活動や学校行事を進めていく上で求められる基本的な指導計画の作成方法を理解する。(特別活動の指導案の作成など)
3. 子どものコミュニケーション能力や自治の力を育む学級活動の進め方や指導方法について学習する。
4. 生徒集団の自治の力を育む学校行事、生徒会活動の進め方について、具体的な実践報告を手がかりにしながら学習する。

## 教科書 /Textbooks

中学校学習指導要領解説 「特別活動編」(平成20年9月)  
高等学校学習指導要領 「特別活動」

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

折出健二編 2008 「特別活動」(教師教育テキストシリーズ) 学文社  
高旗正人他編 「新しい特別活動指導論」 ミネルヴァ書房

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション - 特別活動の教育的意義
- 2回 学級活動の目標・内容と指導計画(テキスト第3章第1節他)
- 3回 学級活動の実際 その1 中学校の実践
- 4回 学級活動の実際 その2 高等学校の実践
- 5回 生徒会活動の目標・内容と指導計画(テキスト第3章2節他)
- 6回 学校行事の目標・内容と指導計画(テキスト第3章3節他)
- 7回 学校行事の実際 - 合唱コンクールの取り組み
- 8回 生徒のコミュニケーション能力と問題解決能力を育てる学級活動 その1 対立解決プログラムについて
- 9回 生徒のコミュニケーション能力と問題解決能力を育てる学級活動 その2 傾聴のスキル、アサーティブネス
- 10回 生徒のコミュニケーション能力と問題解決能力を育てる学級活動 その3 ウイン・ウイン型の問題解決
- 11回 生徒の実態を捉えた学級経営と学級経営案
- 12回 学級の荒れを克服し、お互いを大切に作る人間関係を築く学級活動の取り組み
- 13回 困難な課題を抱える生徒の居場所づくりと学級活動の取り組み
- 14回 指導計画の作成と内容の取扱い(テキスト第4章)
- 15回 全体のまとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常点20点(課題レポートなど) 期末試験 80点  
なお、出席回数が全体の2/3に満たない場合にはこの授業の単位は認められません。  
授業の欠席については、一回につき5点のマイナスとします。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

受身的な授業への参加では実践的な指導力は養われません。  
グループワークなども含めて、積極的な授業参加を求めます。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

特別活動の目標・内容、指導計画の作成、学級活動の実際

# 教育方法学【夜】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

本授業では、各教科等を実際に指導する場面を想定し、学習指導案の作成や教材研究等を組み入れて、将来の高度情報社会に生きる生徒に必要な資質を養うための、教育方法についての基本的な知識を獲得し、理解し、教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）の理論と基本的なスキルを獲得するとともに、教育方法についての課題を発見し、思考する。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし ( 授業中に適宜紹介する )

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 「教育の方法」とは何か	【教育の方法の形態】【比喩・モデル】
2回 20世紀までの「教育の方法」の遺産	【指導】【管理】【生活と文化】【対話】
3回 「現代」の「教育の方法」	【連続と非連続】【現代化】
4回 「新しい時代」の教師の「指導技術」	【教師の資質能力】【ファシリテーター】
5回 情報機器及び教材の活用	【メディアリテラシー】【情報活用能力】
6回 「情報化社会」における生徒の指導	【情報化社会】【インターネット】
7回 「学習遅滞」の指導	【学習遅滞】【SHELLモデル】
8回 教師と生徒の「コミュニケーション」	【話す】【聞く】
9回 「学習規律」を育てる指導方法	【出席と参加】【学習規律】
10回 各教科指導の「具体的システム」	【学習指導要領】【学習のシステム】
11回 各教科指導の「構想」と「教材研究」	【授業の三角形モデル】【事前の教材解釈】
12回 各教科指導の「学習指導案」の作成	【指導】【学習活動】【指導上の留意点】
13回 各教科指導の「展開過程」における「指導技術」	【発問】【説明】【指示】【助言】
14回 各教科指導における「評価」	【授業評価】【自己評価】
15回 「模擬授業」 - 各教科指導に向けて -	【実践的な指導】【各教科の授業】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 (小テストを含む) 100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 生徒・進路指導論【夜】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

本授業の目的は以下のとおりである。

- ① 生徒指導の意義、生徒指導の3機能(①児童生徒に自己存在感を与えること、②共感的な人間関係を育成すること、③自己決定の場を与え、自己の可能性の開発を援助すること)を理解するとともに、開発的生徒指導、予防的生徒指導、問題解決的生徒指導の区別と関連などを検討していくこと
- ② 教育課程と生徒指導、生徒指導に関する法制度、生徒指導に関する家庭・地域・関係諸機関との連携等に関する基本的な知識・理解を修得すること
- ③ 養育環境等の何らかの要因による困難な課題を抱える子どもの自立を支援する生徒指導の取り組みについて学習すること。
- ④ 実際の生徒指導の場面や事例を想定しながら、その場面での対応のあり方を考える力を養うこと。
- ⑤ 思春期・青年期の進路指導、キャリア教育の意義と課題について、今日の若者の就労をめぐる問題状況も含めつつ検討していくこと。また、実際の進路指導の場面に関する適切な指導のあり方を考える力を養うこと。

## 教科書 /Textbooks

文部科学省編 「生徒指導提要」 教育図書

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 桑原憲一編 中学校教師のための生徒指導提要実践ガイド 明治図書
- 嶋崎政男 「法規+教育で考える 生徒指導ケース100」 ぎょうせい
- 楠 凡之 「虐待 いじめ 悲しみから希望へ」 (高文研)
- 文部科学省 中学校キャリア教育の手引き
- 児美川孝一郎 権利としてのキャリア教育 明石書店
- キャリア発達論 - 青年期のキャリア形成と進路指導の展開 ナカニシヤ出版

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 生徒指導の意義と原理(テキスト第1章他)
- 3回 教育課程と生徒指導(テキスト第2章他)
- 4回 学級活動・学校行事と生徒指導 - 中学校1年生の実践報告
- 5回 学級活動・学校行事と生徒指導 - 中学校3年生の実践報告
- 6回 生徒指導に関する法制度等(テキスト第7章他)
- 7回 生徒指導における家庭・地域・関係機関との連携(テキスト第8章他)
- 8回 我が子の非行と向き合う親たちの会の方の講演
- 9回 思春期の「自己形成モデル」の意義と進路指導・キャリア教育
- 10回 中学校の進路指導実践 - 「ようこそ先輩」の取組み
- 11回 今日の若者の労働実態から高校進路指導の課題を考える
- 12回 個別の課題を抱える生徒への指導 その1 (テキスト 第6章II第1節他)
- 13回 個別の課題を抱える生徒への指導 その2 (テキスト 第6章II第6節他)
- 14回 個別の課題を抱える生徒への指導 その3 養育環境に困難さを抱える生徒の問題(テキスト第6章10節他)
- 15回 全体のまとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

レポート20%、期末試験80%

なお、授業の出席が2/3に満たない場合には単位の修得は認められません。  
授業を欠席した場合には、一回につき5点の減点とします。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

受け身的な受講では実践的な指導力を身につけることはできません。能動的な授業参加を期待します。

# 生徒・進路指導論【夜】

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は教職課程を履修する学生の必修科目ですが、人間関係学科の学生でスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなどの援助専門職につきたいと考えている学生にも役立つ授業だと思います。積極的に受講してください。

## キーワード /Keywords

生徒指導の三機能、児童虐待、様々な問題を表出する生徒への指導、進路指導

# 教育相談【夜】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

授業の目的は以下のとおりである。

1. 学校での教育相談の意義と課題、教育相談の領域(予防的・開発的教育相談、問題解決的教育相談)、教育相談の学校体制、他の専門職や関係諸機関との連携のあり方等についての基本的な理解を持つこと。
2. 教育相談の基本的な理念と技法(傾聴、共感的応答、開かれた質問、直面化など)を修得すること。
3. 不登校やいじめなど、様々な問題を表出している生徒に対する理解を深めていくと同時に、生徒に対する援助の留意点について、具体的な教育相談の事例や実践を踏まえて、検討していくこと。

## 教科書 /Textbooks

春日井敏之・伊藤美奈子編 「よくわかる教育相談」 ミネルヴァ書房  
文科省編 「生徒指導提要」

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 広木克行 「教育相談」(教師教育テキストシリーズ) 学文社
- 吉田圭吾 教師のための教育相談の技術 金子書房
- 日本学校教育相談学会 学校教育相談学ハンドブック ほんの森出版
- 一丸藤太郎・菅野信夫編著 学校教育相談 ミネルヴァ書房
- 楠 凡之 「いじめと児童虐待の臨床教育学」 ミネルヴァ書房
- 楠 凡之 「虐待 いじめ 悲しみから希望へ」 高文研

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション - 教育相談の意義
- 2回 教育相談の担い手としての教師(テキスト 第1章 生徒指導提要第4章)
- 3回 子どもの発達課題と教育相談(テキスト 第2章)
- 4回 教育相談の基本的な理念について - 人間に内在する力への信頼、受容、共感的理解
- 5回 教育相談の基本的なスキルについて - 開かれた質問と直面化
- 6回 教育相談の基本的なスキルについて - ロールプレイ体験
- 7回 子どもの「問題行動」と教育相談 その1 不登校問題など(テキスト 第3章)
- 8回 子どもの「問題行動」と教育相談 その2 摂食障害、性の問題行動など(テキスト 第3章)
- 9回 子どもの「問題行動」と教育相談 その3 薬物問題(外部講師)
- 10回 特別支援教育と教育相談(テキスト 第4章)
- 11回 予防・開発的取り組みと教育相談(テキスト 第5章)
- 12回 保護者への支援と教育相談(テキスト 第7章)
- 13回 教育相談の学校体制とスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなどとの連携(テキスト第9章)
- 14回 今日のいじめ問題への理解と指導 - 文科省の通知(H25.10.15)内容と学生の体験報告を踏まえて
- 15回 全体のまとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

レポート20%、期末試験80%  
なお、授業の出席が2/3に満たない場合にはこの授業の単位は認められません。  
授業を欠席した場合には、一回につき5点のマイナスとします。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

テキストはできるだけ授業の前に読んでおくこと。

# 教育相談【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育相談の理念と技法、予防・開発的教育相談、問題解決的教育相談

# 教育実習 1 【夜】

担当者名 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科  
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 3年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

4年次の「教育実習」（実習校実習）に向けての事前理解として、実習生として必要な心構え、学習指導及び生徒指導等の理論・知識・技術を習得する。

## 教科書 /Textbooks

北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード	
1回 「教育実習 1」オリエンテーション	【教育実習】 【実習校】
2回 教育実習の1日	【教育実習の実態】 【教師の勤務】
3回 教育実習の体験から学ぶ( 中学 )	【教科指導】 【学級経営】
4回 教育実習の体験から学ぶ( 高校 )	【教科指導】 【学級経営】
5回 授業観察の方法	【授業観察の視点】 【授業記録シート】
6回 人権と教育	【人権】 【自尊感情】
7回 生徒の問題状況と生徒指導	【生徒指導】 【生徒理解】
8回 学級経営・学級活動の進め方	【学級集団づくり】 【学級通信】
9回 特別活動の学習指導案と模擬授業	【学習指導案】 【模擬授業】
10回 教育実習における特別活動の指導	【特別活動】 【指導事例】
11回 教材研究と授業構想	【教材研究】 【学習指導案】
12回 模擬授業①( 特別活動：授業展開 )	【学習指導案】 【指導目標】
13回 模擬授業②( 特別活動：指導技術 )	【授業構成】 【指導技術】
14回 模擬授業③( 各教科：授業展開 )	【授業展開】 【導入】 【展開】
15回 模擬授業④( 各教科：指導技術 )	【発問】 【説明】 【指示・助言】 【指導技術】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況の評価( 50% ) 学期末の提出物の評価( 50% )

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

授業の事前に指示されたことを準備すること

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords



# 教育心理学【夜】

担当者名 /Instructor 田島 司 / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

本講義では、学校や家庭での教育活動にかかわる様々な問題を心理学的側面に注目して取り上げる。学習過程や、教師の役割、教師と生徒との関係性などについての考え方を身につけることを目標とする。この講義を受けることによって教育の難しさについて考える機会になることを望むと同時に、解決の一助となつてほしい。講義が中心であるが、体験しながら具体的な関わりを考えることができるような授業となっている。

## 教科書 /Textbooks

特に指定しない。適宜レジュメを配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜紹介する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、学校の意義、教育の意義
- 2回 幼児、児童の心身の発達と教育(表象世界、しつけ、不適応)
- 3回 児童期の発達(学級崩壊等)
- 4回 発達の個人差と障害児【障害理解】
- 5回 発達の個人差と障害児【障害児の集団との関わり】
- 6回 学習過程(条件づけ、強化、般化、モデリング、洞察等)
- 7回 動機づけ(内発的動機づけ、帰属等)
- 8回 家庭における教育【育児】【しつけ】
- 9回 家庭における教育【教育への動機】
- 10回 学校組織と教師(組織としての学校の特殊性、職業としての教師の特殊性)
- 11回 教室内過程【教師生徒との関係】
- 12回 教室内過程【生徒間関係】
- 13回 教育評価(測定とその活用)
- 14回 現代の教育問題について
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の小テスト ... 100%

※小テストは4回程度行う。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

図書館等で参考になる本を自主的に探しておくことが望ましい。他の心理学関連の授業を合わせて受講すると理解が深まる。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 人権教育論【夜】

担当者名 /Instructor 弓野 勝族 / YUMINO MASATSUGU / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

教育現場及び日常生活での人権問題の具体的な事象に学びながら、人権教育の知識を豊かにするとともに、人権感覚を研ぎ、人権問題解決への技能・スキル・態度を培う。

## 教科書 /Textbooks

「手作り資料」を活用します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

人権の絵本(大月書房)、みんなの人権(明石書店)、世界が100人の村だったら(マガジンハウス)、人権・同和問題一問一答(解放出版社)、差別と日本人(角川書店)、もののけ姫(徳間書店)、他。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 私の人権教育の創造をめざして
- 1, 気づきと発見の部落史授業 「出会い直しと新たな発見」
- 第1回 「もののけ姫」(導入)
- 製作の時代背景と人権確立の潮流
  - 物語の登場人物からのメッセージ
- 第2回 中世(平安~鎌倉~室町)
- 仏教の伝来とケガレ観
  - 社会や文化のしくみと差別意識の起こり
- 第3回 近世(安土桃山~江戸)
- 身分統制令、身分の制度化、法制化への変遷
  - 島原の乱と宗門改め帳・別帳通達と差別の強化
- 第4回 文学者の人権感覚に学ぶ(一茶・蕪村・芭蕉)
- 近代医学の夜明け(解体新書の腑分けの主人公)
- 第5回 近代(明治~)
- 「解放令」とその意義
  - 近代化と差別の再生産へのしくみ
- 第6回 竹田の子守唄と少女たちの叫び
- 教科書無償の取り組みと親たちの願い
- 2, 文部科学省「人権教育の指導方法の在り方」 「継承・挑戦・創造」
- 第7回 同和教育の遺産と教訓に学ぶ(成果と手法の評価)
- 第8回 人権尊重の精神に立った学習活動の創造(学力と進路の保障)
- 人権が尊重される授業づくり「7つの視点」
  - 自尊感情と学習理解力・人権意識の相関関係
  - 全国学力テスト結果の分析と課題
- 第9回 人間関係づくり
- 「なかまづくり」の原点と実践例
  - 金子みすず「わたしと小鳥と鈴と」からのメッセージ
- 第10回 教育環境・雰囲気づくり
- 学級の人権文化の創造(子どもの居場所づくり)
- 第11回 隠れたカリキュラム・空間的意識の大切さ
- 人権教育の技能・スキル・態度
  - 金子みすず「東京大学入試問題」
- 第12回 ソーシャルスキル・アサーティブな表現を研く
- 教育現場の「具体的な実例」から考える
- 第13回 「体罰」と人権
- 文部科学省の調査
  - 教育現場の「体罰の実例」から考える
- 第14回 「いじめ」問題と人権
- 「いじめ」問題の現状を認識する
  - 「いじめ」の構図・しくみと解決への課題
- 第15回 「いじめ」問題と人権
- 「いじめ対策防止法」

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況の評価(30%)及び学期末のレポートによる評価(70%)

# 人権教育論 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業の中で課題を出します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 教育工学【夜】

担当者名 /Instructor 大塚 一徳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

本講義は、教員免許を取得するにあたって必要な教育方法・技術、教材と教具、指導方法を学び、授業の実践的指導力の基礎を養うことを目標とする。また近年の著しいICT(情報通信技術)の進展を踏まえ、PCやWebを活用した教材作成の方法・技術の修得の基礎についても概観する。さらに、模擬授業の実施及び評価等を通して、教育の方法と技術の実践的活用能力の基礎を育成し、各教科等の指導に最小限必要な資質について学ぶことを主なねらいとする。

## 教科書 /Textbooks

指定しない。必要な資料を適宜授業で配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

中学校学習指導要領 平成20年3月告示 東山書房 244円  
高等学校学習指導要領 平成21年3月 告示東山書房 588円  
平沢茂編著 教育の方法と技術 図書文化2000円  
小川哲生他著 教育方法の理論と実践 明星大学出版部 1500円

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
1. オリエンテーション【本授業の内容・進行・評価方法】
  2. 授業と教育方法【教育方法】
  3. 授業と教育技術【教育技術】
  4. 授業のシステム化の方法と授業設計の手順【授業設計】
  5. 授業過程の分析と改善【授業過程】
  6. 授業実施の技術【授業技術】
  7. 授業の評価【授業評価】
  8. 教育における情報化社会の影響【情報化社会】
  9. 教育におけるICT(情報通信技術)の活用【ICT】
  10. 学習指導案の作成【学習指導案】
  11. 教材研究【教育メディアとその活用】
  12. 模擬授業【模擬授業】
  13. テストと学習内容の評価【テスト】
  14. 授業実践能力の改善と向上【教育の方法と技術の実践能力】
  15. 現代の教育課題と講義のまとめ【現代の教育課題】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

教材研究課題(20%)、模擬授業(30%)、試験(50%)により総合的に評価する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

教材研究、模擬授業等に関する課題の提出は必須の課題となります。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords